高等専門学校機関別認証評価

自 己 評 価 書

平成２４年６月

釧路工業高等専門学校

目　　次

Ⅰ　高等専門学校の現況及び特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ　目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

Ⅰ　高等専門学校の現況及び特徴

1　現況

（1）高等専門学校名　釧路工業高等専門学校

（2）所在地　北海道釧路市

（3）学科等の構成，学生数及び教員数

（平成24年５月１日現在）

学生数：　　単位：人

学科	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	合計
機械工学科	36	30	30	50	30	176
電気工学科	40	46	47	43	35	211
電子工学科	35	44	46	44	38	207
情報工学科	43	35	44	41	35	198
建築学科	33	40	32	15	38	158
計	187	195	199	193	176	950

専攻	1学年	2学年	合計
建設・生産システム工学専攻	6	11	17
電子情報システム工学専攻	17	18	35
計	23	29	52

教員数：　　単位：人

区分	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
一般教育科	10	14	0	0	0	24
機械工学科	4	4	0	1	0	9
電気工学科	4	4	0	1	1	10
電子工学科	4	5	0	1	0	10
情報工学科	4	5	0	2	0	11
建築学科	4	4	0	2	0	10
計	30	36	0	7	1	74

（他に校長１，嘱託教授１）

2　特徴

釧路工業高等専門学校（以下，本校）は，地域産業界の強い要望により実践的技術者を養成するための高等教育機関として，昭和40 年度に機械工学科，電気工学科，建築学科の３学科をもって設置された。その後，昭和45年度に電子工学科，昭和61年度には情報工学科が増設され，５学科構成として現在に至っている。平成16年度には，準学士課程の上により高度な専門知識と技術を教授し，創造的な研究開発や先端技術に対応できる人材を育成するために複合・融合的な工学専門領域の教育を目指して，建設・生産システム工学専攻及び電子情報システム工学専攻の２専攻からなる専攻科が設置された。

この間，平成７年には地域連携を促進するために，産学官共同研究・連携推進協議会を設置し，平成12年度に本校の地域産業界への貢献，それを通じた実践的技術者教育の一層の充実を図るために，地域共同テクノセンターを創設した。さらに平成17年６月には，この協議会を発展的に解消し，本校を支援し活用することを目的として，地域企業や団体，個人会員から構成される外部組織の釧路工業高等専門学校地域振興協力会を設立していただいた。平成17年度以降，地域振興協力会主催による本校専攻科生の研究発表会が毎年開催され，本校の研究シーズを地域産業界に発信し続けている。

本校は，北海道東部の十勝，釧路及び根室３振興局管内における唯一の工学系高等教育機関として，開校以来6,500名を超える卒業生を社会に送りだすとともに，地域との連携を行なってきた。卒業生は企業技術者，教育研究機関の教育・研究者として活躍している。また，本校には電気系３学科，建築学科があるなど，ユニークな学科構成となっている。

本校の理念は，創造性のある実践的技術者の育成と地域貢献・地域連携である。創立以来40年の伝統をもつ校訓は信頼・努力・明朗であり，教育目標は(1)人格をそなえ，自己を律する人物を育てる，(2)広い視野を持ち，創造力豊かな技術者を育てる，(3)チャレンジ精神に富んだ人物を育てる，としている。本校では，この理念と目標に基づき，自己の基盤となる専門分野の基礎知識を備え，多様な技術的課題に対するエンジニアリングデザイン能力，コミュニケーション能力をもつ技術者の育成を目指して，教育・研究，地域連携を行なっている。また，学業の他に，技術者を目指す者の人間教育の一貫として，課外活動を重視し成果を上げており，平成23年度には第４回高専における設計教育高度化のための産学連携ワークショップにおける３次元ディジタル設計造形コンテスト優勝などの実績がある。

本校の教育プログラムが国際的な学士教育課程のレベルにあることを立証し，学生及び社会の期待に応えるため，平成18年度に「生産情報システム工学」教育プログラムとして工学（融合複合・新領域）関連分野でJABEE 認定を取得し，さらに平成23年度には継続認定を取得した。

Ⅱ　目的

１．釧路工業高等専門学校の使命及び目的

本校は，北海道東部に位置する技術系高等教育機関として，教育基本法及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的として設立され，地域産業の発展に貢献できる技術者，国内外で活躍できる技術者の育成，また，産業界への技術支援，技術者のキャリアアップ教育，地域住民の生涯教育や社会活動への支援を任務としている。これらの実現のために「創造力，問題発見・解決能力をもち実践力となる技術者を育成し，また地域の社会的・技術的要請に応え，地域と連携し，地域に貢献する」ことを理念とする。

本専攻科は，５年間の高等専門学校における教育の基礎の上に，より深く高度な専門知識及び技術を教授し，これまでに培われてきた実践的技術者としての素養に加え，より高度な技術開発能力と研究開発能力を身につけた創造型技術者の育成を目的としています。

創造力、問題発見・解決能力をもち実践力となる技術者を育成し、地域の社会的・技術的要請に応え、地域と連携し、地域に貢献する。

２．養成すべき人材像

本校は，上記の理念の下，本校設立以来の校訓として「信頼・努力・明朗」があり，教育目標は (1)人格をそなえ，自己を律する人物を育てる，(2)広い視野を持ち，創造力豊かな技術者を育てる，(3)チャレンジ精神に富んだ人物を育てる，である。これらの教育目標の下で養成すべき人材像として，準学士課程の学生については「実践的・創造的技術者」を目指し，専攻科課程の学生について「高い課題設定・解決能力を備えた実践的・創造的技術者」を目指すこととしている。

３．釧路工業高等専門学校の教育目標と学習目標

本校設立以来の校訓として「信頼・努力・明朗」があり，教育目標は (1)人格をそなえ，自己を律する人物を育てる，(2)広い視野を持ち，創造力豊かな技術者を育てる，(3)チャレンジ精神に富んだ人物を育てる，である。

また，準学士課程及び専攻科課程それぞれの学生に対して以下のように学習目標を設定している。

【準学士課程】（実践的・創造的技術者）

A：（技術者として社会に貢献するために）　人類の歴史的な背景，文化や価値観の多様性を理解し，地球的規模で社会問題や環境問題を考える基礎能力，および技術が社会や環境に与える影響を認識し，技術者が社会に対して負っている責任を理解する基礎能力を身につける。

B：（地域・社会に貢献するために）　地域の産業や社会の抱える課題に対処できる基礎能力を身につける。

C：（技術的課題を解決できるように）　工学の幅広い基礎知識（数学，自然科学，情報技術，基礎工学）を修得し，それらを応用する能力を身につける。

D：技術者として自己の基盤となる専門分野の知識を修得し，それを応用する能力を身につける。

E：技術的課題を分析・総合し，解決するための計画をたて，その計画を実行して課題を解決する基礎能力を身につける。さらに，チームワークで仕事をする基礎能力を身につける。

F：文章，口頭，図表や視覚的な方法によって，効果的にコミュニケーションができる基礎能力を身につける。すなわち，日本語で論理的に記述し討論する能力，および簡単な論理的文章を英語で記述し，基本的な英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識を身につける。

G：（技術の進展や社会の変化に対応できるように）　継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につける。

【専攻科課程】（高い課題設定・解決能力を備えた実践的・創造的技術者）

A：（技術者として社会に貢献するために）　人類の歴史的な背景，文化や価値観の多様性を理解し，地球的規模で社会問題や環境問題を考える応用能力，および技術が社会や環境に与える影響を認識し，技術者が社会に対して負っている責任を理解する応用能力及び技術者としての倫理観を身につける。

B：（地域・社会に貢献するために）　地域の産業や社会の抱える課題に対処できる応用能力を身につける。

C：（多様な技術的課題を解決できるように）　工学の幅広い基礎知識（数学，自然科学，情報技術，設計・システム系，情報・理論系，材料・バイオ系，力学系，社会技術系の基礎工学）を修得し，それらを応用する能力を身につける。

D：技術者として自己の基盤となる専門分野の知識（専門応用系，工学実験系，問題解決系，実務対応系）を修得し，それを応用する能力を身につける。

E：多様な技術的課題を分析・総合し，解決するための計画をたて，その計画を実行して課題を解決するデザイン能力を身につける。さらに，チームワークで仕事をする能力を身につける。

F：文章，口頭，図表や視覚的な方法によって，効果的にコミュニケーションができる応用能力を身につける。すなわち，日本語で論理的に記述し討論する能力，および簡単な論理的文章を英語で記述し，英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識（英検準２級以上またはそれに相当する能力）を身につける。

G：（技術の進展や社会の変化に対応できるように）　日本語だけではなく英語も使用して，継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につける。これらを明確に示す.

３．各専門学科および専攻ごとの教育上の目的

さらに，各学科・各専攻においてはそれぞれの専門分野に応じて以下のように教育上の目的を定めている。

（機械工学科）

機械工学科は，機械設計製図（ＣＡＤを含む），機械工作法，材料力学，熱・流体工学・機械力学等の機械工学に関する十分な基礎力と応用力を身につけ，これらを活用した創造的能力をもち，さらにコミュニケーション能力及びデザイン能力を持つ人材を育成することを目的とする。

（電気工学科）

電気工学科は，エネルギー，情報通信，制御等の電気工学に関する十分な基礎力と応用力を身につけ，これらを活用した複合領域に対応した応用力と問題解決能力を持ち，さらに，他の技術者と連携した活動ができるコミュニケーション能力を持つ人材を育成することを目的とする。

（電子工学科）

電子工学科は，電子デバイス，電子制御，情報通信等の電子工学に関する十分な基礎力と応用力を身につけ，これらを活用した自発的な問題発見能力を持ち，さらに，専門分野との関連の上に自ら課題を創出する高いデザイン能力を持つ人材を育成することを目的とする。

（情報工学科）

情報工学科は，情報化社会に寄与することのできる情報工学及び情報技術に関する十分な基礎力と応用力を身につけ，これらを活用した問題解決能力を持ち，さらに，国際社会に貢献できる高いモラルとコミュニケーション能力を持つ人材を育成することを目的とする。

（建築学科）

建築学科は，計画，構造，生産等の建築学に関する十分な基礎力と応用力を身につけ，これらを活用したトータルコーディネート能力を持ち，さらに創造的で柔軟性のある能力を持つ人材を育成することを目的とする。

（建設・生産システム工学専攻）

建設・生産システム工学専攻は，機械工学，建築学等を基盤とした共通・境界領域の知識を応用し，社会基盤分野において活躍できる応用力と創造力を兼ね備えた設計・開発能力を持つ人材を育成することを目的とする。

（電子情報システム工学専攻）

電子情報システム工学専攻は，電気，電子，情報工学等の関連工学に関する十分な基礎力と応用力を身につけ，これを活用した境界領域に関する知識を持ち，さらに，応用力と創造力を兼ね備えた研究開発能力を持つ人材を育成することを目的とする。

Ⅲ　基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的

（１）観点ごとの分析

観点１－１－①：　高等専門学校の目的が，それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ，その内容が，学校教育法第115条に規定された，高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また，学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

（観点に係る状況）

本校の目的は，学則第1条に定められている（資料１－１－①－１）。また，平成16年度に設置された専攻科の目的は学則第50条に定められている（資料１－１－①－２）。これらは学校教育法第115条に適合している。学科及び専攻ごとの目的は，学則第１条および第50条に対応して，学則第７条の２（資料１－１－①－３）及び第51条の２（資料１－１－①－４）にそれぞれ定められている。

本校が教育研究活動を実施する上での基本的方針として，中期計画前文に本校の教育理念を掲げている（資料１－１－①－５）。さらに，これを実現するために「養成すべき人材像」として３項目の教育目標を掲げている（資料１－１－①－６）。これらの教育目標の下，学生が卒業または修了時に身に付ける学力や資質・能力を具体的に示すために，学習目標が準学士課程（資料１－１－①－７），専攻科課程（資料１－１－①－８）それぞれに定められている。なお，学習目標は平成17年度の機関別認証評価において「準学士課程・専攻科課程でそれぞれ身に付けるべき能力について定められているが，学習目標・教育目標は準学士課程・専攻科課程で表記上は共通となっており，その具体的な程度の差が分かりやすいとはいえない。」というご指摘を受け，本校のPDCAサイクルに従って改善の議論を重ね，平成22年度に学校として最終決定し現在に至っている。また，本校の学習目標は日本技術者認定機構（以下，JABEE）の基準に対応する形で構成し，複数の目標の存在が学生に混乱を引き起こさないよう配慮している。

資料１－１－①－１

「釧路工業高等専門学校学則」　（抜粋）

第１章 本校の目的

第１条 本校は,教育基本法及び学校教育法に基づき,深く専門の学芸を教授し,職業に必要な能力を育成することを目的とする。

（出典　平成 24 年度学生便覧　p. ５）

資料１－１－①－２

「釧路工業高等専門学校学則」　（抜粋）

第 11 章 専攻科

第 50 条 専攻科は,高等専門学校における教育の基礎の上に,精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し,その研究を指導し,もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

（出典　平成 24 年度学生便覧　P. ５）

資料１－１－①－３

「釧路工業高等専門学校学則」　（抜粋）

第 7 条の 2　各学科の教育上の目的は,次のとおりとする。

(1) 機械工学科は,機械設計製図(CAD を含む),機械工作法,材料力学,熱・流体工学等の機械工学に関する十分な基礎力と応用力を身につけ,これらを活用した創造的能力をもち,さらにコミュニケーション能力及びデザイン能力を持つ人材を育成することを目的とする。

(2) 電気工学科は,エネルギー,情報通信,制御等の電気工学に関する十分な基礎力と応用力を身につけ,これらを活用した複合領域に対応した応用力と問題解決能力を持ち,さらに, 他の技術者と連携した活動ができるコミュニケーション能力を持つ人材を育成することを目的とする。

(3) 電子工学科は,電子デバイス,電子制御,情報通信等の電子工学に関する十分な基礎力と応用力を身につけ,これらを活用した自発的な問題発見能力を持ち,さらに,専門分野との関連の上に自ら課題を創出する高いデザイン能力を持つ人材を育成することを目的とする。

(4) 情報工学科は,情報化社会に寄与することのできる情報工学及び情報技術に関する十分な 基礎力と応用力を身につけ,これらを活用した問題解決能力を持ち,さらに,国際社会に貢献できる高いモラルとコミュニケーション能力を持つ人材を育成することを目的とする。

(5) 建築学科は,計画,構造,生産等の建築学に関する十分な基礎力と応用力を身につけ,これらを活用したトータルコーディネート能力を持ち,さらに創造的で柔軟性のある能力を持つ人材を育成することを目的とする。

（出典　平成 24 年度学生便覧　p. ５）

資料１－１－①－４

「釧路工業高等専門学校学則」　（抜粋）

第 51 条の 2　各専攻の教育上の目的は，次のとおりとする。

(1) 建設・生産システム工学専攻は，機械工学，建築学等を基盤とした共通・境界領域の知識を応用し，社会基盤分野において活躍できる応用力と創造力を兼ね備えた設計・開発能力を持つ人材を育成することを目的とする。

(2) 電子情報システム工学専攻は，電気，電子，情報工学等の関連工学に関する十分な基礎力と応用力を身につけ，これを活用した境界領域に関する知識を持ち，さらに，応用力と創造力を兼ね備えた研究開発能力を持つ人材を育成することを目的とする。

（出典　平成 24 年度学生便覧　p. ５）

資料１－１－①－５

「釧路工業高等専門学校　中期目標・中期計画」　（抜粋）

（前文）

○教育理念

釧路工業高等専門学校(以下「本校」という)は北海道東部に位置する技術系高等教育機関として、地域産業の発展に貢献できる技術者、国内外で活躍できる技術者の育成、また、産業界への技術支援、技術者のキャリアアップ教育、地域住民の生涯教育や社会活動への支援を任務としている。これらの実現のために「創造力、問題発見・解決能力をもち実践力となる技術者を育成し、地域 の社会的・技術的要請に応え、地域と連携し、地域に貢献する」ことを理念とする。

（出典　web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=82（釧路高専ホームページ））

資料１－１－①－６

「釧路工業高等専門学校　中期目標・中期計画」　（抜粋）

○養成すべき人材像

上記の教育理念のもと、

(1) 人格をそなえ、自己を律する人物を育てる

(2) 広い視野を持ち、創造力豊かな技術者を育てる

(3) チャレンジ精神に富んだ人物を育てる

を、教育目標として掲げ、この教育目標を達成するために、学生が身につけるべき能力を学習目標として次のように設定する。

（出典　web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=82（釧路高専ホームページ））

資料１－１－①－７

「釧路工業高等専門学校　中期目標・中期計画」　（抜粋）

学習目標

【準学士課程】(実践的・創造的技術者)

A:(技術者として社会に貢献するために)人類の歴史的な背景、文化や価値観の多様性を理解し、地球的規模で社会問題や環境問題を考える基礎能力、および技術が社会や環境に与える影響を認識し、技術者が社会に対して負っている責任を理解する基礎能力を身につける。

B:(地域・社会に貢献するために)地域の産業や社会の抱える課題に対処できる基礎能力を身につける。

C:(技術的課題を解決できるように)工学の幅広い基礎知識(数学、自然科学、情報技術、基礎工学)を修得し、それらを応用する能力を身につける。

D:技術者として自己の基盤となる専門分野の知識を修得し、それを応用する能力を身につける。

E:技術的課題を分析・総合し、解決するための計画をたて、その計画を実行して課題を解決する基礎能力を身につける。さらに、チームワークで仕事をする基礎能力を身につける。

F:文章、口頭、図表や視覚的な方法によって、効果的にコミュニケーションができる基礎能力を身につける。すなわち、日本語で論理的に記述し討論する能力、および簡単な論理的文章を英語で記述し、基本的な英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識を身につける。

G:(技術の進展や社会の変化に対応できるように)継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につける。

（出典　web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=82（釧路高専ホームページ））

資料１－１－①－８

「釧路工業高等専門学校　中期目標・中期計画」　（抜粋）

【専攻科課程】（高い課題設定・解決能力を備えた実践的・創造的技術者）
A:（技術者として社会に貢献するために）人類の歴史的な背景、文化や価値観の多様性を理解し、地球的規模で社会問題や環境問題を考える応用能力、および技術が社会や環境に与える影響を認識し、技術者が社会に対して負っている責任を理解する応用能力及び技術者としての倫理観を身につける。
B:（地域・社会に貢献するために）地域の産業や社会の抱える課題に対処できる応用能力を身につける。
C:（多様な技術的課題を解決できるように）工学の幅広い基礎知識（数学、自然科学、情報技術、設計・システム系、情報・理論系、材料・バイオ系、力学系、社会技術系の基礎工学）を修得し、それらを応用する能力を身につける。
D:技術者として自己の基盤となる専門分野の知識（専門応用系、工学実験系、問題解決系、実務対応系）を修得し、それを応用する能力を身につける。
E:多様な技術的課題を分析・総合し、解決するための計画をたて、その計画を実行して課題を解決するデザイン能力を身につける。さらに、チームワークで仕事をする能力を身につける。
F:文章、口頭、図表や視覚的な方法によって、効果的にコミュニケーションができる応用能力を身につける。すなわち、日本語で論理的に記述し討論する能力、および簡単な論理的文章を英語で記述し、英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識（英検準 2 級以上またはそれに相当する能力）を身につける。
G:（技術の進展や社会の変化に対応できるように）日本語だけではなく英語も使用して、継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につける。
（出典　web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=82（釧路高専ホームページ））

（分析結果とその根拠理由）

本校の目的は学校教育法第115条に沿って学則に定められている。本校では中期計画前文に教育理念を掲げ，理念に基づき「養成すべき人材像」として３項目の教育目標を掲げている。これらの教育目標の下，学生が卒業または修了時に身に付ける学力や資質・能力を具体的に示すために，学習目標が準学士課程，専攻科課程それぞれに定められている。

これらのことから，高等専門学校の目的が，本校の個性や特色に応じて明確に定められ，その内容が，学校教育法第115条に規定された，高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであり，学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められている。

観点１－２－①：　目的が，学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

〈学生への周知の状況〉本校の目的，学科及び専攻ごとの目的が定められている学則は，全文が学生便覧に掲載されており，学生は常に読むことができる。また，学生便覧の最初の２ページには，教育目標，準学士課程及び専攻科課程の学習目標が掲載されており（資料１－２－①－１），学生は卒

業（または修了）時に身に付けるべき能力について，常に注意することができる。これらの学習目標は学生玄関や各教室に掲示（資料１－２－①－２）しており，さらに入学時の新入生オリエンテーションの際，教務ガイダンスで学生便覧を用いて説明し（資料１－２－①－３），理解を促している。

また，各授業科目のシラバスには，当該科目の内容と学習目標との関連が示され，当該科目の学習で学習目標のどの能力を身につけるために勉強しているかが理解できる仕組みになっている（資料１－２－①－４）。シラバスは１回目の授業で学生に配布し，説明している。

〈教職員への周知の状況〉学生便覧は毎年教職員にも配布され，周知が図られている。中期目標・中期計画および年度計画には教育理念・教育目標・学習目標が掲載され，これらは年度ごとに教職員に周知している。また，学則や中期目標・中期計画及び年度計画はホームページに掲載され，教職員はいつでもこれを見ることができる（資料１－２－①－５，６）。また，新任教職員研修では教務主事によるガイダンスが行われ，学習目標に関する周知と理解が図られている（資料１－２－①－７）。非常勤教員に対しては，非常勤教員懇談会が年１回開催され，配布資料に学習目標を掲載し，教務主事から説明している（資料１－２－①－８）。

資料１－２－①－１

「教育目標・学習目標（準学士課程）」　（抜粋）



教　育　目　標

１．人格をそなえ、自己を律する人物を育てる。

２．広い視野を持ち、創造力豊かな技術者を育てる。

３．チャレンジ精神に富んだ人物を育てる。

校長　岸　　徳光

学　習　目　標

【準学士課程】（実践的・創造的技術者）

A：（技術者として社会に貢献するために）人類の歴史的な背景、文化や価値観の多様性を理解し、地球的規模で社会問題や環境問題を考える基礎能力、および技術が社会や環境に与える影響を認識し、技術者が社会に対して負っている責任を理解する基礎能力を身につける。

B：（地域・社会に貢献するために）地域の産業や社会の抱える課題に対処できる基礎能力を身につける。

C：（技術的課題を解決できるように）工学の幅広い基礎知識（数学、自然科学、情報技術、基礎工学）を修得し、それらを応用する能力を身につける。

D：技術者として自己の基盤となる専門分野の知識を修得し、それを応用する能力を身につける。

E：技術的課題を分析・総合し、解決するための計画をたて、その計画を実行して課題を解決する基礎能力を身につける。さらに、チームワークで仕事をする基礎能力を身につける。

F：文章、口頭、図表や視覚的な方法によって、効果的にコミュニケーションができる基礎能力を身につける。すなわち、日本語で論理的に記述し討論する能力、および簡単な論理的文章を英語で記述し、基本的な英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識を身につける。

G：（技術の進展や社会の変化に対応できるように）継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につける。

（出典　平成 24 年度学生便覧）

資料１－２－①－１（続き）

「教育目標・学習目標（専攻科課程）」　（抜粋）

【専攻科課程】（高い課題設定・解決能力を備えた実践的・創造的技術者）

A：（技術者として社会に貢献するために）人類の歴史的な背景、文化や価値観の多様性を理解し、地球的規模で社会問題や環境問題を考える応用能力、および技術が社会や環境に与える影響を認識し、技術者が社会に対して負っている責任を理解する応用能力及び技術者としての倫理観を身につける。

B：（地域・社会に貢献するために）地域の産業や社会の抱える課題に対処できる応用能力を身につける。

C：（多様な技術的課題を解決できるように）工学の幅広い基礎知識（数学、自然科学、情報技術、設計・システム系、情報・理論系、材料・バイオ系、力学系、社会技術系の基礎工学）を修得し、それらを応用する能力を身につける。

D：技術者として自己の基盤となる専門分野の知識（専門応用系、工学実験系、問題解決系、実務対応系）を修得し、それを応用する能力を身につける。

E：多様な技術的課題を分析・総合し、解決するための計画をたて、その計画を実行して課題を解決するデザイン能力を身につける。さらに、チームワークで仕事をする能力を身につける。

F：文章、口頭、図表や視覚的な方法によって、効果的にコミュニケーションができる応用能力を身につける。すなわち、日本語で論理的に記述し討論する能力、および簡単な論理的文章を英語で記述し、英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識（英検準２級以上またはそれに相当する能力）を身につける。

G：（技術の進展や社会の変化に対応できるように）日本語だけではなく英語も使用して、継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につける。

（出典　平成 24 年度学生便覧）

資料１－２－①－２

「釧路工業高等専門学校の学習目標（学生玄関掲示）」



（出典　総務課作成資料）

資料１－２－①－２（続き）

「釧路工業高等専門学校の学習目標（講義室掲示）」



（出典　総務課作成資料）

資料１－２－①－３

「平成 24 年度　新入生オリエンテーション実施要項」　（抜粋）

新入生オリエンテーション

中略

日程：平成２４年４月９日（月）～１０日（火）

内容

１．　中略

２．　教務オリエンテーション　（９日３時限）　教務主事

中略

その他

中略

・教務、学生生活オリエンテーションには学生便覧、シラバスも持参させる。

（以下省略）

（出典　平成 24 年度４月定例学生委員会　資料 4－1）

資料１－２－①－４

「平成 24 年度　シラバス」　（抜粋）

平成24年度

電子工学科			情報基礎				
学年	第2学年	担当教員名	中村隆				
単位数・期間		1単位	前期	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		コンピュータとは何か，コンピュータを利用して「情報」を扱うとはどのようなことか，さらに，コンピュータで扱う「情報」とは何か，といった事柄の基礎的事項を学習する． 電子工学技術者として必要な情報技術の基礎を習得することを目的とする．					
		釧路高専目標	A:10%,C:90%	JABEE目標			
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		コンピュータを扱う学習ではなく，コンピュータの中で「情報」がどのように扱われるのかを学習する．					
到達目標		10進数，2進数，16進数など，基数の違いによる数値の表現を理解する． コンピュータにおける整数と小数の表現方法を理解する． コンピュータにおける負数の表現方法を理解する． 2進数を処理する論理演算回路の基礎を理解する．					
成績評価方法		合否判定：2回の定期試験の平均点が60点以上で合格． 最終評価：課題，小テスト，授業態度により±10点を加点する． 不合格の者には再試験を課す．再試験が60点以上で最終評価60点とする．					
テキスト・参考書		テキストとしてプリントを配布する．					
メッセージ		普段の生活や授業の中でコンピュータを扱う機会は多いが，コンピュータの中で何が行われているかを理解しておくことが電子工学技術者として重要である． 「情報」をどのように扱うのか，について，しっかりと身につけること．					

（出典　平成 24 年度シラバス）

資料１－２－①－５

「釧路工業高等専門学校　中期目標・中期計画」　（抜粋）



釧路高専TOP > 情報公開 > 中期目標・中期計画

中期目標・中期計画

釧路高専の中期目標・中期計画（平成21年度～25年度）です。

なお、独立行政法人国立高等専門学校機構の中期目標、中期計画及び年度計画はこちらからご覧いただけます。

ダウンロード

釧路高専 中期目標・中期計画（平成21年度～平成25年度）（PDF）

記事掲載日：2011年05月20日 18:01
最終更新日：2011年09月05日 14:06

（出典　web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=82（釧路高専ホームページ））

資料１－２－①－６

「釧路工業高等専門学校　年度計画」　（抜粋）



釧路高専TOP > 情報公開 > 自己点検評価報告書

自己点検評価報告書

本校の年度計画の達成状況を公表します。

ダウンロード

H23釧路高専年度計画評価　表紙(PDF)

H23釧路高専年度計画評価(PDF)

H22釧路高専年度計画評価　表紙(PDF)

H22釧路高専年度計画評価(PDF)

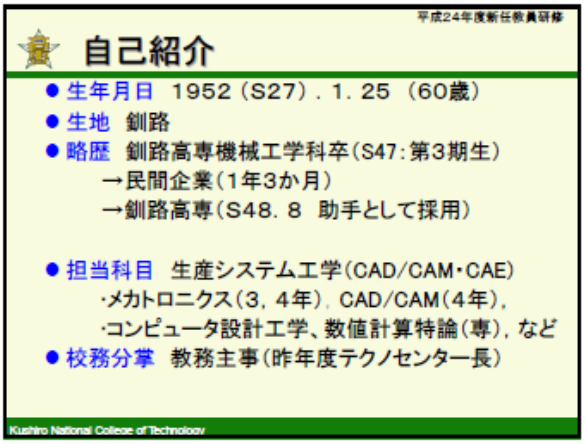
記事掲載日：2011年05月20日 18:02
最終更新日：2012年04月09日 13:59

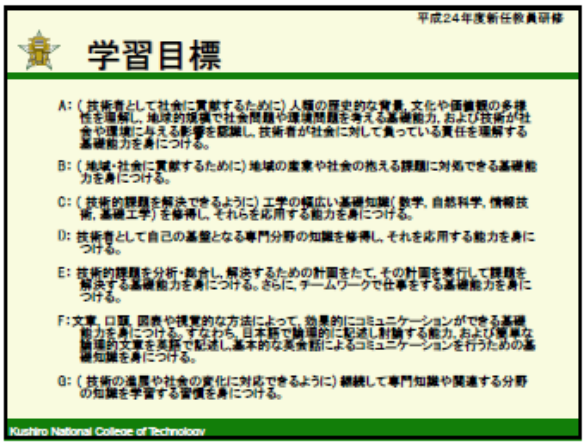
（出典　web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=84（釧路高専ホームページ））

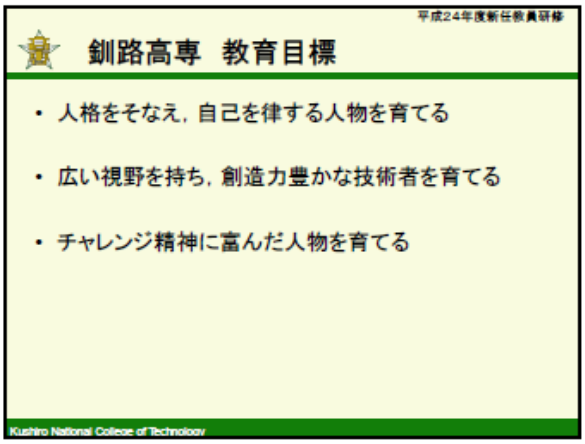
資料１－２－①－７

「平成 24 年度　新任教員研修資料（教務主事）」　（抜粋）









（出典　平成 24 年度　新任教員研修資料）

資料１－２－①－８

平成２３年度 非常勤講師懇談会

１ 日 時 平成２３年 ８月 ２日（火）１０：００～１１：３０
２ 場 所 釧路工業高等専門学校会議室
３ 次 第
(1) 校長挨拶 （校 長 岸 浪 建 史）
(2) 本校教員自己紹介
(3) 非常勤講師自己紹介
(4) 本校の現状について （教務主事 中 村 隆）
(5) 質疑応答
(6) その他

（配付資料）
平成２３年度 非常勤講師懇談会資料
資料１ 釧路高専についての参考資料
資料２ ２段階学科選択制度
資料３ 平成２２年度・２３年度教務報告
資料４－１ 平成２３年度新入生対象共通テスト結果(数学)
資料４－２ 平成２３年度新入生対象共通テスト結果(英語)
資料５－１ 平成２２年度 国立高等専門学校学習到達度試験 得点平均・標準偏差(数学)
資料５－２ 平成２２年度 国立高等専門学校学習到達度試験 得点平均・標準偏差(物理)

（出典 非常勤講師懇談会レジュメ）

資料１－２－①－８（続き）

釧路高専の教育理念・教育目標・学習目標

教育理念

釧路工業高等専門学校（以下「本校」という）は北海道東部に位置する技術系高等教育機関として、地域産業の発展に貢献できる技術者、国内外で活躍できる技術者の育成、また、産業界への技術支援、技術者のキャリアアップ教育、地域住民の生涯教育や社会活動への支援を任務としている。これらの実現のために「創造力、問題発見・解決能力をもち実践力となる技術者を育成し、地域の社会的・技術的要請に応え、地域と連携し、地域に貢献する」ことを理念とする。

教育目標

1. 人格をそなえ、自己を律する人物を育てる。
2. 広い視野を持ち、創造力豊かな技術者を育てる。
3. チャレンジ精神に富んだ人物を育てる。

学習目標

【準学士課程】（実践的・創造的技術者）

Ａ：（技術者として社会に貢献するために）人類の歴史的な背景、文化や価値観の多様性を理解し、地球的規模で社会問題や環境問題を考える基礎能力、および技術が社会や環境に与える影響を認識し、技術者が社会に対して負っている責任を理解する基礎能力を身につける。

Ｂ：（地域・社会に貢献するために）地域の産業や社会の抱える課題に対処できる基礎能力を身につける。

Ｃ：（技術的課題を解決できるように）工学の幅広い基礎知識（数学、自然科学、情報技術、基礎工学）を修得し、それらを応用する能力を身につける。

Ｄ：技術者として自己の基盤となる専門分野の知識を修得し、それを応用する能力を身につける。

Ｅ：技術的課題を分析・総合し、解決するための計画をたて、その計画を実行して課題を解決する基礎能力を身につける。さらに、チームワークで仕事をする基礎能力を身につける。

Ｆ：文章、口頭、図表や視覚的な方法によって、効果的にコミュニケーションができる基礎能力を身につける。すなわち、日本語で論理的に記述し討論する能力、および簡単な論理的文章を英語で記述し、基本的な英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識を身につける。

Ｇ：（技術の進展や社会の変化に対応できるように）継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につける。

－１－

（出典　　非常勤講師懇談会資料「釧路高専についての参考資料　ｐ１」）

（分析結果とその根拠理由）

教職員・学生に学生便覧を配布しており，周知している。学生に対しては，玄関・各教室への掲示などにより周知を図っている。また，各授業のシラバスに学習目標と授業内容との関連を示し学生が理解できる仕組みを整えている。新任教員研修，非常勤講師懇談会等においても学習目標を明記した資料を配布し，説明することで周知している。

これらのことから，本校の目的は学校の構成員（教職員及び学生）に周知されている。

観点１－２－②：　目的が，社会に広く公表されているか。

（観点に係る状況）

本校ウェブサイトに教育目標及び学習目標（資料１－２－②－１），学生便覧及び学校要覧（資料１－２－②－２）を掲載し，広く社会に公表している。学校要覧には教育目標，課程ごとの学習目標，学科及び専攻ごとの目的を記載しており，中学校訪問における配布，学外教育研究機関への送付，企業への送付等，冊子として公表している。学校要覧の配布先と配布部数を資料１－２－②－３に示す。本校の学校案内では，教育目標が紹介されているのみで，学習目標の全文は紹介していないが，各学科の目的や概要を中学生にも理解できるような平易な文章で紹介しており，中学校訪問，オープンキャンパス，体験入学などの入試広報活動において配布し，公表している（資料１－２－②－４）。さらに，募集要項には各学科の教育上の目的を中学生にわかりやすい表現で記載しており（資料１－２－②－５），本校入学を目指す中学生とその保護者，指導される中学校教諭等に公表している。

資料１－２－②－１

「本校の教育・学習目標」　（抜粋）

釧路高専TOP > 学校概要 > 教育･学習目標

本校の教育･学習目標

教育目標

1. 人格をそなえ，自己を律する人物を育てる
2. 広い視野を持ち，創造力豊かな技術者を育てる
3. チャレンジ精神に富んだ人物を育てる

学習目標

【準学士課程】(実践的･創造的技術者)

A:(技術者として社会に貢献するために) 人類の歴史的な背景，文化や価値観の多様性を理解し，地球的規模で社会問題や環境問題を考える基礎能力，および技術が社会や環境に与える影響を認識し，技術者が社会に対して負っている責任を理解する基礎能力を身につける。

B:(地域･社会に貢献するために) 地域の産業や社会の抱える課題に対処できる基礎能力を身につける。

C:(技術的課題を解決できるように) 工学の幅広い基礎知識(数学，自然科学，情報技術，基礎工学)を修得し，それらを応用する能力を身につける。

D:技術者として自己の基盤となる専門分野の知識を修得し，それを応用する能力を身につける。

E:技術的課題を分析･総合し，解決するための計画をたて，その計画を実行して課題を解決する基礎能力を身につける。さらに，チームワークで仕事をする基礎能力を身につける。

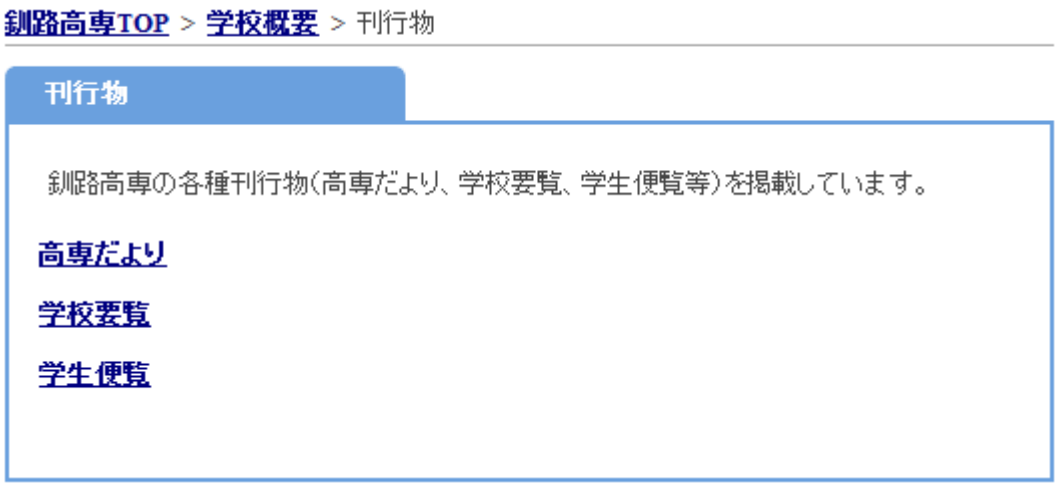
F:文章，口頭，図表や視覚的な方法によって，効果的にコミュニケーションができる基礎能力を身につける。すなわち，日本語で論理的に記述し討論する能力，および簡単な論理的文章を英語で記述し，基本的な英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識を身につける。

G:(技術の進展や社会の変化に対応できるように) 継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につける。

（出典　web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=54
（釧路高専ホームページ））

資料１－２－②－２

「釧路工業高等専門学校　刊行物」　（抜粋）



（出典　web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?cat_id=40（釧路高専ホームページ））

資料１－２－②－３

「学校要覧配布数一覧」　（抜粋）

学校要覧配布先（平成 23 年度）

学内配布　１１０
　教員７５、部課長及び技術長４、課長補佐４
　各係・寮・研究協力室１０、教育研究支援センター１０
　保健室１、非常勤講師室１、宿直室２、
　保存用１、検品用１、校正用１

学外配布　１２７
　文部科学省５、機構本部４
　道内国公立大学及び釧路市内大学短大１２
　技術科学大学２、国公私立高専（合併高専はキャンパス毎）６０、
　国立大雪青少年交流の家・国立日高青少年自然の家２、
　名誉教授３７、国会図書館５、

その他　８４程度
　企業請求用７０程度（学生課保管。主に企業説明会で使用）
　新人教員研修９、理事長ヒアリング５

行事・来客配布　１５０程度
　高専訪問２０程度、
　テクノフォーラム・北洋ものづくりフェア等１０程度、
　高専校長交流会・デザコン・産学連携ＷＳ　５０程度、
　中学校長との懇談会３０程度
　その他来客配布等４０程度

（出典　総務課作成資料）

資料１－２－②－４

「募集要項等配布先及び配付部数一覧」

募集要項等送付部数一覧（平成23年度）

平成２３年６月３日発送

機関等名	募集要項	学校案内	学校パンフ	釧路高専についての参考資料
文部科学省高等教育局専門教育課長	1	1		
独立行政法人国立高等専門学校機構	1	1		
各国立高等専門学校長	54	54		
北海道教育委員会教育長	1	1		
道内各市町村教育委員会教育長	102	102		
道内各中学校	663	663	34,575	
その他（イベント配付等）	2,100	2,100	7,650	1,300
合　　計	2,922	2,922	42,225	1,300

（出典　学生課作成資料）

資料１－２－②－５

「釧路工業高等専門学校学生募集要項」　（抜粋）

機械工学科

機械工学科では，２１世紀を支える「エネルギー」・「情報」・「材料」をつくり出す“ものづくり”の技術者になるため，力学，メカトロニクス，熱・流体，デザイン，コンピュータなど，幅広い分野を学びます。そのため，私たちは次のような人の入学を期待しています。

1．機械が好きで，みずから新しい“ものづくり”に挑戦できる人
2．人のために役に立ち地球に優しい“ものづくり”に関心のある人
3．グローバルな視点に立ち安全な“ものづくり”に貢献したい人

電気工学科

電気工学科では，私たちの社会を支える『電気』を中心に幅広い分野の勉強をします。
電気の基本から始まり，電気エネルギーの作り方や送り方，電気エネルギーを機械エネルギーに変えること，コンピュータやプログラムの仕組み，放送などの通信や電波の仕組み，機械やロボットなどの制御の仕組みが学べます。そのため，私たちは次のような人の入学を期待しています。

1．発電，送電，新エネルギーに興味のある人
2．電波，放送，通信，画像処理に興味のある人
3．コンピュータ，ロボット，モータに興味のある人

電子工学科

電子工学科ではコンピュータ・携帯電話・インターネットなどの情報通信の分野，太陽電池・温度差発電・超伝導などのデバイスの分野，さらにロボット・レーザー・ソーラーカーなどの計測・制御の分野を３本柱として学習します。そのため，私たちは次のような人の入学を期待しています。

1．IT 技術に興味があり，新しい情報伝達の仕組み（通信）を築きたい人
2．「もの」の仕組みに興味があり，いままでにない物質（半導体）を創りたい人
3．コンピュータで「もの」を測ったり（計測），ロボットを動かしたい人

情報工学科

情報工学科では，発展する情報化社会に役立つ技術者になるため，情報化社会の「脳や神経」に当たるコンピュータや情報通信ネットワークの仕組み，コンピュータを賢く動かすプログラミング技術，大量なデータを効率よく処理するデータベース技術，人工知能技術等，基礎から応用まで幅広く勉強します。そのため，私たちは次のような人の入学を期待しています。

1．コンピュータの動作原理やプログラミングに興味のある人
2．データベースやネットワークなどの応用技術を修得したい人
3．実践的な技術や専門知識を学習し，情報化社会に貢献したい人

建築学科

建物は，美しく，快適で使いやすく，地震に強くなくてはなりません。建築学科ではこのような建物をつくるために，設計の方法や，安全な建物のしくみなどについて学習します。そのため，私たちは次のような人の入学を期待しています。

1．建物の形やつくり方に興味がある人
2．暮らしやすい環境に興味がある人
3．絵を描いたり，デザインをすることが好きな人

（出典　釧路高専学生募集要項）

（分析結果とその根拠理由）

学生便覧，学校要覧，中期目標・中期計画のウェブサイト掲載により学則上の目的を広く社会に公表している。学校要覧や学校案内は印刷物を企業，中学校，教育研究機関へ送付・配布している。さらに，本校入学を目指す中学生とその保護者，指導される中学校教諭等については，募集要項に学習目標を記載して公表している。

これらのことから，本校の目的は社会に広く公表されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

特になし。

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準１の自己評価の概要

本校では，学校教育法第115条に基づき，学則第1条及び第50条に準学士課程及び専攻科課程の目的がそれぞれ明確に定められている。また，学科及び専攻科ごとの目的が学則第７条の２及び第51条の２に明確に定められている。

本校が教育研究活動を実施する上での基本的方針として，中期計画前文に本校の教育理念を掲げている。さらに，これを実現するために「養成すべき人材像」として３項目の教育目標を掲げている。これらの教育目標の下，学生が卒業または修了時に身に付ける学力や資質・能力を具体的に示すために，学習目標が準学士課程，専攻科課程それぞれに定められている。

本校の目的の周知の取組として，学生に対しては，学生便覧の配付や学習目標の玄関・各教室への掲示などにより周知を図っているほか，新入生オリエンテーションで説明し理解を促している。また，各授業のシラバスに学習目標と授業内容との関連を示し学生が理解できる仕組みを整えている。

学生便覧は教職員にも配布しており，周知している。新任教員研修，非常勤講師懇談会においても学習目標を明記した資料を配布し，説明することで周知している。中期目標・中期計画及び年度計画を教職員に周知することで教育理念，教育目標，学習目標を周知している。

本校の目的の社会への公表の状況として，本校ウェブサイトでは教育目標，学習目標，学生便覧，学校要覧，中期目標・中期計画をウェブサイトに掲載し，学則上の目的等を広く社会に公表している。学校要覧や学校案内は印刷物を企業，中学校，教育研究機関への送付・配布している。さらに，本校入学を目指す中学生とその保護者，指導される中学校教諭等については，募集要項に学習目標を記載して公表している。

基準２　教育組織（実施体制）

（１）観点ごとの分析

観点２－１－①：　学科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校は，機械工学科，電気工学科，電子工学科，情報工学科と建築学科の５学科で構成されている（資料２－１－①－１）。学科の構成，学生定員は高等専門学校設置基準に適合しており，同基準にあるように「専攻分野を教育するために組織」されている。

機械工学科の教育上の目的（資料１－１－①－３）として，「機械設計製図（ＣＡＤを含む），機械工作法，材料力学，熱・流体工学・機械力学等の機械工学に関する十分な基礎力と応用力を身につけ，これらを活用した創造的能力をもち，さらにコミュニケーション能力及びデザイン能力を持つ人材を育成する」ことが定められている。

電気工学科の教育上の目的（資料１－１－①－３）として，「エネルギー，情報通信，制御等の電気工学に関する十分な基礎力と応用力を身につけ，これらを活用した複合領域に対応した応用力と問題解決能力を持ち，さらに，他の技術者と連携した活動ができるコミュニケーション能力を持つ人材を育成する」ことが定められている。

電子工学科の教育上の目的（資料１－１－①－３）として，「電子デバイス，電子制御，情報通信等の電子工学に関する十分な基礎力と応用力を身につけ，これらを活用した自発的な問題発見能力を持ち，さらに，専門分野との関連の上に自ら課題を創出する高いデザイン能力を持つ人材を育成する」ことが定められている。

情報工学科の教育上の目的（資料１－１－①－３）として，「情報化社会に寄与することのできる情報工学及び情報技術に関する十分な基礎力と応用力を身につけ，これらを活用した問題解決能力を持ち，さらに，国際社会に貢献できる高いモラルとコミュニケーション能力を持つ人材を育成する」ことが定められている。

建築学科の教育上の目的（資料１－１－①－３）として，「計画，構造，生産等の建築学に関する十分な基礎力と応用力を身につけ，これらを活用したトータルコーディネート能力を持ち，さらに創造的で柔軟性のある能力を持つ人材を育成する」ことが定められている。

いずれの学科においても，それぞれの専攻分野に関する十分な基礎力とその上にある応用力を身に付けることを掲げ，さらにそれぞれの専攻分野において社会から求められる能力を育成することを謳っている。これらは学則第１条に掲げる本校の目的（深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成する）に適合している。

資料２－１－①－１

「学科・学級・入学定員」　（抜粋）

第３章　学科，学級数，入学定員及び教職員組織

第７条　学科，学級数及び入学定員は，次のとおりとする。

学　　科	学 級 数	入 学 定 員
機 械 工 学 科	1	40人
電 気 工 学 科	1	40人
電 子 工 学 科	1	40人
情 報 工 学 科	1	40人
建　築　学　科	1	40人

（出典　平成 24 年度学生便覧　p. ６）

（分析結果とその根拠理由）

本校は，機械工学科，電気工学科，電子工学科，情報工学科と建築学科の５学科で構成されている。学科の構成，学生定員は高等専門学校設置基準に適合しており，各学科の教育目的は，高等専門学校設置基準にある「専攻分野を教育するために組織」されている。

これらのことから，学科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

観点２－１－②：　専攻科を設置している場合には，専攻科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校専攻科は，準学士課程の機械工学科・建築学科を基礎とする建設・生産システム工学専攻と，準学士課程の電気工学科・電子工学科・情報工学科を基礎とする電子情報システム工学専攻の２専攻で構成されている（資料２－１－②－１）。本校専攻科の目的（資料１－１－①－２前出）は，「高等専門学校における教育の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し，その研究を指導し，もって広く産業の発展に寄与する人材を育成する」ことを掲げている。これは学校教育法の規定に適合している。

建設・生産システム工学専攻の教育上の目的（資料１－１－①－４前出）は，「機械工学，建築学等を基盤とした共通・境界領域の知識を応用し，社会基盤分野において活躍できる応用力と創造力を兼ね備えた設計・開発能力を持つ人材を育成する」ことである。

電子情報システム工学専攻の教育上の目的（資料１－１－①－４前出）は「電気，電子，情報工学等の関連工学に関する十分な基礎力と応用力を身につけ，これを活用した境界領域に関する知識を持ち，さらに，応用力と創造力を兼ね備えた研究開発能力を持つ人材を育成する」ことである。

各専攻は，いずれも本校専攻科の目的「高等専門学校における教育を基礎として深く高度な専門知識を教授し，研究を指導し，産業の発展に寄与する人材を育成すること」に適合している。

資料２－１－②－１

「専攻科入学定員学則」　（抜粋）

第５１条　専攻及び入学定員は，次のとおりとする。

専　　攻	入 学 定 員
建設・生産システム工学専攻	８人
電子情報システム工学専攻	12人

（出典　平成 24 年度学生便覧　p. ６）

（分析結果とその根拠理由）

本校は準学士課程の機械工学科・建築学科を基礎とする建設・生産システム工学専攻と，準学士課程の電気工学科・電子工学科・情報工学科を基礎とする電子情報システム工学専攻の２専攻で構成されている。本校専攻科の目的は，「高等専門学校における教育の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し，その研究を指導し，もって広く産業の発展に寄与する人材を育成する」ことを掲げている。これは学校教育法の規定に適合している。

これらのことから，専攻科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

観点２－１－③：　全学的なセンター等を設置している場合には，それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校には(１)情報処理センター，(２)教育研究支援センターがある。

(１)情報処理センターは，本校における情報処理教育及び電子計算機システムの利用を円滑にすると共に教育，研究及び事務等に関する情報処理の高度化を図るため設置された（資料２－１－③－１）。

情報処理センターは演習室２室および専攻科の計算機演習室を管理している（資料２－１－③－２）。各演習室の授業における利用状況を時間割で示す（資料２－１－③－３）。放課後の自学自習については，管理の面から17:00までを自由利用とし，17:00以降は教員の監督により延長利用としている。なお，専攻科の計算機演習室はカードキーによる入室管理を行っており，専攻科生は自由に利用できる。

(２)教育研究支援センターは，本校の教育研究活動等に対する支援業務を組織的かつ効率的に行うとともにセンターに所属する技術職員の職務遂行に必要な能力及び資質の向上を図り，もって本校における教育研究活動等の支援業務を円滑に実施するため設置された（資料２－１－③－４）。

教育研究支援センターは技術職員11名が所属し，それぞれ分野ごとに組織化されている（資料２－１－③－５）。教育研究支援センターの業務内容は規程（資料２－１－③－６）により定められており，各学科の実験実習系科目の支援，卒業研究・特別研究の支援，教材作製等，本校の教育活動への支援が行われている。センターに所属する技術職員の実際の業務状況の例（資料２－１－③－７）を示す。実習工場は機械工学科の実習の他，卒業研究，特別研究や他学科学生による放課後利用も行っている（資料２－１－③－８，９）。

資料２－１－③－１

「情報処理センター規程」　（抜粋）

○釧路工業高等専門学校情報処理センター規程

（平成８年３月21日釧高専達第11号）

改正　　平成９．４．21釧高専達第２号　平成19．３．27釧高専達第12号

（設置）

第１条　釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報処理教育及び電子計算機システムの利用を円滑にすると共に，教育，研究及び事務等に関する情報処理の高度化を図るため，本校に情報処理センター（以下「センター」という。）を置く。

（業務）

第２条　センターは，次の業務を行う。

一　センターの管理，運営に関すること。

二　電子計算機（以下「電算機」という。）による情報処理教育の実施に関すること。

三　電算機による研究に関すること。

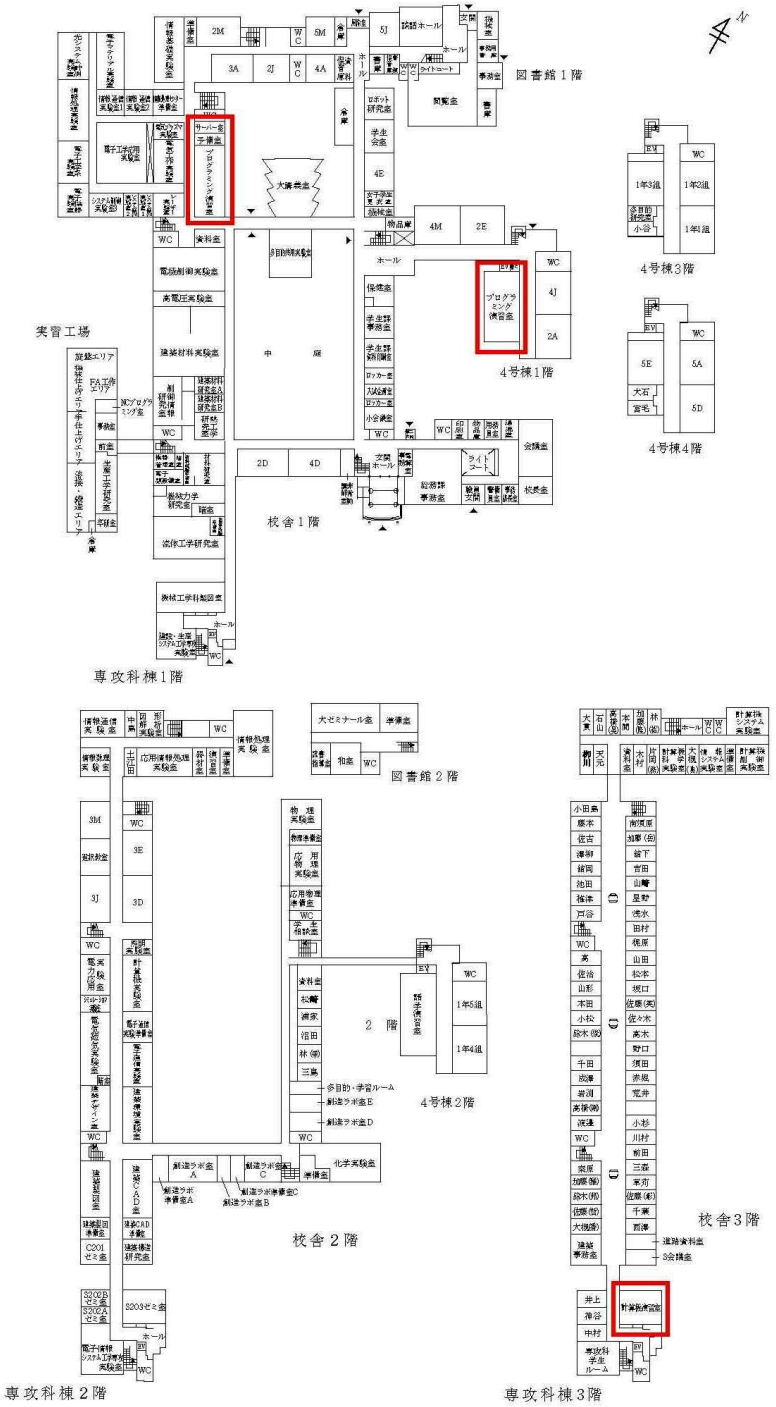
四　教育，研究及び事務等の情報処理に関する調査，研究，企画立案及び啓蒙に関すること。

（出典　釧路高専情報処理センター規程）

資料２－１－③－２

「情報処理センター各演習室」

釧 路 高 専 校 舎 平 面 図



－ 119 －

（出典　平成 24 年度学生便覧　p. 119）

資料２－１－③－３

「情報処理センター各演習室別時間割」

第1演習室(情報処理センター内 プログラミング演習室)

	1 8:50 | 9:35	2 9:40 | 10:25	3 10:35 | 11:20	4 11:25 | 12:10	昼	5 13:00 | 13:45	6 13:50 | 14:35	7 14:40 | 15:25	8 15:30 | 16:15	9 16:20 | 17:05
月	5D オペレーティング システム 山田		1年3組 コンピューター リテラシー 浅水・高			5M 機械工学特論 高橋				
火	4D　5EDJ シーケンス制御 松本		2D 回路設計基礎演習 梶原			5MED 卒業研究				
水	2E 電子計算機 野口		4M メカトロニクスII 荒井					4D 数値解析 山田・佐治		
木			4D 電子工学実験 浅水・松本			5MED 卒業研究				
金	4D プログラム言語II 山田		4M CAD/CAM 荒井			3D プログラム言語I 山田				

資料２－１－③－３（続き）

第2演習室(校舎4号棟1階　プログラミング演習室)

	1 8:50 ｜ 9:35	2 9:40 ｜ 10:25	3 10:35 ｜ 11:20	4 11:25 ｜ 12:10	昼	5 13:00 ｜ 13:45	6 13:50 ｜ 14:35	7 14:40 ｜ 15:25	8 15:30 ｜ 16:15	9 16:20 ｜ 17:05
月	1年1組 コンピューター リテラシー 前田・赤堀		5M 数値解析法 赤堀							
火	1年2組 コンピューター リテラシー 本田・井上		1年5組 コンピューター リテラシー 加藤・大槻							
水						5D 画像工学I 佐治		2A 情報処理演習 加藤・大槻		
木										
金	1年4組 コンピューター リテラシー 林・土江田					2E 電気製図 佐々木・佐藤				

資料２－１－③－３（続き）

専攻科棟3階 計算機演習室

	1 8:50 | 9:35	2 9:40 | 10:25	3 10:35 | 11:20	4 11:25 | 12:10	昼	5 13:00 | 13:45	6 13:50 | 14:35	7 14:40 | 15:25	8 15:30 | 16:15	9 16:20 | 17:05
月						2S 特別実験 石山				
火	2S ソフトウェア工学 大貫		2K 構造解析II 高橋(剛)							
水						1KS 品質工学 渡邊		1K 機械制御 工学概論 前田		
木	2K デジタルイメージ 千葉		1KS コンピュータ 設計工学 荒井							
金	1KS アドバンスト プログラミング 柳川					1KS 制御工学特論 千田				

（出典　情報処理センター平成 24 年度前期授業時間割表 ）

資料２－１－③－４

「教育研究支援センター規程」　（抜粋）

○釧路工業高等専門学校教育研究支援センター規程

（平成２１年６月２９日　釧高専達第６号）

（趣旨）

第１条　独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第12条第１項に基づき，釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）に教育研究支援センター（以下「センター」という。）を置く。

（目的）

第２条　センターは，本校の教育研究活動等に対する支援業務を組織的かつ効率的に行うとともにセンターに所属する職員の職務遂行に必要な能力及び資質の向上を図り，もって本校における教育研究活動等の支援業務を円滑に実施することを目的とする。

（出典　釧路高専教育支援センター規程）

資料２－１－③－５

「教育研究支援センター　ウェブサイト」



（出典　Web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/ersc/staff.html（釧路高専ホームページ））

資料２－１－③－６

「教育研究支援センターの業務」　（抜粋）

（センター及び職員の業務）
第８条　センター及びセンターに所属する職員は，第２条に規定する目的を達成するため，相互に連携及び協力し，次に掲げる業務を行う。
一　学生の実験及び実習に関すること。
二　卒業研究，特別研究等に関すること。
三　教育教材作成に関すること。
四　教員の教育研究活動に関すること。
五　学校行事（高専祭等）に関すること。
六　実験室等の共通利用機器等の保守・管理等に関すること。
七　実習工場施設及び設備の管理運営等に関すること。
八　情報処理センター運営等に関すること。
九　公開講座，地域貢献及び産学連携等に関すること。
十　その他必要な業務

（出典　釧路高専教育支援センター規程）

資料２－１－③－７

「教育研究支援センター職員の業務状況」

平成24年度前期　　教育研究支援センター　　業　務　予　定　表

		月									火									水									木									金								
		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8
機械・建築グループ	副技術長・グループ長 的野　卓司														工学実習実験Ⅰ 2M		卒業研究 5M 1・2K特別研究								工学実習実験Ⅱ 3M								工学実習実験Ⅲ 4M		卒業研究 5M 1・2K特別研究								ものづくり基礎 1年生								
	技術専門職員 石塚　和則														機械工学実習Ⅰ 2M		卒業研究 5M 1・2K特別研究								工学実習実験Ⅱ 3M								工学実習実験Ⅲ 4M		卒業研究 5M 1・2K特別研究								ものづくり基礎 1年生 CAD 4M ※ 3週								
	技術職員 樋上　磨																卒業研究 5M								機械工学実習・実験Ⅱ 3M								機械工学実習・実験Ⅲ 4M		卒業研究 5M								ものづくり基礎 1年								
	技術職員 小林　勲														機械工学実習・実験Ⅰ 2M		卒業研究 5M 2k特別研究								機械工学実習・実験Ⅱ 3M										卒業研究 5M 2k特別研究								ものづくり基礎 1年生								
	技術職員 福地　敏春																卒業研究 5A 1K 特別研究								建築材料 4A									総合演習 5A		卒業研究 5A 1K 特別研究								ものづくり基礎 1年生				測量学 5A				
電気・電子・情報グループ	技術長 横山　安弘		工学課題実験 4D		工学実験Ⅱ 3D							計測システム選択		回路設計基礎 2D			卒業研究 5D				創造工学 2D		工学実験Ⅳ 4D									工学実験Ⅱ 3D		工学実験Ⅳ 4D		卒業研究 5D								ものづくり基礎 1年								
	副技術長・グループ長 村上　誠一	ネットワーク運用と管理（ユーザ管理、 ファイル管理、 ネットワーク機器の管理、 通信障害の対応、各種ネットワークサービスの運用と管理、セキュリテイの維持と管理、第1・2演習室システム管理他）																																											
	技術専門職員 高坂　宜宏	プログラミング言語Ⅱ 3J		コンピュータネットワークⅠ		数値解析 4J		HR 2J			プログラミング言語Ⅰ 3J		情報工学実験Ⅱ 5J			卒業研究 5J				ソフトコンピューティング 5EDJ		コンピュータネットワークⅡ 4J		情報工学実験Ⅱ 5J		プログラミング言語Ⅰ 2J			コンピュータリテラシー 2J		人工知能 5EDJ		卒業研究 5J								ものづくり基礎 1年				コンピュータリテラシー 2J				
	技術専門職員 小清水　誠	オペレーティングシステム 5D		コンピュータリテラシー 1年3組		機械工学特論 5M					シーケンス制御 4D 5EDJ		回路設計基礎演習 2D			卒業研究 5MED				電子計算機 2E		メカトロニクス 4M				数値解析 4D					電子工学実験 4D		卒業研究 5MED							プログラム言語Ⅱ 4D		CAD/CAM 4M		プログラム言語Ⅰ 3D				
		コンピュータリテラシー 1年1組		数値解析法 5M							コンピュータリテラシー 1年2組		コンピュータリテラシー 1年5組												画像工学Ⅰ 5D		情報処理演習 2A													コンピュータリテラシー 1年4組				電気製図 2E				
						特別実験Ⅱ 2KS					ソフトウェア工学 2S		構造解析Ⅱ 2K												品質工学 1KS		機械制御工学概論 1K			デジタルイメージ 2K		コンピュータ設計工学 1KS							パーソナルマイクロプロセッサ 1KS				制御工学特論 1KS				
	技術専門職員 二谷　聡志	信号処理Ⅰ 5J									情報工学演習 2J					卒業研究 5J														プログラミング言語Ⅲ 4J				卒業研究 5J				計算機制御 5J				データベース 5J				
	技術職員 稲守　栄	電気工学実験Ⅴ 5E															卒業研究 5E								電気工学実験Ⅰ 3E								電気工学実験Ⅲ 4E				卒業研究 5E						ものづくり基礎 1年								
備　考																																												

※本科　M 機械工学科、E 電気工学科、D 電子工学科、J 情報工学科、A 建築学科、　専攻科　K 建設生産システム工学、S 電子情報システム工学

（出典　教育研究支援センター作成資料）

資料２－１－③－８

「実習工場の卒研・特別研究での利用状況」

H18～22年度（5年間）　実習工場工作機械等使用願平均値

使用学年	専攻科	5	4	3	2	1	教職員
（人）	65.4	258.2	29	21.25	5.5	0.3	1.25
所　属	機械	電気	電子	情報	建築		
（件）	377.2	0.4	0	0.4	0.8		
実験室	流体	機力	熱工学	材料	制御	生産	
（件）	88.4	44.6	39	51.4	14.6	66.8	
使用機器	旋盤	立フラ	横フラ	形削り	平面研	卓上ボ	ラジアル
（件）	136.6	88.2	0.4	0.8	0.6	65	2.4
（時間）	317.90	230.48	0.75	1.43	1.50	111.42	3.25
	直立	アーク	ガス	日立	鋸盤	アマダ	ラクソー
	4.8	26.6	0.6	50.6	6.2	13	19.8
	7.35	50.09	1.00	58.26	6.60	16.89	20.20
	砥石切断	プラズマ	NC旋	MC	レーザー		
	4.6	2.6	15	9.8	11		
	4.23	2.10	42.52	30.53	23.24		
使用時間	卒研	実験	教職員	同好会	その他	合計	
（件）	290	0	1	54.6	28.6	374.2	
（時間）	604.33	0.00	4.00	165.06	35.69	809.08	

（出典　教育研究支援センター（実習工場）作成資料）

資料２－１－③－９

「実習工場利用状況」（時間割）

実習工場の利用状況

	月	火		水	木		金
1							
2		2M 工学実習・実験Ⅰ			4M 工学実習・実験Ⅲ		
3							１年 ものづくり基礎
4							
5		5M 卒研	専攻科 特別研究	3M 工学実習・実験Ⅱ	5M 卒研	専攻科 特別研究	
6							
7							
8							
9							

2M　30名
3M　30名
4M　10名　（5班のうちの1つの班が工場に来る）
5M、専攻科　（決まった人数が来ることはない。　日によって違う）

（出典　教育研究支援センター（実習工場）作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校には全学的なセンターとして情報処理センター，教育研究支援センターが設置されており，それぞれの目的に沿った教育活動を行っている。

これらのことから，本校の全学的なセンターとして設置されている情報処理センター及び教育研究支援センターは教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

観点２－２－①：　教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され，教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われているか。

（観点に係る状況）

本校教育の円滑な運営のために，校長室，運営会議，教務委員会等を設けている（資料２－２－①－１）。教育面で重要な組織として教務委員会がある（資料２－２－①－２)。教務委員会は本校の教育全般に関する事項を審議している。さらに，教務委員会では，学科の意見の汲み上げ，アンケート調査，WGによる特別なテーマの集中審議など多岐にわたり，教員全体の意見集約に努めている（資料２－２－①－３）。教務委員会は，ほぼ月例で開催され，議事録は内部に公開されている（資料２－２－①－４）。教務委員会の審議結果は運営会議に報告し，学校の決定として実施される（資料２－２－①－５）。

なお，本校においては，専攻科における教育研究及び学生指導の内容を，より全学的に捉えるために，平成21年度に専攻科委員会を廃し，教務委員会が準学士課程，専攻科課程両方の教育課程を審議するように組織体制を変更した（資料２－２－①－６）。

資料２－２－①－１

「会議及び委員会」　（抜粋）

第５章 会議及び委員会

（設置）

第20条　本校に教員をもつて構成する次の会議及び委員会を置く。

一　運営会議
二　教員会議
三　教務委員会
四　学生委員会
五　寮務委員会
六　その他必要と認められる会議及び委員会

（出典　釧路高専教員組織及び職務分掌規程）

資料２－２－①－２

「教務委員会規程」　（抜粋）

（委員会の設置）

第１条 釧路工業高等専門学校に校長の諮問機関として，教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条 委員会において審議する事項は，次のとおりとする。

一 学校行事等に関する事項

二 教育課程の編成及び実施に関する事項

三 入学，転学，転科，進級及び卒業に関する事項

四 授業評価に関する事項

五 教育内容及び教育方法等の改善のための研修に関する事項

六 教育環境の改善に関する事項

七 その他教務に関する重要事項

（組織）

第３条 委員会は，次の各号に掲げる者で組織する。

一 教務主事及び教務主事補

二 専攻科長

三 一般教育科文系教員及び理系教員から各１名

四 専門学科教員から各１名

五 専攻長

六 学生課長

七 その他校長が必要と認めた者 若干名

（出典　釧路高専教務委員会規程）

資料２－２－①－３

「教務委員会議事録」　（抜粋）

４月定例教務委員会議事録

日　　時 ： 平成24年４月４日（水）10時00分～12時02分
場　　所 ： 小会議室
出 席 者 ： 13名　　欠 席 者 ： １名

１．報告事項

(1) 学生の修学状況について

委員長から，資料１に基づき，学生の修学状況について報告があった。

(2) 学生の異動状況について

委員長から，資料２－１及び２－２に基づき，学生の異動状況について報告があり，続いて大貫委員から，４Ｊの除籍の学生には復籍の希望があるため，学科としてサポートする予定であることが報告された。

中略

２．審議事項

(1) 始業式について

委員長から，資料６に基づき，始業式について説明があり，審議の結果，了承された。

(2) 平成24年度活動方針について

委員長から，資料（レジュメ）に基づき平成24年度活動方針について以下のとおり説明があり，審議の結果，了承された。

- 年間行事予定の検討継続について･･･夏休みの期間，見学旅行の時期，セメスター制の導入等の検討
- 教育課程の見直し･･･モデルコアカリキュラムの導入について検討
- 原級者及び退学者を減少させるための対策について･･･成果を上げているモデルとなる高専を視察し，可能な限り，来年度の実績に反映させる。

(3) ５月月間行事予定（案）について

委員長から，資料７に基づき５月月間行事予定（案）について説明があり，審議の結果，了承された。

(4) 学級担任会議について

委員長から，資料８に基づき，学級担任会議について以下のとおり説明があり，続いて，大貫先生から，４月12日に５年生対象に道新就活セミナーを実施する旨の説明があり，審議の結果，了承された。

- 低学年のＳＨＲの徹底について依頼する。
- 未修得進級対象者が行う補講等の手続きについて，周知する機会を設ける。

資料２－２－①－３（続き）

(5) 年度当初日程について

委員長から，資料９に基づき，年度当初日程について説明があり，審議の結果，了承された。

(6) 海外語学研修について

委員長から，資料10に基づき，海外語学研修について以下のとおり説明があり，審議の結果，了承された。

- 今年度の海外語学研修は苫小牧高専が実施するニュージーランド研修に相乗りする。
- 本校海外語学研修実施要領に基づき，条件等を付加して周知する。
- 次回本委員会に審議が間に合わない事項については，一部国際交流委員長と協議する内容を含めて，委員長に一任願いたい。

(7) ２段階学科選択制度に関するアンケートについて

委員長から，資料11に基づき，２段階学科選択制度に関するアンケートについて，昨年度同様実施したい旨の提案がなされ，また，来年度は２段階学科制度を導入した学生が丸５年を迎えるため，４・５年生へのアンケートも検討する旨の説明があり，審議の結果，了承された。

(8) 専攻科の海外短期留学について

専攻科長から，資料12に基づき，専攻科生のフィンランドＴＵＡＳ交換留学について説明があり，審議の結果，了承された。なお，現時点で専攻科２年生３名から申し出があったことが報告された。

(9) その他

特になし。

３．その他

(1) 専攻科ガイダンスについて

専攻科長から，資料13に基づき説明があり，以下の項目を追加することで了承された。

- 総合英語Ⅰ・ⅡのＴＯＥＩＣとの関連について
- 海外短期留学先での評価を一部の単位として認定できること
- 留学期間中の講義系科目は授業振替にて対応すること

(2) 第４学年ＪＡＢＥＥ説明会について

専攻科長から，第４学年ＪＡＢＥＥ説明会について，４月11日に中村先生からガイダンスを実施する旨の説明があり，審議の結果，了承された。

(3) 補講・補習の実施方法について

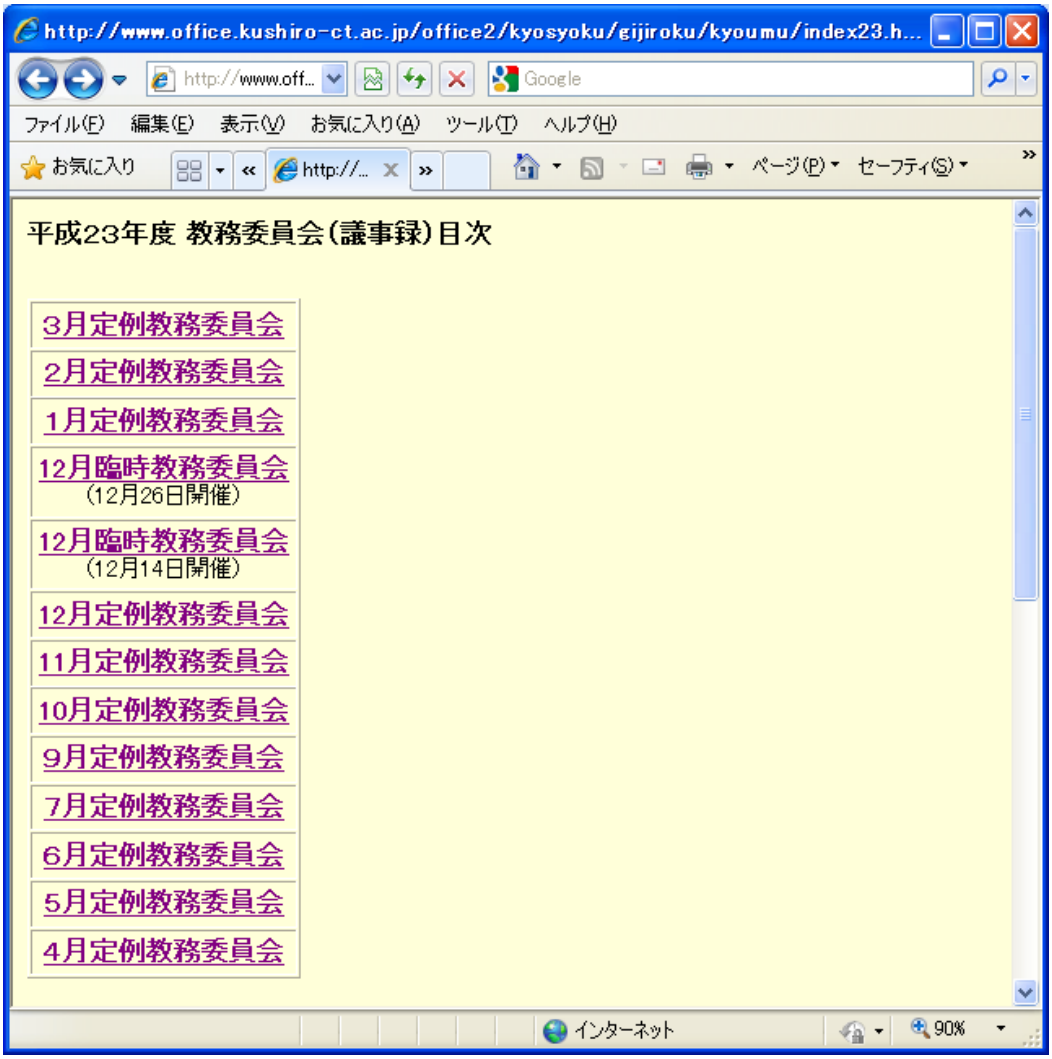
委員長から，資料14に基づき，補講・補修の実施方法について説明がなされ，続いて原級者に周知徹底するためにガイダンスを実施する旨の説明がなされ，審議の結果，了承された。

以下略

（出典　平成24年度４月教務委員会議事録）

資料２－２－①－４

「平成 23 年度教務委員会　議事録目次)」



(出典　Web サイト
http://www.office.kushiro-ct.ac.jp/office2/kyosyoku/gijiroku/kyoumu/index23.html
(釧路高専内部向けホームページ))

資料２－２－①－５

「運営会議　議事概要」　（抜粋）

8. 見学旅行の実施について

中村副校長から，後で行う教務委員会の報告にもあるが、今回の震災に関わり従来通り統一の日程で見学旅行を実施できるかどうか、各学科の意見を求めた結果と道内他高専及び市内高等学校の状況を調査した結果今年度についても従来通り9月下旬から統一日程で実施することを提案し了承された。

（出典　平成 23 年度４月運営会議議事概要）

「教務委員会 議事概要」　（抜粋）

・第４学年見学旅行の実施について

委員長から，以下のとおり説明があった。

－東日本大震災の影響により，例年通りの実施が危ぶまれる。

－まずは，各学科において，企業および工場等が見学を受け入れてもらえる状況なのかどうかを４月22日(金)までに調査してほしい。また，事務では，旅行代理店に状況の確認を行ってほしい。

－各学科の状況が，あまりにも異なる場合は，臨時教務委員会を開催するが，４月の運営会議において，学校としての方針を決定してもらうよう提案したい。

（出典　平成 23 年度４月教務委員会議事概要）

資料２－２－①－６

「運営会議　議事概要」　（抜粋）

◎審議事項

１．規程の一部改正（案）について

総務課長から，下記規程の一部改正について資料１７-1から１７-14に基づき説明の後，審議の結果了承された。

ア．学則

イ．教員組織及び職務分掌規程

ウ．運営会議規程

エ．教務委員会規程

（出典　平成 20 年度３月運営会議議事録）

資料２－２－①－６

「運営会議　議事概要」　（抜粋）

◎審議事項

１．規程の一部改正（案）について

総務課長から，下記規程の一部改正について資料１７-1から１７-14に基づき説明の後，審議の結果了承された。

ア．学則

イ．教員組織及び職務分掌規程

ウ．運営会議規程

エ．教務委員会規程

（出典　平成 20 年度３月運営会議議事録）

運営会議
資料　１７－４

○釧路工業高等専門学校教務委員会規程　新旧対照表（案）

（平成２１年３月　　日　釧高専達第　　号）

【改正理由】

管理運営体制の見直しに伴い，所要の整備を行うもの。なお，第２条の審議事項には，専攻科及び外国人留学生に係る事項を含むものとし，「釧路工業高等専門学校専攻科委員会規程（平成16年3月8日 釧高専達第3号）」及び「釧路工業高等専門学校外国人留学生委員会規則（平成3年3月19日 釧高専達第4号）」は廃止する。

新	旧
第１条　～　第２条　　（略）	第１条　～　第２条　　（略）
第３条　委員会は，次の各号に掲げる者で組織する。 一　教務主事及び教務主事補 二　一般教科文系教員及び理系教員から各１名 三　専門学科教員から各１名 **四　専攻主任** **五**　学生課長 **六**　その他校長が必要と認めた者　若干名	第３条　委員会は，次の各号に掲げる者で組織する。 一　教務主事及び教務主事補 二　一般教科文系教員及び理系教員から各１名 三　専門学科教員から各１名 **四**　学生課長 **五**　その他校長が必要と認めた者　若干名
第４条　～　第８条　　（略）	第４条　～　第８条　　（略）
附　則　　（略） **附　則（平成21．3．　釧高専達第　号）** **１　この規程は，平成２１年４月１日から施行する。** **２　釧路工業高等専門学校外国人留学生委員会規則（平成3年3月19日 釧高専達第4号）は廃止する。** **３　釧路工業高等専門学校専攻科委員会規程（平成16年3月8日 釧高専達第3号）は廃止する。**	附　則　　（略）

（出典　平成 20 年度３月運営会議資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校教育の円滑な運営のために，校長室，運営会議，教務委員会等を設けている。その中でも，教育面で重要な組織として教務委員会がある。教務委員会では本校の教育全般に関する事項を審議している。教務委員会の審議結果は運営会議に報告し，学校の決定として実施される。

これらのことから，教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され，教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われている。

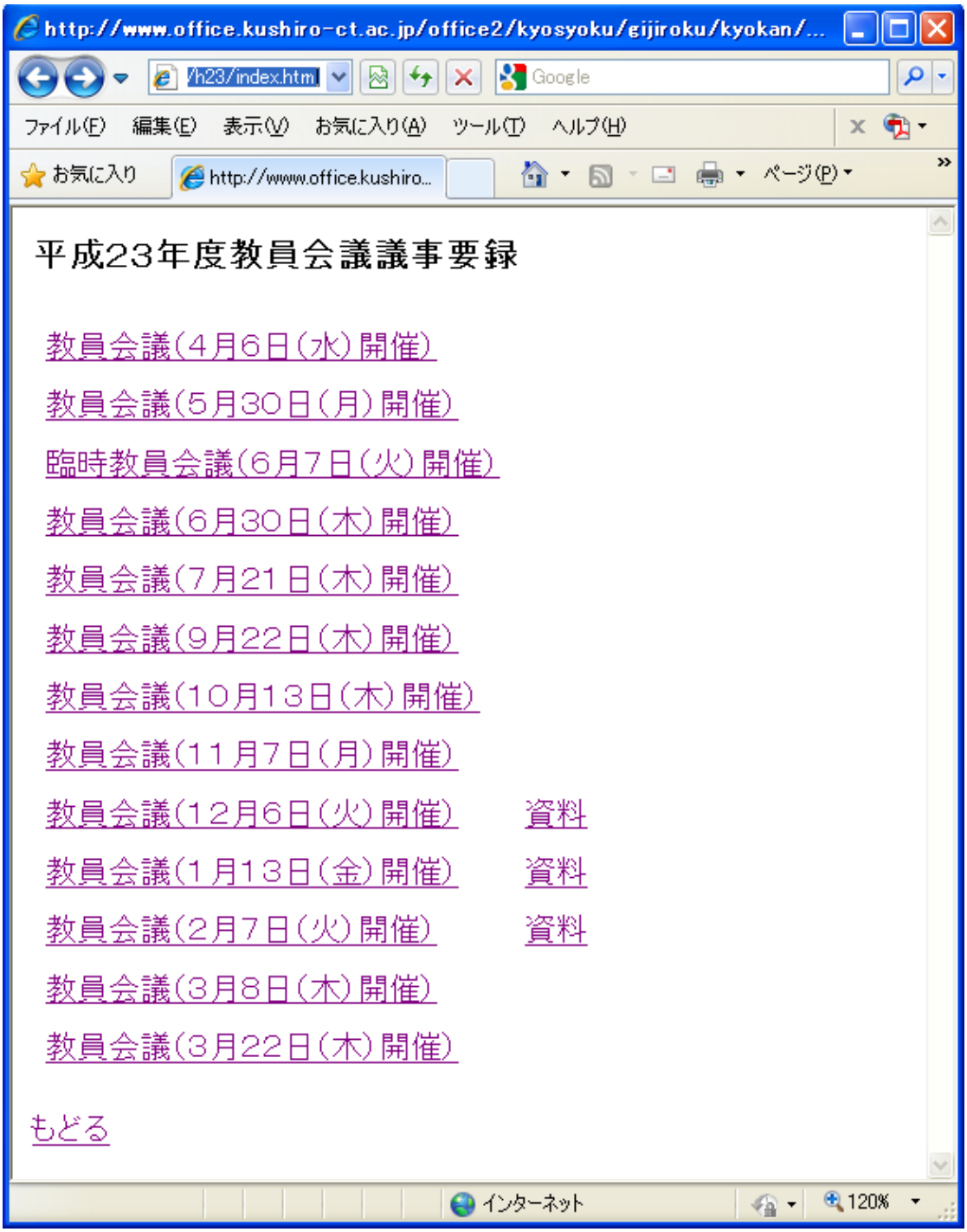
観点２－２－②：　一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が，機能的に行われているか。

（観点に係る状況）

本校では，月例で教員会議を実施しており，全教員が会議室に集まり学校運営や学校行事等について内容を周知し，議論を行っている（資料２－２－②－１）。平成22年度からは朝の８時30分から５分程度，教員連絡会として校長からの報告，各種委員会，担任からの連絡や種々の情報を全員で共有している。教員連絡会の内容は総務課からメール配信し，内容を全教職員に周知している（資料２－２－②－２）。教務委員会の下には「科目間調整会議」を設け，科目間調整会議の議題は教務委員会で審議・決定され，教務主事補を議長に，一般科目を担当している一般教育科教員と専門科目を担当する各専門学科の教員が委員として参加する。平成23年度の科目間調整会議では，大学編入学を目指す学生のための選択科目群の位置づけ・評価方法等について，専門学科と一般教育科の数学教員などにより議論を行った（資料２－２－②－３）。結果として，平成24年度からの教育課程においては，大学編入学を目指す学生のための選択科目群の成績をクラス順位から除外する事等を決定した（資料２－２－②－４，５）。また，教務委員会の下に次年度授業計画会議があり，翌年度の教育課程や非常勤講師の採用計画等について専門学科の各学科長と一般教育科の各教科代表が話し合い，その結果を教務委員会にて審議している（資料２－２－②－６）。

資料２－２－②－１

「平成 23 年度　教員会議議事録目次」



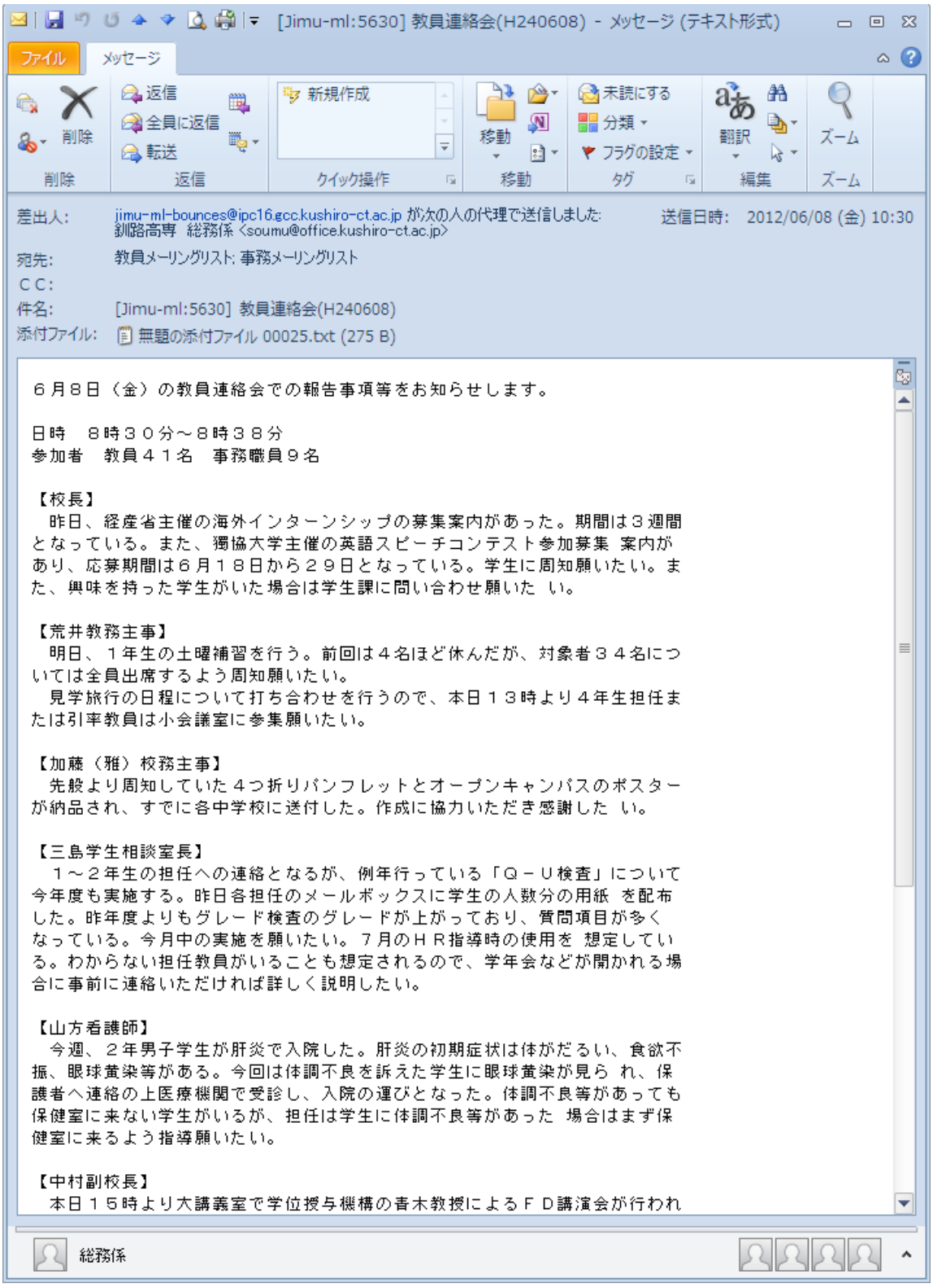
（出典　Web サイト

http://www.office.kushiro-ct.ac.jp/office2/kyosyoku/gijiroku/kyokan/h23/index.html

（釧路高専内部向けホームページ））

資料２－２－②－２

「教員連絡会報告」　（抜粋）



（出典　平成 24 年６月８日 教員連絡会報告メール）

資料２－２－②－３

「平成 23 年度　第２回科目間調整会議　記録」　（抜粋）

平成 23 年度　第２回科目間調整会議　記録

日時　平成 24 年１月 24 日（火）16:30～17:30
場所　小会議室
出席者　チーフ：山﨑主事補
一般教育科理系：加藤(隆)先生，一般教育科文系：片岡(務)先生，M：荒井先生，
E：高木先生，D：浅水先生，J：大槻(典)先生，A：千葉先生，一：澤柳先生，
一：小谷先生，事務：小田島

－　山﨑先生から，レジュメおよび資料の確認があった。
引き続き，山崎先生から，資料１に基づき，道内高専の状況説明があった。

－　澤柳先生から，以下のとおりコンセンサスの確認があり，そのうえで，大学編入学向け科目のクラス順位の出し方を議論したい旨説明があった。
・釧路高専は，全国高専の中で低い学力であること。
・現状のままでは，推薦でしか大学に編入学できなくなってしまうこと。
・推薦で不合格になった学生は，学力で編入学できないほどの学力であること。

－　山﨑先生から，資料２について以下のとおり説明があった。
・資料２については，認定会議前のデータを使用している。
・現状のクラス順位と，単位に重み付けをした時及び大学編入学向け科目を除外した時のクラス順位に，極端な変動はない。
・クラス順位の変動は個々人によって多種多様であり，必ずしも大学編入学生向けの科目がクラス順位を下げる結果になっていない。

－　澤柳先生から，以下のとおり意見があった。
・資料２は，成績の悪い学生が履修取消をした後のデータとなっており，実際に取り消さなければクラス順位がかなり下がる学生もいる。
・大学編入学向け科目については，４年生の時にクラス順位に影響しない工夫をしてほしい。

－　小谷先生から，以下のとおり意見があった。
・申し合わせに，選択科目のある学年の成績席次の決め方について記載があるが，30 年以上も前のものである。そろそろ見直すべきではないか。

その後，種々意見交換があった。

・途中の順位が悪くても，最終的に履修取消をすればいいのではないか。
・函館高専のように，卒業単位から外して，クラス順位に影響しないようにしてはどうか。
・個人的には，時間をかけた科目に重み付けをする GPA を導入してほしい。

－　山﨑先生から，これらの話し合いをふまえて，以下のとおり教務委員会に意見をあげることとした。
・完全な GPA を導入するのではなく，単位に重み付けをする。
・編入学生向けの科目については，卒業要件に含まず，クラス順位付けの対象外科目とする。
・来年度からの実施を検討したい。

以　上

（出典　平成 23 年度　第２回科目間調整会議記録）

資料２－２－②－４

「２月定例教務委員会議事録」　（抜粋）

(10) 評価のあり方について

山﨑主事補から，資料14に基づき，科目間調整会議の報告を含む説明があった。

引き続き山﨑主事補から，「単位の重み付けをした平均点による順位付け」，「大学編入学対策で開講している科目（数学Ⅱ・数学Ⅲ・物理Ⅱ）を卒業要件および順位付けから除外する」ことについて，各学科等の意見を伺うこととなっていた旨の説明があり，おおむね賛成意見が多かったことから，来年度からの実施に向けて，具体的な取り扱いについて，以下のとおり確認がなされた。

・順位付け方法は，来年度から全学年に適用する。
・重み付けは，時間数ではなく単位数である。
・「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」「物理Ⅱ」は，卒業要件に含まれないことから，これらの科目の欠課は，総欠課制限時数に含まれないが，各科目の単位認定要件のため５分の１欠課および３分の１欠課超過については含まれる。
・「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」「物理Ⅱ」は，合格の場合のみ成績一覧等に表記される。
・教務事務システムの対応は，間に合わないことが予想されるため，各科目による集計作業が必要となる。

なお，山﨑主事補から，「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」「物理Ⅱ」を卒業要件から除くことにより，一般科目の教育課程表に変更が必要である旨の説明があり，審議の結果，了承された。

（出典　平成 23 年度２月教務委員会議事録）

資料２－２－②－５

「平成 24 年度教育課程表（一般科目）」

別表第１

一般科目　　平成２４年度改訂

区分	授業科目		単位数	学年別単位数 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必修科目	国語		8	3	3	2			
	コミュニケーション実践		2				2		
	社会	倫理・社会	2	2					
		現代社会	2		2				
		日本史	1		1				
		世界史	2			2			
		法学	2				2		
	数学		18	6	6	6			
	理科	物理	5	2	3				
		化学	5	3	2				
		物理演習	1			1			
	保健体育	保健	1	1					
		体育	6	2	2	2			
	外国語	英語	18	6	5	4	2	1	
		ドイツ語	2					2	
	修得単位計		75	25	24	17	6	3	
選択科目	芸術	音楽	2	2					} いずれか一方を選択する。
		美術	2	2					
	体育		2				2		4年次編入生以外は必ず選択すること。
	数学Ⅰ		2				2		4年次編入生のみ選択すること。
	英語演習		2				2		
	※日本文学A		1					1	前期開講
	※日本文学B		1					1	後期開講
	※歴史と文化ⅠA		1					1	前期開講
	※歴史と文化ⅠB		1					1	後期開講
	※歴史と文化ⅡA		1					1	前期開講
	※歴史と文化ⅡB		1					1	後期開講
	※哲学A		1					1	前期開講
	※哲学B		1					1	後期開講
	※社会科学入門A		1					1	前期開講
	※社会科学入門B		1					1	後期開講
	※心理学A		1					1	前期開講
	※心理学B		1					1	後期開講
	※環境学A		1					1	前期開講
	※環境学B		1					1	後期開講
	英会話		2			2			３・４年次のいずれか一方の学年で選択できる。
	※英語コミュニケーションA		1					1	前期開講
	※英語コミュニケーションB		1					1	後期開講
	※中国文化A		1					1	前期開講
	※中国文化B		1					1	後期開講
	※韓国文化A		1					1	前期開講
	※韓国文化B		1					1	後期開講
	開設単位計		32	4		(2)	(8)	20	
	修得単位計		6以上	2		4以上			
修得単位合計			81以上	27	24	30以上			

※印は学則第１４条第２項に定める単位を示す。

区分	授業科目	単位数	学年別単位数 1年	2年	3年	4年	5年	備考
選択科目	数学Ⅱ	2				2		進級および卒業に必要な修得単位数には含まれないが単位認定は行う。
	数学Ⅲ	1				1		
	物理Ⅱ	1				1		

（出典　平成 24 年度学生便覧　p. 14）

資料２－２－②－６

「次年度授業計画会議」　（抜粋）

(5) 次年度授業計画について

山﨑主事補から，資料10に基づき，11月29日(火)に開催した次年度授業計画会議において確認された内容である旨の説明があり，審議の結果，了承された。

(6) 平成24年度非常勤講師依頼予定計画について

山﨑主事補から，資料11に基づき，11月29日(火)に開催した次年度授業計画会議において確認された内容である旨の説明があり，審議の結果，了承された。

引き続き委員長から，機械工学科から，教育課程変更の不具合について，以下のとおり申し出があった旨の説明があった。

・平成21年度に，「機械材料ⅠおよびⅡ」を２単位から１単位に変更していたが，２単位に戻し，教育課程表も変更したい。
・その他の誤記の箇所も修正したい。
　－「機械材料Ⅱ」および「ＣＡＥ」に学修単位とするための「※」をつける。
　－「材料評価学」は，４学年の科目で表記されているが，５学年であった。
　－これらの修正に伴う単位計欄等の修正をする。

審議の結果，修正について了承され，以下のとおり対応することとなった。

・修学支援係は，教育課程表を修正に必要な手続きがあれば進める。
・機械工学科は，学生への説明を行い，修正後の教育課程表を配付する。
・今後，このようなことがないよう，教育課程表および科目担当調書等の各種情報収集の方法に工夫が必要である。

（出典　平成 23 年度 12 月教務委員会議事録）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，月例教員会議，８時30分からの教員連絡会，教務委員会の下での「科目間調整会議」や「次年度授業計画会議」を開催し，一般教育科と専門学科の連携を行っている。

これらのことから，一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が，機能的に行われている。

観点２－２－③：　教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

（観点に係る状況）

本校の教員組織及び職務分掌規程により，学級担任は教務，厚生補導，特別教育活動，その他を掌理することと定められている（資料２－２－③－１）。本校では，学級担任を各学年・各クラスに１名（３学年までは副担任を各クラス１名）置いている。各学年の担任のうち１名を学年主任として，担任団をまとめる役割を果たしてもらうようにしている。

学級担任に対しては，「学級担任の手引き」が配布され，主な職務内容が解説され，テーマ案等が示され，クラス運営の指針として提供されている（資料２－２－③－２）。例えば，LHRの内容について具体例が示されている（資料２－２－③－３）。年度初めの学級担任会議（資料２－２－③－４）においては，各主事等から１年間の方針等が説明され，質疑応答により合意形成される（資料２－２－③－５）。指導において学年全体での統一性が強く要求される低学年においては，学年主任の主導により，学年担任会議が不定期で開催され，指導方法等の話し合いが随時行われている（資料２－２－③－６）。

課外活動の指導については，昨年度高専機構から通知された部活指導に関する基本的な考え方（教員の負担軽減策の一部），本校における部活指導に関する審議結果を基に，「全教員がクラブ顧問を担当する」ことを改めて基本方針として決定した（資料２－２－③－７，８）。これにより，合宿における宿直指導など，顧問業務の分散化が進み，負担軽減が図られた（資料２－２－③－９）。また，クラブ顧問会議があり，クラブに対する補助や安全，管理等について議論を行っている（資料２－２－③－10）。

新任教員に対しては着任年度当初に学内での新任教員研修が行われ，本校の活動全般について説明がなされ，学校としての教育方針等の周知をしている（資料２－２－③－11）。

資料２－２－③－１

「教員組織及び職務分掌規程」　（抜粋）

（職の設置）
第２条　本校に，本校学則第９条の規定に基づく教務主事，学生主事及び寮務主事のほか次の職を置く。
一　校務主事
二　研究企画主事
三　図書館長
四　専攻科長
五　一般教育科長
六　一般教育科文系長
七　一般教育科理系長
八　学科長
九　専攻長
十　学年主任
十一　学級担任
十二　学級副担任
十三　実習工場長

「中略」

（職務）
第16条　学年主任は，校長の命を受け，次の事項を掌理する。
一　各学年の学級担任の職務について連絡，調整を図ること。
二　その他各学年の学級の運営に関し，必要と認められること。
第17条　学級担任は，校長の命を受け，次の事項を掌理する。
一　学級の教務に関すること。
二　学級の厚生補導に関すること。
三　学級の特別教育活動に関すること。
四　その他学級の運営に関し，必要と認められること。
第18条　学級副担任は，校長の命を受け，学級担任の職務を補佐する。

（出典　釧路高専教員組織及び職務分掌規程）

資料２－２－③－２

「学級担任の手引き」　（抜粋）

目　　次

１．ホームルームと学級担任の役割　1
1.1　ホームルームとは　1
1.2　ホームルームの機能　1
1.3　ホームルーム運営の留意事項　1
1.4　ホームルームでの具体的な指導事項　2

２．日常の指導　2
2.1　学生理解　2
2.2　生活上のしつけ　4
2.3　教室管理　5
2.4　学生への連絡　5

３．行事における指導　5

４．事件・事故への対処　7
4.1　連絡を受けた場合の処置　7
4.2　事後の処置　7

５．ロングホームルームの指導　8
5.1　ＬＨＲの取り扱い　8
5.2　ＬＨＲのテーマ（活動の内容）について　8
5.3　ＬＨＲに対する担任の心構え　8
5.4　ＬＨＲの工夫　9
5.5　ＬＨＲのテーマの具体例　9
5.6　視聴覚教材　１０
5.7　進路資料室　１１

６．事務手続き　１１
6.1　教務関係の「取扱い及び申し合わせ類集」より　１１
6.2　「学生便覧」より　１３
6.3　表彰に関する内規　１４
6.4　成績通知書　１４
6.5　指導要録　１４

７．職員相互の連絡　１５
7.1　教員との連絡　１５
7.2　事務職員との連絡　１５
7.3　副担任　１６

（出典　学級担任の手引き　平成24年４月）

資料２－２－③－３

「ロングホームルームの指導」　（抜粋）

5.2　ＬＨＲのテーマ（活動の内容）について
(1) 年間のＬＨＲの使用計画の立案を年度当初にするとよい。
(2) 年度始めの学級担任会議の際、教務委員会からＬＨＲの実施予定表が出され、それを参考に全校的なテーマ、学年のテーマ、各ＨＲ等の計画を設定する。
(3) 全校的なテーマは
(a) 学級役員の選出等，学生課に書類として提出するもの。
(b) 長期休業前の諸注意（学生委員会から資料が配布される）。
(c) 校内体育大会や高専祭等学生会行事の選手や係を決める。
(d) その他、ＬＨＲの時間帯を利用して校内大掃除、防火訓練等がある。
(4) 各ＨＲのテーマは、クラスが独自で使用するもので、学級担任講話、個人面談、長期休業の反省等、１年間を見通して必要なテーマを担任が設定する。
(5) ＬＨＲのテーマについては、「5.5 ＬＨＲのテーマの具体例」を参照のこと。なお、進路指導委員会企画による「進路学習」が予定されている週があるので留意する必要がある。

5.3　ＬＨＲに対する学級担任の心構え
(1) ＬＨＲを単なる連絡や諸注意だけで終わらせず、実りあるものにする工夫が大切である。
(2) 学生会行事に関わるものは、学級代表や行事委員会等学生を積極的に使って討論決定させることが必要である。
(3) 学級担任は、学生と積極的に接する機会を多く作り、特に１年生は、中学校と高専の学校の違いから生ずるギャップがあるため、きめ細かな人間味ある慎重な対応が望まれる。
(4) 高専は、学年制なのでクラスは学科が確定した４年間の期間殆ど変わらない。従って、クラスの融和や生活面でのけじめ、学習面での積極性を付けさせるとともに、ＬＨＲリーダーを育成していくという側面も考慮していきたい。

5.4　ＬＨＲの工夫
(1) テーマ別に学生の担当者を決めて学生を大いに使う。
(2) ＬＨＲ日誌などをつけさせ、大切に時間を使わせる。
(3) 学年で、又は、クラス共同で取り組む時間があってもよい。

5.5　ＬＨＲのテーマの具体例
(1) 諸連絡・諸注意
(2) 出欠確認と教室清掃
(3) 個人面談
(a) 成績、生活についての個人面談
(b) 平素の学習・生活指導について
(4) 座席替え
(5) 学校行事・学生会行事についての討議
(a) 学校祭について

以下略

（出典　学級担任の手引き　平成24年４月）

資料２－２－③－４

「学級担任会議　レジュメ」

学　級　担　任　会　議

日　　時　　平成２４年４月４日（水）　１４：００～
場　　所　　会議室

議　　題
１．学生への配付物について
(1) 第１学年　※①～⑨入学式当日各教室へ（①～⑥個人毎封筒詰め）
①学生証
②在学証明書
③合格通知書の原本（該当者のみ）
④平成２４年度行事予定表
⑤平成２４年度前期授業時間割
⑥新入生オリエンテーション実施要項
⑦高専だより
⑧学生便覧
⑨実験実習安全必携
(2) 第２～５学年　※①～③始業式当日教室へ
①平成２４年度行事予定表
②平成２４年度前期授業時間割
③教育課程表（改正に伴う移行措置）

２．学級担任への配布物について
(1) 全学級担任用
①学生カード
②校外ＨＲ実施計画書（１・２学年）　【封筒に同封】
③学級役員名簿　【封筒に同封】
④クラス座席配置表用カードケース
⑤学級担任の手引き　【副担任にも配付】
(2) 第１年学級担任用
①入試関係資料
②中学校調査書（写）

３．委員会所掌事項説明
(1) 教務委員会
(2) 学生委員会
(3) 寮務委員会

４．その他

（出典　平成24年度学級担任会議資料）

資料２－２－③－５

「学級担任会議用資料一覧　学生委員会関係」　（抜粋）

学級担任会議用資料一覧　学生委員会関係（学生主事）

(1) 平成２３年度活動方針について	資料 1
(2) 学級役員名簿について	資料 2
(3) 対面式について	資料 3
(4) 新入生に対するクラブ勧誘について	資料 4
(5) 懲戒処分表の公開について	資料 5
(6) 学生の定期健康診断について	資料 6
(7) 学生調査票及び学生カードについて	
(8) 校内大掃除について	資料 7
(9) 就学支援金及び授業料免除について	資料 8
(10) 日本学生支援機構奨学金の募集について	資料 9
(11) 校外ホームルームについて	資料 10
(12) 自動車及び自転車通学について	資料 11
(13) その他	

（出典　平成 23 年度４月学生委員会　資料－11）

資料２－２－③－６

「学年担任会議 開催状況（第１～２学年)」

平成23年度　第1学年担任会議開催状況

回数	開催日	主な議事内容
1	H23.3.24	新年度のクラス編成について
2	H23.4.5	入学式の打ち合わせ
3	H23.4.6	オリエンテーション打ち合わせ
4	H23.4.25	オリエンテーション反省会
5	H23.5.9	学年集会の実施の可否について
6	H23.6.15	学生の動静・前期中間試験後の通知票の送付について
7	H23.9.5	進路学習(1)実施要領説明
8	H23.10.7	QUテストの結果についての情報交換
9	H23.10.28	進路学習(2)について，学生の問題行動への処分について
10	H23.12.2	定期試験事前指導について，次年度のオリエンテーションについて
11	H23.12.12	臨時学生委員会に担任団として出席（オリエンテーションについて）
12	H24.1.19	進路学習(3)について
13	H24.3.21	進級認定会議前の調整会議
14	H24.3.28	MLでの持ち回り審議（次年度への引継事項など）

平成23年度　第2学年担任会議開催状況

回数	開催日	主な議事内容
1	H23.4.5	クラス運営の方針の確認・校外HRについて
2	H23.5.13	進路学習について
3	H23.5.30	(メールでの開催)校外HR実施計画の確認・進路学習の確認・情報交換
4	H23.6.22	数学補習について・中間試験の成績について
5	H23.7.24	(メールでの開催)校外HR感想文について・学生の状況について
6	H23.9.29	進路学習の日程調整・学生の状況と保護者懇談会の情報交換
7	H23.11.28	校外HRの日程について
8	H23.12.7	(メールでの開催)委員会報告・クラス関係情報交換(特段の話題はなかった)
9	H24.2.10	(メールでの開催)クラスの状況報告・進路学習の状況・学生への注意事項

（出典　各学年主任作成資料）

資料２－２－③－７

「課外活動指導に関する申し合わせ事項」　（抜粋）

Ⅱ．クラブ顧問の指導体制

１．顧問の選任について

⑴ クラブの顧問は６０歳未満の全教員で当たることとする（６０歳以上の教員が自ら望んだ場合はその限りではない。）。

⑵ 各クラブの顧問には原則として３名程度の教員がつき，互選により代表顧問を決める。

⑶ 顧問の任期は原則として３年間とし，３年ごとに全体の見直しをかける。

⑷ 顧問の決定については，あらかじめ全教員に第１～第３までの希望調査を行うとともに，学生からの要望を勘案し，それらに基づいて学生主事が調整する。

⑸ 顧問の任命は，学生主事の上申した最終調整案に対する校長の決裁によりなされる。　顧問名簿一覧表は，３月教員会議に提示される。

⑹ 新たに設立した同好会については，学生主事が調整する。

⑺ 新規採用の教員については，その都度学生主事が調整する。

（出典　学生委員会申し合わせ類集　平成 24 年度５月編集）

資料２－２－③－８

「クラブ顧問名簿」

H24.5.7現在

平成２４年度　学生会・クラブ（部・同好会）顧問名簿

◎学生会関係

委員会・クラブ名	顧問
評議会	小杉　淳
執行委員会	
監査委員会	大槻香子
選挙管理委員会	
行事委員会	大石　玄
会計委員会	
新聞委員会	＊小田島本有
	片岡　務

◎文化系クラブ

写真部	＊片岡　務
	吉田　茂
吹奏楽部	戸谷伸之
	山田昌尚
	＊池田盛一
美術部	＊高橋　剛
	西澤岳夫
アマチュア無線部	＊成澤哲也
茶道部	＊中島陽子
	大槻香子
軽音楽部	＊加藤　隆

◎同好会

ドイツ語研究会	＊木村峰明
	藤本一司
ロボット研究会	＊荒井　誠
	梶原秀一
	千田和範
パークゴルフ同好会	＊三島利紀
基礎スキー同好会	＊坂口直志
マイコンカー同好会	＊坂口直志
将棋同好会	＊高橋　晃
書道同好会	＊舘下徹志
	大槻香子
ステップ同好会	＊片岡　務
総合デザイン研究会	＊西澤岳夫
	千葉忠弘
フットサル同好会	＊小谷泰介
トランポリン同好会	＊大槻典行
水泳同好会	＊片岡　務
アコースティックギター同好会	＊松崎俊明
総合運動同好会	＊佐々木　敦
科学ボランティア同好会	＊浦家淳博
プログラミング同好会	＊神谷昭基
ダーツ同好会	＊浅水　仁
宇宙科学技術研究会	＊小松正明
合唱同好会	＊片岡　務
極真空手同好会	＊小谷泰介
文芸同好会	＊小田島本有
ストリートパフォーマンス同好会	＊池田盛一
鉄道同好会	＊成澤哲也
演劇同好会	＊大石　玄

＊印は，代表顧問

◎体育系クラブ

委員会・クラブ名	顧問
陸上部	＊林　幸利
	梅津裕志
	中島陽子
男子バスケットボール部	＊大槻典行
	小田島本有
	中村　隆
女子バスケットボール部	＊舘岡正樹
	井上泰仁
	高橋　剛
	宮毛明子
男子バレーボール部	吉田　茂
	三島利紀
	西澤岳夫
	＊本田　匠
女子バレーボール部	＊三島利紀
	大槻香子
	野口孝文
ソフトテニス部	＊浦家淳博
	高橋　晃
	加藤雅也
卓球部	＊小杉　淳
	加藤岳人
	髙　義礼
柔道部	＊鈴木俊哉
	天元　宏
	沼田　敦
剣道部	＊渡邊聖司
	山形文啓
	小松正明
バドミントン部	＊山﨑俊博
	澤柳博文
	佐古彰史
	小谷泰介
野球部	＊千葉忠弘
	舘下徹志
	成澤哲也
	赤堀匡俊
	大石　玄
アーチェリー部	佐藤英樹
	＊佐々木　敦
	須田　潤
テニス部	＊松崎俊明
	松本和健
	佐藤彰治
	藤本一司
サッカー部	＊三森敏司
	石山俊彦
	坂口直志
	川村淳浩
	佐藤　哲
ハンドボール部	草苅敏夫
	＊鈴木邦康
	片岡　務
空手道部	＊高木敏幸
	浅水　仁
	栁川和徳
アイスホッケー部	＊舘岡正樹
	前田貴章
	本間宏利
	茅原浩平
自転車部	＊大貫和永
	林　裕樹
	土江田織枝

（出典　平成 24 年度クラブ顧問名簿）

資料２－２－③－９

「夏季休業期間中の合宿の実施状況」

平成 23 年度

2012年6月19日

合宿クラブ名 ＼ 合宿日及び各クラブの合宿人数	7月30日(土)	7月31日(日)	8月1日(月)	8月2日(火)	8月3日(水)	8月4日(木)	8月5日(金)	8月6日(土)	8月7日(日)	8月8日(月)	8月9日(火)	8月10日(水)	8月11日(木)	8月12日(金)	8月13日(土)	8月14日(日)	8月15日(月)	8月16日(火)	8月17日(水)	8月18日(木)	8月19日(金)	8月20日(土)	8月21日(日)	8月22日(月)	8月23日(火)	8月24日(水)	8月25日(木)	8月26日(金)	8月27日(土)	合宿部屋	合宿責任者	備考
バドミントン部	3	3	3																										4号室		定員5名程度
テニス部	5	8	8	5																				9	9	9	9	9	1号室		定員15名程度
ソフトテニス部					5	5	5	5																					2号室		定員15名程度
陸上部														2	2														4号室		
男子バスケ部																	9	10	10										1号室 2号室		各10人程度ずつ分割
卓球部																			3	3	4								3号室		定員15名程度
吹奏楽部																							1	2	2	2	2	2	1号室		
野球部																					11	11	11	11	11	11	11	11	2号室		
ロボ研																							8	8	8	8	8	8	3号室		
男子バレー部																										7(3)	7	7	7	3号室		
女子 大学編入・テニス部・野球部 ソフトテニス部・吹奏楽部	5（大・テ）	5（大・テ）	5（大・テ）	4（大・テ）	5（大・ソフ）	5（大・ソフ）	4（大・ソフ）	4（大・ソフ）											1（テ）	1（テ）	1（テ）	1（テ）	3（テ・野）	3（テ・野）	4（テ・野）	4（テ・野）	4（テ・野）	4（テ・野）	4（テ・野）	※女子学生は5号室		定員15名程度
合計	13	16	15	9	10	10	9	9						2	2		14	4	16	6	17	12	23	24	34	41	41	41	41			
当直教員名	小谷	松崎	山崎	松本	加藤（雅）	澤柳	浦家	澤柳						梅津	林（幸）		大槻	片岡（秀）	小杉	戸谷	松崎	成澤	千田	池田	松崎	大石	梶原	山田	中村			

※宿直教員が決定しましたら、学生支援係へ連絡願います。

資料２－２－③－９（続き）

平成 22 年度

夏季休業期間中の合宿

平成22年8月20日現在

合宿クラブ名	合宿日及び各クラブの合宿人数																											合宿部屋	合宿責任者	備考
	7月31日（土）	8月1日（日）	8月2日（月）	8月3日（火）	8月4日（水）	8月5日（木）	8月6日（金）	8月7日（土）	8月8日（日）	8月9日（月）	8月10日（火）	8月11日（水）	8月12日（木）	8月13日（金）	8月14日（土）	8月15日（日）	8月16日（月）	8月17日（火）	8月18日（水）	8月19日（木）	8月20日（金）	8月21日（土）	8月22日（日）	8月23日（月）	8月24日（火）	8月25日（水）	8月26日（木）	8月27日（金）	8月28日（土）			
ソフトテニス部										5	5	9	9	9	8	3													1号室		
男子バスケットボール部																									10	10	10	10	2号室		定員16名（男子バスケ部10、野球部6）
テニス部																									8	8	8	8	3号室 4号室		3号室 4名 4号室 5名（テニス部4、ロボ研1）
野球部																									6	6	6	6	2号室		定員16名（男子バスケ部10、野球部6）
男子バレー部																		9	9										2号室		
サッカー部	11																							9	9	12	12	12	3号室		定員16名（サッカー部最大12、テニス部4）
ロボット研究会																						3	3	3	3	3	3	3	1号室 4号室		1号室 2名 4号室 1名（テニス部4、ロボ研1）
吹奏楽部	5																					2	14	14	14	14	14	14	（前半）5号室（後半）1号室		定員16名（吹奏楽部14、ロボ研2）
大学編入学	1			1	1	1	1																						2号室		
インターンシップ	1	1	1	1	1	1																							1号室		
女子 バスケットボール同好会 ソフトテニス部・吹奏楽部										3（ソフテ）	3（ソフテ）	3（ソフテ）	3（ソフテ）	3（ソフテ）	2（ソフテ）	1（ソフテ）	2（バスケ）	2（バスケ）					2（吹）	2（吹）	2（吹）	2（吹）	2（吹）	2（吹）	2（吹）	※女子学生は5号室		
合計	18	1	1	2	2	2	1			8	8	12	12	12	10	4	2	11	9				5	19	28	52	55	55	55			
当直教員名	三森	池田	澤柳	大貫	荒井	草苅	大貫			浦家	佐川	佐川	浦家	高橋（晃）	高橋（晃）	浦家	森	舘岡	吉田				荒井	梶原	松崎	大槻（典）	三森	千葉	戸谷			

※宿直教員が決定しましたら、学生支援係へ連絡願います。

（出典　学生課学生支援係作成資料）

資料２－２－③－10

「クラブ顧問会議」　（抜粋）

第１回クラブ顧問会議（４．２６）確認事項

１．　クラブ顧問について

・各クラブの顧問間でサポート体制をとれるよう、十分に話し合いをする。

２．　高体連関係について

・２４年度以降は予定された当番校の変更があり得る。

・災害補償制度は、保険のきかない整骨院やマッサージなどでは適用されない。

３．　傷害保険について

・高体連の保険については競技により時期が違うため、その都度係から連絡する。

４．　クラブ補助について

⑴後援会支出基準「第１０条」の確認

※遠征費補助回数は高専大会のほか２大会まで、ただし全道大会規模以上とする。

※※支部大会への補助を復活させるよう後援会に働きかけることとする。

※宿泊費は１泊 8,200 円を上限として算定するが、「1 泊２食で 8,200 円」として運用しており、食事が付かない場合や１食のみの場合は、「1 食につき 700 円」を 8,200 円以内で申請できる。

・遠征費補助の払出手数料について、1 件の振り込みに対し一律 105 円の手数料を加算して振り込むこととする。

⑵学生会クラブ補助

・物品購入費に、市内（※近郊を含む）大会にかかる交通費、指導謝金を加えて予算申請する。満額が認められるわけではないが、クラブの実情把握のため、必要な金額をすべて記入する。

（出典　平成 23 年度５月学生委員会資料）

資料２－２－③－11

「新任教員研修会　日程表」

平成24年度　釧路工業高等専門学校新任教員研修会　日程表

H24.5.9　現在　　場所：会議室

5/18（金）		
	8:50-8:55	開講式
1	8:55-9:25	講　義 「釧路高専の現状と課題」 校長　岸　徳光
2	9:25-9:55	講　義 「学寮の位置付けと指導体制について」 寮務主事　三森　敏司
	9:55-10:00	休憩
3	10:00-10:30	講　義 「学生指導について　」 学生主事　加藤　岳人
4	14:40-15:10	講　義 「釧路高専の運営計画について」 副校長（運営計画担当）　岩渕　義孝
5	15:10-15:40	講　義 「専攻科について　」 専攻科長　神谷　昭基
	15:40-15:50	休憩
6	15:50-16:35	講　義 「本科の教育課程及び授業計画について」 教務主事　荒井 誠

5/23（水）		
7	10:35-11:05	講　義 「生産情報システム工学プログラムについて　」 副校長（総務・教務担当）　中村　隆
	11:05-11:10	休憩
8	11:10-11:40	講　義 「広報及び地域社会への協力貢献について」 校務主事　加藤　雅也
9	11:40-12:10	講　義 「職場の安全衛生について　」 衛生管理者　高坂　宜宏
	12:10-13:00	休憩
10	13:00-13:30	講　義 「外部資金の獲得とその支援について　」 研究企画主事　野口　孝文
11	13:30-14:00	講　義 「産学連携について」 地域共同テクノセンター長　高橋　剛
	14:00-14:10	休憩
12	14:10-14:40	講　義 「情報セキュリティについて　」 情報処理センター長　林　裕樹
13	14:40-15:05	講　義 「教育研究支援センターの業務について　」 技術長　横山　安弘
	15:05-15:15	休憩
14	15:15-15:40	講　義 「事務部の業務について」事務部長　佐藤　道之 「総務課の業務について」総務課長　鈴木　恵子
15	15:40-16:05	講　義 「学生課の業務について」 学生課長　井上　義彦
	16:05-16:15	閉講式

（出典　平成 24 年度釧路高専新任教員研修会資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，学級担任および１～３学年には副担任を置いている。各学年担任のうち１名を学年主任として，担任団をまとめる役割を果たしてもらうようにしている。学級担任に対しては，「学級担任の手引き」が配布され，学年主任の主導により，学年担任会議が不定期で開催され，指導方法等の話し合いが随時行われている。

課外活動の指導については「全教員がクラブ顧問を担当する」ことを改めて基本方針として決定し，負担軽減が図られた。また，クラブ顧問会議があり，クラブに対する補助や安全，管理等について議論を行っている。

これらのことから，教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

情報処理センター，教育支援センターの学内共同利用センターが，それぞれ特色ある機能を備えており，本校の教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

毎朝，教員連絡会を開催することで，校長からの報告，各種委員会，担任からの連絡や種々の情報を全員で共有している。

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準２の自己評価の概要

準学士課程は，機械工学，電気工学，電子工学，情報工学，建築学の５学科により構成されている。専攻科課程は，準学士課程の５学科を２専攻（建設・生産システム工学専攻，電子情報システム工学専攻）に集約する形で体系的に編成され，実践的・創造的技術者の養成を可能としている。

全学的なセンターとして，情報処理センター，教育研究支援センターがある。それぞれのセンターは特色ある機能を備えて，本校の教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

教育活動を有効に展開するための検討・運営体制として教務委員会と運営会議が設置されており，教育活動等について，審議するなどの必要な活動を行っている。教務委員会のもとに科目間調整会議等があり，一般科目・専門科目間調整の組織的取組がなされている。

学級担任の他に副担任，学年主任を置き，必要に応じて学年担任会議を開催するなど，学級担任体制が整備されており，「学級担任の手引き」に基づき担任はホームルームの運営や学生指導などに当たっている。全教員によるクラブ顧問体制が整備され，課外活動を通じた教育活動を職務として明確化している。

基準３　教員及び教育支援者等

（１）観点ごとの分析

観点３－１－①：　教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

一般教育科担当の専任教員と非常勤講師の配置を示す（資料３－1－①－１）。一般教育科の授業担当教員は，専任教員25名，非常勤講師27名である。なお，一般教育科文系英語科の教員１名が病気休暇中である。設置基準上の必要専任教員数は22名であり，本校の配置教員数25名はこの基準を上回っている。各教員の専門分野はそれぞれ担当する授業科目にふさわしいものである。

本校の一般教育科の授業は，本校の学習目標のＡ，Ｃ，Ｆを主に達成させるものである。学習目標Ａを達成させるために，社会系科目と芸術科目を展開している。芸術科目と社会系選択教科（環境学,中国文化など）の一部を非常勤講師に依存しているが，必修教科に関してはほとんど専任教員による授業を展開している。

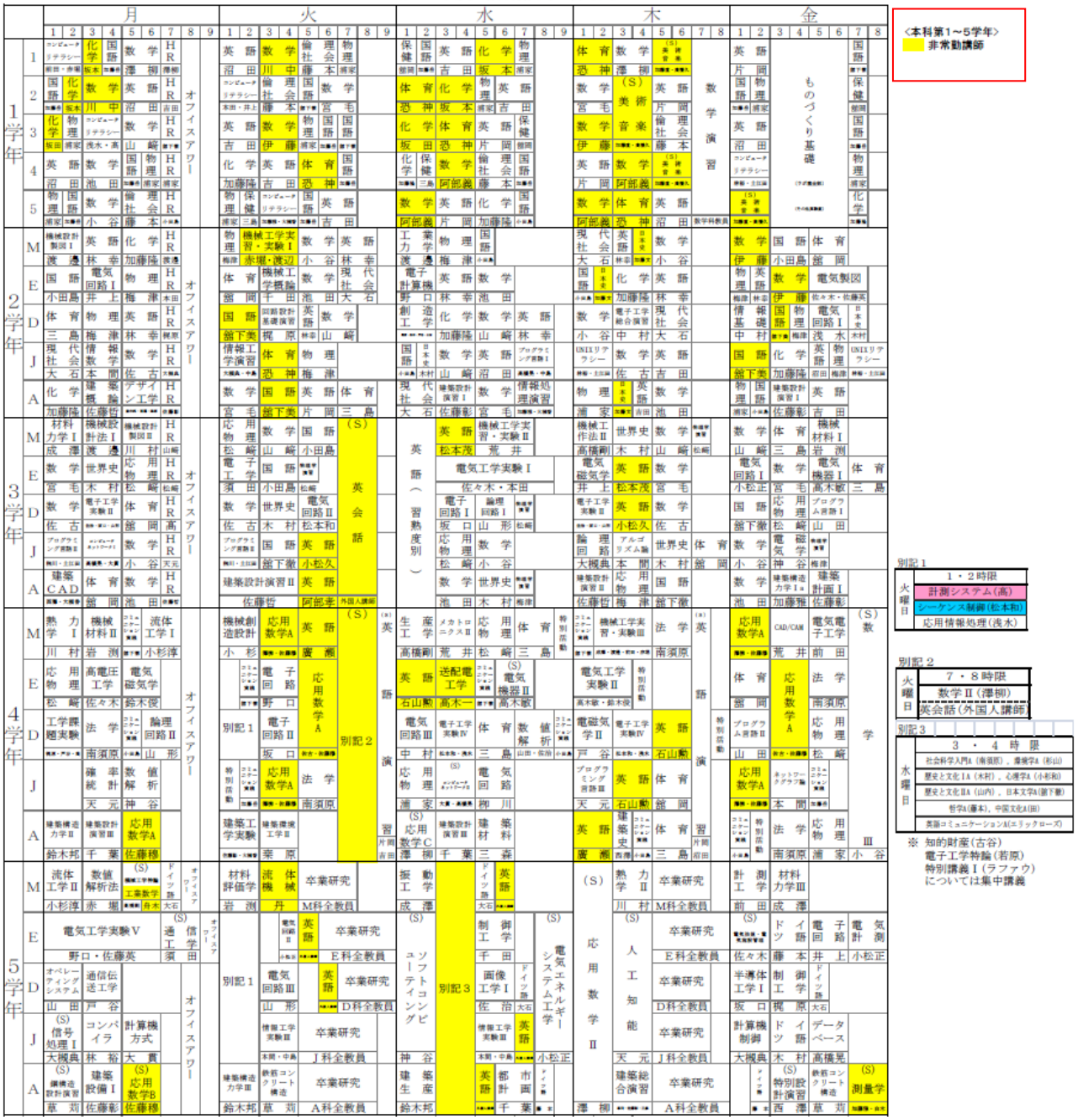
学習目標Ｃを達成させるために，数学・物理・化学等の理数系科目を展開している。物理に関してはすべての授業を専任教員が担当し，数学・化学に関しては１，２年の一部の授業を非常勤講師が担当しているがその比率は決して高くない。特に専門分野への橋渡しとして重要な３・４学年の理数系科目はほとんどを専任教員が担当している。

学習目標Ｆを達成させるために国語，英語，英会話等の科目を展開している。高学年の国語系科目は専任教員が担当し，日本語による記述・討論・プレゼンテーション・コミュニケーション能力の育成を行っている。英語では，基礎知識を身につけさせるために低学年ではすべて専任教員により授業を担当している。また高学年の英語と英会話の授業では，ネイティブスピーカーを非常勤講師として採用し，オーラルコミュニケーション能力の育成を図っている。

資料３－１－①－１

「一般教科を担当する専任教員及び非常勤講師の配置状況資料」

平成24年度　前期授業時間割



（出典　本自己評価のための作成資料）

資料３－１－①－１（続き）

一般教育科

〇専任教員(25 名)　　赤:専攻科の担当科目　　大学勤務経験:◎

職名	学位・資格	専門分野	氏名	担当科目	民間企業等	他教育機関勤務
教授(11 名)	修士(法学)	法学	南須原　政幸	法学，社会科学入門A・B		◎
	博士(工学)	有機化学	加藤　隆	化学		◎
	博士(理学)	応用数学 物理学	澤柳　博文	数学Ⅱ，応用数学Ⅱ・A・C，物理Ⅱ		〇
	修士(法学)	中世ドイツ法 世界史	木村　峰明	日本史，世界史，歴史と文化ＩＡ・ＩＢ，ドイツ語		
	修士(文学)	日本近現代文学	小田島　本有	国語，コミュニケーション実践		〇
		英語教育	吉田　茂	英語，英語演習		〇
	修士(教育学)	物理学 数学教育	浦家　淳博	物理，応用物理，統計学		〇
	修士(教育学)	英語教育 イギリス現代文学	片岡　務	英語，英語演習，総合英語Ⅰ，総合英語Ⅱ		〇
	博士(情報科学)	数学教育	池田　盛一	数学，応用解析学		〇
	修士(文学)	日本近現代文学	舘下　徹志	国語，コミュニケーション実践，日本文学A・B，日本語表現技法		〇
	修士(教育学)	保健体育 教育相談	三島　利紀	体育，保健		〇
准教授(14 名)	博士(理学)	数学	星野　裕一	量子力学，宇宙物理学		〇
		日本古典文学	加藤　岳人	国語，コミュニケーション実践		〇
	修士(文学)	倫理学 ドイツ哲学	藤本　一司	倫理・社会，哲学A・B，ドイツ語		〇
		保健体育	舘岡　正樹	体育，保健		〇
	修士(教育学)	英語教育 アメリカ近代文学	林　幸利	英語		〇
	博士(理学)	物理学 数学教育	松崎　俊明	応用物理，物理学演習		
	修士(教育学)	数学教育	山崎　俊博	数学，数学Ⅰ，応用数学基礎		〇
	博士(学術)	英語教育	田村　聡子	(病気休職中)		〇
	博士(理学)	数学	小谷　泰介	数学，数学Ⅲ		〇
	博士(理学)	数学 物理学	佐古　彰史	数学，応用数学A		◎

	博士（理学）	物理学	梅津　裕志	物理，応用物理，物理学演習，物理学特論	○	○
	修士（教育学）	英語教育	沼田　敦	英語，英語演習		○
	博士（理学）	理論物理学	宮毛　明子	数学		○
	修士（法学）	現代社会 労働法	大石　玄	現代社会，ドイツ語，技術者倫理		○

○非常勤講師（27 名）

氏名	担当科目	勤務先
高井　博司	日本語	前　高校教師
舘下　美優貴	国語	前　高校教師
山内　一美	現代社会 歴史と文化ⅡA・B	塾経営
加藤　文次	日本史	前　高校教師
田　　野	中国文化A・B	前　中国水利水電気設計院
伊藤　勝夫	数学	前　高校教師
阿部　義美	数学	塾経営
川中　理樹	数学	釧路工業高校教師（定時）
佐藤　穆	応用数学	
坂田　澄雄	化学	釧路短期大学
坂本　博明	化学	前　環境コンサルタント株式会社取締役
杉山　伸一	環境学A・B	前　小・中学校教師
阿部　孝士	英語	教育大学釧路校
小松　久子	英語	前　高校非常勤講師
松本　茂	英語	釧路工業高校教師（定時）
石山　勲	英語	前　高校教師
廣瀬　由幸	英語	前　中学校教師
ブライアン・ヘイコックス	英語 英会話	前　英語家庭教師
エリック・ローズ	英語 英会話	英会話スクール経営
高橋　久美子	音楽	前　中学校教師
加藤　直樹	美術	教育大学釧路校（非常勤）
小杉　和寛	心理学A・B	自営業
恐神　邦秀	体育	前　釧路高専教授
菅原　賢治	体育	前　会社取締役

田川　淳一	体育	自営業
梅崎　明生	体育	自営業
矢島　信之	体育	前　小学校教師

（出典　本自己評価のための作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

一般教育科の授業担当教員は，専任教員25名，非常勤講師27名であり，設置基準上の必要専任教員数は22名を上回っている。各教員の専門分野はそれぞれ担当する授業科目にふさわしいものである。

本校の一般教育科の授業は，本校の学習目標のＡ，Ｃ，Ｆを主に達成させるものである。一部を非常勤講師に依存しているが，必修教科に関してはほとんど専任教員による授業を展開している。また高学年の英語と英会話の授業では，ネイティブスピーカーを非常勤講師として採用し，オーラルコミュニケーション能力の育成を図っている。

これらのことから，教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されている。

観点３－１－②：　教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校の各専門学科の教員数を資料３－１－②－１に示す。機械工学科では１名の欠員があるが，現在公募中である。また，電気工学科には助手１名が在籍している。専門科目担当教員数は高等専門学校設置基準を上回っている。また，教授，准教授の合計人数は41名であり，高等専門学校設置基準を上回っている。

各学科の専門科目担当の専任教員と非常勤講師の学位，担当科目，専門分野，民間企業経験等を資料に示す（資料３－１－②－２～６）。

各学科の専門科目は，主に学習目標Ｂ，Ｃ，Ｄ，Ｅ，Ｇを達成させるために展開している。各学科ともほぼすべての講義科目を専任教員が担当しており，また，実験，実習，演習科目及び卒業研究はほとんどすべて専任教員により指導している。各教員の担当科目と専門分野の間に直接的な関連がみられない場合もあるが，教員の専門分野は先端的であり，基礎事項として本校の専門科目の授業内容を十分に修得しているため，特段の問題はない。

また，資料３－１－②－２～６に示すように，専門科目担当の専任教員50名のうち，博士の学位取得者が39名，技術士が２名，一級建築士が１名である。また，民間企業等経験者が24名，大学教員経験者が６名である。さらに半数近くは民間企業経験者であり，各専門学科に平均的に配置されている。

専門科目の非常勤教員は，資料３－１－②－２～６にあるように，現役弁理士，大学教授，企業技術者等多岐に亘っており，実務的・先端的な授業展開を図っている（資料３－１－②－７）。

資料３－１－②－１

「教員人数表（平成24年４月）」

教員

	機械工学科	電気工学科	電子工学科	情報工学科	建築学科	計
校長						0
教授	4	4	4	4	4	20
准教授	4	3	5	5	4	21
講師		1				1
助教	1	1	1	2	2	7
助手		1				1
嘱託教授(短時間)						0
計	9	10	10	11	10	50

（出典　総務課作成資料）

資料３－１－②－２

機械工学科

○専任教員（9名）

職名	学位・資格	専門分野	氏名	担当科目	民間企業等	他教育機関勤務
教授	博士（工学）	冶金学 機械材料	岩渕　義孝	機械材料Ⅰ・Ⅱ，材料評価学，表面工学，機械工学実習・実験Ⅱ，材料システム工学	○	
		生産システム工学	荒井　誠	メカトロニクスⅠ・Ⅱ，機械工学実習・実験Ⅱ，CAD/CAM，生産システム工学，数値計算特論，コンピュータ設計工学	○	
	博士（工学）	振動分析 機械力学	成澤　哲也	ものづくり基礎，材料力学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，機械力学，機械工学実習・実験Ⅲ，振動工学，構造解析Ⅰ	○	○
	博士（工学） 技術士（機械）	機械工作 機械材料	高橋　剛	技術者基礎，機械工作法Ⅰ・Ⅱ，生産工学，機械工学実習・実験Ⅲ，機械工学特論，構造解析Ⅱ，技術者倫理	○	技術士
准教授	修士（工学）	生産工学	渡邊　聖司	ものづくり基礎，機械設計製図Ⅰ，工業力学，機械設計法Ⅰ・Ⅱ，機械工学実習・実験Ⅰ・Ⅲ，システム設計工学，品質工学		

	修士（工学）	流体工学	小杉　淳	流体工学Ⅰ・Ⅱ，機械創造設計，機械工学実習・実験Ⅲ，応用流体工学，油空圧工学概論	○	
	博士（工学） 技術士（機械）	環境工学 エネルギー工学	川村　淳浩	ものづくり基礎，機械設計製図Ⅱ，熱力学Ⅰ・Ⅱ，機械工学実習・実験Ⅲ，熱エネルギー工学，内燃機関工学概論	○	技術士
	博士（工学）	伝熱工学 熱工学	赤堀　匡俊	コンピュータリテラシー，CAD，数値解析法，機械工学実習・実験Ⅰ・Ⅲ，伝熱工学，環境エネルギー工学		○
助教	博士（工学）	光学 分光分析	前田　貴章	コンピュータリテラシー，電気電子工学，機械工学実習・実験Ⅲ，計測工学，制御工学，機械制御工学概論		○

赤字は専攻科担当科目

○非常勤講師（4名）

氏　名	担当科目	勤務先
古谷　栄男	知的財産	古谷国際特許事務所
渡辺　昌明	機械工学実習・実験Ⅰ	前　高校教師
丹　　国夫	流体機械	前　釧路高専教授
舟木　正博	工業数学	(有)舟木洋服店

＊全学科共通科目

（出典　本自己評価のための作成資料）

資料３－１－②－３

電気工学科

○専任教員（9名）　＊助手１名　　大学勤務経験:◎

職名	学位・資格	専門分野	氏名	担当科目	民間企業等	他教育機関勤務
教授	博士（工学）	画像処理	高木　敏幸	電気機器Ⅰ・Ⅱ，情報処理，電気工学実験Ⅱ，送配電工学，ソフトコンピューティング特論		○
	博士（工学）	ヒューマンインターフェイス	野口　孝文	電子計算機，電子回路，電気工学実験Ⅴ，ソフトウェアアーキテクチャ		
	博士（理学）	格子力学 分光技術	須田　潤	電子工学，電気材料，通信工学，電気工学実験Ⅳ，デバイス材料工学特論		◎

	博士（工学）	直流電力システム 宇宙応用	小松　正明	技術者基礎，電気回路Ⅰ・Ⅱ，電気計測，電気エネルギーシステム工学，電気応用，宇宙システム工学	○	
准教授	博士（工学）	マンマシンインターフェース	千田　和範	機械工学概論，制御工学，電気工学実験Ⅲ，制御工学特論		○
	博士（工学）	絶縁体特性	佐々木　敦	電気製図，電気工学実験Ⅰ，高電圧工学，電気設計，電気法規・電気設備管理，プラズマ工学	○	
	博士（理学）	電気磁気学 理論物理学	鈴木　俊哉	ものづくり基礎，電気磁気学，電気工学実験Ⅱ		○
講師	博士（工学）	電気工学 生命情報科学	井上　泰仁	コンピュータリテラシー，電気回路Ⅰ，電気磁気学，電子回路		○
助教	博士（情報科学）	画像処理	本田　匠	ものづくり基礎，コンピュータリテラシー，電気工学実験Ⅰ，電磁波工学，電磁波工学特論	○	
助手		電気機器理論	佐藤　英樹		○	

赤字は専攻科担当科目

○非常勤講師（3名）

氏　名	担当科目	勤務先
古谷　栄男	知的財産	古谷国際特許事務所
高木　一樹	送配電工学	北海道電力(株)
佐川　正人	発変電工学	東京高専

＊全学科共通科目

（出典　本自己評価のための作成資料）

資料３－１－②－４

電子工学科

○専任教員（10名）　　大学勤務経験：◎

職名	学位・資格	専門分野	氏名	担当科目	民間企業等	他教育機関勤務
教授	修士（工学）	リモートセンシング 画像処理	佐治　裕	電子工学実験Ⅰ・Ⅱ，数値解析，画像工学Ⅰ・Ⅱ，電子機器，信号画像処理Ⅱ		
	博士（工学）	光システム計測	中村　隆	電子工学総合演習，情報基礎，電子回路Ⅲ，電気回路Ⅲ，光エレクトロニクス，応用光学	○	
		電子材料 電子特性	坂口　直志	ものづくり基礎，電子回路Ⅰ・Ⅱ，電子工学実験Ⅱ，電子材料Ⅰ・Ⅱ，半導体工学Ⅰ・Ⅱ，量子統計工学	○	

	博士（工学）	低温エレクトロニクス 超伝導	松本　和健	シーケンス制御，創造工学，電気回路Ⅱ，電子工学実験Ⅲ・Ⅳ，電磁気学Ⅲ，デバイス工学，計測工学特論	○	
准教授	博士（工学）	ロボット工学	梶原　秀一	メカトロニクス，回路設計基礎演習，創造工学，電子工学実験Ⅴ，工学課題実験，制御工学，ハードウェア記述言語，ロボティクス		
	博士（工学）	ディジタル画像処理 信号処理	浅水　仁	コンピュータリテラシー，応用情報処理，電気回路Ⅰ，電子工学実験Ⅳ・Ⅴ，通信網工学，信号画像処理Ⅰ	○	○
	博士（工学）	光無線通信 情報工学	戸谷　伸之	ものづくり基礎，創造工学，電磁気学Ⅰ・Ⅱ，工学課題実験，通信伝送工学，電子計測，ネットワーク工学特論		◎
准教授	博士（工学）	音響情報処理	山田　昌尚	技術者基礎，創造工学，プログラム言語Ⅰ・Ⅱ，オペレーティングシステム，数値解析，コンピュータシステム実習，アルゴリズム，科学技術表現技法		
	博士（工学）	電磁気学 静電気放電	高　義礼	コンピュータリテラシー，計測システム，電子工学基礎，電子工学実験Ⅲ，工学課題実験，電磁波工学，アナログ高周波回路設計		◎
助教	博士（工学）	無線IPネットワークの構築	山形　文啓	ものづくり基礎，電子工学実験Ⅰ・Ⅱ，論理回路Ⅰ・Ⅱ，電気回路Ⅲ，ディジタル通信概論	○	

赤字は専攻科担当科目

○非常勤講師（2名）

氏　名	担当科目	勤務先
古谷　栄男	知的財産	古谷国際特許事務所
若原　昭浩	電子工学特論	豊橋技術科学大学

＊全学科共通科目

（出典　本自己評価のための作成資料）

資料３－１－②－５

情報工学科

○専任教員（11名）

赤字は
専攻科担当科目

職名	学位・資格	専門分野	氏名	担当科目	民間企業等	他教育機関勤務
教授	博士（情報科学）	音声認識 信号処理	大貫　和永	技術者基礎，情報工学基礎，コンピュータネットワークⅠ・Ⅱ，計算機方式，知的財産，ソフトウェア工学特論	○	
	博士（工学）	プロセスオートメーション 最適化	神谷　昭基	電磁気学，数値解析，情報論，情報伝送工学，ソフトコンピューティング，人工知能特論，技術者倫理	○	
	博士（情報科学）	音声信号処理	大槻　典行	情報工学演習，論理回路，計算機制御，情報工学実験Ⅱ，信号処理Ⅰ・Ⅱ，情報数学特論		
	修士（工学）	コンピュータネットワーク データベース	髙橋　晃	プログラミング言語Ⅰ，コンピュータネットワークⅠ・Ⅱ，オートマトン，データベース，ネットワークデザイン		
准教授	博士（工学）	コンピュータグラフィックス 画像処理	柳川　和徳	情報工学演習，プログラミング言語Ⅱ，情報工学実験Ⅰ，電気回路，図形処理，アドバンストプログラミング		
	博士（工学）	アルゴリズム グラフ理論	本間　宏利	情報数学，アルゴリズム論，ネットワーク・グラフ論，ソフトウェア工学，情報工学実験Ⅲ，アルゴリズム特論		
	博士（工学）	人工知能 パターン認識	天元　宏	ものづくり基礎，プログラミング言語Ⅲ，確率統計，人工知能，多変量解析		
	博士（工学）	画像解析 画像処理	林　裕樹	ものづくり基礎，コンピュータリテラシー，UNIXリテラシー，コンパイラ，アドバンストコンピューティング		
	博士（工学）	センサネットワーク技術	石山　俊彦	電子回路，システム工学，機能デバイス工学	○	
助教	修士（工学）	ヒューマンインターフェイス	土江田　織枝	ものづくり基礎，コンピュータリテラシー，UNIXリテラシー，プログラミング言語Ⅱ，情報工学実験Ⅰ	○	
		ソフトコンピューティング 音声情報処理	中島　陽子	ものづくり基礎，情報工学演習，プログラミング言語Ⅰ，情報工学実験Ⅲ		

（出典　本自己評価のための作成資料）

資料３－１－②－６

建築学科

〇専任教員（10名）　　大学勤務経験:◎

職名	学位・資格	専門分野	氏名	担当科目	民間企業等	他教育機関勤務
教授	博士（工学）	耐震構造 鋼構造 鉄筋コンクリート構造	草苅　敏夫	鋼構造，鉄筋コンクリート構造，建築総合演習，建築防災工学，溶接工学，鋼構造設計演習，RC構造設計演習，耐震構造		◎
	博士（工学）	建築環境工学	佐藤　彰治	技術者基礎，建築設計演習Ⅰ，建築計画Ⅰ，建築工学実験，建築総合演習，建築設備Ⅰ・Ⅱ，建築環境計画，高齢者環境学		◎
	博士（工学）	建築材料	三森　敏司	ものづくり基礎，建築材料，建築工学実験，建築総合演習，コンクリート工学特論，建設材料学，寒中コンクリート工学		
	博士（工学）	沿岸環境保全 流体力学	加藤　雅也	コンピュータリテラシー，情報処理演習，建築構造力学Ⅰa・Ⅰb，測量学，土質基礎工学，海洋建築，環境マネジメント	○	○
准教授	修士（工学）	都市計画	千葉　忠弘	建築設計演習Ⅲ，建築計画Ⅱ，都市計画，設計支援システム，デジタルイメージ		
	博士（工学）	建築構造解析	鈴木　邦康	ものづくり基礎，デザイン工学，建築構造力学Ⅱ・Ⅲ，建築生産，建築構造解析，応用力学	○	◎
	博士（工学） 一級建築士	近代建築史 歴史的建造物保全	西澤　岳夫	建築設計演習Ⅰ・Ⅴ，デザイン工学，建築CAD，建築史，特別設計演習	○	
	博士（工学）	建築環境・設備	桒原　浩平	ものづくり基礎，デザイン工学，建築環境工学Ⅰ・Ⅱ，空調設備		○
助教	博士（工学）	都市計画	佐藤　哲	ものづくり基礎，建築概論，建築設計演習Ⅱ，デザインプロポーザル	○	○
助教		建築環境工学 画像処理	大槻　香子	ものづくり基礎，コンピュータリテラシー，情報処理演習，建築 CAD，建築工学実験	○	

赤字は専攻科担当科目

資料3－1－②－6（続き）

○非常勤講師（4名）

氏　名	担当科目	勤務先
古谷　栄男	知的財産	古谷国際特許事務所
奥山　美智子	インテリア・デザイン	(株)武田建築設計事務所
下元　英徳	建築法規	村井建設(株)
白木　紘一	測量学	白木測量事務所・代表取締役

＊全学科共通科目

（出典　本自己評価のための作成資料）

資料３－１－②－７

「専門科目の非常勤教員」

○全学科共通（知的財産）…現職弁理士による授業
○電気工学科（送配電工学）…民間企業の現職技術者による授業
○電子工学科（電子工学特論）…現職大学教員による先端技術に関する授業
○建築学科（インテリアデザイン）…現職インテリアデザイナーによる授業
（建築法規）…民間企業の現職技術者による授業
（ 測量学 ）…民間企業の現職技術者による授業

（出典　本自己評価のための作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校の各専門学科の教員数は高等専門学校設置基準を上回っている。また，教授，准教授の合計人数は高等専門学校設置基準を上回っている。

各学科ともほぼすべての講義科目を専任教員が担当しており，また，実験，実習，演習科目及び卒業研究はほとんどすべて専任教員により指導している。また，専門科目担当の専任教員のうち，博士の学位取得者が39名，技術士が２名，一級建築士が１名である。また，民間企業等経験者が24名，他教育機関教員経験者が17名（うち大学教員経験者が６名）である。半数近くは民間企業経験者であり，各専門学科に平均的に配置されている。専門科目の非常勤教員は現役弁理士，大学教授，企業技術者等多岐に亘っており，実務的・先端的な授業展開を図っている。

これらのことから，教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されている。

観点３－１－③：　専攻科を設置している場合には，教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

専攻科の開講科目および担当教員を示す（資料３－１－③－１，２）。専門科目を担当する教員のほとんどは博士の学位を有しており，また，民間企業経験者，大学における教育経験者を多く含んでいる。これらのことから，本校専攻科の目的にある，「高等専門学校における教育の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し，その研究を指導」することを図っている。専攻科の授業科目は，準学士課程の基礎の上に実施しており，担当する教員は準学士課程の担当科目を考慮して配置している（資料３－１－②－２）。なお，本校では専攻科単独の教員組織は設置せずに，すべての科目を適格の一般教育科・専門学科所属の教員が担当し，非常勤教員は採用していない。

資料３－１－③－１

建設・生産システム工学専攻　Advanced Course of Construction and Manufacturing Systems Engineering

		授業科目 Subjects		単位数 Credits	毎週授業時間数 Hours by Week 1年 1st 前期	1年 1st 後期	2年 2nd 前期	2年 2nd 後期	備考 Notes		担当教員 Teaching Staff
一般科目 General Education Subjects	必修 Required Subjects	総合英語Ⅰ	Comprehensive English Ⅰ	2	2						片岡(勝)
		日本語表現技法	Technique of Japanese Expression	2	2						舘下
		技術者倫理	Engineer Ethics	2				2			神谷,大石,高橋(晃)
		小計	Subtotal	6					6単位修得 6 credits		
	選択 Elective Subjects	総合英語Ⅱ	Comprehensive English Ⅱ	2		2					片岡(勝)
		統計学	Statistics	2	2						澤柳
		応用解析学	Applied Analysis	2		2					池田
		物理学特論	Advanced Physics	2				2			梅津
		量子力学	Quantum Mechanics	2				2			星野
		宇宙物理学	Space Physics	2	2						星野
		小計	Subtotal	12					2単位以上修得 Must take 2 or more credits		
一般科目開設単位小計			Total of Credits Offered in General Education Subjects	18					8単位以上修得 Must take 8 or more credits		
専門科目 Specialized Subjects	専門共通科目 Special Common Subjects 必修 Required Subjects	システム工学	System Engineering	2	2						石山
		小計	Subtotal	2					2単位修得 2 credits		
	選択 Elective Subjects	制御工学特論	Advanced Control System	2	2						千田
		品質工学	Quality Engineering	2	2						渡邊
		コンピュータ設計工学	Computer Design Engineering	2	2						荒井
		科学技術表現技法	Technique of Technological Expression	2	2						山田
		多変量解析	Multivariate Analysis	2		2					天元
		数値計算特論	Advanced Numerical Calculation	2		2				※1	荒井
		ロボティクス	Robotics	2		2				※2	梶原
		人工知能特論	Advanced Artificial Intelligence	2		2				※3	神谷
		ソフトコンピューティング特論	Advanced Soft Computing	2			2				高木
		情報数学特論	Advanced Mathematics for Information	2	2						大槻(典)
		信号画像処理Ⅰ	Signal and Graphic Processing Ⅰ	2			2				滝水
		環境マネジメント	Environmental Management	2			2				加藤(雅)
		設計支援システム	Design Supporting System	2		2					千葉
		アドバンストプログラミング	Advanced Programming	2	2						柳川
		アドバンストコンピューティング	Advanced Computing	2		2					林（裕）
		デザインプロポーザル	Design Proposal	2	2						佐藤(智)
		宇宙システム工学	Space Systems Engineering	2		2					小松
		特別講義Ⅰ	Special Lecture Ⅰ	1							
		特別講義Ⅱ	Special Lecture Ⅱ	2							
		特別講義Ⅲ	Special Lecture Ⅲ	3							
		特別講義Ⅳ	Special Lecture Ⅳ	4							
		小計	Subtotal	44					14単位以上修得 Must take 14 or more credits		
	専門共通科目開設単位小計		Total of Credits Offered in Special Common Subjects	46					16単位以上修得 Must take 16 or more credits		
	専門展開科目 Special Developed Subjects 必修 Required Subjects	建設・生産システム工学特別ゼミナールⅠ	Advanced Seminar of Construction and Manufacturing Systems Engineering Ⅰ	1		2					
		建設・生産システム工学特別ゼミナールⅡ	Advanced Seminar of Construction and Manufacturing Systems Engineering Ⅱ	1			2				
		建設・生産システム工学特別演習Ⅰ	Advanced Exercise of Construction and Manufacturing Systems Engineering Ⅰ	1	2						
		建設・生産システム工学特別演習Ⅱ	Advanced Exercise of Construction and Manufacturing Systems Engineering Ⅱ	1			2				
		創造特別実験Ⅰ	Advanced Experiment for creation Ⅰ	1		3					
		創造特別実験Ⅱ	Advanced Experiment for creation Ⅱ	1			3				
		建設・生産システム工学特別研究	Advanced Research of Construction and Manufacturing Systems Engineering	16	8	8	8	8			
		インターンシップⅠ	Internship Ⅰ	2							
		小計	Subtotal	24					24単位修得 24 credits		
	選択 Elective Subjects	機械制御工学概論	Introduction to Mechanical Control Engineering	2	2						前田
		応用力学	Applied Mechanics	2		2					鈴木(邦)
		材料システム工学	Material System	2	2						岩渕
		環境エネルギー工学	Environmental Overhead	2			2				赤堀
		空調設備	Air Conditioning Equipment	2		2					垂原
		建築環境計画	Architectural Environmental Planning	2			2				佐藤(彰)
		内燃機関工学概論	Introduction to Internal-combustion Engine	2			2				川村
		油空圧工学概論	Introduction to Oil-hydraulic and Pneumatic Engineering	2		2					小杉
		構造解析Ⅰ	Structural Analysis Ⅰ	2		2					成澤
		構造解析Ⅱ	Structural Analysis Ⅱ	2			2				高橋(剛)
		耐震構造	Earthquake Resistant Construction	2				2			早苅
		建設材料学	Construction Materials	2		2					三森
		寒中コンクリート工学	Winter Concrete Engineering	2			2				三森
		高齢者環境学	Environment for aging people	2		2					佐藤(彰)
		デジタルイメージ	Digital Image	2			2				千葉
		インターンシップⅡ	Internship Ⅱ	2							
		小計	Subtotal	32					14単位以上修得 Must take 14 or more credits		
	専門展開科目開設単位小計		Total of Credits Offered in Special Developed Subjects	56					38単位以上修得 Must take 38 or more credits		
専門科目開設単位小計			Total of Credits Offered in Specialized Subjects	102					54単位以上修得 Must take 54 or more credits		
全授業科目開設単位合計			Total of Credits Offered in all subjects	120							
修得単位合計			Total of Credits Completed	62単位以上 Must take 62 or more credits							

（出典　平成 24 年度学校要覧　p. 29）

資料３－１－③－２

電子情報システム工学専攻　Advanced Course of Electronic and Information Systems Engineering

		授業科目 Subjects		単位数 Credits	毎週授業時間数 Hours by Week 1年 1st 前期	1年 1st 後期	2年 2nd 前期	2年 2nd 後期	備考 Notes		担当教員 Teaching Staff
一般科目 General Education Subjects	必修 Required Subjects	総合英語Ⅰ	Comprehensive English Ⅰ	2	2						片岡（務）
		日本語表現技法	Technique of Japanese Expression	2	2						舘下
		技術者倫理	Engineer Ethics	2				2			神谷，大石，高橋（潤）
		小計	Subtotal	6					6単位修得 6 credits		
	選択 Elective Subjects	総合英語Ⅱ	Comprehensive English Ⅱ	2		2					片岡（務）
		統計学	Statistics	2	2						澤柳
		応用解析学	Applied Analysis	2		2					池田
		物理学特論	Advanced Physics	2				2			梅津
		量子力学	Quantum Mechanics	2				2			星野
		宇宙物理学	Space Physics	2	2						星野
		小計	Subtotal	12					2単位以上修得 Must take 2 or more credits		
一般科目開設単位小計			Total of Credits Offered in General Education Subjects	18					8単位以上修得 Must take 8 or more credits		
専門科目 Specialized Subjects	専門共通科目 Special Common Subjects	必修 Required Subjects	システム工学	System Engineering	2	2					石山
			小計	Subtotal	2				2単位修得 2 credits		
		選択 Elective Subjects	制御工学特論	Advanced Control System	2	2					千田
			品質工学	Quality Engineering	2	2					渡邉
			コンピュータ設計工学	Computer Design Engineering	2	2					荒井
			科学技術表現技法	Technique of Technological Expression	2	2					山田
			多変量解析	Multivariate Analysis	2		2				天元
			数値計算特論	Advanced Numerical Calculation	2		2				荒井
			ロボティクス	Robotics	2		2				梶原
			人工知能特論	Advanced Artificial Intelligence	2		2				神谷
			ソフトコンピューティング特論	Advanced Soft Computing	2			2			高木
			情報数学特論	Advanced Mathematics for Information	2	2					大槻（典）
			信号画像処理Ⅰ	Signal and Graphic Processing Ⅰ	2			2			浅水
			環境マネジメント	Environmental Management	2			2			加藤（雅）
			設計支援システム	Design Supporting System	2		2				千葉
			アドバンストプログラミング	Advanced Programming	2	2					柳川
			アドバンストコンピューティング	Advanced Computing	2		2				林（裕）
			デザインプロポーザル	Design Proposal	2	2					佐藤（哲）
			宇宙システム工学	Space Systems Engineering	2		2			※1	小松
			特別講義Ⅰ	Special Lecture Ⅰ	1					※2	
			特別講義Ⅱ	Special Lecture Ⅱ	2					※3	
			特別講義Ⅲ	Special Lecture Ⅲ	3					※4	
			特別講義Ⅳ	Special Lecture Ⅳ	4					※5	
			小計	Subtotal	44				14単位以上修得 Must take 14 or more credits		
		専門共通科目開設単位小計		Total of Credits Offered in Special Common Subjects	46				16単位以上修得 Must take 16 or more credits		
	専門展開科目 Special Developed Subjects	必修 Required Subjects	電子情報システム工学特別ゼミナールⅠ	Advanced Seminar of Electronic and Information Systems Engineering Ⅰ	1		2				
			電子情報システム工学特別ゼミナールⅡ	Advanced Seminar of Electronic and Information Systems Engineering Ⅱ	1			2			
			電子情報システム工学特別演習	Advanced Exercise of Electronic and Information Systems Engineering	2				4		
			創造特別実験Ⅰ	Advanced Experiment for creation Ⅰ	1		3				
			創造特別実験Ⅱ	Advanced Experiment for creation Ⅱ	1			3			
			電子情報システム工学特別研究	Advanced Research of Electronic and Information Systems Engineering	16	8	8	8	8		
			インターンシップⅠ	Internship Ⅰ	2						
			小計	Subtotal	24				24単位修得 24 credits		
		選択 Elective Subjects	エネルギー変換工学	Energy Transformation Engineering	2			2			
			プラズマ工学	Plasma Engineering	2		2				佐々木
			ディジタル通信概論	Introduction to Digital Communications	2		2				山形
			アナログ高周波回路設計	Analog high-frequency Circuit Design	2			2			高
			電磁波工学特論	Advanced Electromagnetic Wave Engineering	2			2			本田
			ソフトウェアアーキテクチャ	Software Architecture	2		2				野口
			デバイス材料工学特論	Advanced Device Material Engineering	2			2			須田
			量子統計工学	Quantum Statistics Engineering	2	2					坂口
			応用光学	Applied Optics	2			2			中村
			機能デバイス工学	Functional Device Engineering	2		2				石山
			ネットワーク工学特論	Advanced Network Engineering	2	2					戸谷
			信号画像処理Ⅱ	Signal and Graphic Processing Ⅱ	2		2				佐治
			計測工学特論	Advanced Electrical Measurement	2	2					松本
			ネットワークデザイン	Network Design	2			2			高橋（晃）
			ソフトウェア工学特論	Advanced Software Engineering	2			2			大貫
			アルゴリズム特論	Algorithm	2		2				本間
			インターンシップⅡ	Internship Ⅱ	2						
			小計	Subtotal	34				14単位以上修得 Must take 14 or more credits		
		専門展開科目開設単位小計		Total of Credits Offered in Special Developed Subjects	58				38単位以上修得 Must take 38 or more credits		
	専門科目開設単位小計			Total of Credits Offered in Specialized Subjects	104				54単位以上修得 Must take 54 or more credits		
全授業科目開設単位合計				Total of Credits Offered in all subjects	122						
修得単位合計				Total of Credits Completed	62単位以上 Must take 62 or more credits						

（出典　平成 24 年度学校要覧　p. 30）

（分析結果とその根拠理由）

専門科目を担当する教員のほとんどは博士の学位を有しており，また，民間企業経験者，大学における教育経験者を多く含んでいる。専攻科の授業科目は，準学士課程の基礎の上に実施しており，担当する教員は準学士課程の担当科目を考慮して配置している。

これらのことから，教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されている。

観点３－１－④：　学校の目的に応じて，教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。

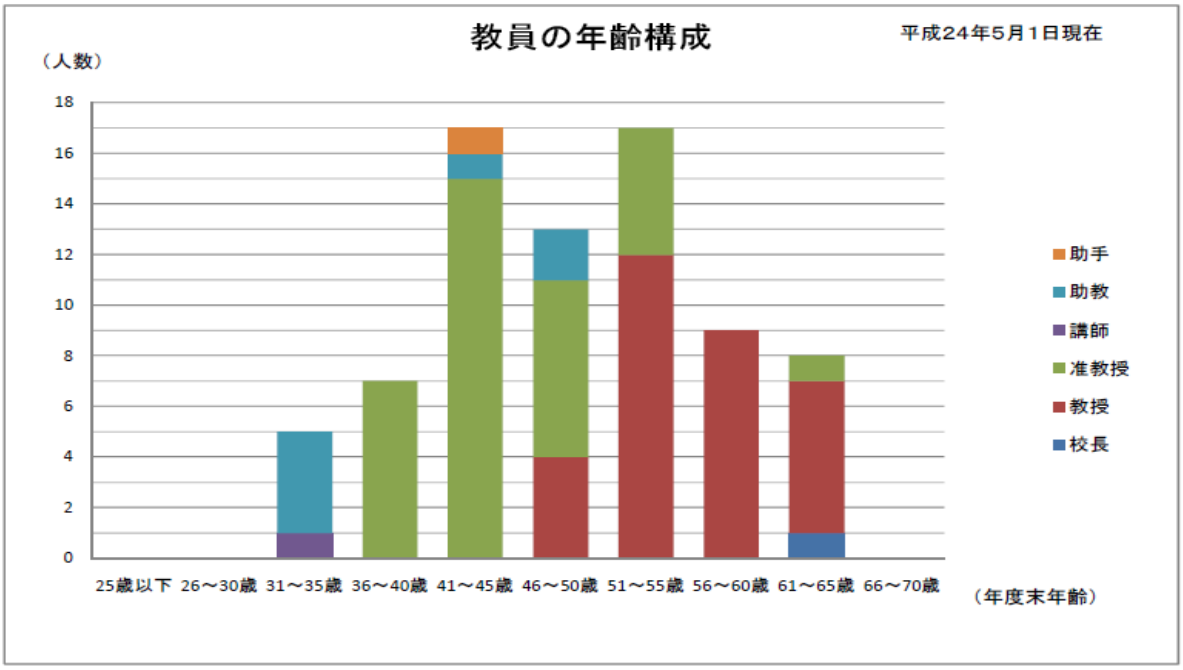
（観点に係る状況）

教員の年齢構成を資料３－１－④－１に示す。41歳から45歳の中堅教員と51歳から55歳のベテラン教員のところにピークがある，バランスの取れた構成になっている。なお，専任教員のうち女性教員の割合は6.6%である（資料３－１－④－２）。教員採用にあたっては，学科長から校長に対して教員採用伺いを提出し，これを基に教員選考委員会において公募条件を決定している。公募教員の職名により教員組織が活発化するよう配慮している。また，公募書類には女性の応募を歓迎する旨を載せている（資料３－１－④－３）。

資料３－１－①－１及び資料３－１－②－２～５に示したように，他教育機関での教育経験を持つ教員は，一般教育科ではそのほとんどの23名に上り，専門学科でも17名となっている。また民間企業経験者は全教員のほぼ１/3，専門学科では全教員の半数近くに達している。また技術士の資格を持つ教員が２名，一級建築士が１名となっている。これらのことは，本校がこれまで後期中等教育部分の年齢層に当たる学生教育を念頭に高等学校教員の経験を持つ者の採用や，本校の目的である実践的技術者の養成に向けて教育組織を整備してきたことを示している。

学位取得に関する支援として，本校では教育研究・国際交流振興基金を設け，その事業の一つとして教員の国際会議参加への補助を行っている（資料３－１－④－４）。また，校長裁量経費においては教育研究環境等充実費の中で「学位等の取得の促進」を明記している（資料３－１－④－５）。これらの平成23年度実績を示す（資料３－１－④－６，７）。これらの支援により，平成18年度以降の学位取得者数は15名であった（資料３－１－④－８）。この結果，高専機構が定める数値目標（文系教員で修士以上80%，理系教員・専門教員で博士70%）をほぼ達成した（資料３－１－②－２～６）。

資料３－１－④－１



(出典　WEB サイト http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=311
釧路高専ホームページ)

資料３－１－④－２

「男女別職員数」

○職員数（平成24年5月1日現在）

教職員	男	女	計
校長	1	0	1
教授	31	0	31
准教授	33	2	35
講師	1	0	1
助教	4	3	7
助手	1	0	1
事務系職員	18	11	29
技術系職員	11	1	12
医療系職員	0	1	1
計	100	18	118

※再雇用を含む

(出典　WEB サイト http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=311
釧路高専ホームページ)

資料３－１－④－３

建築学科教員公募について

カテゴリ：お知らせ　　掲載日時 ： 2011-10-3 16:37

1. 公募人員：准教授または助教　1名
2. 所属：建築学科
3. 専門分野：建築環境系または建築計画系
4. 担当科目
   - 本科：建築環境工学，デザイン工学，ものづくり基礎，卒業研究等
   - 専攻科：空調設備，特別演習，特別研究等
5. 応募資格：以下の条件を満たす方
   - (1)高等専門学校の教育に理解があり，学生の生活指導，課外活動指導などに深い理解を持ち，かつ研究にも熱意を持っている方
   - (2)博士の学位または技術士の資格を有する方（平成23年度内に取得見込の方を含む）
   - ※建築士等，建築関連資格を有する方が望ましい。
   - ※本校は男女共同参画を推進しており，女性の方の応募を歓迎します。
6. 採用予定時期：平成24年4月1日
7. 選考方法
   - 第一次選考：書類審査(平成23年12月上旬)
   - 第二次選考：面接審査（第一次選考合格者）(平成23年12月中旬)
   - ※模擬講義を行います。
   - 最終選考：決定(平成23年12月下旬)

※ 面接に伴う旅費等は，応募者の負担となります。

8. 提出書類
   - (1)履歴書「写真貼付」（所定様式）
   - (2)著書・論文等一覧（第1号様式）（所定様式）
   - (3)著書・論文等の概要（第2号様式，主要なもの5編以内）（所定様式）
   - (4)主要著書・論文等の別刷（(3)に掲げたもの，複写可）
   - (5)「高等専門学校における教育，研究，学生指導等」に関する抱負をまとめたもの（2,000字以内）
   - (6)推薦状（自薦の場合は，本人に関する所見を求め得る方1名を明記）

※ 履歴書，第1号様式，第2号様式については，WORD 形式とPDF 形式を***ダウンロード***できます。

9. 応募期限：平成23年11月30日（水）必着
10. 提出先：釧路工業高等専門学校総務課人事・給与係
    - 住所：〒084-0916 釧路市大楽毛西2丁目32番1号
    - TEL：0154-57-7205（ダイヤルイン）

提出書類は「送付」又は「持参」とする。

「送付」の場合は，封筒に「建築学科教員公募」と明記の上，簡易書留以上の定形外郵便，ゆうパック及び宅配便等，配達状況の確認できる方法により送付してください。

（出典：Webサイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/d3blog_02/index.php?start=70
釧路高専ホームページ）

資料３－１－④－４

○釧路工業高等専門学校教育研究・国際交流振興基金事業実施要項（抜粋）

（平成８年12月10日制定）

改正　平成９．３．17　平成10．３．10　平成11．３．11

平成14．２．18釧高専達第18号　平成14．10．15.釧高専達第12号

平成14．12．９釧高専達第13号　平成17．４．１.釧高専達第10号

平成21．12．25釧高専達第11号　平成23．４．28.釧高専達第２号

平成23．９．15釧高専達第７号

（趣旨）

第１　この要項は，釧路工業高等専門学校教育研究・国際交流振興基金規定（以下「基金規程」という。）第２条の規定に基づき，釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教育研究活動及び国際交流活動事業の実施に関し，必要な事項を定めるものとする。

（事業）

第２　基金規程第３条各号に掲げる事業は，次の表のとおりとする。

事　業　名	内　　容	限　度　額
学術に関する研究の推進事業（基金規程第3条第1号）	先端的な研究の推進又は最新の専門知識若しくは技術の習得の推進を図る上で必要な経費（旅費，講習会費，その他特に必要な場合は設備費，修理費）※国内の学会発表の経費は含まれない。ただし，博士号取得のための学会発表旅費は除く。	１件につき30万円（設備費等を含む場合は150万円）
産学官協力事業（基金規程第3条第2号）	産学官の交流のために要する経費（会場費，運営費，講師等旅費，謝金，会議費）	１件につき30万円
教職員・学生の海外派遣事業（基金規程第3条第3号）	国外で開催される国際学会等における研究成果の発表に要する旅費又は学生の海外研修等に同行するために要する旅費	海外研修等に同行するための経費は１件につき40万円，それ以外は１件につき20万円
外国人研究者の招へい事業（基金規程第3条第4号）	外国人研究者を招へいするために要する経費（旅費，謝金）	１件につき40万円
	本邦内に滞在する外国人研究者に講演等を依頼するために要する経費　（旅費，謝金）	１件につき20万円
外国人留学生の受入事業（基金規程第3条第5号）	私費外国人留学生に給する奨学金	１人につき月額2万円
その他本校の教育研究事業及び国際交流事業（基金規程第3条第6号）	本校で開催するシンポジウムに要する経費（会場費，消耗品費，役務費，印刷費，講師等旅費，謝金，会議費，借料，広告料）	１件につき20万円
	外国人留学生との交流を深めることを目的とした経費（会議費，交通費，入場料）	１人につき５千円
	本校の学生が留学を目的として海外に渡航するために要する旅費	１件につき20万円
	本校が企画する学生の海外研修のために要する経費（旅費，研修費）	１人につき10万円
	釧路工業高等専門学校教育業績賞受賞者への研究費・旅費，会議登録料の補助	１人につき20万円
	教育方法・学生指導方法等改善のための最新の専門知識若しくは技術の習得の推進を図るうえで必要な経費（旅費，講習会費，会議登録料，謝金）	１件につき20万円

（出典　釧路高専規程）

資料３－１－④－５

「校長裁量経費の取り扱い方針等について」　（抜粋）

（前略）

校長裁量経費は，本校の教育方法等改善及び研究活性化並びに教育環境充実等の充実を図るために予算措置するものであり，その取り扱い方針等については，以下のとおりとする。

１．経費の目的

教育研究の重点課題等の支援及び校長のリーダーシップが発揮できるようにする。

２．経費の種類

校長裁量経費については，以下の４種類とする。

(1) 教育方法等改善・支援経費

教育方法等の改善及び教育の活性化等を支援するための経費とする。

(2) 研究活性化支援経費

研究活動等のより一層の活性化を図るための経費とする。

(3) 教育研究環境等充実費

若手教員の育成，社会との連携，地域への貢献，国際貢献，共同研究の促進，研究開発，学位等の取得の促進，管理運営などを積極的に支援するための経費とする。

(4) 調査支援旅費

他機関の教育方法，教育環境の実情を調査し，本校の改善に役立てる。

（出典　釧路高専規程）

資料３－１－④－６

「平成 22 年度釧路工業高等専門学校教育研究・国際交流振興基金事業経費採択一覧」

平成22年度

番号	申請者	所属等	事業名	限度額	申請事由等	採択金額(円)
H22-1	[redacted]	機械工学科 准教授	学術に関する研究の推進事業	1件につき 30万円(設備等を伴う場合は150万円)	研究に関する指導と論文投稿のための打ち合わせのための旅費 (北見工大)、新規のＰＣなどの設備費	279,280
H22-2	[redacted]	機械工学科 准教授	学術に関する研究の推進事業	1件につき 30万円(設備等を伴う場合は150万円)	博士後期課程入学（北見工業大学）に係る研究指導・北見工大への打ち合わせのための旅費（北見1泊2日×8回）	126,600
H22-3	[redacted]	電気工学科 助手	学術に関する研究の推進事業	1件につき 30万円(設備等を伴う場合は150万円)	博士後期課程入学（室蘭工業大学）に係る研究指導・学会発表のための旅費、データ解析ＰＣシステム購入費	619,190
H22-4	[redacted]	電気工学科 教授	教職員・学生の海外派遣事業	1件につき20万円	アメリカで開催される国際会議にて研究結果に関する発表を行うための旅費等	200,000
H22-5	[redacted]	機械工学科 教授	教職員・学生の海外派遣事業	1件につき20万円	[教員の研究成果発表]； FATIGUE 2010（プラハ）への旅費	200,000
H22-6	[redacted]	情報工学科 准教授	教職員・学生の海外派遣事業	1件につき20万円	国際会議（ICEE2010 韓国・釜山）にて、発表	155,500
H22-8	[redacted]	機械工学科 教授	その他本校の教育研究事業及び国際交流事業	1件につき20万円	産学連携による実践型人材育成事業成果発表会	200,000
H22-9	[redacted]	学生課 学生課長	その他本校の教育研究事業及び国際交流事業	1人につき5千円	外国人留学生との交流を深めることを目的とした事業「新留学生交流（釧路を知る）」　経費16名（1人あたり5,000円）	80,000
H22-10	[redacted]	総務課長	その他本校の教育研究事業及び国際交流事業	1人につき20万円	平成22年度釧路工業高等専門学校教育業績賞受賞者への研究費・旅費等の補助のための経費	200,000
H22-12	[redacted]	機械工学科 教授	教職員・学生の海外派遣事業	1件につき20万円	国際学会（SPCT-9 エジプト・ルクソール）にて研究成果発表のための旅費	200,000
H22-13	[redacted]	教育研究支援センター 技術専門職員	教職員・学生の海外派遣事業	1件につき20万円	国際シンポジウム（ISSI-2010 中国・上海）にて研究成果発表のための旅費	200,000
H22-14	[redacted]	総務課長	その他本校の教育研究事業及び国際交流事業	1件につき20万円	平成22年度釧路工業高等専門学校教育業績賞受賞者への研究費・旅費等の補助のための経費	200,000
			合　　計	（円）		2,660,570

（出典　教職員向け学内ホームページ：経理係おしらせ）

資料３－１－④－７

「校長裁量経費配分一覧」

Ｎｏ	題　　目	所属	申請者（◎代表者）	配分額
１．教育方法等改善・支援経費				
1	電子工学科新科目の‘ハードウェア記述言語‘の教材整備	電子工学科	[redacted]	350,000
2	MgB2超電導厚膜及び薄膜の回路化技術に関する検討	電子工学科		315,000
3	卒業研究用PCの更新	情報工学科		300,000
4	専攻科「特別実験」推進のための放射線取扱主任者の資格取得	情報工学科		94,500
5	建築CAD室大判プリンターの更新	建築工学科		272,000
6	数学・応用数学の補習・自習支援のための図書購入	学習支援室		100,000
7	e-learning等の教育環境整備の支援	教務主事		500,000
２．研究活性化支援経費				
8	磁性流体を用いた内燃機関の燃焼制御 （磁性流体の燃焼特性の取得）	機械工学科		510,000
9	炭素繊維を使った水質浄化法の浄化メカニズムの検討	電子工学科		150,000
10	道路監視カメラ映像の交通流計測に関する研究 － 撮影環境の変化による精度低下の抑制に関する検討 －	電子工学科		155,000
11	ヘルシンキー工科大学「ソフトコンピューティングの応用研究」	情報工学科		474,000
12	凍結融解腐食環境下におけるオーステナイト系ステンレス鋼の孔食に及ぼす材料鋭敏化と応力レベルの関係解明	教育研究支援センター		200,000
13	道内他高専地域共同ﾃｸﾉｾﾝﾀｰを含む関係機関との連携研究	地域共同テクノセンター		380,000
14	専攻科学生の学会成果発表のための引率旅費の支援	専攻科長		500,000
15	科学研究費獲得のための研究活動支援	研究企画主事		500,000
16	科学研究費獲得のための新たな研究の支援	研究企画主事		500,000
－	自立型ロボットのレスキュー運用のための要素技術の研究	情報工学科		保留※ (562,000)
－	帯広畜産大学との農工連携によるデンプン工場廃水浄化システムに関する研究	地域共同テクノセンター		保留※ (570,000)
３．教育研究環境等充実費				
17	学位取得に向けた計測装置の充実	機械工学科		187,000
18	ＣＮＣ旋盤ガントリー装置撤去および普通旋盤 チャックハンドルインターロックと電源ランプの設置	実習工場		590,000
19	マカオ大学との国際学術研究交流に関する支援	将来計画委員会		396,000
20	風力発電機周辺の安全確保と発電効率向上のための設備移設	電気工学科		504,000

（出典　教職員向け学内ホームページ：経理係おしらせ）

資料３－１－④－８

「平成 18 年度以降の学位取得者」

学科	取得年度	学位	取得人数	学科毎合計取得人数
一般教育科	平成 18 年度	修士	3	7
	平成 19 年度	修士	2	
	平成 21 年度	博士	1	
	平成 23 年度	博士	1	
電子工学科	平成 18 年度	博士	1	1
情報工学科	平成 20 年度	博士	1	4
	平成 21 年度	修士	1	
	平成 21 年度	博士	2	
建築学科	平成 20 年度	博士	2	3
	平成 21 年度	博士	1	

※修士以上を掲載。

（出典　本自己評価のための作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

教員の年齢構成は，バランスの取れた構成になっている。なお，専任教員のうち女性教員の割合は6.6％となっている。また，公募書類には女性の応募を歓迎する旨を載せている。

他教育機関での教育経験を持つ教員は，一般教育科では23名に上り，専門学科でも17名となっている。また民間企業経験者は25名で，専門学科では全教員の半数近くに達している。また技術士の資格を持つ教員が２名，一級建築士が１名となっている。

教育研究・国際交流振興基金を設け，その事業の一つとして教員の国際会議参加への補助を行っている。また，校長裁量経費においては「学位等の取得の促進」を明記している。これらの支援により，高専機構が定める数値目標をほぼ達成した。

これらのことから，学校の目的に応じて，教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられている。

観点３－２－①：　全教員の教育活動に対して，学校による定期的な評価が行われているか。また，その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等，適切な取組がなされているか。

（観点に係る状況）

本校では，これまで実施してきた，校長による教員の個人面談を明確に制度化するため，校長個人面談実施要項を策定した（資料３－２－①－１）。これに従い，校長は全教員の教育・研究活動の目標や成果を把握・評価するために，定期的に個人懇談を行っている。その結果は校長がまとめ，保管される（資料３－２－①－２）。

本校では国立高等専門学校機構の教員顕彰制度に準じて，教員の自己評価・自己申告による教育研究活動の実績調査を行い，これを基に優秀教員の推薦を行い多くの受賞実績がある（資料３－２－①－３）。平成22年度からは「ファクトデータシステム」による教育研究活動実績記録を行うこととした（資料３－２－①－４）。これにより，校長が各教員について教育研究活動の状況全般を俯瞰できる体制が整備され，校長が教員の活動を把握しやすい体制としている。また，これらのデータは校長が行う本校独自の教育業績賞選考及び国立高等専門学校機構の教員顕彰への推薦に活用している。

資料３－２－①－１

○釧路工業高等専門学校校長個人面談実施要項
（平成２３年５月１９日校長裁定）

制定理由　校長が実施する教員に対する個人面談を制度化し必要な事項を定めるものである。

（目　的）
第１条　この要項は，釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教育理念及び教育目標の共通理解を深めるとともに，職場環境の向上に資することを目的として実施する校長個人面談（以下「面談」という。）に関し，必要な事項を定める。
（対　象）
第２条　面談対象者は，本校の常勤教員とする。ただし，再雇用者を除く。
（実施時期等）
第３条　面談は，毎年１回実施し，その時期は校長が定める。
（面談の内容等）
第４条　面談の内容は，各教員の教育研究等の目標及び成果に関することとする。
２　前項の規定にかかわらず，必要に応じ，校長は面談の内容を変更することができる。
３　校長は，面談で知り得た個人的な事項については，その秘密を保持するものとする。
（事　務）
第５条　面談日程の調整等の事務は，総務課において処理する。
（雑　則）
第６条　この要項に定めるもののほか，面談の実施に関し必要な事項は，校長が別に定める。

附　則
この要項は，平成２３年５月１９日から施行する。

（出典：　釧路高専規程）

資料３－２－①－２

釧路高専教員懇談事項（平成 23 年度）　　参考資料

教員氏名	所属学科・系

１．平成 22 年度における教育・研究・社会貢献・管理運営・その他等の活動成果

（ア）教育活動について（授業担当、教材開発、教育方法、FD 活動等、教育活動全般に関して、①工夫した点、②努力した点、③効果が上がった点、④他教員、自高専/他高専に波及した点など）

（イ）学生生活指導について（担任、クラブ活動指導、学生寮、メンタルヘルス等、学生生活指導全般にわたって、①工夫した点、②努力した点、③効果が上がった点、④他教員、自高専/他高専に波及した点など）

（ウ）教育・研究を通した社会貢献について（公開講座、出前講座、社会人教育、産学官民連携等の業績を、①教育を通じた社会への貢献、②研究を通じた社会への貢献**の観点から記述願います**）

（エ）釧路高専の管理・運営について（主事、主事補、校長補佐、学科長等、高専の管理運営において、①努力した点・熱意をもって取り組んだ点、②工夫した点・効果が上がった点**の観点から記述願います**）

（オ）その他（国際活動等）

２．平成 23 年度の教育活動の目標または抱負

（ア）教育活動について

（イ）学生生活指導について

（ウ）教育・研究を通した社会貢献について

（エ）釧路高専の管理・運営について

（オ）その他（国際活動等）

３．釧路高専における課題等について

４．その他（自由記述）

＊該当する事項のみの記載でかまいません。

（出典：総務課資料）

資料３－２－①－３

○釧路高専教育業績賞の被表彰者について

根拠規程：教育業績賞実施要項（H14.10.8 校長裁定）
選考方法：同要項第 2 条により，
「被表彰者の選考は，次に掲げる事項を総合的に勘案し校長が行うものとする。
イ 独立行政法人国立高等専門学校機構（※）が実施する教員顕彰制度における候補者選考経過
ロ 教育研究重点経費配分審査における教育貢献度評価 」
（※･･･法人化前は国立高等専門学校協会）
表彰状等の授与：
表彰状及び本校教育研究・国際交流振興基金事業実施要項の第２に定める研究費・旅費等の補助（２０万円）

過去の被表彰者：該当条項は要項第 2 条イ（平成 14～22 年度）

年度（表彰日）	釧路高専教育業績賞被表彰者	参考：教員顕彰制度	
		本校候補者	受賞者
平成 23 年度	浦家 淳博	浦家 淳博，松﨑 俊明	未定
平成 22 年度	荒井 誠，森 太郎	荒井 誠，森 太郎	荒井 誠 （機構理事長賞）
平成 21 年度	舘下 徹志，松﨑 俊明	舘下 徹志，松﨑 俊明	なし
平成 20 年度	な　し	小田島 本有	小田島 本有 （特別賞）
平成 19 年度	な　し	小田島 本有	なし
平成 18 年度	な　し	小田島 本有	なし
平成 17 年度(H18.1.25)	小田島 本有	小田島 本有	なし
平成 16 年度(H17.1.26)（法人化）	三島 利紀	三島 利紀	三島 利紀 （文部科学大臣賞）
平成 15 年度(H15.11.28)	荒井 誠	荒井 誠	なし
平成 14 年度(H14.10.28)	坂口 直志	坂口 直志	国専協奨励賞

（※18～20 年度は，要項第 2 条イに該当する者が小田島教授であり，17 年度に表彰済であるため被表彰者なしとなったもの）

※平成 22 年度の荒井教授の授賞については，平成 15 年度に表彰済であるが，教員顕彰制度が機構の実施するものとなる以前の表彰であることなどの理由を校長が総合的に勘案し，今回の被表彰者として選考した。

（出典：総務課資料）

資料３－２－①－３（続き）

○釧路工業高等専門学校教育業績賞実施要項

（平成14年10月８日　校長裁定）

改正　　平成16．４．１校長裁定　平成19．４．26釧高専達第29号

（趣旨）

第１条　この要項は，釧路工業高等専門学校において，教育上特に顕著な功績のあった者に対し，教育業　績賞を授与する場合の必要事項を定めるものとする。

（被表彰者の選考方法）

第２条　被表彰者の選考は，次に掲げる事項を総合的に勘案し校長が行うものとする。

イ　独立行政法人国立高等専門学校機構が実施する教員顕彰制度における候補者選考経過

ロ　教育研究重点経費配分審査における教育貢献度評価

（表彰の日）

第３条　表彰は，毎年その都度校長が定める日に行うものとする。

（表彰状等の授与）

第４条　表彰は，校長が被表彰者に表彰状（別紙様式）を授与することにより行う。

２　前項の表彰状に併せて釧路工業高等専門学校教育研究・国際交流振興基金事業実施要項の第２に定　める研究費・旅費等の補助を行うことができる。

（庶務）

第５条　表彰に関する事務は，総務課人事・給与係において処理する。

附　則

この要項は，平成14年10月８日から実施する。

附　則

この要項は，平成16年４月１日から実施する。

附　則（平成19．４．26釧高専達第29号）

この要項は，平成 19 年４月 26 日から施行し，平成 19 年４月１日から適用する。

（出典：　釧路高専規程）

資料３－２－①－４

「ファクトデータ入力依頼を示す資料」

平成２３年１０月２０日

教員　各位

校　　長

平成 23 年度　高専機構教員顕彰等に係る諸データについて

機構本部で毎年実施しております国立高等専門学校教員顕彰について、各校からの顕彰候補者選出において、各校で実施している評価法により推薦してもよいこととなっております。

※教員顕彰の内容につきましては、実施要項等を本校内部向けホームページへ掲載しましたので、ご覧下さい。

http://www.office.kushiro-ct.ac.jp/office2/kyosyoku/shomu/tuuti.html

このことについて、１０月１９日（水）開催の推薦委員会（構成員：校長、副校長、教務主事、学生主事、寮務主事及び事務部長）で協議した結果、昨年同様、現在先生方に入力していただいておりますファクトデータ及び特記事項（教育活動、社会への貢献等）の２点により判断し、候補者を推薦することが決定されました。

つきましては、現在ファクトデータを入力していただいているところですが、今一度整備、確認していただきますようお願いいたします。

※ ファクトデータ入力フォーマット：http://fact.info.kushiro-ct.ac.jp/fact/

併せて特記事項について、下記の通りご提出いただくようご協力お願いします。

なお、今回教員顕彰で対象から外れている先生（※）におかれましては、特記事項を提出する必要はありませんが、ファクトデータの入力についてご協力いただきますようお願いいたします。

※対象外の教員

・平成２３年１０月１日現在で国立高等専門学校における勤務年数が５年を超えない先生

・過去に文部科学大臣賞を受賞した三島教員及び理事長賞を受賞した荒井教員

記

特記事項記載内容：

以下４つの項目について、特に貢献、努力したことをそれぞれ自由記載してください。

字数に制限はありませんが、各項目について２００字程度を目安に記載願います。

・教育活動（授業担当、教材開発、教育方法、FD 活動等）

・学生生活指導（クラス担任、クラブ活動指導、学生寮での指導、メンタルヘルスへの取組等）

・教育・研究を通じた社会への貢献（公開講座、出前授業、産学連携等）

・学校管理運営（主事、主事補等の役割を通じた貢献等）

提出方法：　内部向けホームページに掲載した様式により、以下の電子メール宛（総務係（担当：齊藤））までご提出願います。

E-mail：　soumu@office.kushiro-ct.ac.jp

提出期限：　１０月３１日（月）　１３時まで　　＜本件問い合わせ先：総務課　鈴木、齊藤＞

（出典　総務課資料）

--

資料３－２－①－４（続き）

「ファクトデータファイルの記入」

（様式１）

教育・研究・社会貢献ファクト・データ・ファイル〔1/4〕

記入年月日：平成　　年　月　　日

ふりがな		所属学科	
氏　　名		職　位	
生年月日	昭和　年　月　日生		

略　　歴

（ア）　学　　歴

年　　月	事　　項

（イ）　学　　位

年　　月	事　　項

（ウ）　職　　歴

年　　月	事　　項

（エ）　高　専　教　員　歴

年　　月	事　　項

（オ）　受　　賞　　歴

年　　月	事　　項

（中略）

資料３－２－①－４（続き）

（様式５）

特　記　事　項

（過去５年間を通して）

１．教育活動について
２．学生生活指導について
３．教育・研究を通じた社会への貢献について
４．管理運営について

（出典：　ファクトデータ入力フォーム）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，校長個人面談実施要項を策定し，校長は全教員の教育・研究活動の目標や成果を把握・評価するために，定期的に個人懇談を行っている。平成22年度からは「ファクトデータシステム」により，校長が各教員について教育研究活動の状況全般を俯瞰できる体制が整備され，校長による教員の個人面談にも活用され，校長が行う本校独自の教育業績賞選考及び国立高等専門学校機構の教員顕彰への推薦に活用している。

これらのことから，全教員の教育活動に対して，学校による定期的な評価が行われている。また，その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等，適切な取組がなされている。

観点３－２－②：　教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ，適切に運用がなされているか。

（観点に係る状況）

本校では，専任教員の採用・昇格の選考手続きについて規程を定めている（資料３－２－②－１）。さらに，同規程に基づく評価項目その他の評価基準を明確にすることを目的として，平成16年には教員選考基準を定めている（資料３－２－②－２）。

専任教員の採用選考は以下のように行われる。

各学科において教員公募の必要がある時，学科長は公募理由，学科としての将来計画，公募要件等を作成し校長に提出し，校長が公募の必要ありと判断した場合，教員選考委員会（資料３－２－②－３，４）が設置され，公募の必要性の確認，公募要件の妥当性等について審議する。公募（資料３－２－②－５）の後，応募者については一次選考として書類選考により選考基準に基づき設置基準との適合性を審査する（資料３－２－②－６）。二次選考では本人面接及び模擬講義の実施によって教育指導能力，学生指導能力等の確認を行う。このように，研究実績ばかりではなく，教育指導能力，学生指導能力等を含む「釧路高専の教員」としての適格性を判定する。

教員の昇格においては，公募と同様に学科長が昇格させる理由・昇格後の業務計画などを作成し，校長に提出する。校長が昇格の必要ありと判断した場合，教員選考委員会が設置され，教員選考委員会は採用の場合と同様に能力評価を行う。候補者自身が作成する能力に関する自己評価等（資料３－２－②－７）の資料に基づいて教員選考委員会で審議し，決定する。

非常勤講師の採用に関しても，規程がある（資料３－２－②－８）。教務委員会の下に置かれる次年度授業計画会議（引用資料２－２－②－６）において非常勤講師の採用について審議し，校長に上申し，校長が採用を決定する。

資料３－２－②－１

○釧路工業高等専門学校教員の選考手続きについて

（平成 13 年９月 10 日校長裁定）

改正 平成 19 年２月 23 日釧高専達第７号　平成 19 年４月 26 日 釧高専達第 28 号

平成 21 年９月 18 日校長裁定　　平成 23 年４月 14 日校長裁定

本校の教員（教授，准教授，講師，助教及び助手をいう。）の採用又は昇任（以下「採用等」という。）の選考（他の学科及び一般教育科（以下「学科等」という。）から異動させる場合を含む。）は，次により行うものとする。

１ 各学科等において，教員の採用等を必要と認めたときは，当該学科長が校長に申し出るものとする。

２ 校長は，上記の申し出がありこれを必要と認めたとき又は教育研究上特に必要があると認めたときは，教員選考委員会を設置する。

３ 教員選考委員会は，次の業務を行う。

（１）候補者の審査

（２）公募の内容

（３）欠員に対応する学内関連異動の有無の検討（欠員とは，退職時によるもののほか，上位職に空きがある場合も含む。）

４ 教員選考委員会は，次に掲げる者をもって組織する。

（１）校長

（２）副校長

（３）教務主事，学生主事及び寮務主事

（４）当該学科長

（５）事務部長

（６）校長が必要と認める者 若干名

５ 教員選考委員会は，校長が招集し，議長となる。

６ 教員選考委員会は，当該業務の終了をもって解散する。

７ 教員の採用等の選考は，教員選考委員会の議及び面接結果に基づき，校長が行う。

８ 欠員補充の採用等（学科等からの昇任及び学科等間で昇任を伴わない異動は除く。） は，原則として公募によるものとする。

９ 学科長は，公募にあたっては，公募職，専門分野，担当科目及び資格条件の設定を行い，教員選考委員会の承認を受けなければならない。

10 公募に必要な書類は，次に掲げるものとする。

（１）履歴書（写真貼付）

（２）著書・論文等一覧（第１号様式）

（３）著書・論文等の概要（第２号様式，主要なもの５編以内）

（４）主要著書・論文の別刷（(3)に掲げたもの，複製可）

資料３－２－②－１（続き）

（５）教育，学生指導の実績（企業からの採用者の場合は，社内教育等の実績）
（６）高等専門学校における教育，研究，学生指導等に関する抱負（２，０００字以内）
（７）推薦状
（８）その他必要とする書類

11 公募の方法は，インターネット（国立情報学研究所「研究者公募情報」）によるほか，関連高等教育機関，企業及び学会誌等への依頼により行うものとする。

12 学科等からの昇任及び学科等間で昇任を伴わない異動をさせる場合は，教員選考個人調書（第３号様式）及び10（２），（３）を提出させるものとする。

13 教員選考委員会及び公募に関する事務は，選考の対象となる学科長の協力を得て総務課人事・給与係において処理する。

附 記

この裁定は，平成13 年７月１日から適用する。

附 記

この裁定は，平成19 年２月23 日から適用し，平成19 年４月１日から施行する。

附 記（平成19．４．26 釧高専達第28 号）

この裁定は，平成19 年４月26 日から施行し，平成19 年４月１日から適用する。

附 記（平成21．９．18 校長裁定）

この裁定は，平成21 年９月18 日から施行する。

附 記（平成23．４．14 校長裁定）

この裁定は，平成23 年４月14 日から施行し、平成23 年４月１日から適用する。

（出典：　釧路高専規程）

資料３－２－②－２

「釧路工業高等専門学校教員選考基準」

第１．目的

この基準は，「釧路工業高等専門学校教員の選考手続きについて」（平成１３年９月１０日校長裁定）（以下「選考手続き」という。）第７項に定める教員選考に際し，必要な評価項目その他の基準を定めることを目的とする。

第２．選考の透明性，客観性

教員の選考は，この基準を明らかにして行うことによりその透明性を確保し，この基準に則った選考の過程を記録し，保存（別紙様式）することにより説明責任を果たすとともに，その客観性の保持を図るものである。

第３．選考の方法

１．選考委員会は，応募者の提出資料，面接の結果等に基づき，第４に定める評価項目について評価を行い選考するものとする。

２．第４に定める評価項目の評価は，各項目に示している観点例に着目して行うものとする。

第４．評価項目

１．教育能力

（１）「担当授業科目」に関して広く知識を有し，教育する能力を有すること。また，時代の要請により変化するカリキュラムへの対応も可能とする柔軟な思考力に基づき企画，実行する能力を有すること。

（２）学生の学習への思いやりや授業のスキル改善に対し，熱意をもっていること。

〔評価の観点例〕

①担当授業科目に関連し，作成した教科書・教材等

②担当授業科目に関連した教育法・教授法の改善等に関する論文・研究発表等

③他の教育機関における教員としての経験

④高専における担当科目についての授業計画・内容についての構想

⑤大学等における非常勤講師・助手はTA等としての経験

⑥高専の設置目的・現状等に対する理解

⑦企業等における教育経験

⑧企業との連携による高専や大学での技術者教育への参画

⑨教育関係の表彰や受賞

⑩教育関係ＦＤへの参画や参加

⑪教育関係学協会（日本工学教育協会等）への参加

⑫学内の教育関係委員会等での経験，特に努力したこと。

⑬その他必要な事項

（中略）

（出典：　釧路高専規程）

資料３－２－②－３

第１回建築学科教員（准教授・助教）選考委員会

日　　時　　平成２３年９月２２日（木）教員会議終了後

場　　所　　校長室

（議　題）

１．公募内容について
２．選考委員会等の日程について
３．その他

（配布資料）

●教員選考委員会の設置について　資料１
●教員の公募について　資料２
●建築学科教員（准教授・助教）選考関係日程表　資料３
●高等専門学校設置基準（教員の資格）　資料４
●釧路工業高等専門学校教員の選考手続きについて（校長裁定）　資料５
●釧路工業高等専門学校教員選考基準（校長裁定）　資料６

（出典：　第１回建築学科教員（准教授・助教）選考委員会　配布資料）

資料３－２－②－４

教員選考委員会設置状況

委員会等名	設置年月日	発令予定日
建築学科(准教授または助教)採用	平成23年9月21日	平成24年4月1日
機械工学科(教授または准教授)採用	平成23年11月4日	平成24年4月1日
機械工学科(准教授または助教)採用	平成23年11月4日	平成24年4月1日
情報工学科(助教)配置換	平成24年1月26日	平成24年4月1日
建築学科(助教)配置換	平成24年1月26日	平成24年4月1日
機械工学科(教授または准教授)採用	平成24年3月13日	平成24年7月下旬以降

（出典：　総務課作成資料）

資料３－２－②－５

建築学科教員公募について

カテゴリ：お知らせ　　掲載日時 ： 2011-10-3 16:37

1. 公募人員：准教授または助教　1名
2. 所属：建築学科
3. 専門分野：建築環境系または建築計画系
4. 担当科目
   - 本科：建築環境工学，デザイン工学，ものづくり基礎，卒業研究等
   - 専攻科：空調設備，特別演習，特別研究等
5. 応募資格：以下の条件を満たす方
   - (1)高等専門学校の教育に理解があり，学生の生活指導，課外活動指導などに深い理解を持ち，かつ研究にも熱意を持っている方
   - (2)博士の学位または技術士の資格を有する方（平成23年度内に取得見込の方を含む）
   - ※建築士等，建築関連資格を有する方が望ましい。
   - ※本校は男女共同参画を推進しており，女性の方の応募を歓迎します。
6. 採用予定時期：平成24年4月1日
7. 選考方法
   - 第一次選考：書類審査(平成23年12月上旬)
   - 第二次選考：面接審査（第一次選考合格者）(平成23年12月中旬)
   - ※模擬講義を行います。
   - 最終選考：決定(平成23年12月下旬)

※ 面接に伴う旅費等は，応募者の負担となります。

8. 提出書類
   - (1)履歴書「写真貼付」（所定様式）
   - (2)著書・論文等一覧（第1号様式）（所定様式）
   - (3)著書・論文等の概要（第2号様式，主要なもの5編以内）（所定様式）
   - (4)主要著書・論文等の別刷（(3)に掲げたもの，複写可）
   - (5)「高等専門学校における教育，研究，学生指導等」に関する抱負をまとめたもの（2,000字以内）
   - (6)推薦状（自薦の場合は，本人に関する所見を求め得る方1名を明記）

※ 履歴書，第1号様式，第2号様式については，WORD 形式とPDF 形式を***ダウンロード***できます。

9. 応募期限：平成23年11月30日（水）必着
10. 提出先：釧路工業高等専門学校総務課人事・給与係
    - 住所：〒084-0916 釧路市大楽毛西2丁目32番1号
    - TEL：0154-57-7205（ダイヤルイン）

提出書類は「送付」又は「持参」とする。

「送付」の場合は，封筒に「建築学科教員公募」と明記の上，簡易書留以上の定形外郵便，ゆうパック及び宅配便等，配達状況の確認できる方法により送付してください。

（出典：Webサイト　釧路高専ホームページ
http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/d3blog_02/index.php?start=70　）

資料３－２－②－６

「教員選考資料」

○○学科教員選考資料

番号	氏名 生年月日　年齢	主な職歴	学生指導歴	①最終学歴 ②学位・資格 ③所属学会 ④受賞	専門分野	論文数	著書	推薦書の有無	応募資格 ①	応募資格 ②	応募資格 ③	諮問委員準上の資格	高専における教育を担当するにふさわしい教育上の能力	高専の教育・研究・学生指導等に関する抱負	釧路高専教員選考基準にかかる評価項目						備考
															Ⅰ 選考に関する能力の評価				Ⅱ その他望ましい能力・条件等		
															1. 教育能力	2. 研究能力	3. 学生指導能力	4. 学校運営・社会貢献能力	1. 産業界のニーズ反映	2. 国際性	
1																					
2																					
3																					
4																					
5																					

選考年月日:　　年　　月　　日

（出典　釧路高専規程）

資料３－２－②－７

教員選考資料（候補者作成用）

候補者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

客観的評価に基づく選考の資料とするため、次の１～５について、該当する全ての○付番号とその自己評価又は自己ＰＲの内容を記載すること。（裏付け書類を添付すること。）

１．教育能力

①担当授業科目に関連し作成した教科書・教材等
②担当授業科目に関連した教育法・教授法の改善等に関する論文・研究発表等
③他の教育機関における教員としての経験
④高専における担当科目についての授業計画・内容についての構想
⑤大学等における非常勤講師・助手又はTA等としての経験
⑥高専の設置目的・現状等に対する理解
⑦企業等における教育経験
⑧企業等との連携による高専や大学での技術者教育への参画
⑨教育関係の表彰や受賞
⑩教育関係ＦＤへの参画や参加
⑪教育関係学協会（日本工学教育協会など）への参加
⑫学内の教育関係委員会等での経験，特に努力したこと
⑬補講・補習等への参画
⑭その他必要な事項

番号	自　己　評　価　又は　自　己　Ｐ　Ｒ	添付書類の有無

（以下略）

以下の項目

２．研究能力

３．学生指導能力

４．学校運営・社会貢献能力

５．その他の望ましい能力・条件等

資料３－２－②－７（続き）

２．研究能力

①査読付き論文
②その他の学術論文・誌上発表等
③著書
④学会発表，学会活動
⑤今後の研究計画・展望
⑥科学研究費補助金その他研究助成等の採択・申請状況
⑦研究関連の表彰や受賞
⑧特許の取得
⑨卒業研究・特別研究の学会等での発表
⑩地域社会や企業等との共同研究，技術相談等への取組
⑪その他必要な事項

番号	自　己　評　価	添付書類の有無

資料３－２－②－７（続き）

３．学生指導能力

①教育機関又は社会における青少年指導の実績
②自身のクラブ活動・ボランティア活動等の実績や体験
③カウンセリング技法・青年心理学等の履修又は講習等への参加
④学内の学生指導関係委員会の経験，特に努力したこと
⑤学生指導に当たって特に努力したこと
⑥その他必要な事項

番号	自　己　評　価	添付書類の有無

資料３－２－②－７（続き）

４．学校運営・社会貢献能力

（学校運営）
①社会の動きや最新の技術動向に対する関心
②高専制度に関する理解度
③高専や大学，企業等における管理職の経験
④高専や大学，企業等における広報活動の経験
⑤主事・主事補等の経験，特に努力したこと
⑥その他必要な事項
（社会貢献）
①地域社会における審議会・委員会委員等の経験
②地域社会における行事の企画や運営
③学会活動の内容
④海外技術協力への参加
⑤その他必要な事項

番号	自　己　評　価	添付書類の有無

資料３－２－②－７（続き）

５　その他の望ましい能力・条件等

１．①企業における研究・開発・設計等の実務経験
②社内教育への参画
③学協会会員の経験
④高専や大学との共同研究等の産学連携の経験
⑤高専や大学における非常勤講師等の経験
⑥その他必要な事項

２．①海外企業の技術者との連携の経験
②海外大学等の研究者との連携の経験
③JICA 等への協力の経験
④国際的な技術者教育認定，国際的な技術者資格に関する関心と知識
⑤その他必要な事項

３．技術士，PE，CE などの資格

番号	自　己　評　価	添付書類の有無

（出典：　総務課資料）

資料３－２－②－８

釧路工業高等専門学校非常勤講師任用に関する申し合わせ

平成 15．11．25　校長裁定

（趣旨）

１　釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）における非常勤講師の任用については，教育効果の向上と人事管理等の適切な運用を行うため，この申し合わせによるものとする。

（任用範囲）

２　非常勤講師の任用にあたっては，依頼担当科目について学科等内での関連性・効率性等の要素を十分に検討考慮した上で，担当できる適任者がいない等，真にやむを得ない理由により必要と認められる場合に限るものとする。

（任用基準）

３　非常勤講師は，優れた識見を持ち，本校の教育目標及び方針に添った教育指導のできる者で，次の各号に該当するものとする。

（１）高等専門学校設置基準（昭和 36 年８月 30 日文部省令第 23 号）に定められた教員の資格（講師の資格以上）を有すること。

（２）年齢 70 歳未満（各年度の４月１日現在）であること。

（３）心身ともに健全であること。

（任用方法）

４　任用は専攻により行う。

（１）選考は，年度授業計画に基づき提出された任用候補者名簿の中から，校長が行う。

（２）任用候補者名簿は，教務主事が学科等主任の協力を得て作成するものとする。

（選考書類）

５　選考に必要な書類は，次に掲げるものとする。

（１）非常勤講師選考個人調書

（２）著書・論文等一覧

（３）その他必要と認める書類

（特例）

６　特別な事情により，この申し合わせにより難い場合は，校長は別段の取扱いをすることができる。

（事務）

７　事務は，庶務課人事係で処理する。

附記

この裁定は，平成 15 年 11 月 25 日から施行し，平成 16 年４月１日から適用する。

（出典：総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，専任教員の採用・昇格の選考手続きについて規程を定めている。さらに，同規程に基づく評価項目その他の評価基準を明確にすることを目的として，平成16年には教員選考基準を定めている。

専任教員の採用選考，教員の昇格共に上記の規定に従って選考委員会により審議・決定される。

非常勤講師の採用に関しても，規程があり，高等専門学校設置基準上の講師の資格を有しているかどうか，本校の教育目標に沿った教育指導能力を有しているかの判定を校長が行う。

これらのことから，教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ，適切に運用がなされている。

観点３－３－①：　学校における教育活動を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校の事務組織及び技術職員が配置されている教育研究支援センターの組織図及び配置状況を示す（資料３－３－①－１，２）。本校では，事務部長以下，事務系職員が42名であり，うち技術職員が11名である（資料３－３－①－３）。事務組織規程を資料３－３－①－４に示す。事務組織規程第11条により，学生の教育活動に直接かかわる学生課の事務職員の職務が明確に定められている。

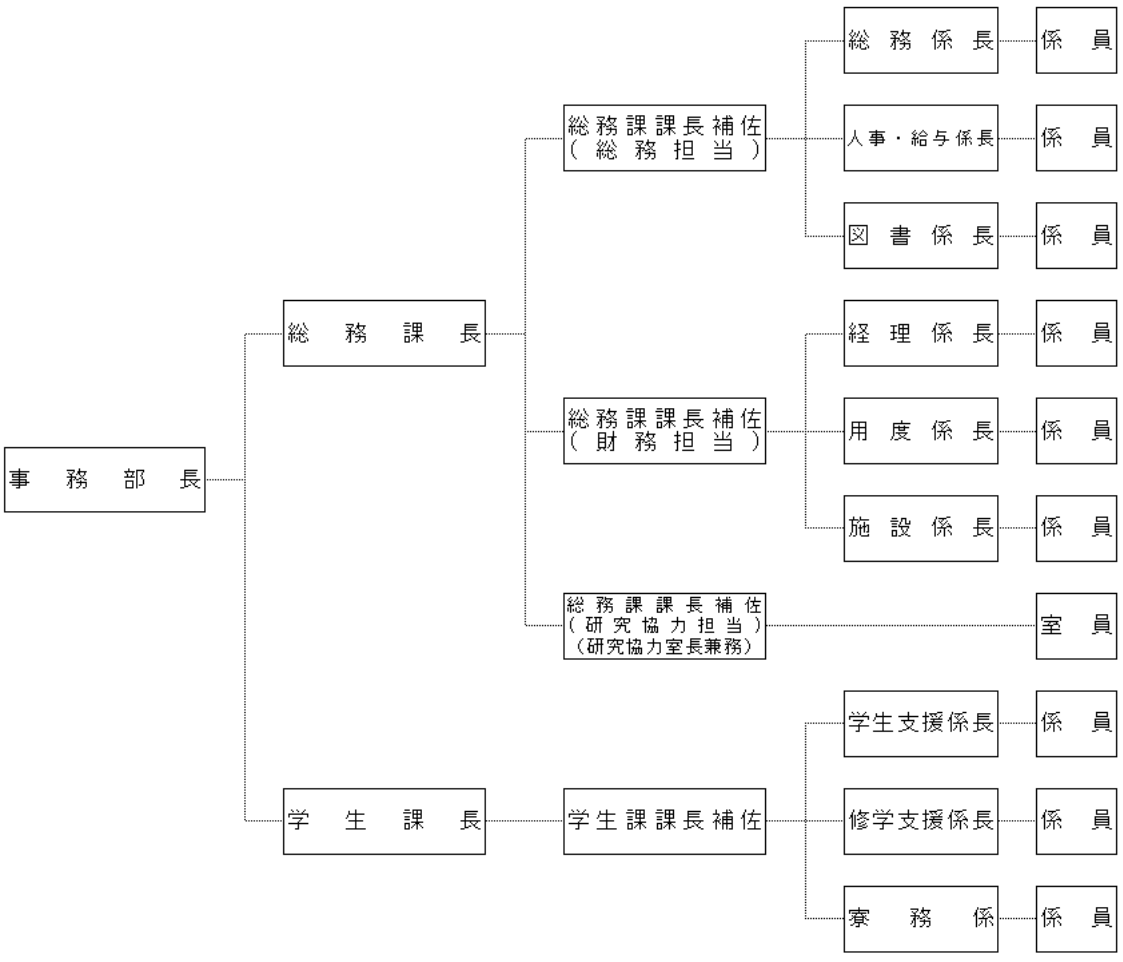
また，技術職員の業務に関しては，教育研究支援センター規程によって定められている（資料３－３－①－５）。また技術職員は，実験・実習，ものづくり基礎，卒業研究などの授業を直接サポートしているほか，ネットワークの運用・管理にもあたっている。

総務課職員のうち図書係は図書館の事務を担当し，図書係には司書資格を持つ者を配置している。

さらに，非常勤職員を20名配置し，教育活動の事務的補助業務及び実験室の管理などの補助業務にあたっている（資料３－３－①－６）。

資料３－３－①－１

○釧路高専事務組織図



（出典：　総務課作成資料）

資料３－３－①－２

教育研究支援センター　Education and Research Support Center

■設置の目的　Objectives

本センターは，本校の教育研究活動等に対する支援業務を組織的かつ効率的に行うとともに，本センターに所属する職員の職務遂行に必要な能力及び資質の向上を図り，もって本校における教育研究活動等の支援業務を円滑に実施することを目的に設置されています。

The objectives of the Center are to support the educational and research activities in the College systematically and efficiently, and to improve each staff's ability and skills to perform the duties successfully, carrying out the support for the education and research in the college smoothly.

■業 務 内 容　Activities

（1） 学生の実験及び実習に関する支援
Supporting student's experiments and practices.

（2） 卒業研究，特別研究等に関する支援
Supporting graduation researches and advanced researches.

（3） 教育教材作成に関する支援
Supporting the preparation of educational matterials.

（4） 教員の教育研究活動に関する支援
Supporting teacher's educational and research activities.

（5） 学校行事（高専祭等）に関する支援
Supporting school events, such as the school festival.

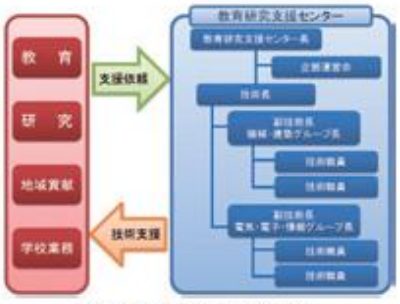
（6） 実験室等の共通利用機器等の保守・管理等に関する支援
Supporting the maintenance of machines and equipments in laboratries.

（7） 実習工場施設及び設備の管理運営等に関する支援
Supporting the administration of facilities and equipments in Factory.

（8） 情報処理センター運営等に関する支援
Supporting the operation of Information Processing Center.

（9） 公開講座，地域貢献及び産学連携等に関する支援
Supporting Extension Courses, the contribution to local industries and the cooperative businesses.

（10） その他必要な業務の支援
Supporting other business needed.



教育研究支援センターの組織図
Organization chart of Education and Reseach Support Center



2011 青少年のための科学の祭典
平成23年11月3日，釧路市こども遊学館
Kodomo Yugakukan on 2011, Nov., 3.
(Science Booths in Science Festival for Youth in Kushiro, 2011)

33

（出典　平成 24 年度学校要覧　p. 29）

資料３－３－①－３

「事務職員及び技術職員の配置状況」

事務職員・技術職員の配置状況

【事務部】

			事務職員	技術職員	看護師	非常勤職員
事務部	事務部長		1			
	総務課	課長	1			
		課長補佐	2			
		総務係	3			1
		人事・給与係	2			
		図書係	2			6
		経理係	3			
		用度係	2			1
		施設係	1	1		
		研究協力室	2			
	学生課	課長	1			
		課長補佐	1			
		学生支援係	2		1	2
		修学支援係	5			6
		寮務係	1			4
計			29	1	1	20

【教育研究支援センター】

		教員	技術職員	再雇用職員（フルタイム）
教育研究支援センター	教育研究支援センター長	1		
	技術長		1	
	機械・建築グループ		3	2
	電気・電子・情報グループ		5	
計		1	9	2

※平成24年5月1日現在

※技術長は電気・電子・情報グループを兼任。（電気・電子・情報グループの外数）

（出典　総務課資料）

資料３－３－①－４

第２章　組　織

○釧路工業高等専門学校事務組織規程

（昭和46年12月１日釧高専規第12号）

改正　昭和49．２．20釧高専規第１号　昭和52．11．22釧高専規第６号
昭和56．３．17釧高専規第３号　昭和60．３．23釧高専達第１号
昭和62．３．31釧高専達第４号　平成４．３．30釧高専達第５号
平成９．４．18釧高専達第１号　平成10．４．１釧高専達第３号
平成13．３．29釧高専達第22号　平成14．４．16釧高専達第２号
平成14．10．１釧高専達第９号　平成16．４．１釧高専達第１号
平成17．４．１釧高専達第１号　平成19．４．26釧高専達第１号
平成20．４．１釧高専達第２号　平成22．４．28釧高専達第１号
平成23．４．28釧高専達第１号

第１章 事務組織

（事務部）

第１条 釧路工業高等専門学校に事務部を置く。

（事務部の課）

第２条 事務部に次の２課を置く。

総務課

学生課

（課の係及び室）

第３条 総務課に次の６係及び室を置く。

(1) 総務係
(2) 人事・給与係
(3) 図書係
(4) 経理係
(5) 用度係
(6) 施設係
(7) 研究協力室

第４条 学生課に次の３係を置く。

(1) 学生支援係
(2) 修学支援係
(3) 寮務係

（中略）

資料３－３－①－４（続き）

（学生課）

第11条 学生課においては，次の事務をつかさどる。

(1) 学生の課外活動に関すること。

(2) 学生及び学生団体の指導に関すること。

(3) 学生に対する奨学金，授業料の減免，猶予及び経済援助に関すること。

(4) 福利施設の管理運営に関すること。

(5) 学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関すること。

(6) 学生に対する就職指導及び就職あっせんに関すること。

(7) 学生旅客運賃割引証に関すること。

(8) 日本スポーツ振興センターに関すること。

(9) 学生の賞罰に関すること。

(10) 入学者の選抜に関すること。

(11) 学生の修学指導に関すること。

(12) 教育課程の編成及び授業に関すること。

(13) 学生の学業成績の整理及び記録に関すること。

(14) 学生の学籍に関すること。

(15) 研究生，聴講生，科目等履修生及び外国人留学生に関すること。

(16) 学生寮の管理運営に関すること。

(17) 学生の入退寮に関すること。

(18) 寮生の指導監督に関すること。

(19) その他学生の福利厚生，教務及び寮務に関する事務を処理すること。

（後略）

（出典　釧路高専規程）

資料３－３－①－５

平成24年度前期　　教育研究支援センター　　業　務　予　定　表

		月									火									水									木									金								
		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8
機械・建築グループ	副技術長・グループ長 的野　卓司												工学実習実験Ⅰ 2M			卒業研究 5M 1・2K特別研究							工学実習実験Ⅱ 3M									工学実習実験Ⅲ 4M			卒業研究 5M 1・2K特別研究									ものづくり基礎 1年生							
	技術専門職員 石塚　和則												機械工学実習Ⅰ 2M			卒業研究 5M 1・2K特別研究							工学実習実験Ⅱ 3M									工学実習実験Ⅲ 4M			卒業研究 5M 1・2K特別研究									ものづくり基礎 1年生 CAD 4M　3週							
	技術職員 樋上　磨															卒業研究 5M							機械工学実習・実験Ⅱ 3M									機械工学実習・実験Ⅲ 4M			卒業研究 5M									ものづくり基礎 1年							
	技術職員 小林　勲												機械工学実習・実験Ⅰ 2M			卒業研究 5M 2k特別研究							機械工学実習・実験Ⅱ 3M												卒業研究 5M 2k特別研究									ものづくり基礎 1年生							
	技術職員 福地　敏春															卒業研究 5A 1K 特別研究							建築材料 4A										総合演習 5A			卒業研究 5A 1K 特別研究									ものづくり基礎 1年生							測量学 5A
電気・電子・情報グループ	技術長 横山　安弘	工学課題実験 4D		工学実験Ⅱ 3D							計測システム選択						卒業研究 5D			創造工学 2D		工学実験Ⅳ 4D								工学実験Ⅱ 3D		工学実験Ⅳ 4D			卒業研究 5D				回路設計基礎 2D		ものづくり基礎 1年						
	副技術長・グループ長 村上　誠一	ネットワーク運用と管理（ユーザ管理、 ファイル管理、 ネットワーク機器の管理、 通信障害の対応、各種ネットワークサービスの運用と管理、セキュリテイの維持と管理、第1・2演習室システム管理他）																																											
	技術専門職員 高坂　宜宏	プログラミング言語Ⅱ 3J		コンピュータネットワークⅡ		数値解析 4J		HR 2J			プログラミング言語Ⅰ 3J		情報工学実験Ⅱ 5J			卒業研究 5J				ソフトコンピューティング 5EDJ		コンピュータネットワークⅠ 4J		情報工学実験Ⅱ 5J		プログラミング言語Ⅰ 2J			コンピュータリテラシー 2J		人工知能 5EDJ		卒業研究 5J						ものづくり基礎 1年						コンピュータリテラシー 2J
	技術専門職員 小清水　誠	オペレーティングシステム 5D		コンピュータリテラシー 1年3組		機械工学特論 5M					シーケンス制御 4D 5EDJ		情報基礎 2D			卒業研究 5MED				電子計算機 2E		メカトロニクス 4M		画像工学Ⅰ 5D		数値解析 4D							卒業研究 5MED							プログラム言語Ⅱ 4D		CAD/CAM 4M		プログラム言語 3D		
		コンピュータリテラシー 1年1組		数値解析法 5M							コンピュータリテラシー 1年2組		コンピュータリテラシー 1年5組													情報処理演習 2A															コンピュータリテラシー 1年4組				電気製図 2E		
						特別実験Ⅱ 2KS					ソフトウェア工学 2S		情報解析Ⅱ 2K											品質工学 1KS		環境制御工学概論 1K					デジタルイメージ 2K		コンピュータ制御工学 1KS							ハードウェア 1KS				制御工学特論 1KS		
	技術専門職員 二谷　聡志	信号処理Ⅰ 5J									情報工学演習 2J					卒業研究 5J														プログラミング言語Ⅱ 4J			卒業研究 5J				計算機制御 5J				データベース 5J		
	技術職員 稲守　栄	電気工学実験Ⅴ 5E														卒業研究 5E				電気工学実験Ⅰ 3E									電気工学実験Ⅱ 4E			卒業研究 5E						ものづくり基礎 1年						
	備　考																																												

※本科　M 機械工学科、E 電気工学科、D 電子工学科、J 情報工学科、A 建築学科、 専攻科　K 建設生産システム工学、S 電子情報システム工学

（出典：　教育研究支援センター作成資料）

資料３－３－①－６

「非常勤職員の配置及び業務」

非常勤職員の配置状況

【事務部】　※平成24年5月1日現在

			非常勤職員	業務
事務部	総務課	総務係	1	事務補助
		用度係	1	〃
		図書係	6	カウンター業務(平日時間外、土曜日)
	学生課	修学支援係	6	
		修学支援係	(1)	事務補助
		化学実験室	(1)	実験補助
		物理実験室	(1)	〃
		体育	(1)	授業準備補助等
		電子工学科	(1)	〃
		建築学科	(1)	〃
		学生支援係	2	事務補助、留学生対応含む
		寮務係	4	事務補助、寮母
計			20	

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，事務部長以下，事務系職員が42名であり，うち技術職員が11名である。事務組織規程により，事務職員の職務が明確に定められている。

技術職員の業務に関しては，教育研究支援センター規程によって明確に定められている。

総務課職員のうち図書係は図書館の事務を担当し，司書資格を持つものを配置している。さらに，非常勤職員20名を配置し，教育活動の事務的補助業務及び実験室の管理などの補助業務にあたっている。

これらのことから，学校における教育活動を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者等が適切に配置されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

教員組織の活動をより活発化するための取り組みの成果として，平成18年度以降の学位取得者が15名であり，その結果，理系教員と専門学科の教員に関しては，高専機構が定める数値目標を十分に上回った。

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準３の自己評価の概要

一般教育科の授業担当教員は，専任教員25名，非常勤講師27名である。設置基準上の必要専任教員数22名を上回っている。各教員の専門分野はそれぞれ担当する授業科目にふさわしいものである。各専門学科の教員数は機械工学科９名，電気工学科10名，電子工学科10名，情報工学科11名，建築学科10名，合計50名である。専門科目担当教員数は高等専門学校設置基準を上回っている。また，教授，准教授の合計人数は41名であり，高等専門学校設置基準を上回っている。専門科目の非常勤教員は現役弁理士，大学教授，企業技術者等多岐に亘っており，実務的・先端的な授業展開を図っている。

専門科目を担当する教員のほとんどは博士の学位を有しており，また，民間企業経験者，大学における教育経験者を多く含んでいる。これらのことから，本校専攻科の目的にある，「高等専門学校における教育の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し，その研究を指導」することを図っている。専攻科の授業科目は，準学士課程の基礎の上に実施しており，担当する教員は準学士課程の担当科目を考慮して配置している。

教員の年齢構成はバランスの取れた構成になっている。なお，専任教員のうち女性教員の割合は6.6％となっている。

本校では，教育研究・国際交流振興基金を設け，その事業の一つとして教員の国際会議参加への補助を行っている。また，校長裁量経費においては「学位等の取得の促進」を明記している。これらの支援により，高専機構が定める数値目標をほぼ達成した。

本校では，校長個人面談実施要項を策定した。これに従い，校長は全教員の教育・研究活動の目標や成果を把握・評価するために，定期的に個人懇談を行っている。平成22年度からは「ファクトデータシステム」による教育研究活動実績記録を行うこととし，校長が各教員について教育研究活動の状況全般を俯瞰できる体制が整備された。

本校では，専任教員の採用・昇格の選考手続きについて規程を定めている。さらに，同規程に基づ

く評価項目その他の評価基準を明確にするために，教員選考基準を定めている。教員選考委員会においては，後期中等教育部分の年齢層に当たる学生教育を念頭に高等学校教員の経験を持つ者の採用や，本校の目的である実践的技術者の養成に向けて教育組織を整備している。

本校では，事務部長以下，事務系職員が42名であり，うち技術職員が11名である。事務組織規程により事務職員の職務が明確に定められている。技術職員の業務に関しては教育研究支援センター規程によって明確に定められている。総務課職員のうち図書係は図書館の事務を担当し，図書係には司書資格を持つ者を配置している。

さらに，非常勤職員20名を配置し，教育活動の事務的補助業務及び実験室の管理などの補助業務にあたっている。

基準４　学生の受入

（１）観点ごとの分析

観点４－１－①：　教育の目的に沿って，求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ，学校の教職員に周知されているか。また，将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されているか。

（観点に係る状況）

本校における「入学者」としては，(1)準学士課程１学年への入学，(2)準学士課程４学年への編入学，(3)専攻科課程１学年への入学，(4)私費留学生の３学年への編入学，という４つの場合がある。

(1)準学士課程１学年への入学においては，アドミッション・ポリシーが中学生に判りやすい表現を用いて明確に定められ，募集要項（資料４－１－①－１），学校案内（資料４－１－①－２），釧路高専についての参考資料（資料４－１－①－３）などの印刷物やホームページ（資料４－１－①－４）に掲載されている。募集要項，学校案内などは，入学試験委員会で審議（資料４－１－①－５）し，教職員に配布している。毎年行われる中学生対象のオープンキャンパスでは，参加した中学生や保護者に学校案内及び釧路高専についての参考資料を配布（資料４－１－①－６）しており，中学校主催の高校説明会では，釧路高専についての参考資料を参加した中学生全員に配布している。さらに，学校説明会（資料４－１－①－７）や中学校の進路担当教員との懇談会（資料４－１－①－８），教員による中学校訪問（資料４－１－①－９）においてもこれらの資料を配布し，中学生，中学校教員，中学生の保護者に説明すると共に，教育委員会などにも配布している（資料４－１－①－10)。

(2)準学士課程４学年への編入学においては，アドミッション・ポリシーが高校生を対象とした文章で明確に定められている。編入学希望者向けのアドミッション・ポリシーは編入学募集要項（資料４－１－①－11）やホームページ（資料４－１－①－12）に掲載し公表している。

(3)専攻科課程１学年への入学においては，アドミッション・ポリシーが高専の高学年を対象とした文章で明確に定められている。専攻科のアドミッション・ポリシーは専攻科募集要項（資料４－１－①－13）やホームページ（資料４－１－①－14）に掲載し公表している。

(4)私費留学生の３学年への編入学においては，アドミッション・ポリシーはキーワードを除き(1)と同様に記述し，高等専門学校機構が作成する募集要項に掲載している（資料４－１－①－15)。

いずれの入学者選抜についても，公表しているアドミッション・ポリシーは，本校の目的である実践的創造的技術者の育成に沿うものである。

資料４－１－①－１

「アドミッション・ポリシー（募集要項掲載）」

釧路高専入学者受入方針（アドミッションポリシー）

こんな「あなた」に来てほしい！

… 釧路高専が求める人の姿 …

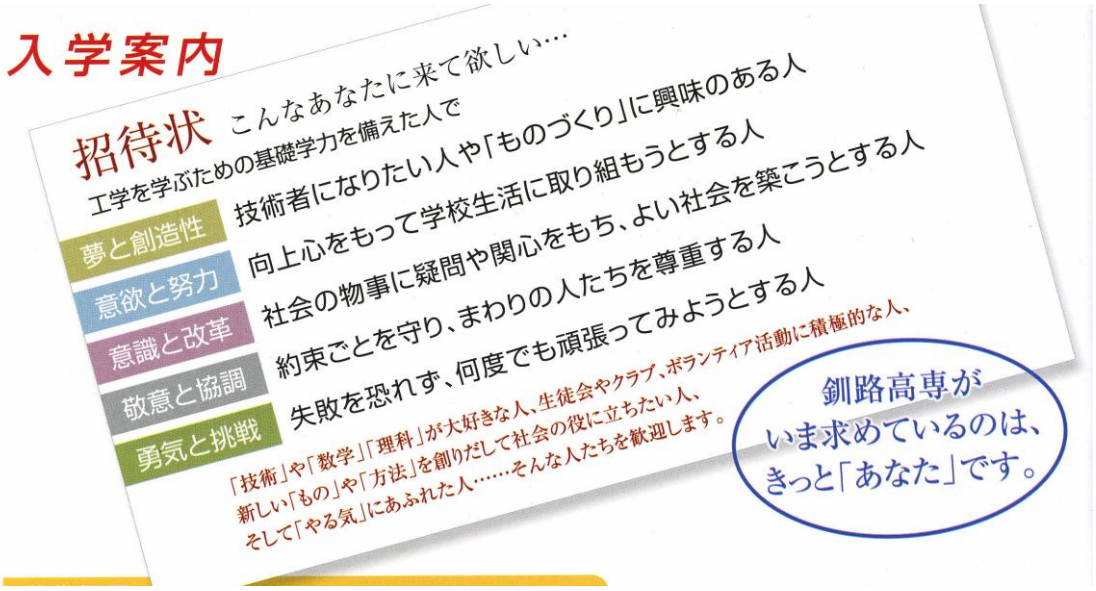
工学を学ぶための基礎学力を備えた人で
◎技術者になりたい人や「ものづくり」に興味のある人……夢と創造性
◎向上心をもって学校生活に取り組もうとする人……意欲と努力
◎社会の物事に疑問や関心をもち，よい社会を築こうとする人……意識と改革
◎約束ごとを守り，まわりの人たちを尊重する人……敬意と協調
◎失敗を恐れず，何度でも頑張ってみようとする人……勇気と挑戦

「技術」や「数学」「理科」が大好きな人，生徒会やクラブ，ボランティア活動に積極的な人，新しい「もの」や「方法」を創りだして社会の役に立ちたい人，そして「やる気」にあふれた人 … そんな人たちを歓迎します。
釧路高専がいま求めているのは，きっと「あなた」です。

（出典　平成 24 年度学生募集要項　p. 1）

資料４－１－①－２

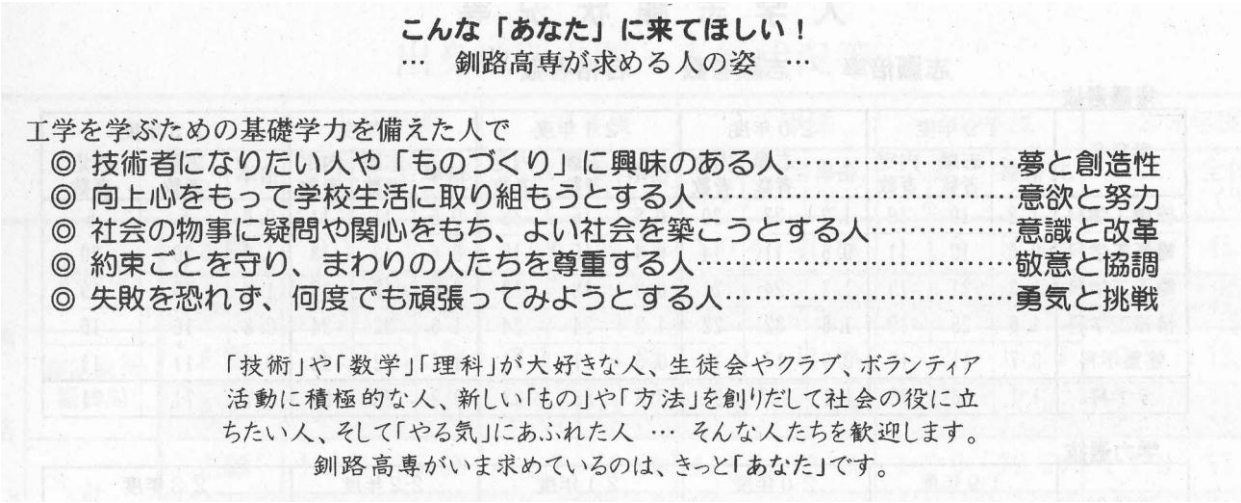
「アドミッション・ポリシー（学校案内掲載）」



（出典　平成 23 年度学校案内　p. 27）

資料４－１－①－３

「アドミッション・ポリシー（釧路高専についての参考資料掲載）」



こんな「あなた」に来てほしい！
…　釧路高専が求める人の姿　…

工学を学ぶための基礎学力を備えた人で
◎ 技術者になりたい人や「ものづくり」に興味のある人……夢と創造性
◎ 向上心をもって学校生活に取り組もうとする人……意欲と努力
◎ 社会の物事に疑問や関心をもち、よい社会を築こうとする人……意識と改革
◎ 約束ごとを守り、まわりの人たちを尊重する人……敬意と協調
◎ 失敗を恐れず、何度でも頑張ってみようとする人……勇気と挑戦

「技術」や「数学」「理科」が大好きな人、生徒会やクラブ、ボランティア活動に積極的な人、新しい「もの」や「方法」を創りだして社会の役に立ちたい人、そして「やる気」にあふれた人　…　そんな人たちを歓迎します。
釧路高専がいま求めているのは、きっと「あなた」です。

（出典　釧路高専についての参考資料　平成 23 年５月作成　p. ２）

資料４－１－①－４

「アドミッション・ポリシー（公式ウェブサイト掲載）」



（出典　Web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=270（本校ウェブサイト））

資料４－１－①－５

「学生募集要項（案）の審議」

２．審議事項

（1）平成２４年度釧路工業高等専門学校学生募集要項（案）について

修学支援係長から，資料３に基づき以下のとおり説明があった。

委員から，３．選抜方法に「理科学検定３級以上」と記載されているが，理科学検定は受験者が少なく，２年前から実施されていないため，取得者がいないと思われるとの意見があり，削除することとなった。また，「学費・免除制度」の記載については，一部修正することとして，了承された。

・　学生募集要項（案）については，４月の第１回入試委員会で審議了承された「平成２４年度学生募集実施概要」に基づき作成されている。
・　基本的なところは昨年度のものと同じである。
・　推薦選抜の出願書類受付期間，推薦選抜実施日，学力選抜の出願受付期間は，道内高専で統一される予定である。
・　面接は平成２４年１月２１日（土）となる。
・　会場は，昨年と同様に，釧路，帯広，北見，札幌の４会場となっている。
・　入学説明会は，例年どおり，道立高校の入試日に合わせて，平成２４年３月６日（火）に行う。
・　今まで募集要項に授業料，奨学金等の記載がなかったため，追加した。
・　不測の事態については，翌日に同じ会場で実施することを道内高専間で確認している。
・　試験会場図は添付が漏れているが，修正中のため，でき次第記載する。
・　東日本大震災に伴う検定料免除の臨時措置について機構本部から通知があり，募集要項送付時に，別途，文書で周知する予定である。

（出典　平成 23 年度６月第４回入学試験委員会議事録）

資料４－１－①－６

「オープンキャンパス配付物一覧」

２０１１【オープンキャンパス参加者用配布物一覧】

- ロゴ入りバック
- 学校案内冊子
- 釧路高専参考資料
- ロゴ入りクリアファイル
- 体験教室整理券（クリアファイルに入れる）
- 参加者用プログラム（当日用のプログラム）
- バス時刻表/復路バス出発時停車位置図
- ４つ折りパンフレット
- 部活冊子
- 高専だより（１０４号）
- 学校説明会、体験教室開催予定の紙
- アンケート

（出典　平成 23 年度オープンキャンパス資料）

資料４－１－①－７

「学校説明会配付物一覧（釧路会場）」

- プログラム
- 校内案内図
- ４つ折りパンフレット
- 学校案内
- 募集要項
- 釧路高専についての参考資料
- 高専祭のご案内
- アンケート

（出典　平成 23 年度学校説明会・体験教室資料）

資料４－１－①－８

「入試懇談会配付物一覧（釧路会場）」

- 出席者名簿（１）
- 座席表（２）
- 入試懇談会見学経路（３）
- 入試懇談会資料（４）
- 学校案内
- 高専ナビ
- 募集要項（お帰りの際にお渡しします。）

（出典　平成 23 年度入試懇談会資料）

資料４－１－①－９

「教員による中学校訪問配付物一覧」

- クリアファイル
- オープンキャンパスアンケート結果
- 高専ナビ（機構本部発行）
- ＥＭ高専カンファレンス
- キラキラ高専ガール（機構本部発行）
- 『「高専」のここがスゴい。』リーフレット（機構本部発行）
- 釧路高専学校説明会・体験教室のご案内
- ＣＡＤコンのご案内
- デザコンのポスター
- 部活動紹介の冊子
- 資料請求申込書
- 吹奏楽部定期演奏会のご案内

封筒

- ４つ折りパンフレット
- 学校案内
- 募集要項
- 釧路高専についての参考資料
- ２段階学科選択制度について

（出典　平成 23 年度教員による中学校訪問資料）

資料４－１－①－10

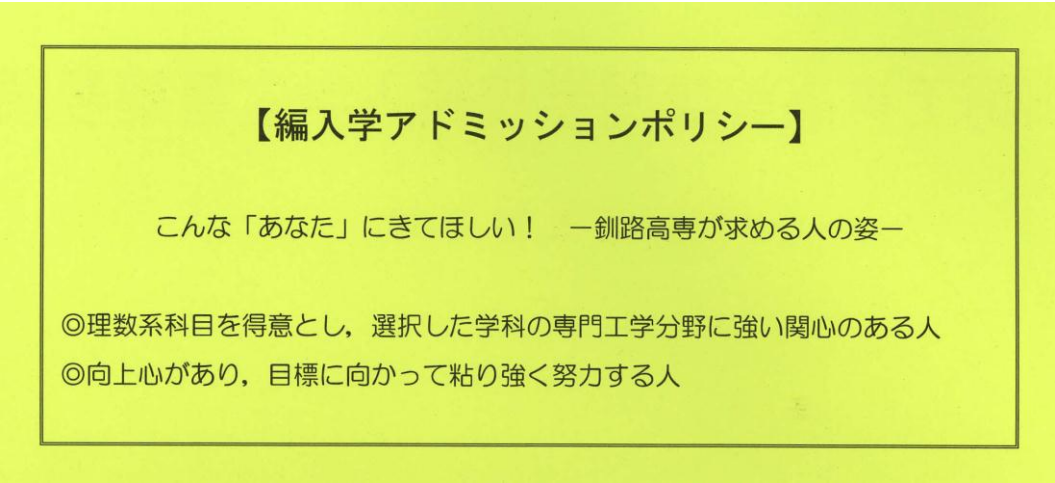
「学生募集要項配布先一覧」

	送付先及び配布先	部数
1	文部科学省高等教育局専門教育課長	1
2	独立行政法人国立高等専門学校機構学務課長	1
3	各国立高等専門学校長（各キャンパス）	５４
4	北海道教育委員会教育長	1
5	北海道各地方教育局長	１４
6	各市町村教育委員会教育長	８０
7	道内各国公立中学校長，釧路市内私立中学校	６４９
8	報道機関	３０
9	学校説明会・体験教室用	３５０
10	中学校訪問用	８００
11	志願者請求用	２５０
12	本校関係分及び予備	７０

（出典　学生課作成資料）

資料４－１－①－11

「編入学アドミッション・ポリシー（編入学募集要項掲載）」



（出典　平成 25 年度編入学生募集要項）

資料４－１－①－12

「編入学アドミッション・ポリシー（公式ウェブサイト掲載）」



（出典　Web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=118（本校ウェブサイト））

資料４－１－①－13

「専攻科アドミッション・ポリシー（募集要項掲載）」

３　入学者受入方針（アドミッションポリシー）

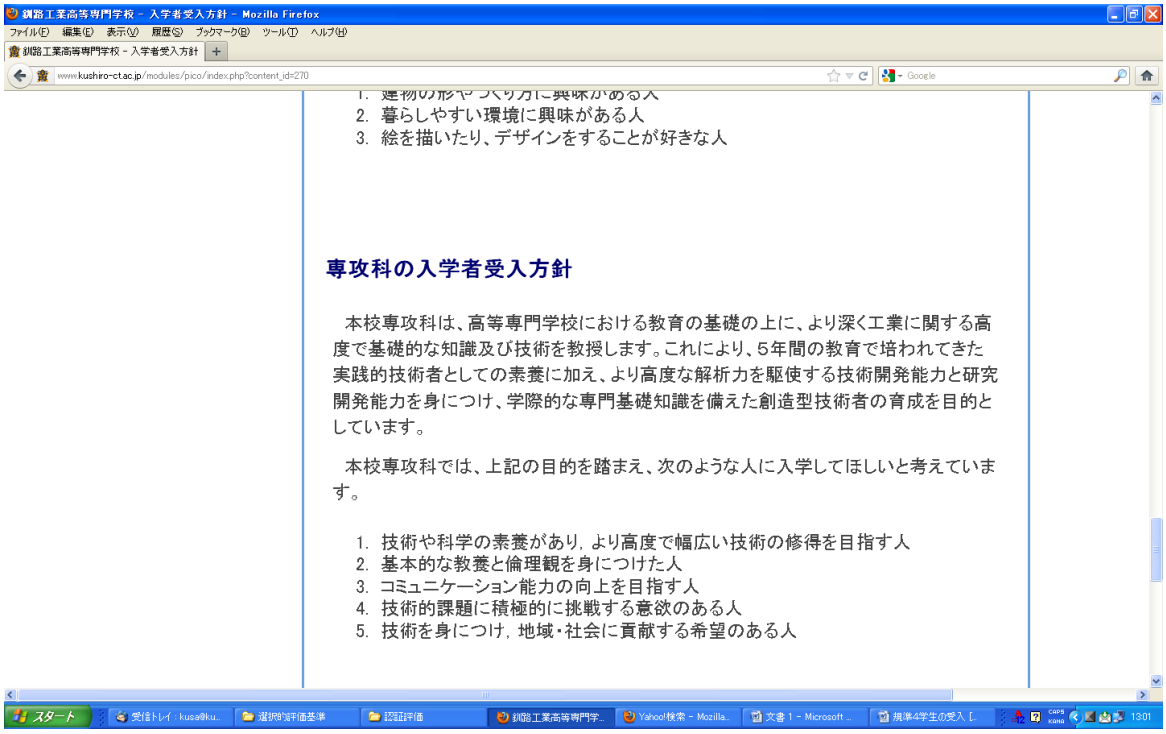
本校専攻科では，上記の目的を踏まえ，次のような人に入学してほしいと考えています。

○技術や科学の素養があり，より高度で幅広い技術の修得を目指す人
○基本的な教養と倫理観を身につけた人
○コミュニケーション能力の向上を目指す人
○技術的課題に積極的に挑戦する意欲のある人
○技術を身につけ，地域・社会に貢献する希望のある人

（出典　平成 25 年度専攻科学生募集要項　p. 10）

資料４－１－①－14

「専攻科アドミッション・ポリシー（公式ウェブサイト掲載）」



（出典　Web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=270（本校ウェブサイト））

資料４－１－①－15

「私費留学生（第３学年編入学）アドミッション・ポリシー」

釧路工業高等専門学校
Kushiro National College of Technology



〒 084-0916　釧路市大楽毛西２丁目３２番１号
TEL 0154-57-7222　FAX 0154-57-6256
URL http://www.kushiro-ct.ac.jp/

こんな「あなた」に来てほしい
～釧路高専が求める人の姿～

① 技術者になりたい人や「ものづくり」に興味のある人
② 向上心をもって学校生活に取り組もうとする人
③ 社会の物事に疑問や関心を持ち、よい社会を築こうとする人
④ 約束ごとを守り、まわりの人たちを尊重する人
⑤ 失敗を恐れず、何度でも頑張ってみようとする人

学科紹介

●機械工学科
機械工学科では、21 世紀を支える「エネルギー」・「情報」・「材料」をつくり出す“ものづくり”の技術者になるため、力学、メカトロニクス、熱・流体、デザイン、コンピュータなど、幅広い分野を学びます。

●電気工学科
電気工学科では、私たちの社会を支える『電気』を中心に幅広い分野の勉強をします。電気の基本から始まり、電気エネルギーの作り方や送り方、電気エネルギーを機械エネルギーに変えること、コンピュータやプログラムの仕組み、放送などの通信や電波の仕組み、機械やロボットなどの制御の仕組みが学べます。

●電子工学科
電子工学科ではコンピュータ・携帯電話・インターネットなどの情報通信分野、太陽電池・温度差発電・超伝導などのデバイス分野、さらにロボット・レーザー・ソーラーカーなどの計測制御分野を３本柱として学習します。

●情報工学科
情報工学科では、発展する情報化社会に役立つ技術者になるため、情報化社会の「脳や神経」に当たるコンピュータや情報通信ネットワークの仕組み、コンピュータを賢く動かすプログラミング、大量なデータを効率よく処理するデータベース、人工知能等の技術を基礎から応用まで幅広く勉強します。

●建築学科
建物は、美しく、快適で使いやすく、地震に強くなくてはなりません。建築学科ではこのような建物をつくるために、設計の方法や、安全な建物のしくみなどについて学習します。

学生生活

[学生寮]
留学生対象
個室・・・机、椅子、ベッド、洋服ダンス、本棚、食器棚、下足箱、スタンド
設備・・・シャワー室、洗面所、補食室（冷蔵庫・炊飯器・電磁調理器・電子レンジ・食器洗浄機・掃除機）、学習室（テレビ・パソコン・プリンター）、洗濯機・乾燥機、自転車
周辺に民間アパートがあり、通学することも可能ですが、留学生は寮に入ることを勧めています。
※　留学生用居室は、入寮状況により、希望に添えない場合がありますので、お含みおきください。

入寮のための経費（平成 23 年度実績）
・寄宿料・・・　800 円（月額）
・寮　費・・・12,790 円（月額）
・給食費・・・24,000 円（月額・自炊の場合は不要）

[アルバイト]
アルバイトは原則禁止です。



入学時諸経費（入学料、授業料以外の経費）

日本スポーツ振興センター共済掛金…　1,520 円（年額）
後援会入会金…… 10,000 円（入学時のみ）
後援会費…… 10,000 円（年額）
教科書等…… 20,000 円（学科により異なる）

進路状況

[就職先]
本田技研工業、東芝エレベータ、東京電力、北海道電力、中部電力、日立化成工業、シーティーシー・テクノロジー、北海道旅客鉄道、リコー、よつ葉乳業、東海旅客鉄道、シャープ、エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア、日本デジタル研究所、セイコーエプソン、戸田建設、竹中工務店、ユニチカ、日本製鋼所、ＰＦＵ、東芝システムテクノロジー、ＮＴＴファシリティーズ北海道、東京ガス、大塚製薬、明治乳業　etc.

[進学先]
高専専攻科：釧路工業高等専門学校専攻科
大　　学：北海道、北見工業、室蘭工業、東北、筑波、電気通信、東京工業、東京農工、横浜国立、千葉、長岡技術科学、豊橋技術科学　etc.

20

（出典　2012 年度国立高等専門学校第３学年編入学試験（外国人対象）学生募集要項　p. 20）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程１学年への入学，準学士課程４学年への編入学，専攻科課程１学年への入学，私費留学生の３学年への編入学，それぞれにおいて，対象となる中学生，高校生，高専生等に判りやすい表現を用いてアドミッション・ポリシーが定められており，本校ウェブサイト，印刷物配布を通じて対象となる関係者に周知している。本校教員には印刷物を配布し，周知している。

これらのことから，教育の目的に沿って，求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ，学校の教職員に周知されている。また，将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されている。

観点４－２－①：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており，実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

本校における「入学者」としては，観点４－１－①と同様に４つの場合がある。

⑴準学士課程１学年への入学者選抜方法としては，推薦選抜と学力選抜がある。推薦選抜にあたっては，推薦書及び調査書の記入においてアドミッション・ポリシーに沿った記述に留意する事を中学校に求めている（資料４－２－①－１，２）。またアドミッション・ポリシーに沿った質問を設定し，面接を行っている（資料４－２－①－３）。推薦書，調査書及び本校が実施する面接試験結果を総合的に判断し選抜を実施することで，受験生がアドミッション・ポリシーに沿った資質を持っているかどうかを確認している。

学力試験にあたっては，調査書の記入においてアドミッション・ポリシーに沿った記述に留意する事を中学校に求めている。学力検査成績と調査書の内容を総合的に判断して選抜を行っているが，アドミッション・ポリシーにおける「基礎学力」を考慮し，学力検査と調査書の数学の配点については得点を２倍している（資料４－２－①－４）。

準学士課程１学年への入学者選抜の合否判定基準を定めており，この判定基準に従って，入学試験委員会において合否判定を実施している。

⑵準学士課程４学年への編入学者選抜においては，学力試験と面接試験を実施し，それらの結果と調査書等を総合的に判断し，選抜を行っている。アドミッション・ポリシーに従い，学力検査科目として英語，数学，専門科目又は理科を設定している。面接試験では，アドミッション・ポリシーに沿った質問を設定し，面接を実施している（資料４－２－①－５）。

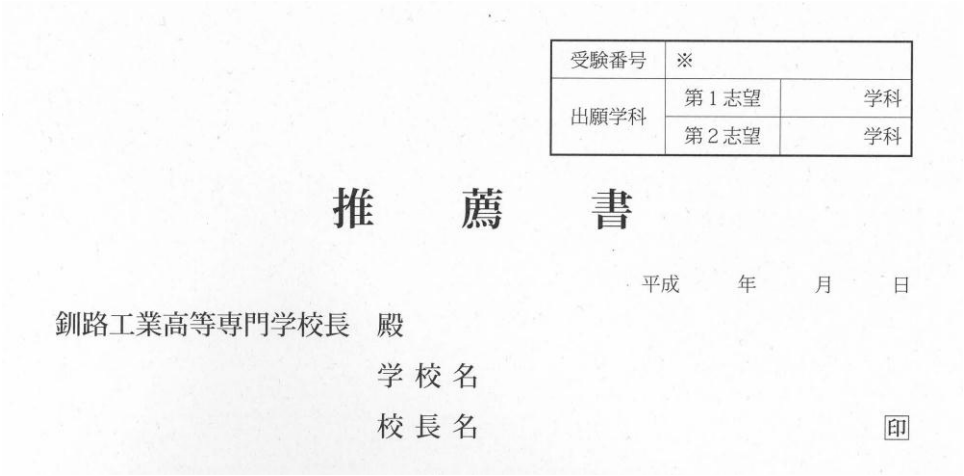
⑶専攻科課程１学年への入学者選抜試験としては，推薦選抜試験と学力選抜試験，社会人特別選抜試験がある。推薦選抜における選抜方法は，面接と推薦書，調査書の内容等を総合して行われるが，面接試験において，アドミッション・ポリシーに沿った質問を設定し，面接を実施している（資料４－２－①－６）。学力選抜試験による選抜方法は，学力試験，調査書の内容等を総合して行うが，出願書類の中にアドミッション・ポリシーに関する小論文が含まれている（資料４－２－①－７）。社会人特別選抜試験による選抜方法は，面接，志望理由書，調査書の内容等を総合して行われ，面接では推薦選抜と同様にアドミッション・ポリシーに沿った質問が設定されている（資料４－２－①－８）。専攻科の入学試験の合否判定基準を定めており，この判定基準に従って，入学試験委員会において合否判定を実

施している。

(4)私費留学生の３学年への編入学においては，高等専門学校機構の実施する面接試験及び日本留学試験の成績により合否判定する。面接試験については，高等専門学校機構において行われるため，本校のアドミッション・ポリシーを十分に問うことはできず，「高等専門学校における学習を継続できるか」が問われた結果を受け取り，これにより判断している。

資料４－２－①－１

「推薦書」（抜粋）



受験番号	※	
出願学科	第１志望	学科
	第２志望	学科

推　　薦　　書

平成　　年　　月　　日

釧路工業高等専門学校長　殿

学 校 名

校 長 名　　印

「中略」

本校では，入学者受入方針（アドミッションポリシー）に沿った入学者の受け入れに努力しています。記入に当たっては，募集要項１頁をご覧いただき，記載事項に留意された内容を記入してください。
なお，特記すべき事項が多くある場合は別紙（任意様式）に記入の上添付してください。
※印欄は記入しないでください。

（出典　平成 24 年度学生募集要項　出願書類）

資料４－２－①－２

「調査書 記入要領」（抜粋）

「前略」

４．４の欄「行動の記録（３学年）」について
(1)　該当する項目の評定欄に○を記入してください（複数可）。
(2)　本校では，入学者受入方針（アドミッションポリシー）に沿った入学者の受け入れに努力しています。「所見」の記入に当たっては，募集要項１頁をご覧いただき，記載事項に留意された内容を記入してください。

「以下略」

（出典　平成 24 年度学生募集要項　出願書類）

資料４－２－①－３

「面接要領」（抜粋）

３　面接の内容

「前略」

3）質問事項

① アドミッション・ポリシーを加味した質問

・観点１…夢と創造性　・観点２…意欲と努力　・観点３…意識と改革

・観点４…敬意と協調　・観点５…勇気と挑戦

「以下略」

（出典　平成 24 年度推薦入学者選抜実施要項　p. 5）

資料４－２－①－４

「学力検査による入学者の選抜」（抜粋）

「前略」

3．選 抜 方 法

学力検査の成績・調査書の内容を総合的に判断して行います。
なお，数学の配点は，学力検査及び調査書の得点を２倍して扱います。

「以下略」

（出典　平成 24 年度学生募集要項　p. 7）

資料４－２－①－５

「面接員要領」（抜粋）

面 接 員 要 領

面接について

(1) 面接員は，編入学生募集要項に掲載の「編入学アドミッションポリシー」，「編入学選抜方針」に基づいた面接及び面接評価を行うものとする。

(2) 受験者１人当たりの面接時間は，１０～１５分程度とする。

「以下略」

（出典　平成 24 年度編入学選抜試験実施要項　面接員要領）

資料４－２－①－６

「専攻科入学者選抜試験（推薦選抜）面接」（抜粋）

４．面接

「前略」

2）質問事項

おおむね次のような事項を質問する。

① 本校専攻科への志望理由
② 専攻科ではどのようなことを学びたいか
③ 専攻科修了後の進路はどのように考えているか
④ 入学後は JABEE の教育プログラム履修対象者となるが，知っているか
⑤ 卒業研究に関する質問
⑥ 専攻科アドミッションポリシーについて
⑦ 英語の検定（実用英語技能検定，工業英検，TOEIC）を取得しているか
取得している場合は何級（何点）か

「以下略」

（出典　平成 24 年度専攻科入学者選抜試験（推薦選抜）実施要項　p. ２）

資料４－２－①－７

「専攻科入学者選抜試験（学力選抜）小論文」（抜粋）

平成２４年度　釧路工業高等専門学校専攻科学力選抜志願者
小論文：アドミッションポリシーについて

アドミッションポリシーの目的を踏まえ，以下の５項目の中から１項目を選択し(□にチェックを付すこと)，それに沿ったあなたの抱負をまとめてください。

□　技術や科学の素養があり，より高度で幅広い技術の修得を目指す人
□　基本的な教養と倫理観を身につけた人
□　コミュニケーション能力の向上を目指す人
□　技術的課題に積極的に挑戦する意欲のある人
□　技術を身につけ，地域・社会に貢献する希望のある人

「以下略」

（出典　平成 25 年度専攻科学生募集要項　出願書類）

資料４－２－①－８

「専攻科入学者選抜試験（社会人特別選抜）面接」（抜粋）

６．面接

「前略」

(2)　面接の内容は次のとおりとする。

1）確認事項

① 写真票により本人であることを確認する。

② 口頭で受験番号・氏名を確認する。

2）質問事項

おおむね次のような事項を質問する。

① 本校専攻科への志望理由

② 専攻科ではどのようなことを学びたいか

③ 専攻科修了後の進路はどのように考えているか

④ 入学後は JABEE の教育プログラム履修対象者となるが，知っているか

⑤ 卒業研究に関する質問

⑥ 専攻科アドミッションポリシーについて

「以下略」

（出典　平成 24 年度専攻科入学者選抜試験（社会人特別選抜）実施要項　p. ３）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程１学年への入学者選抜，準学士課程４学年への編入学者選抜，専攻科課程１学年への入学者選抜，それぞれにおいてアドミッション・ポリシーに従って選抜を実施している。

これらのことから，入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)に沿って適切な学生の受入方法が採用されており，実際の入学者選抜が適切に行われている。

観点４－２－②：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており，その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

準学士課程の入学者選抜に関しては，年度当初の入学試験委員会において，入学生へのアンケート集計結果を審議し，入学者の意識調査，入試広報の効果，入試方法の検証を行っている（資料４－２－②－１）。アドミッション・ポリシーにある学力についての検証は，入学者の合格点分布状況（資料４－２－②－２）や英語及び数学の共通テストを実施し（資料４－２－②－３），年度比較等により検証している。

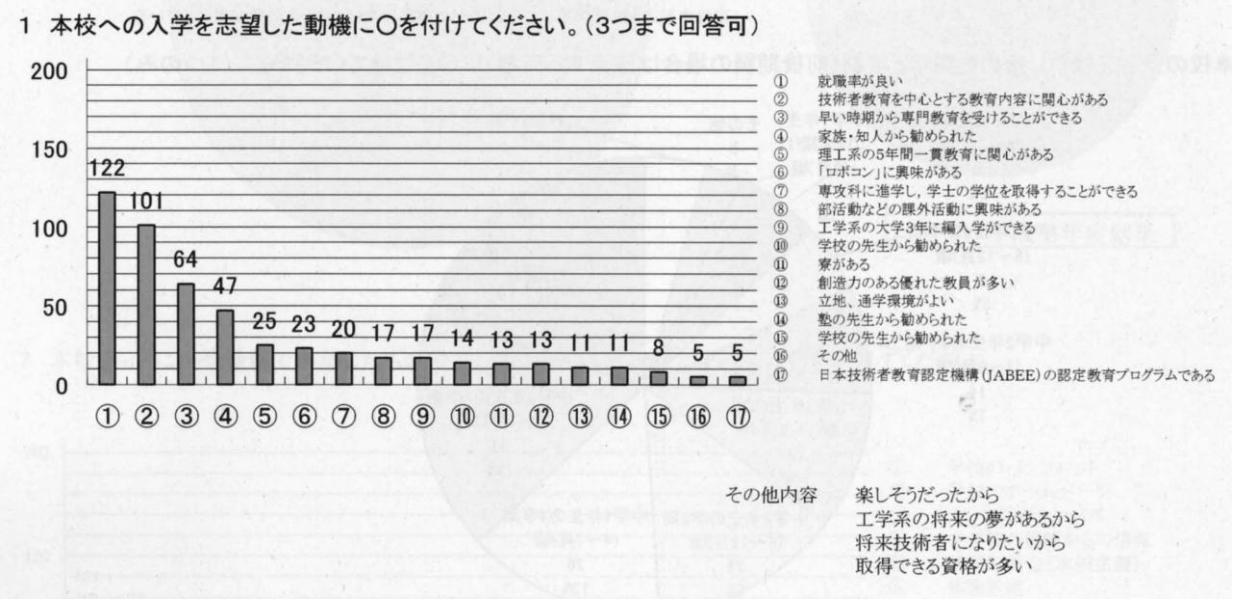
教務委員会では，準学士課程卒業生の成績逆追跡調査データを提出し，推薦選抜による入学者，学力選抜による入学者それぞれの５年間の成績推移，卒業後の進路などを示しており，どのような学生が入学してきているか，理解できるようにしている（資料４－２－②－４）。

本校では，入学者数確保の取組が優先しており，上記の検証結果を入学者選抜の改善に役立てる取組には至っていない。近年の原級留置・退学者数調査の中で，中学校から見た高専像・学科像と実際に入学してからの学習内容・進路等の齟齬（いわゆる学科ミスマッチ）が退学に結び付くケースが多く見られたことから，本校は平成 21 年度入学生から「２段階学科選択制度」を採用している（資料４－２－②－５）。この制度の検証のために，毎年アンケートを実施しているが，２段階学科選択によって希望の学科に配属される学生の高い満足度が得られている（資料４－２－②－６）。

専攻科の入学者選抜においては，入学試験委員会において合否判定基準の見直しが行われている。入学者数確保の議論に陥りがちであるが，学力選抜における提出書類に小論文を課す（資料４－２－②－７）など，入試方法の改善に努めている。

資料４－２－②－１

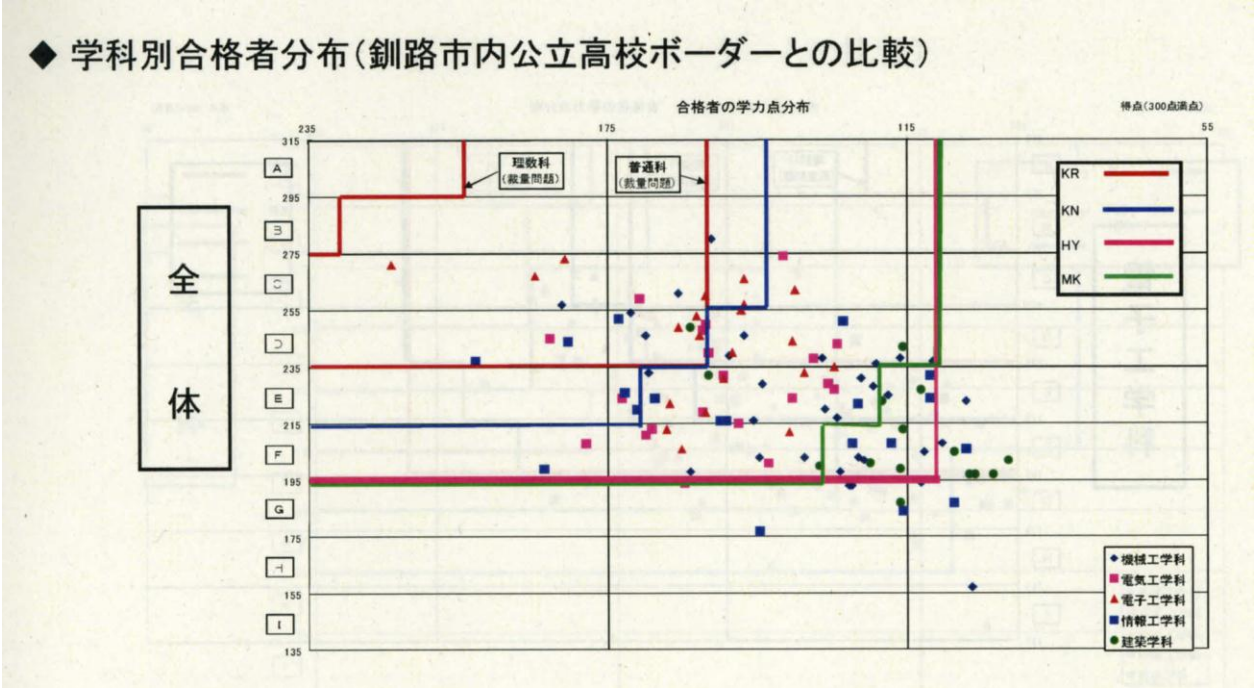
「平成 24 年度入学者アンケート集計結果」（抜粋）



（出典　平成 24 年度４月第１回入学試験委員会資料）

資料４－２－②－２

「入学者の合格点分布状況」



（出典　平成 23 年度入試懇談会資料）

資料４－２－②－３

「平成 23 年度　新入生共通テスト」

「前　略」

(4) 新入生共通テストについて

委員長から，資料４－１～２に基づき報告があり，併せて，各教科からのコメントについて，山﨑教務主事補（数学）および片岡委員（英語）から以下のとおり説明があった。

・数学科：「クラス平均に大きなばらつきはなく，点数も悪くはないが，解答内容を見る限りあまり良くないことが伺える。」，「平均点は，電子工学科が跳ね上がり，情報工学科が落ち込んでいる。」，「上位の人数が減った。」

・英語科：「現３年生の入学時と同じくらいの学力であると考えられる。」，「平均点では，平成16年度と比較すると７点近く下がっており，80点以上がおおよそ半減している。」

「以下略」

（出典　平成 23 年度５月教務委員会議事録）

資料４－２－②－４

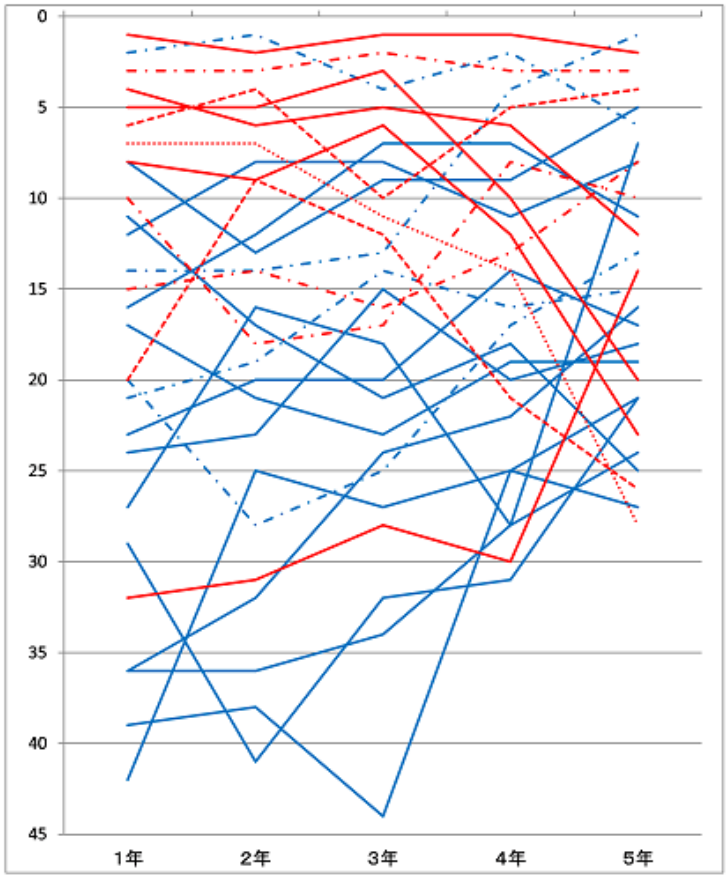
「平成 22 年度卒業生の成績推移」

資料6
教務委員会
H23.7.4

平成22年度　機械工学科卒業生　成績順位推移

入学区分	進路区分	1年	2年	3年	4年	5年
学力	[redacted]	12	8	8	11	8
学力		24	23	15	20	18
学力		42	25	27	25	21
学力		29	41	32	31	21
学力		27	16	18	28	24
学力		36	32	24	22	16
学力		39	38	44	25	27
学力		16	12	7	7	11
学力		36	36	34	28	7
学力		11	17	21	18	25
学力		8	13	9	9	5
学力		17	21	23	19	19
学力		23	20	20	14	17
学力		14	14	13	4	1
学力		2	1	4	2	6
学力		20	28	25	17	13
学力		21	19	14	16	15
推薦		1	2	1	1	2
推薦		32	31	28	30	14
推薦		8	9	6	12	23
推薦		5	5	3	10	20
推薦		4	6	5	6	12
推薦		3	3	2	3	3
推薦		15	14	16	13	8
推薦		10	18	17	8	10
推薦		20	9	12	21	26
推薦		6	4	10	5	4
推薦		7	7	11	14	28

平均順位	1年	2年	3年	4年	5年
学力	22	21	20	17	15
推薦	10	10	10	11	14

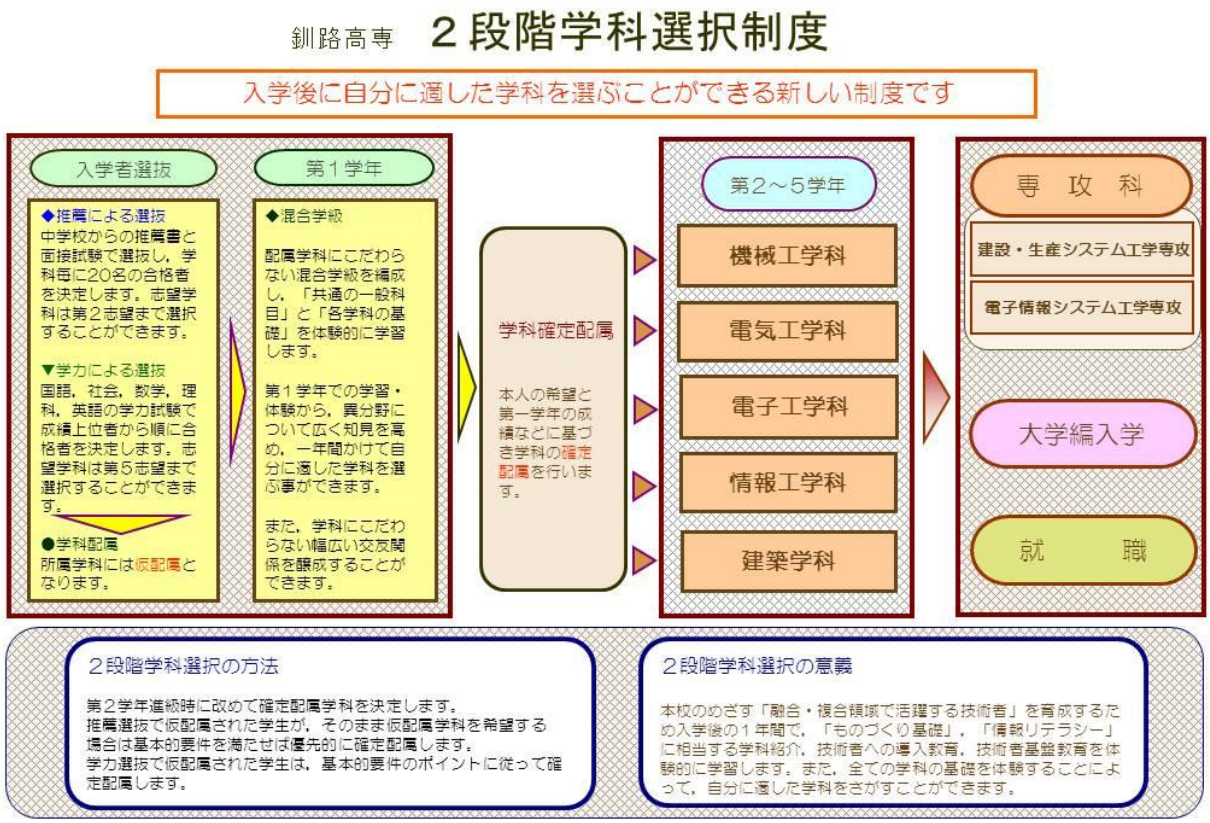


青:学力入学　実線:就職
赤:推薦入学　鎖線:大学進学
破線:専攻科進学
点線:その他

（出典　平成 23 年度 7 月教務委員会資料）

資料４－２－②－５

「２段階学科選択制度説明資料」



（出典　平成 20 年度校長による中学校訪問資料）

資料４－２－②－６

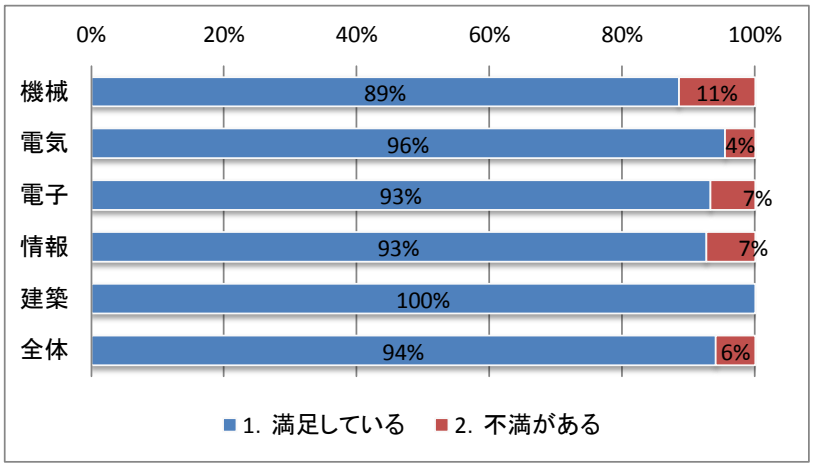
「２段階学科選択制度に関するアンケートの集計結果」（抜粋）

「前略」

２．確定配属の結果に満足していますか？

	１．満足している	２．不満がある	計
機械	31	4	35
電気	43	2	45
電子	42	3	45
情報	38	3	41
建築	38	0	38
全体	192	12	204

	１．満足している	２．不満がある	計
機械	89%	11%	100%
電気	96%	4%	100%
電子	93%	7%	100%
情報	93%	7%	100%
建築	100%	0%	100%
全体	94%	6%	100%



「以下略」

（出典　平成 23 年度７月教務委員会資料）

資料４－２－②－７

「専攻科入学者選抜方法の見直し」

「前略」

２．審議事項

（１）平成 21 年度専攻科募集要項について　（資料２）

専攻科長より，３月に開催された平成 19 年度第 15 回専攻科委員会において，学力選抜試験時に行われていた面接を廃止することで審議了承されているが，アドミッションポリシーの確認をどのように行うかについては継続審議であった旨説明があった。

このことを踏まえ，資料２の様式に基づき，専攻科出願時において「小論文」によりアドミッション・ポリシーの確認をすることとし，以下のような取り扱いとしたい旨提案があり，審議の結果了承された。

「以下略」

（出典　平成 20 年度４月第２回専攻科委員会議事概要）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程の入学者選抜に関しては，入学生へのアンケート集計結果を審議し，検証している。教務委員会では，準学士課程卒業生の成績逆追跡調査データを提出し，推薦選抜，学力選抜それぞれによる入学者の５年間の成績推移，卒業後の進路などを提供している。

本校は平成 21 年度入学生から「２段階学科選択制度」を採用している。毎年アンケートを実施しているが，２段階学科選択によって希望の学科に配属される学生の高い満足度が得られている。

専攻科の入学者選抜においては，入学試験委員会において合否判定基準の見直しが行われている。

これらのことから，入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており，その結果を入学者選抜の改善に役立てている。

観点４－３－①：　実入学者数が，入学定員を大幅に超える，又は大幅に下回る状況になっていないか。また，その場合には，これを改善するための取組が行われる等，入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

（観点に係る状況）

過去５年間の準学士課程の入学者数の一覧を資料４－３－①－１に示す。平成 23・24 年度に定員を確保できなかった学科がある。特に，建築学科においては，定員の２割以上の欠員を生じている。本校は，主として北海道東部の中学校卒業生を受け入れているが，これらの地区はいずれも 15 歳人口減少が著しく（資料４－３－①－２），釧路市内においては公立高校においても定員確保が精一杯の状況である（資料４－３－①－３）。このため，中学生の学習意欲減退，学力低下が大きな社会問題となっている（資料４－３－①－４）。また，地域経済も疲弊しており，保護者の教育への関心の薄れ，教育費用の減少も問題となっている。このような中，平成 18 年度には入試企画室を設置し（資料４－３－①－５），入学者数確保のための広報活動に力を入れている（資料４－３－①－６）。定員を確保できない学科が出ているものの，釧路地区からの入学生は減少していないことから（資料４－３－①－７），地

道な入試広報活動の効果が出てきたものと判断している。

過去５年間の第４学年編入学者数の一覧を，資料４－３－①－８に示す。編入学の募集は若干名であり，定員は設けていない。

過去５年間の専攻科入学者数の一覧を，資料４－３－①－９に示す。年度により入学者数に大きなばらつきがあるが，ほぼ目標を達成していると考えている。１学年に 40 名の在籍を見込み，専攻科の計算機演習室には 45 台の PC を用意したり，実験機器の拡充を図るなど，教育等に支障が生じないよう，施設・設備に配慮している。

本校では，これまで私費留学生の編入学実績はない。

資料４－３－①－１

「過去５年間の志願者数・入学者数の推移」

◎志願者・入学者数

	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数
機械工学科	40	42	35	42	35	42	39	37
電気工学科	39	45	47	40	38	40	53	40
電子工学科	69	42	49	42	47	43	45	40
情報工学科	73	41	50	42	73	41	40	37
建築学科	47	42	40	40	57	42	30	29
計	268	212	221	206	250	208	207	183

（出典　学生課作成資料）

資料４－３－①－２

「釧路学区の中卒者数の見込み」（抜粋）

地域別検討協議会学区別検討資料（釧路学区）　資料9

釧路学区高校配置計画の見込み

区　分	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H31-H24	H31-H27
学区内中卒者数	2,238	2,175	2,118	1,996	2,016	2,062	1,972	1,943	▲ 295	▲ 53
対前年度増減		▲ 63	▲ 57	▲ 122	+ 20	+ 46	▲ 90	▲ 29		
釧路市中卒者数	(1,594)	(1,565)	(1,515)	(1,454)	(1,432)	(1,522)	(1,424)	(1,405)	▲ 189	▲ 49
対前年度増減		▲ 29	▲ 50	▲ 61	▲ 22	+ 90	▲ 98	▲ 19		

（出典　平成 24 年度公立高等学校配置計画地域別検討協議会（釧路会場）資料）

資料４－３－①－３

「平成 24 年度釧路管内における高等学校の定員及び欠員」

2　定員及び欠員（平成２４年度）　　＊市町村立

	全日：普		全日：職		定時		計	２４年度欠員		
	CL	定員	CL	定員	CL	定員		全普	全職	定時
釧路湖陵	6	240			1	40	280	-1		13
釧路江南	6	240					240			
釧路東	4	160					160	19		
釧路明輝	5	200					200	-2		
釧路商業			5	200			200		7	
釧路工業			6	240	2	80	320			62
阿寒	1	40					40	1		
＊釧路北陽	6	240					240			
白糠	3	120					120	15		
標茶	3	120					120	32		
弟子屈	2	80					80	24		
厚岸翔洋	1	40	1	40			80	10	6	
＊霧多布	1	30					30	4		
公立計	38	1,510	12	480	3	120	2,110	102	13	75
武修館		140					140			
釧路高専			5	200			200			
合計	38	1,650	17	680	3	120	2,450	102	13	75
割合		73.7		30.4		5.4	109.5			

（出典　平成 24 年度公立高等学校配置計画地域別検討協議会（釧路会場）資料）

資料４－３－①－４

「基礎学力問題研究議員連盟　第２回勉強会」

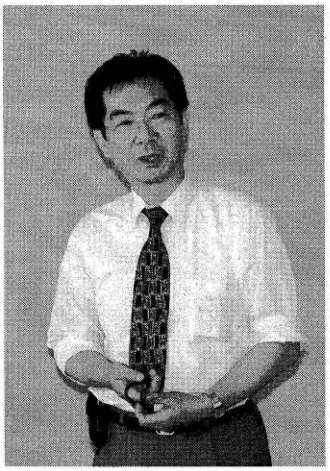
H23.9.11（日）　釧路新聞（13 面）

学力向上に地域、保護者の意欲

釧路市議の議連勉強会

釧路高専副校長が強調

釧路市議会議員有志でつくる基礎学力問題研究議員連盟（月田光明代表）の第2回勉強会が10日、釧路市役所で行われ、釧路工業高等専門学校電子工学科教授の中村隆副校長が「釧路高専創立50年の歴史と未来に向けての展望」と題し講演し、子どもたちの学力向上には地域や保護者の教育意欲を高める必要があると述べた。



同議連は会派を超えた11人で構成。年4回程度の勉強会を開き、任期中の条例提案などを検討している。中村副校長は釧路市生まれで1987年から同校に勤務している。

同校は65年に開校し、現在は5学科を設置。中村副校長は高専が5年間の本科を経て2年間の専攻科修了で大学卒業と同様に学士が取得できるとした上で、大学・大学院への編入も可能と説明した。

大学と比較して学費が安いことや、求人倍率は10倍を超えほぼ100％という就職状況の良さ、大学編入を希望する学生は専門分野を意識した「入れるではなく行きたい大学」を選べる学力の高さを強調。推薦枠を定員の半数に設定したり、学科を2年次に決めるといった柔軟な対応を進めていることも示した。

「地域や保護者の意欲がないと学力は向上しない」と中村副校長

一方で、同校は全国の他高専と比較して学生の学力が低いと指摘。背景として少子化に加え他都市と比べ公立高校の間口が広く、全入する無競争環境などを挙げ「学生の質が落ちると就職にも影響し、釧路高専の存在意義が問われかねない」と危機感をあらわにした。中村副校長は「地域や保護者に教育意欲がなければ学力は向上しない。子どもたちが前向きに勉強できる環境づくりが重要。『平等』とは機会に関してであり、結果の平等ではないことを認識してほしい」と訴えていた。

（河辺由記子）

（出典　平成 23 年 9 月 11 日（日）釧路新聞 13 面記事）

資料４－３－①－５

「入試広報活動ワーキンググループ（入試企画室）の設置」

６．その他

委員長から，審議事項の冒頭でも述べたように入試倍率や入学者確保は学校として重要なことであるため，今年度の入試広報活動については新たにワーキンググループを入学試験委員会の下に設置し，斬新なアイデアで入学希望者の増加につながる諸々の活動を検討し提案していただくこと，又，可能なところから今年度の入試広報活動に反映させていくことを考えており，中村先生を中心に３～４名程度での設置を予定しているので協力願いたい旨の発言があり，審議の結果，了承された。

なお，今回委員会で審議した事項はあくまで大枠であり，ワーキンググループにおいて微調整もありうること及び，ワーキンググループで出された答申は校長から入学試験委員会へ提案することとしたい旨の補足があった。

（出典　平成 18 年５月第１回入学試験委員会議事要録）

資料４－３－①－６

「平成 23 年度入試企画室活動報告書　目次」（抜粋）

目　次

はじめに

1．今年度の入試広報概要

2．様々な媒体を通した広報活動

2－(1)．広報印刷物の作成

2－(2)．ホームページ

2－(3)．新聞広告

2－(4)．道新受験情報誌への広告掲載

2－(5)．入試広報グッズ

2－(6)．本校学生の出身中学校への情報提供

3．校長による中学校訪問

4．中学校教諭及び塾講師への広報活動

4－(1)．教員による中学校訪問

4－(2)．学習塾訪問

4－(3)．入試懇談会

5．「総合的な学習の時間」等での PR

5－(1)．中学校主催説明会

5－(2)．中学校による高専訪問

5－(3)．高校調べ

5－(4)．出前授業との連携

6．釧路高専主催のイベント等

6－(1)．オープンキャンパス

6－(2)．体験教室

6－(3)．中学校へのイベント案内方法

6－(4)．ダイレクトメールの方法

6－(5)．協力学生への謝礼

7．釧路高専の受験を検討している中学生への広報活動

7－(1)．学校説明会

7－(2)．道内国立高専合同入試説明会

7－(3)．進学フェア

8．その他

8－(1)．デザコン・ＣＡＤコンと連携した入試広報

8－(2)．公立高等学校配置計画地域別検討協議会への参加

8－(3)．十勝地区への広報強化について

9．総括

（出典　平成 23 年度入試企画室活動報告書）

資料４－３－①－７

「過去５年間の出身地別志願者・入学者数」

区分		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
釧路	志願者数	147	133	150	119	138
	入学者数	121	122	122	103	117
根室	志願者数	22	7	20	13	7
	入学者数	19	6	19	13	6
十勝	志願者数	38	41	39	40	31
	入学者数	26	40	35	37	29
網走	志願者数	26	18	13	15	17
	入学者数	24	17	11	11	12
その他	志願者数	23	22	27	20	28
	入学者数	21	21	21	19	20

（出典　学生課作成資料）

資料４－３－①－８

「過去5年間の準学士課程4年次編入学生数」

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
機械工学科	1			1	
電気工学科					
電子工学科	1				
情報工学科		1		1	
建築学科		4	1	1	2

（出典　学生課作成資料）

資料４－３－①－９

「過去５年間の専攻科入学生数」

専攻名	定員	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
建設･生産システム工学	8	9	8	9	15	9
電子情報システム工学	12	32	17	19	27	15

（出典　学生課作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，平成 23・24 年度に定員を確保できなかった学科があるものの，釧路地区からの入学生は減少していないことから，地道な入試広報活動の効果が出てきたものと判断している。

編入学の募集は若干名であり，定員は設けていない。

過去５年間の専攻科入学者数は，年度により入学者数に大きなばらつきがあるが，ほぼ目標を達成していると考えている。１学年に 40 名の在籍を見込み，教育等に支障が生じないよう，施設・設備に配慮している。

これらのことから，実入学者数が，一部の学科において入学定員を下回る状況になっているが，これを改善するための取組が行われる等，入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

特になし。

（改善を要する点）

一部の学科で入学定員を下回る状況となっているので，改善が必要である。

（３）基準４の自己評価の概要

準学士課程１学年への入学においては，アドミッション・ポリシーが中学生に判りやすい表現を用いて明確に定められ，募集要項，学校案内，高専の参考資料などの印刷物やホームページに掲載し，入試広報活動において，中学生や保護者，進路担当教員等にこれらの資料を配布・説明している。

準学士課程４学年への編入学においては，アドミッション・ポリシーが高校生を対象とした文章で明確に定められ，編入学募集要項やホームページに掲載し公表している。

専攻科課程１学年への入学においては，アドミッション・ポリシーが高専の高学年を対象とした文章で明確に定められ，専攻科募集要項やホームページに掲載し公表している。

私費留学生の第３学年への編入学においては，アドミッション・ポリシーは高等専門学校機構が作成する募集要項に掲載している。

準学士課程１学年への入学者選抜方法としては，推薦選抜と学力選抜がある。推薦選抜，学力選抜ともに受験生がアドミッション・ポリシーに沿った資質を持っているかどうかを確認している。合否判定基準が定められており，入学試験委員会において合否判定を実施している。

準学士課程４学年への編入学者選抜においては，アドミッション・ポリシーに従い学力試験と面接試

験を実施している。面接試験では，アドミッション・ポリシーに沿った面接を実施している。

専攻科課程１学年への入学者選抜試験としては，推薦選抜試験と学力選抜試験，社会人特別選抜試験がある。いずれの選抜においても，アドミッション・ポリシーに沿った資質を持っているかどうかを確認している。専攻科の入学試験の合否判定基準が定められており，入学試験委員会において合否判定を実施している。

準学士課程の入学生へのアンケートを実施し，集計結果によって入学者の意識調査，入試広報の効果，入試方法の検証を行っている。教務委員会では，準学士課程卒業生の成績逆追跡調査データを提出し，推薦選抜による入学者，学力選抜による入学者それぞれの５年間の成績推移，卒業後の進路などを示しており，どのような学生が入学してきているか，理解できるようにしている。

本校は平成 21 年度入学生から「２段階学科選択制度」を採用している。毎年アンケートを実施しているが，２段階学科選択によって希望の学科に配属される学生の高い満足度が得られている。

本校では，平成 23・24 年度に定員を確保できなかった学科がある。特に，建築学科においては，定員の２割以上の欠員を生じている。平成 18 年度には入試企画室を設置し，入学者数確保のための広報活動に力を入れている。定員を確保できない学科が出ているものの，釧路地区からの入学生は減少していないことから，地道な入試広報活動の効果が出てきたものと判断している。

過去５年間の専攻科入学者数は，年度により入学者数に大きなばらつきがあるものの，ほぼ目標を達成していると考えている。１学年に 40 名の在籍を見込み，教育等に支障が生じないよう，施設・設備に配慮している。

基準５　教育内容及び方法

（１）観点ごとの分析

＜準学士課程＞

観点５－１－①：　教育の目的に照らして，授業科目が学年ごとに適切に配置され，教育課程が体系的に編成されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

高専は，国際化・情報化が進む中，社会情勢や産業構造の変化に伴い実践的・創造型技術が求められており，学生自らが自発的，能動的に学習する意欲を持つ教育が必要とされている。そのために平成21年度からの入学生に対して２年進級時に学科を再度選択できる「２段階学科選択制度」を導入した（資料５－１－①－１，２）。１年次では，技術者として最低限必要となる基礎能力の育成と学科再選択の参考となるように基礎専門的な科目を配した（資料５－１－①－３）。

２年次以降については，各専門学科の教育上の目的に従い，専門教育を重視しつつ，学生の心身・学力の発達に合わせて一般科目と専門科目を楔形に配置する教育課程を編成している。（資料５－１－①－４）各学科ともに低学年においては一般科目が多く配置され，専門科目は２年で10単位程度，高学年の５年では30単位前後であり，学年ごとに適切に配置されている（資料５－１－①－５，６，７）。

また，資料５－１－①－８に示すように，学習目標の各項目に対してバランス良く配置されており，専門科目は，学科ごとに定める実践的技術者として備えるべき内容・水準が達成されるように，各学年において取得すべき単位数が設定されており，また，職業に必要な実践的な能力を養成するために，実験・実習・製図に関する科目を適切に配置するとともに，卒業研究等による創造型・問題解決型教育も設定されている。

資料５－１－①－１

臨時運営会議　議事概要

日　　時　　平成２０年５月９日（金）　１６時３８分～１８時０３分
出 席 者　　１８名
欠 席 者　　１名

◎その他

１．科学研究費補助金採択状況について

校長から，全国高専の科学研究費補助金採択状況について資料２に基づき説明があった。

◎審議事項

１．学科再選択制度について

中村副校長から，資料１-1～１-4に基づき新しい入学制度（２段階学科選択制度）の素案等についての説明があり，引き続き校長から，４月定例運営会議において，本件を実施すること及び来年４月の実施に向け具体的内容等について検討を開始することが了承されたことを受け，素案を作成した旨が述べられた。

その後内容について審議が行われ，本会議で出された意見等を踏まえ，資料を一部修正し，５月１２日（月）開催の教員会議に諮ることで了承された。

なお，教員会議の開催時間について，予定されていた開始時間がオフィスアワーの時間となっているため，２０分繰り下げて１６時２０分からとすることとなった。

以　上

（出典：運営会議議事録）

資料５－１－①－２

教員会議　議事概要

日　　時　　平成２０年　５月１２日（月）　１６時２３分～１７時３３分
出 席 者　　６４名
欠 席 者　　１２名

議　題

１．学科再選択制度について

校長から，前回の教員会議で出された質問・意見（制度実施の意義，実施時期の延伸）を踏まえ，臨時の校長補佐会及び運営会議で審議・検討した結果，中学生の減少や第２期中期計画の開始など，本校を取り巻く状況の厳しさに鑑み，様々な調整の難しさはあるが平成２１年４月から実施すべきであるとの結論に達したこと，また，制度実施の意義についても，志願者の減少に対応するためというよりは，教育システムを改善し，学生のやる気を引き出すための改革であるという認識で一致したことの説明があった。

さらに，時間が限られていることから，問題点・疑問点等があればすぐに検討・修正しながら，実施のための作業を進めていきたい旨が述べられ，引き続き意見交換が行われた。

その後校長から，この制度の実施は，本校が良い教育を行う高等教育機関であることを社会・地域に認知させるための第一歩であり，今後，専攻科の充実や学科についての検討などを行っていく必要があると考えているので，協力願いたい旨が述べられた。

（出典：教員会議議事録）

資料５－１－①－３

ものづくり基礎と技術者リテラシーについて

１　ものづくり基礎

各学科において，２テーマを用意し，１年間で２回各学科を経験する．
・学科を紹介する．（人気取りではなく，将来像を明確に示す．）
・工学の楽しさを植えつける．（技術者で行こう，という気にさせる．）
という点に重点を置く．
各学科が担当し，学科代表者により連絡会議を持ち，成績決定する．

週４時間（通年）の４単位を割り当てる．
週のうち，１日の午前の４時間をものづくり基礎とする．
１テーマは３週で完結する．（前後期それぞれで５学科すべてを１回ずつ経験する）
３０週を授業時間として確保するため，ＬＨＲを科目ガイダンスとして利用する．

資料５－１－①－３（続き）

２　技術者リテラシー
技術者教育のための「基礎の基礎」の部分とする.
・コンピュータリテラシー
・データ処理
・レポート作法
・プレゼンテーション技法
・技術者倫理
などが考えられる.

週２時間（通年）の２単位を割り当てる.
うち前期に集中して１単位をコンピュータリテラシー，後期１単位を「技術者基礎」とする.
コンピュータリテラシーは各学科から担当者を出し，５クラスを分担する.
技術者基礎も同様に各学科から担当者を出し，５クラスを分担する.
※これら２単位は，実習形式となるため，専攻科生のＴＡ，助手を加えた指導体制とする.

具体的な教育内容については，担当者で決定する.
（案）
コンピュータリテラシー
　ネットワークセキュリティ
　文書作成（ＷＯＲＤ）
　表計算（ＥＸＣＥＬ）
　プレゼンテーション（ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔ）
技術者基礎
　課題設定→調査研究→発表・討論→レポート作成
　数値データ（群）の提示→データ解析→グラフ作成→発表
　現代の技術的課題，技術者倫理問題の提示→グループ・クラス討論→レポート作成

（出典：平成 22 年 7 月　教務委員会資料（抜粋））

資料５－１－①－４

一般教育科及び専門学科の教育目標と概要

釧路高専TOP > 学ぶ･学習･学科案内 > 一般教育科 > 教育上の目標と概要

一般教育の概要

現代の複雑な科学技術の社会では深い教養に根差した総合的な判断が重要であり，「自ら進んで学び，考える態度」を育成する必要があります。このために，5年間一貫教育の利点を生かし，学生の心身の発達に合わせて重点的，効率的に指導できるように科目を配置しています。

低学年では学習意欲を高め，専門科目の履修に必要な基礎知識，学力が十分身につく指導を，高学年では将来の様々な進路に対応できるような広い視野に立った人間を育てる教育を行います。

釧路高専TOP > 学ぶ･学習･学科案内 > 機械工学科 > 教育上の目標と概要

教育上の目標

機械工学科は，機械設計製図（CADを含む），機械工作法，材料力学，熱･流体工学･機械力学等の機械工学に関する十分な基礎力と応用力を身につけ，これらを活用した創造的能力をもち，さらにコミュニケーション能力及びデザイン能力を持つ人材を育成することを目的とする。

機械工学科の概要

機械工学科は，工作機械をはじめ各種産業機械，石油･ガス製造プラント，冷凍空調設備，電子･通信機器，航空機，自動車等の分野で設計，製造管理，研究開発の技術者として活躍できるような，ものづくりに関する基礎理論と実験･実習を重視した教育を行っています。

低学年では，基礎科目である工業力学，機械設計法，機械工作法，機械設計製図及び機械加工に必要な基礎実技をとり入れた工作実習などの専門教育が行われます。

3学年，4学年では，専門科目で履修する理論を確認する工学実験が，生産工学･機械力学･機械材料･制御情報･熱工学･流体の各研究室で行われます。また，CADなど電子計算機の演習を含んだ専門科目についても学習します。各研究室には，プログラムに従って自動的に切削加工するNC工作機械や，理論では解明の難しい構造物にかかる力の解析ができる光弾性実験装置，バイオガスの高効率利用等について研究する衝撃波管，材料の性質を究明するためのレーザー顕微鏡，3次元設計システムからプラスチック模型を作る光造形装置，道東地域の課題を対象とする環境エネルギー機器，高速現象の解明に役立つ高速度カメラなど最新の機器･測定器が整備されています。

5学年では，自分の将来に役立つ選択科目と卒業研究があります。卒業研究では，指導教員のもとで1年間にわたり各自のテーマについて研究が行われます。優秀な卒業研究は，機械学会学生会の卒業研究発表会に発表されます。また，在学中に危険物などの国家資格の取得が可能で，卒業生は国内外の産業界の広い分野で活躍しております。

資料５－１－①－４（続き）

教育上の目標

電気工学科は，エネルギー，情報通信，制御等の電気工学に関する十分な基礎力と応用力を身につけ，これらを活用した複合領域に対応した応用力と問題解決能力を持ち，さらに，他の技術者と連携した活動ができるコミュニケーション能力を持つ人材を育成することを目的とする。

電気工学科の概要

電気エネルギーはあらゆる産業の基盤であり，電気技術者は，産業界のあらゆる分野から求められています。このような広い分野に携わる技術者を育成するために，基礎科目を中心に実力の涵養をはかりながら，幅広く専門分野の知識が修得できるように配慮しています。

電気工学の専門分野は多岐にわたり，電気エネルギー･電気機械部門，電子･通信部門，計測制御･電子計算機･情報処理部門等を総合的に履修し，学生各自の希望に応じて履修できる選択科目も取り入れています。また，実験実習にも力を入れ，基礎実験から最新の技術研究実験まで，在学中に15単位の実験を行っています。特に，卒業研究では，自主的に研究を進め，問題を解明する能力の養成を期し，創造性の豊かな優秀な技術者を目指しています。

本校は，電気主任技術者の学校認定を受けており，所定の科目を修得し，卒業後の実務経験年数等により無試験で資格を得られます。これは電気工学科だけにある特典です。

電気工学科の卒業生は，産業界のあらゆる分野，電力･電気機械･照明関係，電子･通信･電子計算機関係，機械･建築･化学関係など多方面に活躍しています。本校で厳しく鍛えられた卒業生に対する社会評価は高く，電気工学関連の広い知識を修得した卒業生は，自信を持って各自の望む方面に進むことができます。

資料５－１－①－４（続き）

釧路高専TOP > 学ぶ・学習・学科案内 > 電子工学科 > 教育上の目標と概要

教育上の目標

電子工学科は，電子デバイス，電子制御，情報通信等の電子工学に関する十分な基礎力と応用力を身につけ，これらを活用した自発的な問題発見能力を持ち，さらに，専門分野との関連の上に自ら課題を創出する高いデザイン能力を持つ人材を育成することを目的とする。

電子工学科の概要

最近の日常生活において，何気なく使用している製品で，トランジスタとかICと呼ばれるエレクトロニクス部品を用いていないものはほとんどありません。電話・ラジオ・テレビそして電子計算機はいうまでもなく，船や飛行機そして新幹線等もエレクトロニクスを駆使した通信，計測等の技術なくしては動かすことはできません。さらに工場のオートメーション，鉄道や飛行機の座席の予約，医療診断の技術，あるいは銀行やデパートの業務にいたるまで我々の文明社会はエレクトロニクスによって支えられていると言っても過言ではありません。さらに現在では，マイクロコンピュータあるいはパーソナルコンピュータがあらゆる製品，あらゆる職場で使われるようになりました。

したがって，電子工学科卒業後の就職の道は単に通信機や電子計算機の専門メーカー，あるいは放送局といったエレクトロニクス優先の職場のみにとどまらず，広く産業界に開かれています。

このため，電子工学科の教育課程は，このような多様な社会にエレクトロニクスを通じて参加できるように，主として情報・通信，電子デバイス，計測・制御の3つを柱として作られています。また，これらの授業が単に知識だけに終わることのないよう実験実習に力を入れて，理論と同時に技術面にも強い行動的技術者を生み出すことを主眼としております。実験実習では主に回路の設計・製作，半導体素子の製作・性能評価及びコンピュータのソフトウェア・ハードウェアに関する高度の技術を修得できることを目標としています。

電子工学科学生または卒業生が主に受験している資格試験には，AR 検定，デジタル技術検定，情報処理技術者などがあります。

釧路高専TOP > 学ぶ・学習・学科案内 > 情報工学科 > 教育上の目標と概要

教育上の目標

情報工学科は，情報化社会に寄与することのできる情報工学及び情報技術に関する十分な基礎力と応用力を身につけ，これらを活用した問題解決能力を持ち，さらに，国際社会に貢献できる高いモラルとコミュニケーション能力を持つ人材を育成することを目的とする。

情報工学科の概要

コンピュータの急速な普及と発展に伴い，その利用分野は初期の大量事務処理，科学技術計算等の機能から判断・意思決定などの高度な活用へと進展し，さらに通信技術の発展とあいまってデータベースやオンラインシステムによる各種情報産業の出現となり，世の中はまさに高度情報化社会になったといえます。

このような状況にあって，本校における情報工学科は，数学，物理等の一般科目や電気・電子工学を基礎にして，コンピュータを用いた計算・通信・制御等の情報処理技術を実験，実習に重点をおいて教育し，現在の情報化社会，特に科学技術・生産・経営・管理・流通・医療・教育等の諸分野において不足している「ソフトウェア
に強い実践的コンピュータ技術者」の養成を目的として設置されました。

したがって，教育課程は，ハードウェア技術に関しては基礎的知識程度にとどめ，ソフトウェア教育に主力をおいています。その内容は計算機の動作原理を中心とするハードウェア技術の基本を学んだ上で，特にプログラミング技法やコンパイラの作成，そしてOS 構造等を核とするソフトウェア技術の基礎力育成に力点をおき，さらに進んでネットワーク・グラフィック・シミュレーション・信号処理・データベース等の応用技術をも修得できるように編成してあります。また，これら専門科目学習の集大成として，7単位の卒業研究に取り組ませて科学研究に対する手法や姿勢を養うとともに，将来ソフトウェア開発やシステム技術に従事するときに必要な独創力の素地を培うようにしています。このような教育方針による情報工学を，一般教養科目と整合させつつ，かつ，クラブ活動や各課外行事を含む高専の少人数による5年間の一貫教育の中で，きめ細かく教授することによって，他の教育機関では得られない人間性豊かな，かつ，はつらつとして実力のある若き情報処理エンジニアを生み出すことが本学科の目的です。

資料５－１－①－４（続き）

釧路高専TOP > 学ぶ･学習･学科案内 > 情報工学科 > 教育上の目標と概要

教育上の目標

情報工学科は，情報化社会に寄与することのできる情報工学及び情報技術に関する十分な基礎力と応用力を身につけ，これらを活用した問題解決能力を持ち，さらに，国際社会に貢献できる高いモラルとコミュニケーション能力を持つ人材を育成することを目的とする。

情報工学科の概要

コンピュータの急速な普及と発展に伴い，その利用分野は初期の大量事務処理，科学技術計算等の機能から判断･意思決定などの高度な活用へと進展し，さらに通信技術の発展とあいまってデータベースやオンラインシステムによる各種情報産業の出現となり，世の中はまさに高度情報化社会になったといえます。
このような状況にあって，本校における情報工学科は，数学，物理等の一般科目や電気･電子工学を基礎にして，コンピュータを用いた計算･通信･制御等の情報処理技術を実験，実習に重点をおいて教育し，現在の情報化社会，特に科学技術･生産･経営･管理･流通･医療･教育等の諸分野において不足している「ソフトウェア
に強い実践的コンピュータ技術者」の養成を目的として設置されました。
したがって，教育課程は，ハードウェア技術に関しては基礎的知識程度にとどめ，ソフトウェア教育に主力をおいています。その内容は計算機の動作原理を中心とするハードウェア技術の基本を学んだ上で，特にプログラミング技法やコンパイラの作成，そしてOS 構造等を核とするソフトウェア技術の基礎力育成に力点をおき，さらに進んでネットワーク･グラフィック･シミュレーション･信号処理･データベース等の応用技術をも修得できるように編成してあります。また，これら専門科目学習の集大成として，7単位の卒業研究に取り組ませて科学研究に対する手法や姿勢を養うとともに，将来ソフトウェア開発やシステム技術に従事するときに必要な独創力の素地を培うようにしています。このような教育方針による情報工学を，一般教養科目と整合させつつ，かつ，クラブ活動や各課外行事を含む高専の少人数による5年間の一貫教育の中で，きめ細かく教授することによって，他の教育機関では得られない人間性豊かな，かつ，はつらつとして実力のある若き情報処理エンジニアを生み出すことが本学科の目的です。

釧路高専TOP > 学ぶ･学習･学科案内 > 建築学科 > 教育上の目標と概要

教育上の目標

建築学科は，計画，構造，生産等の建築学に関する十分な基礎力と応用力を身につけ，これらを活用したトータルコーディネート能力を持ち，さらに創造的で柔軟性のある能力を持つ人材を育成することを目的とする。

建築学科の概要

建築学科の教育は，各種建築物のデザイン及び設計製図，設備設計，構造設計，施工管理等の技術者として産業界で活躍できるように建築物に関する設計理論と構造計算，また高度な設計製図の実技指導やコンピュータによるデザイン設計(CAD)が行われています。
低学年における主な学習内容は，製図に関する基本的な知識及び木造住宅の設計，インテリアや空間コーディネートのための演習，構造物の骨組に作用する力を解明する構造力学の学習などがあります。また，コンピュータの使用法の習得とそれを利用した設計のための情報処理演習や建築CADも学びます。
高学年では，各種建物の設計計画の原理，施工技術や管理などの建築生産，鉄筋コンクリート造及び鋼構造の構造設計，また建築物の技術的進歩過程を探る建築史，人命と建物の安全をチェックする建築法規，この外に都市計画，土質基礎工学，建築設備などの科目があります。特に5年目には専門の選択科目が用意され，自分に合
った科目を学習するシステムになっています。卒業研究は，設計製図を選択するコース(設計系)と，専門の実験研究等を行うコース(論文系)に分かれます。卒業設計については，日本建築学会主催の全国大学･高専卒業設計展示会に本校学生の作品も毎年出品，また建築学会北海道支部主催の道内卒業設計優秀作品の公募にも入選
しています。
建築学科の卒業生は，卒業した年に2級建築士の受験資格があり，また4か年の実務経験で1級建築士の受験資格があります。
卒業生の進路については，進学希望者には本校及び他高専の専攻科や豊橋･長岡両技術科学大学のほか，全国大学工学部への編入学の道も開かれています。就職先は，本州大手建設業並びに地元建設業，設備工事業，設計事務所，ハウスメーカー及び公務員など，産業界の各分野で優秀な技術者として活躍しています。

（出典　Webサイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?cat_id=3
（本校公式ウェブサイト））

資料５－１－①－５

「教育課程表」

■教育課程　Curriculum

	授業科目 Subjects		単位数 Credits	学年別単位数 Credits by Year 1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	備考 Notes
必修科目 Required Subjects	応用物理	Applied Physics	4			2	2		
	メカトロニクスⅠ	Mechatronics Ⅰ	1			1			
	※メカトロニクスⅡ	※Mechatronics Ⅱ	2				2		
	材料力学Ⅰ	Strength of Materials Ⅰ	2			2			
	材料力学Ⅱ	Strength of Materials Ⅱ	1				1		
	※機械力学	※Machine Mechanics	2				2		
	機械材料Ⅰ	Mechanical Materials Ⅰ	2			2			
	※機械材料Ⅱ	※Mechanical Materials Ⅱ	2				2		
	材料評価学	Materials Evaluation	1					1	
	熱力学Ⅰ	Thermodynamics Ⅰ	2				2		
	熱力学Ⅱ	Thermodynamics Ⅱ	1					1	
	コンピュータリテラシー	Computer Literacy	1	1					
	技術者基礎	Basis for Engineer	1	1					
	※伝熱工学	※Heat Transfer Engineering	2					2	
	流体工学Ⅰ	Fluid Mechanics Ⅰ	2				2		
	流体工学Ⅱ	Fluid Mechanics Ⅱ	1					1	
	※流体機械	※Fluid Machinery	2					2	
	機械工作法Ⅰ	Manufacturing Technology Ⅰ	1		1				
	機械工作法Ⅱ	Manufacturing Technology Ⅱ	2			2			
	生産工学	Production Engineering	1				1		
	工業力学	Engineering Mechanics	2		2				
	機械設計法Ⅰ	Mechanical Design Ⅰ	2			2			
	※機械設計法Ⅱ	※Mechanical Design Ⅱ	2				2		
	CAD	Computer Aided Design	1			1			
	CAD／CAM	CAD / CAM	1				1		
	※CAE	※CAE	2					2	
	※機械創造設計	※Machine Creative Design	2				2		
	機械設計製図Ⅰ	Machine Design and Drawing Ⅰ	2		2				
	機械設計製図Ⅱ	Machine Design and Drawing Ⅱ	2			2			
	※デジタルデザイン・コンペ	※Digital Design Competition	2					2	
	ものづくり基礎	Basis for Monozukuri	4	4					
	機械工学実習・実験Ⅰ	Mechanical Engineering Practice and Experiment Ⅰ	3		3				
	機械工学実習・実験Ⅱ	Mechanical Engineering Practice and Experiment Ⅱ	3			3			
	機械工学実習・実験Ⅲ	Mechanical Engineering Practice and Experiment Ⅲ	3				3		
	機械工学実習・実験Ⅳ	Mechanical Engineering Practice and Experiment Ⅳ	2					2	
	電気電子工学	Electrical Engineering	2				2		
	※制御工学	※Control Engineering	2					2	
	計測工学	Instrumentation Engineering	2					2	
	制御CAD	Control CAD	2					2	
	卒業研究	Graduation Research	7					7	
	修得単位小計	Subtotal of Credits Completed	81	6	8	17	24	26	
選択科目 Elective Subjects	学外実習Ⅰ	Extramural Practice Ⅰ	1					1	いずれか一方を選択することができる。 Can choose either.
	学外実習Ⅱ	Extramural Practice Ⅱ	2					2	
	応用数学基礎	Basis for Applied Mathematics	2				2		4年次編入生のみ選択すること。 Only Transferred Students to 4th-year must choose.
	応用数学A	Applied Mathematics A	4				4		4年次編入生以外は必ず選択すること。 Every Student Except Transferred Students to 4th-year must choose.
	応用数学B	Applied Mathematics B	4					4	4年次編入生のみ選択すること。 Only Transferred Students to 4th-year must choose.
	振動工学	Mechanical Vibrations	1					1	
	表面工学	Surface Engineering	1					1	
	応用流体工学	Applied Fluid Mechanics	1					1	
	生産システム工学	Production System	1					1	
	工業数学	Mathematics for Engineering	1					1	
	熱エネルギー工学	Thermal Energy Engineering	1					1	
	※知的財産	※Intellectual Property	2					2	
	応用数学Ⅱ	Applied Mathematics Ⅱ	1					1	
	開設単位小計	Subtotal of Credits Offered	22				(9)	(16)	
	修得単位小計	Subtotal of Credits Completed	5以上				5以上		
専門科目開設単位計		Total of Credits Offered in Specialized Subjects	103	6	8	17	(33)	(42)	
専門科目修得単位計		Total of Credits Completed in Specialized Subjects	86以上	6	8	17	55以上		
一般科目修得単位計		Total of Credits Completed in General Education	81以上	27	24	30以上			
修得単位合計		Total of Credits Completed	167以上	33	32	102以上			

※印は学則第14条第２項に定める単位を示す。　※Credits enacted by the School regulations 14-2

	授業科目 Subjects		単位数 Credits	学年別単位数 Credits by Year 1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	備考 Notes
選択科目 Elective Subjects	特別講義Ⅰ	Special Lecture Ⅰ	1						学年についてはフレキシブルに対応。 単位数については修得単位合計にのみ含まれる。 The year to be taken is not determined. Credits is included only in total of credits completed.
	特別講義Ⅱ	Special Lecture Ⅱ	2						
	特別講義Ⅲ	Special Lecture Ⅲ	3						
	特別講義Ⅳ	Special Lecture Ⅳ	4						

14

（出典　本校学校要覧ｐ１４）

資料５－１－①－５（続き）

■教育課程　Curriculum

	授業科目 Subjects		単位数 Credits	学年別単位数 Credits by Year 1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	備考 Notes
必修科目 Required Subjects	応用物理	Applied Physics	4			2	2		
	※情報処理	※Information Processing	2				2		
	電気磁気学	Electricity and Magnetism	4			2	2		
	電気回路Ⅰ	Electric Circuits Ⅰ	4		2	2			
	※電気回路Ⅱ	※Electric Circuits Ⅱ	1					1	
	ものづくり基礎	Basis for Monozukuri	4	4					
	※電気計測	※Electrical Measurement	2					2	
	電子工学	Electronic Engineering	2			2			
	電子回路	Electronic Circuits	3				※2	1	
	※電気材料	※Electrical Materials Engineering	2					2	
	電気製図	Electrical Drawing	3		3				
	電気機器Ⅰ	Electrical Machines Ⅰ	2			2			
	※高電圧工学	※High Voltage Engineering	2				2		
	送配電工学	Power Transmission and Distribution Engineering	2				2		
	※制御工学	※Control System	4				2	2	
	機械工学概論	Introduction to Mechanical Engineering	2		2				
	コンピュータリテラシー	Computer Literacy	1	1					
	技術者基礎	Basis for Engineer	1	1					
	電子計算機	Computer Science	4		2	2			
	電磁波工学	Electromagnetic Wave Engineering	1					1	
	電気工学実験Ⅰ	Electrical Engineering Experimentation Ⅰ	3			3			
	電気工学実験Ⅱ	Electrical Engineering Experimentation Ⅱ	3				3		
	電気工学実験Ⅲ	Electrical Engineering Experimentation Ⅲ	3				3		
	電気工学実験Ⅳ	Electrical Engineering Experimentation Ⅳ	3					3	
	電気工学実験Ⅴ	Electrical Engineering Experimentation Ⅴ	3					3	
	卒業研究	Graduation Research	8					8	
	修得単位小計	Subtotal of Credits Completed	73	6	9	15	20	23	
選択科目 Elective Subjects	※電気機器Ⅱ	※Electrical Machines Ⅱ	2				2		
	学外実習Ⅰ	Extramural Practice Ⅰ	1					1	いずれか一方を選択することができる。 Can choose either.
	学外実習Ⅱ	Extramural Practice Ⅱ	2					2	
	応用数学基礎	Basis for Applied Mathematics	2				2		４年次編入生のみ選択すること。 Only Transferred Students to 4th-year must choose.
	応用数学A	Applied Mathematics A	4				4		４年次編入生以外は必ず選択すること。 Every Student Except Transferred Students to 4th-year must choose.
	応用数学B	Applied Mathematics B	4					4	４年次編入生のみ選択すること。 Only Transferred Students to 4th-year must choose.
	※通信工学	※Communication Engineering	2					2	
	※電気法規・電気施設管理	※Laws of Electricity and Electric Facilities Administration	2					2	
	※発変電工学	※Power Generation and Transformation Engineering	1					1	
	※電気設計	※Electrical Machine Design	2					2	
	※電気応用	※Applied Electricity	2					2	
	※電気エネルギーシステム工学	※Electrical Energy System	2					2	
	※知的財産	※Intellectual Property	2					2	
	※人工知能	※Artificial Intelligence	2					2	
	※ソフトコンピューティング	※Soft Computing	2					2	
	応用情報処理	Applied Information Processing	1					1	
	シーケンス制御	Sequence Control	1					1	
	計測システム	Measurement System	1					1	
	※メカトロニクス	※Mechatronics	2					2	
	応用数学Ⅱ	Applied Mathematics Ⅱ	1					1	
	開設単位小計	Subtotal of Credits Offered	38				(11)	(30)	
	修得単位小計	Subtotal of Credits Completed	13以上				13以上		
専門科目開設単位計		Total of Credits Offered in Specialized Subjects	111	6	9	15	(31)	(53)	
専門科目修得単位計		Total of Credits Completed in Specialized Subjects	86以上	6	9	15	56以上		
一般科目修得単位計		Total of Credits Completed in General Education	81以上	27	24	30以上			
修得単位合計		Total of Credits Completed	167以上	33	33	101以上			

※印は学則第14条第２項に定める単位を示す。　※Credits enacted by the School regulations 14-2

	授業科目 Subjects		単位数 Credits	学年別単位数 Credits by Year 1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	備考 Notes
履修の特例 Exercise Subjects	特別講義Ⅰ	Special Lecture Ⅰ	1						学年についてはフレキシブルに対応。 単位数については修得単位合計にのみ含まれる。 The year to be taken is not determined. Credits is included only in total of credits completed.
	特別講義Ⅱ	Special Lecture Ⅱ	2						
	特別講義Ⅲ	Special Lecture Ⅲ	3						
	特別講義Ⅳ	Special Lecture Ⅳ	4						

17

（出典　本校学校要覧ｐ１７）

資料５－１－①－５（続き）

■教育課程　Curriculum

	授業科目 Subjects		単位数 Credits	学年別単位数 Credits by Year 1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	備考 Notes
必修科目 Required Subjects	応用物理	Applied Physics	4			2	2		
	電子工学総合演習	General Exercise of Electronic Engineering	2		2				
	電子工学基礎	Basis for Electronic Engineering	1		1				
	コンピュータリテラシー	Computer Literacy	1	1					
	技術者基礎	Basis for Engineer	1	1					
	ものづくり基礎	Basis for Monozukuri	4	4					
	情報基礎	Basis for Information	1		1				
	プログラム言語 I	Program Language I	2			2			
	プログラム言語 II	Program Language II	1				1		
	電磁気学 I	Electricity and Magnetism I	1			1			
	電磁気学 II	Electricity and Magnetism II	1				1		
	電磁気学 III	Electricity and Magnetism III	1				1		
	電磁気学 IV	Electricity and Magnetism IV	1					1	
	電気回路 I	Electric Circuits I	2		2				
	電気回路 II	Electric Circuits II	2			2			
	電気回路 III	Electric Circuits III	2				2		
	電子回路 I	Electronic Circuits I	2			2			
	電子回路 II	Electronic Circuits II	1				1		
	電子回路 III	Electronic Circuits III	1				1		
	電子材料 I	Physics of Electronic Devices I	1				1		
	論理回路 I	Logical Circuits I	2			2			
	論理回路 II	Logical Circuits II	1				1		
	演算工学	Engineering for Computation	1					1	
	電磁波工学	Electromagnetic Wave Engineering	1					1	
	コンピュータシステム実習	Computer System Practice	1				1		
	※制御工学	※Control System	2					2	
	半導体工学 I	Physics of Solid State Engineering I	1					1	
	※電子計測	※Electronic Measurement	2					2	
	※通信網工学	※Communication Network Engineering	2					2	
	※通信伝送工学	※Communication Transmit Engineering	2					2	
	電子工学特論	Electronic Engineering	1					1	
	回路設計基礎演習	Basic Seminar for Circuit Design	1		1				
	創造工学	Creative Engineering	2		2				
	電子工学実験 I	Electronic Engineering Experimentation I	1		1				
	電子工学実験 II	Electronic Engineering Experimentation II	2			2			
	電子工学実験 III	Electronic Engineering Experimentation III	3			3			
	電子工学実験 IV	Electronic Engineering Experimentation IV	2				2		
	電子工学実験 V	Electronic Engineering Experimentation V	2				2		
	数値解析	Numerical Analysis	2				2		
	工学課題実験	Engineering Assignment Experimentation	2				2		
	卒業研究	Graduation Research	8					8	
	修得単位小計	Subtotal of Credits Completed	78	8	10	18	20	21	
選択科目 Elective Subjects	学外実習 I	Extramural Practice I	1					1	いずれか一方を選択することができる。 Can choose either.
	学外実習 II	Extramural Practice II	2					2	
	※光エレクトロニクス	※Optical Electronics	2					2	
	※メカトロニクス	※Mechatronics	2					2	
	応用数学基礎	Basis for Applied Mathematics	2				2		4年次編入生のみ選択すること。 Only Transferred Students to 4th-year must choose.
	応用数学 A	Applied Mathematics A	4				4		4年次編入生以外は必ず選択すること。 Every Student Except Transferred Students to 4th-year must choose.
	応用数学 B	Applied Mathematics B	4					4	4年次編入生のみ選択すること。 Only Transferred Students to 4th-year must choose.
	電磁気学 I B	Electricity and Magnetism I B	1				1		4年次編入生のみ選択すること。 Only Transferred Students to 4th-year must choose.
	電磁気学 II B	Electricity and Magnetism II B	1					1	
	電磁気学 III B	Electricity and Magnetism III B	1					1	
	電気回路 II B	Electric Circuits II B	2				2		
	ディジタル信号処理 B	Digital Signal Processing B	1					1	
	電子回路 I B	Electronic Circuits I B	2				2		
	応用情報処理	Applied Information Processing	1					1	4・5年次のいずれか一方の学年で選択できる。 Can choose either 4th or 5th.
	シーケンス制御	Sequence Control	1					1	
	計測システム	Measurement System	1					1	
	※ディジタル信号処理	※Digital Signal Processing	2					2	
	※ハードウェア記述言語	※Hardware-Describing Language	2					2	
	※電子材料 II	※Physics of Electronic Devices II	2					2	
	※デバイス工学	※Device Engineering	2					2	
	※半導体工学 II	※Physics of Solid State Engineering II	2					2	
	※画像工学	※Image Engineering	2					2	
	※アルゴリズム	※Algorithm	2					2	
	※電気応用	※Applied Electricity	2					2	
	※電気エネルギーシステム工学	※Electrical Energy System	2					2	
	※知的財産	※Intellectual Property	2					2	
	※人工知能	※Artificial Intelligence	2					2	
	※ソフトコンピューティング	※Soft Computing	2					2	
	※電子機器	※Electronic Equipment and Apparatus	2					2	
	応用数学 II	Applied Mathematics II	1					1	
	開設単位小計	Subtotal of Credits Offered	55				(17)	(44)	
	修得単位小計	Subtotal of Credits Completed	13以上				13以上		
専門科目開設単位計		Total of Credits Offered in Specialized Subjects	128	8	10	18	(37)	(65)	
専門科目修得単位計		Total of Credits Completed in Specialized Subjects	86以上	8	10	18	54以上		
一般科目修得単位計		Total of Credits Completed in General Education	81以上	27	24	30以上			
修得単位合計		Total of Credits Completed	167以上	33	34	100以上			

※印は学則第14条第2項に定める単位を示す。　※Credits enacted by the School regulations 14-2

	授業科目 Subjects		単位数 Credits	学年別単位数 Credits by Year 1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	備考 Notes
特別講義 Special Lecture Subjects	特別講義 I	Special Lecture I	1						学年についてはフレキシブルに対応。 単位数については修得単位合計にのみ含まれる。 The year to be taken is not determined. Credits is included only in total of credits completed.
	特別講義 II	Special Lecture II	2						
	特別講義 III	Special Lecture III	3						
	特別講義 IV	Special Lecture IV	4						

20

（出典　本校学校要覧ｐ２０）

資料５－１－①－５（続き）

■教育課程　Curriculum

	授業科目 Subjects		単位数 Credits	学年別単位数 Credits by Year 1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	備考 Notes
必修科目 Required Subjects	応用物理	Applied Physics	4			2	2		
	コンピュータリテラシー	Computer Literacy	1	1					
	技術者基礎	Basis for Engineer	1	1					
	情報数学	Mathematics for Information	2		2				
	ものづくり基礎	Basis for Monozukuri	4	4					
	情報工学基礎	Basis for Information Engineering	2		2				
	情報工学演習	Seminar for Information Engineering	2		2				
	UNIXリテラシー	UNIX Literacy	2		2				
	プログラミング言語Ⅰ	Programming Language Ⅰ	2		2				
	プログラミング言語Ⅱ	Programming Language Ⅱ	2			2			
	プログラミング言語Ⅲ	Programming Language Ⅲ	2				2		
	確率統計	Probability and Statistics	2				2		
	※電気回路	※Electric Circuits	2				2		
	論理回路	Logical Circuits	2			2			
	アルゴリズム論	Analysis of Algorithm	2			2			
	ネットワーク・グラフ論	Design and Computer Network	2				2		
	コンピュータネットワークⅠ	Computer Network Ⅰ	2			2			
	電磁気学	Electricity and Magnetism	2			2			
	※電子回路	※Electronic Circuits	2				2		
	※計算機制御	※Computer Control	2					2	
	※数値解析	※Numerical Analysis	2				2		
	※オートマトン	※Automata	2				2		
	※オペレーティングシステム	※Operating System	2					2	
	※計算機方式	※Computer Architecture	2					2	
	※コンパイラ	※Compiler Construction	2					2	
	※データベース	※Database	2					2	
	※ソフトウエア工学	※Software Engineering	2					2	
	※図形処理	※Computer Graphics	2					2	
	※情報論	※Information Theory	2					2	
	情報工学実験Ⅰ	Information Engineering Experiments Ⅰ	2			2			
	情報工学実験Ⅱ	Information Engineering Experiments Ⅱ	2					2	
	情報工学実験Ⅲ	Information Engineering Experiments Ⅲ	2					2	
	卒業研究	Graduation Research	7					7	
	修得単位小計	Subtotal of Credits Completed	73	6	10	14	16	27	
選択科目 Elective Subjects	学外実習Ⅰ	Extramural Practice Ⅰ	1					1	いずれか一方を選択することができる。 Can choose either.
	学外実習Ⅱ	Extramural Practice Ⅱ	2					2	
	コンピュータネットワークⅡ	Computer Network Ⅱ	2				2		４年次編入生以外は必ず選択すること。 Every Student Except Transferred Students to 4th-year must choose.
	プログラミング言語A	Programming Language A	2				2		４年次編入生のみ選択すること。 Only Transferred Students to 4th-year must choose.
	論理回路Ⅰ	Logical Circuits Ⅰ	2				2		
	応用数学基礎	Basis for Applied Mathematics	2				2		
	応用数学A	Applied Mathematics A	4				4		４年次編入生以外は必ず選択すること。 Every Student Except Transferred Students to 4th-year must choose.
	応用数学B	Applied Mathematics B	4					4	４年次編入生のみ選択すること。 Only Transferred Students to 4th-year must choose.
	※人工知能	※Artificial Intelligence	2					2	
	※知的財産	※Intellectual Property	2					2	
	※信号処理Ⅰ	※Signal Processing Ⅰ	2					2	
	※信号処理Ⅱ	※Signal Processing Ⅱ	2					2	
	※情報伝送工学	※Computer Communications Networks	2					2	
	計測システム	Measurement System	1					1	
	※メカトロニクス	※Mechatronics	2					2	
	※ソフトコンピューティング	※Soft Computing	2					2	
	応用情報処理	Applied Information Processing	1					1	
	シーケンス制御	Sequence Control	1					1	
	※電気応用	※Applied Electricity	2					2	
	※電気エネルギーシステム工学	※Electrical Energy System	2					2	
	応用数学Ⅱ	Applied Mathematics Ⅱ	1					1	
	開設単位小計	Subtotal of Credits Offered	41				(15)	(29)	
	修得単位小計	Subtotal of Credits Completed	13以上				13以上		
専門科目開設単位計		Total of Credits Offered in Specialized Subjects	114	6	10	14	(31)	(56)	
専門科目修得単位計		Total of Credits Completed in Specialized Subjects	86以上	6	10	14	56以上		
一般科目修得単位計		Total of Credits Completed in General Education	81以上	27	24	30以上			
修得単位合計		Total of Credits Completed	167以上	33	34	100以上			

※印は学則第14条第２項に定める単位を示す。　※Credits enacted by the School regulations 14-2

	授業科目 Subjects		単位数 Credits	学年別単位数 Credits by Year 1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	備考 Notes
選択科目 Elective Subjects	特別講義Ⅰ	Special Lecture Ⅰ	1						学年についてはフレキシブルに対応。 単位数については修得単位合計にのみ含まれる。 The year to be taken is not determined. Credits is included only in total of credits completed.
	特別講義Ⅱ	Special Lecture Ⅱ	2						
	特別講義Ⅲ	Special Lecture Ⅲ	3						
	特別講義Ⅳ	Special Lecture Ⅳ	4						

（出典　本校学校要覧ｐ２３）

資料５－１－①－５（続き）

■教育課程　Curriculum

	授業科目 Subjects		単位数 Credits	学年別単位数 Credits by Year 1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	備考 Notes
必修科目 Required Subjects	応用物理	Applied Physics	4			2	2		
	インテリア・デザイン	Interior Design	1		1				
	コンピュータリテラシー	Computer Literacy	1	1					
	技術者基礎	Basis for Engineer	1	1					
	ものづくり基礎	Basis for Monozukuri	4	4					
	情報処理演習	Seminar for Information Processing	2		2				
	デザイン工学	Design Engineering	1		1				
	建築構造力学Ⅰa	Building Structural Mechanics Ⅰa	2			2			
	建築構造力学Ⅰb	Building Structural Mechanics Ⅰb	1			1			
	建築構造力学Ⅱ	Building Structural Mechanics Ⅱ	2				2		
	建築構造力学Ⅲ	Building Structural Mechanics Ⅲ	1					1	
	建築概論	Introduction to Architectural Engineering	1		1				
	※建築材料	※Building Materials	3				3		
	建築工学実験	Experiment of Architectural Engineering	2				2		
	※鋼構造	※Steel Structure	2				2		
	鉄筋コンクリート構造	Reinforced Concrete Construction	2					2	
	木質構造	Wood Construction	1					1	
	建築計画Ⅰ	Architectural Planning Ⅰ	1			1			
	※建築計画Ⅱ	※Architectural Planning Ⅱ	2				2		
	建築設計演習Ⅰ	Building Design Exercise Ⅰ	5		5				
	建築設計演習Ⅱ	Building Design Exercise Ⅱ	6			6			
	建築設計演習Ⅲ	Building Design Exercise Ⅲ	4				4		
	※建築設計演習Ⅳ	※Building Design Exercise Ⅳ	2					2	
	※建築史	※Architectural History	2				2		
	※建築生産	※Building Production and Execution	2					2	
	建築環境工学Ⅰ	Architectural Environmental Engineering Ⅰ	1			1			
	※建築環境工学Ⅱ	※Architectural Environmental Engineering Ⅱ	2				2		
	建築CAD	Architectural CAD	2			2			
	※建築総合演習	※General Architecture Exercise	2					2	
	※建築設備Ⅰ	※Mechanical and Electrical Equipment Ⅰ	2					2	
	都市計画	Urban Planning	2					2	
	建築法規	Building Codes	1					1	
	土質基礎工学	Foundation Engineering	1					1	
	卒業研究	Graduation Research	8					8	
	修得単位小計	Subtotal of Credits Completed	76	6	10	15	21	24	
選択科目 Elective Subjects	学外実習Ⅰ	Extramural Practice Ⅰ	1					1	いずれか一方を選択することができる。 Can choose either.
	学外実習Ⅱ	Extramural Practice Ⅱ	2					2	
	応用数学A	Applied Mathematics A	2				2		4年次編入生以外は必ず選択すること。 Every Student Except Transferred Students to 4th-year must choose.
	応用数学B	Applied Mathematics B	2					2	4年次編入生のみ選択すること。 Only Transferred Students to 4th-year must choose.
	応用数学C	Applied Mathematics C	2				2		
	建築防災工学	Fire-Proof Engineering of Buildings	1					1	
	溶接工学	Welding Engineering	1					1	
	※特別設計演習	※Special Design Exercise	2					2	
	建築構造解析	Structual Analysis	1					1	
	コンクリート工学特論	Concrete Engineering	1					1	
	海洋建築	Oceanic Architecture	1					1	
	測量学	Surveying	1					1	
	建築設備Ⅱ	Mechanical and Electrical Equipment Ⅱ	1					1	
	※鋼構造設計演習	※Steel Structure Design Exercise	2					2	
	※RC構造設計演習	※RC Structure Design Exercise	2					2	
	※知的財産	※Intellectual Property	2					2	
	応用数学Ⅱ	Applied Mathematics Ⅱ	1					1	
	開設単位小計	Subtotal of Credits Offered	25				(7)	(21)	
	修得単位小計	Subtotal of Credits Completed	10以上				10以上		
専門科目開設単位計		Total of Credits Offered in Specialized Subjects	101	6	10	15	(28)	(45)	
専門科目修得単位計		Total of Credits Completed in Specialized Subjects	86以上	6	10	15	55以上		
一般科目修得単位計		Total of Credits Completed in General Education	81以上	27	24	30以上			
修得単位合計		Total of Credits Completed	167以上	33	34	100以上			

※印は学則第14条第2項に定める単位を示す。　※Credits enacted by the School regulations 14-2

	授業科目 Subjects		単位数 Credits	学年別単位数 Credits by Year 1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	備考 Notes
選択科目 Elective Subjects	特別講義Ⅰ	Special Lecture Ⅰ	1						学年についてはフレキシブルに対応。 単位数については修得単位合計にのみ含まれる。 The year to be taken is not determined. Credits is included only in total of credits completed.
	特別講義Ⅱ	Special Lecture Ⅱ	2						
	特別講義Ⅲ	Special Lecture Ⅲ	3						
	特別講義Ⅳ	Special Lecture Ⅳ	4						

（出典　本校学校要覧ｐ２６）

資料５－１－①－６

「修得可能単位数（一般科目と専門科目）」

<table>
<tr><th>学年・学科</th><th colspan="2">一般教育科</th><th colspan="2">機械工学科</th><th colspan="2">電気工学科</th><th colspan="2">電子工学科</th><th colspan="2">情報工学科</th><th colspan="2">建築学科</th></tr>
<tr><td>1</td><td colspan="2">27</td><td colspan="2">6</td><td colspan="2">6</td><td colspan="2">6</td><td colspan="2">6</td><td colspan="2">6</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="2">24</td><td colspan="2">8</td><td colspan="2">9</td><td colspan="2">10</td><td colspan="2">10</td><td colspan="2">10</td></tr>
<tr><td>3</td><td>19</td><td rowspan="3">30以上</td><td colspan="2">17</td><td colspan="2">15</td><td colspan="2">16</td><td colspan="2">14</td><td colspan="2">15</td></tr>
<tr><td>4</td><td>8</td><td>28</td><td rowspan="2">55以上</td><td>26</td><td rowspan="2">56以上</td><td>24</td><td rowspan="2">54以上</td><td>22</td><td rowspan="2">56以上</td><td>23</td><td rowspan="2">55以上</td></tr>
<tr><td>5</td><td>3</td><td>27</td><td>30</td><td>30</td><td>34</td><td>32</td></tr>
<tr><td>修得単位数</td><td colspan="2">81以上</td><td colspan="10">86 以上</td></tr>
</table>

（いずれも，選択科目を最小限とした場合）

（出典：本校教育課程表からの作成資料）

資料５－１－①－７

平成24年度前期時間割(各学科毎)

平成24年度　前期授業時間割(第1学年)

		月									火									水									木									金								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8
1学年	1	コンピュータリテラシー		化学	国語	数学		HR	ス		英語	数学	倫理社会		物理					保健	国語	英語	化学	物理					体育	数学		(S)美術音楽		演学				英語							国語	
		前田・赤堀		坂本	加藤岳	澤柳		澤柳			沼田	川中	藤本		浦家					舘岡	加藤岳	吉田	坂本	浦家					恐神	澤柳		加藤武・高橋久						片岡							舘下徹	
	2	国語		化学	数学	英語		HR			コンピュータリテラシー		倫理社会	国語	数学					体育	化学	物理	英語						数学		(S)美術	英語						国語	物理		ものづくり基礎				保健	
		加藤岳		坂本	川中	沼田		吉田			本田・井上		藤本		舘下徹	宮毛				恐神		坂本	浦家	吉田					宮毛			片岡						加藤岳	浦家						舘岡	
	3	化学		物理	コンピュータリテラシー	数学		HR			英語	数学			物理	国語	国語			化学	体育	英語	保健						数学		音楽	倫理社会						英語							国語	
		坂田		浦家	浅水・高	山崎		舘下徹			吉田	伊藤			浦家	加藤岳	舘下徹			坂田	恐神	片岡	舘岡						伊藤		加藤武・高橋久	藤本						沼田							加藤岳	
	4	英語		数学	国語	物理		HR			化学	英語	体育		国語					化学	保健	数学	倫理社会	国語					英語	数学		(S)美術音楽						コンピュータリテラシー								
		沼田		池田	加藤岳	浦家		浦家			加藤隆	吉田	恐神		加藤岳					加藤隆	三島	阿部義	藤本	加藤岳					片岡	阿部義		加藤武・高橋久						林聡・土江田		(ラボ室全部)						
	5	物理	国語	数学		倫理社会		HR			物理	保健	コンピュータリテラシー		国語		英語			数学	英語	化学	国語						数学	体育	英語	(S)美術音楽														
		浦家	加藤岳	小谷		藤本		小田島			浦家	二島	加藤雅・大槻香		加藤岳		吉田			阿部義	片岡	加藤隆	小田島						阿部義	恐神	沼田	加藤武・高橋久								(その他実験室)						

平成24年度　前期授業時間割(機械工学科)

	月									火									水									木									金								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8
2	機械設計製図Ⅰ		英語		化学		HR			物理	機械工学実習・実験Ⅰ			数学		英語			工業力学		物理		国語					現代社会	英語	日本史	数学						数学	国語		体育				
	渡邊		林幸		加藤隆		渡邊			梅津	赤堀・渡辺			小谷		林幸			渡邊		梅津		小田島					大石	林幸	加藤文	小谷						伊藤	小田島		舘岡				
3	材料力学Ⅰ		機械設計法Ⅰ		機械設計製図Ⅱ		HR		オフィスアワー	応用物理	数学			国語		(S)英会話			習熟度別英語		英語		機械工学実習・実験Ⅱ					機械工作法Ⅱ	世界史		数学		物理学演習				数学	体育		機械材料Ⅰ				
	成澤		渡邊		川村		山崎			松崎	山崎			小田島							松本茂		荒井					高橋剛	木村		山崎		松崎				山崎	三島		岩渕				
4	熱力学Ⅰ		機械材料Ⅱ		コミュニケーション実践	流体工学Ⅰ				機械創造設計	応用数学A			英語		(S)別記2		～S～英語演習	生産工学		メカトロニクスⅡ		応用物理		体育		特別活動	コミュニケーション実践	機械工学実習・実験Ⅲ			法学		～S～英語演習			応用数学A	CAD/CAM		電気電子工学		(S)数学Ⅲ		
	川村		岩渕		舘下徹	小杉淳				小杉	澤柳・佐藤祥			廣瀬					高橋剛		荒井		松崎		三島			舘下徹	成澤・廣瀬・前田・赤堀			南須原					澤柳・佐藤祥	荒井		前田		小谷		
5	流体工学Ⅱ		数値解析法		(S)機械工学特論 工業数学		ドイツ語			材料評価学	流体機械			卒業研究					振動工学		別記3		ドイツ語		英語			(S)	熱力学Ⅱ		卒業研究						計測工学	材料力学Ⅲ							
	小杉淳		赤堀		舘岡	井木	大石			岩渕	丹			M科全教員					成澤				大石					澤柳	川村		M科全教員						前田	成澤						

別記2

曜日	7・8時限
火	数学Ⅱ(澤柳)
	英会話(外国人講師)

別記3

曜日	3・4時限
水	社会科学入門A(南須原)，環境学A(杉山)
	歴史と文化ⅠA(木村)，心理学A(小杉和)
	歴史と文化ⅡA(山内)，日本文学A(舘下徹)
	哲学A(藤本)，中国文化A(田)
	英語コミュニケーションA(エリックローズ)

※ 知的財産(古谷)
電子工学特論(若原)
特別講義Ⅰ(ラファウ)
については集中講義

(出典　学生課作成資料)

資料５－１－①－７（続き）

平成24年度　前期授業時間割(電気工学科)

	月	火	水	木	金
2	国語 小田島 電気回路Ⅰ 井上 物理 梅津 HR 本田 オフィスアワー	体育 舘岡 機械工学概論 千田 数学 池田 現代社会 大石	電子計算機 野口 英語 林幸 数学 池田	国語 小田島 日本史 加藤文 化学 加藤隆 英語 林幸	物理 梅津 英語 林幸 数学 伊藤 電気製図 佐々木・佐藤英
3	数学 宮毛 世界史 木村 応用物理 松崎 HR 松崎	電子工学 須田 国語 小田島 物理学演習 松崎 英会話 新課人国	度習英別熟語 電気工学実験Ⅰ 佐々木・本田	電気磁気学 井上 英語 松本茂 数学 宮毛	電気回路Ⅰ 小松正 数学 宮毛 電気機器Ⅰ 高木敏 体育 三島
4	応用物理 松崎 高電圧工学 佐々木 電気磁気学 鈴木俊	コミュニケーション実践 舘下徹 電子回路 野口 応用数学A (s)別記2 ～s～英語演習	英語 石山勲 送配電工学 高木一 コミュニケーション実践 舘下徹 (S)電気機器Ⅱ 高木敏	電気工学実験Ⅱ 高木敏・鈴木俊 特別活動 ～s～英語演習	体育 舘岡 応用数学A 法学 南須原 (S)数学Ⅲ 小谷
5	電気工学実験Ⅴ 野口・佐藤英 (S) 須田 オフィスアワー	別記1 電気回路Ⅱ 小松正 英語 地引網 卒業研究 E科全教員	(S)ソフトコン 別記3 制御工学 千田 (S)電気エネルギシステム 松小	応用数学 澤柳 (S)人工知能 元天 卒業研究 E科全教員	(S)電気法規・電気施設管理 佐々木 ドイツ語 藤本 電子回路 井上 電気計測 小松正

別記1

火曜日	1・2時限
	計測システム(高)
	シーケンス制御(松本和)
	応用情報処理(浅水)

別記2

火曜日	7・8時限
	数学Ⅱ(澤柳)
	英会話(外国人講師)

別記3

水曜日	3・4時限
	社会科学入門A（南須原），環境学A（杉山）
	歴史と文化ⅠA（木村），心理学A（小杉和）
	歴史と文化ⅡA（山内），日本文学A（舘下徹）
	哲学A（藤本），中国文化A（田）
	英語コミュニケーションA(エリックローズ)

※ 知的財産(古谷)
電子工学特論(若原)
特別講義Ⅰ(ラファウ)
については集中講義

平成24年度　前期授業時間割(電子工学科)

	月	火	水	木	金
2	体育 三島 物理 梅津 英語 林幸 HR 梶原 オフィスアワー	国語 舘下美 回路設計基礎演習 梶原 英語 林幸 数学 山崎	創造工学 地引・長井・戸谷・山田 化学 加藤隆 数学 山崎 英語 林幸	数学 小谷 電子工学総合演習 中村 現代社会 大石	情報基礎 中村 国語 舘下美 物理 梅津 電気回路Ⅰ 浅水 日本史 木村
3	数学 佐古 電子工学実験Ⅱ 佐古・梶原・山田 体育 舘岡 HR 高橋	数学 佐古 世界史 木村 電気回路Ⅱ 松本和 会話英s 新課人国外	度習英別熟語 電子回路Ⅰ 坂口 論理回路Ⅰ 山形 物理学演習 松崎	電子工学実験Ⅱ 佐古・梶原・山田 英語 小松久 数学 佐古	国語 舘下徹 応用物理 松崎 プログラム言語Ⅰ 山田
4	工学課題実験 梶原・戸谷・高 法学 南須原 コミュニケーション実践 小田島 論理回路Ⅱ 山形	別記1 電子回路Ⅱ 坂口 応用数学A 佐古・佐藤穂 (s)別記2 ～s～英語演習	電気回路Ⅲ 中村 電子工学実験Ⅳ 松本和・浅水 体育 三島 数値解析 山田・佐治 コミュニケーション実践 小田島	電磁気学Ⅱ 戸谷 電子工学実験Ⅳ 松本和・浅水 英語 石山勲 ～s～英語演習 特別活動	プログラム言語Ⅱ 山田 応用物理 松崎 (S)数学Ⅲ 小谷
5	オペレーティングシステム 山田 通信伝送工学 戸谷	別記1 電気回路Ⅲ 山形 英語 地引網 卒業研究 D科全教員	(S)ソフトコンピュー 神谷 別記3 画像工学Ⅰ 佐治 ドイツ語 大石	応用数学 澤柳 (S)人工知能 元天 卒業研究 D科全教員	半導体工学Ⅰ 坂口 制御工学 梶原 ドイツ語 大石

別記1

火曜日	1・2時限
	計測システム(高)
	シーケンス制御(松本和)
	応用情報処理(浅水)

別記2

火曜日	7・8時限
	数学Ⅱ(澤柳)
	英会話(外国人講師)

別記3

水曜日	3・4時限
	社会科学入門A（南須原），環境学A（杉山）
	歴史と文化ⅠA（木村），心理学A（小杉和）
	歴史と文化ⅡA（山内），日本文学A（舘下徹）
	哲学A（藤本），中国文化A（田）
	英語コミュニケーションA(エリックローズ)

※ 知的財産(古谷)
電子工学特論(若原)
特別講義Ⅰ(ラファウ)
については集中講義

（出典　学生課作成資料）

資料５－１－①－７（続き）

平成24年度　前期授業時間割(情報工学科)

	月									火									水									木								金							
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
2	現代社会		情報数学		数学		HR	オフィスアワー		情報工学演習		体育		物理					国語	日本史	数学		英語		プログラミング言語Ⅰ			UNIXリテラシー		数学		英語				国語		化学		英語	物理	UNIXリテラシー	
	大石		本間		佐古		大槻典			大槻典・中島		恐神		梅津					小田島	木村	山崎		沼田		高橋晃・中島			林裕・土江田		佐古		吉田				舘下美		加藤隆		沼田	梅津	林裕・土江田	
3	プログラミング言語Ⅱ		コンピュータネットワークⅠ		数学		HR			プログラミング言語Ⅱ		国語		英語		会〜話英s			度習別熟英語		応用物理		数学					論理回路		アルゴリズム論		世界史		体育		数学		電磁気学	物理学演習			
	西川・土江田		高橋晃・大貫		小谷		天元			西川・土江田		舘下徹		小松久		新 講 人 国 外					松崎		小谷					大槻典		本間		木村		舘岡		小谷		神谷	梅津			
4			確率統計		数値解析					特別活動	コミュニケーション実践	応用数学A		法学		(s)別記２		〜S〜英語演習	応用物理		(S)コンピュータネットワークⅡ		電気回路						プログラミング言語Ⅲ		英語		体育		〜S〜英語演習		応用数学A		ネットワークグラフ論		コミュニケーション実践		(S)数学Ⅲ	
			天元		神谷						加藤岳	澤柳・佐藤修		南須原					浦家		大貫・高橋晃		柳川					天元		石山勲		舘岡				澤柳・佐藤修		本間	加藤岳		小谷	
5	(S)信号処理Ⅰ		コンパイラ		計算機方式			オフィスアワー		別記１		情報工学実験Ⅲ		卒業研究					(S)ソフトコン		別記3		情報工学実験Ⅲ		英語		(S)電気エネルギシステム	応用数		(S)人工知能		卒業研究				計算機制御		ドイツ語		データベース			
	大槻典		林裕		大貫							本間・中島		Ｊ科全教員					神谷				本間・中島		下山講師		小松	澤柳		元天		Ｊ科全教員				大槻典		木村		高橋晃		

別記１

火曜日	1・2時限
	計測システム(高)
	シーケンス制御(松本和)
	応用情報処理(浅水)

別記２

火曜日	7・8時限
	数学Ⅱ(澤柳)
	英会話(外国人講師)

別記３

水曜日	3・4時限
	社会科学入門A（南須原），環境学A（杉山）
	歴史と文化ⅠA（木村），心理学A（小杉和）
	歴史と文化ⅡA（山内），日本文学A(舘下徹)
	哲学A(藤本)，中国文化A(田)
	英語コミュニケーションA(エリックローズ)

※ 知的財産(古谷)
電子工学特論(若原)
特別講義Ⅰ(ラファウ)
については集中講義

平成24年度　前期授業時間割(建築学科)

	月									火									水									木								金							
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
2	化学		建築概論		デザイン工学		HR	オフィスアワー		数学		国語		英語		体育			現代社会		建築設計演習Ⅰ		数学		情報処理演習			物理		英語		数学				物理		国語		建築設計演習Ⅰ		英語		
	加藤隆		佐藤哲				佐藤彰			宮毛		舘下美		片岡		三島			大石		佐藤彰		宮毛		加藤晃			浦家		吉田		池田				浦家		小田島		佐藤彰		吉田		
3	建築CAD		体育		数学		HR			建築設計演習Ⅱ				英語		英〜会話〜s			度習別熟英語		数学		世界史		物理学演習			建築設計演習Ⅱ		応用物理		国語				数学		建築構造力学Ⅰa		建築計画Ⅰ				
	西澤・大槻香		舘岡		池田		佐藤哲			佐藤哲				阿部孝		新 講 人 国 外					池田		木村		梅津			佐藤哲		梅津		舘下徹				池田		加藤雅		佐藤彰				
4	建築構造力学Ⅱ		建築設計演習Ⅲ		応用数学A					建築工学実験		建築環境工学Ⅱ				(s)別記２		〜S〜英語演習	(S)応用数学C		建築設計演習Ⅲ		建築材料						英語		建築史		体育		〜S〜英語演習		特別活動		法学		応用物理		(S)数学Ⅲ	
	鈴木邦		千葉		佐藤穆					佐藤彰・大槻香		来原							澤柳		千葉		三森					廣瀬		西澤		三島				南須原		浦家		小谷		
5	(S)鋼構造設計演習		建築設備Ⅰ		(S)応用数学B			オフィスアワー		建築構造力学Ⅲ		鉄筋コンクリート構造		卒業研究					建築生産		別記3		英語	都市計画	ドイツ語			応用数		建築総合演習		卒業研究				ドイツ語		(S)特別設計演習		鉄筋コンクリート構造		(S)測量学	
	草苅		佐藤彰		佐藤穆					鈴木邦		草苅		Ａ科全教員					鈴木邦				下山講師	千葉	藤本			澤柳				Ａ科全教員				藤本		西澤		草苅		加藤雅・白木	

別記１

火曜日	1・2時限
	計測システム(高)
	シーケンス制御(松本和)
	応用情報処理(浅水)

別記２

火曜日	7・8時限
	数学Ⅱ(澤柳)
	英会話(外国人講師)

別記３

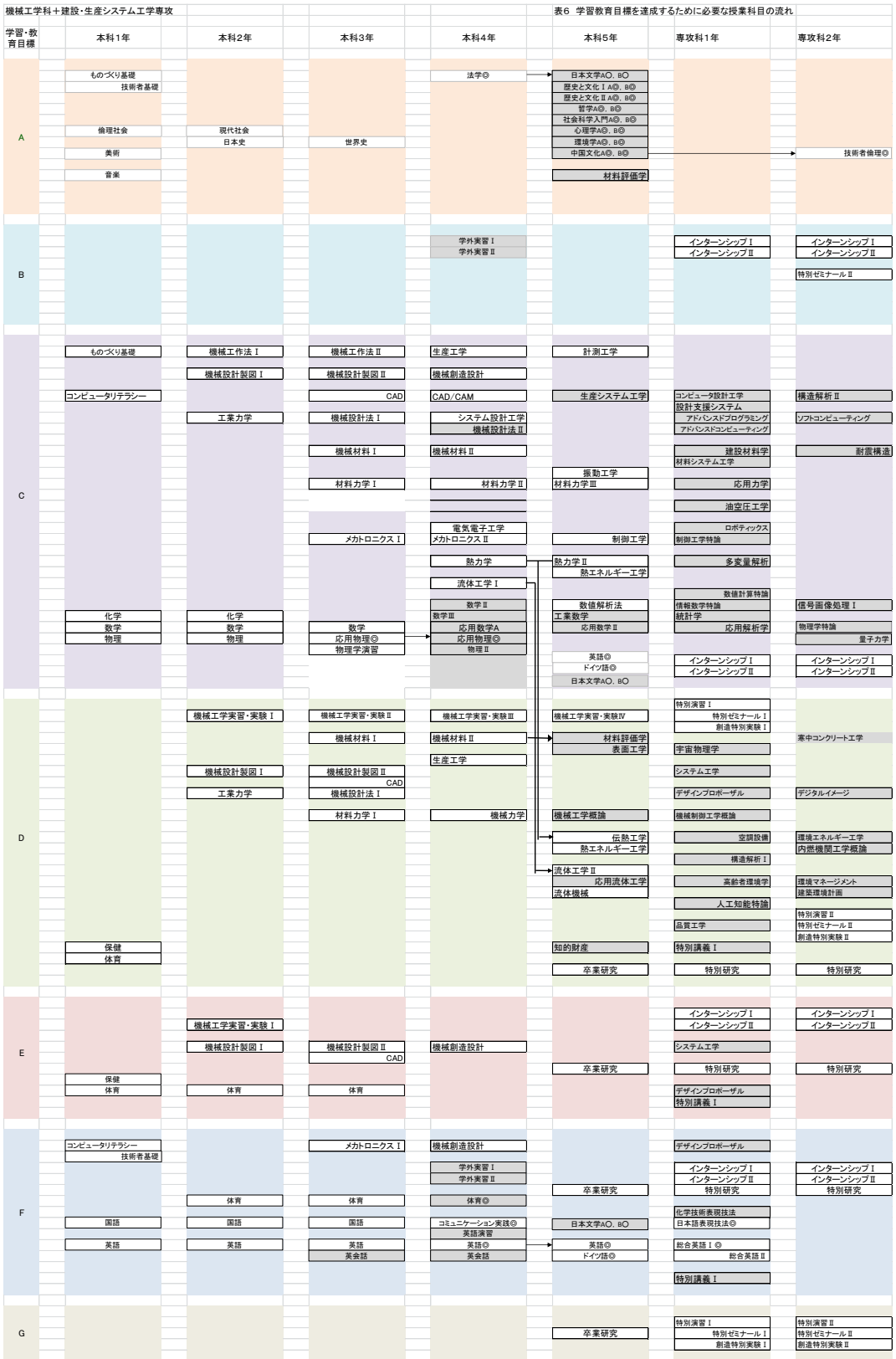
水曜日	3・4時限
	社会科学入門A（南須原），環境学A（杉山）
	歴史と文化ⅠA（木村），心理学A（小杉和）
	歴史と文化ⅡA（山内），日本文学A(舘下徹)
	哲学A(藤本)，中国文化A(田)
	英語コミュニケーションA(エリックローズ)

※ 知的財産(古谷)
電子工学特論(若原)
特別講義Ⅰ(ラファウ)
については集中講義

（出典　学生課作成資料）

資料５－１－①－８

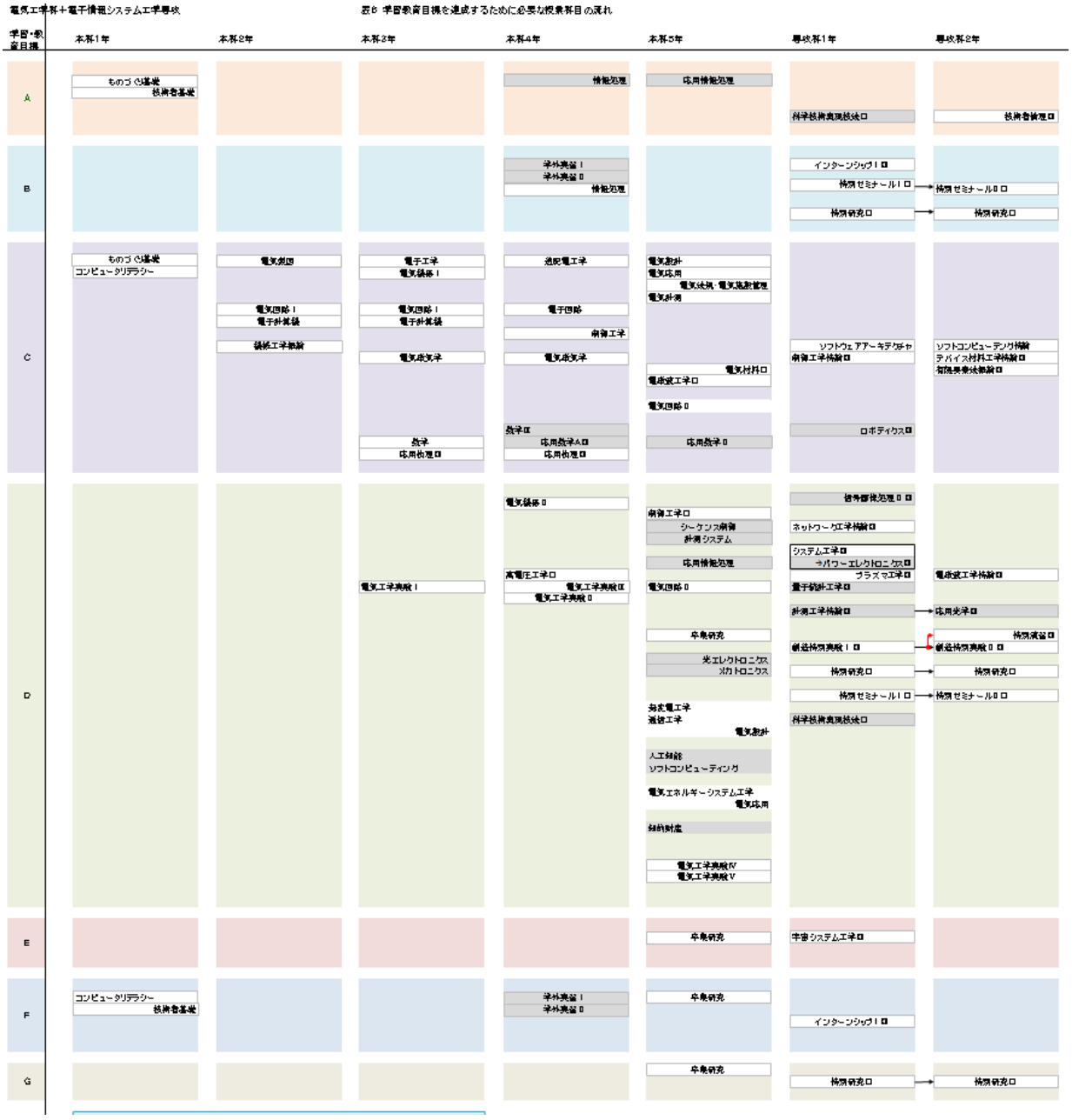
科目関連図（機械工学科）



（出典　学生課作成資料）

資料５－１－①－８（続き）

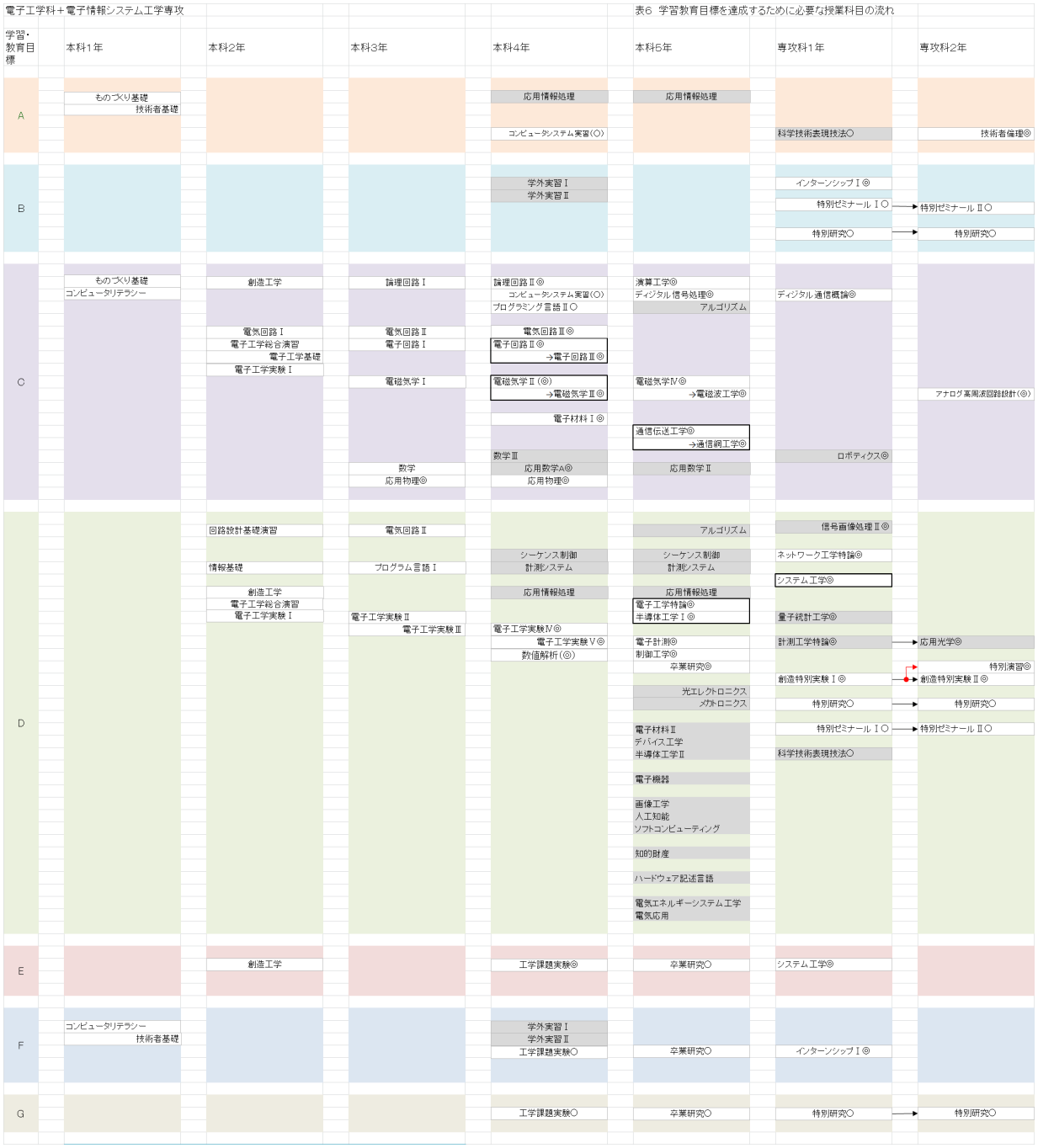
科目関連図（電気工学科）



（出典　学生課作成資料）

資料５－１－①－８（続き）

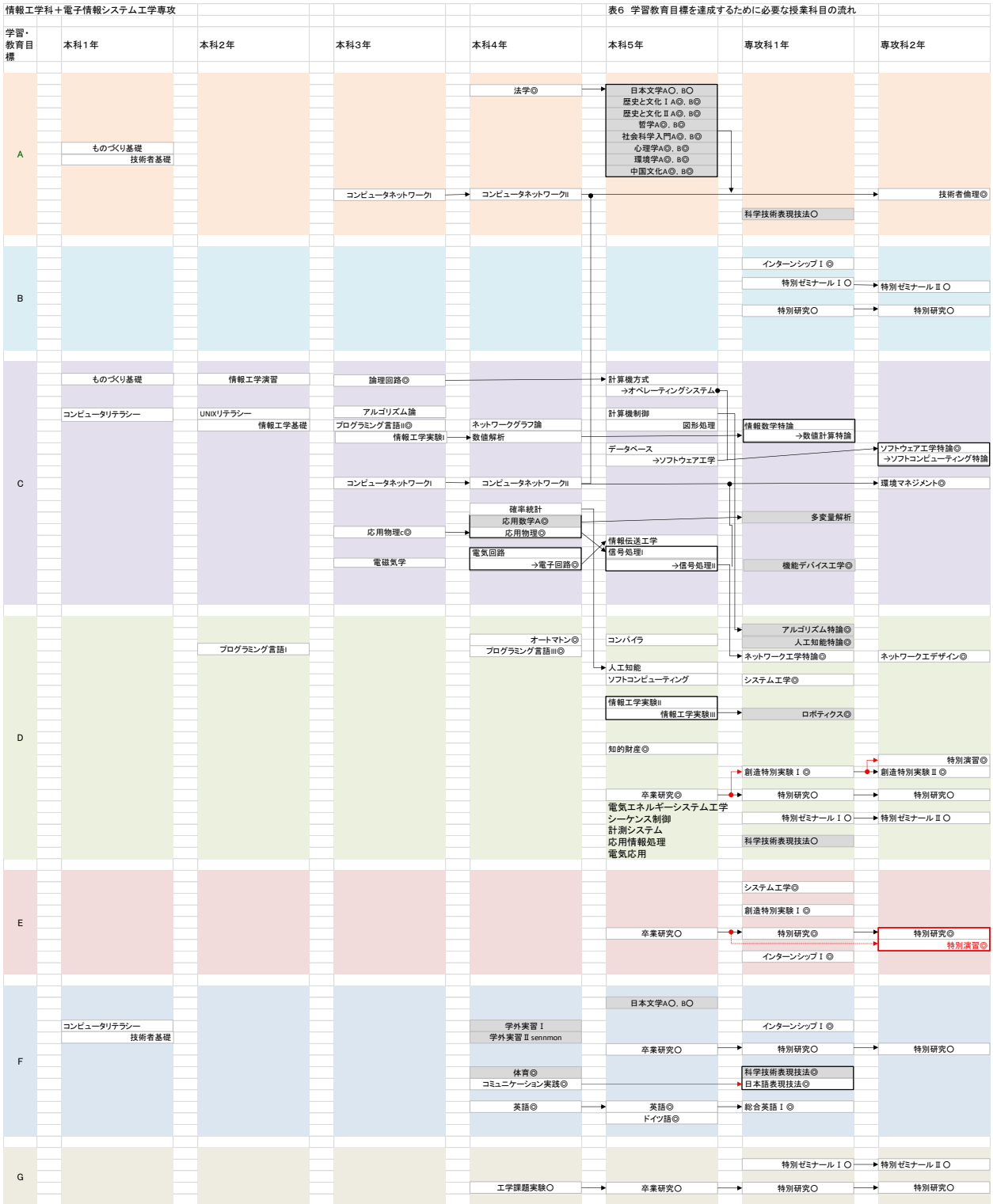
科目関連図（電子工学科）



（出典　学生課作成資料）

資料５－１－①－８（続き）

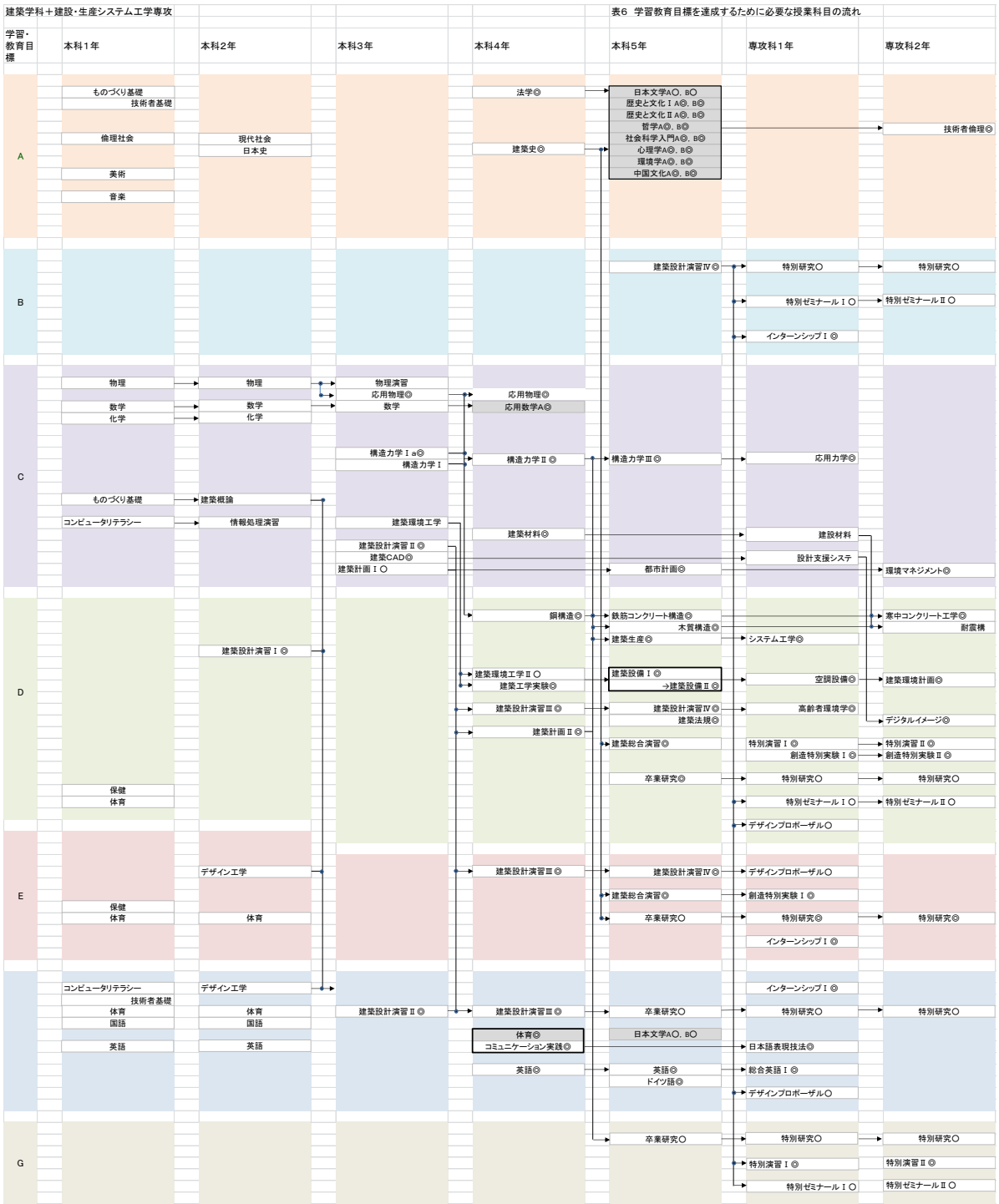
科目関連図（情報工学科）



（出典　学生課作成資料）

資料５－１－①－８（続き）

科目関連図（情報工学科）



（出典　学生課作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

高専は，実践的・創造型技術が求められており，学生自らが自発的，能動的に学習する意欲を持つ教育のために，平成21年度からの入学生に対して「２段階学科選択制度」を導入した。１年次では，技術者として最低限必要となる基礎能力の育成のために基礎専門的な科目を配した。２年次以降については，一般科目と専門科目を楔形に配置する教育課程を編成しており，各学科ともに一般科目と専門科目が学年ごとに適切に配置されている。

また，学習目標の各項目に対してバランス良く配置されており，専門科目は，学科ごとに定める実践的技術者として備えるべき内容・水準が達成されるように，また，職業に必要な実践的な能力を養成するために，実験・実習・製図に関する科目を適切に配置するとともに，卒業研究等による創造型・問題解決型教育も設定されている。

観点５－１－②：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展の動向，社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

本校は，第２期中期計画における教育課程の編成等を基に，教育課程および授業の内容おいては，学生のニーズと本校の教育の目的を勘案し，教育課程の編成を検討や改善を行っている。

まず，２段階学科選択制度は，中学時での学科選択の困難さや学生の適性に合わせた学科選択を実現するために，入学後の配属学科は仮配属で学級編成は配属学科にこだわらない学級編成（混合学級）とし，第２学年への進級時に本人の希望と第１学年の成績などに基づき配属学科を決定できることとした（資料５－１－②－１）。平成23年度の第２学年及びその保護者に対して行った制度に関するアンケート結果を資料５－１－②－２及び３に示す。ほとんどの学生及び保護者がこの制度に肯定的な意見であり，本校の置かれた状況の中で，学生のニーズに対応させた制度として機能している。

他大学・高専との単位互換制度の実施については，北海道内の４高専が連携して，北海道内の大学との連携協定締結を推進した（資料５－１－②－４）。これらは，大学におけるインターンシップの推進など，学術の発展に対する学生の興味を喚起する役割を果たしている。

英語教育については，本校では英語力向上の一つの指針として２年次の全学生に英検準２級を受験させている。また，低学年においては英検中心の教育，高学年においてはTOEIC中心の教育という棲み分けを行った。（資料５－１－②－５，６）。

また，大学編入学用選択科目に関して，クラス順位など学生の不利にならないよう卒業要件から除くよう配慮がなされている（資料５－１－②－７，８）。

資料５－１－②－１

平成２２年度　２段階学科選択制度　配属方針

１　学科定員

(1) 確定配属における学科定員（受け入れ学生数）は，教室サイズ，学内設備等から１学科４５人を最大とする.

(2) 確定配属希望者数がこの学科定員を越えた学科が選考作業を行う場合，確定配属者数は学科定員（４０名）を下回ってはならない.

２　ポイント算定方法

(1) 希望理由，面接ポイント１０％

(2)　成績（ＧＰＡ正規化）９０％

- 学年末評価点（芸術，体育は障害による評価の差が考えられるため，これらを除く）を用い，単位数による重み付き平均点を算出する

３　ポイント算定の詳細

(1) 希望理由，面接ポイント

- 受け入れ可能学生数を超える希望が集まった学科については，
- 担任所見，１年間の勉学態度，学科教員による面接ポイントを総合して点数化する.
- 面接評価基準を別途作成し，共通化する.

- 入学時の志望状況，確定配属の志望状況を参考データとして該当学科主任に連絡する．

■ 10点満点で評価する ⇒ P_1とする.

(2) 成績（ＧＰＡ正規化）

-学年末評価点（芸術，体育は障害による評価の差が考えられるため，これらを除く）を用い，単位数による重み付き平均点を算出する

-「学年末評価点」（１００点満点）に単位数を乗じて総計を取り，これを総単位数で割る，という計算方式とする．

※「学年末評価点」は，科目担当教員から提出される「シラバス記載の評価方法」に基づく評価点を言う．

■　100点満点（小数点以下2桁目を四捨五入）で評価する→P_2とする

以上の２つの観点を点数化したP_1，P_2を用いて下式で総合点を算出する．

$$P = P_1 + 0.9 \times P_2$$

４　配属の詳細

(1) 推薦入学の優先配属

推薦選抜で仮配属された者が，そのまま仮配属学科を希望する場合は，基本的要件（成績が上位から６割以内）を満たせば優先的に確定配属する．

(2) その他の配属

上記(1)以外の推薦入学の学生および学力選抜で入学した学生については，

資料５－１－②－１（続き）

1)受け入れ可能人数を超過した希望者が集まった学科についてのみ，３(2)の成績（ＧＰＡ正規化）の順に並べ，優遇される者を含めて３５番以下の者について面接を行う．ただし，(1)に該当する者は成績上位者として順位付けする．

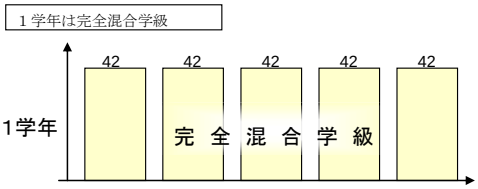
2)３４番までの者は希望学科への配属を確定する．

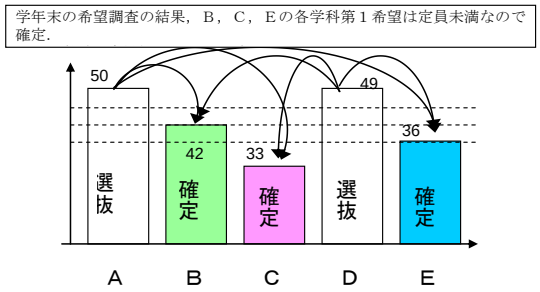
3)面接対象となった者については，面接点を加えた総合点順に受け入れ可能人数まで配属を確定する．

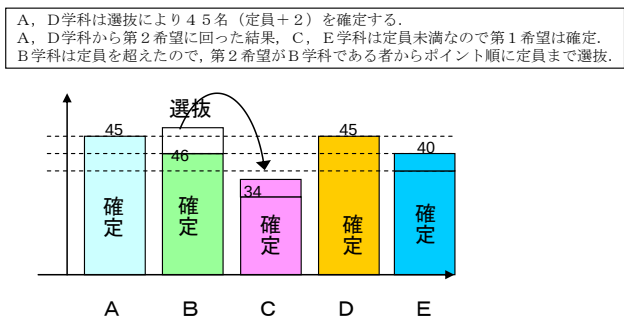
4)第２希望が集中して受け入れ可能人数を超えた場合は，総合点上位から確定配属する．

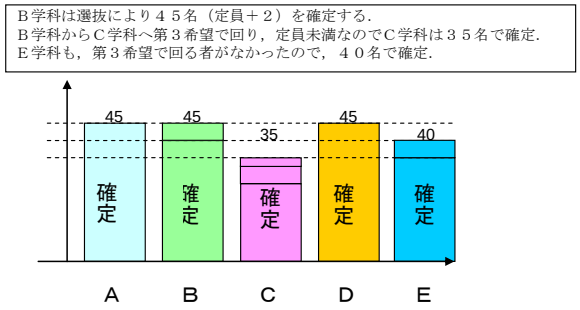
5)第２希望に確定配属されなかった者は，第３希望学科に回る．

6)以下，これを繰り返す．









（出典　平成22年２月　教務委員会資料）

資料５－１－②－２

平成２３年度　２段階学科選択アンケート集計（学生）

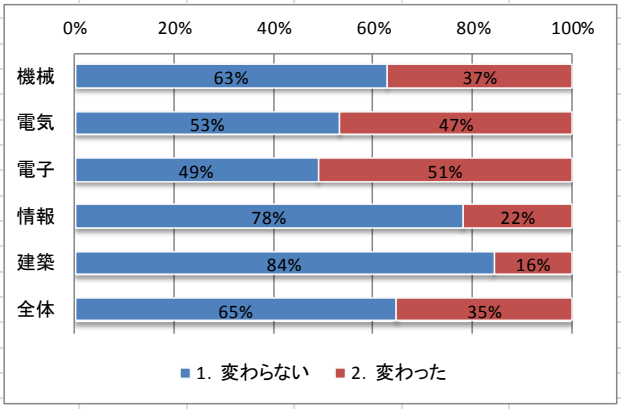
H23.6.16

２段階学科選択制度に関するアンケート（平成23年度 第2学年学生向け） 集計結果

1. 本校を受験した時の第1希望学科と，今年2月の最終希望調査での第1希望学科は変わりましたか？

	1. 変わらない	2. 変わった	計
機械	22	13	35
電気	24	21	45
電子	22	23	45
情報	32	9	41
建築	32	6	38
全体	132	72	204

	1. 変わらない	2. 変わった	計
機械	63%	37%	100%
電気	53%	47%	100%
電子	49%	51%	100%
情報	78%	22%	100%
建築	84%	16%	100%
全体	65%	35%	100%



M	・人数以内に入れなかった
	・興味がうつった
	・学力が低かったため
	・学科決定までの1年で，色々な学科の良い所などを知ることができたから
	・就職率が高かったので
	・評判が悪かったから
	・ものづくり基礎で
	・成績
	・電子に行けなかったから
	・高専を卒業したら進学せずに就職したかったから
	・成績が低かったため
	・途中で変えることを前提に受験したから
E	・ものづくり基礎などでおもしろいと思ったから
	・なんとなく
	・今の学科に魅力を感じた
	・就職がいいから
	・ものづくりの授業を受けて，違う学科に関心を持った
	・ものづくり基礎などで
	・楽しくなさそうだったから
	・楽しそうだったから
	・学科説明を受けて変わった
	・自分のしたいことと違ったから
	・就職
	・先輩などの話をきいて
	・資格がとれる科があるから
	・ものづくり基礎で自分にあった学科が見つかったから
	・就職状況や先生方の意見によって
	・こちらの学科の方に好印象をもった
	・進学と就職
	・ものづくり基礎等の授業で他の学科に興味を持ったからです
	・なんとなく
	・第1希望学科が自分に合ってないと感じたため
	・自分にあってると思ったから
	・就職率がいいから

資料５－１－②－２（続き）

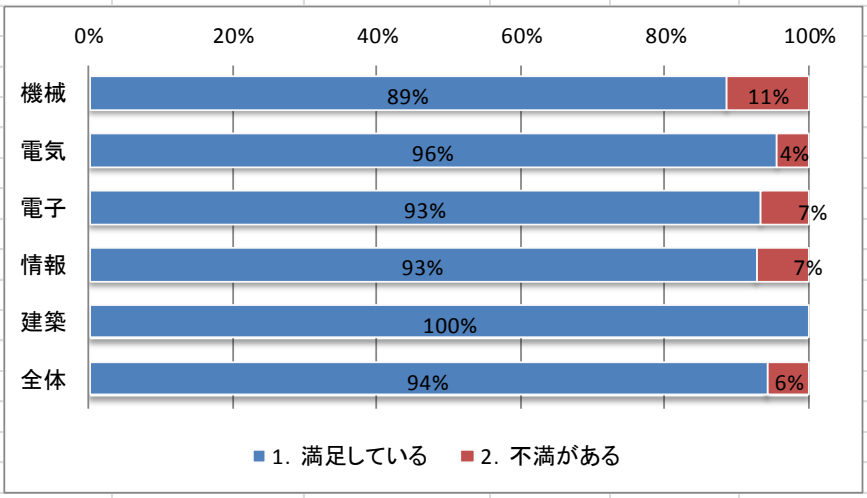
D	・いろいろ
	・受験の際に中学担任のすすめで本命とは違うものにしたから
	・自分に合わない学科だったから
	・受験のとき各学科についてくわしくなかったので
	・1年間いろんな学科のことを学んでいって，今の学科の方がいいと思ったから
	・最初のイメージと全然違ったから
	・興味をもったことと，人間関係で
	・情報が自分には合わない学科だと思ったから
	・自分のやりたい事が受験した時と違うから
	・情報があまりおもしろくなさそうだったから
	・ものづくり基礎をやってみて意識が変わった
	・入った後の印象が変わったから
	・想像と違った
	・学科の先生に相談した結果
	・ノリで
	・楽しそうだったから
	・ものづくり基礎で変わった
	・ものづくりで興味を持ったから
	・自分が調べ，想像していたものとは違っていたから
	・思ってたものと違った
	・進路のことや，先輩の話を聞いて変えた
	・今の学科の方が興味深かった
	・将来を考えたから
J	・本来，こちらが希望だから
	・学力
	・もともと今の学科に来たかったから
	・ものづくり基礎が楽しかったから
	・ものづくり基礎の内容で
	・すべりました
	・入りたい学科が人気そうだったからやめたけど，倍率がひくくなったから
	・受験の時にうかる気がしなかったので，今の学科をあきらめていた
	・学科ごとの説明をきいて
A	・実際にやってみていろんな見方がかわったから
	・受験した時には，授業内容がよくわかっていなかったので
	・ものづくり基礎などで…
	・入れなかったから
	・たのしそうだったから
	・向いてないと思ったから

資料５－１－②－２（続き）

2. 確定配属の結果に満足していますか？

	1. 満足している	2. 不満がある	計
機械	31	4	35
電気	43	2	45
電子	42	3	45
情報	38	3	41
建築	38	0	38
全体	192	12	204

	1. 満足している	2. 不満がある	計
機械	89%	11%	100%
電気	96%	4%	100%
電子	93%	7%	100%
情報	93%	7%	100%
建築	100%	0%	100%
全体	94%	6%	100%



資料５－１－②－２（続き）

不満がある理由	
M	・希望していた学科に入れなかった
	・配属した学科じたいには不満はないが，制度に不満がある。
	中学時に色々しらべて，この学科に入りたいと思い入学し，仮配属されたのに，その学科に入れなかったから。しかし，今回，電子と電気の学科が人気があり，何人もの方々が希望する学科に入れず，あえてチャンスをつくることが残虐だと思う
	・課題が多い
	・自分が思っていたよりも学科の内容が違っていたため
E	・クラスの雰囲気が苦手
	・女の子が少ない
D	・LHRで学科 （「満足している」で回答）
	・一緒に行こうとしていた人が落ちた。そして，やかれて今は嫌われている。
	・授業内容が思ったのとちがったから
	・実際に勉強してみるとつまらないから
J	・自分の入りたい学科に入れなかったから
	・思っていたものと違う
	・希望学科ではないから

（出典：平成23年７月教務委員会資料）

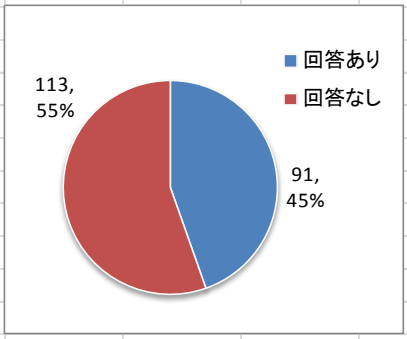
資料５－１－②－３

平成２３年度　２段階学科選択アンケート集計（保護者）

H23.6.13

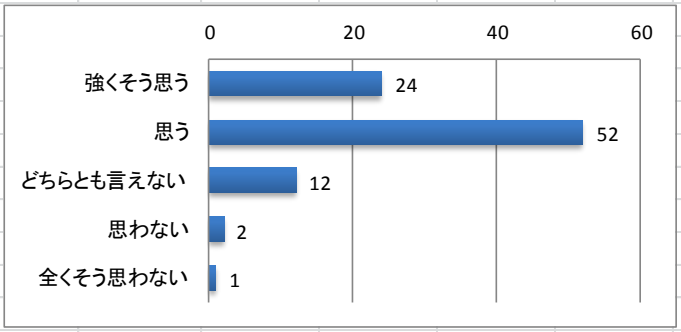
２段階学科選択制度に関するアンケート（保護者向け）　集計結果

回答あり	91	45%
回答なし	113	55%
対象	204	100%



1．２段階学科選択制度は釧路高専受験を決める時に，お子さんにとって良い制度だと思いましたか？

強くそう思う	24
思う	52
どちらとも言えない	12
思わない	2
全くそう思わない	1
	91

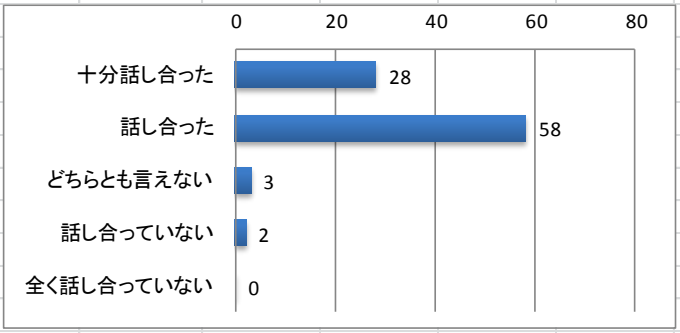


記述あり（回答：どちらとも言えない）

・建築科には必要ないと思います。建築科以外ではあってもいいのかなと思います。

2．**本校受験前に**どの学科を希望するかについて，お子さんと話し合いをされましたか？

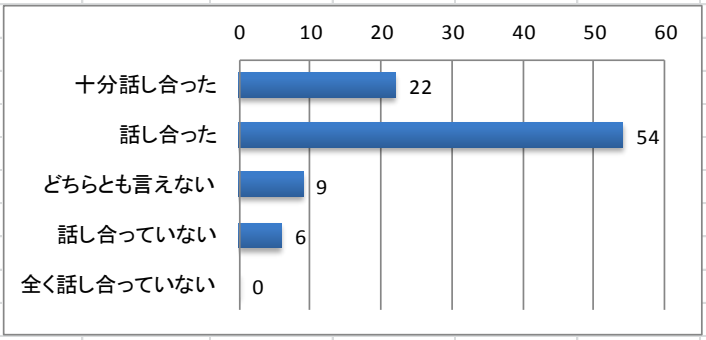
十分話し合った	28
話し合った	58
どちらとも言えない	3
話し合っていない	2
全く話し合っていない	0
	91



資料５－１－②－３（続き）

3. **本校入学後，確定配属までの間に**，どの学科を希望するかについて，お子さんと話し合いをされましたか？

十分話し合った	22
話し合った	54
どちらとも言えない	9
話し合っていない	6
全く話し合っていない	0
	91

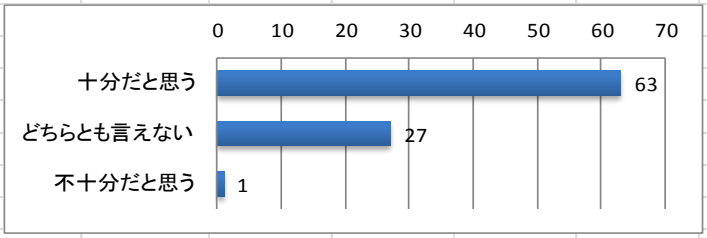


記述あり（回答：どちらとも言えない）
・話し合うというより子供の意志重視なので

記述あり（回答：話し合っていない）
・本人の考えを聞いただけ

4. 学校が行った説明や情報提供は十分だと思いましたか？

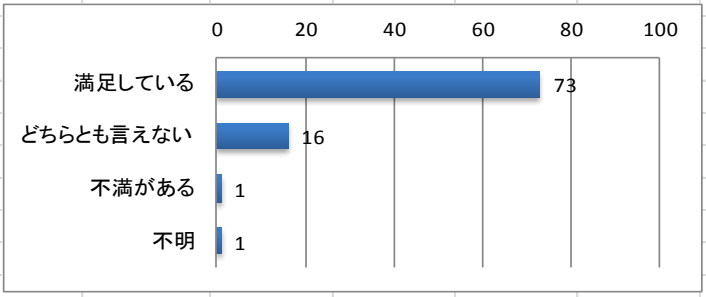
十分だと思う	63
どちらとも言えない	27
不十分だと思う	1
	91



【不十分だと思う理由】
・担任の先生等の意見，アドバイスが有っても良かったと思う。三者面談等があれば参考にしたかった。

5. 確定配属の結果に満足していますか。

満足している	73
どちらとも言えない	16
不満がある	1
不明	1
	91



【不満がある理由】
・受験時の倍率を考慮した学科選択後，本来希望する学科に入るという考え方で入学している学生もいる。

記述あり（回答：満足している）
・話し合ったと解答しましたが，ほとんど子供が自分で考え，報告を受けた状態です。
本人も納得していますので，よかったと思います。

（出典：平成23年７月　教務委員会資料）

資料５－１－②－４

学術交流協定台帳

釧路工業高等専門学校

番号	締結の相手	協定締結年月日	期限	延長の条件	連携校	内容	備考
1	北海道大学	平成21年12月15日	平成23年3月31日	期間満了の3ヶ月前までに別段の意思表示がない場合は同一の条件で1年間延長、その後も同様	函館高専 苫小牧高専 旭川高専	1)情報交換 2)研究協力 3)教育協力 4)研究設備の相互利用 5)人材交流 6)シンポジウム等の開催 7)その他研究・教育及び地域貢献に寄与する活動	・連絡協議会 ・教育専門部会 ・研究専門部会 ・地域貢献専門部会 担当校：釧路高専
2	室蘭工業大学	平成22年3月29日	平成23年3月31日	期間満了の3ヶ月前までに別段の意思表示がない場合は同一の条件で1年間延長、その後も同様	函館高専 苫小牧高専 旭川高専	1)情報交換 2)教育協力 3)研究協力 4)研究設備の相互利用 5)人材交流 6)シンポジウム等の開催 7)地域貢献への相互協力	・連絡協議会 担当校：苫小牧高専
3	公立はこだて未来大学	平成22年4月23日	平成23年3月31日	期間満了の3ヶ月前までに別段の意思表示がない場合は同一の条件で1年間延長、その後も同様	函館高専 苫小牧高専 旭川高専	1)情報交換 2)研究協力 3)教育協力 4)研究設備の相互利用 5)人材交流 6)シンポジウム等の開催 7)その他研究・教育及び地域貢献に寄与する活動	・連絡協議会 担当校：函館高専
4	北見工業大学	平成22年5月25日	平成24年3月31日	期間満了の3ヶ月前までに別段の意思表示がない場合は同一の条件で1年間延長、その後も同様	函館高専 苫小牧高専 旭川高専	1)情報交換 2)研究協力 3)教育協力 4)研究設備の相互利用 5)人材交流 6)シンポジウム等の開催 7)その他研究・教育及び地域貢献に寄与する活動	・連絡協議会 担当校：旭川高専
5	帯広畜産大学	平成22年11月29日	平成23年3月31日	期間満了の3ヶ月前までに別段の意思表示がない場合は同一の条件で1年間延長、その後も同様	函館高専 苫小牧高専 旭川高専	1)情報交換 2)教育協力 3)研究協力 4)研究設備の相互利用 5)人材交流 6)シンポジウム等の開催 7)地域貢献への相互協力	・連絡協議会 担当校：釧路高専

（出典：　総務課作成資料）

資料５－１－②－５

シラバス英語２年（英語検定準２級の全員受験）

平成24年度

電子工学科		英語				
学年	第2学年	担当教員名	林幸利			
単位数・期間	5単位	通年	週当りの開講回数	3回	必修	履修単位
授業の目標と概要	教科書とその他の自主教材を用い、標準的な単語・熟語および標準的な文法の知識の習得、標準的な文章の読解力の養成、基礎的な表現力の養成、基礎的なリスニング力の養成を目指す。これらにより、論理的な文章を記述したり、基礎的なコミュニケーションを行えるための標準的な英語力を身につける。					
	釧路高専目標	F:100%	JABEE目標	f		
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）	週１回のペースで、年間１５回程度の英検単語集の「単語テスト」を行う。年間２回（７月上旬、２月中旬）、英語検定形式の実力試験である「英検テスト」を実施する。第２回の英語検定（１０月実施）の準２級の試験を全員受験する（受験料は後援会が負担、すでに取得済みの場合を除く）。					
到達目標	単語・熟語、文法、読解、作文、リスニング、基礎的なコミュニケーションの各分野において、英語検定準２級レヴェルの英語に対応できる。					
成績評価方法	定期試験の成績を６０%、「単語テスト」の成績を２０%、「英検テスト」の成績を２０%、これらの合計に０．８を掛け、それに英検準２級の評価点（２次合格２０点、１次合格１７点、A判定１４点、B判定とC判定の25点以上１０点、C判定の24点以下０点）を足した点数を英語の総合成績とする。さらに、この総合成績が６０点以上の場合に、平常点を５点以内で加算・減算する。ただし、その結果は６０点～１００点＊					
テキスト・参考書	教科書１：Vivid English CourseII （第一学習社） 教科書２：英検Pass単熟語準２級改訂新版（旺文社） 教科書３：英検文で覚える単熟語準２級改訂版（旺文社） 参考書１：ジーニアス英和辞典第４版 参考書２：２０１２年度版英検準２級全問題集（旺文社）					
メッセージ	語学は毎日の地道な取り組みよってのみ効果が表れます。授業はもちろん、予習・復習にしっかり時間を費やしてください。また、おっくうがらずに辞書を調べること。 ＊に収まるものとする。合格点に達しなかった場合再試験を実施し、６０点以上の場合に英語の総合成績を６０点とする。					
前関連科目		後関連科目				

授業内容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
1．Lesson1（7回） 2．文法（7回） 3．英検問題演習（7回） 4．単語テスト	1．a）文中の重要単語熟語の意味が言える。 b）文章の内容が理解でき、それについての簡単な英問英答ができる。 2．英検準２級合格に必要な文法の基礎が理解できる。 3．英検準2級の合格に必要な基礎的な問題が理解できる。 ４．英検準2級合格に必要な単語熟語の意味を判別できる。
前期中間試験	実施する
1．Lesson4（7回） 2．文法（7回） 3．英検問題演習（7回） 4．単語テスト 5.英検テスト	1．a）文中の重要単語熟語の意味が言える。 b）文章の内容が理解でき、それについての簡単な英問英答ができる。 2．英検準２級合格に必要な文法の基礎が理解できる。 3．英検準2級の合格に必要な基礎的な問題が理解できる。 ４．英検準2級合格に必要な単語熟語の意味を判別できる。 ５．６０%の得点率に到達できる。
前期期末試験	実施する
1．Lesson7（7回） 2．文法（7回） 3．英検問題演習（7回） 4．単語テスト	1．a）文中の重要単語熟語の意味が言える。 b）文章の内容が理解でき、それについての簡単な英問英答ができる。 2．英検準２級合格に必要な文法が理解できる。 3．英検準2級の合格に必要な標準的な問題が理解できる。 ４．英検準2級合格に必要な単語熟語の意味を判別できる。
後期中間試験	実施する
1．Lesson9（7回） 2．文法（7回） 3．英検問題演習（7回） 4．単語テスト 5.英検テスト	1．a）文中の重要単語熟語の意味が言える。 b）文章の内容が理解でき、それについての簡単な英問英答ができる。 2．英検準２級合格に必要な文法が理解できる。 3．英検準2級の合格に必要な標準的な問題が理解できる。 ４．英検準2級合格に必要な単語熟語の意味を判別できる。 ５．６０%の得点率に到達できる。
後期期末試験	実施する

（出典　WEBサイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/index.php　釧路高専ホームページ）

資料５－１－②－５（続き）

３年英語（習熟度別）



（出典　授業時間割）

資料５－１－②－５（続き）

シラバス英語３年（英語検定準２級合格者）

平成24年度

全学科		英語				
学年	第3学年	担当教員名	片岡篤			
単位数・期間	2単位	通年	適当りの開講回数	1回	習熟度別	履修単位
授業の目標と概要	平易な英語の文章を限られた時間の中で数多く読み、その内容を的確に読み取るという、いわゆる多読の授業である。多読を通じて英語的な表現に数多く接することで、論理的に記述された英文の内容を読み取る力の向上のみならず、語彙力の増強をもめざす。なお毎回授業の最初に、各自の読解力のチェックのために、速読教材を用いた「小テスト」を実施する。（この授業は英語検定準2級1次試験に合格した学生を対象にした習熟度別授業のひとつのコースである。）					
	釧路高専目標	F:100%		JABEE目標	f	
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）	テキストは易しいものからある程度読み応えのあるものまで数百冊を英語科の方で用意した。学生は各自、そのテキストの中から自分の英語力や興味関心に照らして適切と思われるものを選び、極力辞書等を使わずに読んでいく。読み終えたら各自の「読書ノート」に必要事項を記入し、次のテキストを読んでいく。教師は、適宜「読書ノート」をチェックしたり、学生に簡単な質問をすることで学生の理解度を確認する。					
到達目標	論理的な英文の内容を的確に読み取れるようになるために、１０００　Headwords程度の英文を辞書を使わずに読み進め、概要を理解できる。					
成績評価方法	授業時間中に読んだ英文の量とレベルに応じて算出した評価点を40%、「小テスト」の平均点（１００点満点換算）を10%、定期試験の平均点を50%とし、その合計点を本授業での成績とする。 ＊「英語」としての総合評価及び「再試験」に関しては追加資料を参照のこと。					
テキスト・参考書	テキスト：Nelson社の　PW PLUSシリーズ、 Nelson Focusシリーズ、 Flying Colors シリーズ、Book web シリーズ、Zebrasシリーズ 等。					
メッセージ	本授業は各自が自主的に英文のテキストを読み進めていくというスタイルの授業であるので、授業中に私語を続けたり大きな声や物音を立てることは厳に慎んでもらいたい。テキストはバラエティに富んだものを用意したので、各自、自分のレベルや興味に合ったテキストを選び、積極的に読み進めていってもらいたい。					
前関連科目			後関連科目			

授業内容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
・「小テスト」 ・ 各自が選んだテキストを、極力辞書等を使わないで読んでいく。　読み終えたら各自の「読書ノート」に必要事項を記入する。　（６回）	テキストの内容を的確に把握できる。
前期中間試験	実施する
・「小テスト」 ・ 各自が選んだテキストを、極力辞書等を使わないで読んでいく。　読み終えたら各自の「読書ノート」に必要事項を記入する。　（9回）	テキストの内容を的確に把握できる。
前期期末試験	実施する
・「小テスト」 ・ 各自が選んだテキストを、極力辞書等を使わないで読んでいく。　読み終えたら各自の「読書ノート」に必要事項を記入する。　（８回）	テキストの内容を的確に把握できる。
後期中間試験	実施する
・「小テスト」 ・ 各自が選んだテキストを、極力辞書等を使わないで読んでいく。　読み終えたら各自の「読書ノート」に必要事項を記入する。　（７回）	テキストの内容を的確に把握できる。
後期期末試験	実施する

（出典　WEBサイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/index.php　釧路高専ホームページ）

資料５－１－②－５（続き）

シラバス英語３年（英語検定準２級未取得者）

平成24年度

全学科			英語				
学年	第3学年	担当教員名	林幸利				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		教科書、単語集を活用することにより、英語検定準２級に合格できるレベルの単語・熟語、文法知識の習得、英文の読解力の向上、聞き取り能力の向上を目指す。 釧路高専目標（F-6）　JABEE（f）					
		釧路高専目標	F:100%		JABEE目標	f	
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		年間１５回程度、単語集の「単語テスト」を実施する。 英検準２級１次試験に合格した場合は英検２級コースまたは多読コースに移ることができる（ただし第１回英検についてのみ）。					
到達目標		英語検定準２級に合格するレベルの英語力を習得できる。					
成績評価方法		定期試験の成績を７０％、「単語テスト」の成績を３０％として習熟度クラスの成績を出し、その結果と学科別クラスの成績の平均点に０．８を掛け、その点数に、英検準２級の２次合格者（２級以上の２次合格者も含む）に２０点、１次合格者には１７点、A判定には１４点、B判定（２５点以上）には１０点、B判定（２４点以下）には０点を足した点数を英語の総合成績とし、６０点以上を合格とする。さらに、合格点＊					
テキスト・参考書		教科書１：英検準２級合格セミナー（旺文社） 教科書２：英検文で覚える単熟語準２級（旺文社） 参考書１：ジーニアス英和辞典第４版（大修館） 参考書２：２０１２年度英検準２級全問題集（旺文社）					
メッセージ		学科別の授業も合わせて、最非力をつけて英検準２級合格を目指してください。 ＊に提出物等の平常点を５点を上限として加算・減算することがあり、その場合これが英語の最終評価となる。最終評価は６０点～１００点に収まるものとする。合格点に至らなかった場合は習熟度クラスと学科別クラスの両方について再試験を行い、総合で					
前関連科目		６０点以上となった場合について、英語の総合成績を算出する。		後関連科目			
授業内容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
Lesson1~5 （授業回数７回）			1．各設問（英検準２級基礎レベル）の正答に至るプロセスが理解できる。 2．単語集の与えられた範囲の語句の意味が言える。				
前期中間試験			実施する				
Lesson6~10 （授業回数７回）			1．各設問（英検準２級基礎レベル）の正答に至るプロセスが理解できる。 2．単語集の与えられた範囲の語句の意味が言える。				
前期期末試験			実施する				
Lesson12~16 （授業回数７回）			1．各設問（英検準２級標準レベル）の正答に至るプロセスが理解できる。 2．単語集の与えられた範囲の語句の意味が言える。				
後期中間試験			実施する				
Lesson17~21 （授業回数７回）			1．各設問（英検準２級標準レベル）の正答に至るプロセスが理解できる。 2．単語集の与えられた範囲の語句の意味が言える。				
後期期末試験			実施する				

（出典　WEBサイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/index.php　釧路高専ホームページ）

資料５－１－②－６

シラバス英語演習４年（TOIEC受験用）

平成24年度

全学科			英語演習				
学年	第4学年	担当教員名	片岡務・沼田敦・吉田茂				
単位数・期間		2単位	通年	適当りの開講回数	2回	選択	履修単位
授業の目標と概要		標準的なレベルの単語集を用いた単語試験を毎回実施することで、大学編入試験にも対応できる語彙力を身につけるとともに、実際の大学編入試験レベルの問題を解いていくことで実践的な英語力を養成する。また、ＴＯＥＩＣテスト対策用の語学演習ソフトを用いて、リスニング力、リーディング力の強化を図る。大学編入学希望者およびＴＯＥＩＣのスコア５００点以上を目指したい学生向けの講座である。					
		釧路高専目標	F:100%		JABEE目標	f	
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		毎週、「単語テスト」を実施する。 ２時間の内最初の１時間は、大学編入試レベルの課題の解答解説を行う。 もう１時間は、語学演習室のサーバにインストールされているＴＯＥＩＣテスト対策用の語学演習ソフトを用いての自学自習形式の授業を行なう。「自分の英語力を伸ばそう」という積極的かつ意欲的な姿勢で授業に臨むことが必須である。					
到達目標		大学編入試験に対応できる英語力およびＴＯＥＩＣテストで５００点以上のスコアをマークできるレベルの英語力を養成し、それを随時発揮できる。					
成績評価方法		「単語テスト」の成績の平均を４０%、定期試験の成績の平均を６０%とし、その合計点をもってこの授業の成績とする。そしてこの成績で６０点以上を合格とし、その点数を最終評価とする。再試験は実施しない。					
テキスト・参考書		教科書１　：　データベース４５００合格英単語・熟語　（桐原書店） 教科書２　：　アルクネットアカデミー初級・中級コース［語学演習ソフト］ 参考書１　：　ひとりで学べるＴＯＥＩＣテスト実践問題集（日東書院） 参考書２　：　ＳＥＥＤ総合英語（文英堂） 参考書３　：　ＳＥＥＤ　ＧＲＡＭＭＡＲ　４０　Ｕｎｉｔｓ　ＷＯＲＫＢＯＯＫ					
メッセージ		大学編入学のための英語力の強化、ＴＯＥＩＣのスコアアップのためには、授業外でも継続的な自学自習が不可欠である。 毎週、「課題」と「単語テスト」を課す。１年間やりぬく強い意志のある学生に受講してもらいたい。					
前関連科目		例年、多数の学生が履修届を出すが、２，３週間で半減し、後期には１０名程度しか残らない。熟慮の上、履修届を出すこと。		後関連科目			
授業内容							

授業項目	授業項目ごとの達成目標
・単語テスト ・実践的問題の解答解説 ・アルクネットアカデミー　初級・中級コース 　リスニング力強化／リーディング力強化／TOEIC演習 （授業回数６回）	・単語テストに出題された単語や熟語の意味を適切に答えることができる。 ・設問の解答に至る過程を適切に理解することができる。 ・自分の選んだＴＯＥＩＣのリスニング／リーディング／演習の教材の問題内容をよく理解し、正解することができる。
前期中間試験	実施しない
・単語テスト ・実践的問題の解答解説 ・アルクネットアカデミー　初級・中級コース 　リスニング力強化／リーディング力強化／TOEIC演習 （授業回数９回）	・単語テストに出題された単語や熟語の意味を適切に答えることができる。 ・設問の解答に至る過程を適切に理解することができる。 ・自分の選んだＴＯＥＩＣのリスニング／リーディング／演習の教材の問題内容をよく理解し、正解することができる。
前期期末試験	実施する
・単語テスト ・実践的問題の解答解説 ・アルクネットアカデミー・スタンダードコース 　リスニング強化コース 　リーディング強化コース 　TOEIC演習コース （授業回数８回）	・単語テストに出題された単語や熟語の意味を適切に答えることができる。 ・設問の解答に至る過程を適切に理解することができる。 ・自分の選んだＴＯＥＩＣのリスニング／リーディング／演習の教材の問題内容をよく理解し、正解することができる。
後期中間試験	実施しない
・単語テスト ・実践的問題の解答解説 ・アルクネットアカデミー・スタンダードコース 　リスニング強化コース 　リーディング強化コース 　TOEIC演習コース （授業回数７回）	・単語テストに出題された単語や熟語の意味を適切に答えることができる。 ・設問の解答に至る過程を適切に理解することができる。 ・自分の選んだＴＯＥＩＣのリスニング／リーディング／演習の教材の問題内容をよく理解し、正解することができる。
後期期末試験	実施する

（出典　WEBサイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/index.php　釧路高専ホームページ）

資料５－１－②－７

平成23 年度 第２回科目間調整会議 記録

日時 平成24 年1 月24 日 (火) 16:30～17:30
場所 小会議室
出席者 チーフ：山﨑主事補
一般教育科理系：加藤(隆)先生，一般教育科文系：片岡(務)先生，M：荒井先生，
E：高木先生，D：浅水先生，J：大槻(典)先生，A：千葉先生，一：澤柳先生，
一：小谷先生，事務：小田島
－ 山﨑先生から，レジュメおよび資料の確認があった。
引き続き，山崎先生から，資料１に基づき，道内高専の状況説明があった。
－ 澤柳先生から，以下のとおりコンセンサスの確認があり，そのうえで，大学編入学向け科目のクラス順位の出し方を議論したい旨説明があった。
・釧路高専は，全国高専の中で低い学力であること。
・現状のままでは，推薦でしか大学に編入学できなくなってしまうこと。
・推薦で不合格になった学生は，学力で編入学できないほどの学力であること。
－ 山﨑先生から，資料２について以下のとおり説明があった。
・資料２については，認定会議前のデータを使用している。
・現状のクラス順位と，単位に重み付けをした時及び大学編入学向け科目を除外した時のクラス順位に，極端な変動はない。
・クラス順位の変動は個々人によって多種多様であり，必ずしも大学編入学生向けの科目がクラス順位を下げる結果になっていない。
－ 澤柳先生から，以下のとおり意見があった。
・資料２は，成績の悪い学生が履修取消をした後のデータとなっており，実際に取り消さなければクラス順位がかなり下がる学生もいる。
・大学編入学向け科目については，４年生の時にクラス順位に影響しない工夫をしてほしい。
－ 小谷先生から，以下のとおり意見があった。
・申し合わせに，選択科目のある学年の成績席次の決め方について記載があるが，30 年以上も前のものである。そろそろ見直すべきではないか。
その後，種々意見交換があった。
・途中の順位が悪くても，最終的に履修取消をすればいいのではないか。
・函館高専のように，卒業単位から外して，クラス順位に影響しないようにしてはどうか。
・個人的には，時間をかけた科目に重み付けをするGPA を導入してほしい。
山﨑先生から，これらの話し合いをふまえて，以下のとおり教務委員会に意見をあげることとした。
・完全なGPA を導入するのではなく，単位に重み付けをする。
・編入学生向けの科目については，卒業要件に含まず，クラス順位付けの対象外科目とする。
・来年度からの実施を検討したい。

（出典　平成24年２月　教務委員会資料）

資料５－１－②－８

大学編入向け選択科目について

(10) 評価のあり方について

山﨑主事補から，資料14に基づき，科目間調整会議の報告を含む説明があった。

引き続き山﨑主事補から，「単位の重み付けをした平均点による順位付け」，「大学編入学対策で開講している科目（数学Ⅱ・数学Ⅲ・物理Ⅱ）を卒業要件および順位付けから除外する」ことについて，各学科等の意見を伺うこととなっていた旨の説明があり，おおむね賛成意見が多かったことから，来年度からの実施に向けて，具体的な取り扱いについて，以下のとおり確認がなされた。

・順位付け方法は，来年度から全学年に適用する。

・重み付けは，時間数ではなく単位数である。

・「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」「物理Ⅱ」は，卒業要件に含まれないことから，これらの科目の欠課は，総欠課制限時数に含まれないが，各科目の単位認定要件のため５分の１欠課および３分の１欠課超過については含まれる。

・「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」「物理Ⅱ」は，合格の場合のみ成績一覧等に表記される。

・教務事務システムの対応は，間に合わないことが予想されるため，各科目による集計作業が必要となる。

なお，山﨑主事補から，「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」「物理Ⅱ」を卒業要件から除くことにより，一般科目の教育課程表に変更が必要である旨の説明があり，審議の結果，了承された。

（出典　平成24年２月　教務委員会議事録）

（分析結果とその根拠理由）

２段階学科選択制度は，学生の適性に合わせた学科選択を実現するために，平成21年度から導入した。ほとんどの学生及び保護者がこの制度に肯定的な意見であり，学生のニーズに対応させた制度として機能している。

北海道内の４高専が連携して北海道内の大学との連携協定締結を推進した。これらは，大学におけるインターンシップの推進など，学術の発展に対する学生の興味を喚起する役割を果たしている。

英語教育については，低学年においては英検中心，高学年においてはTOEIC中心の教育という棲み分けを行った。また，大学編入学用選択科目に関して，クラス順位など学生の不利にならないよう配慮がなされている。

これらのことから，教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展の動向，社会からの要請等に配慮している。

観点５－２－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

（観点に係る状況）

各学科の教育課程を基に，講義，演習，実験・実習という授業形態別の開設単位配分比率を資料５－２－①－１に示す。どの学科においても，低学年では基礎教育のために講義形式の授業が多く，高学年になるに従って実験・実習・演習系の科目の割合が高くなっており，高専教育の特徴であるくさび型教育をバランスよく実現し，専門の学芸の教授と職業に必要な能力の育成を実現している。

本校の特色ある制度である「２段階学科選択制度」において，１学年は学科によらない完全混合学級を構成し，入学者全員に共通教育を施している。その中でも，１学年における専門教育として，コンピュータリテラシー（資料５－２－①－２）において「技術者として分野によらず必要なコンピュータの基礎」を学習し，「技術者基礎」（資料５－２－①－３）において「技術者として分野によらず必要な技術者リテラシー」を学習する。さらに，「ものづくり基礎」（資料５－２－①－４）では，「本校の全ての学科の基礎を体験的に学習する」ことを目的として設定し，学生の視野を広く保つようにしている。

４学年共通のコミュニケーション実践（資料５－２－①－５）では，「学生が実社会に出たときのコミュニケーション」を念頭に置き，「教員・学生間，学生同士を問わず，授業はすべて敬語を用いる」ことを約束としており，学生に「正しい日本語」を意識させる工夫をしている。

５学年建築学科の特別設計演習（資料５－２－①－６）は選択科目として，専攻科選択科目のデザインプロポーザルと共通開講としており，高専デザインコンペティションの課題をテーマとしており，学生にグループ作業や創造力育成の工夫をしている。

５学年の一般選択科目群（日本文学，歴史と文化等）においては，現在９科目を同時開講し，少人数授業や対話型授業（資料５－２－①－７）の工夫をしている。

本校では，すべてのホームルーム教室に情報機器（プロジェクタ，DVDプレーヤ）が設置されており，それぞれの教員は必要に応じてこれらを活用した授業方法の工夫を行っている。

資料５－２－①－１

「学科ごとの授業形態別単位配分比率の表またはグラフ」

実験・演習・卒業研究等の比率

平成24年度　前期授業時間割

		月								火								水								木								金								座学	実験演習卒検
		1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8		
1学年	1	コンピュータリテラシー 情報・倉庫		化学 坂本	国語 加藤百	数学 澤	柳	HR 澤	柳	英語 沼	田	数学 川	中	倫理 藤	社会 本	物理 浦	家	保健 篠	国語 岡	英語 吉	田	化学 坂	本	物理 浦	家	体育 恐	神	数学 澤	柳	(S) 美術 音楽 加藤百・高橋久				英語 片	岡					国語 加藤百	下	88.2	11.8
	2	国語 加藤百	化学 坂本	数学 川	中	英語 沼	田	HR 吉	田	コンピュータリテラシー 本田・井上	倫理 藤	社会 本	国語 加藤百	数学 宮	毛			体育 恐	神	化学 坂	本	物理 浦	家	英語 吉	田	数学 宮	毛	(S) 美術 片	岡	数学科教員		国語 加藤百	物理 梅津	保健 舘	岡							88.2	11.8
	3	化学 坂田	物理 浦家	コンピュータリテラシー 浅木・高		数学 山	崎	HR 加藤百	下	英語 吉	田	数学 伊	藤	物理 浦	国語 家	国語 加藤百	下	化学 坂	田	体育 恐	神	英語 片	岡	保健 舘	岡	数学 伊	藤	(S) 美術 音楽 加藤百・高橋久				英語 沼	田	国語 加藤百	下							88.2	11.8
	4	英語 沼	田	数学 池	田	国語 加藤百	物理 浦	HR 浦	家	化学 加藤隆		英語 吉	田	体育 恐	神	国語 加藤百	下	化学 加藤隆	保健 三	数学 阿	部	倫理 藤	社会 本	国語 加藤百	下	英語 片	岡	数学 阿	部	(S) 美術 音楽 加藤百・高橋久				ものづくり基礎 (ラボ安全教) (その他実験他)				物理 浦	家	88.2	11.8
	5	物理 浦	国語 家	数学 小	谷	倫理 藤	社会 本	HR 小	田	物理 浦	保健 家	コンピュータリテラシー 加藤隆・大槻淳		国語 加藤百	下	英語 吉	田	数学 阿	部	英語 片	岡	化学 加藤隆		国語 加藤百	下	数学 阿	部	体育 恐	神	英語 沼	田	(S) 美術 音楽 加藤百・高橋久						化学 加藤隆	下	88.2	11.8
2学年	M	機械設計製図Ⅰ		英語 渡	邊	化学 林	幸	加藤隆	HR 渡	邊	物理 梅津	機械工学実習・実験Ⅰ 赤堀・渡辺		数学 小	谷	英語 林	幸			工業力学 渡	邊	物理 梅	津	国語 小田島				現代社会 大	石	英語 加藤隆	日本史	数学 林	幸			数学 伊	藤	小田島	舘	岡	83.9	16.1
	E	国語 小田島		電気回路Ⅰ 井	上	物理 梅	津	HR 本	田	体育 舘	岡	機械工学概論 千	田	数学 池	田	大	石	電子計算機 野	口	英語 林	幸	数学 池	田			国語 小田島	日本史	化学 加藤隆		英語 林	幸			物理 梅津	英語 林幸	数学		電気製図 佐々木・佐藤英				84.8	15.2
	D	体育 三	島	物理 梅	津	英語 林	幸	HR 梶	原	国語 舘下美		回路設計基礎演習 梶	原	英語 林幸		数学 山	崎	創造工学		化学 加藤隆		数学 山	崎	英語 林	幸	数学 小	谷	電子工学総合演習 中	村	現代社会 大	石	情報基礎 中	村	国語 梅津	物理 浅	電気回路Ⅰ 水	村	日本史		88.2	11.8
	J	現代社会 大	石	情報数学 本	間	数学 佐	古	HR 大槻淳		情報工学演習 大槻淳・千葉		体育 恐	神	物理 梅	津			国語 小田島	日本史	数学 山	崎	英語 沼	田	プログラミング言語Ⅰ 千葉		UNIXリテラシー 情報		数学 佐	古	英語 吉	田	国語 舘下美		化学 加藤隆		英語 沼	田	物理 梅津		UNIXリテラシー 本田・井上		82.4	17.6
	A	化学 加藤隆		建築概論 佐藤哲		デザイン工学 鈴木邦・阿部・幸田		HR 佐藤彰		数学 宮	毛	国語 舘下美		英語 林幸		体育 三	島	現代社会 大	石	建築設計演習Ⅰ 佐藤彰		数学 宮	毛	情報処理演習 佐藤彰・大槻淳		物理 浦	家	日本史		英語 吉	田	数学 池	田			物理 舘	下	国語 加藤隆		建築設計演習Ⅰ 佐藤彰		英語 吉	田	82.4	17.6
3学年	M	材料力学Ⅰ 成	澤	機械設計法Ⅰ 渡	邊	機械設計製図Ⅱ 川	村	HR 山	崎	応用物理 松	崎	数学 山	崎	国語 小田島		(S) 英会話		英語 松本茂		機械工学実習・実験Ⅱ 渡・荒井		機械工作法Ⅱ 高橋剛		世界史 木	村	数学 山	崎	物理学演習 松崎		数学 舘	岡	体育 三	島	機械材料Ⅰ 岩	渕					82.4	17.6
	E	数学 宮	毛	世界史 木	村	応用物理 松	崎	HR 松崎		電子工学 須	田	国語 小田島		物理学演習 松崎				電気工学実験Ⅰ 佐々木・本田				電気磁気学 井	上	英語 松本茂		数学 宮	毛			電気回路Ⅰ 小松正		数学 高木敏		電気機器Ⅰ 三	島					78.8	21.2
	D	数学 佐	古	電子工学実験Ⅱ 舘岡・高木敏		体育 舘	岡	HR 小田島	高	数学 須	田	小田島		世界史 木	村	電気回路Ⅱ 松本和		電子回路Ⅰ 坂	口	論理回路Ⅰ 山	形	物理学演習 松崎		電子工学実験Ⅱ 舘岡・高木敏		英語 小松久		佐	古			国語 舘下徹		応用物理 松	崎	プログラム言語Ⅰ 山	田					78.8	21.2
	J	プログラミング言語Ⅱ 梅田・上江洲		コンピュータネットワーク Ⅰ 高橋久・大貫		数学 小	谷	HR 天元		プログラミング言語Ⅱ 梅田・上江洲		国語 舘下徹		英語 小松久				応用物理 松	崎	数学 小	谷					論理回路 大槻淳		アルゴリズム論 本	間	世界史 木	村	体育 舘	岡	数学 小	谷	電磁気学 神	谷	物理学演習 梅津				78.8	21.2
	A	建築CAD 齊藤・大槻淳		体育 舘	岡	数学 池	田	HR 佐藤彰		建築設計演習Ⅱ 佐藤哲		英語 阿部孝		(S) 英会話 外国人講師				数学 池	田	物理学演習 木	村	梅津		建築設計演習Ⅱ 佐藤哲		応用物理 梅	津	国語 舘下徹				数学		建築構造力学Ⅰa		建築計画Ⅰ 佐藤彰				78.8	21.2

		月								火								水								木								金								座学	実験演習卒検
		1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8		
4学年	M	熱力学Ⅰ 川	村	機械材料Ⅱ 岩	渕	コミュニケーション実践		流体工学Ⅰ 小杉淳		機械創造設計 小	杉	応用数学A 藤原・佐藤隆		英語 廣	瀬	(S) 別記2		生産工学 高橋剛		メカトロニクスⅡ 荒	井	応用物理 松	崎	体育 三	島	特別活動		コミュニケーション実践	機械工学実習・実験Ⅲ 須藤・渡邊・前田・赤堀			法学 南須原		応用数学A 藤原・佐藤隆		CAD/CAM		電気電子工学 前	田					75.6	24.4
	E	応用物理 松	崎	高電圧工学 佐々木		電気磁気学 鈴木俊				電子回路 野	口	応用数学A				(S) 別記2		英語 石山勲		送配電工学 高木一		コミュニケーション実践	(S) 電気機器Ⅱ 高木敏			電気工学実験Ⅱ 高木敏・鈴木俊		特別活動		(S) 英語演習		体育 舘	岡	応用数学A 藤原・佐藤隆		法学 南須原		88.6	11.4
	D	工学課題実験 梅田・アロ・大槻		法学 南須原		コミュニケーション実践	論理回路Ⅱ 山	形		別記1		電子回路Ⅱ 坂	口			(S) 別記2		電気回路Ⅲ 中	村	電子工学実験Ⅳ 松本敏・浅水		体育 三	島	数値解析 山田・佐藤隆		電磁気学Ⅱ 戸	谷	電子工学実験Ⅳ 松本敏・浅水		英語 石山勲		特別活動		プログラム言語Ⅱ 山	田	応用物理 松	崎	(S) 数学Ⅲ		75.0	25.0
	J			確率統計 天	元	数値解析 神	谷			特別活動 加藤百	コミュニケーション実践	応用数学A 藤原・佐藤隆		法学 南須原				応用物理 浦	家	(S) コンピュータネットワーク 大貫・高橋久		電気回路 栃	川					プログラミング言語Ⅲ 天	元	英語 石山勲		体育 舘	岡			応用数学A 藤原・佐藤隆		ネットワークグラフ論 本	間	コミュニケーション実践 加藤百				80.0	20.0
	A	建築構造力学Ⅱ		建築設計演習Ⅲ		応用数学A 佐藤隆				建築工学実験 佐藤彰・大槻淳		建築環境工学Ⅱ 栗	原					(S) 応用数学C 澤	柳	建築設計演習Ⅲ 千	葉	建材料 三	森			英語 廣	瀬	建築史 西澤		体育 小田島		片岡	沼田	コミュニケーション実践	特別活動	法学 南須原		応用物理 浦	家	小	谷	79.4	20.6
5学年	M	流体工学Ⅱ 小杉淳		数値解析法 赤	堀	(S) 機械工学特論 工業数学 赤堀		ドイツ語 舟	木	オフィスアワー 大石		材料評価学 岩	渕	流体機械 丹		卒業研究 M科全教員		振動工学 成	澤	ドイツ語 大石		英語						(S) 応用数学Ⅱ 澤	柳	熱力学Ⅱ 川	村	卒業研究 M科全教員		計測工学 前	田	材料力学Ⅲ 成	澤					67.7	32.3
	E	電気工学実験Ⅴ 野口・佐藤英				(S) 通信工学 須	田	オフィスアワー						英語		卒業研究 E科全教員				制御工学 千	田									(S) 人工知能 太	元	卒業研究 E科全教員		(S) 電気法規・電気施設 佐々木		ドイツ語 藤	本	電子回路 井	上	電気計測 小松正		66.7	33.3
	D	オペレーティングシステム 山	田	通信伝送工学 戸	谷					別記1		電気回路Ⅲ 山	形	英語		卒業研究 D科全教員		別記3		(S) ソフトコンピューティング 神	谷	画像工学Ⅰ 佐	治	ドイツ語 大石		(S) 電気エネルギー 小松正						半導体工学Ⅰ 坂	口	制御工学 梶	原	ドイツ語 大石				70.6	29.4
	J	(S) 信号処理Ⅰ 大槻典		コンパイラ 林	裕	計算機方式 大	貫			オフィスアワー		情報工学実験Ⅲ 本間・千葉		卒業研究 J科全教員						情報工学実験Ⅲ 本間・千葉		英語								建築総合演習 太	元	卒業研究 J科全教員		計算機制御 大槻典		ドイツ語 木	村	データベース 高橋晃				52.8	47.2
	A	(S) 鋼構造設計演習 草	苅	建築設計Ⅰ 佐藤彰		(S) 応用数学B 佐藤隆				建築構造力学Ⅲ 鈴木邦		鉄筋コンクリート構造 草	苅	卒業研究 A科全教員				建築生産 鈴木邦		(S) ソフトコンピューティング 神	谷	英語		都市計画 千	葉	ドイツ語 藤	本			建築総合演習 澤	柳	卒業研究 A科全教員		ドイツ語 藤	本	(S) 特別設計演習 西	澤	鉄筋コンクリート構造 草	苅	(S) 測量学		68.4	31.6

（出典　本自己評価書のための作成資料）

資料５－２－①－２

平成24年度

全学科			コンピュータリテラシー				
学年	第1学年	担当教員名	前田貴章・赤堀匡俊・本田匠・井上泰仁・高義礼・浅水仁・林裕樹・土江田織枝・加藤雅也・				
単位数・期間		1単位	前期	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		学生生活におけるレポート作成等で必要性の高い，ワープロ・表計算・プレゼンテーションツールの基礎的な使用方法を理解するとともに，情報社会におけるネットワークセキュリティや情報モラルについての認識を高める．					
		釧路高専目標	C:70%,F:30%		JABEE目標		
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		演習形式の授業なので休むことの無いように留意し，止むを得ず休んだ場合には担当教員から課題提出などの指示を受けること．授業の初めに設定したパスワードは紛失や盗難しないよう責任を持って各自で管理すること．課題の提出は原則授業時間内であるが，終らなかった場合は速やかに放課後などを利用して行い提出すること．各自で作成した課題はＵＳＢメモリーなどでバックアップを取る事が望ましい．					
到達目標		インターネット，ネットワーク利用に関するをモラルやマナー，知的所有権等について理解できる．電子メールやネットブラウザなどのインターネット環境を充分に利用でき，代表的なオフィスアプリケーションソフトであるマイクロソフト社のワード，エクセル，パワーポイントの基本的な操作方法が理解できる．さらにレポート類や各種発表における資料の作成に活用できる．					
成績評価方法		合否判定：全ての課題を提出し，全課題の評価の平均点が60点以上であること．　提出期日より遅れて課題を提出した場合，その課題の評価を減点する． 最終評価：全課題提出物の平均（100%）					
テキスト・参考書		教科書：毎日コミュニケーションズ 速攻！パソコン講座　ワード２０１０ 速攻！パソコン講座　エクセル２０１０ 速攻！パソコン講座　パワーポイント２０１０					
メッセージ		最初は，コンピュータ操作の経験によっては大きく差が生じます．しかし，遅れ気味な人でも着実に演習を消化していけば，充分なスキルが身に付きます．休まない，授業中は集中する，演習に手を抜かないなどの基本的な学習姿勢が大切です．					
前関連科目				後関連科目			

授 業 内 容

授業項目	授業項目ごとの達成目標
1.ガイダンスとパスワード設定 2.インターネット講習会 3.インターネットの利用 4.ワード1：文字入力，文字列のコピーと貼り付け 5.ワード2：文字装飾，文章のレイアウト 6.ワード3：図，表，写真などの挿入 7.エクセル1:エクセルの基本操作1	1.パスワードの設定，ログイン／ログアウトができる． 2.インターネット利用上のルールとマナーを理解して利用できる．トラブルに対しての予防・対処ができる 3.WWWを利用した効率的な情報収集ができる．電子メールおよびMoodleのサービスを理解し利用することができる． 4.文字の入力，文字列のコピーと貼り付けができる． 5.文字の大きさ，色，書体，文章のレイアウトを変更できる． 6.図,表,写真等を文中に挿入し，レイアウトを整えた総合的な文章が作成できる． 7.基本画面・構成が理解でき簡単なデータの入力を行うことができる．
前期中間試験	実施しない
8.エクセル2:エクセルの基本操作2 9.エクセル3:表計算と関数の基礎 10.エクセル4:グラフ作成方法の基礎 11.ワードとエクセルの複合問題 12.パワーポイント：パワーポイントの基本操作1 13.パワーポイント：パワーポイントの基本操作2 14.プレゼン資料の作成，プレゼンテーション1 15.プレゼンテーション2	8.書式設定や罫線の引き方，セルの扱い方が理解できる． 9.四則演算や簡単な関数を用いた演算ができる． 10.グラフの基本的な作成方法とカスタマイズの方法が理解できる． 11.図表，グラフが混在する報告書を作成できる． 12.基本画面・構成が理解でき簡単なスライドを製作できる． 13.スライドに写真や図表が挿入でき、アニメーションなどを使った効果的なスライドが作成できる． 14,15.プレゼンテーションの方法やリハーサル機能について理解できる．
前期期末試験	実施しない

（出典　WEB サイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/index.php　釧路高専ホームページ）

資料５－２－①－３

「技術者基礎シラバス」

平成24年度

全学科			技術者基礎				
学年	第1学年	担当教員名	高橋剛・小松正明・山田昌尚・大貫和永・佐藤彰治				
単位数・期間		1単位	後期	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		2年生になって配属される専門学科で共通して必要とされる技術者のリテラシーを身につけるための科目です．専門学科配属後の4年間の学習を行う上で必要となる基礎的な知識を身につけることを目標としています．					
		釧路高専目標	A:40%,F:60%	JABEE目標			
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		5つの専門学科の教員が3回ずつ担当して計15回の授業を実施します．クラスによって履修の順番が異なり，テーマによって授業を実施する教室が変わることがありますので，事前に確認してください． 授業のあとで，復習すること．					
到達目標		技術者としての基礎的なリテラシー（考え方・姿勢・技能・表現力）を身につけることができる．					
成績評価方法		合否判定：5つの各テーマの評価が60点以上であること 総合評価：各テーマの成績を平均して最終評価とします． テーマごとの評価方法は各テーマの最初に説明があります． 再試験の合否判定：5つのテーマの中で，不合格のテーマのみを受験し，評価が60点以上であること．					
テキスト・参考書		教科書：最初の授業で配布する． 参考書：①図解 技術者の心得，中川義弘，経営書院 ②「知的な科学・技術文章の書き方」，中島利勝ほか，コロナ社 ③速効！パソコン講座「エクセル」，毎日コミュニケーションズ					
メッセージ		専門学科の教員が持ち回りで15回の授業を担当します．病気などでやむを得ず休んだ場合には補講や課題を課されることになります．できるだけ休まないようにしましょう． 休む場合は事前に担任に連絡をするようにしてください．					
前関連科目		該当科目なし		後関連科目	専攻科2年必修「技術者倫理」		
授業内容							
授業項目		授業項目ごとの達成目標					
前期中間試験							
前期期末試験							
・技術と社会 1)高専卒技術者の将来像と可能性（1回） 2)技術者としての倫理感（1回） 3)知的財産権の理解（1回） ・技術者の方法 4)技術者の基礎としての計測実験法(1)（1回） 5) 技術者の基礎としての計測実験法(2)（1回） 6) 技術者の基礎としての計測実験法(3)（1回） ・情報リテラシー 7)情報リテラシー(1)（1回）		1) 高専の特長，社会的使命を理解できる．高専の学習方法，卒業後の進路から将来像をイメージできる． 2) 企業の実態を把握し，技術者の必要性と責務を理解することができる．技術者が関与した社会的不祥事件からあるべき姿勢を説明できる 3) 発明の保護の必要性および特許制度を理解する．知的財産の盗用がもたらす社会的影響の大きさを知る． 4)概数の計算ができる．					
後期中間試験		5)身近にあるものの面積や体積を計算することができる．					
8)情報リテラシー(2)（1回） 9)情報リテラシー(3)（1回） ・技術者の考え方 10)Ｗｅｂ検索の集合と論理（1回） 11)論理的な考え方のための集合と論理（1回） 12)関数電卓の使い方（1回） ・表計算を利用したデータの表現法 13)表計算の応用(1)（1回） 14) 表計算の応用(2)（1回） 15) 表計算の応用(3)（1回）		8)インターネット上の情報と書籍の情報を比較対照することができる 9)調べたい項目に対して，複数の情報源を用いることができる 10)Web検索エンジンを使って条件の設定により，論理的に情報を抽出する技術を身につけ，技術の利点を説明できる． 11)Web検索の経験を基にして論理と集合と技術者的思考の関連を説明できる． 12)関数電卓の機能の概要を知り，適切な利用ができる． 13) 複数の系列データを表とグラフで適切に表現できる． 14) 表計算における簡単な論理関数機能が理解でき，利用することができる．					
後期期末試験		実施しない					

（出典　WEB サイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/index.php　釧路高専ホームページ）

資料５－２－①－４

平成24年度

全学科			ものづくり基礎				
学年	第1学年	担当教員名	川村淳浩・小杉淳・成澤哲也・渡邊聖司・鈴木俊哉・本田匠・戸谷伸之・坂口直志・山形文啓				
単位数・期間		4単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		機械・電気・電子・情報・建築の５学科について，それぞれの学科の初歩を体験的に学習することにより自分の学科希望の参考とするとともに，自分の将来の専門分野外の基本的な知識を得ることを目的とする． メカニズム，電磁気，音響，発電，プログラミング，制御に関する各学科の基礎分野について体験的に学習する．				
		釧路高専目標	C:100%	JABEE目標			
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		①１学科３週間とし，前期・後期それぞれ５学科すべてを体験的に学習する． ②短期間でひとつのテーマが完結するので，集中して取り組むこと． ③自分の進みたい道を確認するための重要な体験であり，同時に他の分野ではどのようなことを学習するのかを知る数少ない機会である．すべてに積極的に参加し，視野を広げる努力をすること．				
到達目標		①５学科すべてを体験的に学習し，それぞれの学科の特徴を理解することができる． ②自分の希望学科決定の材料とすることができる． ③コミュニケーションやグループワークの基礎を身に付けることができる．				
成績評価方法		①合否判定：５学科の評価平均点が60点以上であること ②最終評価：５学科の評価平均点 ③再試験：各学科において実施し，平均点が60点以上で合格				
テキスト・参考書		テキスト：各学科において，プリント等にて配布する． 参考書①： 参考書②： 参考書③：				
メッセージ		２学年進級時の学科選択における自己決定の重要な要素となる科目である．				
前関連科目		なし	後関連科目	なし（各専門基礎科目）		

授業内容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
それぞれの学科が以下のテーマで行う．詳細は各学科の初回授業時のガイダンスで指導する． 機械　メカニズム・コンテスト(川村淳浩・小杉淳) 電気　デジタルテスターの製作(鈴木俊哉・本田匠) 電子　音楽ＡＭＰで鳴らそう(戸谷伸之・坂口直志・山形文啓) 情報　PCを自作しよう(天元宏・中島陽子) 建築　モルタル de ZOKEI(三森敏司・鈴木邦康・桑原浩平)	機械工学科の基礎知識を学ぶことができる。 電気工学科の基礎知識を学ぶことができる。 電子工学科の基礎知識を学ぶことができる。 情報工学科の基礎知識を学ぶことができる。 建築学科の基礎知識を学ぶことができる。
前期中間試験	
前期期末試験	
機械　ジャイロカーまたはオルゴール(成澤哲也・渡邊聖司) 電気　電磁力ロケット打上げコンテスト(鈴木俊哉・本田匠) 電子　熱電くん(戸谷伸之・坂口直志・山形文啓) 情報　ロボラボによる制御プログラミング(林裕樹・土江田敏秋) 建築　make a model ～有名建築～(大槻香子・佐藤哲・桑原浩平)	機械工学科の基礎知識を学ぶことができる。 電気工学科の基礎知識を学ぶことができる。 電子工学科の基礎知識を学ぶことができる。 情報工学科の基礎知識を学ぶことができる。 建築学科の基礎知識を学ぶことができる。
後期中間試験	
後期期末試験	

（出典　WEB サイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/index.php　釧路高専ホームページ）

資料５－２－①－４（続き）

ものづくり基礎オリエンテーション



授業の目標と概要

- 五つの専門学科の初歩を体験的に学習することで、学科希望の参考にすること。
  - 機械工学科　M
  - 電気工学科　E
  - 電子工学科　D
  - 情報工学科　J
  - 建築学科　A
- 自分の専門分野外の基本的な知識を得ること。



授業の進め方

- 週1回(金曜日)、昼休みを挟んで4時間連続の授業。
- 1学科のテーマは、半期3週(12時間)が一区切り。
- 各クラスは、半期の間に順に5学科全てのテーマを受講する。
  前期: 3週×5学科＝15週(15回)
  後期: 3週×5学科＝15週(15回)



授業の進め方

半期15回のスケジュール

	第1回～第3回	第4回～第6回	第7回～第9回	第10回～第12回	第13回～第15回
1組	M	E	D	J	A
2組	E				
3組	D				
4組	J				
5組	A	M	E	D	J

各クラスは半期で全学科のテーマに取り組む

一つの学科のテーマを3週連続で受講する
同じ日に、各クラスは別の学科のテーマに取り組む

授業の進め方

- 授業は各学科の指定した場所で行われる。
- 必要な持ち物などもそれぞれ違うので、注意が必要。
- 3回1サイクルで次の学科のテーマに移るので、**授業を欠席した場合はなるべく早く授業担当者と相談して、補習の時間を設定しなければならない**。
- やむを得ず欠席することが分かっているときは、担任の先生と授業担当者にあらかじめ相談するようにする。
- 風邪などで急に休んだ場合は、回復して登校し次第、授業担当者と相談する。

評価（成績）

- 最終評価は、各学科100点満点で評価したものを平均したものになる。
- 提出物が揃っていないと、不合格(赤点)になる場合もあるので、提出期限を守るように気をつけなければならない。



（出典　ものづくり基礎オリエンテーション資料）

資料５－２－①－４（続き）



機械工学科



電気工学科



電子工学科



情報工学科



建築学科

（出典　学生課資料）

資料５－２－①－５

「コミュニケーション実践シラバス」

平成24年度

情報工学科		コミュニケーション実践				
学年	第4学年	担当教員名	加藤岳人			
単位数・期間	2単位	通年	週当りの開講回数	2回	必修	履修単位
授業の目標と概要	文章表現・口頭表現による効果的なコミュニケーション能力を身につける。 具体的には、論理的な記述、発表、討論、その他社会的に常識とされるコミュニケーションの力を養う。					
	釧路高専目標	F:100%	JABEE目標	f		
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）	・授業はすべて敬語を用いて進めるので、他人への配慮・敬意を実践的に表現する訓練と考えてほしい。 ・配布物は各自ファイルに保管すること。					
到達目標	・状況に応じた敬語の使い分けができる。 ・社交上の言語マナー、建設的な討議の条件について理解し、実践できる。 ・効果的な発表、論理的記述および望ましい聴く態度を実践できる。					
成績評価方法	定期試験の成績（50%）と口頭発表・討論および小論文・レポート等提出物の内容（50%）により評価する。合否判定もこれに同じ。					
テキスト・参考書	テキスト:教材プリント（授業時に配布） 参考書:『科学的に説明する技術』（福澤一吉著　ソフトバンク クリエイティブ） 『一目でわかる!! 図解版口のきき方』（梶原しげる著　PHP研究所）					
メッセージ	敬語の学習は人間関係についての勉強だと考えてほしい。また、話す・聴くという行為においては、場の状況を読み取る感受性と他人に対して開かれた柔軟な姿勢が求められる。 学んだことを日常生活でも積極的に実践しよう。					

授業内容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
1. 敬語の基礎1　16回	1. 尊敬表現と謙譲表現の区別を理解し、実践できる。
前期中間試験	実施する
2. 試験反省　1回 3. 敬語の基礎2　13回	2. 個別の課題を認識できる。 3. 状況に応じた敬語の使い分けができる。
前期期末試験	実施する
4. 試験反省　1回 5. 社交上の言語マナー　4回 6. 口頭発表　11回	4. 個別の課題を認識できる。 5. 状況に応じた、礼儀正しい言語運用ができる。 6. 資料提示装置を用いた効果的な口頭発表ができる。 良い聴き手として他人の発表を公平に批評できる。
後期中間試験	実施する
7. 試験反省　1回 8. 討議　13回	7. 個別の課題を認識できる。 8. 十分な準備を生かした、建設的な討議ができる。
後期期末試験	実施しない

Created at Sun Jun 24 10:05:06 JST 2012

（出典　WEB サイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/index.php　釧路高専ホームページ）

資料５－２－①－６

「特別設計演習シラバス」

平成24年度

建築学科			特別設計演習				
学年	第5学年	担当教員名	西澤岳夫				
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	1回	選択	学修単位1
授業の目標と概要		全国高専デザインコンペティション(デザコン)の課題に取り組むことで、デザイン、プレゼンテーションの能力を向上することができる。 チームで作業する場面もあるため、コミュニケーション能力の向上が期待できる。					
		釧路高専目標	E:50%,F:50%		JABEE目標	d-2-c,e,f	
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		本科目は学習単位となっており、授業以外の時間を使って情報収集や作業を行うことが必須である。また、この情報収集にあたっては、的確かつ効率よく作業を行えるよう努力する事が必要である。チームで作業を行うこともあるため、その場合は、チームに積極的に参加することが必要である。					
到達目標		デザコンの課題を通じて、自分のデザインした計画をまとめることができる。パワーポイント、ポスターなどを使ってプレゼンテーションができる。チームのなかで積極的にコミュニケーションをはかりながら作業することができる。					
成績評価方法		中間発表(20点)、事前作品発表会(プレゼンテーション:10点、作品の内容30点)、最終作品発表会(プレゼンテーション:10点、作品の内容30点)で評価する。 合否判定(中間発表＋事前作品発表会＋最終作品発表会)と 60の場合(合格) ※デザコンに応募できなかった場合とデザコンに応募できるレベルに達しないと判断された場合(最終作品発表会24点未満)は、新たな課題を課すこととする。					
テキスト・参考書		＜教科書＞指定しない。 ＜参考書＞ 『全国高等専門学校デザインコンペティション　プログラム』(高等専門学校連合会) 『卒業設計　日本一決定戦』(仙台建築都市学生会議＋せんだいメディアテーク　編) 『新建築』新建築社					
メッセージ		作品を全国大会に出品して、よい成績を上げることを目標に努力して欲しい。					
授　業　内　容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
1.授業ガイダンス(1回) デザコンの経緯と目的、各課題の取り組み方について 2.調査・計画(1回) 3.ゼミナール(2回) 4.中間発表用の作品の作成(1回) 5.中間発表(1回) 6.作品の作成(1回)			1.授業の目的が理解でき、課題の内容が理解できる。 2.自分の行うテーマについての条件、計画のための調査ができる。 3.企画・構想した内容を適切に説明することができる。 4.調査結果を踏まえ、計画的に中間発表用の資料を作成できる。 5.OA機器等を用いて計画した内容を的確に説明することができる。 6.調査結果、中間発表での講評等を踏まえた作品造りができる。				
前期中間試験			実施しない				
7.作品の作成(2回) 8.事前作品発表会(1回) 9.最終作品の作成(4回) 10.最終作品発表会(2回)			7.調査結果、中間発表での講評等を踏まえた作品造りができる。 8.デザコン提出前の作品をOA機器など用いて的確に発表できる。 9.事前作品発表会での講評等を踏まえ、作品完成度をあげることができる。10.最終的に完成した作品(デザコン提出作品)について、 パワーポイント、ポスターなどを使用して的確に発表できる。				
前期期末試験			実施しない				
後期中間試験							
後期期末試験							

Created at Sun Jun 24 10:10:29 JST 2012

（出典　WEB サイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/　釧路高専ホームページ）

資料５－２－①－７

◎平成24年度　第５学年一般選択科目（前期）受講者数

科目	受講者数
日本文学A	9
歴史と文化ＩA	14
歴史と文化ⅡA	11
哲学A	12
社会科学入門A	16
心理学A	24
環境学A	37
英語コミュニケーションA	7
中国文化A	3
韓国文化A	－

（出典　学生課作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

どの学科においても，高専教育の特徴であるくさび型教育をバランスよく実現し，専門の学芸の教授と職業に必要な能力の育成を実現している。

本校の特色ある制度である「２段階学科選択制度」において，１学年は学科によらない完全混合学級を構成し，入学者全員に共通教育を施している。

４学年共通のコミュニケーション実践，５学年建築学科の特別設計演習，５学年の一般選択科目群（日本文学，歴史と文化等）など，それぞれの教育内容に応じて授業方法を工夫している。

本校では，すべてのホームルーム教室に情報機器が設置されており，それぞれの教員は必要に応じてこれらを活用した授業方法の工夫を行っている。

これらのことから，教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

観点５－２－②：　教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示等，内容が適切に整備され，活用されているか。

（観点に係る状況）

資料５－１－①－８に示したように，それぞれの科目は学習目標との関連が明確に示され，教員は自分の担当科目と学習目標との関連を熟知してシラバスを作成する。

毎年度１月の教務委員会において，シラバス記入要領を提示し（資料５－２－②－１），翌年度のシラバス入力が周知される（資料５－２－②－２）。シラバスはウェブ入力システムが用意されている（資料５－２－②－３）。シラバスの例を資料５－２－②－４に示す。シラバスには目標と概要，履修上の注意，到達目標，成績評価方法等，学習に必要な情報や達成すべき目標，評価の方法が明示されている。

準学士課程の選択科目については，２月に全選択科目のシラバスを掲示し，学生はこれを読んで翌年度の履修科目を決定し，申請する（資料５－２－②－５）。また，年度当初の１回目の授業では，シラバスを用いた授業内容や成績評価方法等の説明を行うよう，教務委員会が教員に指示している（資料５－２－②－６）。学生はウェブ上で，いつでもシラバスを閲覧できる（資料５－２－②－７）。

学修単位については，学則第14条（資料５－２－②－８）において定められており，また，教育課程表において学修単位を明記している（資料５－２－②－９）。また，資料５－２－②－１にあるように，自学自習について明記し，学修単位を実質化するよう，担当教員に求めている。

資料５－２－②－１

シラバス記入要領（平成 24 年度版）

H23.11.改訂

０．Ｈ２２年度のシラバス入力から，第１回の授業内容説明に用いるシラバス以外の配布物を登録できる．シラバス以外で授業内容説明，評価方法説明などに用いた配布物は，必ず電子ファイルをそのままアップロードすること．

１．科目名，シラバス作成者，担当教員名，学年，学科，単位数，１週あたりの授業回数，開講期，必修・選択の別，授業形態，単位種類，の欄はそれぞれ該当する内容を選択，チェックもしくは記入する．

２．　授業の目標と概要欄

・JABEE 外の科目は，授業内容が本校の学習目標のどの項目に該当するかを，項目ごとの割合を百分率で入力する．JABEE 目標にチェックする必要はない．

・JABEE 科目については，本校の学習目標と JABEE 基準との**対応表に基づいて**，授業内容がどの基準に該当するかについて，本校の学習目標については項目ごとの割合を百分率で入力し，JABEE 目標については該当項目をチェックする．（例　釧路高専教育目標(C100%)，JABEE （ｃ）など．）

・科目は，各目標と一対一で対応をしている科目だけではない．科目によっては，複数の目標と対応している科目も存在する．**JABEE 表 3**，**表 6** を参考にして，目標への対応度をパーセンテージで表す．

例：目標 A と B に対応しており，そのウェイトは A の方が大きい場合

学習・教育目標 A（60%），B（40%）

＊表 3，表 6 において該当科目がどのようなウェイトで対応しているのかに注意し，かつ科目の目標がこれに矛盾しない設定になるように注意し，合計して 100%になるようにする．

３．　授業内容・授業計画について

３．１ 授業の目標と概要

・この授業が目標とする本校の学習・教育目標の該当項目の要素を特徴付ける**キーワード**，あるいは**キーワードに関連する内容**を記述すること．

・各科目は一連のカリキュラムの構成要素として存在している．そのため，学習・教育目標との対応を明確にするだけでなく，他の科目との関連も明確であることが望ましい．

そこで，シラバス中に関連する科目名や他の科目との関連が必要ならば，表 6 に「学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ」が示されている．この表に書かれた科目の流れを意識して，シラバスの記載を行うこと．また，目標Ｄの科目に対する目標Ｃの科目の関係のように表 6 中での関連は示されないものの，専門科目とその基礎科目といった関連も存在すると思われる．このような関係をシラバス中に明記することで，専門性の高い科目の履修に際して，必要な基礎知識を明確にすることが可能となる．

３．２ 履修上の注意（準備する用具，前提となる知識など）

・授業の進め方，必要な用具，前提となる知識などの授業に関する情報を記載する．

・履修中に与える演習課題やレポート，小テストの回数など自学自習を促す内容を記載する．

資料５－２－②－１（続き）

・特に，学修単位，専攻科の単位については，自学自習を前提として単位を認定するので，その科目の中で与える演習課題やレポート，小テストの回数などについて，明記する．なお、JABEE は自学自習を促すことを基準としているので、本科の JABEE 科目に関しては履修単位であっても、自学自習を促す内容を明記する．

・回数については「程度」という目安を示す表現でもよい．

３．３ 到達目標

・この授業が目標とする本校の学習・教育目標の該当項目の要素を特徴付けるキーワード，あるいはキーワードに関連する内容であって，記述は，達成度が簡潔で明確に判定できる記述が望ましい．

・文末は，「～できる」という言い切りの形とする．

表１　学習・教育目標とそれを特徴付けるキーワード（準学士課程用．専攻科課程用はホームページ参照）

学習・教育目標	キーワード	備考
A 人類の歴史的な背景，文化や価値観の多様性を理解し，地球的規模で社会問題や環境問題を考える基礎能力，および技術が社会や環境に与える影響を認識し，技術者が社会に対して負っている責任を理解する基礎能力を身につける．	人類の歴史，文化・価値観，社会問題，国際，環境，技術者倫理	
B 地域の産業や社会の抱える課題に対処できる基礎能力を身につける．	地域，地域産業，地域の課題	
C 工学の幅広い基礎知識（ 数学，自然科学，情報技術，基礎工学）を修得し，それらを応用する能力を身につける．	数学・自然科学・情報技術・基礎工学の知識，基礎知識の応用	
D 技術者として自己の基盤となる専門分野の知識を修得し，それを応用する能力を身につける．	専門分野，専門知識の応用	
E 技術的課題を分析・総合し，解決するための計画をたて，その計画を実行して課題を解決する基礎能力を身につける．さらに，チームワークで仕事をする基礎能力を身につける．	分析，総合，計画，PBL，デザイン能力，チームワーク	
F 文章，口頭，図表や視覚的な方法によって，効果的にコミュニケーションができる基礎能力を身につける。すなわち，日本語で論理的に記述し討論する能力，および簡単な論理的文章を英語で記述し，基本的な英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識を身につける．	文章表現，口頭発表，図表，コミュニケーション，プレゼンテーション，論理的な記述，英語，英会話	
G 継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につける．	専門分野の確立，関連分野，学習の継続，学習習慣	

（後略）

（出典　平成24年1月　教務委員会資料）

資料５－２－②－２

「翌年度のシラバス入力の周知」

１月定例教務委員会議事録

日時：　平成２４年１月１２日（木）１６時３０分～１９時００分

（略）

(2) 平成 24 年度シラバス入力について

委員長から，資料 12－１に基づき，主な変更点（前後学年の関連科目の記入・再試験の判定方法の明記等）について説明があった。

引き続き委員長から，以下のとおり説明があった。

・シラバスの入力後は，資料 12－２の様式による自己チェックを行う。
・資料 12－３の様式により，学科内等の相互チェックを行い，年度末までに修学支援係へ提出すること。
・選択科目の履修希望調べがあるため，３～５年（選択）および専攻科（選択）は，１月末までに入力を終えること。
・その他の１～２年および３～５年（必修）並びに専攻科（必修）は，２月中旬までに入力を終えること。
・入力システムの準備が整い次第，通知する。

なお，シラバス記入要領の変更については，後日開催の教員会議において，資料を配付し，委員長が説明することとなった。

（略）

（出典　平成 24 年 1 月　教務委員会議事概要）

資料５－２－②－３

「シラバスウェブ入力システム」

arai としてログイン中

Logged in successfully

2012 年度シラバス入力

シラバス責任者を選択、または担当教員名(の一部)を入力して　検索実行のボタンを押すことで、データを絞り込むことができます。
年度　:2012
シラバス責任者で検索:選択してください
または 担当教員名で検索:

検索実行

右端「操作」列の「編集」のリンクをクリックしてシラバスを入力してください。| 入力済みのシラバスのチェックはシラバスチェックへ

id	年度	責任者	担当教員	科目名	学科	学年	単位数	回数/週	開講期	必修選択	単位種別	実施場所	操作
4349	2012	浦家淳博	浦家淳博	物理	全	1	2	2	通年	必修	履修単位	HR教室	編集 表示 PDF PDF2 シラバスチェック 削除
4352	2012	浦家淳博	浦家淳博	応用物理	J	4	2	1	通年	必修	履修単位	HR教室	編集 表示 PDF PDF2 シラバスチェック 削除
4350	2012	浦家淳博	浦家淳博	物理	A	2	3	2	通年	必修	履修単位	HR教室	編集 表示 PDF PDF2 シラバスチェック 削除
4351	2012	浦家淳博	浦家淳博	応用物理	A	4	2	1	通年	必修	履修単位	HR教室	編集 表示 PDF PDF2 シラバスチェック 削除
4358	2012	加藤雅也	加藤雅也･大槻香子	情報処理演習	A	2	2	1	通年	必修	履修単位	情報処理センター第2演習室	編集 表示 PDF PDF2 シラバスチェック 削除

（出典　シラバス入力システム）

資料５－２－②－４

「シラバスウェブ入力システム入力例」

シラバス編集(2012 年度)

2012

科目名:	物理
シラバス作成者:	浦家　淳博
担当教員:	浦家淳博
学年:	本科1年
学科:	全学科
単位数:	2単位
1週あたりの授業回数:	○ 1回 ◉ 2回 ○ 3回 ○ 4回 ○ 5回
開講期:	○ 前期 ○ 後期 ◉ 通年 ○ 集中講義 ○ その他
必修･選択の別:	◉ 本科･必修 ○ 本科･選択 ○ 本科･必修選択 ○ 本科･習熟度別 ○ 専攻科･一般･必修 ○ 専攻科･一般･選択 ○ 専攻科･専門共通･必修 ○ 専攻科･専門共通･選択 ○ 専攻科･専門展開･必修 ○ 専攻科･専門展開･選択 ○ その他
授業形態:	◉ 講義科目 ○ 実習･実験科目 ○ その他
単位種類:	◉ 履修単位 ○ 学修単位1 ○ 学修単位2 ○ 学修単位3 ○ その他
本校教育目標:	A: % B: % C:100 % D: % E: % F: % G: %

JABEE教育目標:

a	b	c	d								e	f	g	h
			1					2						
			1	2	3	4	5	a	b	c	d				
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐

関連科目:	前関連科目	後関連科目
	中学校理科	応用物理
実施場所等:	HR教室	
備考(特別な履修条件など):		

基本情報を更新する

資料５－２－②－４（続き）

授業の目標と概要	物理現象を実体験として理解し，それを数量的，数式的にとらえる能力を養う． 科学的思考力を養 うとともに，学ぶことの楽しさを実感してもらいたい． １学年では特に力学を扱う．
履修上の注意	四則演算（分数，比を含む）の筆記計算力が重要． 演習問題を電卓を使わずに解けるようにして欲しい．
到達目標	単位変換等の基礎計算を科学表記を用いて行うことができる． 力学の具体的な現象を視覚的，数値的に捉えることができる．
成績評価方法	合否判定：４回の定期試験の合計点が240点以上であること． 60点未満をとった各定期試験の再試験で60点以上をとればその定期試験の点数を60点とする． それでも240点未満となれば，年度末再試験で60点未満の全範囲で60点以上をとれば合格とする． 最終評価：４回の定期試験の平均点とする． ただし，再試験の点数を適用して平均点が60点を越えた場合は60点とする．
テキスト･参考書	教科書：初歩から学ぶ基礎物理学「力学I」（大日本図書） 参考書：チャート式シリーズ新物理IB・II（数研出版） 物理橋元流開放の大原則1（学研） わくわく物理探検隊物理IB+II（東進ブックス）等
メッセージ	用語や記号を覚えてしまうことで，授業の内容の理解も早まります． 授業は，新しい概念を得るだけでなく，誤った概念や先入観を正す場です． 皆さんの活発な発言が内容を豊かにします．

資料５－２－②－４（続き）

授業の内容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
科学量の表し方（３回） 数値表記（３回） 数値計算法（３回） 速度　（３回） 演習（２回）	量記号，単位を記せる． 有効数字を理解し，科学表記で数値を記せる． 単位変換等の数値計算結果を科学表記で表現できる． 等速度運動をする物体の速さを算出できる．
前期中間試験	◉ 実施する ○ 実施しない ○ チェックを外す
重力，張力，垂直抗力（３回） フックの法則（２回） 作用・反作用（２回） 摩擦力（２回） 等加速度直線運動（３回） 演習（４回）	物体にはたらく重力，張力，垂直抗力を図示し算出できる． バネの伸びから働く力を図示し算出できる． 連結された物体にはたらく力を図示し算出できる． 物体にはたらく摩擦力を図示し算出できる． 等加速度直線運動をする物体の速さと移動距離を算出できる．
前期期末試験	◉ 実施する ○ 実施しない ○ チェックを外す
運動方程式（６回） 連結体の運動方程式（４回） 演習（４回）	物体にはたらく力と質量と加速度を算出できる． 連結体にはたらく力と質量と加速度の関係を立式できる．
後期中間試験	◉ 実施する ○ 実施しない ○ チェックを外す
運動量と力積（２回） 反発係数（２回） 運動量保存の法則（２回） 仕事（２回） エネルギー保存の法則（３回） 演習（４回）	物体の運動量とその変化を算出できる． 物体同士の衝突後の速さを算出できる． 衝突，合体，分離前後の運動量が等しいことを立式できる． 物体がされる仕事を算出できる． 物体のエネルギーが等しいことを立式できる．
後期期末試験	◉ 実施する ○ 実施しない ○ チェックを外す

更新する　Back

（出典　シラバス入力システム）

資料５－２－②－５

「選択科目のシラバスを含んで学生に履修申請させる文書」

平成 24 年 2 月 15 日

第４学年学級担任　各位

学生課修学支援係

平成 24 年度選択科目履修願について

このことについて「選択科目の履修及び修得に関する申し合わせ」に基づき，
下記資料をお渡しいたしますので，学生に配付及び回収の上，2 月 23 日(木)までに学生課修学支援係へ提出願います。

記

１．履修願　…　学生に配付願います。
　－ 履修願　１人２枚配付
　－ 一般選択科目履修登録用紙　２枚配付(提出用・本人控え用)

２．一般選択科目について　…　学生への参考資料として教室に掲示願います。

３．専門選択科目一覧及び教育課程表
　　…　学生への参考資料として教室に掲示願います。

４．その他
　以下のことを学生にお伝え願います。
　●履修願の担当教員氏名欄は，記入しなくても良いこと。
　●大講義室前に，選択科目のシラバスを掲示するので参考にすること。
　●シラバスが掲示されていない科目については，直接，授業科目担当教員に説明を受けること。
　●一般選択科目については，注意事項をよく読み記入すること。
　　なお，履修希望者が多い科目については，人数調整を行い，調整結果を 2 月 29 日(水)にＨＲ教室へ掲示するので，提出期限を守ること。
　　（以下　省略）

（出典　学生課資料）

資料５－２－②－６

「年度当初にシラバスの説明を行うことを示す資料」

４月定例教務委員会議事概要
日時： 平成２３年４月５日（火）１０時００分～１２時０６分
（略）

(4) 授業開始時のシラバス配付について
委員長から，以下のとおり依頼および説明があった。
・従来どおり授業開始時にシラバスを配付，説明願いたい。
・複数の教員が担当する科目についても，代表者等が責任を持って配付願いたい。
・１年生については，入学式当日に配付する予定である。
（以下略）

（出典　平成 23 年 4 月　教務委員会議事概要）

資料５－２－②－７

「学生向けシラバス閲覧サイト」

学生情報　　Page 1 of 1

学　生　情　報

図書関係　図書館

学生関係　求人企業一覧　企業説明会　インターンシップ提出様式
学生相談室　学生の声を聞く会　学生の意見箱
奨学支援情報
体育館の使用割振（PDF）

教務関係　学習目標（PDF）
シラバス
欠課時数照会システム

お知らせ　授業評価アンケート

寮生関係　寮生数一覧　寮生名簿

その他　釧路工業高等専門学校防災マニュアル

http://www.office.kushiro-ct.ac.jp/office2/gakusei/gakusei.html　　2012/06/24

（出典　学生向け内部ホームページ）

資料５－２－②－８

「学修単位を示す資料」

○釧路工業高等専門学校学則（抜粋）
（昭和 40 年８月９日釧高専規第１号）
（略）
第１４条 各授業科目の単位数は，30 単位時間（１単位時間は標準 50 分とする。）の授業をもつて１単位とする。
２ 前項の規定にかかわらず，別に定める授業科目については，１単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，当該授業による教育効果，授業時間外に必要な学修等を考慮して，次の基準により単位数を計算することができる。
一 講義及び演習については，15 時間から 30 時間までの範囲の授業をもって１単位とする。
二 実験，実習及び実技については，30 時間から 45 時間までの範囲の授業をもって１単位とする。
３ 前項の規定により計算することのできる授業科目の単位数の合計は，60 単位を超えないものとする。

（出典　釧路高専規程）

資料５－２－②－９

「学修単位を明記している教育課程表の例」

■教育課程　Curriculum

	授業科目 Subjects		単位数 Credits	学年別単位数 Credits by Year 1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	備考 Notes
必修科目 Required Subjects	応用物理	Applied Physics	4			2	2		
	メカトロニクスⅠ	Mechatronics Ⅰ	1			1			
	※メカトロニクスⅡ	※Mechatronics Ⅱ	2				2		
	材料力学Ⅰ	Strength of Materials Ⅰ	2			2			
	材料力学Ⅱ	Strength of Materials Ⅱ	1				1		
	※機械力学	※Machine Mechanics	2				2		
	機械材料Ⅰ	Mechanical Materials Ⅰ	2			2			
	※機械材料Ⅱ	※Mechanical Materials Ⅱ	2				2		
	材料評価学	Materials Evaluation	1					1	
	熱力学Ⅰ	Thermodynamics Ⅰ	2				2		
	熱力学Ⅱ	Thermodynamics Ⅱ	1					1	
	コンピュータリテラシー	Computer Literacy	1	1					
	技術者基礎	Basis for Engineer	1	1					
	※伝熱工学	※Heat Transfer Engineering	2					2	
	流体工学Ⅰ	Fluid Mechanics Ⅰ	2				2		
	流体工学Ⅱ	Fluid Mechanics Ⅱ	1					1	
	※流体機械	※Fluid Machinery	2					2	
	機械工作法Ⅰ	Manufacturing Technology Ⅰ	1		1				
	機械工作法Ⅱ	Manufacturing Technology Ⅱ	2			2			
	生産工学	Production Engineering	1				1		
	工業力学	Engineering Mechanics	2		2				
	機械設計法Ⅰ	Mechanical Design Ⅰ	2			2			
	※機械設計法Ⅱ	※Mechanical Design Ⅱ	2				2		
	CAD	Computer Aided Design	1			1			
	CAD／CAM	CAD / CAM	1				1		
	※CAE	※CAE	2					2	
	※機械創造設計	※Machine Creative Design	2				2		
	機械設計製図Ⅰ	Machine Design and Drawing Ⅰ	2		2				
	機械設計製図Ⅱ	Machine Design and Drawing Ⅱ	2			2			
	※デジタルデザイン・コンペ	※Digital Design Competition	2					2	
	ものづくり基礎	Basis for Monozukuri	4	4					
	機械工学実習・実験Ⅰ	Mechanical Engineering Practice and Experiment Ⅰ	3		3				
	機械工学実習・実験Ⅱ	Mechanical Engineering Practice and Experiment Ⅱ	3			3			
	機械工学実習・実験Ⅲ	Mechanical Engineering Practice and Experiment Ⅲ	3				3		
	機械工学実習・実験Ⅳ	Mechanical Engineering Practice and Experiment Ⅳ	2					2	
	電気電子工学	Electrical Engineering	2				2		
	※制御工学	※Control Engineering	2					2	
	計測工学	Instrumentation Engineering	2					2	
	制御CAD	Control CAD	2					2	
	卒業研究	Graduation Research	7					7	
	修得単位小計	Subtotal of Credits Completed	81	6	8	17	24	26	
選択科目 Elective Subjects	学外実習Ⅰ	Extramural Practice Ⅰ	1					1	いずれか一方を選択することができる。 Can choose either.
	学外実習Ⅱ	Extramural Practice Ⅱ	2					2	
	応用数学基礎	Basis for Applied Mathematics	2				2		4年次編入生のみ選択すること。 Only Transferred Students to 4th-year must choose.
	応用数学A	Applied Mathematics A	4				4		4年次編入生以外は必ず選択すること。 Every Student Except Transferred Students to 4th-year must choose.
	応用数学B	Applied Mathematics B	4					4	4年次編入生のみ選択すること。 Only Transferred Students to 4th-year must choose.
	振動工学	Mechanical Vibrations	1					1	
	表面工学	Surface Engineering	1					1	
	応用流体工学	Applied Fluid Mechanics	1					1	
	生産システム工学	Production System	1					1	
	工業数学	Mathematics for Engineering	1					1	
	熱エネルギー工学	Thermal Energy Engineering	1					1	
	※知的財産	※Intellectual Property	2					2	
	応用数学Ⅱ	Applied Mathematics Ⅱ	1					1	
	開設単位小計	Subtotal of Credits Offered	22				(9)	(16)	
	修得単位小計	Subtotal of Credits Completed	5以上				5以上		
専門科目開設単位計		Total of Credits Offered in Specialized Subjects	103	6	8	17	(33)	(42)	
専門科目修得単位計		Total of Credits Completed in Specialized Subjects	86以上	6	8	17	55以上		
一般科目修得単位計		Total of Credits Completed in General Education	81以上	27	24	30以上			
修得単位合計		Total of Credits Completed	167以上	33	32	102以上			

※印は学則第14条第２項に定める単位を示す。　※Credits enacted by the School regulations 14-2

	授業科目 Subjects		単位数 Credits	学年別単位数 Credits by Year 1年 1st	2年 2nd	3年 3rd	4年 4th	5年 5th	備考 Notes
選択科目 Elective Subjects	特別講義Ⅰ	Special Lecture Ⅰ	1						学年についてはフレキシブルに対応。 単位数については修得単位合計にのみ含まれる。 The year to be taken is not determined. Credits is included only in total of credits completed.
	特別講義Ⅱ	Special Lecture Ⅱ	2						
	特別講義Ⅲ	Special Lecture Ⅲ	3						
	特別講義Ⅳ	Special Lecture Ⅳ	4						

14

（出典　学校要覧　ｐ１４）

（WEB サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=110
釧路高専ホームページ）

（分析結果とその根拠理由）

それぞれの科目は学習目標との関連が明確に示され，教員は自分の担当科目と学習目標との関連を熟知してシラバスを作成する。毎年度，教務委員会において，シラバス記入要領を提示し，翌年度のシラバス入力が周知される。シラバスはウェブ入力システムが用意されている。シラバスには目標と概要，履修上の注意，到達目標，成績評価方法等，学習に必要な情報や達成すべき目標，評価の方法が明示されている。年度当初の１回目の授業では，シラバスを用いた授業内容や成績評価方法等の説明を行うよう，教務委員会が教員に指示している。学修単位については，学則第14条において定められており，また，教育課程表において学修単位を明記している。

これらのことから，教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示等，内容が適切に整備され，活用されている。

観点５－２－③：　創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また，インターンシップの活用が図られているか。

（観点に係る状況）

本校では，各学科において，創造性を育む教育方法の工夫，科目の見直しが行われ，現在の教育課程となっている．

機械工学科第４学年の「機械創造設計」のシラバスを資料５－２－③－１に示す。従来機械設計製図（資料５－２－③－２）として行われていたが，画一的な図面描きから創造性と発展性を持たせた「実験的製造機械設計」の導入という工夫を行った。この創造性を育む教育とエンジニアリングデザイン教育を兼ね備えた教育方法の工夫は，平成20年度に高専機構理事長賞を受賞した。（５－２－③－３）

電気工学科４学年の電気工学実験Ⅲの一部では，問題解決型実験を実施している（資料５－２－③－４）。テーマの一つとして，発電システム設計政策コンテストを実施し，与えられた条件下での発電能力を競うことで創造性，協調性等を育む工夫をしている。

電子工学科４学年の工学課題実験では，チームワークでゼロから出発して製品を作るまでを体験させるエンジニアリングデザイン教育を実施している（資料５－２－③－５）。

建築学科２学年のデザイン工学（資料５－２－③－６）では，与えられた条件下でグループ作業でのものづくりによる課題解決および性能コンテストを行っている。

準学士課程のインターンシップは，選択科目として学外実習Ⅰ，学外実習Ⅱが設定されている。「学外実習取扱要項」（資料５－２－③－７）として，インターンシップに関する規程が定められ，学生に周知している。インターンシップは進路指導委員会が取り扱う（資料５－２－③－８）。多くの学生がインターンシップに参加している（資料５－２－③－９，10）。

資料５－２－③－１

「機械創造設計のシラバス」

科目名	機械創造設計
対象学科・学年	機械工学科・第4学年
担当教員名	小杉淳
単位数・週当たりの開講回数	2単位・1回
開講期・必修選択区分	前期・必修
単位区分	学修単位1
本校教育目標	C:50％　E:30％　F:20％
JABEE教育目標	d-2-c
実施場所等	HR教室，機械工学科製図室
備考	上着は作業服を着用，靴を履いてくること，電卓を持参すること

関連科目	
前関連科目	後関連科目
機械設計製図Ⅰ，Ⅱ	CADⅠ，Ⅱ

授業内容・授業計画

授業の目標と概要	機械設計技術者には様々な機械要素を組み合わせ，生産活動などに用いられる機械・機構を構築できる能力が求められる.このため，これまでに培ってきた機械工学に対する基礎知識と自らが持つ独創的な創造力を融合したPBL(Problem Based Learning:課題解決型あるいは課題提案型)型の総合的な演習を通したものづくりの実務的な経験が必要となる．本授業では与えられたテーマを解決するための具体的な機構や仕組みを，グループ内での共同作業から想像的に考えまとめ上げて行く力を養うことを目標とする．さらに授業内特許を通して，など知的財産権の基本的な仕組み　と重要性を理解することを目的とする．
履修上の注意 (準備する用具・前提とする知識等)	本授業はグループ作業を行っていくため各人の協力が不可欠であり，お互いの意思疎通を図ることが問題解決のためには重要である．授業では活発な議論・討議を行い，作業の進行や分担を常に考え効率よく授業が進められるよう工夫を行うことが大切となる．
到達目標	グループ設計を通し，自分の独創的な考えを仲間に的確に伝えたり図面化できる．お互いの議論や協力を通し目標を達成するためにチームワークで作業を行うことができる．知的財産権の重要性が認識でき，授業内特許を通し自分の考えをまとめ上げることができる．
成績評価方法	合否判定:全ての提出物が提出され，それらにもとづく評価点が60点以上を合格とする． 成績評価:中間レポート30%，プレゼンテーション30%，最終報告書40%として評価．ただし，授業内特許のロイヤリティ分の加点・減点は最終報告書の中に含め，全体の合計点が100点を上回った場合には100点で打ち切りとする． 再試について:本授業は試験による評価は行わないため，課題未提出などで欠点となった場合，特別課題を課した上で，未提出の課題の提出を行わせ評価させる。
テキスト・参考書	自作プリント 参考書 ①実教出版　機械設計法―1 ②実教出版　機械設計法―2 ③実教出版　機械設計製図
メッセージ	グループ作業でとにかく大切なことはいろいろな考えを出し合い議論することです．多くの考え方議論から必ず解決策が見出されるはずです．勇気を持って自分の意見を出しましょう．口に出して言うことから物事は進んで行きます．また，設計作業では確証実験などを行い設計の正当性や問題点の抽出などを行っていきます．毎回上着は作業服を着用すること．

授業の内容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
1.ガイダンスおよびプレースメントテスト 2.グループ分け，設計テーマの発表と説明，質疑応答，知的財産権の重要性と授業内特許の説明 3.グループ設計作業-1 4.グループ設計作業-2 5.グループ設計作業-3 6.グループ設計作業-4，1st.チェック 7.グループ設計作業-5，1st.チェック (各1回)	1.機械創造設計とグループ設計の重要性が理解でき説明できる． 2.与えられたテーマと解決すべき問題について説明できる．知的財産権の重要性と授業内特許のルールが説明できる． 3～5.グループ設計作業を通し，自分の意見を明確に相手に伝えられる．また，簡単な実験を通し考えた機構の確証実験や問題点の抽出・確認などを行い，設計にフィードバックできる．さらに，確証実験において問題なく，独創的なアイデアであった場合，授業内特許の申請を行うための，資料(フォーマット有)を作成できる． 6～7.グループで設計した機構について，設計レギュレーションを満たし，機構等に問題点がないか一回目の教員チェックに向けたプレゼン資料を作成でき，論理だった説明を行うことができる．
前期中間試験	実施しない
8.中間レポートの作成 9.グループ設計作業-6 10.グループ設計作業-7 11.グループ設計作業-8 12.グループ設計作業-9，2nd.チェック 13.グループ設計作業-10，2nd.チェック 14.プレゼンテーション-1 15.プレゼンテーション-2 (各1回)	8.1stチェックまでのグループ設計における，設計の成果および問題点，これからの取り組みについて文章で報告することができる． 9～11．グループ設計作業を通し，自分の意見を明確に相手に伝えられる．また，簡単な実験を通し考えた機構の確証実験や問題点の抽出・確認などを行い，設計にフィードバックできる． 12～13.最終プレゼンに向けた資料作成を行うことができる．プレゼンにあたって資料やVTRなどにわかりやすい工夫を行うことができる． 14～15.自分たちの設計した機構について定められた時間内で的確にわかり易くプレゼンすることができる．
前期期末試験	実施しない

BACK

© 2009,2010,2011 KNCT Syllabus System -- Ver. 0.85

（出典　WEBサイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/　HTML版　釧路高専ホームページ）

資料５－２－③－２

「創造性を育む教育方法の工夫①」

機械工学科設計製図（平成２０年度３学年：平成２４年度第４学年「機械創造設計」に移行）

平成20年度

機械工学科			機械設計製図				
学年	第3学年	担当教員名	小杉　淳				
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		1.機械製図の基礎を踏まえ、立体図法（等角図）を学ぶことで、専門分野で必要となる物体形状を正確に3次元的に把握できる能力を養う。2.総合的な機械設計を通し、デザイン能力や技術問題の分析や解決方法を個人あるいはチームで総合的に考えられる能力を身に付ける。3.個人またはグループで考えたものを明確に図面化でき、さらにその考えをわかり易くプレゼンテーションできる能力を身に付ける。					
		釧路高専目標	D:50%,E:30%,F:20%		JABEE目標		
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		1. 2年生で学ぶ機械製図に関して製図通則やJIS規格の意味や使い方を十分理解していること。等角図の学習では楕円テンプレートおよび楕円分度器を使用するので指示にしたがい事前準備すること。					
到達目標		楕円テンプレート、楕円分度器を使い、平面図から立体図（等角図）を描くことができる。様々な機械要素の特徴や代表的な使い方を理解し、それらを組合わせて簡単な機械の概略設計ができる。機械設計の流れを説明でき、設計に必要な応力計算と正確で迅速な機械製図の作成ができる。					
成績評価方法		合否判定：課題図面などの提出率が100%で、最終評価と同様の計算で60点を超えていること. 最終評価：課題図面などの評価の平均（作図態度を含む．60%）＋4回の定期試験の平均(40%) 課題図面などの評価：正確さ30%＋明りょうさ30%＋丁寧さ30%＋レイアウト・体裁10%（提出遅延は1日につき3点減点）					
テキスト・参考書		教科書：機械製図、機械設計1・2 参考図書：東京電機大学編　立体図の描き方　基礎編					
メッセージ		機械製図は図面作成だけが重要ではなく、線一本一本が持つ意味を理解して描いていくことが重要である。また、迅速・正確、丁寧を心がけ課題は提出期限を必ず守ること。					

授　業　内　容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
1.ガイダンス、立体図の必要性と機械製図での位置づけ(1回) 2.等角図の基礎(直線の表現)(1回) 3. 〃（円の表現と楕円テンプレートの使い方)(1回) 4. 〃（角度の測り方と楕円分度器の使い方)(1回) 5.各種機械要素の表現(1回) 6.等角図総合製図ー歯車ポンプの分解拡散図1,2(2回)	1.立体図の用途、等角図の特徴が説明できる 2.等角図において直線のみの物体の描画ができる 3.等角図で円の表現が理解でき楕円定規の使い方がわかる 4.等角図で角度測定と楕円分度器の使い方がかわる 5.平歯車やボルト・ナットなどの機械要素をマニュアルを見ながら等角図で正確に描くことができる 6.第3角法で書かれた図面から簡単な分解拡散図を斜眼紙を使わずに作成することができる
前期中間試験	実施する
7.試験の解答と解説、等角図総合製図3(1回) 8.等角図総合製図ー歯車ポンプの分解拡散図4(1回) 9.オリジナル機械設計 ・ガイダンス、個人設計(2回) ・グループ設計作業(3回)	7,8. 6に同じ 9.各種機械要素の名称と特徴を説明でき、これらを組合わせテーマに沿った簡単な機構を考えることができる.設計上必要な事項を把握し、それを解決するための調査方法と手段をある程度考えることができる.また、機械部材の流通カタログを使い部品の選定方法やカタログの見方がかわる。
前期期末試験	実施する
10.オリジナル機械設計ーつづき ・プレゼンテーション準備(1回) ・プレゼンテーション(2回) 11.手巻きウインチの設計 ・設計作業(4回)	10.自分あるいはグループで考えた機構を限られた時間内で人にわかり易くプレゼンテーションをすることができる。 11.機械設計の流れを説明できる。簡単な応力計算の考え方を理解できる。JIS規格を使用して設計上必要な寸法や情報を選定できる。手巻ウインチで使用している機械要素について選定方法や特徴に関して説明できる。手巻ウインチの構造と機能について説明できる。
後期中間試験	実施する
12.図面の作成ー組立図の作成(4回) ・部品図の作成(2回) ・組立図、部品図の整合性の確認(検図)(1回)	12.設計書通りに図面が描き上げることができる。 ・部品図との整合性を確認できる。 ・図面中にある製図記号の意味がわかる。
後期期末試験	実施する

Created at Mon Jun 11 13:39:22 JST 2012

（出典　平成20年度　機械設計製図シラバス）

資料５－２－③－３

「機械設計製図における実験的創造機械設計教育の取組み」

（釧路工業高等専門学校）○小杉　淳

１．はじめに

「ものづくり」に基幹を成す日本の工業界にとって将来への持続発展的な「ものづくり力」の伝承は重要であり[1]，我々工学教育に携わる者が最も力を入れ取り組むべき問題の一つであろう．図１は機械系ものづくりの成長形態の例を一般化して模式的に示したものである．「ものづくりの花」に例えられる学生は太陽・雨・土壌など普遍的な自然環境の中で成長するが，その中で外乱的影響を受けるため，それを補う目的で様々な肥料が与えられ，種々の特徴を持つ「花」（＝ものづくり人）になっていく．この中で製図（機械設計製図）は成長基盤の最も重要な土壌（実技系科目）を構成していると考えると，適当な肥料と組み合わせることで，最も花を成長させられる要素の一つであると言える．

機械設計製図の授業展開は，低学年では手本となる図面を通して製図通則の理解や図面の作成方法を学び，次のステップとしてこれに設計作業の要素を付加し，それを図面に反映させていくものが一般的である．しかし最近ではこれらの基礎的実技に加え発展的な授業展開として，工作実習等と連携した総合演習カリキュラム[2]や，これに創造性を育む要素を盛込んだ，いわゆるエンジニアリングデザインの能力を高めるプログラムが数多く見受けられる[3,4]．また，高学年ではより実践的で高度な「ものづくり」への対応として3D-CAD, CAM等を駆使するデジタルエンジニアリング教育に力を入れる学校も増えつつある．本校では全学横断的な創造教育の取組みの他に，機械工学科として創造性ならびに導入教育の一環として実習へのレゴマインドストームの導入やゴーカートの分解・組立等を実施し，学生の「ものづくり」への興味創出を行っている．このような取組みの中，製図教育においては，従来の画一的であった図面描きの授業形態に，創造性と発展性を持たせた「実験的創造機械設計」を５年ほど前から導入し実践してきた．この授業では与えられたテーマを解決するための機械を，定められた規定の中で自由に発想し，これに実験的要素を付加させて創造性を駆使したオリジナルの機械設計を行う．これは実際には“もの”を作らない創造設計作業であるが，学生はそれまでに学んだ各種機械要素や機械工学に関する知識を自分なりに集約した設計を経験できる．これによって「ものづくり」の楽しさ，難しさ，さらにチームワークの大切さなどを通し問題解決に対する考え方や取組み方を体得できると考えられる[5]．本報ではこの取組みと教育効果，今後の展望などについて報告する．

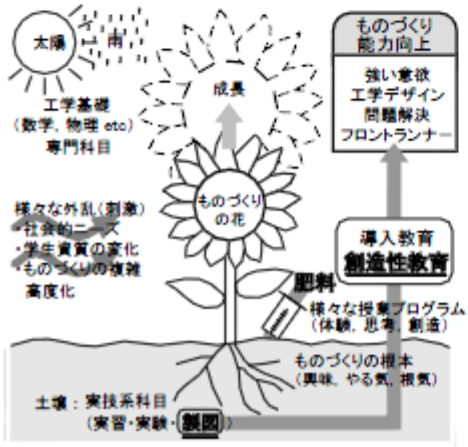


図１．機械系ものづくりの成長形態の一例

２．設計製図教育と本授業の位置づけ

本学科における機械設計製図の教育内容を表１に示す．１～２年生は主に機械製図の基本と要素設計等を組合わせた手描き製図が主体となる．３年生では，立体図（等角図）の手法を学んだ後，本報告の取組みである「実験的創造機械設計」と手巻きウインチの設計製図を行う．また，３年生後半からはPro/EngineerによるCADやCAEを利用した実践的な図面作成と設計手法を学ぶ．図２に設計製図教育およびこれに関連する専門教科と本授業の位置づけを示す．本学科における設計製図教育は基本的に図中に示す４つの要素に接続するようにカリキュラムが組まれている．本取組みは設計作業要素に新たに創造性・独創性そして問題解決型の要素を付加し，「ものづくり」における設計プロセスを通した様々な経験から「ものづくり」意欲の向上やエンジニアリングデザイン能力等の育成を狙ったものである．また，本授業をこの位置に

表 1.各学年における設計製図教育の内容

1学年	機械製図の役割，製図器具の使い方，JIS製図通則の理解 第三角法による平面図の理解，展開図の作成方法 図形の表し方，寸法記入法の理解
2学年	面の粗さ，はめあい，寸法公差，幾何公差の理解 各種機械要素の設計および製図，減速歯車装置の設計製図
3学年	立体図法（等角図）の習得と製図（7週） 実験的創造機械設計（9週） 手巻きウインチの設計および製図（10週） Pro/Engineerを使ったCAD製図（基礎）（機械設計製図とは別枠）
4学年	Pro/Engineerを使ったCAD製図（応用） 3D-CADの基礎，3Dモデリング，CAEによる応力計算など

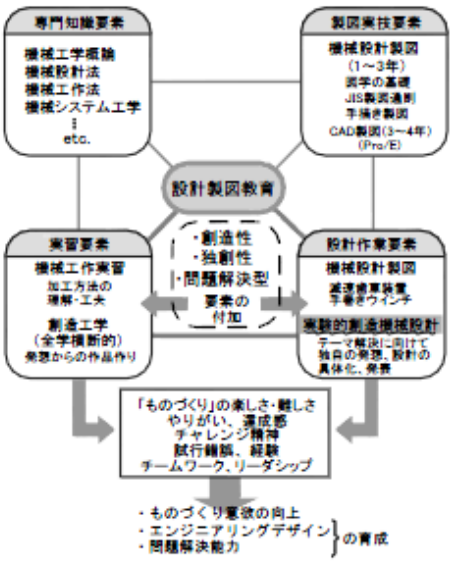


図2.機械製図教育と本授業の位置づけ

設定した理由は次の通りである：①この時期までに深くはないが様々な専門知識を有し，単純な要素から成る機械をイメージさせることが学生の取組み易さの面からよいと思われる．②イメージした機械を簡単な実験を通して具体化する過程を経ることで，エンジニアリングデザインの重要性を理解できる．③学習する専門科目が学年と共に増える中，本授業を通してその面白みや達成感から，各専門科目との関連性を強く認識できる．さらに機械技術者を目指す上で不足している力や学ぶべきことの多さを自覚させこれ以降の授業への取組みにフィードバックさせるには３学年での実施が望ましい．

３．授業の展開方法

3．1　テーマの設定

テーマは既存の確立されている技術（答えに相当するものがある）であるが，学生のアイデアでも実用化できる可能性を含み，取組みに面白みを持てるものとして以下の点を配慮し決定した：①身近にありイメージし易いもの．②テーマの素材が入手し易く簡単な実験結果を設計に反映できること．③ネット検索等で直接答えにつながるようなものが見つけにくいこと．表２に過去５年間で取り上げたテーマとその概要を示す．

表 2. 実験的創造設計のテーマとその概要

H16：PETボトル分別回収機
PETボトルのキャップおよびラベルを自動的に除去して，各々分別回収できる機械を考える．ボトル形状は500mlの断面が四角形のもの．潰してキャップを外すことは不可．
H17：果汁絞り機
グレープフルーツを直径150mmの球形と考え，丸潰し以外の方法で果汁を搾り，皮や種と分離する機械を考える．また皮の厚みは5mmとし，皮からでる油脂分は絞らないことが望ましい．
H18：消しゴムパッケージ機
1m×1mの板ゴムから30×70mmの消しゴムを切り出し，これを厚紙のケースに挿入しフィルムラッピングし整列させる．厚紙とフィルムはともにロールで供給される．
H19：おしぼり成形機
200mm角のおしぼりを半分に折りたたんだあとロール状に成型し，個々に袋包装する機械を考える．ただし，おしぼりは多数のものが洗濯され絡み合った状態にある．なお，全工程で一回だけ人間の手で処理をしてもよい．
H20：はりがね成形機
直径2mmの針金から直径200mmの円，一辺が200mmの四角形と三角形を順番に成形する機械を考える．針金の接合はハンダでおこなう．また針金はロールで供給され，必要に応じて切断して用いる．

3．2　授業展開スケジュール

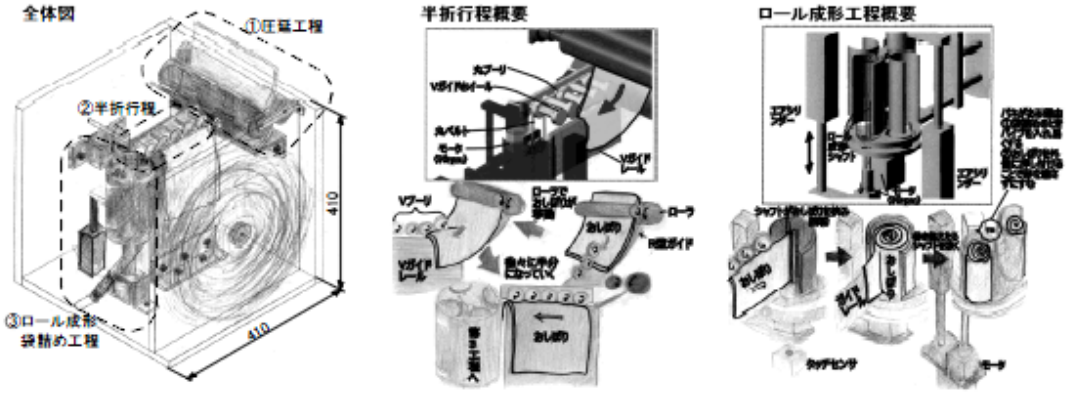
本授業は２コマ（1コマ45分）×10週で構成され，詳細は以下の通りである．**①ガイダンス**（1週）：本授業の主旨とテーマおよび設計規定についての説明を行う．また，設計規定について質疑応答を行い，学生が直感的に感じる設計上の疑問等を吸い上げそれをクラス全員で共有し，必要があれば設計規定を変更する．**②個人設計**（2週）：個人設計は２週であるが当然この様な短い時間では大まかな構想を練るに過ぎず，具体性のある設計を示すことは出来ない．このため，個人設計の続きは夏季休業中の課題として与え，この間の質問はメール等で対応する．**③グループ設計および実験的創造設計**（5週）：夏休みの課題として提出された個人設計をもとに，内容（アイデアや機構）と取組み方を配慮して教員側でグループ分け（3～4名）を行う．グループ設計ではお互いの設計のよい部分を組入れた再設計や討論から新たな設計を行い完成度の高い機械を目指し作業を進める．また，この過程の中でテーマ解決に向けた実験的創造として簡単な実験を行わせ，各自のアイデアの実現性や問題点を探り設計にフィードバックさせる．授業では毎回各グループ内にリーダーを配し，作業進捗状況の把握および図面制作や実験準備・方法の検討などについて仕事の割り振りを決めさせるほか，その日の作業内容と次週の予定や持越し課題などをまとめた作業報告書の提出を行わせる．これによってグループ内全員の意思疎通と情報の共有化を図りながら共同作業を進められる．また，グループ設計では機械部品選択の参考として実際の設計現場で利用される機械部品カタログ（ミスミ株式会社：FA 用メカニカル標準部品）を配布し利用させている．**④プレゼンリハーサル**（オフィスアワー時など適宜実施）：自分達の考案した機械を限られた時間でわ

かり易く説明できるか，本発表に先立ちリハーサルを行いグループ毎の特徴や考え方がよくわかるように助言を与える．完成度と理解度が高まることでグループ内の結束力が高揚したよい状態で本発表を迎えることができる．**⑤プレゼンテーション**(2週)：各グループ５～７分程度の発表時間と５分程度の質疑応答で行う．聴講者は機械工学科教員および保護者(授業参観時)である．発表はグループメンバーが交代で(１～１分半)行っていくが，その順番は発表時に割り当てられるため，学生は自分のグループの発表資料すべてを理解しておく必要がある．発表には主として教材提示装置を利用し学生が製作した紙媒体のプレゼン資料をスクリーンに投影して行う．聴講学生は質疑応答が終了した後，評価表にそのグループの評価を項目ごとに５段階で記入する．**⑥最終報告書の提出**(プレゼン終了後２週間以内)：最終的に個人ごとに報告書を提出させる．これはグループ報告書では成績評価の明確性を示すことが難しいためでもある．報告書はグループ内作業の自己担当分は自筆とし，他のメンバーが製作したものはコピー添付を認め，これに授業の感想や資料の不足があれば各自の判断でそれを加え，さらに発表時の質疑応答で指摘された設計上の不備に対する改善提案などから構成される．平均的な枚数は図面や発表資料なども合わせ２５枚程度である．

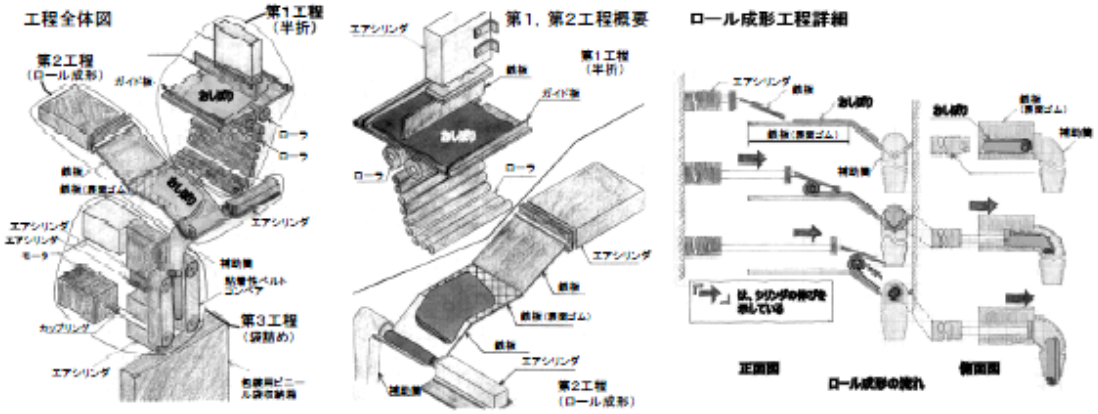
４．実験的創造機械設計の設計例

学生が取組んだ具体的な設計例としてH19に実施した「おしぼり成形機」を紹介する．テーマ概要は表２に示したが，設計では表３のような規定を設け学生はこの規定内でおしぼりをロール成形する機械の設計に取組んだ．この設計でのキーポイントはロールの成型方法にあるが，学生は創造的実験を通して試行錯誤しながらその結果を設計に反映させていた．授業では９つのグループに分かれて設計を行ったが，その結果機構の細かな違いはあるがロール成形の機構は大きく２つの方式に分かれた．なお，設計規定において「一工程のみ手動による操作を認める」とした条件については全グループがおしぼりをタンクから取出して広げ，自分の機械にセットする準備工程に人力を使うこととなり，設計規定の難易度が高すぎた感がある．

図３(a)(b)に２方式の設計機構の具体例を示した．これらは発表用にまとめられた資料の一部で，



(a)芯金を入れてロール成形する方式



(b)摩擦力を利用してロール成形する方式

図3.「おしぼり」成形機の設計例

3

表3 おしぼり成形機の設計規定

- 手動ではなくモータなどの動力を使って処理できる機構とする。ただし、動力の数は規定しない(また、一工程のみ手動による操作を認める)。
- おしぼりは脱水処理後の湿った状態のものがタンクに無限にある。
- おしぼりの大きさは 250mm 角であり、裏表はないものとする。
- おしぼりは平らにピンと伸ばした状態でロール成形しなければならない。
- ロール形成後のおしぼりの大きさは約 125mm × φ30mm とする。
- おしぼりは幅 50mm のチューブ状で供給される袋に詰めヒートシールして袋を閉じる。ヒートシール後の長さは約 150mm とする。またチューブ状の袋は直径 400mm のロールから自動的に供給されなければならない。
- ヒートシールは幅 60mm、高さ 5mm の電熱器を 2 秒袋に押し当てることで完了するものとする。
- 袋詰めされたおしぼりは所定のコンテナに貯まるようにしておく。
- 使用する部材はできる限り JIS 規格の流通品を使う。また材質はわかる範囲で適材適所を心がける。
- 詳細設計(細かい寸法や応力計算など)刃必要ないが、各部の主要寸法(軸間距離やピッチ円直径、減速比、材質など)は記入する(機械製図通則に準じる)。

少々見づらいことをお断りしておく．(a)の方式は半折したおしぼりを芯金となるシャフトに巻きつけていくタイプで，他のグループもこの芯金部分に工夫を凝らしていたが，機構全体のコンパクトさと袋詰め工程までのしっかりとしたコンセプトが聴講者から高い評価を受けた．(b)の方式は表面にゴム膜をコートした鉄板上を摩擦力を利用しておしぼりを転がしロール成形するタイプである．また，同じく摩擦力を利用した方法として柔らかいスポンジの中におしぼりを通す方法を考案したグループもあり，各々実験を通して成形の確認ができていた．先述した準備工程を除き今回の設計で一番悩んでいたのは，図には示されていないがおしぼりの袋詰め工程であり，おしぼりの挿入方法ついて白熱した議論となっていた．

5．アンケートによる授業評価

図４に授業評価アンケートの項目とその結果を示す．グループ作業や報告書作成では，ほとんどの学生が大変さを感じた結果になったが，自らの設計能力やプレゼン能力の向上につながったと感じる学生も多いこともわかる．確かに本授業のスケジュールでは学生の夏休みや放課後の作業が必要となり，その部分で学生に負担がかかる面もあるが，同じ苦労をグループメンバーで共有することで生まれるチームワークや作業に対する責任感など，意識レベルの変化も十分あるように思われる．このことはグループ作業に積極的に取組んだ学生が比較的多い結果ともつながっている．また，設計製図という授業の中で問題解決に対するアプローチや取組み方を経験したことで，設計という仕事が魅力的に感じた学生は約過半数であり，達成感から機械設計に更に興味を持つものもいれば，逆に「創造・問題解決」といったことに関し苦手意識を高めてしまうものもいる．しかし，総合的にみて本授業の取組みは設計製図の授業において

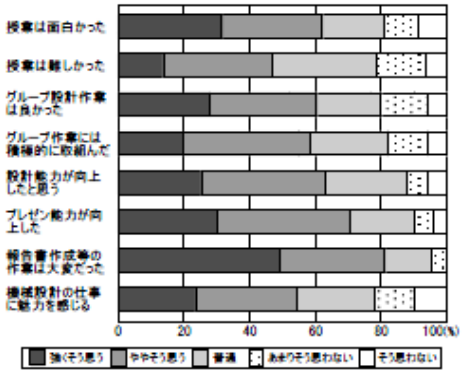


図4．本授業のアンケート結果

て有効であると思われる．

6．おわりに

設計製図教育の一環として行った本授業は，アンケート結果からも一定の有効性が認められ，学生は機械設計や「ものづくり」の創造性に対する楽しさ・厳しさを体得できると考えられる．授業には具体的な「もの」を製作する過程は含まれないが，オリジナル性を求めるテーマ設定と，個人設計→グループによる検討・再設計→資料作り→発表→改善提案→報告書提出と一貫した作業から本来学生が持っている創造性や問題解決能力を引出すプログラムとしても教育的に高い効果を持つと思われる．高いエンジニアリングデザイン能力を持つ技術者を育成するためには，常に変化していく学生の資質と社会的ニーズに合わせた教育プログラムを模索し実行していくことが重要となる．今後も機械設計製図やものづくり教育に求められる内容を把握し，それを高められる学習教育カリキュラムを構築していく必要がある．

参考文献

1) 財団法人 中小企業総合研究機構，ものづくり中小企業における技術伝承に関する調査研究(http://www.jsbri.or.jp/new-hp/)，(2007)
2) 小西他６名：ものづくり学習を支援する機械工学実験実習の教育方法とその評価，高専教育，第 28 号，pp. 441-446，2005
3) 精密工学会編：モノづくり教育体系調査報告Ⅱ，2000
4) 天日他６名：金沢高専におけるハンズオン教育について（機械工学科における創造設計），設計工学，vol. 36，No. 3，pp. 7-14，2001
5) 福井智史：モノはなくてもモノ作り教育はできる，香川県テクノフェア 2002 配布資料，2002

（出典　平成 21 年度高専教育講演論文集　pp285-288）

資料５－２－③－４

「創造性を育む教育方法の工夫②　電気工学科」

平成24年度

電気工学科			電気工学実験III				
学年	第4学年	担当教員名	千田和範・佐藤英樹				
単位数・期間		3単位	後期	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		電気電子工学に関する基礎的な物理現象を実際に観察して理解を深め，基本的な測定装置の使用法を修得し，座額では得られない具体的な技術感覚を修得することを目標とする．後期からの実験では，与えられた目的を満たす実験装置を試行錯誤しながら自作し，特性を測定し検討することで，問題解決の方法の基礎を学ぶ．					
		釧路高専目標	D:100%	JABEE目標	d-2-b,d-2-c		
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		実験前にあらかじめ指導書を熟読し，内容を理解すること．実験に際しては必ず実験ノートを用意する．実験ノートには，実験データや実験の状況を図表を交えて丁寧に記述することはもちろんのこと，実験中に気づいた事柄なども記述する．また，締切りを守ることはエンジニアにとって必須技能である．期限内にレポートを製作し，提出期日を厳守すること．					
到達目標		1．実験目的，原理を理解し，正しい手順で実験を進めることができる． 2．測定装置の使用法，機器の基本特性を理解し，正しく使用することができる． 3．実験データを整理分析および考察し，レポートを自らの考えを理論的にまとめることができる．					
成績評価方法		電気工学科の評価基準に基づき別に定める．					
テキスト・参考書		テキスト： 電気工学実験III実験指導書　実験III担当教官作成 （実験テーマについては，電気学会で出版している実験手引書，および電気主任技術者試験でよく取り上げられるテーマを採用） 参考書：					
メッセージ		実験設備は大電力を扱うものが多いため，安全に気をつけ，怪我をしないように行って欲しい．また，講義とは異なり，理論通りにいかないことも多々あると思うが，粘り強く追究する姿勢を身につけて欲しい．同時にレポートは文献やインターネットの情報を模写するものではない．レポート作成を通して，自らの考えをまとめる能力を養ってほしい					

授業内容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
前期期末試験	
1．実験ガイダンス(2回) 2．実験(各2回) a)変圧器 b)誘導電動器 c)パワーエレクトロニクス(交流) d)同期電動機 e)直流電動/発電機 f)シーケンス制御 3．レポート指導(3回)	次の各項目を理解できること． 変圧器，誘導機の等価回路導出のための実験方法および等価回路とその特性 同期機の無負荷特性，短絡特性，V曲線 パワーデバイスの使用法，電力制御回路 基本的なシーケンス回路 直流モータおよび発電機の特性 実験(f)については設計／製作を行い簡単なシステムを実現できること．
後期中間試験	実施しない
4．問題解決型実験(各4回) a)シーケンス制御応用実験 b)発電システム設計製作コンテスト c)PID制御	与えられた目的をいかに達成するか，試行錯誤しながら解決できる．また，得られた結果の評価分析ができる．
後期期末試験	実施しない

Created at Sat Jun 16 16:12:48 JST 2012

（出典　WEB サイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/　釧路高専ホームページ）

資料５－２－③－５

「創造性を育む教育方法の工夫③　電子工学科（平成23年度4学年「工学課題実験」）

平成24年度

電子工学科		工学課題実験				
学年	第4学年	担当教員名	梶原秀一・戸谷伸之・高義礼			
単位数・期間		2単位	通年	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		創造性を養うために，第3 学年までに得た知識を基に，自ら課題を発見し，解決方法を計画し，実行する能力を育成する．これらの作業をグループ作業と個人作業を混合させながら，行うことにより，チームワークで仕事をする能力，チームの中で個人の力を発揮する能力を養う．				
		釧路高専目標	E:60%, F:20%, G:20%	JABEE目標	d-2-c, e, f, g, h	
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		グループで作業する，グループの中で自分の役割を見つけ，協力して作業する，ということが重要である．また，グループ討論において意見を確実に伝えるコミュニケーション能力も必要である．				
到達目標		チームワークで仕事ができる． グループ内でコミュニケーションが十分にできる． グループで計画を立て，メンバーが計画的に仕事をすることができる． 自分たちの持つ知識・技術を活用したプランを設定できる．計画を効果的に他者に説明できる．				
成績評価方法		評価はグループ評価と個人評価により行う．詳細はガイダンスにおいて説明する． 合否判定と最終評価は同一である． グループ評価（60%）＋個人評価（20%）＋レポート評価（20%）により判定する．60点以上で合格である．				
テキスト・参考書		担当教員の指示による．				
メッセージ		工学課題実験は，自分たちの持つ知識・技術を使って，チームで一つの作品を完成させる． 周辺分野の技術・知識を得る良い機会である．特に，実験を通じて実践的な技術・知識として経験するとともに，グループ作業という，講義とは異なる形態での作業を経験することができる．積極的に参加して欲しい．				
前関連科目		2年　創造工学		後関連科目	5年　卒業研究	

授業内容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
ガイダンス，全体テーマ決定，グループ分け（リーダ決定）（4） グループごとのテーマ検討および製作物検討（8） グループテーマ発表・討論（2）	全体の中でコミュニケーションが十分できる． グループ内でコミュニケーションが十分できる． テーマに従って製作物の計画立案が出来る． チームワークでプレゼンテーションできる． 討論に積極的に参加できる．
前期中間試験	
製作準備（8） 製作（8）	これまでに得た知識を基に製作計画を協調的に計画立案できる． グループ内での自分の役割を認識し，協調的に製作し，自分の能力を発揮できる．
前期期末試験	
製作（6） グループ発表（グループテーマ，製作内容など）（4） 改善計画（4）	グループ内での自分の役割を認識し，協調的に製作し，自分の能力を発揮できる． 役割に従って発表に参加できる． 討論に積極的に参加できる．
後期中間試験	
製作（10） グループ発表（グループテーマ，製作内容など）（4）	グループ内での自分の役割を認識し，協調的に製作し，自分の能力を発揮できる． 役割に従って発表に参加できる．

（出典　WEB サイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/　釧路高専ホームページ）

資料５－２－③－６

「創造性を育む教育方法の工夫②　建築学科（平成23年度２学年「デザイン工学」）

平成24年度

建築学科			デザイン工学				
学年	第2学年	担当教員名	鈴木邦康・西澤岳夫・栗原浩平				
単位数・期間		1単位	前期	週当りの開講回数	1回	必修	履修単位
授業の目標と概要		工学の基礎は「ものづくり」であり、発想・検討・計画・設計・製作・完成品の機能の評価の過程を通じて、発想力・創造力・問題解決能力等の育成を行う。 全国高専デザインコンペティションの構造デザイン部門への参加作品をグループで作成することで上記の能力の開発だけでなくコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上が期待できる. ものづくり基礎で習得した知識や経験を生かすことが必要である。					
		釧路高専目標	E:50%,F:50%	JABEE目標			
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		製図用の定規，筆記用具，関数電卓を持参すること。 チームで作業を行うため，メンバーを敬い，協力して作品を完成させること。 作品は授業時間内だけではなく，提出期限に間に合うように製作すること。 ものづくりの基礎となる物理や数学に関する知識が必要である。					
到達目標		与えられた条件に応じて「ものづくり」が実践できること。					
成績評価方法		各授業における製作活動の状況と完成品・報告書及びプレゼンテーションを総合して評価する。成績は作品またはレポートが60%、発表態度が10%、制作態度が30%とする。 不合格者については，別途課題を与え，60点以上を合格とする。					
テキスト・参考書		テキストなし。資料はこちらで用意する。 参考書：全国高専デザインコンペティションHP，構造用教材（日本建築学会），ストローで調べる強いかたち（さえら書房）など					
メッセージ		自発的かつ積極的な授業参加を希望する。 チームで実施する課題であるため，コラボレーションによって一人では達成できない作品を完成させることができる一方，一人の不心得者のためにチームが崩壊し，全員の成績に影響する可能性もある．それぞれがチームプレイヤーとして必要十分な役割を遂行することを期待します.					
前関連科目		ものづくり基礎		後関連科目	建築設計演習Ⅱ・建築構造力学Ⅰa		

授 業 内 容

授業項目	授業項目ごとの達成目標
第１週　ガイダンス，グループ分け，作品例紹介 第２週　試作品1設計，製作 第３週　製作継続 第４週　製作継続 第５週　実験 第６週　試作品2設計，製作 第７週　製作継続	第１週　課題の内容を理解し試作品の作成に向けた準備を行うことができる. 第２~４週　チームで協力し試作品を作ることができる. 第５週　加力実験を行うことができる. 第６~１０週　チームで協力し試作品2を作ることができる.
前期中間試験	実施しない
第８週　製作継続 第９週　製作継続 第１０週　実験 第１１週　試作品3設計，製作 第１２週　製作継続 第１３週　製作継続 第１４週　製作継続 第１５週　実験	第１０週　加力実験を行うことができる. 第１１~１４週　チームで協力し最終試作品を作ることができる. 第１５週　加力実験を行うことができる.

（出典　WEB サイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/　釧路高専ホームページ）

資料５－２－③－７

「学外実習取扱要項」

(8)　釧路工業高等専門学校学外実習取扱要項

（目　的）

第１条　学外実習（以下「実習」という。）は、釧路工業高等専門学校の学生が、企業等（国又は地方公共団体の機関を含む。以下「実習機関」という。）において実習（実習機関の計画する研究・開発に関する研修
及び技術講習等を含む。）を通じて工業技術の体得及び実習機関での就業体験をすることを目的とする。

（実習学年及び期間）

第２条　実習は、選択科目（学外実習Ⅰ及び学外実習Ⅱ）として第４学年以上において実施する。なお、第３学年末休業から第４学年春季休業の間の実習については、第４学年とみなして、本要項を適用するものとする。

２　実習を行う期間は、５日間以上で長期休業期間中とする。

３　実習の期間が正当な理由によって休業期間外にわたる場合は、特別欠席扱いとすることができる。

（実習機関の選定）

第３条　実習機関の開拓及び選定は、原則として進路指導委員会委員が行い、進路指導委員会委員長を経て、学級担任が学生に開示する。

２　前項による実習機関の選定にあたっては、実施機関から提出される学外実習受入調書（第１号様式）により行う。

３　前項の学外実習受入調書は、実施機関所定の様式をもって替えることができる。

（履修の手続き）

第４条　実習の履修を希望する学生は、学外実習履修願（第２号様式）を学級担任を経て、校長に提出しなければならない。

２　学外実習履修願を提出した学生の派遣先実習機関は、学級担任が調整し決定する。

（学外実習履歴書及び誓約書の提出）

第５条　前条第２項により派遣先実習機関が決定した学生（以下「実習生」という。）は、学外実習履歴書（第３号様式）及び学外実習誓約書（第４号様式）を校長を経て、実習機関へ提出しなければならない。

２　前項の学外実習履歴書及び誓約書は、実施機関所定の様式をもって替えることができる。

（事前及び実習期間中の指導等）

第６条　進路指導委員会委員長は、実習の開始に先だち実習生に対してガイダンス等必要な事前指導を行うものとする。

２　学級担任は、実習生の状況を把握し、実習が円滑に行われるよう努めるものとする。

３　実習中に事故の発生又は制約事項に違反する行為等があった場合は、学級担任等関係教職員が緊密に連携し、迅速に対応するものとする。

（学外実習心得）

第７条　実習生は、別に定める学外実習心得を守らなければならない。

資料５－２－③－７（続き）

（報告書等）

第８条　実習生は、学外実習終了後、速やかに学外実習報告書（第５号様式）を学級担任に提出しなければならない。

２　校長は、学外実習終了後、実施機関の責任者から学外実習証明書（第６号様式）の提出を受けるものとする。

３　前各項の学外実習報告書及び学外実習証明書は、実施機関所定の様式をもって替えることができる。

（成績評価及び単位修得科目の認定）

第９条　成績評価及び単位修得科目の認定は、第６条第１項に規定する事前指導及び前条により提出された学外実習報告書、学外実習証明書並びに各学科が実施する学外実習報告会等に基づき各学科が行い、認定科目は、実習時間３０時間をもって学外実習Ⅰ、実習時間６０時間をもって学外実習Ⅱとする。

２　学級担任は、前項により単位修得科目を認定した場合は、遅滞なく、学外実習単位認定届（第７号様式）を教務主事を経て、校長に提出するものとする。

（事　　務）

第10条　実習に関する事務は、学生課が行う。

（雑　　則）

第11条　この要項に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附　　則

１　この要項は、平成１７年４月１日から実施する。

（出典　学生便覧　ｐ５１）

資料５－２－③－８

「インターンシップの手続き」

第1回進路指導委員会
H23. 5.27
資料 6-1

インターンシップ手続き等の主な流れ

【 事前手続き 】

３月下旬　：学校は企業等に受入のお願い

↓

４月上旬　：企業等から受入諾否の回答を得る（「学外実習受入調書」によりＦＡＸで回答）

↓

５月～６月：学校は学生の希望を調査し、派遣先企業等（実習機関）を選定

↓

６月下旬～：学生は学校を通して、実習機関に「学外実習履歴書」・「誓約書」を提出
学生は、「インターンシップ活動賠償責任保険」に加入
学校は、学生に対してガイダンス等の事前指導を実施

↓

【 夏季休業期間 】　７月３０日（土）～８月２８日（日）
※夏季休業期間の前後も一部可
①企業側の都合により、夏期休業期間中の実施できない者
②受入先企業の職種を就職先として検討している者
③特別欠席扱いとするが、学級担任が授業を欠席しても支障がないと認めた者

インターンシップ実施
・学生は、毎日の実習レポート（日誌）を作成（※ 実習指導者の確認印を得る）
・学生は、学外実習証明書を持参し、企業の担当者に依頼する
・クラス担任がインターンシップ実施機関を数社訪問し、学生の実施状況を確認する

↓

【 事後手続き 】

終了後～　：実習機関は学校に「学外実習証明書」を提出
（郵送。ただし学生に持参させる場合は、厳封したもの）

↓

９月下旬　：学生は学校に「学外実習報告書」を提出

↓

１０月下旬～：学校は学外実習報告会を実施し、成績評価及び単位認定を行う。

（出典　平成 23 年５月　進路指導委員会資料）

資料５－２－③－９

「インターンシップ実施一覧」

平成２３年度　インターンシップ実施一覧

資料　3
進路指導委員会

	実習機関名	実習期間	実習日数	派遣人数		備考
1	(株)アトリエブンク	8/1~8/12	10	A2	3	
		8/22~8/26	5	A1		
2	(株)今井設計	8/17~8/26	9	A1	1	78時間
3	恵庭市役所	8/15~8/26	10	A1	1	
4	(株)NTT東日本-北海道　釧路支店	8/22~8/26	5	M4, E2, J3	9	
5	(株)榎本機械製作所	8/17~8/26	9	M1	1	63時間
6	(株)エフエムくしろ	8/9~8/19	10	M4, E1, D1, 5A1	7	
7	王子製紙(株)釧路工場	8/22~8/26	5	M1	1	
8	(株)大阪ガス	7/20~7/28	7	D1	1	40時間
9	太田電気(株)	8/18~8/26	8	E1	1	64時間
10	オムロン(株)	8/21~8/26	6	D1	1	42時間
11	カーショップ滝口	8/17~8/26	9	M1	1	72時間
12	(有)木下モーター商会	8/1~8/12	11	M1	1	83時間
13	キヤノン(株)	8/22~8/26	5	M1, E1	2	
14	(株)共成建設	8/1~8/12	10	A1	1	
15	釧路市こども遊学館	7/30~8/10	10	M3, E3, J3, A1	10	
		8/11~8/21	10	E3, D5, A2	10	
16	釧路信用金庫	8/1~8/5	5	D2	2	
17	(株)釧路製作所　本社工場	8/17~8/30	10	M2	2	
18	釧路トヨタ自動車(株)帯広店	8/1~8/17	10	M1	1	
19	一級建築士事務所　くりえいと創	8/10~8/26	10	A2	2	
20	(株)クワザワ工業	8/8~8/19	8	A1	1	64時間
21	コニカミノルタビジネスソリューションズ（株）	8/22~8/26	5	D1	1	
22	(株)斉藤譲一設計事務所	8/10~8/25	10	A1	1	
23	(有)榊鉄工所	8/3~8/13	10	M1	1	
24	JFEスチール(株)東日本製鉄所	8/1~8/12	10	M1, E1	2	
25	(株)　ＪＰハイテック	8/22~8/26	5	D1	1	
26	知床羅臼町観光協会	8/8~8/19	10	J1	1	
27	(株)　セイコーエプソン	8/1~8/12	10	D1	1	
28	(株)高橋商会	8/1~8/5	5	M1, J1	1	
29	(株)武田建築設計事務所	8/11~8/26	10	A1	1	
30	NPO法人地域生活支援ネットワークサロンまじくる	8/3~8/13	10	M1, J1, A1	3	
31		8/1~8/20	10	A3	3	
32	チームラボ（株）	7/31~8/11	10	J2	2	
33	東芝テクノネットワーク(株)	8/2~8/11	8	E1	1	64時間
		8/17~8/19, 8/22~8/26	10	D1	1	80時間 ※但し1単位
	ビクターサービスエンジニアリング（株）	8/15~8/16, 8/20, 8/24, 8/27				
34	東洋農機(株)	8/22~8/26	5	M7	7	
35	道立足寄少年自然の家（ネイパル足寄）	8/3~8/12	10	D1	1	
36	苫小牧市役所	8/1~8/5	5	A1	1	
37	新冠町役場	8/1~8/12	10	A1	1	
38	ニッテツ室蘭エンジニアリング(株)	8/1~8/9	7	A1	1	64.5時間
39	日本放送協会　釧路放送局	8/1~8/5	5	E2, D2	4	
40	函館市役所	8/8~8/19	10	A1	1	

資料５－２－③－９（続き）

41	浜中町農業協同組合	8/1～8/11	10	J1	1	
42	(有)東藻琴車輌センター	8/3～8/11	8	M1	1	62時間
43	廣木建設(株)	8/8～8/12	5	A1	1	
44	(株)ポータス	8/1～8/12	10	J1	1	
45	(株)北竜畜産	8/4～8/14	10	M1	1	
46	北海道エア・ウォーター・エンジニアリング(株)	8/22～8/26	5	E2	2	
47	北海道大学	8/1～8/11	10	M1	1	
		8/1～8/9,8/18～8/19	10	A1	1	
48	北海道電力(株)釧路支店	8/1～8/5	5	E2	2	
49	(株)ホテル知床	8/1～8/10	10	M1	1	
50	(株)牧野組	8/8～8/22	10	A1	1	
51	丸彦渡辺建設（株）釧路支店	8/1～8/5	5	A1	1	
52	三菱地所コミュニティ(株)	7/25～8/5	10	A1	1	
53	三菱重工環境・化学エンジニアリング(株)	8/22～9/2	10	D1	1	
54	(株)明電舎	8/1～8/12	10	E1	1	
55	メタウォーター(株)	7/25～8/5	10	E1,A1	2	
56	(有) 山本ハウス	8/1～8/8	5	D1	1	
57	ヤンマー舶用システム(株)	8/22～8/26	5	M1	1	
58	(有)羅臼電工社	8/17～8/27	10	A1	1	
59	ランチショップ　あむあむ	8/1～8/12	10	J1	1	
60	渡辺電気(株)	8/1～8/12	10	E1	1	
61	(有)ワタミファーム瀬棚農場	8/1～8/10	8	M1	1	64時間

企業数　61機関　　M36名　E22名　D18名　J14名　A30名（5A 1名含む）　　合計　120 名

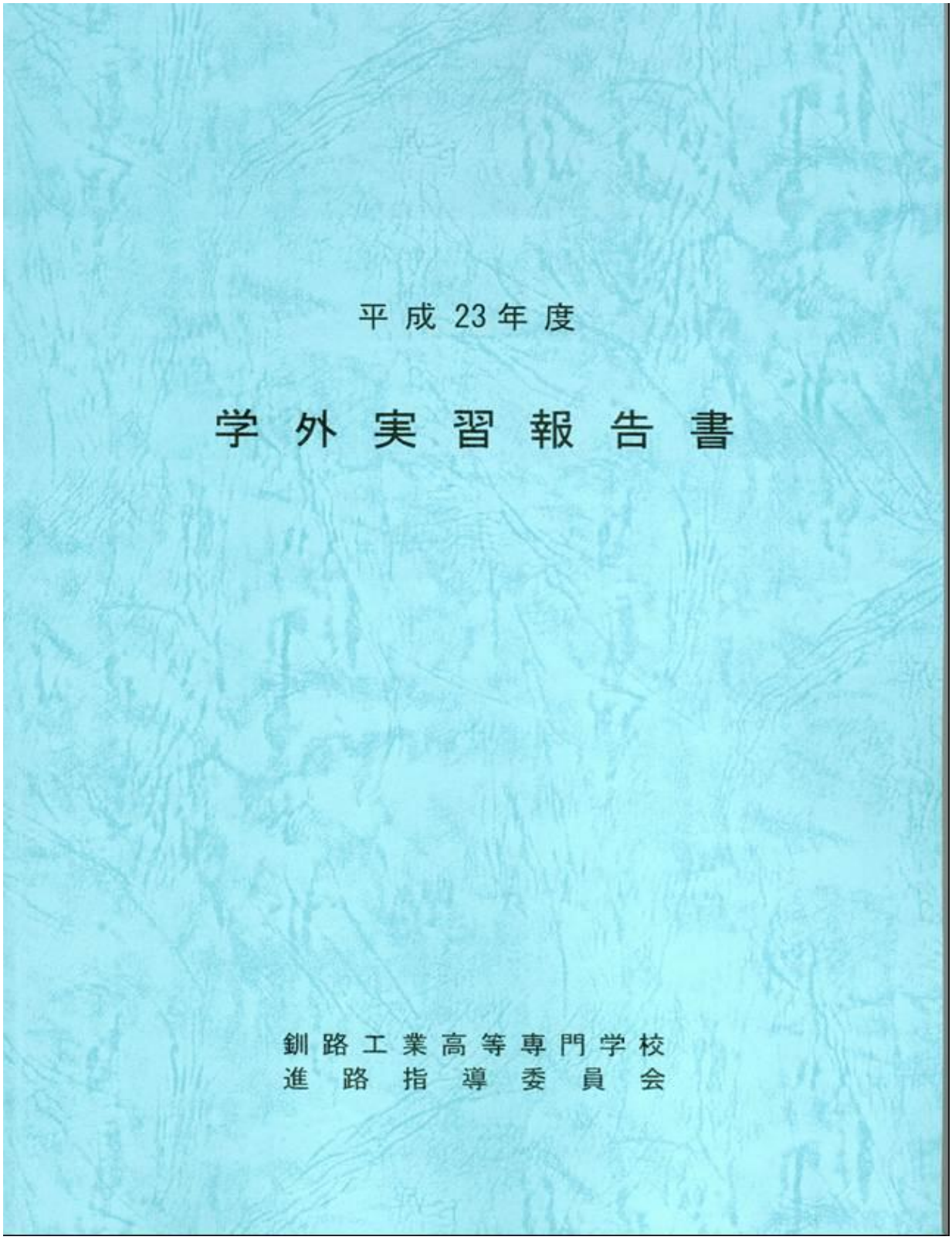
	実習機関名	実習期間	実習日数	派遣人数		備考
1	(株)アクティス	8/15～8/26	10	S2	2	
2	(株)エフエムくしろ	8/9～8/19	10	S3	3	
3	釧路市こども遊学館	8/1～8/12	10	K1,S1	2	
4	(株) 釧路綜合設計事務所	8/10～8/25	10	K1	1	
5	（財）釧路根室圏産業技術振興センター	8/1～8/12	10	K1	1	70時間
6	タカオ工業(株)	8/1～8/11	10	K1	1	
7	NPO法人地域生活支援ネットワークサロンまじくる	8/1～8/20	10	K2,S2	4	
8	(株) つうけんアドバンスシステムズ	10/17～10/28	10	S1	1	
9	東京工業大学	8/1～8/12	12	S1	1	96時間
10	東芝システムテクノロジー(株)	9/1～9/14	14	S1	1	70時間
11	(株)長谷川建築設計事務所	8/10～8/25	10	K1	1	70時間
12	(株) 日立情報制御ソリューションズ	8/25～9/7	14	S1	1	80時間
13	富士電機(株)	8/16～8/26	10	S1	1	72時間
14	北海道大学	8/16～8/25	10	S1	1	
15	北海道庁	8/1～8/12	10	K1	1	
16	三菱地所コミュニティ(株)	7/25～8/5	10	K1	1	

企業数　16機関　　K9名　S14名　　合計　23 名

（出典　平成 24 年３月　進路指導委員会資料）

資料５－２－③－10

「学外実習報告書」



資料５－２－③－10（続き）

「実習報告（専門に近い分野）」

4年　建築学科 [redacted]

1．実習機関　NPO法人地域生活支援ネットワークサロン　まじくる

2．実習期間　８月１日（月）～８月２０日（土）
１０日間（実働７時間）

3．実習の目的

地域交流を通して社会に役立つコミュニケーション能力を身につける。また、様々な人との交流で新たな観点や感性を養い、今後の建築設計の考えの参考とする。

4．実習の内容　（実習テーマ：人と関わる）

今回私がお世話になったNPO法人地域生活支援ネットワークサロンまじくる（以下まじくると表記）は、「地域で生活する上でのいろいろな悩み事や相談を受けて、解決へ向けて一緒に考え、行動する事業」で、主に地域・就労・生活の問題を支援するという団体である。まじくるのスタッフの一人である秋田 照洋さんに案内され、私たちが初日に向かった場所は釧路市米町にある冬月荘というコミュニティ施設であった。冬月荘では主に地域住民の交流や、居住スペースを設けるなどして地域貢献事業を行っている。更に高校受験を控える中学生を主な対象とした「Zっと！ Scrum」（以下スクラムと表記）という勉強会を開いている。私たちはスクラムで勉強を教える「チューター」として中学生たちと交流することになった。スクラムのスペルは「Scrum」である。これは「学校：School」と「塾：Cram」を合わせた造語であり、「スクラムは学校や塾とは違う」という意味が含まれている。つまり、勉強をするだけではなく、中学生とチューターとの繋がりを深めていくことでスクラムで一緒に学び、成長していくということである。そのため、中学生一人一人とチューターが共に触れ合っていく中で何を学びとっていけるのか、それが目標であった。

その目標からか、スクラムの活動で最も難関であったのが、中学生一人一人と心を通わせていくことであった。中学生の数は約30人程であり、顔と名前を一致させるのも一苦労であったからだ。しかし、自らが中学生たちのことを知ろうとする度に彼らも徐々にこちらへ心を開いてくれたため、スクラム内の空気は一体感を増すことができた。

スクラムでの活動の後、次の活動場所は釧路市鳥取大通りにある第２ぽれっこ倶楽部（以下ぽれっこと表記）であった。ぽれっこの活動は市内の小学生や養護学校の児童たちと交流して時間を共に過ごすことであった。冬月荘での活動とは違い、ここでは勉強はせずにただ交流をするだけというものではあったが、特に注意したのは子供たち一人一人の自尊心や主張を大事にする、ということであった。ルールを守ることで皆が楽しくできる、というのを子供たちは無意識に学びとっており、私たちはそれをサポートする、という形でその輪に参加することができた。

ぽれっこの活動の後、次の活動は再びまじくるの活動であった。私たちのまじくるの活動は、毎日10人程でディベートや物づくりをしていくことであった。それぞれ世代の違うものどうしで一つの物事を成すと、意見の食い違いや上手くいかないことも多々ある。しかし、会社や職場でのマナーのように、謙虚な言動を心がけることでトラブルは回避されていく。まじくるで学んだのはそのような社会人における基本的なマナーであった。

5．実習を終えて

活動中様々なことがあり、それら全てが自らへの問題として投げかけられたが、問題を一人で解決するのではなく誰かとともに解決することを学んだ。そして、そのためにお互いがお互いを尊重しあい、認めていくことで初めてチームワークが生まれ、企業であればより良いものが生まれるのだと知った。今後私の就職活動の際にも、これらで学んだことを実際に生かし、より良いものへしていけるよう更なる努力を心がける。

－ 113 －

資料５－２－③－10（続き）

「実習報告（異分野）」

４年　電気工学科 [redacted]

１．実習機関　北海道エア・ウォーター・エンジニアリング　株式会社

２．実習期間　８月２２日（月）～８月２６日（金）
５日間（実働３７時間）

３．実習の目的

エア・ウォーター　エンジニアリング　札幌製作所で製造されているLNGガスを封入するタンクの製造工程と、タンクを溶接する上で生じる欠陥（キズ）をどう検査しているのかを座学や見学、実技を通して理解すること。

４．実習の内容　（実習テーマ：溶接容器製造工程と非破壊検査について）

北海道エア・ウォーター　エンジニアリング　札幌製作所で製造されているLNGガスを封入するタンクの製造工程を工場内を歩き、製造物の近くで見学させていただいた。

このタンクの内部や外層に至るところまで、丁寧なご説明の上、わかりやすく工程を知ることができた。中には企業機密の部位もあったが、少しばかり教えていただいた。

溶接方法は、アークプラズマ溶接という放電現象を用いたものであった。

この放電現象は電気工学科の授業である高電圧で習っていたのですぐに理解することができた。

次に、工程を知った上でLNGガスの封入方法や保持温度、特性や法律について教わった。

このLNGガス＝天然ガスということも教わっていたので、とても身近に感じることができた。この天然ガスはタンクに封入されることで高圧ガスとなるので、徹底した管理　の上、封入や保持をしている。

高圧ガスは取扱いを間違うと大爆発を引き起こすという。

以前に、家庭用のタンクが所有者の不注意で爆発したという事例も教えていただいた。非破壊検査については座学による学習の上、実技を行ったが、指導員のわかりやすい

指示で順序良く進めることができた。実習の最終日には、各高専生によるプレゼンテーションが行われたので、周りが機械工学科でタンクの製造工程や非破壊検査について説明をしている中、私は電気工学科の知識を生かせる点として、溶接の放電現象についてのプレゼンテーションを行った。自分で資料を収集して絵を描き、指示棒を使いながら社員の方々や他の高専生の人たちに実習で得た知識を伝えた。他の高専生の人たちのプレゼンテーションは実習で得たことがわかりやすく説明されていて、とても理解しやすいものであった。

５．実習を終えて

実習を受ける前日や初日はとても緊張していて、不安な心持ちだったが終えてみると不安感はなく、インターンシップを受講させていただいた感謝の気持ちと、将来この経験を生かしていこうという気持ちで終えることができた。

今回、私は五日間の実習だったが、とても充実した貴重な五日間だった。

本来、学校ではどれも学べない新鮮なもので、工場で製造されているものの製造工程や、座学で学習したことを踏まえた上での実技はとても意味のあるもので、深い記憶として実習を終えた後でも鮮明に残っている。これから社会に出る上での、良い社会勉強となった。

－ 57 －

資料５－２－③－10（続き）

「実習報告（大学）」

4年　建築学科 [redacted]

1．実習機関　北海道大学大学院工学研究院建築環境学研究室

2．実習期間　8月1日（月）～8月9日（火）、8月18日（木）～8月19日（金）
10日間（実働80時間）

3．実習の目的

北海道大学の建築環境学研究室の学生が行う実験･実測を実際へ参加し、実験の取り組み方を学ぶ。SPR の使い方を学び、シミュレーションできるようになる。また実際に建築される住宅を解析シミュレーションし、その結果を用いてグラフを描く。

4．実習の内容　（実習テーマ：大学・大学院における研究活動）

大学・大学院生の実験に２回参加した。

１回目は倶知安の外付けブラインドが設置されている住居に行き、外付けブラインドの性能測定を行なった。一般的には室内に設置するブラインドは、外からの太陽光などを受け、ブラインドの金属が熱されて室内の温度上昇につながることがある。今回は住宅の外に設置されたブラインドと、一般的な内付けブラインドではどのような違いあるか、それぞれの利点・欠点を調査した。また、ブラインドの素材を比較して、どの素材・色が最も熱を吸収しにくく、ブラインドに適するか実測した。

２回目は夕張の工場に行き、置換換気室における工作機器の排熱高さが垂直温度勾配などの室内環境に与える影響を調査した。工場内で対象となるエリアをブルーシートで囲み、機械の排熱口にダクトを設けて空間の高さごとの気温を測定し、ダクトを設けていないエリア対象外と比較をした。室内垂直温度は、床から順に 100、1000、1700、2100、3100、4100[mm] の位置におんどとりを設置して測定を行なった。全体換気量と全体給排気温度は機械室の制御から調べ、また室内粉塵量を、粉塵計を用いて垂直分布を数箇所計測した。

実験･実測の参加以外に、パソコンで SPR という建築環境の解析シミュレーションのソフトを使って、北海道に建築予定の住宅を解析シミュレーションした。このソフトではまず住宅の部屋のモデルを描き起こし、窓を加え、部分ごとの壁の壁材や厚みを変更する。そしてデータを入力し、暖房不可などのグラフをあらわせるようになった。そのグラフをエクセルに取り込むことによって細かい数値データを求めることができた。

5．実習を終えて

実験では、実際に使用している住宅や工場などで測定したりなど、大規模な実験をすることができた。今まで私がしてきた授業の実験よりスケールが大きく、驚いたのと同時にどんな実験も真摯な態度で取り組み、より正確なデータを得なければならないと思った。正しい過程を経て、正確に近い結果は導けるとわかったからである。大学での実験は私に実験に対する意識を変えさせ、大きな刺激を与えてくれた。

普段の実習では、SPR を初めて使い、最初はエラーばかり出るうえに英語のみの表記なので辞書片手にとても苦戦した。しかし、わからないところを積極的に尋ね、エラーを１つ１つ解いていくうちにきちんと形成されていく建築モデルをみて、とても達成感を覚えた。何度も失敗を重ねてモデルをつくり直すうちに、手順を覚え、意味を理解し、すこし自信もつき、作業することが楽しく感じることも多かった。

この SPR 以外のすべてにおいても、経験と積極的に取り組む姿勢こそが最も価値ある学習だと、今回の取り組みでわかった。

北大の創設者でもあるクラークが「少年よ、大志を抱け」と言ったように、私は目標をもち、それを実現するだけの努力や挑戦をしなければならない。そしてこの学外実習で得たことを生かし、努力の成果として表したいと思う。

- 119 -

（出典　平成 23 年度学外実習報告書）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，各学科において，創造性を育む教育方法の工夫，科目の見直しが行われ，現在の教育課程となっている。

機械工学科第４学年の「機械創造設計」における創造性を育む教育とエンジニアリングデザイン教育を兼ね備えた教育方法の工夫は，平成20年度に高専機構理事長賞を受賞した。

他にも，電気工学科４学年の電気工学実験Ⅲの一部，電子工学科４学年の工学課題実験，建築学科２学年のデザイン工学等，創造性を育む教育の工夫がなされている。

インターンシップは，選択科目として学外実習Ⅰ，学外実習Ⅱが設定されている。

これらのことから，創造性を育む教育方法の工夫が図られ，また，インターンシップの活用が図られている。

観点５－３－①：　教育課程の編成において，一般教育の充実や特別活動の実施等，豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。また，教育の目的に照らして，課外活動等において，豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。

（観点に係る状況）

学生便覧には校訓を「われらの信条」としてわかりやすく説明している（資料５－３－①－１）。これらを実現するために，次のような取組が行われている。

１～３学年においては，「ロングホームルーム」として特別活動が実施され，３学年で合計90単位時間を実施しており（資料５－３－①－２），設置基準を満たしている。担任に配布される「担任の手引き」（資料５－３－①－３）から多岐に亘るホームルームでのテーマ例を基にHR活動が行われている。ロングホームルーム以外に，平成21年度からは毎朝8時30分に「教員連絡会」が開催されようになり，緊急の連絡や当該日での行事に関する情報共有がなされ，8時40分からのショートホームルームでの学生指導に生かされている（資料５－３－①－４）。学生に対して種々の細かな連絡を密に行い，学生に連絡内容の把握や提出物への注意を喚起するショートホームルームは「自己を律する」ことの形成につながっている。

一般教育においては，低学年では高等学校の教育課程を参照しながら，本校独自の教育課程を編成し，後期中等教育部分の一般科目教育を実現し，高学年では，選択科目群により，いわゆる一般教養科目や，英語，数学などの実力向上を目指す科目を配置している（資料５－３－①－５，６）。

課外活動として，学生会活動は学生委員会の指導の下，各種学生会活動の企画・立案・実行を学生自身が行っている。クラブ活動については，全教員がクラブ顧問となる体制を作り（資料５－３－①－７，８），学生指導を行っている。また，本校ウェブページでは，クラブや同好会の学生による課外活動の紹介が掲載されている（資料５－３－①－９）。課外活動，学生会活動のような教育課程以外の活動に教員が関与することで，学生のチャレンジ精神の育成につなげている。これらの結果として，ロボットコンテストを始めとする各種コンテストや，高体連，高専体育大会等において優秀な成績を収めている（資料５－３－①－10）。

資料５－３－①－１

「われらの信条」

信頼　おたがいに信頼しあおう。
学科、学年を異にしても、全学年がたがいに信頼しあえる人間になろう。保護者、教職員ならびに一般社会から寄せられる期待、信頼にもじゅうぶんにこたえよう。

努力　みんなで努力しよう。
立派な科学技術を習得するための努力はもとより、情操豊かな人格を育成するようにみんなで励みあおう。

明朗　あかるく生きよう。
義務と責任を重んじ、礼儀正しくあかるい活気あふれる生活態度で勉学にいそしもう。

（出典　学生便覧）

資料５－３－①－２

「ロングホームルームとショートホームルームの時間」

平成24年度　前期授業時間割

		月								火								水							
		1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
1学年	1	コンピュータリテラシー 前田・赤堀		化学 坂本	国語 加藤岳	数学 澤柳		HR 澤柳	オフィスアワー	英語 沼田	数学 川中	倫理社会 藤本		物理 浦家				保健 笛岡	国語 加藤岳	英語 吉田	化学 坂本		物理 浦家		
	2	国語 加藤岳	化学 坂本	数学 川中	英語 沼田			HR 吉田		コンピュータリテラシー 本田・井上	倫理社会 藤本	国語 笛下徹	数学 宮毛					体育 恐神	化学 坂本	物理 浦家	英語 吉田				
	3	化学 坂田	物理 浦家	コンピュータリテラシー 浅水・髙		数学 山崎		HR 笛下徹		英語 吉田	数学 伊藤	物理 浦家	国語 加藤岳	国語 笛下徹				化学 坂田	体育 恐神	英語 片岡	保健 笛岡				
	4	英語 沼田		数学 池田		国語 物理 加藤岳	浦家	HR 浦家		化学 加藤隆	英語 吉田	体育 恐神		国語 加藤岳				化学 加藤隆	保健 三島	数学 阿部義	倫理社会 藤本	国語 加藤岳			
	5	物理 浦家	国語 加藤岳	数学 小谷		倫理社会 藤本		HR 小田島		物理 保健 浦家	コンピュータリテラシー 三島	国語 加藤隆・大槻香		英語 吉田				数学 阿部義	英語 片岡	化学 加藤隆	国語 小田島				
2学年	M	機械設計製図Ⅰ 渡邊		英語 林幸		化学 加藤隆		HR 渡邊	オフィスアワー	物理 梅津	機械工学実習・実験Ⅰ 赤堀・渡辺			数学 小谷	英語 林幸			工業力学 渡邊	物理 梅津	国語 小田島					
	E	国語 小田島		電気回路Ⅰ 井上		物理 梅津		HR 本田		体育 笛岡	機械工学概論 千田			数学 池田	現代社会 大石			電子計算機 野口	英語 林幸	数学 池田					
	D	体育 三島		物理 梅津		英語 林幸		HR 梶原		国語 笛下美	回路設計基礎演習 梶原			英語 林幸	数学 山崎			創造工学 髙橋晃・松永・戸田・小林	化学	数学 加藤隆	英語 山崎	林幸			
	J	現代社会 大石		情報数学 本間		数学 佐古		HR 大槻典		情報工学演習 大槻典・中島	体育 恐神		物理 梅津					国語 小田島	日本史 木村	数学 山崎	英語 沼田	プログラミング言語Ⅰ 高橋晃・中島			
	A	化学 加藤隆		建築概論 佐藤哲		デザイン工学 鈴木邦・西澤・小林		HR 佐藤彰		数学 宮毛	国語 笛下美		英語 片岡		体育 三島			現代社会 大石	建築設計演習Ⅰ 佐藤彰	数学 宮毛	情報処理演習 加藤隆・大槻香				
3学年	M	材料力学Ⅰ 成澤		機械設計法Ⅰ 渡邊		機械設計製図Ⅱ 川村		HR 山崎		応用物理 松崎	数学 山崎		国語 小田島		（S）英会話			英語（習熟度別）		英語 松本茂	機械工学実習・実験Ⅱ 荒井				
	E	数学 宮毛		世界史 木村		応用物理 松崎		HR 松崎	オフィスアワー	電子工学 須田	国語 小田島	物理学演習 松崎								電気工学実験Ⅰ 佐々木・本田					
	D	数学 佐古		電子工学実験Ⅱ 佐古・坂口・山形		体育 笛岡		HR 髙橋		数学 佐古	世界史 木村		電気回路Ⅱ 松本和							電子回路Ⅰ 坂口	論理回路Ⅰ 山形	物理学演習 松崎				
	J	プログラミング言語Ⅱ 柳川・土江田		コンピュータネットワークⅠ 高橋晃・大貫		数学 小谷		HR 天元		プログラミング言語Ⅱ 柳川・土江田	国語 笛下徹		英語 小松久							応用物理 松崎	数学 小谷				
	A	建築CAD 西澤・大槻香		体育 笛岡		数学 池田		HR 佐藤哲		建築設計演習Ⅱ 佐藤哲			英語 阿部孝		外国人講師					数学 池田	世界史 木村	物理学演習 梅津				

時限表

SHR	8:40 － 8:50
1	8:50 － 9:35
2	9:40 － 10:25
3	10:35 － 11:20
4	11:25 － 12:10
昼休み	12:10 － 13:00
5	13:00 － 13:45
6	13:50 － 14:35
7	14:40 － 15:25
8	15:30 － 16:15
9	16:20 － 17:05

（出典：平成22年度前期時間割）

資料５－３－①－３

学級担任の手引き

釧路工業高等専門学校

平成２３年４月

資料５－３－①－３（続き）

目　　次

１．ホームルームと学級担任の役割 1
1.1　ホームルームとは 1
1.2　ホームルームの機能 1
1.3　ホームルーム運営の留意事項 1
1.4　ホームルームでの具体的な指導事項 2

２．日常の指導 2
2.1　学生理解 2
2.2　生活上のしつけ 4
2.3　教室管理 5
2.4　学生への連絡 5

３．行事における指導 5

４．事件・事故への対処 7
4.1　連絡を受けた場合の処置 7
4.2　事後の処置 7

５．ロングホームルームの指導 8
5.1　ＬＨＲの取り扱い 8
5.2　ＬＨＲのテーマ（活動の内容）について 8
5.3　ＬＨＲに対する担任の心構え 8
5.4　ＬＨＲの工夫 9
5.5　ＬＨＲのテーマの具体例 9
5.6　視聴覚教材 １０
5.7　進路資料室 １１

６．事務手続き １１
6.1　教務関係の「取扱い及び申し合わせ類集」より １１
6.2　「学生便覧」より １３
6.3　表彰に関する内規 １４
6.4　成績通知書 １４
6.5　指導要録 １４

７．職員相互の連絡 １５
7.1　教員との連絡 １５
7.2　事務職員との連絡 １５
7.3　副担任 １６

資料５－３－①－３（続き）

5　ロングホームルームの指導

ロングホームルーム（ＬＨＲ）は、第３学年まで週１時間が設定されている。

5.1　ＬＨＲの取り扱い

(1) 出席をとり、授業と同様に、出欠を教務システムに入力する。
(2) 欠課時数オーバーの規定はないが、ＬＨＲの欠席は、総欠課制限時数に含まれる。
(3) 成績評価はしないが、認定会議の際、総合的な判断材料として審議の対象となる。

5.2　ＬＨＲのテーマ（活動の内容）について

(1) 年間のＬＨＲの使用計画の立案を年度当初にするとよい。
(2) 年度始めの学級担任会議の際、教務委員会からＬＨＲの実施予定表が出され、それを参考に全校的なテーマ、学年のテーマ、各ＨＲ等の計画を設定する。
(3) 全校的なテーマは
　(a) 学級役員の選出等，学生課に書類として提出するもの。
　(b) 長期休業前の諸注意（学生委員会から資料が配布される）。
　(c) 校内体育大会や高専祭等学生会行事の選手や係を決める。
　(d) その他、ＬＨＲの時間帯を利用して校内大掃除、防火訓練等がある。
(4) 各ＨＲのテーマは、クラスが独自で使用するもので、学級担任講話、個人面談、長期休業の反省等、１年間を見通して必要なテーマを担任が設定する。
(5) ＬＨＲのテーマについては、「5.5 ＬＨＲのテーマの具体例」を参照のこと。なお、進路指導委員会企画による「進路学習」が予定されている週があるので留意する必要がある。

5.3　ＬＨＲに対する学級担任の心構え

(1) ＬＨＲを単なる連絡や諸注意だけで終わらせず、実りあるものにする工夫が大切である。
(2) 学生会行事に関わるものは、学級代表や行事委員会等学生を積極的に使って討論決定させることが必要である。
(3) 学級担任は、学生と積極的に接する機会を多く作り、特に１年生は、中学校と高専の学校の違いから生ずるギャップがあるため、きめ細かな人間味ある慎重な対応が望まれる。
(4) 高専は、学年制なのでクラスは学科が確定した４年間の期間殆ど変わらない。従って、クラスの融和や生活面でのけじめ、学習面での積極性を付けさせるとともに、ＬＨＲリーダーを育成していくという側面も考慮していきたい。

5.4　ＬＨＲの工夫

(1) テーマ別に学生の担当者を決めて学生を大いに使う。
(2) ＬＨＲ日誌などをつけさせ、大切に時間を使わせる。
(3) 学年で、又は、クラス共同で取り組む時間があってもよい。

資料５－３－①－３（続き）

5.4　ＬＨＲの工夫

（1）テーマ別に学生の担当者を決めて学生を大いに使う。
（2）ＬＨＲ日誌などをつけさせ、大切に時間を使わせる。
（3）学年で、又は、クラス共同で取り組む時間があってもよい。

5.5　ＬＨＲのテーマの具体例

（1）諸連絡・諸注意
（2）出欠確認と教室清掃
（3）個人面談
（a）成績、生活についての個人面談
（b）平素の学習・生活指導について
（4）座席替え
（5）学校行事・学生会行事についての討議
（a）学校祭について
（b）体育大会の選手選出
（c）校外ホームルームについて
（6）ビデオ視聴
（a）「喫煙と健康」等のビデオを視聴させる
（b）個人面談と平行してのビデオ視聴
（c）科学映画を見て、後で皆で感想を述べ合う
（7）アンケート調査
（a）意識調査
（b）学業、生活一般についての意識調査
（c）アルバイト、バイク、自動車等に関するもの。
（d）自己評価に関するもの
（8）作文を書かせる
（a）高専に入学して
（b）高専に来た理由
（c）高専の１年を振り返って
（d）２年生になって思うこと
（e）夏（冬）季休暇を終えて
（f）１年間の反省
（g）自分の将来について
（h）最近の時事問題からテーマを選んで
（9）討　論
（a）時に応じた問題（学校祭、体育大会、交通安全等）について
（b）学生会について

（c）校則について
（d）学習問題
（e）生活問題
（f）企業について
（g）教育問題、時事問題、サイエンストピックス等その時の話題について
（h）トピックスを中心にテーマを選んで

資料５－３－①－３（続き）

(10) 訓　話

(a) 学校生活のあり方について
(b) 学校で勉強することの意義について
(c) 勉強することの心構えについて
(d) 学習の方法について
(e) 生活のリズムについて
(f) 高専生としての行動について
(g) 問題行動について
(h) 長期休業中の生活指導、休みの過ごし方について
(i) 事件・事故後の指導・訓話
(j) 交通規則と生命の尊重
(k) 欠席防止、（体育館・寮での）土足禁止、アルバイト、服装問題、バイク、自動車等状況に応じた生活指導について
(l) 連帯意識について
(m) 健康管理について
(n) 奉仕活動について
(o) 見学旅行について
(p) 卒業後の進路について

(11) その他

(a) 授業の補講
(b) テスト返却
(c) 成績不振者に対する講義

5.6　視聴覚教材

ＨＲで活用できそうなビデオソフトが図書館等にあるので、借り出して利用するとよい。

(1)	「たばこは全身病」	20分　少年写真新聞社
(2)	「それでもタバコを吸いますか」	30分　一橋出版
(3)	「警告！からだをタバコが蝕む」	20分　ＮＨＫ
(4)	「警告！となりのタバコ」	20分　ＮＨＫ
(5)	「ミニバイクの事故」	30分　一橋出版
(6)	「命をまもる応急手当」	20分　小学館
(7)	「救急処置」	30分　一橋出版
(8)	「ある日の藤城さん親子－原子炉の暴走は防げるか－」	
(9)	「独創の回路」（1）～（5）	各45分
(10)	「ステンレス物語」	22分
(11)	「21世紀へのステンレス」	15分
(12)	「釧路湿原」	67分
(13)	「君の夢に翼を」豊橋技術科学大学紹介	30分

資料５－３－①－３（続き）

(14) 「今、主役たちが長岡に集う」長岡技術科学大学紹介	30分	
(15) 「面接試験－合格のために－」	30分	一橋出版
(16) チャレンジ『面接』	20分	雇用情報センター
(17) 職業を考える	37分	雇用情報センター
(18) ズバリ！受かる小論文の書き方　上・下	各40分	ごま書房
(19) 「クラブ活動の運営」	30分	一橋出版
(20) 「科学と人間」		
(21) 「ロボットと人間」（１）～（12）	各45分	
(22) 「地球の歩き方」（１）～（４）	各45分	
(23) 「面接の達人」　中谷彰宏監修	40分	
(24) 西村晃の「企業完全攻略ビデオ」電気・電子	60分	早稲田セミナー
(25) 西村晃の「企業完全攻略ビデオ」自動車・機械	60分	早稲田セミナー
(26) 西村晃の「企業完全攻略ビデオ」情報・通信	60分	早稲田セミナー
(27) 家庭・地域の防災対策	18分	地域科学研究会
(28) ＡＩＤＳ	21分	文部省選定
(29) エイズとともに　Ⅰ＆Ⅱ	国立大学保険管理施設協議会	
(30) .エイズ・ＨＩＶ感染症　Ⅰ＆Ⅱ	国立大学保険管理施設協議会	
(31) 百年を駆け抜けたクラーク魂　廣井勇	55分	札幌テレビ放送
(32) 彼方にはフロンティア　廣井勇	85分	札幌テレビ放送
(33) 「企業紹介」（各専門学科主任のところにある）		

5.7　進路資料室

１号棟３階に進路資料室があり、就職や進学などに関する各種資料が配置されている。

また、就職活動やインターンシップの際に参考となるビデオ教材も整備されているので、学生に対して積極的に利用するよう指導するとともに、場合によってはＬＨＲなどで活用するのも一つの方法である。

（出典　学級担任の手引き（抜粋））

資料５－３－①－４

教員会議　議事概要

日　時　　平成２１年　６月８日（月）　１６時３２分～１７時３７分
出席者　　６３名
欠席者　　１２名

(4)　教員連絡会のあり方について

校長から，教員連絡会のあり方について，５月２６日（火）開催の運営会議で検討した結果，各報告や説明に関し意見交換を要する場合は，連絡会は時間的制約があることから，必要に応じ教員会議を開催し対応することとし，連絡会は今年度については継続して実施し，その結果を踏まえ次年度以降の実施について改めて検討するという結論となった旨が報告された。

この件について意見交換が行われ，公的な連絡は，連絡会での連絡の有無にかかわらず電子メール等確実に伝達できる手段により行うこと及びやむを得ず連絡会へ出席できない教員がいることを踏まえ，項目等簡潔な方法により連絡会の内容を電子メールで周知することが確認された。

（出典　平成 21 年６月教員会議議事概要抜粋）

「教員連絡会の内容を伝える電子メール文」

（宛先：全教職員）
６月１３日（水）の教員連絡会での報告事項等をお知らせします。
日時　８時３０分～８時３４分
参加者　教員４４名　事務職員７名
【校長】
昨日、機械工学科、情報工学科と懇談会を行った。貴重な意見をいただき感謝したい。
【小田島図書館長】
本日、図書館朗読会が開催される。本日の読み手は２年電気工学科の山口あんりさん、学生課職員の檜垣さんとなっている。
【小杉学生主事補】
構内での自転車盗難件数が増えている。学生が鍵をかけていても持ち去られる事例があり、ワイヤー式は切られている。担任はＳＨＲで頑丈な鍵をかけて自己防衛をするよう学生に周知願いたい。
【野口研究企画主事】
水曜日の１６時３０分からは教育研究アワーとなっているので、なるべく研究を行っていただきたい。また、本日１６時３０分より小会議室で栗原先 生の研究会が開催されるので、興味のある方は参加願いたい。

（出典　総務課からの電子メール文）

資料５－３－①－５

一般教科の充実

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
・選択科目							
芸術(音楽)	2	2					いずれか一方を選択する。ただし建築学科は美術を選択する。
芸術(美術)	2	2					
保健･体育	2				2		4年次編入生のみ選択すること。
数学I	2				2		4年次編入生のみ選択すること。
数学II	2				2		
数学III	1				1		
物理II	1				1		
英語演習	2				2		
※日本文学A	1					1	前期開講
※日本文学B	1					1	後期開講
※歴史と文化IA	1					1	前期開講
※歴史と文化IB	1					1	後期開講
※歴史と文化IIA	1					1	前期開講
※歴史と文化IIB	1					1	後期開講
※哲学A	1					1	前期開講
※哲学B	1					1	後期開講
※社会科学入門A	1					1	前期開講
※社会科学入門B	1					1	後期開講
※心理学A	1					1	前期開講
※心理学B	1					1	後期開講
※環境学A	1					1	前期開講
※環境学B	1					1	後期開講
英会話	2				2		3･4年次のいずれか一方の学年で選択できる。
※英語コミュニケーションA	1					1	前期開講
※英語コミュニケーションB	1					1	後期開講
※中国文化A	1					1	前期開講
※中国文化B	1					1	後期開講
※韓国文化A	1					1	前期開講
※韓国文化B	1					1	後期開講
開設単位小計	36	4		(2)	(12)	20	
修得単位小計	6以上	2/			4以上		

（出典：平成22年度教育課程表（一般教育科抜粋））

資料５－３－①－６



（出典：入試企画室（高校説明会用パワーポイント））

資料５－３－①－７

課外活動指導に関する申し合わせ事項

（
昭和55年 3月19日　教官会議了承
平成 4年 6月22日　教官会議一部改正
平成11年12月 2日　学生委員会一部改正
平成13年 3月 5日　学生委員会一部改正
平成17年 6月 7日　学生委員会一部改正
平成19年 1月10日　学生委員会一部改正
平成23年 1月27日　教員会議一部改正
）

Ⅰ．課外活動に関する基本的考え方

課外活動は究極として自己の人間形成に資すべきもの，またそうでなければならない。

異なる環境に育ち異なる考え方を持つ者同士が，同じ目標に向かって活動する中で心身は鍛錬され集団意識は涵養され，正課教育では求められない人間形成の場が開けていく。

以上の基本的認識から課外活動も重要な教育活動の一環と考えるが，これは，正課教育に支障のない範囲にとどめるべきであり，そのための十分な配慮・指導が必要である。

実施に際しては，学生の自主的，自発的活動を主体に学校が指導，援助する。

Ⅱ．クラブ顧問の指導体制

１．顧問の選任について

(1) クラブの顧問は６０歳未満の全教員で当たることとする（６０歳以上の教員が自ら望んだ場合はその限りではない。）。

(2) 各クラブの顧問には原則として３名程度の教員がつき，互選により代表顧問を決める。

(3) 顧問の任期は原則として３年間とし，３年ごとに全体の見直しをかける。

(4) 顧問の決定については，あらかじめ全教員に第１～第３までの希望調査を行うとともに，学生からの要望を勘案し，それらに基づいて学生主事が調整する。

(5) 顧問の任命は，学生主事の上申した最終調整案に対する校長の決裁によりなされる。顧問名簿一覧表は，３月教員会議に提示される。

(6) 新たに設立した同好会については，学生主事が調整する。

(7) 新規採用の教員については，その都度学生主事が調整する。

２．指導内容，範囲について

(1) 顧問は，クラブ活動のスケジュールの把握，事故防止などについての一般的な指導を行う。

(2) 随時の見回り指導。

(3) 対外試合における引率。

※　技術指導を義務づけるものではない。

（出典　学内向けホームページ）

資料５－３－①－８

H24.5.7現在

平成２４年度　学生会・クラブ（部・同好会）顧問名簿

◎学生会関係

委員会・クラブ名	顧問
評議会	小杉　淳
執行委員会	大槻香子
監査委員会	
選挙管理委員会	
行事委員会	大石　玄
会計委員会	
新聞委員会	＊小田島本有
	片岡　務

◎文化系クラブ

写真部	＊片岡　務
	吉田　茂
吹奏楽部	戸谷伸之
	山田昌尚
	＊池田盛一
美術部	＊高橋　剛
	西澤岳夫
アマチュア無線部	＊成澤哲也
茶道部	＊中島陽子
	大槻香子
軽音楽部	＊加藤　隆

◎同好会

ドイツ語研究会	＊木村峰明
	藤本一司
ロボット研究会	＊荒井　誠
	梶原秀一
	千田和範
パークゴルフ同好会	＊三島利紀
基礎スキー同好会	＊坂口直志
マイコンカー同好会	＊坂口直志
将棋同好会	＊高橋　晃
書道同好会	＊舘下徹志
	大槻香子
ステップ同好会	＊片岡　務
総合デザイン研究会	＊西澤岳夫
	千葉忠弘
フットサル同好会	＊小谷泰介
トランポリン同好会	＊大槻典行
水泳同好会	＊片岡　務
アコースティックギター同好会	＊松崎俊明
総合運動同好会	＊佐々木　敦
科学ボランティア同好会	＊浦家淳博
プログラミング同好会	＊神谷昭基
ダーツ同好会	＊浅水　仁
宇宙科学技術研究会	＊小松正明
合唱同好会	＊片岡　務
極真空手同好会	＊小谷泰介
文芸同好会	＊小田島本有
ストリートパフォーマンス同好会	＊池田盛一
鉄道同好会	＊成澤哲也
演劇同好会	＊大石　玄

＊印は，代表顧問

◎体育系クラブ

委員会・クラブ名	顧問
陸上部	＊林　幸利
	梅津裕志
	中島陽子
男子バスケットボール部	＊大槻典行
	小田島本有
	中村　隆
女子バスケットボール部	＊舘岡正樹
	井上泰仁
	高橋　剛
	宮毛明子
男子バレーボール部	吉田　茂
	三島利紀
	西澤岳夫
	＊本田　匠
女子バレーボール部	＊三島利紀
	大槻香子
	野口孝文
ソフトテニス部	＊浦家淳博
	高橋　晃
	加藤雅也
卓球部	＊小杉　淳
	加藤岳人
	高　義礼
柔道部	＊鈴木俊哉
	天元　宏
	沼田　敦
剣道部	＊渡邊聖司
	山形文啓
	小松正明
バドミントン部	＊山崎俊博
	澤柳博文
	佐古彰史
	小谷泰介
野球部	＊千葉忠弘
	舘下徹志
	成澤哲也
	赤堀匡俊
	大石　玄
アーチェリー部	佐藤英樹
	＊佐々木　敦
	須田　潤
テニス部	＊松崎俊明
	松本和健
	佐藤彰治
	藤本一司
サッカー部	＊三森敏司
	石山俊彦
	坂口直志
	川村淳浩
	佐藤　哲
ハンドボール部	草苅敏夫
	＊鈴木邦康
	片岡　務
空手道部	＊高木敏幸
	浅水　仁
	栁川和徳
アイスホッケー部	＊舘岡正樹
	前田貴章
	本間宏利
	棗原浩平
自転車部	＊大貫和永
	林　裕樹
	土江田織枝

（出典　学内向けホームページ）

資料５－３－①－９

「課外活動の紹介が掲載されているWEBサイトの例」

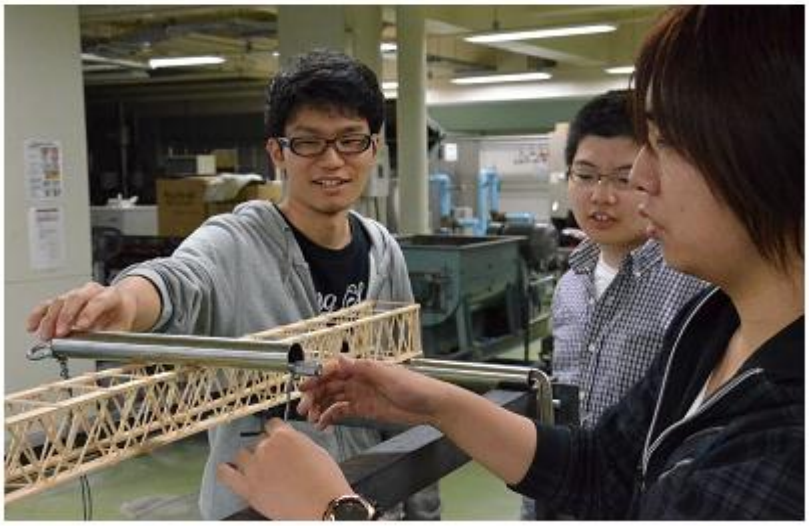
デザコンに向けて

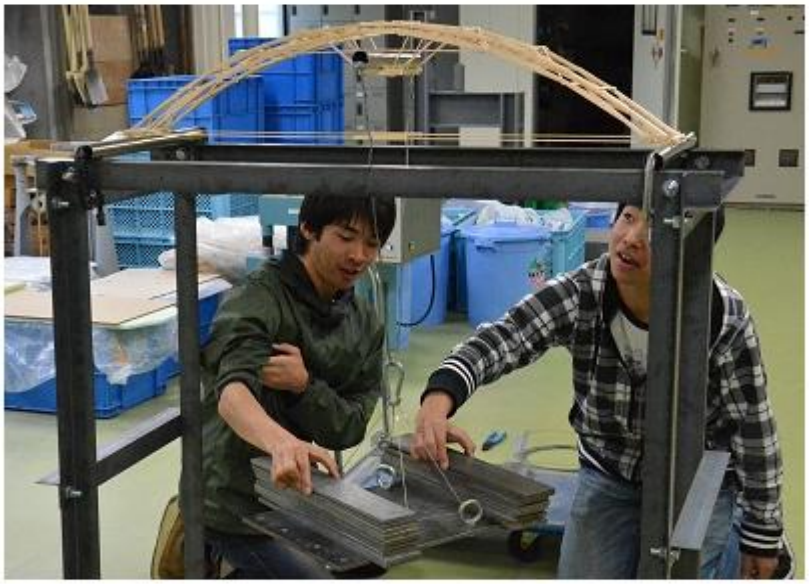
カテゴリ: 総合デザイン研究会　　掲載日時 : 2012-6-6 13:48

総合デザイン研究会では、デザコンの「構造部門」出場に向けて1mスパンの構造物を設計。

現在、檜棒を組み合わせて試作品を作成中です。細かい作業が続きますが、ものづくりが好きな人にはとても楽しいイベントです。学年に関係なく自由に意見交換ができる雰囲気なので、これからも力を合わせてより良い作品を目指して行きたいです。

デザコンの歴史は今年でまだ9回目ですが、各高専のレベルはとても高く、大会には考えつかないようなアイデアがたくさんあり、とても勉強になります。





資料５－３－①－９（続き）

スペーススクールレポート(その1)

カテゴリ: 宇宙科学研究会　　掲載日時 : 2012-5-26 17:47

今年の3月26日から3月29日、当時2年生だった機械工学科の布目君が、九州・鹿児島の種子島で開催された『第13回種子島スペーススクール2012』に行ってきました。以下、布目君のレポートです。

第13回種子島スペーススクール2012は、宇宙航空研究開発機構（JAXA）主催の全国の宇宙開発に興味のある高校生、高専生、大学生を対象とした4泊5日の研修キャンプです。今年は、北は北海道、南は種子島から41人の学生が集まりました。僕もその中の一人です。

なぜこのような全国的イベントに参加しようと思ったか？初めは、1枚のプリントから始まりました。今年の1月にクラブ指導の先生が『第13回種子島宇宙センター　スペーススクール2012　参加者募集のお知らせ』という印刷物を持ってきてくれました。期間は『3月26日～3月29日』となっており、「これに行けたら17年間で最高の誕生日プレゼントだ！」と初めに思ったのを未だに覚えております。募集人員は40名、応募用紙に氏名、年齢のほか自由記述の応募の理由を添えることとなっておりました。（その他にも応募の理由を重視しますと書いてありました）

「絶対に無理だ」と思っていました。テストも挟みますし、無事3年生になれる保証も100%では無かったし、何より今もそうですけれど本当にテキトーな人間ですから。それでも諦めきれなかったのか、2月13日必着のところ2月12日にFAXで送りました。本当に無謀なことをしました。（そういうところがテキトーなのです）

兎にも角にも2月20日の日に『合格連絡』が郵送されました。本当にうれしかったです。なぜなら、人に笑われるだけだった自分の、認められるはずのない自分の文章を、憧れのJAXAの職員の方がFAXで届けられた自分の文章を読んでくれました！それだけが本当にうれしかったです。ありがとうございます。（合格連絡の他に有人宇宙開発についての課題プリントも同封されておりました。）



資料５－３－①－９（続き）

釧路リーグ結果報告

カテゴリ：**卓球部**　　掲載日時 ： 2012-3-29 16:31

お久しぶりです.

もうすぐ4Dのふじくんです.

今回は25日に行われた釧路リーグの結果報告をしたいと思います.

我々卓球部は今月19日から合宿を始め,

テストと春休みでなまった体を目覚めさせ挑んだ今回の試合でしたが,

結果は

高専A(4部) 2勝2敗　→　うまく行けば昇格!?

高専B(8部) 2勝2敗　→　残留か・・・

高専C(10部)1勝3敗　→　降格・・・

というどのチームも後一押し足りない感じとなりました.

私個人としては可もなく不可もなくでしたが,

試合後の皆の表情からは,満足してない感がありありと窺えました.

うん,みんな向上心高いね…(@_@;)

あれ? ボクが低いだけ(￣ロ￣;)!?

確かに試合の内容は,決して悪いものではなかったので,

新学期からは,弱点の克服や,なにより試合に慣れることが大切だと思いました.

最後に,今回の大会のために集まってくれた寮生,先生方,そして元部長,本当にお疲れ様でした.

4月からまた，毎月のように試合がはじまります．新一年生の積極的な参加も期待しています．新年度からは卓球協会の斉藤先生が鬼のような指導をすると言っていましたので，春休み中は各自で体力作りに励みましょう



（出典　WEBサイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/　釧路高専ホームページ）

資料５－３－①－10

釧路工業高等専門学校

学生生活

有名な全国高専コンテストで実力を発揮

全国大会で優秀な成績を収めている高専コンテスト



高専ロボットコンテスト
全国大会出場回数 **全国最多**
地区大会優勝数　**全国最多**



プログラミングコンテスト
第20回全国大会 **3位**
第21回全国大会 出場
第22回全国大会 **4位**



デザインコンペティション
平成19年度全国大会 **構造部門特別賞「デザイン賞」**
平成23年度全国大会 **ものづくり部門特別賞「アイヌの楽器」**



3次元 CADコンテスト
平成20年度 第1回全国大会　優勝
平成22年度 第3回全国大会　第3位
平成23年度 第4回全国大会　優勝

釧路工業高等専門学校

学生生活

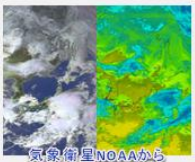
クラブ＆サークルも充実

さまざまなクラブが道内外で活躍

最近のトピックス

宇宙科学技術研究会
- 釧路高専 衛星電波地上局 -
米国気象衛星NOAAからの画像データ取得に成功
北海道新聞H23.5.23, H23.9.8掲載


気象衛星NOAAの電波を地上局で受信する同好会メンバー


気象衛星NOAAから取得した画像データ


釧路市関連機関へのNOAA地上局運用説明会

現在活動中の部活動・同好会　48種類
陸上部，サッカー部など体育系部活　18種類
吹奏楽部，茶道部など文科系部活　6種類
ロボット研究会など同好会　24種類

たとえばこんなクラブも活躍中
硬式テニス 第46回全国高専体育大会個人女子出場
硬式野球 第44回全国高専体育大会団体出場
陸上 第46回全国高専体育大会個人種目出場
バスケットボール 第46回全国高専体育大会団体出場
吹奏楽部 第53回北海道吹奏楽コンクール出場（通算13回目）



（出典：入試企画室（高校説明会用パワーポイント））

（分析結果とその根拠理由）

１～３学年においては，合計90単位時間のロングホームルームを実施しており，設置基準を満たしている。平成21年度からは毎朝8時30分に「教員連絡会」が開催され，教職員間で情報共有がなされ，8時40分からのショートホームルームでの学生指導に生かされている。

一般教育においては，低学年では本校独自の教育課程を編成し，高学年では選択科目群により，一般教養科目や英語・数学などの実力向上を目指す科目を配置している。

課外活動，学生会活動などの教育課程以外の活動に教員が関与することで，学生のチャレンジ精神の育成につなげている。

これらのことから，教育課程の編成において，一般教育の充実や特別活動の実施等により，また，教育の目的に照らして，課外活動等において，豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されている。

観点５－４－①：　成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，進級認定，卒業認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

成績評価，単位認定は学則において定められ（資料５－４－①－１），さらに詳細な取り扱いについては申し合わせが定められている（資料５－４－①－２）。科目ごとの成績評価基準はシラバスに示されている。学修単位については学則第14条２項に明記され（資料５－４－①－３），シラバスに成績評価方法が記載されており（資料５－４－①－４），これに従って成績評価が行われている。すべての科目について，年度当初に科目毎に説明がなされ，学生に周知されている。平成17年度からは，入学者の学力低下による原級留置者の増加に対する対策として，１～２年間での学生の努力によって修得できる「未修得進級制度」を導入した（資料５－４－①－５）。また，学期末試験直前には，補講期間を設け，規定時間数（履修単位において30時間）を確保するとともに，遅進学生のために学習強化を実施している（資料５－４－①－６）。また，各種検定試験，資格試験の合格者に対しては，関係が深い専門科目の単位として認められる特別学修の単位認定規則がある（資料５－４－①－７，８）。

学年末には個々の学生の単位修得状況を基に，教員会議において進級・卒業認定が行われる （資料５－４－①－９，10）。

本校では，やむを得ない事情により定期試験を受験できなかった学生に対する措置として追試験を定めており（資料５－４－①－１），追試験は定期試験と同等に扱い，成績評価するものとしている。シラバス記載の成績評価方法により不合格と評価された学生に対して行う定期試験外の試験を再試験と定めている（資料５－４－①－１）。再試験については，科目ごとに合否判定方法が定められ，学生に対して説明されており，それに従って実施されている（資料５－４－①－11）。

定期試験の答案返却は通常授業において行うこととしている。返却のための授業のない学年末においては，定期試験直後の１週間を答案返却期間と定め，年間行事予定に明記するとともに，事前にクラス掲示によって周知を図っている（資料５－４－①－12）。これにより，学生は科目ごとの評価について，異議申し立てを行うことのできる期間を確保している。

なお，進級認定会議資料は訪問調査において開示する。

資料５－４－①－１

○学業成績の試験・評価及び進級並びに卒業の認定に関する内規

（昭和40年10月１日釧高専規第３号）

改正　昭和44．２．７釧高専規第６号　昭和50．４．１釧高専規第８号
昭和57．11．19釧高専達第22号　平成元．６．27釧高専達第５号
平成３．３．29釧高専達第10号　平成５．３．18釧高専達第３号
平成６．３．17釧高専達第11号　平成10．２．16釧高専達第22号
平成13．３．16釧高専達第20号　平成14．２．18釧高専達第21号
平成16．４．１釧高専達第50号　平成17．３．17釧高専達第48号
平成18．３．27釧高専達第16号　平成20．４．２釧高専達第１号
平成22．２．26釧高専達第23号　平成22．３．26釧高専達第36号

第１章　総則

第１条　本校学生の学業成績の試験，評価の方法及び進級並びに卒業の認定について学則その他別に定めるもののほか，この内規の定めるところによる。

第２章　試験

第２条　試験は，定期試験，追試験，再試験及びその他の試験とする。

第３条　試験は，次のとおり実施する。

一　定期試験

(1)　前期中間試験

(2)　前期末試験

(3)　後期中間試験

(4)　学年末試験

二　追試験

病気，忌引その他やむを得ない事由により定期試験の一部又は全部を受験することができない場合には，原則として当該試験終了後１週間以内に追試験を行う。追試験を受けようとする者は，直ちに追試験受験願（医師の診断書等添付）（第１号様式）を学級担任教員及び科目担当教員を経て学生課修学支援係に提出するものとする。

三　再試験

(1)　学年成績が60点未満の科目及び出席が年間授業時数の５分の４に満たない科目が，下記の制限科目数以内の者に対し，再試験を実施する。

結果の処理はその年度内に終了する。

１年……４科目
２年……４科目
３年……４科目　　以内とする。
４年……５科目
５年……５科目

(2)　正当な理由がなく欠席の多い者は，再試験を受けることができない。

四　その他の試験

必要に応じて行う。

２　実験，実習又は演習など平素の学業成績により評価することができる科目については，前項の規定にかかわらず試験の一部又は全部を実施しないことがある。

第３章　成績の評価及び単位の認定

第４条　学業成績の評価は，次のとおりとする。

一　期末及び学年成績は，試験の成績及び出欠状況・学習態度を参しゃくして評価を行うものとする。

資料５－４－①－１（続き）

二　出席が年間授業時数の５分の４に満たない科目の評点は，60点未満とする。
三　成績の評価は次の方法による。
(1)　評価は、100点法により60点以上を合格とする。
(2)　評価の段階は，次の基準による。

評　点	評　語
90点以上	秀
90点未満～80点以上	優
80点未満～70点以上	良
70点未満～60点以上	可
60点未満	不可

四　再試験等の結果，合格した者の評点は60点とする。
五　第６条及び第７条の規定により単位の認定を受けた科目の学業成績の評語は，第３号の規定にかかわらず「認」とする。
２　学年成績を指導要録に登載する場合は，評点と評語を併用し，成績証明書を発行する場合は，評語を用いるものとする。
第５条　単位修得の認定は，学年成績が60点以上の科目について行うものとする。
第６条　学則第26条の２に規定する単位の認定については，本人からの申請に基づき，校長が認定する。
第７条　学則第28条の２に規定する文部科学大臣が定める学修（以下「特別学修」という。）に対応する本校の科目及び単位は，別表のとおりとする。
２　特別学修の単位の認定は，本人からの特別学修単位認定申請書（第２号様式）の提出に基づき，校長が認定する。
第４章　進級及び卒業の認定
第８条　当該学年課程の修了及び卒業の認定は，原則として教員会議の議を経て，校長が行う。
２　当該学年課程の修了及び卒業の認定にあたっては，次の各号の条件が全て満たされていなければならない。ただし，校長が特別の事情があると認めた場合は，この限りでない。
一　各科目の学年成績の評点が，60点以上である者
二　原則として年間出席すべき日数の５分の４以上出席した者
三　原則として各科目の年間授業時数の５分の４以上出席した者
３　不合格科目がある者に係る進級の取扱いについては，別に定める。
第９条　授業料その他納付金の未納又は学校備品等の未返還の者は，原則として進級及び卒業は認めない。
第10条　在学年数は，次のとおりとする。
一　同一学年に３か年在学することはできない。
二　全在学年数は，７か年を限度とする。ただし，休学期間は在学年数に通算しない。
２　特別の事情があると校長が認めた場合は，前項の規定にかかわらず引き続きその年数を延長することができる。
第５章　雑則
第11条　故意に試験を欠席したと認められる者，又は答案を提出しない者の試験評点は，零点とする。
第12条　試験について，不正行為を行なつた者は，当該試験以後の受験を停止させるとともに，当該期間中の全科目の評点を零点とし，懲戒を加えることがある。
第13条　前期及び学業成績は，学業成績通知書によつて，学生の父母に通知する。

（出典：学生便覧ｐ46）

資料５－４－①－２

◎　学業成績の試験，評価及び進級並びに卒業認定に関する内規の申し合わせ

（５．３.18 教官会議）　（改正　５．６.10 教務委員会）
（改正 10.12．３ 教務委員会）（改正 11．５．７ 教務委員会）
（改正 14．３．６ 教務委員会）
（改正 15．６．４ 教務委員会（平成15年4月1日から適用））
（改正 17．３．３ 教務委員会（平成17年4月1日から適用））
（改正 22．７．１ 教務委員会（平成22年4月1日から適用））

１．成績について

(1)　学年末の成績提出後，教員会議構成員による成績打ち合わせ（以下「成績打ち合わせ会議」という。）を行い，内容を検討し審議のうえ再試験該当者及び非該当者を発表する。

(2)　成績打ち合わせ会議は，再試験該当者以外の者についてのみ審議する。ただし、前期終了科目を含め、学年末成績の訂正については、当該科目のシラバス記載の成績評価方法に基づく評価一覧表を提出し、審議のうえ承認する。

(3)　成績打ち合わせ会議で審議の結果，上記(2)による評価訂正後もなお再試験非該当となる場合の措置については，校長が該当教員に席上で確認することとする。

(4)　成績打ち合わせ会議の資料は，クラス別成績一覧表等とする。

(5)　その実施の時期を問わず、再試験（これに類するものを含む。）の結果を評価に含めた場合の評点は６０点とする。

２．欠課について

(1)　欠課日数及び時数（以下「欠課時数等」という。）が年間授業日数及び時数の１／３（特別欠席を含む。）を超えた科目が１科目でもある場合は，理由のいかんにかかわらず進級の認定はできない。ただし集中講義を除く。

(2)　傷病等により長期間欠席した者で，欠課時数等が年間授業日数及び時数の１／３を超えた場合，教務委員会で真にやむを得ない理由であると判断した欠課時数等については，原則として補講等による出席時数の補填を行い，（3）の規定を適用する。

(3)　欠課時数等が年間授業日数及び時数の１／５（特別欠席を除く。）を超えた科目の評点は６０点未満とする。ただし長期にわたる病気等真にやむを得ない理由のある者については，教務委員会の審議を経て成績打ち合わせ会議に評価一覧表を提出し，承認を得たうえでシラバス記載の成績評価方法に基づく評点をつけることができる。なお，１／５を超えている科目であることの確認は，事前にWebの教務事務システムにより該当科目の担当教員がそれぞれ行う。

(4)　２の（１）に該当する者の処理は修学支援係で行い，成績打ち合わせ会議に報告する。

(5)　ロングホームルームの欠課時数は，教員会議（進級認定）に提出し認定する際の総合的な判断材料として審議の対象とする。

(6)　成績認定における出席時数は，年間３０週（講義日数）として扱うものとする。

（以下略）

（出典：教務関係申し合わせ類集）

資料５－４－①－３

「学修単位を示す資料」

○釧路工業高等専門学校学則

（昭和 40 年８月９日釧高専規第１号）

第１４条 各授業科目の単位数は，30 単位時間（１単位時間は標準 50 分とする。）の授業をもつて１単位とする。

２ 前項の規定にかかわらず，別に定める授業科目については，１単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，当該授業による教育効果，授業時間外に必要な学修等を考慮して，次の基準により単位数を計算することができる。

一　講義及び演習については，15 時間から 30 時間までの範囲の授業をもって１単位とする。

二　実験，実習及び実技については，30 時間から 45 時間までの範囲の授業をもって１単位とする。

３ 前項の規定により計算することのできる授業科目の単位数の合計は，60 単位を超えないものとする。

（略）

（出典　釧路高専学則抜粋）

資料５－４－①－４

「シラバスの例」

平成24年度

電子工学科			光エレクトロニクス				
学年	第5学年	担当教員名	中村隆				
単位数・期間		2単位	後期	週当りの開講回数	1回	選択	学修単位1
授業の目標と概要		光の基本的な性質を学び，代表的な光デバイスとして，レーザ，光ファイバ，フォトダイオードの原理を理解することを目的とする．テキスト及び配布資料に関する説明を中心に講義を行う．					
		釧路高専目標	D:100%		JABEE目標	d-2-a	
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		電磁気学の基本的な現象・公式などに関する知識を必要とする．電磁波工学Iの内容(マクスウェルの方程式，波動方程式，平面波)を理解してること． 授業ごとのまとめノートの提出，課題提出を義務付ける．					
到達目標		光の物理的性質を説明できる． 光を取り扱うための基本的な数式の計算ができ，数式の物理的な意味を理解する． レーザ，光ファイバ，フォトダイオードの基本原理を理解する．					
成績評価方法		合否判定：定期試験の平均が60点以上であること．ただし，上記の「まとめノート」および課題の未提出が全体の5分の1を超える場合は定期試験の点数によらず不合格とする． 最終評価：定期試験の平均[100%] 合否判定で「否」の者については，再試験を行う．再試験の点数が60点以上で合格とする．					
テキスト・参考書		教科書：光エレクトロニクスの基礎　桜庭一郎，高井信勝，三島瑛人　森北出版参考書：光エレクトロニクス入門　西原浩，裏升吾　コロナ社					
メッセージ		電子工学の分野においても「光」は重要な要素である．光は電磁波でありながら「電波」とは異なった振る舞いをし，当然取り扱いも異なる．これまで物理以外ではほとんど接することのなかった光の分野についての知識を吸収してほしい．					

授　業　内　容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
前期中間試験	
前期期末試験	
1. 光・電磁波の基礎　3回 2. 反射と透過　2回 3. 回折　2回	1. マクスウェルの方程式，波動方程式などの波動に関する基本式を説明できる． 2. 平面波の反射，透過に関する基本事項を説明できる． 3. 回折公式の意味を理解し，回折について説明できる．
後期中間試験	実施する
4. 干渉　2回 5. レーザ　2回 6. 光ファイバ　2回 7. フォトダイオード　2回	4. 平面波の干渉とコヒーレンスについて説明できる． 5. レーザの基本原理を説明できる． 6. 光ファイバの構造や特徴を説明できる． 7. フォトダイオードの動作原理を説明できる．
後期期末試験	実施する

Created at Sat Jun 23 14:29:30 JST 2012

（出典　WEB サイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/　釧路高専ホームページ）

資料５－４－①－５

「未修得進級制度申し合わせ」

◎ 未修得進級に関する申し合わせ

（17. 3. 3 教務委員会（平成17年4月1日から適用））

学業成績の試験、評価及び進級並びに卒業の認定に関する内規第７条第３項に規定する不合格科目がある者に係る進級については、次のとおり取り扱うものとする。

１．不合格科目数及び単位数の制限

進級認定会議における審議の結果、不合格となった科目の積算が２科目以内、かつ９単位以内の者については、3(2), (3)に該当する場合を除き、当該不合格となった科目を未修得のまま進級（以下「未修得進級」という。）させることができる。

２．未修得科目の修得

(1) 未修得進級した場合、単位未修得となった科目（以下「未修得科目」という。）を修得するためには、進級した年度に定期試験を受け合格しなければならない。

(2) 上記(1)の定期試験を受けてなお合格できない場合は、さらにその翌年度も定期試験を受け合格しなければならない。

(3) 未修得科目は２年以内に修得しなければならない。

(4) 未修得進級後の未修得科目の評価は、その年度の定期試験結果に基づいて行うこととし、再試験は行わない。

３．未修得進級に係る制限

(1) 第５学年への進級においては，未修得進級を認めない。

(2) 不合格科目の積算科目数又は積算単位数が１の制限を超えた場合は、未修得進級を認めない。

(3) 未修得科目に2(3)の制限を超えるものがある場合は未修得進級を認めない。

(4) 上記(1), (2)に該当しない場合であっても、不合格科目の性質や学習状況等を総合的に判断し、未修得進級を認めないことができる。

４．留年時の取扱い

(1) 留年した場合、その学年の科目は再履修であり、未修得科目扱いはしない。

(2) 留年した者に係る未修得進級については、留年後も引き続き１～３を適用する。

（以下略）

（出典　教務関係申し合わせ類集）

「前期補講期間時間割」

平成２３年度　９月補講期間時間割

		9月21日(水) 1	2	3	4	5	6	7	8	9月22日(木) 1	2	3	4	5	6	7	8
1	1	数学 池田		ものづくり基礎 （補講対象者のみ）													
	2																
	3	国語 加藤岳	数学 山崎														
	4	数学 山崎															
	5		数学 山崎	川村													
2	M									数学 山崎		工業力学 渡邊					
	E	数学 小谷															
	D											数学 池田					
	J			数学 池田						数学 池田							
	A													建築設計演習Ⅰ 佐藤彰			
3	M	材料力学Ⅰ 成澤		機械工学実習・実験Ⅱ 岩渕・荒井													
	E																
	D																
	J																
	A			建築CAD 西澤													

		9月21日(水) 1	2	3	4	5	6	7	8	9月22日(木) 1	2	3	4	5	6	7	8
4	M	前期期末試験															
	E																
	D																
	J																
	A																
5	M					材料力学Ⅲ 成澤		振動工学 成澤				(S) 応用数学Ⅱ					
	E		(S)発変電工学 佐川			(S)ソフトコンピューティング											
	D	オペレーティングシステム 山田		(S)日本文学A 加藤岳													
	J					神谷											
	A			(S)日本文学A 加藤岳		都市計画 千葉		(測量学) 加藤雅		(測量学) 加藤雅		澤柳					

情報処理センター1	情報処理実験室	建築CAD	電子工学応用実験室
情報処理センター2	情報基礎実験室	建築製図室	大講義室

資料５－４－①－６（続き）

「学年末補講時間割」

平成23年度　2月補講期間授業時間割（2/21－2/22）

		2月21日(火)									2月22日(水)								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1年	1組	技術者基礎									数学 池田		保健 三島		授業評価アンケート入力 池田		もものづくり基礎（補講対象者のみ）		
	2組			保健 三島		授業評価アンケート入力 小谷													
	3組										保健 三島		授業評価アンケート入力 松崎						
	4組			保健 舘岡		授業評価アンケート入力 沼田													
	5組	基礎・小松・山田・大貫・長藤											保健 舘岡		授業評価アンケート入力 舘岡		機械工学科製図室 川村		
2年	M	英語 林幸		授業評価アンケート入力 山崎							数学 宮毛		英語 林幸						
	E	授業評価アンケート入力 鈴木俊		数学 小谷		英語 林幸													
	D	創造工学 梶原・松本・戸谷		英語 林幸		数学 宮毛		授業評価アンケート入力 髙			修正箇所								
	J	現代社会 大石		授業評価アンケート入力 林裕		数学 池田		情報工学演習 柳川・中島											
	A			授業評価アンケート入力 加藤雅		情報処理演習 加藤雅・大槻香													
3年	M	メカトロニクスI 荒井		機械材料I 舟木		機械設計法 小杉					世界史 木村		機械材料I 舟木		機械材料I 舟木				
	E																		
	D			電気回路II 松本															
	J	電磁気学 神谷																	
	A										建築CAD 西澤・大槻香								
4年	M	流体工学I 小杉		法学 南須原															
	E	電気工学実験III 千田									電気工学実験III 千田								
	D										電磁気学II 松本								
	J			法学 南須原															
	A				マルチメディア実習 加藤岳	建築設計演習IV 千葉													
5年	M																		
	E	(S)電気法規・電気施設管理 佐川		(S)電気応用 佐川		(S)電気応用 佐川		(S)メカトロニクス			(S)電気エネルギーシステム工学				(S)社会科学入門 南須原				
	D					(S)半導体工学II 坂口									(S)電子材料II 坂口		(S)アルゴリズム 山田		
	J			(S)電気応用 佐川		(S)電気応用 佐川		梶原			小松				(S)社会科学入門 南須原				
	A										(S)コンクリート工学特論 三森				(S)社会科学入門 南須原				

（出典　学内向けホームページ））

資料５－４－①－７

◎ 特別学修の単位の認定について

（ 7.10. 9 教務委員会）
（21.11.16 教務委員会）

学業成績の試験、評価及び進級並びに卒業の認定に関する内規第７条に規定する特別学修の単位の認定については、下記により取り扱う。

１． 単位認定申請書が年度の途中において提出されたときは、直後の教務委員会での議を経て、校長が認定する。
２． 認定を受けた科目の期末及び学年末成績の評価は認定とし、成績計算から除外される。
３． 認定を受けた科目について、当該学生がその科目を履修中のときは履修取消願を提出させる。ただし、履修取消願提出後も受講を希望する場合は、担当教員の判断で聴講させることができる。

別表第１　　特　別　学　修

検　定　試　験	級	科　目　名	単位数	認定学年	該当学科
文部科学省認定 実用英語技能検定試験 文部科学省認定 工業英語能力検定試験	２級以上	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝＡ（選択） 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝＢ（選択）	２（各１）	５学年	一般科目（各学科共通）
文部科学省認定 ラジオ・音響技能検定試験	２級	通信工学（選択）	２	５学年	電気工学科
		電子機器（選択）	２	５学年	電子工学科
		電気応用（選択）	２	５学年	情報工学科
文部科学省認定 ディジタル技術検定試験	２級情報 ２級制御	メカトロニクス（選択）	２	５学年	電子工学科

別表第２

科目名	単位数	学年	学科
学外実習Ⅰ	１	４学年 ５学年	各学科共通
学外実習Ⅱ	２	４学年 ５学年	各学科共通

（出典：平成21年11月　教務委員会議事録抜粋）

資料５－４－①－８

（例）特別学修単位の認定

学年 学科	氏　名	検定試験名	合格年月日 （証明年月日）	単位認定科目	認定単位数
5D	[redacted]	ディジタル技術検定試験2級 （情報部門）	平成22年11月28日	メカトロニクス	2単位
5D		ラジオ・音響（オーディオ） 技能検定試験2級	平成23年11月13日	電子機器	2単位
5D		ディジタル技術検定試験2級 （情報部門）	平成23年6月26日	メカトロニクス	2単位
5D		ディジタル技術検定試験2級 （情報部門）	平成23年6月26日	メカトロニクス	2単位
5D		ディジタル技術検定試験2級 （情報部門）	平成22年11月28日	メカトロニクス	2単位
5D		ラジオ・音響（オーディオ） 技能検定試験2級	平成23年11月13日	電子機器	2単位
5D		ラジオ・音響（オーディオ） 技能検定試験2級	平成23年11月13日	電子機器	2単位
5D		ディジタル技術検定試験2級 （情報部門）	平成23年6月26日	メカトロニクス	2単位

（出典：平成23年11月　教務委員会議事録抜粋）

資料５－４－①－９

教員会議（進級認定）議事録

日　時：平成 24 年３月 22 日（木）15：50～17：15
場　所：会議室
出席者：６６名　　欠席者：８名

議事に先立ち，修学支援係長から配布資料の確認があった。

・資料１　再試験非該当者一覧
・資料２　平成２３年度未修得進級者成績一覧表
・資料３　再試験結果欠点者一覧
・資料４　修了退学願提出者一覧について
・資料５　復学・退学・休学予定者一覧
・資料６　学業成績証明書（専攻科第１学年）
・平成 23 年度　２段階学科選択制度 第４回アンケート調査結果について
※ 以下は，数人に一部で机上配付の参考資料
・Ｂ４判　（参考資料）認定会議用成績一覧表

引き続き修学支援係長から，以下のとおり説明があった。

・本日の資料は，評価一覧表の提出期限である３月 19 日（月）17 時までに提出された評価を基に作成している。
・本日配付の資料６および参考資料（Ｂ４判）については本会議終了後，回収する。
・資料の訂正について，以下のとおり。
　－　資料３（２ページ）再試験の結果合格となっていたため削除する。
　－　資料３（７ページ）再試験の結果合格となっていたため削除する。
　　４Ｊ：[redacted]「電磁気学」
　－　資料３（２ページ）休学のため削除する。
　　[redacted]

また，審議に入る前に，校長から，評価訂正の確認をする旨が述べられ，資料３に該当する者のうち，資料３に関して評価一覧表提出期限後の評価について，担当教員から訂正が行われた。

審議事項

１．再試験非該当者について
校長から，資料１の学生のうち，退学希望者以外は原級となる旨の説明の後，４年

資料５－４－①－９（続き）

電気の学級担任から，[redacted]の５名も退学希望である旨の説明があった。

引き続き，校長から，資料１の学生 55 名のうち，退学希望者 32 名を除く 23 名の原級について提案があり，審議の結果，了承された。

なお，修了退学希望者については，議題４での審議となる旨の補足説明があった。

２．未修得科目の認定について

校長から，平成 23 年度未修得進級者の成績について，資料２のとおりである旨の説明があり，審議の結果，合否の確認がなされた。

３．再試験結果欠点者について

校長から，本議題について教務主事から説明願う旨の依頼があり，教務主事から以下のとおり説明があった。

・資料３に基づき，60 点未満の科目のある者について審議し，未修得進級または原級を決定する。
・議題２の「未修得科目の認定について」で合否判定の結果「否」となった者については，本議題における再試験欠点科目と未修得進級科目により，進級または原級を判定することとなる。

校長から，各学科と一般教育科担当との間で，既に事前打合せは行われていることから，１年生はクラス担任から，２～４年生は各学科長から，「未修得進級」か「原級」について報告願いたい旨が述べられ，未修得進級 47 名，原級 24 名が，審議の結果，了承された。

なお，学科長からの報告の際，資料５に載っていない以下の５名の学生について退学希望である旨の説明があった。

[redacted]

４．修了退学について

校長から，本議題について教務主事から説明願う旨の依頼があり，教務主事から以下のとおり説明があった。

・申し合わせに該当している者について，審議のうえ，全て 60 点にして修了退学を認める。
・修了退学願を提出できる条件については，1/3 欠課オーバーの科目が無い者及び 1/5 欠課オーバーの科目が１～３年は４科目以内であること。
・欠点科目が，１年は９科目以内，２～３年は 10 科目以内であること。
・議題３で報告のあった２ J[redacted]を含め，資料４の学生については，全員が修

資料５－４－①－９（続き）

了退学要件を満たしている。

引き続き教務主事から，特に異議がなければ，該当学生 26 名の欠点科目をすべて 60 点にして，「修了退学」とすることについて提案があり，審議の結果，了承された。

５．復学・退学・休学について

校長から，本議題について教務主事から説明願う旨の依頼があり，教務主事から資料５について以下のとおり説明があった。

なお，当該学生の指導担当教員から，電子情報システム工学専攻[redacted]についても退学希望である旨の報告があった。

・復学については，３月定例教務委員会において，審議・了承されている。
・退学願提出者について，本会議での報告も併せて本科 49 名，専攻科２名となる。
・１年１組[redacted]については，欠点科目がないため，議題４には該当しなかった。
・退学にあたっては，授業料の納入が条件であり，今年度は３月 30 日（金）までに納入が確認されなければ除籍となる。その際は，学生への対応等で学級担任にもご協力いただく場合がある。

引き続き教務主事から，資料５および本会議で報告のあった学生の退学および休学について確認が行われ，審議の結果，了承された。

６．専攻科第１学年の単位認定について

校長から，本議題について専攻科長から説明願う旨の依頼があり，専攻科長から以下のとおり説明があった。

・専攻科第１学年の平成 23 年度の成績は，資料６のとおりである。
・進学および就職の際の証明となるので，確認願いたい。

引き続き教務主事から，本席上で確認できない場合は，会議終了後，修学支援係に直接問い合わせ願いたい旨の補足説明があった。

校長から，これまでの説明内容についての確認がなされ，審議の結果，了承された。

７．その他

・校長から，原級となった学生がいる現担任に対して，以下のとおり要請があった。
－　原級となった学生に対して，学業の継続について指導願いたい。
－　４月に入ってから退学するというようなことがないよう指導願いたい。
－　新担任への引き継ぎを充分に行ってほしい。

（出典　平成２４年３月　教員会議議事録）

資料５－４－①－10

教員会議（卒業・修了認定）議事録

日　時：平成 24 年３月８日（木）15：02～15：24
場　所：会議室
出席者：69 名　　欠席者：６名

議事に先立ち，修学支援係長から配布資料の確認があった。

・資料１　平成 23 年度 専攻科修了判定一覧（案）
・資料２　欠点学生一覧・総欠課制限時数超過学生一覧
・参考資料　１／５欠課超過学生の成績一覧
※ 以下は，数人に一部で机上配付
・Ｂ４判　５年生の「第９回（2/29）欠課時数集計表」
・Ｂ４判　５年生の「認定会議用成績一覧表」
・Ｂ４判　専攻科の「学業成績証明書の写し」

引き続き修学支援係長から，以下のとおり説明があった。

・本科卒業及び専攻科修了対象者に係る本日の資料は，教務システム入力期限の３月５日（金）15 時までに入力された成績評価を基に作成している。
・本日配付の全ての資料については，会議終了後，回収する。

審議事項

１．専攻科修了認定について

審議に先立ち校長から，今年度の修了予定者に係る単位修得状況については，資料１のとおりであるが，評価訂正の有無について，出席教員に対し確認が行われた。

これに対し，訂正の申し出はなかったため，引き続き専攻科長から，資料１に基づき，次のとおり説明があった。

・平成 19 年度入学生２名，平成 22 年度入学生 38 名，計 40 名のうち，建設・生産システム工学専攻 12 名および電子情報システム工学専攻 23 名が修了要件を満たしている。
・一方で，建設・生産システム工学専攻１名および電子情報システム工学専攻４名が，修了要件を満たしていない。

これを受け，校長から，本案をもって 35 名を修了認定したい旨発言があり，審議の結果，了承された。

なお，修了認定されなかった５名の学生について，今後の進路等に係る状況の確認が求められ，所属する学科長から各々様子が報告された。

資料５－４－①－10（続き）

２．本科卒業認定について

審議に先立ち校長から，評価訂正の有無について，出席教員に対し確認が行われ，神谷教員から，資料２「欠点学生一覧」のうち，[redacted]の情報論について，33 点を 60 点に訂正する旨の発言があった。

(1)　欠点学生について

教務主事から，資料２に基づき，次のとおり説明があった。

・只今の評価訂正に伴い，[redacted]は，卒業対象者となった。

(2)　総欠課制限時数超過学生について

教務主事から，本件に係る学生については３月定例教務委員会において，正当な理由の有無について審議がなされ，「正当な理由なし」として了承されている旨の報告があった。

引き続き教務主事から，参考資料に基づき，１／５欠課超過学生については，超過科目数が５科目以内であることから，既に各教科担当教員において再試該当者として取扱い，その結果の評価訂正を反映したものである旨の説明があった。

(3)　卒業認定について

校長から，以下のとおり説明があった。

・本科卒業予定者に係る卒業認定資料については，「認定会議用成績一覧表」および「欠課時数集計表」のとおりとなっている。

・以上から，卒業要件を満たした卒業対象者は，機械工学科 27 名，電気工学科 29 名，電子工学科 33 名，情報工学科 34 名，建築学科は[redacted]を除く 34 名，計 157 名となる。

・うち，授業料未納者が１名おり，年度内の授業料納入が条件となる。

これを受け，校長から，本案をもって 157 名を卒業認定したい旨発言があり，審議の結果，了承された。

なお，卒業認定されなかった１名の学生について，今後の進路等に係る状況の確認が求められ，所属する学科長から様子が報告された。

また，教務主事から，授業料納入に関して条件付きの卒業認定となった学生について，以下のとおり補足説明があった。

・卒業式前日までに授業料納入が確認された場合は，式典へは出席できることとするが，プログラム等には掲載されない。また，卒業証書番号は，学科毎の連番にはならない。

・卒業式前日までに確認されなければ，式典へは出席させることはできない。

・年度末までに納入が確認された場合は，卒業証書を渡すことができる。

・年度末までに納入されなかった場合は，除籍となる。

・督促については，経理で行っているが，卒業式等に関する学生への指導は，教員が行うこととなるので，以上のことをご承知おき願いたい。

（出典：平成２４年３月　教員会議議事録）

資料５－４－①－11

「シラバスの例」

平成24年度

情報工学科			ソフトコンピューティング				
学年	第5学年	担当教員名	神谷昭基				
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	1回	選択	学修単位1
授業の目標と概要		ソフトコンピューティングは人工知能の学問分野で、不確実性が伴われる現実問題への対処として実用的な計算手法の提供を目指す技術分野である。この科目では、(1)あいまいな知識を扱い、それに基づいた推論を行うファジィ理論、(2)脳の持つすぐれた情報処理能力の人工的な実現を目指し、パターン認識などに応用されるニューラルネットワーク、及び(3)生物の進化過程を模擬し、最適化問題を解く遺伝的なアルゴリズムを中心に講義し、その基本技術を修得することを期待する。					
		釧路高専目標	D:100%		JABEE目標	d-2-a	
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		本授業に必要な基礎知識は集合・論理演算、微分積分、確率と基礎なプログラミング技術である。数学の不明点の場合、これまで勉強した数学の教科書や参考書を復習することが重要である。理解を深めるため、合計約15 回の演習レポートを宿題として与えられる。					
到達目標		ファジィ論理やファジィ推論の基礎知識を理解し、それをあいまい性を含んだ制御や推論問題に応用できる能力、ニューラルネットワークと遺伝的なアルゴリズムの基礎知識を理解し、それをパターン認識と最適化問題に応用できる能力を学習できたことを目標とする。					
成績評価方法		最終成績＝定期試験100 点＋レポート10 点 1)定期試験60 点未満ではレポートを最終成績に加減算せず不合格点とする。 2)定期試験60 点以上ではレポートによる加減算は60 点以上100 点以下とする。 3)レポート100 点の場合、最終成績+10 点で加点し、0 点の場合、-10 点で減点する。 再試験の場合、その合否判定条件は定期試験と同様とするが、最終成績の最高点は60点とする。					
テキスト・参考書		教科書：ソフトコンピューティング入門 田中雅博著 科学技術出版 参考書：ファジィシステム、広田薫（著）,計測自動制御学会 参考書：ファジィ技術の実用化応用、広田薫（編著）、シュプリンガ・フェアラーク東京 参考書：パソコンで学ぶ遺伝的アルゴリズムの基礎と応用、石田良平、他（著）、森北出版					
メッセージ		1)ノートを必ず取ること。 2)課題は必ず理解し、日限までに提出すること。 3)教科書・ノート・課題を必ず勉強すること 4)勉強をしても不明点は教員室まで聞きに来ること。					

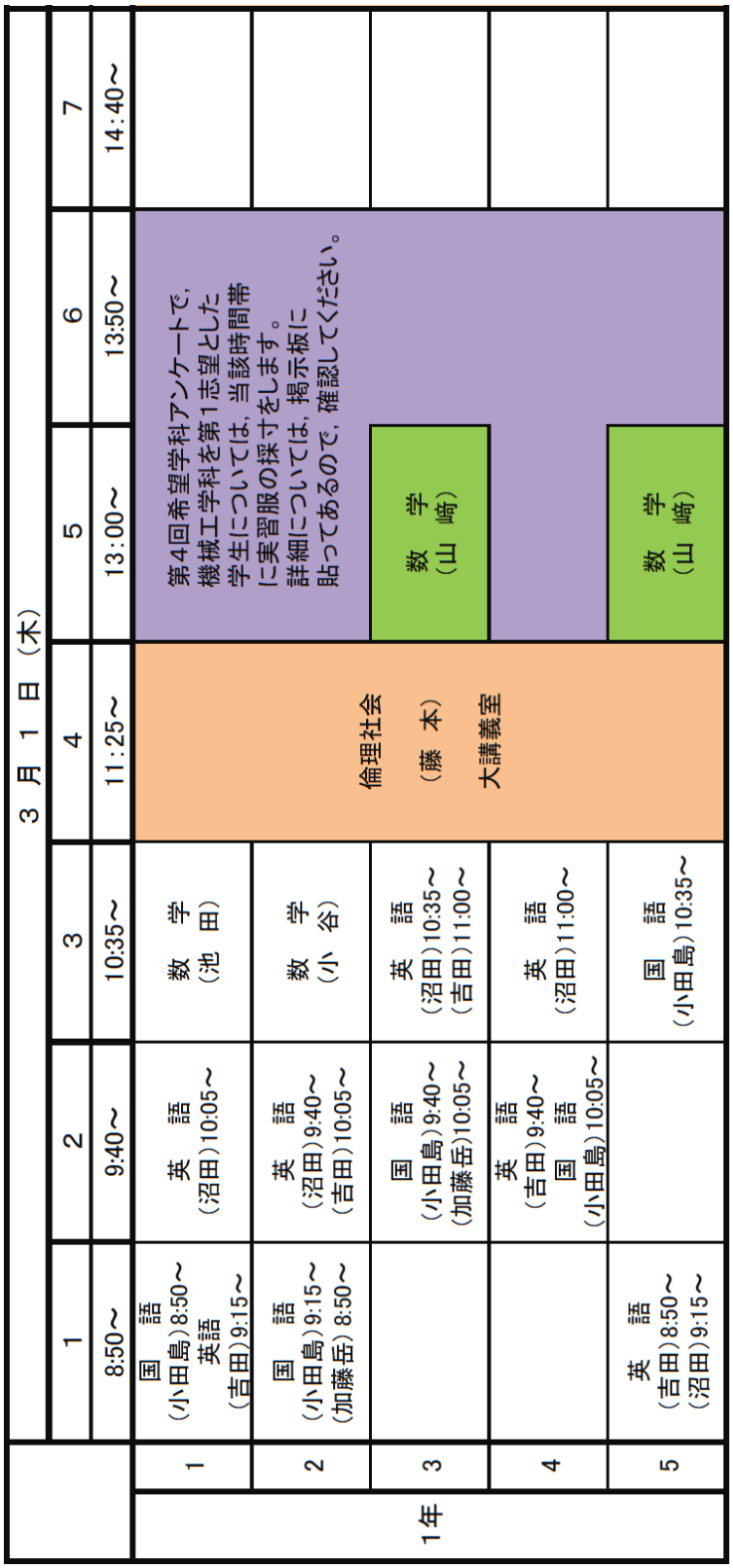
授業内容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
1)ガイダンス、シラバス、ソフトコンピューティングの概要(1 回) 2)ファジィ集合(1 回) 3)ファジィ数の演算(1 回) 4)ファジィ推論(1 回) 5)ファジィ関係と合成(1 回) 6)ファジィ制御(1 回) 7)ファジィ制御プログラム実習(1 回)	1)ソフトコンピューティングの概要を理解できる。 2)ファジィ集合のあいまいさ表現を理解できる。 3)ファジィ数の計算ができる。 4)あいまいさを含んだ推論の概念を理解できる。 5)ファジィ関係と合成を理解できる。 6)ファジィ制御モデルの計算ができる。 7)ファジィ制御プログラムを理解、実行、評価できる。。
前期中間試験	実施する
1)階層型ニューラルネットワーク(1 回) 2)誤差逆伝搬法(1 回) 3)誤差逆伝搬法によるパターン認識実習(1 回) 4)遺伝的なアルゴリズムの概念(1 回) 5)組み合わせ最適化(1 回) 6)スキーマ定理(1 回) 7)単純遺伝的なアルゴリズムによる関数最適化実習(1 回)	1)ニューラルネットワークの概要を理解できる。 2)誤差逆伝搬法による学習アルゴリズムを理解できる。 3)誤差逆伝搬法によるパターン認識プログラムを理解、実行、評価できる。 4)遺伝的なアルゴリズムの概念を理解できる。 5)組み合わせ最適化の概念を理解できる。 6)スキーマ定理の導出とその意味をできる。 7)単純遺伝的なアルゴリズムによる関数最適化プログラムを理解、実行、評価できる。
前期期末試験	実施する
後期中間試験	
後期期末試験	

Created at Sat Jun 23 15:35:37 JST 2012

（出典　WEB サイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/　釧路高専ホームページ）

資料５－４－①－12

「答案返却期間日程通知」　（抜粋）



		３月１日（木）						
		1	2	3	4	5	6	7
		8:50～	9:40～	10:35～	11:25～	13:00～	13:50～	14:40～
1年	1	国　語 （小田島）8:50～ 英語 （吉田）9:15～	英　語 （沼田）10:05～	数　学 （池　田）	倫理社会 （藤　本） 大講義室		第４回希望学科アンケートで，機械工学科を第１志望とした学生については，当該時間帯に実習服の採寸をします。 詳細については，掲示板に貼ってあるので，確認してください。	
	2	国　語 （小田島）9:15～ （加藤岳）8:50～	英　語 （沼田）9:40～ （吉田）10:05～	数　学 （小　谷）		数　学 （山　崎）		
	3		国　語 （小田島）9:40～ （加藤岳）10:05～	英　語 （沼田）10:35～ （吉田）11:00～				
	4		英　語 （吉田）9:40～ 国　語 （小田島）10:05～	英　語 （沼田）11:00～				
	5	英　語 （吉田）8:50～ （沼田）9:15～		国　語 （小田島）10:35～		数　学 （山　崎）		

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

成績評価，単位認定，追試験，再試験は学則において定められ，さらに申し合わせが定められている。科目ごとの成績評価基準はシラバスに示されている。学修単位については，学則に明記され，シラバスに成績評価方法が記載されており，これに従って成績評価が行われている。また，各種検定試験，資格試験の合格者に対しては，特別学修の単位認定規則がある。学年末には個々の学生の単位修得状況を基に教員会議において進級・卒業認定が行われる。

定期試験の答案返却は通常授業において行い，返却のための授業のない学年末においては，試験直後の１週間を答案返却期間と定めている。これにより，学生は科目ごとの評価について，異議申し立てを行うことのできる期間を確保している。

これらのことから，成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され，学生に周知され，また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，進級認定，卒業認定が適切に実施されている。

＜専攻科課程＞

観点５－５－①：　教育の目的に照らして，準学士課程の教育との連携，及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。

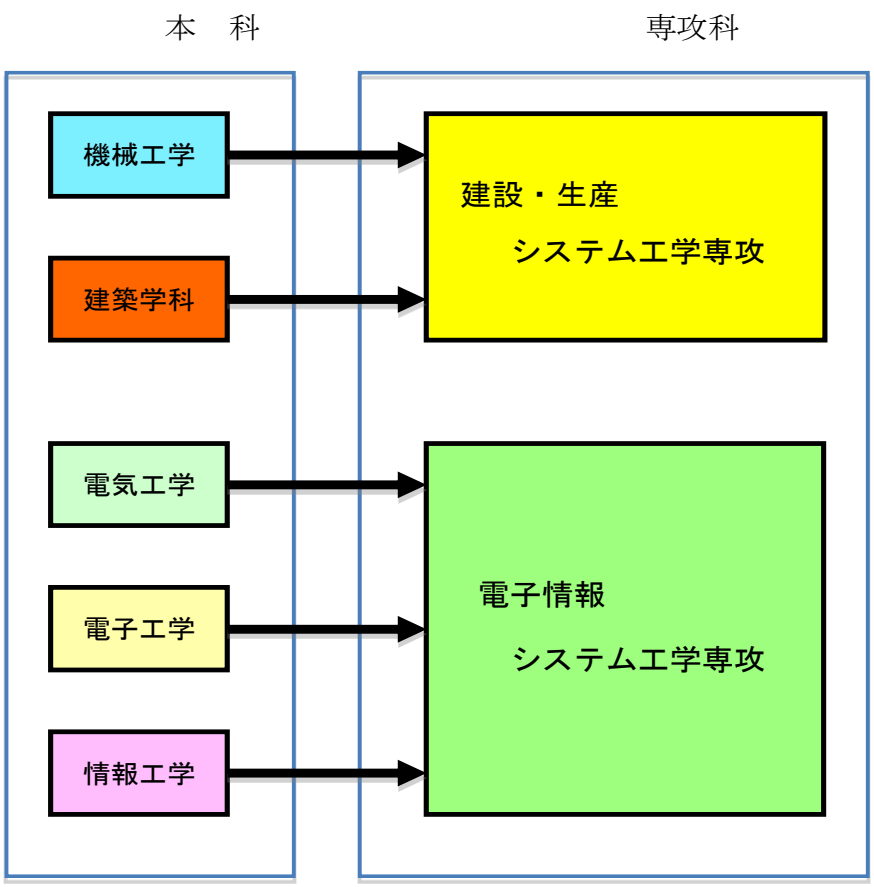
（観点に係る状況）

本校の専攻科は，「高等専門学校における教育の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し，その研究を指導し，もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的」として設置されており，資料５－５－①－１に示すように準学士課程からの連続性を考慮した専攻構成としている。

それぞれの専攻の教育課程は，基礎となる準学士課程５学科それぞれの教育から専門性を活かした専攻科の教育課程に連携，および準学士課程からの発展を考慮しており，資料５－５－①－２に科目関連図を示す。また，シラバスに前後関連科目に関する事項が明記されており，準学士課程の教育との連携が明確に示されている（資料５－５－①－３，４）。

資料５－５－①－１

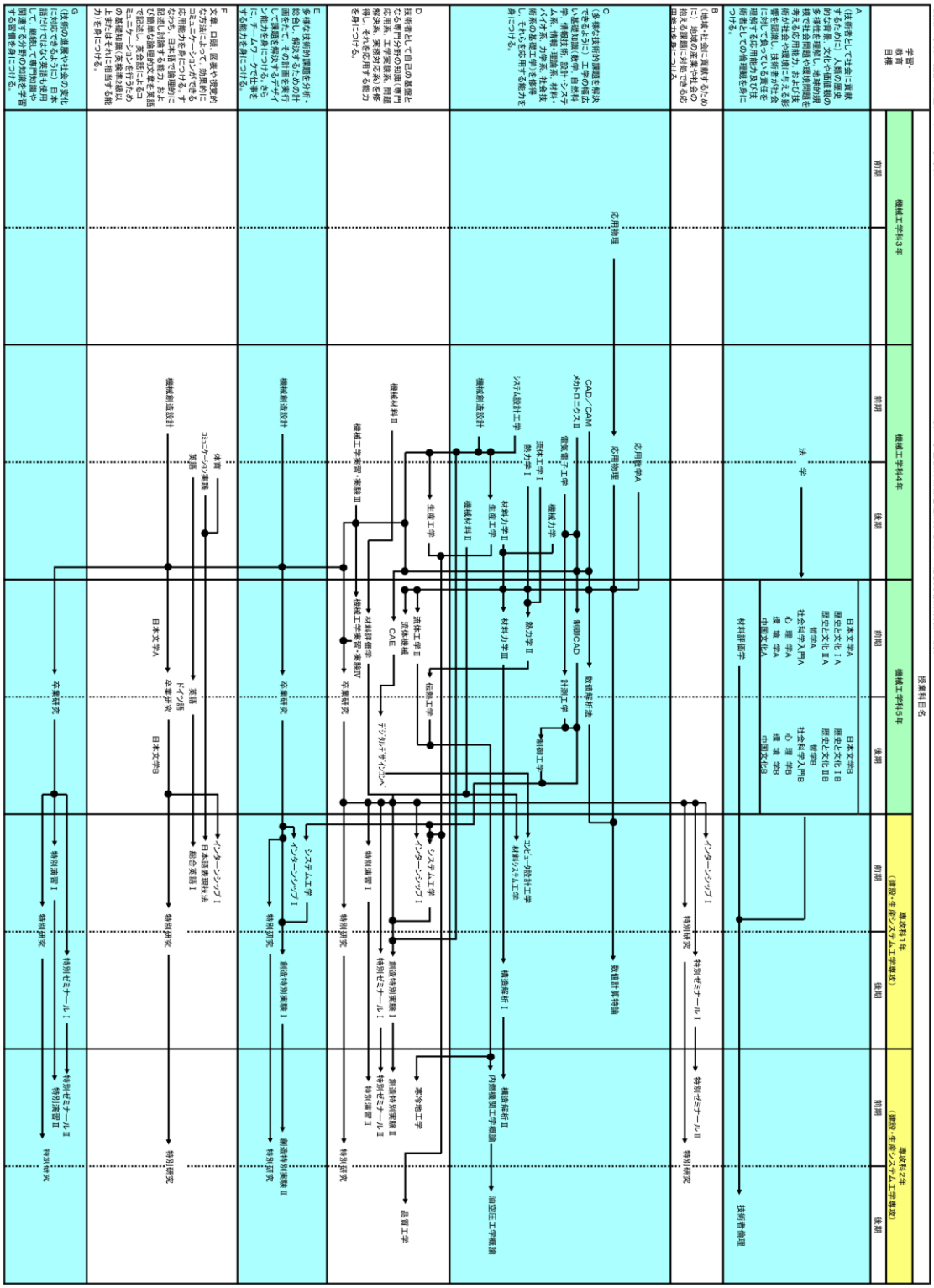
「学科・専攻科関連図」



（出典　自己評価書作成のための資料）

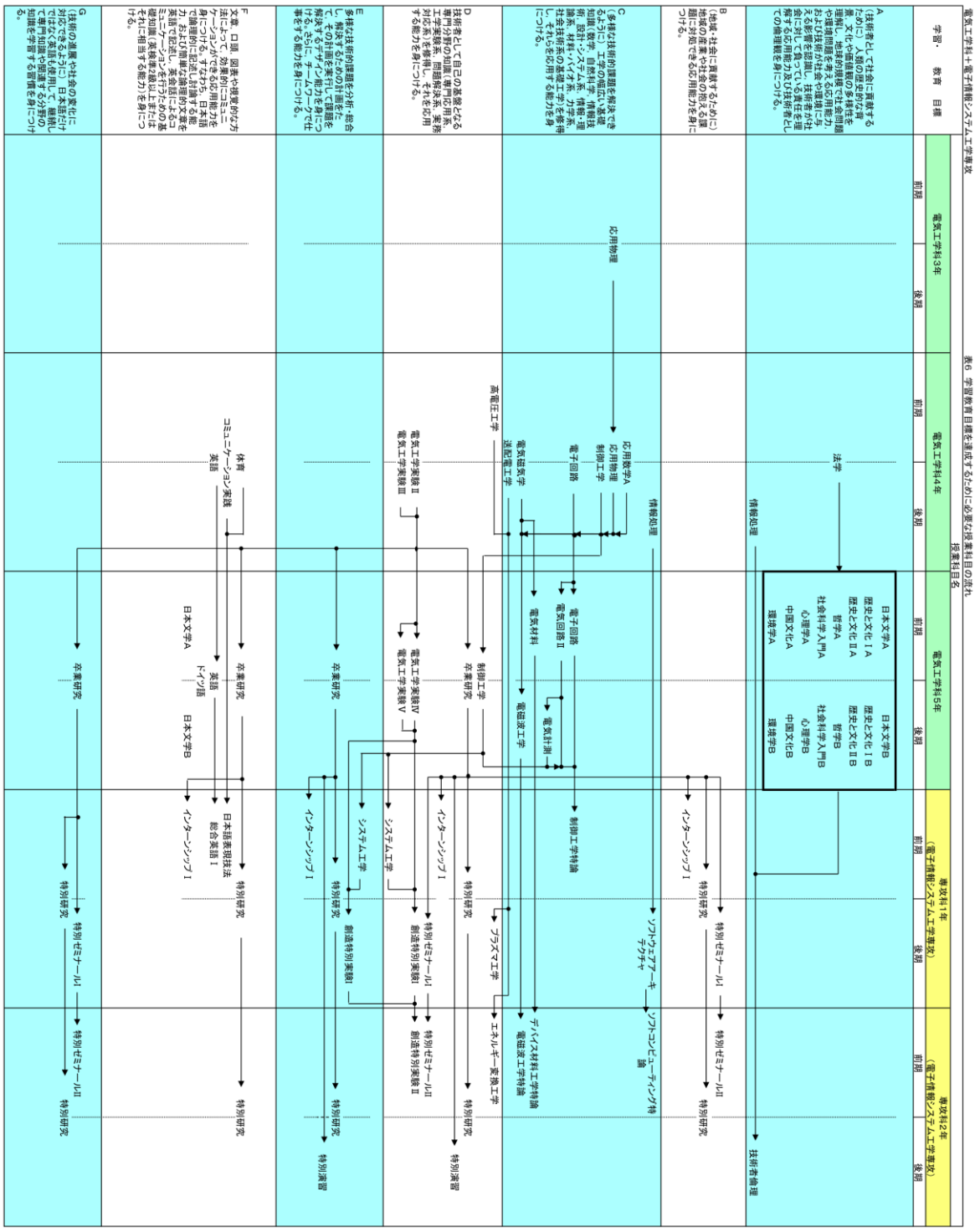
資料５－５－①－２

「科目関連図（機械工学科＋建設・生産システム工学専攻）」



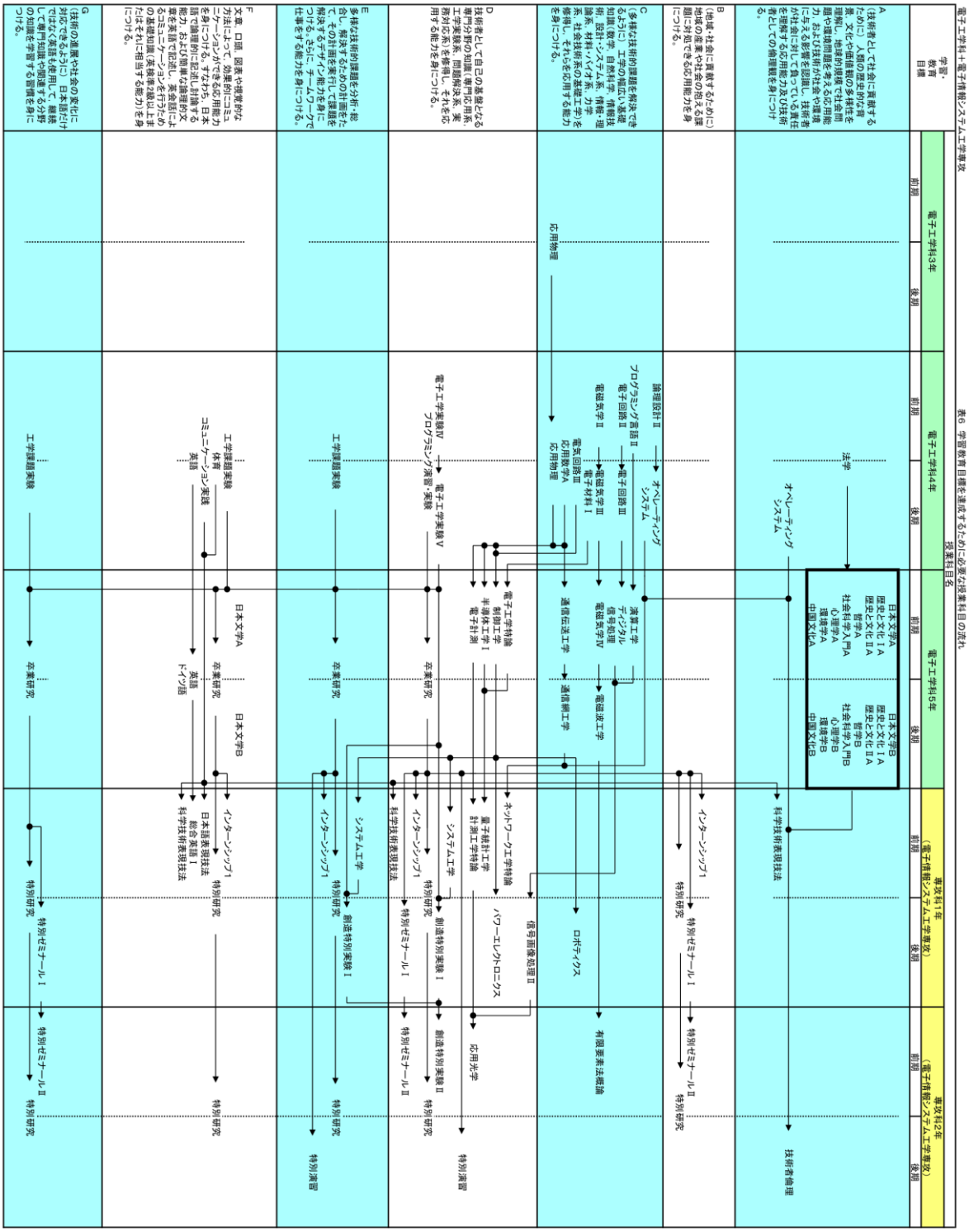
資料５－５－①－２（続き）

「科目関連図（電気工学科＋電子情報システム工学専攻）」



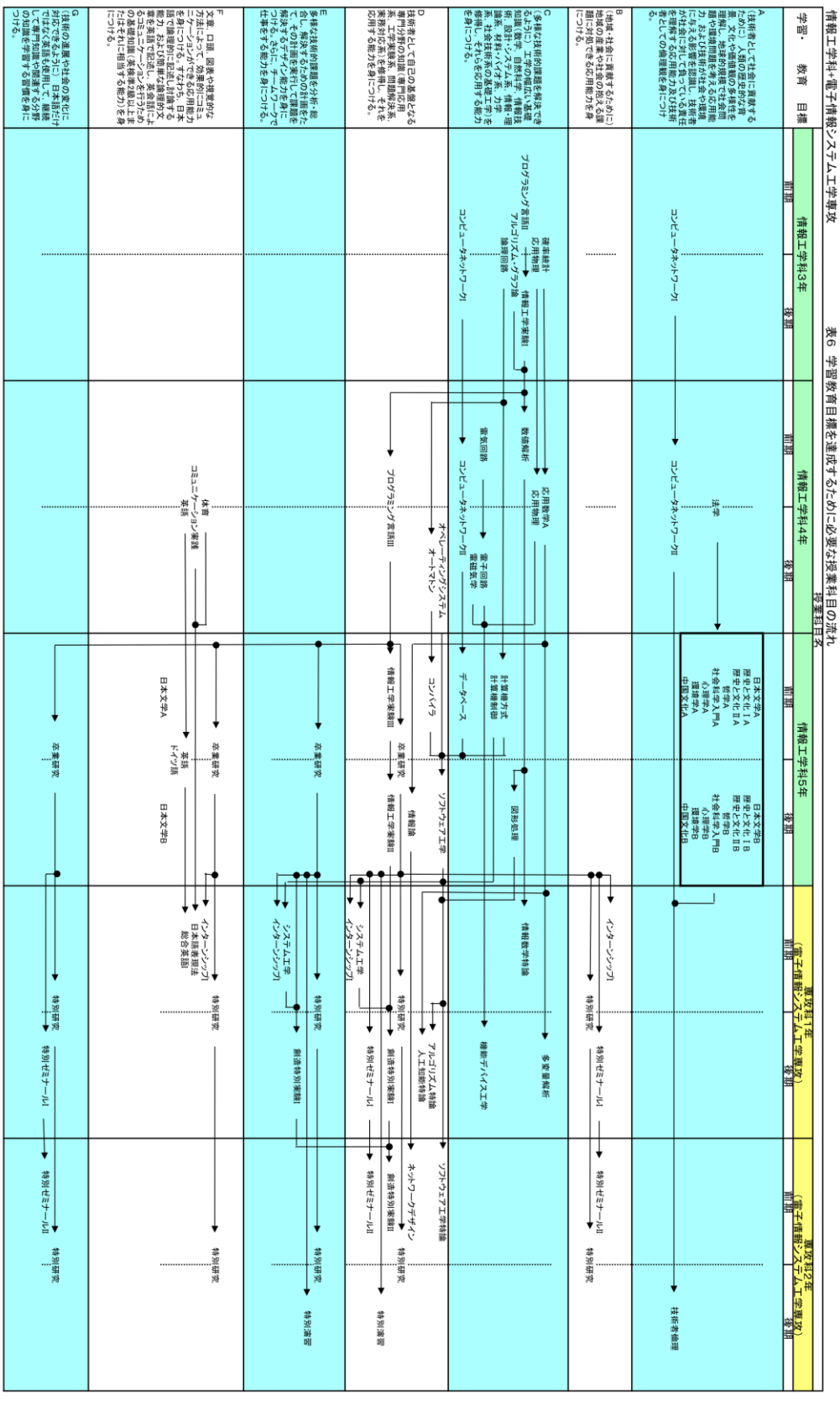
資料５－５－①－２（続き）

「科目関連図（電子工学科＋電子情報システム工学専攻）」



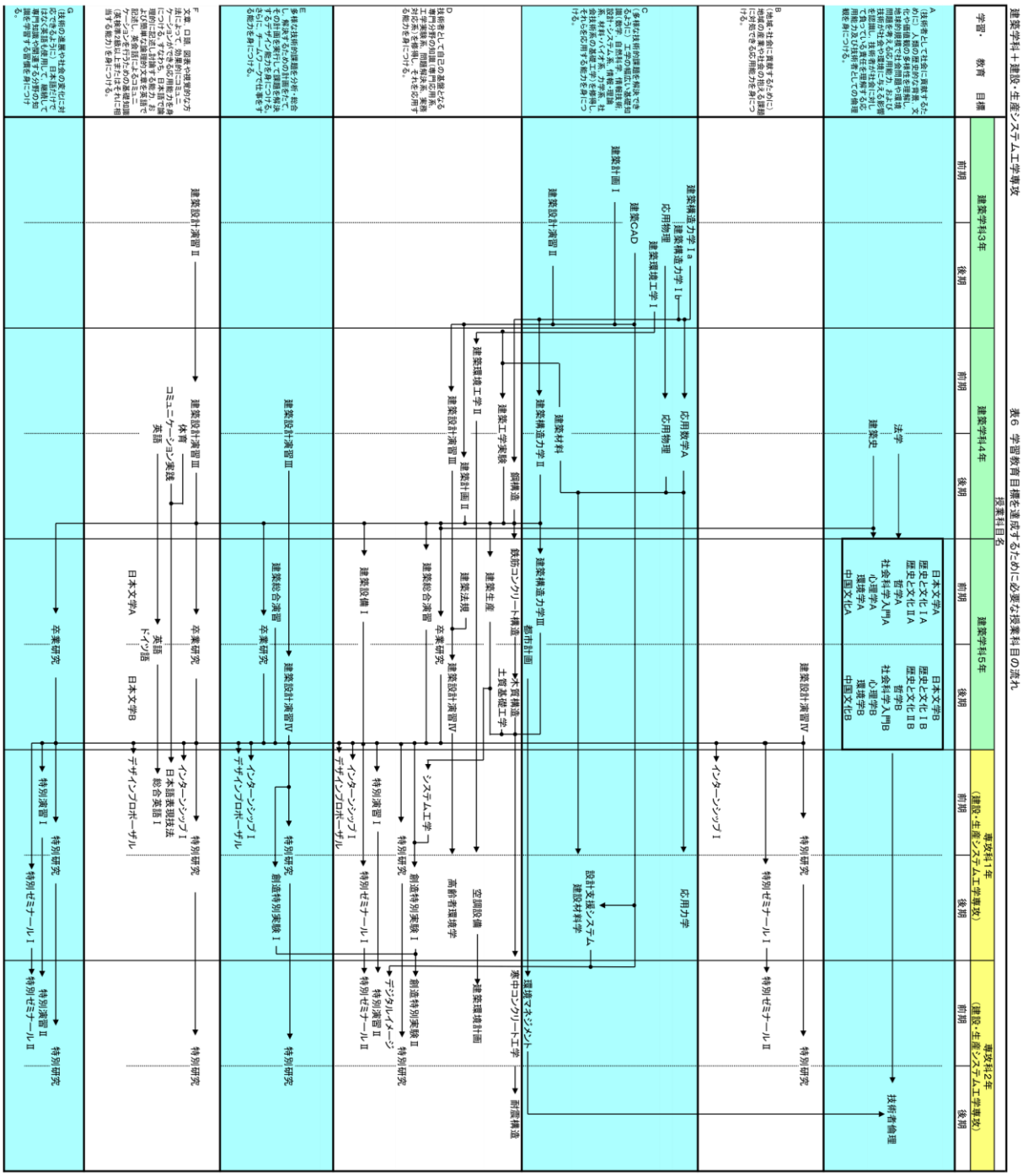
資料５－５－①－２（続き）

「科目関連図（情報工学科＋電子情報システム工学専攻）」



資料５－５－①－２（続き）

「科目関連図（建築学科＋建設・生産システム工学専攻）」



（出典：JABEE 審査自己点検書）

資料５－５－①－３

「シラバス記入要領」（シラバスへの関連科目記入について青字）

資料５
教員会議
H24.1.13

シラバス記入要領（平成 24 年度分）

H23.11.改訂

０．Ｈ２２年度のシラバス入力から，第１回の授業内容説明に用いるシラバス以外の配布物を登録できる．シラバス以外で授業内容説明，評価方法説明などに用いた配布物は，必ず電子ファイルをそのままアップロードすること．

１．科目名，シラバス作成者，担当教員名，学年，学科，単位数，１週あたりの授業回数，開講期，必修・選択の別，授業形態，単位種類，の欄はそれぞれ該当する内容を選択，チェックもしくは記入する．

２．　授業の目標と概要欄

・JABEE 外の科目は，授業内容が本校の学習目標のどの項目に該当するかを，項目ごとの割合を百分率で入力する．JABEE 目標にチェックする必要はない．

・JABEE 科目については，本校の学習目標と JABEE 基準との**対応表に基づいて**，授業内容がどの基準に該当するかについて，本校の学習目標については項目ごとの割合を百分率で入力し，JABEE 目標については該当項目をチェックする．（例　釧路高専教育目標(C100%)，JABEE（ｃ）など．）

・科目は，各目標と一対一で対応をしている科目だけではない．科目によっては，複数の目標と対応している科目も存在する．**JABEE 表 3**，**表 6** を参考にして，目標への対応度をパーセンテージで表す．

例：目標 A と B に対応しており，そのウェイトは A の方が大きい場合
学習・教育目標 A（60%），B（40%）

＊表 3，表 6 において該当科目がどのようなウェイトで対応しているのかに注意し，かつ
科目の目標がこれに矛盾しない設定になるように注意し，合計して 100%になるようにする．

☆科目関連図に従って，前学年の関連科目，後学年の関連科目を記入する欄を設けるか？

３．　授業内容・授業計画について

３．１　授業の目標と概要

・この授業が目標とする本校の学習・教育目標の該当項目の要素を特徴付ける**キーワード**，あるいは**キーワードに関連する内容**を記述すること．

・各科目は一連のカリキュラムの構成要素として存在している．そのため，学習・教育目標との対応を明確にするだけでなく，他の科目との関連も明確であることが望ましい．

そこで，シラバス中に関連する科目名や他の科目との関連が必要ならば，**表 6** に「学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ」が示されている．この表に書かれた科目の流れを意識して，シラバスの記載を行うこと．また，目標Ｄの科目に対する目標Ｃの科目の関係のように**表 6** 中での関連は示されないものの，専門科目とその基礎科目といった関連も存在すると思われる．このような関係をシラバス中に明記することで，専門性の高い科目の履修に際して，必要な基礎知識を明確にすることが可能となる．

1

（出典　平成 24 年１月　教員会議資料）

資料５－５－①－４

「平成 24 年度シラバス」

平成24年度

全学科			人工知能特論				
学年	専攻科1年	担当教員名	神谷昭基				
単位数・期間		2単位	後期	週当りの開講回数	1回	専門共通・選	学修単位１
授業の目標と概要		この科目では、計算機の知能化を目指す専門的な構成技術の一つとして強化学習とその基礎的な学問として最適化分野においてよく使われる動的計画法について授業を行う。強化学習は、状態、行動と報酬という簡潔なアルゴリズムにより構成されながら、環境との相互作用により、未知な環境においても最適な行動を学習できる特徴から、自律エージェントの意思決定システムとして適している。この授業では、動的計画法と強化学習の基本的なアルゴリズムの理解と応用できることを期待する。					
		釧路高専目標	D:100%	JABEE目標	d-2-a		
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		本授業は確率統計とコンピュータプログラミングを基礎知識とする。理解を深めるため、合計約５回の演習レポートを宿題として与えられる。					
到達目標		強化学習の原理を理解し、学習アルゴリズムを作成できることを到達目標とする。					
成績評価方法		最終成績＝定期試験100 点±レポート10 点 1)定期試験60 点未満ではレポートを最終成績に加減算せず不合格点とする。 2)定期試験60 点以上ではレポートによる加減算は60 点以上100 点以下とする。 3)レポート100 点の場合、最終成績+10 点で加点し、0 点の場合、-10 点で減点する。 再試験の場合、その合否判定条件は定期試験と同様とするが、最終成績の最高点は６０点とする。					
テキスト・参考書		教科書：強化学習、三上貞芳、皆川雅章訳、森北出版 参考書：マルチエージェント学習ー相互作用の謎に迫るー、高玉圭樹著、コロナ社 参考書：学習とそのアルゴリズムーニューラルネットワーク・遺伝アルゴリズム・強化学習、 電気学会GA ニューロを用いた学習法とその応用調査専門委員会、森北出版					
メッセージ		1) ノートを必ず取ること。 2) 課題は必ず理解し、日限までに提出すること。 3) 教科書・ノート・課題を必ず勉強すること 4) 勉強をしても不明点は教員室まで聞きに来ること。					
前関連科目		確率統計（本科）、統計学		後関連科目	特別研究		
授 業 内 容							
授業項目			授業項目ごとの達成目標				
前期中間試験							
前期期末試験							
1)ガイダンス、シラバス、強化学習の基礎と構成要素(1 回) 2)目標、報酬、収益、価値関数の定義(2 回) 3)マルコフ決定過程(2 回) 4)動的計画法(3 回)			1)強化学習の基礎と構成要素を理解できる。 2)目標、報酬、収益、価値関数の定義を理解できる。 3)マルコフ決定過程を理解できる。 4)動的計画法を理解でき、アルゴリズムを書ける。				
後期中間試験			実施しない				
1)モンテカルロ法(2) 2)TD 法(2) 3)Q 学習アルゴリズム(3 回)			1)モンテカルロ法を理解し、アルゴリズムを書ける。 2)TD 法を理解し、アルゴリズムを書ける。 3)Q 学習を理解し、アルゴリズムを書ける。				
後期期末試験			実施する				

（出典　WEB サイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/　釧路高専ホームページ）

（分析結果とその根拠理由）

本校の専攻科は準学士課程からの連続性を考慮した専攻構成としている。

それぞれの専攻の教育課程は，基礎となる準学士課程５学科それぞれの教育から専門性を活かした専攻科の教育課程に連携，および準学士課程からの発展を考慮しており，また，シラバスに前後関連科目に関する事項が明記されており，準学士課程の教育との連携が明確に示されている。

これらのことから，教育の目的に照らして，準学士課程の教育との連携，及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっている。

観点５－５－②：　教育の目的に照らして，授業科目が適切に配置され，教育課程が体系的に編成されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校専攻科の二つの専攻は，それぞれが複数学科を基礎として持つため，教育課程においては，それぞれの出身学科および修得単位に応じて履修条件を附すなど，本校の教育の目的を達成できるように体系的に編成され，バランスを考慮した時間割構成としている（資料５－５－②－１，２）。教育課程は，大分類として一般科目，専門共通科目，専門展開科目があり，それぞれが必修科目と選択科目から構成される。一般科目及び専門共通科目は二つの専攻に共通に開講している。一般必修科目は総合英語Ⅰ，日本語表現技法，技術者倫理であり，英語及び日本語によるコミュニケーション能力の育成と技術者としての倫理観の醸成という，本校専攻科の学習目標ＦおよびＡに対応している。専門共通科目の必修科目はシステム工学であり，技術者としての分野によらず必要なシステムの概念を学ぶものであり，本校専攻科の学習目標ＤおよびＥに対応している。専門展開科目における必修科目のうち創造特別実験は二つの専攻に共通に，全学生が全分野の実験を行う実験科目であり，本校専攻科の学習目標ＤおよびＥに対応している。その他の専門展開必修科目は専攻ごとに特別ゼミナール，特別演習，特別研究，インターンシップが置かれている。これらの科目は多くの学習目標にまたがる形で設定されている。専門共通科目及び専門展開科目の中の選択科目群は学習目標ＣないしＤを達成するために置かれている。

授業の内容は，「専門共通科目」群において，他専門分野の知識・技術を修得し，「専門展開科目」群において，自らの専門分野の知識・技術を修得できるように科目設計している。シラバスには，その授業内容とともに達成できる教育目標が明確に示されている（資料５－５－②－３）。さらに，学生に対しては，科目分類表を提示し，準学士課程からの学修の連続性において，専攻科において履修する科目選択の参考とするよう指導し，学習目標達成の一助としている（資料５－５－②－４）。

資料５－５－②－１

「専攻科教育課程表（建設・生産システム工学専攻）」

別表第４

建設・生産システム工学専攻

区分			授業科目名	単位数	毎週授業時間数 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	備考	
一般科目	必修		総合英語Ⅰ	2	2				6単位修得	
			日本語表現技法	2	2					
			技術者倫理	2				2		
			小計	6						
	選択		総合英語Ⅱ	2		2			2単位以上修得	1.統計学，応用解析学，多変量解析及びアドバンストコンピューティングから2単位以上を修得すること。 2.数値計算特論，ソフトコンピューティング特論，情報数学特論，信号画像処理Ⅰ及びアドバンストプログラミングから2単位以上を修得すること。 3.本科建築学科を卒業した者は，アドバンストコンピューティング，ソフトコンピューティング特論から2単位以上修得すること。
			統計学	2	2					
			応用解析学	2		2				
			物理学特論	2				2		
			量子力学	2				2		
			小計	10						
	一般科目開設単位小計			16					8単位以上修得	
専門科目	専門共通科目	必修	システム工学	2	2				2単位修得	
			小計	2						
		選択	制御工学特論	2	2				14単位以上修得	
			品質工学	2	2					
			コンピュータ設計工学	2	2					
			科学技術表現技法	2	2					
			多変量解析	2		2				
			数値計算特論	2		2				
			ロボティクス	2		2				
			人工知能特論	2		2				
			ソフトコンピューティング特論	2			2			
			情報数学特論	2	2					
			信号画像処理Ⅰ	2			2			
			環境マネジメント	2			2			
			設計支援システム	2		2				
			アドバンストプログラミング	2	2					
			アドバンストコンピューティング	2		2				
			デザインプロポーザル	2	2					
			小計	32						
	専門共通科目開設単位数小計			34					16単位以上修得	
	専門展開科目	必修	建設・生産システム工学特別ゼミナールⅠ	1		2			24単位修得	
			建設・生産システム工学特別ゼミナールⅡ	1			2			
			建設・生産システム工学特別演習Ⅰ	1	2					
			建設・生産システム工学特別演習Ⅱ	1			2			
			創造特別実験Ⅰ	1		3				
			創造特別実験Ⅱ	1			3			
			建設・生産システム工学特別研究	16	8	8	8	8		
			インターンシップⅠ	2						
			小計	24						
		選択	機械制御工学概論	2	2				14単位以上修得	
			応用力学	2		2				
			材料システム工学	2	2					
			寒冷地工学	2			2			
			空調設備	2		2				
			建築環境計画	2			2			
			内燃機関工学概論	2			2			
			油空圧工学概論	2		2				
			構造解析Ⅰ	2		2				
			構造解析Ⅱ	2			2			
			耐震構造	2				2		
			建設材料学	2		2				
			寒中コンクリート工学	2			2			
			高齢者環境学	2		2				
			デジタルイメージ	2			2			
			インターンシップⅡ	2						
			小計	32						
	専門展開科目開設単位小計			56					38単位以上修得	
	専門科目開設単位小計			90					54単位以上修得	
全授業科目開設単位数合計				106						
修得単位数合計					62単位以上					

※　一般科目…本科で修得したリベラルアーツ科目の内容を高度化したものであり，全学科出身学生を対象とする。
専門共通科目…本科専門学科において未開設の基礎授業科目であり，全学科出身学生を対象とする。
専門基礎科目…本科の各専門学科において修得した内容に相当する授業科目であり，出身学科以外の学生を対象とする。
（出身学科学生の履修は認めない）
専門展開科目…本科で修得した各専門学科科目の内容を高度化したものであり，出身学科学生を対象とする。
（出身学科以外の学生は基礎学力を必要とする）

資料５－５－②－１（続き）

「専攻科教育課程表（電子情報システム工学専攻）」

電子情報システム工学専攻

区分			授業科目名	単位数	毎週授業時間数 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	備考
一般科目	必修		総合英語Ⅰ	2	2				6単位修得
			日本語表現技法	2	2				
			技術者倫理	2				2	
			小計	6					
	選択		総合英語Ⅱ	2		2			2単位以上修得
			統計学	2	2				
			応用解析学	2		2			
			物理学特論	2				2	
			量子力学	2				2	
			小計	10					
	一般科目開設単位小計			16					8単位以上修得
専門科目	専門共通科目	必修	システム工学	2	2				2単位修得
			小計	2					
		選択	制御工学特論	2	2				14単位以上修得
			品質工学	2	2				
			コンピュータ設計工学	2	2				
			科学技術表現技法	2	2				
			多変量解析	2		2			
			数値計算特論	2		2			
			ロボティクス	2		2			
			人工知能特論	2		2			
			ソフトコンピューティング特論	2			2		
			情報数学特論	2	2				
			信号画像処理Ⅰ	2			2		
			環境マネジメント	2			2		
			設計支援システム	2		2			
			アドバンストプログラミング	2	2				
			アドバンストコンピューティング	2		2			
			デザインプロポーザル	2	2				
			小計	32					
	専門共通科目開設単位数小計			34					16単位以上修得
	専門展開科目	必修	電子情報システム工学特別ゼミナールⅠ	1		2			24単位修得
			電子情報システム工学特別ゼミナールⅡ	1			2		
			電子情報システム工学特別演習	2				4	
			創造特別実験Ⅰ	1		3			
			創造特別実験Ⅱ	1			3		
			電子情報システム工学特別研究	16	8	8	8	8	
			インターンシップⅠ	2					
			小計	24					
		選択	エネルギー変換工学	2			2		14単位以上修得
			プラズマ工学	2		2			
			ディジタル通信概論	2		2			
			アナログ高周波回路設計	2			2		
			電磁波工学特論	2			2		
			ソフトウェアアーキテクチャ	2		2			
			デバイス材料工学特論	2			2		
			量子統計工学	2	2				
			応用光学	2			2		
			機能デバイス工学	2		2			
			ネットワーク工学特論	2	2				
			信号画像処理Ⅱ	2		2			
			計測工学特論	2	2				
			ネットワークデザイン	2			2		
			ソフトウェア工学特論	2			2		
			アルゴリズム特論	2		2			
			インターンシップⅡ	2					
			小計	34					
	専門展開科目開設単位小計			58					38単位以上修得
	専門科目開設単位小計			92					54単位以上修得
全授業科目開設単位数合計				108					
修得単位数合計					62単位以上				

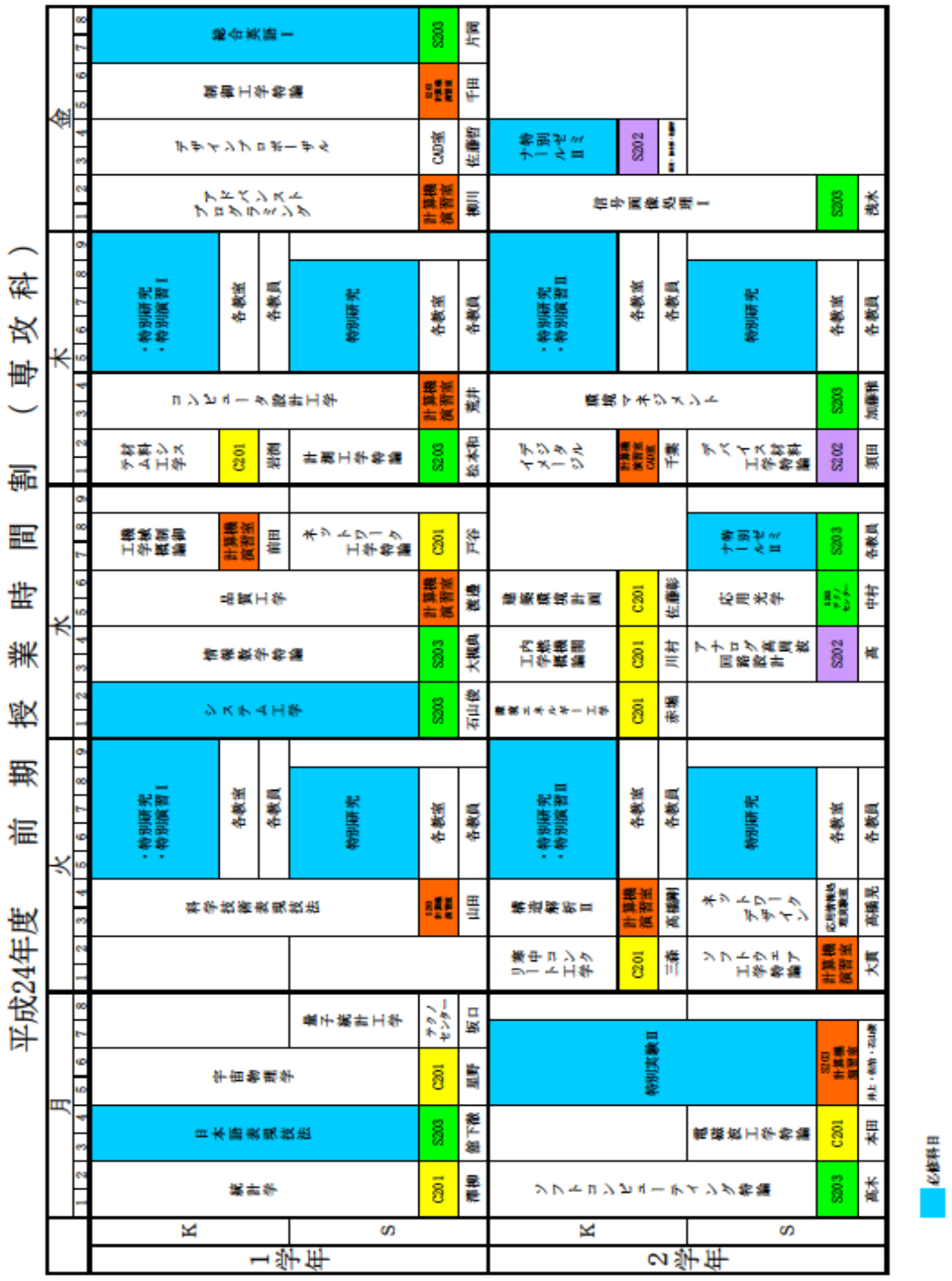
1. 統計学，応用解析学，多変量解析及びアドバンストコンピューティングから2単位以上修得すること。
2. 本科電気工学科を卒業した者は，数値計算特論，ソフトコンピューティング特論，情報数学特論，信号画像処理Ⅰ，アドバンストプログラミング及びソフトウェアアーキテクチャから2単位以上修得すること。
3. 本科情報工学科を卒業した者は，デバイス材料工学特論，機能デバイス工学から2単位以上修得すること。
4. 品質工学，環境マネジメント，設計支援システムから2単位以上修得すること。
5. 本科情報工学科を卒業した者は，コンピュータ設計工学，制御工学特論，ロボティクス，設計支援システムから2単位以上修得すること。

※　一般科目…本科で修得したリベラルアーツ科目の内容を高度化したものであり，全学科出身学生を対象とする。
専門共通科目…本科専門学科において未開設の基礎授業科目であり，全学科出身学生を対象とする。
専門基礎科目…本科の各専門学科において修得した内容に相当する授業科目であり，出身学科以外の学生を対象とする。
（出身学科学生の履修は認めない）
専門展開科目…本科で修得した各専門学科科目の内容を高度化したものであり，出身学科学生を対象とする。
（出身学科以外の学生は基礎学力を必要とする）

（出典　平成23年度学生便覧　pp. 21～22）

資料５－５－②－２

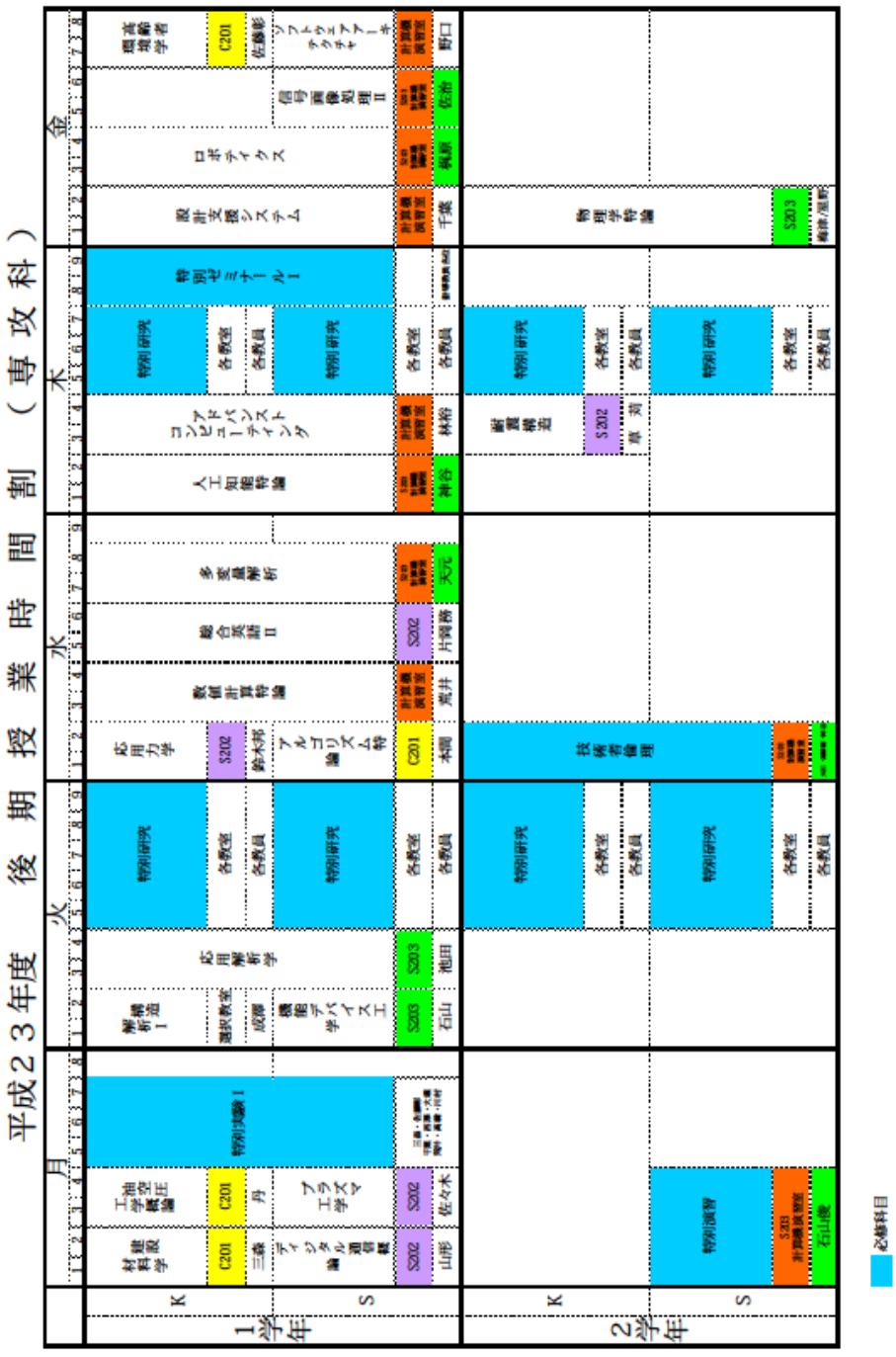
「専攻科時間割表（前期）」



（出典　平成 24 年度授業時間割（専攻科））

資料５－５－②－２（続き）

「専攻科時間割表（後期）」



（出典　平成 23 年度授業時間割（専攻科））

資料５－５－②－３

「シラバスに記載される学習内容および達成される教育目標」

平成24年度

建設・生産システム工学専攻			環境マネジメント				
学年	専攻科2年	担当教員名	加藤雅也				
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	1回	専門共通・選択	学修単位1
授業の目標と概要		環境問題の背景，発生メカニズムおよび解決方法に関する幅広い知識を修得する．また，ISO14000シリーズ規格を正しく理解し，企業等における環境報告書などの実例をとおして環境マネジメントに関する基礎的知識を身につける．					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	d-1-5	
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		基本的な物理，化学に関する知識が必要である．また，環境問題に関する基本的な知識があることが望ましい． 授業は主として講義形式で行うが，事前に課題を与え，意見を求めたり討論することもある． 講義内容を自ら補足したり，課題について学習する等の自学自習が必要である． また，自学自習にはパソコンやインターネットを使える環境が必要である．					
到達目標		環境問題における社会経済活動と自然環境との因果関係を説明できる． 環境の保全・修復・創出に関する法律や技術の基本的知識を身につけている． ISO14000シリーズ規格に準拠した環境マネジメントシステムを構築し，あるいは運営する上で知っておくべき基礎的知識を身につけている．					
成績評価方法		合否判定：定期試験の結果が60点を超えていること． 最終評価：定期試験の結果とする． 再試験による合否判定：再試験の結果が60点を超えていること．					
テキスト・参考書		テキスト：特に指定しない．関連資料をプリント配布するが，下記参考書やWEBの情報等を適宜参照すること． 参考書：環境概論（中央経済社），環境白書（環境省），環境工学（森北出版），環境マネジメントハンドブック（日本工業新聞社），環境マネジメント入門（日科技連），環境マネージメント・監査入門（日本規格協会）など					
メッセージ		講義では基礎的な知識の修得に主眼をおきますが，実際の環境問題は多様で複雑です．日常から環境問題を意識して，積極的に情報収集するように心がけること．環境への配慮は，技術者倫理とも関わる基本的かつ重要な事項であると認識して受講してください．					

授業内容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
1. 環境一般 環境問題の背景～地球環境問題（2.5回） 2. さまざまな環境問題 大気環境，水環境・土壌環境（2.5回） 有害物質と廃棄物，騒音・振動・悪臭等（2回） 3. 自然環境 法体系・国際条約，ミチゲーション（1回）	1. 環境問題の歴史的背景を説明できる． 地球環境問題の概要を説明できる． 2. 代表的な環境問題の発生メカニズムを説明できる． 代表的な環境問題の対策を説明できる． 3. 自然環境に関わる法律の基本事項を説明できる． 自然環境の保護や修復技術の基本事項を説明できる．
前期中間試験	実施しない
4. 環境アセスメント 環境アセスメント概論（1回） 環境流体シミュレーション（2回） 5. 環境マネジメントシステム ISO14000シリーズ規格（2回） 企業等における実例（2回）	4. 環境アセスメントの概要（法律，技術）を説明できる． 環境流体シミュレーションの基礎的技術を説明できる． 5. ISO14000シリーズの概要を説明できる． ISO14000シリーズの各種用語を説明できる． 環境マネジメントシステムのPDCAサイクルを説明できる．
前期期末試験	実施する
後期中間試験	
後期期末試験	

Created at Sat Jun 23 15:31:59 JST 2012

（出典　WEB サイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/　釧路高専ホームページ）

資料５－５－②－４

「授業科目の体系一覧（一般）」

資 料 9
教務委員会
H22. 5.11

科目分類別表（平成２２年度入学生用）

別表第1(1.一般科目)

分類	本科科目								専攻科科目							
	学科	必修			選択			修得基準	専攻	必修			選択			修得基準
		学年	科目名	単位数	学年	科目名	単位数			学年	科目名	単位数	学年	科目名	単位数	
数学系	全				4	数学Ⅱ	2		全				1	統計学	2	2単位以上修得
					4	数学Ⅲ	1						1	応用解析学	2	
	M	4	応用数学A	4	5	工業数学	1						1	多変量解析	2	
					5	応用数学Ⅱ	1									
					5	応用数学B	4									
	E	4	応用数学A	4	5	応用数学Ⅱ	1									
		4	制御工学	2	5	応用数学B	4									
	D	4	応用数学A	4	5	応用数学Ⅱ	1									
					5	応用数学B	4									
	J	4	応用数学A	4	5	応用数学Ⅱ	1									
		3	確率統計	2	5	応用数学B	4									
	A	3	建築構造力学Ⅱ	2	5	応用数学Ⅱ	1									
		4	応用数学A	2	5	応用数学B	2									
情報技術系	M	4	情報処理Ⅱ	2					全				1	ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄｺﾝﾋﾟｭｰﾃｨﾝｸﾞ	2	
		4	CAD	1									1	科学技術表現技法	2	
		5	数値解析法	2												
	E	4	情報処理	2												
	D	4	演算工学	2												
		5	画像工学Ⅰ	1	5	画像工学Ⅱ	2									
	J	3	プログラミング言語Ⅲ	2	4	ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑ･ｸﾞﾗﾌ論Ⅰ	2									
		3	アルゴリズム・グラフ論	2	4	プログラミング言語Ⅰ	2									
		3	情報工学実験Ⅰ	2												
		4	数値解析	2												
	A	3	情報処理Ⅱ	1												
		4	建築CAD	2												
自然科学系	全	3, 4	応用物理	2, 2					全				2	物理学特論	2	
	A	3	建築環境工学	2												
人文科学・社会科学系	全	4	コミュニケーション実践	2	5	日本文学A	1		全	1	日本語表現技法	2				
		4	法学	2	5	日本文学B	1			1	技術者倫理	2				
		4	体育	2	5	歴史と文化ⅠA	1									
					5	歴史と文化ⅠB	1									
					5	歴史と文化ⅡA	1									
					5	歴史と文化ⅡB	1									
					5	哲学A	1									
					5	哲学B	1									
					5	社会科学入門A	1									
					5	社会科学入門B	1									
					5	心理学A	1									
					5	心理学B	1									
					5	環境学A	1									
					5	環境学B	1									
					5	中国文化A	1									
					5	中国文化B	1									
					5	韓国文化A	1									
					5	韓国文化B	1									
	A	4	建築史	2												
外国語系	全	4, 5	英語	2, 1	4, 5	英語演習(Ⅰ, Ⅱ)	1, 1		全	1	総合英語Ⅰ	2	1	総合英語Ⅱ	2	
		4	ドイツ語	2	3, 4	英会話Ⅰ	2									
					5	英語コミュニケーションA	1									
					5	英語コミュニケーションB	1									

資料５－５－②－４（続き）

「授業科目の体系一覧（専門）」

別表第1(2.専門基礎科目)

分類	本科科目								専攻科科目							
	学科	必修			選択				専攻	必修			選択			
		学年	科目名	単位数	学年	科目名	単位数	修得基準		学年	科目名	単位数	学年	科目名	単位数	修得基準
設計・システム系									全	1	システム工学	2	1	制御工学特論	2	
													1	設計支援システム	2	
													1	コンピュータ設計工学	2	
	M	4	システム設計工学	2	5	生産システム工学	1		K							
		4	電気電子工学	2												
		5	制御工学	2												
		5	計測工学	2												
	A	3	建築設計演習Ⅱ	6	5	福祉住環境論	1									
	E	5	電気回路Ⅱ	1	5	電気設計	2		S							
		4, 5	電子回路	2, 1												
	D	4	電子回路Ⅱ	1	4	ディジタル信号処理A	1									
		5	電気回路Ⅲ	1												
	J	3	電気回路	2												
		4	電子回路	2												
		4	計算機制御	2												
情報・論理系									全				1	数値計算特論	2	M:2単位以上修得
													1	ソフトコンピューティング特論	2	E:2単位以上修得
													1	アドバンストプログラミング	2	A:2単位以上修得
													1	情報数学特論	2	
													2	信号画像処理Ⅰ	2	
													2	有限要素法概論	2	
	D	4	論理設計	2	4	通信伝送工学ⅠA	2		S				1	ソフトウェアアーキテクチャ	2	
					5	通信伝送工学Ⅱ	2									
	J	3	論理回路	2	4	論理回路Ⅰ	2									
		5	計算機方式	2	5	信号処理Ⅰ	1									
		5	データベース	2	5	信号処理Ⅱ	1									
		5	図形処理	2	5	情報伝送工学	2									
材料・バイオ系	M	4	機械材料Ⅱ	2					K				1	材料システム工学	2	A:溶接工学を修得していない場合は2単位以上修得
													1	建設材料学	2	
	A				5	溶接工学	1									
	E	5	電気材料	2					S				1	デバイス材料工学特論	2	J:2単位以上修得
	D	4	電子材料Ⅰ	1	5	電子材料Ⅱ	2						1	機能デバイス工学	2	
力学系									全				1	ロボティクス	2	
	M	4	材料力学Ⅱ	2	5	熱エネルギー工学	1		K				1	応用力学	2	
		5	材料力学Ⅲ	1									1	油空圧工学概論	2	
		4	熱力学Ⅰ	2									1	構造解析Ⅰ	2	
		5	熱力学Ⅱ	1									1	構造解析Ⅱ	2	
		4	流体工学Ⅰ	2									2	内燃機関工学概論	2	
		5	流体工学Ⅱ	1												
		5	振動工学	2												
	A	4	建築構造力学Ⅲ	2												
		5	建築構造力学Ⅳ	2												
	E	4	電気磁気学	2					S							
		5	電磁波工学	1												
	D	5	電磁波工学	2	4	電磁気学ⅡA	2									
	J	4	電磁気学	2												
社会技術系									全				2	環境マネジメント	2	
	M	4	生産工学	1												
	A	5	都市計画	2	5	建築防災工学	1									
	E	4	送配電工学	2	5	電気法規・電気施設管理	1									
	D	5	通信網工学	2												
	J	3	コンピュータネットワークⅠ	2	4	コンピュータネットワークⅡ	2									

（出典　H22.5　教務委員会資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校専攻科の教育課程においては，出身学科および修得単位に応じて履修条件を附すなど，本校の教育の目的を達成できるように体系的に編成され，バランスを考慮した時間割構成としている。教育課程は，一般科目，専門共通科目，専門展開科目があり，それぞれが必修科目と選択科目から構成され，本校専攻科の学習目標を達成するために適切に編成されている。専門共通科目群において他専門分野の知識・技術を修得し，専門展開科目群において自らの専門分野の知識・技術を修得できるよう

に科目設計している。シラバスには，その授業内容とともに達成目標が明確に示されている。

これらのことから，教育の目的に照らして，授業科目が適切に配置され，教育課程が体系的に編成され，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものとなっている。

観点５－５－③：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展の動向，社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

教育課程および授業の内容においては，学生のニーズと本校の教育の目的を勘案し，教育課程の編成を継続的に検討している。学生のニーズに配慮する事項の一つとして，他大学等で開講されているe-Learning科目の履修・単位取得を認めている（資料５－５－③－１）。平成23年度には，延べ４名のe-Learning科目の履修があったが，単位修得には至らなかった。専門分野に関する実践的な経験を積むことへのニーズに応えるために，必修科目としてインターンシップⅠ，選択科目としてインターンシップⅡを設定している（資料５－５－③－２～４）。

また，トゥルク応用科学大学（フィンランド）との学術交流に関する協定が締結され，交換留学を行うことによって海外との交流というニーズに応えている（資料５－５－③－５）。教員の研究活動により得られる学術の発展の動向は，その教員の担当科目の内容に反映されている（資料５－５－③－６）。地元企業等の会員で構成される釧路高専地域振興協力会の要望に応じて特別研究で得られた成果を紹介している（資料５－５－③－７）。

英語によるコミュニケーション能力育成のために，一般必修科目として総合英語Ⅰ，選択科目として総合英語Ⅱを設定している。これらの科目はTOEICのe-Learning教材を用いて，授業時間内ばかりではなく，自学自習にも対応させ，英語の基礎能力を育成している（資料５－５－③－８）。

資料５－５－③－１

「ｅラーニングの単位認定」

４月定例教務委員会議事概要

日　　時　：　平成２３年４月５日（火）１０時００分～１２時０６分
場　　所　：　小会議室
出 席 者　：　１４名

１．報告事項

(1) 学生の修学状況について
委員長から，資料１に基づき報告があった。

(2) 学生の異動状況について
委員長から，資料２－１及び２－２に基づき報告があった。
なお，千葉委員から以下のとおり意見が述べられた。
・入学時は２００人の学生が，卒業時には１６０人以下になっていることは，外部からの印象が悪いのではないか。
・再試験のあり方，未修得進級制度，修了退学要件等について，見直しを検討するべきではないか。

(3) 出席優良者の表彰について
委員長から，資料３－１及び３－２に基づき報告があった。
なお，今年度の皆勤賞受賞代表者については４年情報工学科，精勤賞受賞代表者については４年建築学科からの選出となる旨の説明があった。

中略

(8) 平成２３年度釧路高専年度計画の策定について
委員長から，資料12に基づき，意見があれば４月８日(金)までに伺いたい旨の説明があり，審議の結果，了承された。

(9) ｅラーニングの単位認定について
専攻科長および山崎主事補から，資料13－１～２に基づき説明があった。
・専攻科１年生に対しては，４月11日（月）ガイダンスの際に説明をする。
・長岡技術科学大学の資料が参考になることから，本席上で配付している。これを基に学内の手続き様式を準備することとしたい。
・履修した科目については，教育課程表にない科目であり，専攻科の修了要件には含まれず，大学の内容やレベルを知る機会として利用してもらうこととなるが，成績証明には表記されることとなる。これについては，次年度以降，改善したい。

(10) ２段階学科選択制度に関するアンケートについて
委員長から，資料14に基づき，昨年度同様実施したい旨の提案があり，審議の結果，了承された。

(11) その他

資料５－５－③－１（続き）

H23年度（前期／後期） ｅラーニング開設 特別聴講生募集要項一覧

機 関 名	科　　目	単 位	期	対象学年	締め切り
鈴鹿高専 専攻科科目	実践工業数学Ⅰ 実践工業数学Ⅱ	1 1	前期 前期	４・５年，専攻科	４／１５（金）
豊橋技科大	情報理論 建築環境工学Ⅱ	2 2	前期 後期	専攻科 専攻科？	４／２２（金） 9/22（木）？
長岡技科大 専門基礎 学部専門 専門基礎	ｅ－安全と人間工学 ｅ－情報システム計画 ｅ－安全工学概論	2 2 2	1 1 2	学部２年 学部３年 学部２年	４／１４（木） ９月中旬
九州工業大 教職科目 （情報）	プログラム設計	2	後期	学部	９／９（金）？ ＊2011/8月頃募集要項発表

（出典　H23.4　教務委員会議事録および資料）

資料５－５－③－２

「専攻科学外実習取扱要項」

○釧路工業高等専門学校専攻科学外実習取扱要項
（平成18年３月27日釧高専達第21号）
改正 平成23．３．28釧高専達第38号

（目的）
第１条　学外実習（以下「実習」という。）は，釧路工業高等専門学校専攻科学生が，企業等（国
又は地方公共団体の機関を含む。以下「実習機関」という。）において，専門領域における実務を経験することにより，実践的な技術者となるための素養を磨き，技術に対する社会の要請，試験・研究活動における知識や技術の必要性を認識し，学ぶことの重要性を再確認すると共に，進路について考察する機会を持つことを目的とする。
（実習の期間及び時間数）
第２条　実習は，第１学年で実施する。ただし，特別な事情がある場合は，専攻科委員会の議を経て第２学年で実施することができる。
２　実習期間は10日間以上とし，実習時間数は75時間以上とする。
（実施責任者及び担当教員）
第３条　学外実習を円滑に実施するため，実施責任者を置き，専攻科長をもって充てる。
２　実施責任者を補佐するため，担当教員を置き，教務委員会の議を経て専攻科長が指名する。
（担当教員の業務）
第４条　担当教員は，実施責任者の指示のもと，次の各号に掲げる業務に当たるものとする。
一　実習機関の選定及び派遣先の決定
二　実習内容，テーマ等に関する指導及び助言
三　実習中の留意事項に関する事前指導
四　実習中に発生した事故又は誓約事項に違反する行為等があった場合の処置及び報告
五　実習中の状況把握及び実習機関との連絡調整
六　その他学外実習に関し必要な業務
（実習機関の選定）
第５条　実習機関の選定にあたっては，実施機関の責任者から提出される学外実習受入調書（第１号様式）により行う。
２　前項の学外実習受入調書は，実施機関所定の様式をもって替えることができる。
（学外実習申込書及び誓約書）
第６条　派遣先実習機関が決定した学生（以下「実習生」という。）は，学外実習申込書（第２号様式）及び誓約書（第３号様式）を校長を経て，実習機関へ提出しなければならない。
２　前項の学外実習申込書及び誓約書は，実施機関所定の様式をもって替えることができる。
（学外実習心得）
第７条　実習生は，別に定める学外実習心得を守らなければならない。
（学外実習報告書）
第８条　実習生は，学外実習終了後，速やかに学外実習報告書（第４号様式）を担当教員に提出しなければならない。
（学外実習評定書）
第９条　校長は，学外実習終了後，実施機関の責任者から学外実習評定書（第５号様式）の提出を受けるものとする。
２　前項の学外実習評定書は，実施機関所定の様式をもって替えることができる。

資料５－５－③－２（続き）

（成績評価及び単位修得科目の認定）
第10条　成績評価及び単位修得科目の認定は，第８条により提出された学外実習報告書及び前条により提出された学外実習評定書並びに教務委員会が実施する学外実習報告会に基づき専攻長が行い，認定科目は実習時間75時間をもって必修科目「インターンシップⅠ」とする。ただし，実習時間が150時間を超える場合は，「インターンシップⅠ」に加えて選択科目「インターンシップⅡ」を認定することができる。
２ 専攻長は，前項による成績評価を学外実習認定届（第６号様式）により，教務委員会を経て校長に提出するものとする。
（事務）
第11条　学外実習に関する事務は，学生課が行う。
（雑則）
第12条　この要項に定めるもののほか，必要な事項は別に定める。

附　則
この要項は，平成18年４月１日から実施する。
附　則（平成23．３．28釧高専達第38号）
この要項は，平成23年４月１日から実施する。

（出典　釧路高専専攻科学外実習取扱要項）

資料５－５－③－３

「専攻科学生のインターンシップに関する申し合わせ」

◎インターンシップについて

１．社会人特別選抜入学生の単位認定

社会人特別選抜により入学した学生については，本人の申請によりインターンシップの単位を次のとおり認定するものとする。

（1） 単位認定に必要な資料と発表について
　１）実務報告書（インターンシップ報告書に準ずる資料）
　２）実務発表会（インターンシップ発表会に準じて発表を行う）
（2） 実務期間の単位認定条件と科目について
　１）シラバスに示される授業目標と到達目標を満足させる実務期間が 80 時間（10 日）を越えた場合には，インターンシップⅠを認定する。
　２）シラバスに示される授業目標と到達目標を満足させる実務期間が 160 時間（20 日）を越えた場合には，インターンシップⅠ並びにインターンシップⅡを認定する。

２．欠席の取り扱い

当該学生がインターンシップによって，夏季休業期間以外に授業を欠席した場合の取扱いについては，当該学生が欠課届けにより授業担当教員へ届けたものについて，欠課時数を考慮しなければならない。(H19.7.15)

３．ガイダンス

（1） 進路指導委員会が主催する専攻科学生対象のインターンシップガイダンスに，学生は必ず出席させることとし，当該ガイダンスを欠席した学生は，学科主任に報告するよう指導するものとする。(H18.7.18)
（2） インターンシップの受け入れ先企業の選定については，専攻科長及び専攻主任が対応するものとする。
(H18.5.18, H17.4.8)

（出典　専攻科申し合わせ類集　p．２）

資料５－５－③－４

「平成 23 年度インターンシップ受け入れ先一覧」

専攻科生（7月～9月）

企業名	日数	人数
（株）アクティス	10日間	2名
（株）エフエムくしろ	10日間	3名
釧路市こども遊学館	10日間	2名
（株）釧路綜合設計事務所	10日間	1名
（財）釧路根室圏産業技術振興センター	10日間	1名
タカオ工業（株）	10日間	1名
NPO法人地域生活支援ネットワークサロンまじくる	10日間	4名
（株）つうけんアドバンスシステムズ	10日間	1名
東京工業大学	12日間	1名
東芝システムテクノロジー（株）	14日間	1名
（株）長谷川建築設計事務所	10日間	1名
（株）日立情報制御ソリューションズ	14日間	1名
富士電機（株）	10日間	1名
北海道大学	10日間	1名
北海道庁	10日間	1名
三菱地所コミュニティ(株)	10日間	1名

（出典　Web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=362
釧路高専ホームページ）

資料５－５－③－５

「トゥルク応用科学大学との学術交流覚書締結」

トゥルク応用科学大学と覚書締結

カテゴリ：国際交流　　掲載日時 ： 2011-12-1 17:38

平成23年11月28日、フィンランドのトゥルク市にあるトゥルク応用科学大学と、学生や教職員の交流を柱とした覚書を締結しました。

本校は、仙台高専で平成21年度に採択された大学教育GP「学生国際交流事業における教育の質の保証ー学生の主体的・能動的な学びを引き出す双方向型国際研修プログラムー」の事業評価委員となっており、そのプロジェクトを通してトゥルク応用科学大学と交流を重ね、平成23年9月に1ヶ月本校から3名の学生が短期留学を行いました。

そしてこの度、相互に学生や教職員の交流を行うことができるよう、1.両校間での職員の交流 2.学生の交流（学術、及び／もしくは、実習交流） 3.先進的研究開発における協力及び相互に価値のある他のプロジェクトにおける協力 4.適切な情報、文書、資料の交換、の４項目について覚書を締結しました。

今日の日本企業はどんどん海外へ展開しており、高専生が国際的な感覚を身につけておくことは将来大いに役立ちます。この覚書によって海外で活躍できる高専生の育成につなげたいと考えています。



覚書を手に記念撮影。左からAnne Raikka(アンネ ライカ)さん、Yngvar Wikstrom(ユンバール ウィクストロム)教授、 Patric Granholm(パトリック グランホルム)教授、岸浪校長、神谷教授、佐藤事務部長

(出典　Web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/d3blog_02/details.php?bid=46
釧路高専ホームページ)

資料５－５－③－６

「学術の発展・ニーズに対応するカリキュラムの新設」

（カリキュラム変更理由書様式）

ディジタル通信概論（新設）

(1) 開講区分

本科目を開講する専攻名，区分，科目名，単位数，学年別配当は下記の通りである。

専攻　　：電子情報システム工学専攻
区分　　：[専門科目]専門展開科目（選択）
科目名　：ディジタル通信概論
単位数　：２単位
学年別配当：２年後期

(2) 新設理由

電子工学科では教育の３つの柱として、情報・通信分野、電子デバイス分野、計測･制御分野を掲げ、自ら問題点を発見し解決できる創造性豊かなエンジニアの育成を目標に授業展開している。教育の理念として、エンジニアとして基礎学力を充実させた上での専門性を高める授業展開が重要と考えており、低学年の基礎知識の習得とその方法の検討、３つの専門分野の専門性を高める授業の充実とそのバリエーションの拡張が重要な課題となっている。また専攻科における専門性充実と幅広い知識の修得とその応用能力の充実も課題となっている。本科目の分野は、産業界でも重要な通信技術の分野であり、特にディジタル通信を中心とした内容で社会や企業からのこの分野への技術修得の要請も多く、専門性ある科目となると考えられる。

本科目は、電子科の教育理念と本校の教育課程の充実や幅広い分野の知識・技術が習得できる科目であり、上記理由により本科目の新設を希望したい。

以下に本科目の概要と目的を示す。

本講義では、通信インタフェースを持つ機器の設計・評価に必要となる、ディジタル通信技術の基礎的な知識を習得し、スペクトラム拡散通信技術についても取り上げ、実践的技術者の養成を目的とする。

電子工学科 坂口　直志

（出典　H24.3　教務委員会資料）

資料５－５－③－６（続き）

資料 11-1
教務委員会
H24.2.6

（カリキュラム変更理由書様式）

宇宙物理学

（1）開講区分

本科目を開講する専攻名，区分，科目名，単位数，学年別配当，本校教育目標，ＪＡＢＥＥ教育目標は下記の通りである。

専攻名　　：建設・生産システム工学専攻
　　電子情報システム工学専攻
区分　　：一般科目　（選択）
科目名　　：宇宙物理学
単位数　　：２単位
学年別配当　：１年前期
本校教育目標：A(10%) C(90%)
JABEE 教育目標：a c

（2）新設理由

専攻科における教養科目の充実のため，本科目を新設する。

数式を多用せずに自然界の現象を理解する。

恒星の進化を学ぶことは，現実のエネルギー問題，原子力等に深い理解をもたらすと期待される。

中　村　　隆

－1－

（出典　H24.2　教務委員会資料）

資料５－５－③－７

「専攻科学生特別研究発表会」

平成２３年度　産学官連携推進事業
釧路高専 専攻科学生特別研究発表会 実施要項

１．目的：釧路地域産学官連携推進実行委員会（委員長　島本幸一地域振興協力会長）の主催により，専攻科学生の特別研究の成果を地域企業及び一般市民に発表する。専攻科２年学生は口頭発表，専攻科１年学生はポスター発表により行う。２年生は特別研究の集大成として，また，１年生は特別研究の中間発表として実施し，プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の向上などを図る。また，参加地域企業や市民との意見交換等から今後の研究に企業ニーズや新たな発想を取り込み，地域企業の開発研究に貢献する端緒となることも期待できる。さらに，釧路高専専攻科学生の高度な研究内容や技術力などを地域企業や市民に紹介することにより，専攻科に対する理解を深めてもらう。

２．主催：釧路地域産学官連携推進実行委員会
（構成）釧路工業高等専門学校地域振興協力会，釧路市，釧路商工会議所，北海道中小企業家同友会釧路支部，財団法人釧路根室圏産業技術振興センター，釧路工業高等専門学校

３．日時：平成２４年３月１日（木）　１２時２０分～１７時００分

４．場所：釧路プリンスホテル　（釧路市幸町７－１）　３階

５．研究発表会　　１２時３０分～１７時００分　※別紙タイムスケジュール参照
（１）主催者挨拶　　釧路地域産学官連携推進実行委員会　委員長　島本幸一
（２）選考委員紹介
（３）特別研究発表会　※予稿集を作成し、参加者に配布する
口頭発表とポスター発表を同時進行により別室で行う。
口頭発表　　（専攻科２年生　３８名）
１人あたり質疑応答を含め１０分間（発表７分、質疑応答３分）
＜途中ポスターコアタイム１０分間及び休憩＞
ポスター発表（専攻科１年生　２４名）

６．参加予定者
専攻科学生、釧路高専地域振興協力会会員、釧路市産業振興部産業推進室、北海道中小企業家同友会会員、釧路工業技術センター、専攻科学生保護者、一般市民、本校教職員

７．交流会　１８時００分～１９時３０分
一般参加者会費２，０００円　　専攻科学生の会費は地域振興協力会より支弁
（１）開会挨拶　　釧路高専地域振興協力会長　島本 幸一
（２）表彰　　釧路高専地域振興協力会会長賞・特別賞・奨励賞授与
（選考方法説明、選考委員紹介、全体講評、授与）
（３）来賓挨拶　　釧路市（予定）
釧路商工会議所（予定）
（４）乾杯　　北海道中小企業家同友会釧路支部長（予定）
（５）懇親　　※専攻科２年生によるスピーチ
（６）謝辞　　釧路工業高等専門学校長　岸浪 建史
（７）締め　　釧路高専地域振興協力会副会長

（出典　平成 23 年度専攻科学生特別研究発表会実施要項）

資料５－５－③－８

「総合英語Ⅰシラバス」

平成24年度

建設・生産システム工学専攻		総合英語Ⅰ				
学年	専攻科1年	担当教員名	片岡務			
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	1回	一般・必修	学修単位1
授業の目標と概要		本授業では、TOEICテストで450点以上のスコアをマークできるレベルの英語力の養成を目指して、Newton社の e−Learning 教材の「TOEIC TEST対策Aコース」を全員が受講する。この教材はe−Learning 教材であるので、受講者は個別にホストサーバにアクセスして自学自習形式で学習を進めることになる。				
		釧路高専目標	F:100%	JABEE目標	f	
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		この教材は5つのパートに分かれていて、各パートは10～20の演習項目で構成され、それぞれ演習項目には20ステップの問題群が用意されている。その問題群をすべて正解してそのステップを完全習熟したことになる。そのようにして、次々にステップを完全習熟していってもらいたい。授業時間だけでは時間がまったく足らないので、放課後等に自宅や校内のパソコンを利用して自主的に学習を進めていってもらいたい。				
到達目標		TOEICテストで450点以上のスコアをマークできるレベルの英語力を獲得し、その英語力を随時発揮できる。				
成績評価方法		校内で実施する実施の「英検準2級レベル」の試験に合格（ただしTOEICテスト（IPも可）400点以上、英語検定準二級1次試験合格、工業英語検定3級合格、のいずれかを満たしている場合はこの試験は免除する）した上で、教材のパート1、2、3の全STEPを完全習熟達成し、さらに期末試験で60点以上で合格とし、この成績が最終評価となる。期末試験の再試験は60点以上で合格とする。				
テキスト・参考書		e−Learning 教材の「TOEIC TEST対策Aコース」（Newton社）				
メッセージ		この教材は一年間かけて使用することを想定して作られたものであるので、前期のみの使用ではその学習効果は十分には発揮されない。従って受講者は最低とも後期の「総合英語Ⅱ」も継続して受講してもらいたい。なお、「Aコース」を完了した場合には、上位コースの「Bコース」を継続して利用できる。 今年度中にこの科目に合格しなかった場合には、次年度再履修となる。				

授業内容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
・ガイダンス ・TOEIC TEST 対策Aコース （7回）	・「TOEIC TEST 対策Aコース」のパート1、2の全STEPを完全習熟達成する。
前期中間試験	実施しない
・TOEIC TEST 対策Aコース （8回）	・「TOEIC TEST 対策Aコース」のパート3の全STEPを完全習熟達成する。
前期期末試験	実施する
後期中間試験	
後期期末試験	

Created at Sat Jun 23 17:08:55 JST 2012

（出典　WEBサイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/　釧路高専ホームページ）

資料５－５－③－８（続き）

「総合英語Ⅱシラバス」

平成24年度

建設・生産システム工学専攻			総合英語Ⅱ				
学年	専攻科1年	担当教員名	片岡務				
単位数・期間		2単位	後期	週当りの開講回数	1回	一般・選択	学修単位1
授業の目標と概要		本授業は、前期の「総合英語Ⅰ」の授業の継続である。であるので、前期同様にTOEICテストで450点以上のスコアをマークできるレベルの英語力の養成を目指して、Newton社の e−Learning 教材の「TOEIC TEST対策Aコース」を全員が受講する。この教材はe−Learning 教材であるので、受講者は個別にホストサーバにアクセスして自学自習形式で学習を進めることになる。				
		釧路高専目標	F:100%		JABEE目標	f	
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		この教材は5つのパートに分かれていて、各パートは10～20の演習項目で構成され、それぞれ演習項目には20ステップの問題群が用意されている。その問題群をすべて正解してそのステップをクリアしたことになす。そのようにして、次々にステップをクリアしていってもらいたい。授業時間だけでは時間が足らないので、放課後等に自宅や校内のパソコンを利用して自主的に学習を進めていってもらいたい。				
到達目標		TOEICテストで450点以上のスコアをマークできるレベルの英語力を獲得し、その英語力を随時発揮できる。				
成績評価方法		「総合英語Ⅰ」で達成した分も含めて、教材の「TOEIC TEST対策Aコース」をすべて（パート1からパート5まで）を完全習熟達成した者についてのみ成績評価を行なう。（総合英語Ⅱのみの受講者については別途定める。期末試験で60点以上を合格とし、その成績を最終評価とする。				
テキスト・参考書		e−Learning 教材の「TOEIC TEST対策Aコース」（Newton社）				
メッセージ		この教材は一年間かけて使用することを想定して作られたものであるので、前期のみの使用ではその学習効果は十分には発揮されない。従って受講者は是非とも前期の「総合英語Ⅰ」から継続して受講してもらいたい。この「Aコース」を完了すればTOEIC450点が保証される。なお、「Aコース」を完了した場合には、上位コースの「Bコース」を継続して利用できる。				

授業内容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
前期中間試験	
前期期末試験	
・ガイダンス ・TOEIC TEST 対策Aコース （8回）	・「TOEIC TEST 対策Aコース」のパート4を完了する。
後期中間試験	実施しない
・TOEIC TEST 対策Aコース （7回）	・「TOEIC TEST 対策Aコース」のパート5を完了する。
後期期末試験	実施する

Created at Sat Jun 23 17:09:03 JST 2012

（出典　WEBサイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/　釧路高専ホームページ）

（分析結果とその根拠理由）

他大学等で開講されているe-Learning科目の履修・単位修得を認め，必修科目としてインターンシップⅠ，選択科目としてインターンシップⅡを設定している。

また，トゥルク応用科学大学（フィンランド）との交換留学により海外との交流というニーズに応えている。教員の研究活動により得られる学術の発展の動向は，その教員の担当科目の内容に反映されている。地元企業等の会員で構成される釧路高専地域振興協力会の要望に応じて特別研究で得られた成果を紹介している。

英語によるコミュニケーション能力育成のために，TOEICのe-Learning教材を用いて，自学自習にも対応させ，英語の基礎能力を育成している。

これらのことから，教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展の動向，社会からの要請等に配慮している。

観点５－６－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

（観点に係る状況）

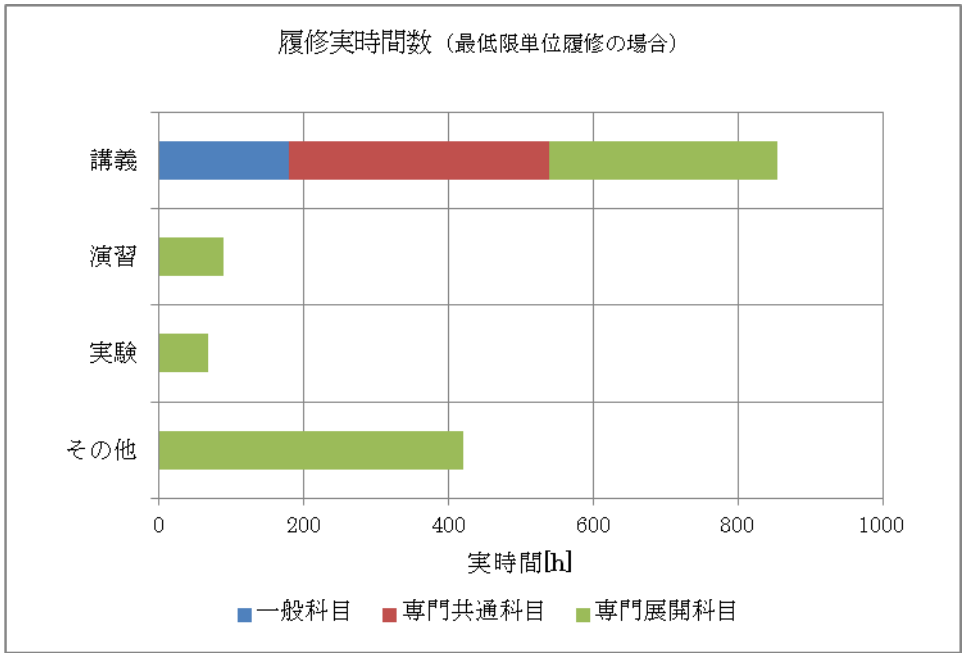
一般科目および専門科目における修了要件を満たす為の最低限度の履修実時間のうち，講義，演習，実験，その他（研究，企業実習）等の授業形態の比率を資料５－６－①－１に示す。講義と演習・実験による確認と実践力養成や企業実習などによる体験的学習をバランス良く行っている。

一般科目は授業の性質上，全てが講義科目となっている。専門科目では，講義科目が約60%，演習科目が約6%，実験科目が約5%となっているものの，資料５－６－①－２のように開講している全ての講義科目のうち，一般講義室以外（情報処理演習室，テクノセンターなど）で授業を行っている科目，即ち演習を伴う講義科目が45%前後を占めている。また，専門分野に関する実践的な経験を積むために「インターンシップⅠ」は必修科目としている（資料５－６－①－３）。

「特別ゼミナール」（資料５－６－①－４）における複数教員による少人数オムニバス方式の対話・討論型授業や，従来の「座学」形式ではない，両専攻における「特別演習」（資料５－６－①－５），全学生が用意された全分野の実験を行う「創造特別実験Ⅰ及びⅡ」（資料５－６－①－６）における専門横断型教育を実施している。また，両専攻共通科目として，高いプレゼンテーション能力を養うためのコンペ参加を企図した「デザインプロポーザル」（資料５－６－①－７）や，日本語・英語によるドキュメンテーション能力を育成するための演習を中心とした「科学技術表現技法」（資料５－６－①－８）など，学習指導方法を工夫した特徴的な授業がある。

資料５－６－①－１

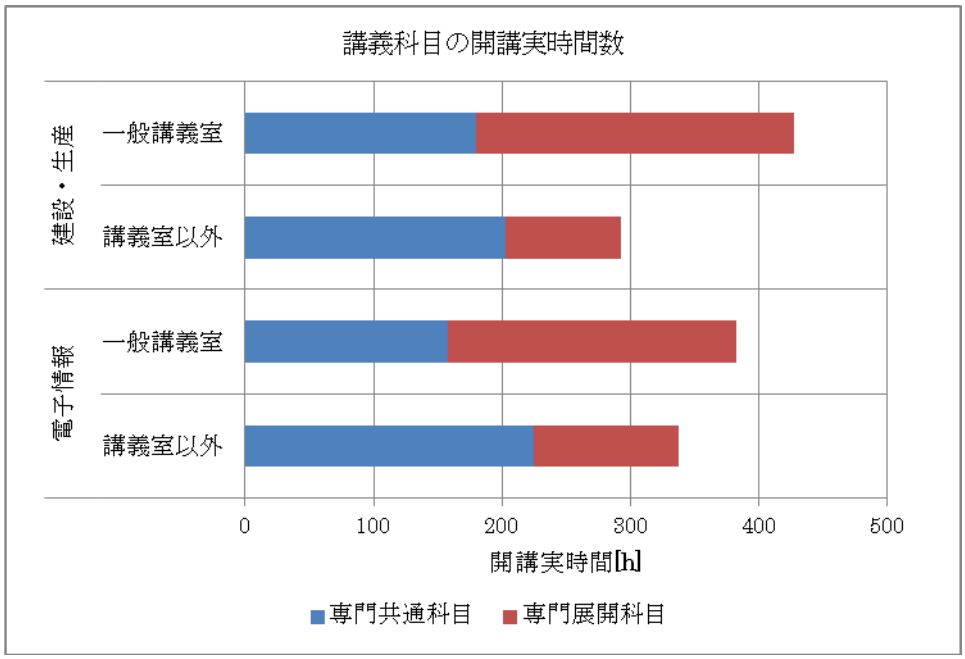
「授業形態別の履修実時間数」



（出典　学生課作成資料）

資料５－６－①－２

「講義科目の開講実時間数」



（出典　学生課作成資料）

資料５－６－①－３

「平成 24 年度シラバス（インターンシップⅠ）」

平成24年度

全学科		インターンシップⅠ					
学年	専攻科1年	担当教員名	成澤 哲也				
単位数・期間		2単位	その他	週当りの開講回数		専門展開・必修	
授業の目標と概要		企業、官庁、国公私立大学および試験研究機関において、現場指導者の監督のもとに実務に参加し、実践的技術者となるための素養を磨く。また、技術に対する社会の要請、研究・設計・生産・試験・保守などの活動における知識や技術の必要性を認識し、これらの活動を公衆の健康・安全、文化、経済、環境、倫理の観点で考察すると共に自分の進路を考察する機会を持つこと。					
		釧路高専目標	B:50%,C:20%,E:20%,F:10%		JABEE目標	a,b,d-2-d,f,h	
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		インターンシップは、受け入れ先に貴重な時間と労力を裂いて頂いて実現するものである。このことを常に念頭に置き、社会人としてのマナー、技術者としての姿勢を学ぶことを心がけること。詳細はガイダンス、実施要綱による。					
到達目標		実体験を通じ、技術者としての素養を磨く(与えられた課題の解決を期間内に計画的に進めることができる。グループ作業において自分の役割を積極的に果たすことができる。)実社会における技術への要請、必要性を認識する(社会が要求する科学技術を認識できる。科学技術が社会に及ぼす影響を認識できる。)					
成績評価方法		・実習遂行への配点60点：報告書の提出，報告を行ったことに対する配点 ，実習成果への配点40点：20点を基準として，報告内容に応じて+,-20点の範囲で配点する					
テキスト・参考書		受け入れ先の指示に従う。					
メッセージ		インターンシップを通して、自分の適性を一層理解し、自分の将来の進路に役立ててください。					

授業内容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
1)受け入れ先機関提示およびマッチング 2)ガイダンス 3)事前準備	1)受け入れ可能な機関を提示し、希望調査・調整により受け入れ先を決定する。 2)インターンシップ参加者に対して、ビジネスマナー、企業秘密の遵守、通勤時および作業時の自己への対応など、全般的な注意事項の説明を行う。 3)調整後に決定した機関の担当者に、各自が連絡をとり、実習内容、注意事項などの指導を受ける。
前期中間試験	実施しない
4)実習 5)報告書の提示 6)インターンシップ報告会	4)インターンシップの実施中は、指導担当者の支持に従って、行動する。ガイダンスで説明された日報等を忘れずに作成する。 5)インターンシップ終了後、速やかに報告書を提出する。守秘義務を考慮しなければならない。 6)実習内容、得られた成果など、インターンシップの経験を報告会において発表する。
前期期末試験	実施しない
後期中間試験	
後期期末試験	

Created at Fri Apr 20 15:23:36 JST 2012

（出典　WEB サイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/　釧路高専ホームページ）

資料５－６－①－４

「平成 24 年度シラバス（特別ゼミナールⅠ）」

平成24年度

電子情報システム工学専攻			電子情報システム工学特別ゼミナールⅠ				
学年	専攻科1年	担当教員名	電子工学科 専攻科学生指導教員				
単位数・期間		1単位	後期	週当りの開講回数	1回	専門展開・必修	学修単位1
授業の目標と概要		特別研究に関連した文献調査、プレゼンテーション技術を修得し、企業の指導者からの講義及び企 業の指導者との討論を通じて、地域の産業や社会の抱える課題やそれに対処するために必要な能力（計画性など）を修得することを目的とする。文献調査に関しては、各自、与えられたテーマに従 って調査し、その内容を発表することにより、特別研究のための調査技術、プレゼンテーション技 術の修得を目指す。					
		釧路高専目標	B:20%,D:60%,G:20%	JABEE目標	a,b,d-1-2,g,h		
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		電子ジャーナルによる論文調査、ネットを利用した情報収集、図書館の利用、などさまざまな手法 によって、必要な情報を収集・分析し、さらにそれらをまとめて発表する。また、発表後の質疑応 答に対応する。さらに、周辺・境界領域の知識や地域の産業や社会の抱える課題とそれに対処する 能力を修得する。これらの作業は特別研究における自分の研究作業のための訓練として重要である。					
到達目標		適切な方法により効率的な論文検索ができる。 適切な方法により効率的な情報収集ができる。 調査結果を適切に発表できる。 地域の産業や社会の抱える課題それに対処するために必要な能力の理解ができる。					
成績評価方法		文献調査プレゼンテーション(複数教員)(60%) 文献ディスカッション参加(20%) 企業講義レポート評価(20%)					
テキスト・参考書		各指導教員の指示による					
メッセージ		情報収集や地域または社会課題の理解は特別研究において重要なことである。					

授 業 内 容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
前期中間試験	
前期期末試験	
1)ガイダンスの実施 2)特別研究に関連した文献調査テーマの決定 3)特別研究に関連した文献調査	与えられる文献調査テーマに従って、文献調査できる。
後期中間試験	実施しない
1)特別研究に関連した文献調査結果の発表と討論 2)企業指導者による地域または社会の抱える問題とその対処に必要な能力に関する講義	1)文献調査結果を説明でき、質問に対して適切に回答できる。 2)文献調査発表のディスカッションに参加できる。 3)地域または社会の抱える問題とそれに対処するための必要な能力を理解し、それをレポートにまとめることができる。
後期期末試験	実施しない

Created at Wed Apr 25 14:35:22 JST 2012

（出典　WEB サイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/　釧路高専ホームページ）

資料５－６－①－５

「平成 24 年度シラバス（特別演習Ⅰ）」

平成24年度

建設・生産システムエ学専攻			建設・生産システムエ学 特別演習Ⅰ				
学年	専攻科1年	担当教員名	千葉忠弘・加藤雅也・鈴木邦康・佐藤哲・大槻香子				
単位数・期間		1単位	前期	週当りの開講回数	1回	専門展開・必修	学修単位1
授業の目標と概要		各自の専攻分野および関連分野について，計算演習，課題解決などにより，実践的な問題解決能力，自己の持つ知識・技術の展開能力を養成することを目的とする．					
		釧路高専目標	D:70%,G:30%	JABEE目標	d-2-d,g		
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		特別演習は，専攻分野および関連分野についての知識・技術の習得だけに留まらずに，より実践的な問題解決能力とそれを応用し，展開できる能力を養うように努めること．					
到達目標		各担当教員のもとで演習課題に取り組み，実践的な問題解決能力，自己の持つ知識・技術の展開能力を養成することを目標とする．					
成績評価方法		各演習テーマの担当教員から提出された評価の合計を平均する． すべての課題提出が合格の条件である。					
テキスト・参考書		各演習内容に応じて別に定める．					
メッセージ		各演習課題に自主的に取り組み，問題解決に取り組んでほしい．					

授業内容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
・高齢者の居住環境について（3回） ・建築基準法における集団規定について（3回）	・高齢者の生活に配慮した施設、住宅のあり方を理解し、提案することができる。 ・建築基準法の集団規定について、ある特定地域における法律上の規制と留意点を整理し、建築基準法と都市計画との関連を考察することができる。
前期中間試験	実施しない
・Excelを用いた建築構造力学演習（3回） ・構造物の解法の違いが解析結果に与える影響（3回） ・建築におけるLED照明について（3回）	・構造計算公式により具体的な静定構造物の計算をExcelで行い，断面の形状や大きさが変化した時の応力，応力度，ひずみ等の変化を図化することができる． ・平面ラーメンを対象に，これまでに学習したたわみ角法および固定モーメント法による応力計算の演習を行い，両者の計算結果を比較し解法の違いが結果に与える影響について考察することができる。 ・LED照明の機能特性を知り、建築の中でどのように実用化されているかの現状を知ることができる。
前期期末試験	実施しない
後期中間試験	
後期期末試験	

Created at Fri Apr 20 15:23:36 JST 2012

（出典　WEB サイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/　釧路高専ホームページ）

資料５－６－①－６

「平成 24 年度シラバス（創造特別実験Ⅰ）」

建設・生産システム工学専攻			創造特別実験Ⅰ				
学年	専攻科1年	担当教員名	荒井誠・高橋剛・川村淳浩・三森敏司・佐藤彰治・千葉忠弘・西澤岳夫・大槻香子				
単位数・期間		1単位	後期	週当りの開講回数	1回	専門共通・必修	学修単位3
授業の目標と概要		創造特別実験Ⅰでは，建築と機械の設定するテーマを履修する。実験では，提示されたテーマに対して，実現可能な解を見つけるため，問題意識を持ってデザイン能力を発揮し，プレゼンテーションを通じて，成果を発表できることを目的としている。 前半部を建築の教員が，後半部を機械の教員がそれぞれ担当する。				
		釧路高専目標	B:20%,E:80%	JABEE目標	d-2-b,d-2-c,e,h		
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		前半部では建築教員が担当し，3テーマから1テーマを選択する。後半部は1テーマのもとに機械教員が担当する。 専門基礎知識に裏付けされたものづくりの設計・製作をするために，各項目での準備・予習・復習が必要である。 プレゼンテーションでは，課題に関する知識や各自の発想が大事なテ				
到達目標		1．専門分野で履修してきた基礎的な知識をベースに課題に応じた分析能力を身につける。 2．自発的に実験を計画・遂行でき，問題の解決策を見いだすことができる。 3．グループによる共同作業を行うことで，コミュニケーション能力					
成績評価方法		建築担当分について：報告書等の評価（80%）とプレゼンテーション評価（20%）による総合評価 機械担当分について：CADモデリングデータおよび報告書の評価（70%），製作物の評価（20%），プレゼンテーション評価（10%）による総合評価					
テキスト・参考書		各項目・テーマごとに適宜参考プリントおよびテキストを配布する。 参考書：JASS5鉄筋コンクリート工事（日本建築学会編）					
メッセージ		各テーマごとに一連の流れおよび基礎専門については簡単に説明するが，製作にあたっては各自の発想力，問題解決能力が必要となります。また，共同作業のために，人とのコミュニケーションも大切になりますので，協調性を発揮して下さい。					

授業内容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
前期中間試験	
前期期末試験	
建築担当 テーマ1：地域環境に関わる調査・提案（8回） 1．ガイダンス，調査（2回） 2．各人の問題意識・提案発表（1回） 3．グループごとに具体的提案づくり（4回） 4．グループ発表・個人レポート作成（1回） テーマ2：高強度モルタルコンテスト（8回） 1．ガイダンス，モルタル調合設計演習（1回） 2．モルタルの調合設計・試練・製造・供試体作製（4回） 3．モルタル強度の測定，発表会（3回）	テーマ1 地域問題を発見できる。 問題の解決策を考えることが出来る。 問題点をグループ討議できる。 提案をパネル化し発表できる。 テーマ2 モルタルの調合設計手法が理解できる。 モルタルの調合表・作製手順が説明できる。 モルタル調合設計のプレゼンテーションができる。 テーマ3
後期中間試験	
機械担当 1．ガイダンス，班構成 2．CAD・CAE解説とモデル設計 3．モデル設計と模型製作 4．設計と実装 5．風洞実験 6．タイムトライアル 7．プレゼンテーション	課題解決のための相互確認ができる。 デザインのためのモデリングができる。 モデルから解析評価ができる。 評価を基に改善設計ができる。 実装のための評価実験と結果分析ができる。 実験による改良・改善の行うことができる。 簡潔明瞭な報告とプレゼンテーションができる。
後期期末試験	

Created at Wed Jun 27 19:39:04 JST 2012

（出典　WEB サイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/　釧路高専ホームページ）

資料５－６－①－７

「平成 24 年度シラバス（デザインプロポーザル）」

平成24年度

建設・生産システム工学専攻		デザインプロポーザル				
学年	専攻科1年	担当教員名	佐藤哲			
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	1回	学修単位1
授業の目標と概要		全国高専デザインコンペティション（デザコン）の課題に取り組むことで、デザイン、プレゼンテーションの能力を向上することができる。 チームで作業する場面もあるため、コミュニケーション能力の向上が期待できる。				
		釧路高専目標	D:50%,E:25%,F:25%	JABEE目標	d-2-c,f	
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		本科目は学習単位となっており、授業以外の時間を使って情報収集や作業を行うことが必須である。チームで作業を行うこともあるため、その場合は、チームに積極的に参加することが必要である。				
到達目標		デザコンの課題を通じて、自分のデザインした計画をまとめることができる。パワーポイント、ポスターなどを使ってプレゼンテーションができる。チームのなかで積極的に作業ができる。				
成績評価方法		中間発表（20点）、完成作品発表会（プレゼンテーション：10点、作品の内容30点）、最終作品発表会（プレゼンテーション：10点、作品の内容30点）で評価する。デザコンに応募できなかった場合とデザコンに応募できるレベルに達しないと判断された場合は合格できない。なお、完成作品発表会において、合格点（24点以上）に達しなかったのものに対しては、新たな課題を課すこととする。				
テキスト・参考書		教科書は指定しない。 参考書については、講義中に紹介する。				
メッセージ		作品を全国大会に出品して、よい成績を上げることを目標に努力して欲しい。				

授業内容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
1. 授業ガイダンス（1回） デザコンの経緯と目的、各課題の取り組み方について 2. 調査・計画（1回） 3.ゼミナール（2回） 4.中間発表用の作品の作成（1回） 5.中間発表（1回） 6.作品の作成（1回）	授業の目的が理解できる。 デザコンについて、課題の内容が理解できる。 自分の行うテーマについての条件、計画のための調査ができる。 各自調査した結果を踏まえた計画ができる。 自分が計画している内容について、調査結果を踏まえて作品を作成できる。
前期中間試験	実施しない
7. 作品の作成（2回） 8.完成作品発表会（1回） 9.最終作品の作成（4回） 10.最終作品発表会（2回）	自分が計画している内容について、調査結果、中間発表での講評等を踏まえて作品を作成できる。 自分の作成した作品について、パワーポイント、ポスターなどを使用して発表できる。
前期期末試験	実施しない
後期中間試験	実施しない
後期期末試験	実施しない

Created at Fri Apr 20 15:23:36 JST 2012

（出典　WEB サイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/　釧路高専ホームページ）

資料５－６－①－８

「平成 24 年度シラバス（科学技術表現技法）」

平成24年度

建設・生産システム工学専攻		科学技術表現技法					
学年	専攻科1年	担当教員名	山田昌尚				
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	1回	専門共通・選択	学修単位1
授業の目標と概要		この科目の目的は，科学技術分野において効果的なコミュニケーション能力を身につけることである．特に，文章と図表を用いて日本語で論理的に記述すること，および英語で簡単なプレゼンテーションをすることに関して，必要な知識を得るとともに，それにもとづいて実践できるようトレーニングを行う．					
		釧路高専目標	A:0%,E:0%,F:100%	JABEE目標	f		
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		・教員からの説明には英語と日本語を使用する ・必要に応じて演習室を使用することがある ・下記の授業内容は期間中を通じての割合であり，1回の授業において複数の項目を扱うことがあり得る．					
到達目標		・英語で簡単なプレゼンテーションができる ・論理的な日本語の文章を作成できる ・効果的な図表を作成できる					
成績評価方法		合否判定：プレゼンテーションに関する課題の評価（30点満点）＋図表・日本語文章作成に関する課題の評価（30点満点）＋試験（40点満点） 最終評価：合否判定に同じ					
テキスト・参考書		教科書：なし．随時プリントを配布する． 参考書：講義の中で紹介する．					
メッセージ		できるだけ実用的な内容にすることを目指しています． 英語でのプレゼンテーションは難しく感じられるかもしれませんが，積極的にチャレンジしてください．					

授業内容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
・プレゼンテーション（6回）	・効果的なプレゼンテーションに必要な要素を説明できる ・簡単な英語プレゼンテーションが説明できる
前期中間試験	実施しない
・図表の作成（3回） ・文章作成法（5回）	・効果的な図表を作成できる ・適切な表現を用いて，論理的な日本語文章を作成できる
前期期末試験	実施する
後期中間試験	
後期期末試験	

Created at Fri Apr 20 15:23:36 JST 2012

（出典　WEB サイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/　釧路高専ホームページ）

（分析結果とその根拠理由）

講義と演習・実験による確認と実践力養成や企業実習などによる体験的学習をバランス良く行っている。

特別ゼミナール，特別演習，創造特別実験などの両専攻参加の対話・討論型授業や専門横断型教育を実施している。また，デザインプロポーザルや科学技術表現技法など，学習指導方法の工夫がなされた特徴的な授業がある。

これらのことから，教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

観点５－６－②：　教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示等，内容が適切に整備され，活用されているか。

（観点に係る状況）

毎年度１月の教務委員会において翌年度のシラバス入力が周知される（資料５－６－②－１）。シラバスはウェブ入力システムが用意されている（資料５－６－②－２）。シラバスの例を資料５－６－②－３に示す。シラバスには目標と概要，履修上の注意，到達目標，成績評価方法，授業項目と項目ごとの達成目標など，学習に必要な情報や達成すべき目標，評価の方法が明示されている。

前期開始当初に設定された各科目のガイダンス（資料５－６－②－４）においてシラバスを用いた科目ガイダンスが行われ，学生はこの説明の後に各科目の履修選択をする。また学生はウェブ上で，いつでもシラバスを閲覧できる（資料５－６－②－５）。

資料５－６－②－１

「シラバス入力周知を示す資料」

１月定例教務委員会議事録

日時： 平成２４年１月１２日（木）１６時３０分～１９時００分

（略）

(2) 平成 23 年度シラバス入力について

委員長から，資料 12－１に基づき，主な変更点（前後学年の関連科目の記入・再試験の判定方法の明記等）について説明があった。

引き続き委員長から，以下のとおり説明があった。

・シラバスの入力後は，資料 12－２の様式による自己チェックを行う。
・資料 12－３の様式により，学科内等の相互チェックを行い，年度末までに修学支援係へ提出すること。
・選択科目の履修希望調べがあるため，３～５年（選択）および専攻科（選択）は，１月末までに入力を終えること。
・その他の１～２年および３～５年（必修）並びに専攻科（必修）は，２月中旬までに入力を終えること。
・入力システムの準備が整い次第，通知する。

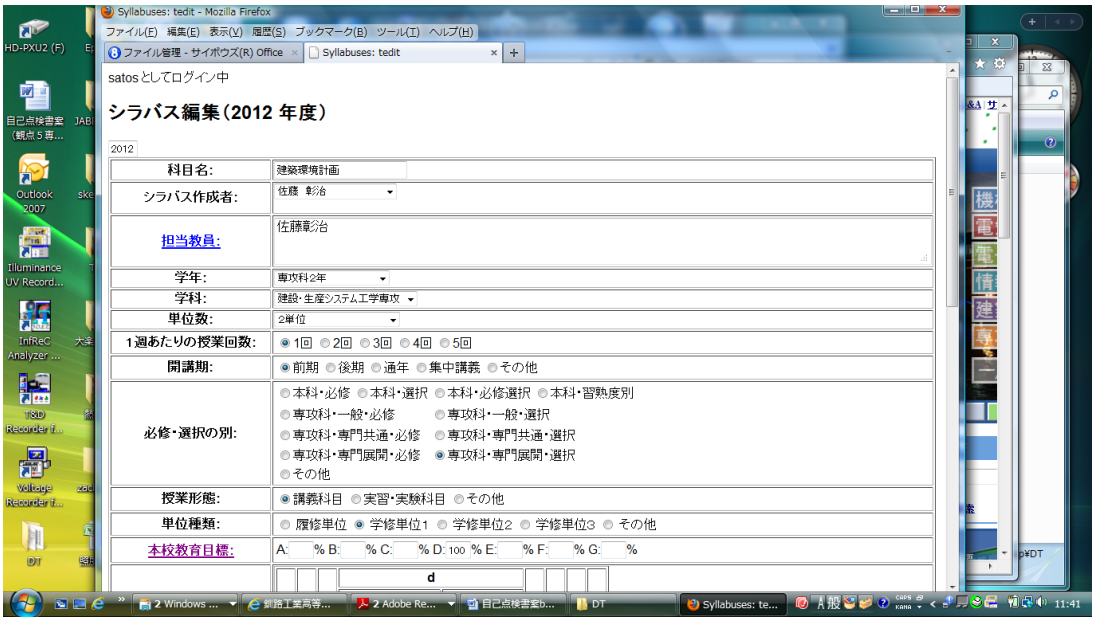
なお，シラバス記入要領の変更については，後日開催の教員会議において，資料を配付し，委員長が説明することとなった。

（以下略）

（出典　H24.1　教務委員会議事概要）

資料５－６－②－２

「シラバスの入力画面」



（出典　平成 24 年度シラバス入力画面）

資料５－６－②－３

「平成 24 年度シラバス（環境マネジメント）」

平成24年度

建設・生産システム工学専攻			環境マネジメント				
学年	専攻科2年	担当教員名	加藤雅也				
単位数・期間		2単位	前期	週当りの開講回数	1回	専門共通・選	学修単位１
授業の目標と概要		環境問題の背景，発生メカニズムおよび解決方法に関する幅広い知識を修得する．また，ISO14000シリーズ規格を正しく理解し，企業等における環境報告書などの実例をとおして環境マネジメントに関する基礎的知識を身につける．					
		釧路高専目標	C:100%		JABEE目標	d-1-5	
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		基本的な物理，化学に関する知識が必要である．また，環境問題に関する基本的な知識があることが望ましい． 授業は主として講義形式で行うが，事前に課題を与え，意見を求めたり討議することもある． 講義内容を自ら補足したり，課題について学習する等の自学自習が必要である． また，自学自習にはパソコンやインターネットを使える環境が必要である．					
到達目標		環境問題における社会経済活動と自然環境との因果関係を説明できる． 環境の保全・修復・創出に関する法律や技術の基本的知識を身につけている． ISO14000シリーズ規格に準拠した環境マネジメントシステムを構築し，あるいは運営する上で知っておくべき基礎的知識を身につけている．					
成績評価方法		合否判定：定期試験の結果が60点を超えていること． 最終評価：定期試験の結果とする． 再試験による合否判定：再試験の結果が60点を超えていること．					
テキスト・参考書		テキスト：特に指定しない．関連資料をプリント配布するが，下記参考書やWEBの情報等を適宜参照すること． 参考書：環境概論（中央経済社），環境白書（環境省），環境工学（森北出版），環境マネジメントハンドブック（日本工業新聞社），環境マネジメント入門（日科技連），環境マネージメント・監査入門（日本規格協会）など					
メッセージ		講義では基礎的な知識の修得に主眼をおきますが，実際の環境問題は多様で複雑です．日常から環境問題を意識して，積極的に情報収集するように心がけること．環境への配慮は，技術者倫理とも関わる基本的かつ重要な事項であると認識して受講してください．					
前関連科目		都市計画・法学・環境学A，B		後関連科目	技術者倫理		

授業内容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
1．環境一般 環境問題の背景～地球環境問題（2.5回） 2．さまざまな環境問題 大気環境，水環境・土壌環境（2.5回） 有害物質と廃棄物，騒音・振動・悪臭等（2回） 3．自然環境 法体系・国際条約，ミチゲーション（1回）	1．環境問題の歴史的背景を説明できる． 地球環境問題の概要を説明できる． 2．代表的な環境問題の発生メカニズムを説明できる． 代表的な環境問題の対策を説明できる． 3．自然環境に関わる法律の基本事項を説明できる． 自然環境の保護や修復技術の基本事項を説明できる．
前期中間試験	実施しない
4．環境アセスメント 環境アセスメント概論（1回） 環境流体シミュレーション（2回） 5．環境マネジメントシステム ISO14000シリーズ規格（2回） 企業等における実例（2回）	4．環境アセスメントの概要（法律，技術）を説明できる． 環境流体シミュレーションの基礎的技術を説明できる． 5．ISO14000シリーズの概要を説明できる． ISO14000シリーズの各種用語を説明できる． 環境マネジメントシステムのPDCAサイクルを説明できる．
前期期末試験	実施する
後期中間試験	
後期期末試験	

（出典　WEB サイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/　釧路高専ホームページ）

資料５－６－②－４

「各科目のガイダンス時間割」

4月10日(火)					(8:50~9:05)						(8:50~9:05)		
	1時限目	1KS	宇宙物理学	星野	(9:05~9:20)	S203教室		2K	建築環境計画	佐藤彰	(9:05~9:20)	C201教室	
		1KS	制御工学特論	千田	(9:20~9:35)	S203教室		2S	ソフトウェア工学特論	大貫	(9:20~9:35)	C201教室	
	2時限目	1KS	品質工学	渡邉	(9:40~9:55)	S203教室		2KS	信号画像処理Ⅰ	浅水	(9:40~9:55)	C201教室	
		1KS	人工知能特論	神谷	(9:55~10:10)	S203教室		2KS	環境マネジメント	加藤雅	(9:55~10:10)	C201教室	
		1KS	多変量解析	天元	(10:10~10:25)	S203教室		2K	寒冷地工学	赤堀	(10:10~10:25)	C201教室	
	3時限目	1KS	アドバンストプログラミング	柳川	(10:35~10:50)	S203教室		2KS	量子力学	星野	(10:35~10:50)	C201教室	
		1KS	情報数学特論	大槻典	(10:50~11:05)	S203教室		2K	内燃機関工学概論	川村	(10:50~11:05)	C201教室	
		1KS	ロボティクス	梶原	(11:05~11:20)	S203教室		2S	デバイス材料工学特論	須田	(11:05~11:20)	C201教室	
	4時限目	1KS	設計支援システム	千葉	(11:25~11:40)	S203教室		2K	寒中コンクリート工学	三森	(11:25~11:40)	C201教室	
		1KS	総合英語Ⅱ	片岡	(11:40~11:55)	S203教室		2K	耐震構造	草苅	(11:40~11:55)	C201教室	
		1KS	アドバンストコンピューティング	林裕	(11:55~12:10)	S203教室		2K	デジタルイメージ	千葉	(11:55~12:10)	C201教室	
	5時限目	1KS	科学技術表現技法	山田	(13:00~13:15)	S203教室		2K	構造解析Ⅱ	高橋剛	(13:00~13:15)	C201教室	
		1KS	応用解析学	池田	(13:15~13:30)	S203教室		2KS	ソフトコンピューティング特論	高木	(13:15~13:30)	C201教室	
		1KS	デザインプロポーザル	佐藤哲	(13:30~13:45)	S203教室		2S	アナログ高周波回路設計	高	(13:30~13:45)	C201教室	
	6時限目	1KS	コンピュータ設計工学	荒井	(13:50~14:05)	S203教室		2KS	物理学特論	楠津	(13:50~14:05)	C201教室	
		1KS	数値計算特論	荒井	(14:05~14:20)	S203教室					(13:50~14:05)		
		1K 1S	機械制御工学概論 量子統計工学	前田 坂口	(14:20~14:35)	C201教室 S203教室					(14:20~14:35)		
	7時限目	1K 1S	応用力学 ネットワーク工学特論	鈴木邦 戸谷	(14:40~14:55)	C201教室 S203教室					(14:40~14:55)		
		1K 1S	材料システム工学 計測工学特論	岩渕 松本	(14:55~15:10)	C201教室 S203教室					(14:55~15:10)		
		1KS	統計学	澤柳	(15:10~15:25)	S203教室					(14:05~14:20)		
	8時限目	1K 1S	空調設備 プラズマ工学	新任 佐々木	(15:30~15:45)	C201教室 S203教室					(15:30~15:45)		
		1K 1S	油空圧工学概論 ディジタル通信概論	小杉淳 山形	(15:45~16:00)	C201教室 S203教室					(15:45~16:00)		
		1K 1S	構造解析Ⅰ ソフトウェアアーキテクチャ	成澤 野口	(16:00~16:15)	C201教室 S203教室					(16:00~16:15)		
4月11日(水)					(13:00~13:15)						(13:00~13:15)		
	5時限目				(13:15~13:30)			2S	電磁波工学特論	本田	(13:15~13:30)	C201教室	
		1S	アルゴリズム特論	本間	(13:30~13:45)	S203教室		2S	ネットワークデザイン	高橋晃	(13:30~13:45)	C201教室	
	6時限目	1KS	宇宙システム工学	小松	(13:50~14:05)	S203教室					(13:50~14:05)		
		1K 1S	建設材料学 信号画像処理Ⅱ	三森 佐治	(14:05~14:20)	C201教室 S203教室					(14:05~14:20)		
		1K 1S	高齢者環境学 機能デバイス工学	佐藤彰 石山俊	(14:20~14:35)	C201教室 S203教室		2S	応用光学	中村	(14:20~14:35)	C201教室	
	7時限目	1KS	特別講義Ⅰ	神谷	(14:40~14:55)	S203教室							

トップページ

（出典　平成 24 年度専攻科前期特別時間割　別紙）

資料５－６－②－５

「学生用シラバス閲覧ページ」

学生情報　　Page 1 of 1

学　生　情　報

図書関係　図書館

学生関係　求人企業一覧　企業説明会　インターンシップ提出様式
学生相談室　学生の声を聞く会　学生の意見箱
奨学支援情報
体育館の使用割振（PDF）

教務関係　学習目標（PDF）
シラバス
欠課時数照会システム

お知らせ　授業評価アンケート

寮生関係　寮生数一覧　寮生名簿

その他　釧路工業高等専門学校防災マニュアル

http://www.office.kushiro-ct.ac.jp/office2/gakusei/gakusei.html　　2012/06/25

（出典　学生向け内部ホームページ）

（分析結果とその根拠理由）

毎年度１月の教務委員会において翌年度のシラバス入力が周知される。シラバスには学習に必要な情報や達成すべき目標，評価の方法が明示されている。前期開始当初に設定された各科目のガイダンスにおいてシラバスを用いた科目ガイダンスが行われ，学生はこの説明の後に各科目の履修選択をする。

これらのことから，教育課程の編成の趣旨に沿って，シラバスが作成され，事前に行う準備学習，教育方法や内容，達成目標と評価方法の明示等，内容が適切に整備され，活用されている。

観点５－６－③：　創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また，インターンシップの活用が図られているか。

（観点に係る状況）

創造特別実験Ⅰ（資料５－６－③－１）では，建築系の実験項目として，北海道という寒冷地における住宅外壁に必要なモルタルに関する実験を行っている。ここでは，高強度モルタルコンテストを行い，グループごとに工夫して作製するモルタルの強度を競わせることで創造性を育む教育を行っている。機械系の実験項目として，機械系３次元CADを準学士課程で修得している機械工学科出身学生を指導役とし，３次元CADによる空気抵抗を考慮した自動車の車体デザインを行い，風洞装置による測定で性能を競わせることで創造性を育む教育を行っている。創造特別実験Ⅱ（資料５－６－③－２）では電気・電子・情報系の実験を行い，電子情報システム工学専攻の学生が指導役となり，建設・生産システム工学専攻の学生が専門外の実験を主体的に行う形式としており，これにより，異分野に関する知識・技術の修得や専門外の技術者との協力関係構築といった経験を積ませている。

電子情報システム工学特別演習（資料５－６－③－２）では，LEGO社のMindStormキットを用いて，「正解が一つでない課題に対して実現可能な解を提案する」ことを行っている。キットを用いることで構造的な製作の負荷を減らし，課題を解決するアルゴリズムや実際のプログラミングに注力できる環境を整え，PBL型と創造型を兼ねる工夫をしている。

インターンシップⅠ（資料５－６－①－３）は必修科目であり，資料５－５－③－２及び３に示した要項や申し合わせにより実施している。ほとんどの学生は１年次に２週間程度企業や大学等研究機関などでインターンシップを行っている。平成23年度の実習先一覧を資料５－６－③－３に示す。また，選択科目としてインターンシップⅡも設定されている。

資料５－６－③－１

「平成 24 年度シラバス（創造特別実験Ⅰ（建築系））」

平成23年度

建設・生産システム工学専攻		創造特別実験Ⅰ（建築系）					
学年	専攻科1年	担当教員名	三森敏司・佐藤彰治・千葉忠弘・西澤岳夫・大根雪子				
単位数・期間		1単位	後期	週当りの開講回数	1回	専門共通・必修	学修単位1
授業の目標と概要		建築系の異なる3テーマのうち，1テーマを選択履修する実験である。基礎的な知識・技術を統合し駆使することによって課題を探求し，結果を解析・考察・説明する能力を習得する。さらに提示されたテーマに対して，実現可能な解を見つけるため，問題意識を持ってデザイン能力を発揮し，プレゼンテーションを通して成果を発表できる。					
		釧路高専目標	D:20%,E:80%	JABEE目標	d-2-b,d-2-c,e,h		
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		3テーマのうち，1テーマを選択する。建築系の実験は後期前半で終了し，後半は機械系テーマに変わる（実験の統合上，人数制限あり）。 実験における綿密な準備と計画及びプレゼンテーションにおいては情報技術を要するので，十分な自学自習が必要となる。					
到達目標		1. 専門分野で履修してきた基礎的な知識をベースに課題分析能力を身につける。 2. 自発的に実験を計画・遂行でき，問題解決策を見いだすことができる。 3. グループによる協調作業を行うことでコミュニケーション能力を養う。 4. 成果を論理的に集約し，報告書をまとめることができる。					
成績評価方法		合否判定：建築系60点以上，機械系60点以上であること。 最終評価：建築系，機械系の平均とする。 なお，すべてのテーマごとに報告書の評価（80%），プレゼンテーション（20%）により総合評価を行う。					
テキスト・参考書		各テーマごとに適宜参考プリント及びテキストを配布する。 参考書：JASS5鉄筋コンクリート工事（日本建築学会）[テーマ2]					
メッセージ		各自の発想力，問題解決能力，コミュニケーション能力が必要となります。 実験実習に臨む上で事前準備を十分に行ってください。					

授業内容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
前期中間試験	
前期期末試験	
テーマ1：地域問題にかかわる調査・提案 1. ガイダンス・調査（2回） 2. 各人の問題意識・提案発表（1回） 3. グループごとの具体的提案づくり（4回） 4. グループ発表・個人レポート作成（1回） テーマ2：高強度モルタルコンテスト 1. ガイダンス・モルタル調合設計演習（1回） 2. モルタル調合・試し練り・製造・供試体の作製（4回） 3. モルタル強度の測定，プレゼンテーション（3回）	テーマ1 地域問題を発見できる。 問題の解決策を考えることができる。 問題点をグループ討論できる。 提案をパネル化し発表できる。 テーマ2 モルタルの調合設計手法が理解できる。 モルタルの調合表・作製手順が説明できる。 モルタル調合設計のプレゼンテーションができる。
後期中間試験	実施しない
テーマ3：校内研究室等を対象とした環境実測調査 1. ガイダンス，グループ分け（1回） 2. 問題定義，対象室・計測要素の検討（1回） 3. 実測計画書作成・提出（1回） 4. 実測調査（3回） 5. レポート作成とプレゼンテーション（2回）	テーマ3 問題点をイメージし提案することができる。 環境計測要素について理解できる。 簡単な環境実測の方法が理解できる。 簡単な環境要素の分析，評価方法が理解できる。 明快なプレゼンテーションができる。
後期期末試験	

Created at Mon Jun 25 13:45:05 JST 2012

（出典 WEB サイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/　　釧路高専ホームページ）

資料５－６－③－２

「平成 24 年度シラバス（電子情報システム工学特別演習）」

平成24年度

電子情報システム工学専攻			電子情報システム工学特別演習				
学年	専攻科2年	担当教員名	石山俊彦				
単位数・期間		2単位	後期	週当りの開講回数	1回	専門展開・必修	学修単位3
授業の目標と概要		レゴ社のマインドストームを用いたロボット製作を通して、プロジェクトの進め方、まとめ方を学ぶ。制約があり、正解が1つでない課題に対して、実現可能な解を提案することで、エンジニアとしての素養を身につける。 釧路高専目標：D(50%)、E(50%)、JABEE目標：d-2-c, e, h				
		釧路高専目標	D:50%,E:50%	JABEE目標	d-2-c,e,h		
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		ロボット製作には、プログラミング、制御工学、計測工学、電子回路、コンピュータなどの広範囲な知識が必要とされる。関連分野の授業内容を確認しておくこと。					
到達目標		・専門分野で履修してきた知識をもとに、課題を解決することができる。 ・自発的に計画、遂行でき、課題の解決策を見出すことができる。 ・複数人による協調作業を行うことで、コミュニケーション能力を養う。					
成績評価方法		最終判定：計画書および最終報告書(60%：問題点の把握、独創性、論理性)、製作物の評価(30%：提案書提示の実現、機械としての性能)、プレゼンテーション(10%：説明能力、質疑応答)などにより総合的に判断し、60点以上を合格とする。					
テキスト・参考書		参考書：『ロボットレースによる 組込み技術者養成講座』ETロボコン実行委員会 毎日コミュニケーションズ 参考書：『Maximum Lego Nxt』Bagnall Variant Press 参考書：『マインドストーム・プログラミング入門』B. Bagnall CQ出版					
メッセージ		ロボット製作というプロジェクトを通して、与えられた制約の中での仕事の進め方、まとめ方を学ぶ。また、ロボット製作のプロジェクトは、2人1組のチームとして活動する。メンバー間のコミュニケーションに努めること。					

授業内容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
前期中間試験	
前期期末試験	
1. ガイダンスとレゴNXT説明(2回) 2. C言語プログラミングと基本課題の製作(2回) 3. 応用課題1の製作(4回)	・ロボット製作とプロジェクトについて理解できる。 ・C言語により、ロボットを制御することができる。 ・課題の解決策を見出すことができる。
後期中間試験	実施しない
4. 発表、コンテスト(1回) 5. 応用課題2の製作(5回) 6. 発表、コンテスト、まとめ(1回)	・課題の解決策についてプレゼンテーションできる。 ・プロジェクトを自発的に計画、遂行することができる。 ・主体的にプロジェクトを進めることができる。
後期期末試験	実施しない

Created at Mon Jun 25 13:59:26 JST 2012

（出典　WEB サイト tp://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/　釧路高専ホームページ）

資料５－６－③－３

「平成 23 年度インターンシップ実習先一覧」

学年	専攻	No.	実習先	期間
1	建設・生産	1	釧路綜合設計事務所	8/10～8/25
1	建設・生産	2	まじくる	8/1～8/10
1	建設・生産	3	三菱地所コミュニティ	7/25～8/5
1	建設・生産	4	遊学館	8/1～8/12
1	建設・生産	5	タカオ工業	8/1～8/11
1	建設・生産	6	まじくる	8/3～8/13
1	建設・生産	7	長谷川建築設計事務所	8/10～8/25
1	建設・生産	8	釧路工業技術センター	8/1～8/12
1	建設・生産	9	北海道庁	8/1～8/12
1	電子情報	1	北海道大学	8/16～8/25
1	電子情報	2	ＦＭくしろ	8/9～8/19
1	電子情報	3	まじくる	8/3～8/13
1	電子情報	4	ＦＭくしろ	8/9～8/19
1	電子情報	5	東芝システムテクノロジー	9/1～9/14
1	電子情報	6	アクティス	8/15～8/26
1	電子情報	7	遊学館	8/1～8/12
1	電子情報	8	東京工業大学	8/1～8/12
1	電子情報	9	（次年度受講）	
1	電子情報	10	日立情報制御ソリューションズ	8/26～9/7
1	電子情報	11	まじくる	8/3～8/13
1	電子情報	12	富士電機	8/16～8/26
1	電子情報	13	ＦＭくしろ	8/9～8/19
1	電子情報	14	つうけんアドバンスシステムズ	10/17～10/28
1	電子情報	15	アクティス	8/15～8/26

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

創造特別実験Ⅰ・Ⅱでは各種のテーマに両専攻の学生が取組み，異分野に関する知識・技術の修得や専門外の技術者との協力関係構築といった経験を積ませている。

電子情報システム工学特別演習では，「正解が一つでない課題に対して実現可能な解を提案する」

ことでPBL型と創造型を兼ねる工夫をしている。

インターンシップⅠは必修科目であり，また，選択科目としてインターンシップⅡも設定されている。

これらのことから，創造性を育む教育方法の工夫が図られ，また，インターンシップの活用が図られている。

観点５－７－①：　教育の目的に照らして，教養教育や研究指導が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

観点５－５－②で述べたように，本校の教育課程は，大分類として一般科目，専門共通科目，専門展開科目があり，それぞれが必修科目と選択科目から構成される。一般必修科目は総合英語Ⅰ，日本語表現技法，技術者倫理であり，一般選択科目には英語，数学，物理学に関して，準学士課程あるいは専攻科の一般必修科目を基礎として，より深く学修する科目群を設定している。また，専門共通科目においては，準学士課程の基礎とする学科により履修科目に条件を付け，準学士課程の学習内容と重複しないような教育課程としている。これらにより，専攻科においては，準学士課程の基礎の上に，技術者としての教養をより深く学修できるものとしている。

専攻科入学生の特別研究テーマ決定については，資料５－７－①－１により，入学前に決定する体制をとっている。最近の実績では，他高専から本校専攻科への入学および社会人特別選抜による入学がそれぞれ１名である。他高専からの入学生は本人および在籍高専の指導教員との連絡調整によってテーマ決定した。社会人特別選抜による入学者は，合格決定後，準学士課程在学中の指導教員と連絡調整し，テーマ決定した。

平成23年度専攻科修了生の研究テーマ及び指導教員一覧を資料５－７－①－２に示す。いずれも準学士課程の基礎の上に，より研究を発展させた成果である。これらの研究成果の一部は資料５－７－①－３のように，各種学会等で発表されている。

本校では，平成21年度から23年度まで，大学評価・学位授与機構による学士審査において，専攻科修了生が全員受験し，全員が「可」の評価を受けている（資料５－７－①－４）。学位申請は学生個人の活動であるが，専攻科における教育指導の現状を考慮すれば，このことは，教養教育，研究指導の適切性を示していると判断できる。

資料５－７－①－１

「特別研究テーマ決定に関する資料」

◎特別研究について

１．指導教員

（1） 入学予定者に対して，入学前の一定の時期におおよその特別研究テーマを提示し，当該テーマの中から入学予定者が研究希望のテーマ選択するものとする。(H16.1.20)

（2） 特別研究の指導教員の決定にあたっては，入学予定者の出身学科において調整の上，決定するものとするが，それによらない場合については学科間において協議の上決定するものとする。(H17.1.23)

２．特別研究テーマの調整

特別研究テーマの担当教員については，卒業研究担当教員と異なる場合を可とする。(H16.6.18)

（出典　専攻科申し合わせ類集　p. 2）

資料５－７－①－２

23 年度テーマ指導教員一覧

平成23年度　専攻科2年特別研究テーマ及び指導教員

○参加学生

専攻名	氏名	性別	テーマ	指導教員
建設・生産		男	エチレン－水素混合燃料のデトネーション特性	川村淳浩
建設・生産		女	阿寒国立公園集団施設地区における景観ガイドライン作成に関する調査研究	千葉忠弘
建設・生産		男	低Ni-高Mnステンレス鋼の耐食性評価	岩渕義孝
建設・生産		男	建築物に作用する風圧力に及ぼすピロティの影響	加藤雅也
建設・生産		男	低温加工による展伸用マグネシウム合金(AZ31)の結晶粒制御	岩渕義孝
建設・生産		男	建築用木材における材料特性の耐環境性 および高強度圧縮木材の開発	高橋剛
建設・生産		男	モンテカルロシミュレーションを用いた色発現に基づく病態皮膚の画像再現	前田貴章
建設・生産		男	物理モデルによる3次元箱詰め問題へのアプローチ	荒井誠
建設・生産		男	家畜改良センター十勝牧場に現存する旧陸軍施設に関する調査研究	西澤岳夫
建設・生産		男	換気システムを兼ねた放射・対流併用暖房装置の開発	佐藤彰治
建設・生産		男	１階壁量の異なる建築物に作用する津波荷重の比較	加藤雅也
建設・生産		男	現在のライフスタイルに則したインテリア評価手法の開発	佐藤彰治
建設・生産		男	球状黒鉛鋳鉄の水脆化とミクロ組織の関係	岩渕義孝
建設・生産		男	Ni-Al系金属間化合物と鋼材の固相接合	岩渕義孝
電子情報		男	複数の距離センサの組み合わせによるロボットの環境認識	梶原秀一
電子情報		男	SiC成膜における自己バイアスの制御と発光強度分布の変化	佐々木敦
電子情報		男	MPPT制御法を用いた温度差発電・太陽光発電の最大出力電力条件設定システムの構築	坂口直志
電子情報		男	非破壊検査応用SQUID磁束計システムの高速化に関する研究	松本和健
電子情報		男	ACOによる3次元粒子追跡法に関する研究	高木敏幸
電子情報		男	Squeakを用いた学習支援システムの開発	野口孝文
電子情報		男	PLD法による超電導MgB２薄膜の作製と評価	松本和健
電子情報		男	色素増感太陽電池における光閉じ込め効果の研究	坂口直志
電子情報		女	トランポリン競技における跳躍高に対するベッド沈み込み距離の画像解析	山田昌尚
電子情報		男	カメラ画像の幾何学的歪みの補正	林裕樹
電子情報		男	メンタルワークロード測定のための真電収集システムにつおての検討	佐治裕
電子情報		男	局所特徴量を用いた画像分類	天元宏
電子情報		男	KdV方程式のソリトン解の初期値問題	鈴木俊哉
電子情報		男	ニューラルネットワークとポートフォリオ理論を応用した株式投資	神谷昭基
電子情報		男	レーザレンジファインダを用いたロボットの移動制御	梶原秀一
電子情報		男	多層膜回折格子を用いた表面プラズモン共鳴センサの作製	中村隆
電子情報		男	手掌画像を用いた個人識別	佐治裕
電子情報		女	監視カメラ映像の輝度抽出によるロバストな車両検出	浅水仁
電子情報		男	協調動作を用いた建設機械による廃棄物分離・選別機能の実現	千田和範
電子情報		男	画像処理を用いた粒子位置の測定および遺伝的アルゴリズムによる粒子追跡法の開発	高木敏幸
電子情報		男	ゲームを用いたプログラミング学習環境	山田昌尚
電子情報		男	シーケンス制御に関する演習教材の作成	松本和健
電子情報		男	二値画像への情報埋め込みについて	佐治裕
電子情報		男	SQUID磁束計を用いた磁気顕微鏡についての検討	松本和健
電子情報		男	雑音環境下での単語音声認識のロバスト化	大貫和永
電子情報		男	慣性ロータを持つ倒立2輪車の安定化制御	梶原秀一

（出典　学生課資料）

資料５－７－①－３

「特別研究活動記録」

研究活動目録（平成22年10月～平成23年９月）

氏　名	研　究　課　題	研究費名	期　間	研究代表者
舘　下　徹　志	戦時下における<ユーモア>表象に関する研究	挑戦的萌芽研究	平成23-25年度	舘下　徹志

５．卒業研究指導発表

指導教員氏名	発　表　大　会　名	学生氏名	発　表　題　目	発表年月日
岩　渕　義　孝 小　林　　勲	北海道学生会第40回学生員卒業研究発表講演会	佐藤　広隆	あらゆる環境に対応できるハイブリッド型表面改質層の創製研究	2011.3.5 室蘭工業大学
		笹森　一平 小田島章太	金属切削片プリカーサー法による発泡金属の創製	
佐　藤　彰　治	日本建築学会北海道支部主催環境工学系卒業論文発表会	伊藤　嘉朗	植栽と換気設備を備えた北側居室空間の熱環境調査	2011.3.10 北海道大学
		前岡　良輔	学寮居室を対象とした熱環境改善のための調査研究	
		土屋　貴博	釧路高専の実験・演習室における不均一熱環境調査	
西　澤　岳　夫	第84回日本建築学会北海道支部研究発表会	瀧川　大地	北方先住民族住居を用いた実践的教育プログラムの開発その1　北方先住民族住居を用いた教材キットの開発 日本建築学会北海道支部研究報告集　No.84　pp.523-526	2011.7.2 札幌市立大学

６．専攻科特別研究指導発表

指導教員氏名	発　表　大　会　名	学生氏名	発　表　題　目	発表年月日
岩　渕　義　孝	第18回機械材料・材料加工技術講演会	高田　竜太	SUS304型ステンレス鋼鋳造材料の機械的性質に及ぼす支配因子	2010.11.27 東京大学
岩　渕　義　孝	第16回高専シンポジウム	森　謙有	SUS304ステンレス鋼の超音波探傷検出能に及ぼす諸因	2011.1 米子高専
岩　渕　義　孝	北海道学生会第40回学生員卒業研究発表講演会	世良　俊幸	低温加工による展伸用マグネシウム合金（AZ31）の結晶粒制御	2011.3.5 室蘭工業大学
		小松　直樹	低Ni-高Mnステンレス鋼の耐食性評価	
		山吉　郁也	Ni-Al系金属間化合物と鋼材の固相接合	
		森　謙有	球状黒鉛鋳鉄の水脆化とミクロ組織の関係	
高　橋　　剛	日本機械学会北海道支部 第49回講演会	田中　康基	建築用木材における材料特性の耐環境性および高強度圧縮木材の開発	2010.11 北海道工業大学
川　村　淳　浩	第43回流体力学講演会	朝井　裕	エチレン・水素混合燃料のデトネーション特性	2011.7.7 早稲田大学
戸　谷　伸　之	平成22年度道内国立高専専攻科研究発表・交流会	石原　翼	センサネットワークを用いた自然環境情報取得・提供に関する基礎研究	2011.11.19 函館高専
千　葉　忠　弘	第84回日本建築学会北海道支部研究発表会	菊地　祥子	阿寒国立公園集団施設地区における景観ガイドライン作成に関する調査研究 日本建築学会北海道支部研究報告集　No.84　pp.455-458	2011.7.2 札幌市立大学

７．表彰

受賞者名	授　与　機　関　名	賞　名	受賞研究題目	受賞年月日
荒　井　　誠	独立行政法人国立高等専門学校機構	国立高専機構理事長賞	創造的機械技術者育成のための設計教育高度化の実践	2011.8

（出典　釧路工業高等専門学校紀要第45号 p.135）

資料５－７－①－４

「全員合格を示す資料」

○平成 21 年度

３月定例教務委員会議事概要

日時： 平成２２年３月４日（木）１５時０５分～１８時００分

（略）

(8) 学位授与審査について

委員長から，学士の学位授与申請に係る「学修成果・試験」の論文審査について
は，平成２０年度入学者２５名全員が合格した旨の報告があった。

（略）

（出典）平成 21 年度 3 月教務委員会議事概要）

○平成 22 年度

日時： 平成２３年３月７日（月）１３時３０分～１６時２５分

（略）

(5) 学位授与申請に係る学修成果試験の審査結果について

委員長から，学士の学位授与申請に係る「学修成果・試験」の論文審査については，
平成２１年度入学者２６名全員が合格した旨の報告があった。

（略）

（出典）平成 22 年度 3 月教務委員会議事概要）

○平成２３年度

３月定例教務委員会議事録

日時： 平成２４年３月５日（月）１０時２０分～１２時１０分

（略）

(7) 学位授与申請に係る学修成果試験の審査結果について

専攻科長から，既に運営会議で報告しているが，今年度申請した 36 名の全員が合格
した旨の報告があった。

（略）

（出典　平成 23 年度 3 月教務委員会議事概要）

（分析結果とその根拠理由）

本校の教育課程は，大分類として一般科目，専門共通科目，専門展開科目があり，それぞれが必修科目と選択科目から構成される。専攻科においては，準学士課程の基礎の上に，技術者としての教養をより深く学修できるものとしている。

専攻科入学生の特別研究テーマ決定については，入学前に決定する体制をとっている。

平成23年度専攻科修了生の研究は，いずれも準学士課程の基礎の上に，より研究を発展させた成果である。

本校では，平成21年度から23年度まで，大学評価・学位授与機構による学士審査において，専攻科修了生が全員受験し，全員が「可」の評価を受けている。学位申請は学生個人の活動であるが，専攻科における教育指導の現状を考慮すれば，このことは，教養教育，研究指導の適切性を示していると判断できる。

これらのことから，教育の目的に照らして，教養教育や研究指導が適切に行われている。

観点５－８－①：　成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され，学生に周知されているか。また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，修了認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

本校専攻科の修了認定は学則第57条（資料５－８－①－１）に定められ，毎年度当初に全専攻科生の出席を確認した上で専攻科ガイダンス（資料５－８－①－２）が行われ，専攻科の教育課程，専攻科における履修と単位修得，在籍期間，修了要件，試験の60点合格など，専攻科における学修及び成績評価・単位認定に関する説明を行い，専攻科生に周知している。また，観点５－６－②で述べたように，科目ガイダンスにおいて，シラバスを用いた科目説明が行われ，科目ごとに成績評価方法について専攻科生に周知している。

科目担当教員はシラバス記載の評価方法に従って成績評価・単位認定を行い，教務委員会において１学年修了時の単位修得状況は本人及び保護者への通知を行い（資料５－８－①－３），２学年については，教員会議（卒業・修了認定）において修了認定を行っている（資料５－８－①－４）。

資料５－８－①－１

「学則」（抜粋）

第 11 章　専攻科

「前略」

第 57 条　専攻科に２年以上在学し，所定の授業科目を履修し，62 単位以上修得した者については，修了を認定する。

（出典　平成 23 年度学生便覧　p. 12）

資料５－８－①－２

「専攻科ガイダンス配布資料」（抜粋）

平成 24 年度専攻科(第１学年)ガイダンス日程

実施日：平成 24 年４月９日（月）　　場所：S203 教室

時　間	事　項
8：50	○専攻科長挨拶 ○両専攻長挨拶 ○配付資料確認（修学支援係長） ・年度当初の日程　・前期時間割(特別時間割を含む) ・履修届，他専攻授業科目履修届（４月 12 日(木)までに提出） ・年間行事予定表　・シラバス ・学位授与制度の概要　・教科書等一覧 ・保証人異動届，学生身上異動等届 ・JABEE プログラムについて ・学生便覧　・連絡先登録用紙 ・計算機演習室利用申請書 ○専攻科の概要 (1)教育課程　(6)e－ラーニング (2)単位制、選択制　(7)海外短期留学 (3)在籍期間　(8)修了要件 (4)試験(60 点合格)　(9)緊急連絡システム登録 (5)学位取得 【休　憩】 ○履修について (1)学位取得に係る単位　(3)特別時間割と履修計画 (2)開設科目の説明(必修・選択) ○その他 (1)学内の施設利用 ・専攻科棟 (2)学生生活関係 ・掲示(専攻科 HP)、学生相談室、喫煙 (3)その他 ・教科書購入 ・広報に関わる個人情報の扱いについて
10：25	終了

（出典　専攻科ガイダンス配布資料）

資料５－８－①－３

「専攻科１学年修了時単位修得状況報告」

４月定例教務委員会議事概要
日　　時　：　平成２３年４月５日（火）１０時００分～１２時０６分

（略）
・専攻科の成績確認について
　専攻科長から，学生の就職にかかる成績証明に必要なことから，専攻科の成績確認を半期毎に行いたい旨の提案があり，審議の結果，確認は１年毎とし，成績一覧表を基に学科長を通じて確認願うこととした。
　また，学生本人および保護者に通知することとした。
（略）

（出典　平成 23 年度 4 月　教務委員会議事概要）

資料５－８－①－４

「専攻科２年　修了認定審議状況」

教員会議（卒業・修了認定）議事録
日 時：平成 24 年３月８日（木）15：02～15：24
（略）
１．　専攻科修了認定について
　審議に先立ち校長から，今年度の修了予定者に係る単位修得状況については，資料１のとおりであるが，評価訂正の有無について，出席教員に対し確認が行われた。
　これに対し，訂正の申し出はなかったため，引き続き専攻科長から，資料１に基づき，次のとおり説明があった。
・平成 19 年度入学生２名，平成 22 年度入学生 38 名，計 40 名のうち，建設・生産システム工学専攻 12 名および電子情報システム工学専攻 23 名が修了要件を満たしている。
・一方で，建設・生産システム工学専攻１名および電子情報システム工学専攻４名が，修了要件を満たしていない。
　これを受け，校長から，本案をもって 35 名を修了認定したい旨発言があり，審議の結果，了承された。
　なお，修了認定されなかった５名の学生について，今後の進路等に係る状況の確認が求められ，所属する学科長から各々様子が報告された。
　（略）

（出典　教員会議（卒業・修了認定）議事録）

（分析結果とその根拠理由）

本校専攻科の修了認定は学則第57条に定められている。毎年度当初に専攻科ガイダンスが行われ，専攻科における学修及び成績評価・単位認定に関する説明を行い，専攻科生に周知している。また，科目ガイダンスにおいて，シラバスを用いた科目説明が行われ，科目ごとに成績評価方法について専攻科生に周知している。

科目担当教員はシラバス記載の評価方法に従って成績評価・単位認定を行い，教務委員会において１学年修了時の単位修得状況報告，２学年の修了認定審議を経て，教員会議（卒業・修了認定）において専攻科生の修了認定を行っている。

これらのことから，成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され，学生に周知され，また，これらの規定に従って，成績評価，単位認定，修了認定が適切に実施されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

教育課程の編成において，２段階学科選択制度を実施し，学生及び保護者から高い満足度を得ていること，さらに１学年の専門科目として学科によらない「技術者としての共通教育」を実施している。

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準５の自己評価の概要

（準学士課程）

２段階学科選択制度の導入に伴い，１年次では，技術者として最低限必要となる基礎能力の育成のために基礎専門的な科目を配し，２年次以降については，一般科目と専門科目を楔形に配置する教育課程を編成しており，各学科ともに一般科目と専門科目が学年ごとに適切に配置されている。また，各学科の教育課程は学習目標の各項目に対してバランス良く配置されており，専門科目は，学科ごとに定める実践的技術者として備えるべき内容・水準が達成されるように，また，職業に必要な実践的な能力を養成するために，適切に配置されている。多くの学科・科目において教育内容に応じた授業方法の工夫や創造性を育む授業方法の工夫が行われている。また，一般教育や課外活動，学生会活動の指導を通じて豊かな人間性の涵養に関する取組が適切に行われている。成績評価や単位認定の方法は学則等で明確に定められており，科目ごとの評価方法はシラバスに明記されている。

（専攻科課程）

本校の専攻科課程は，準学士課程の複数学科を基礎とする複合型専攻として，建設・生産システム工学専攻と電子情報システム工学専攻の２専攻により構成されている。専攻科の教育課程は，両専攻に共通に開講される一般科目と専門共通科目，専攻ごとに開講される専門展開科目により構成されている。一般科目においては教養教育，コミュニケーション力等の学習目標を，専門共通科目においては専門を越えて他分野の知識・技術の修得を，そして専門展開科目において専門をより深く学ぶように構成されている。インターンシップを必修とし，実戦的な経験を積むことへのニーズに応え，また海外との交流については短期留学派遣および海外からの留学受入を行っている。単位認定，単位修得，修了認定については，専攻科修了要件，学士審査申請要件，さらにJABEEプログラム修了要件という複雑な体系の中，ガイダンス等で十分に説明し，周知を図っている。また，専攻科修了については，教務委員会及び教員会議において認定作業を行っている。

基準６　教育の成果

（１）観点ごとの分析

観点６－１－①：　高等専門学校として，その目的に沿った形で，課程に応じて，学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力，養成する人材像等について，その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点に係る状況）

（準学士課程）科目ごとに成績評価基準がシラバスに定められ（資料６－１－①－１），シラバス記載内容チェックシートにより相互チェックが行われている(資料６－１－①－２)。各科目の評価を基に，卒業・修了認定会議において成績一覧表から達成状況の把握・評価を行い，卒業認定基準に沿って認定を行っている（資料６－１－①－３～６）。

学生自身による達成度評価が毎年行われており，集計結果は教務委員会に報告され,学校として把握している（資料６－１－①－７，８)。

また，年度ごとの進級・原級・退学・除籍など学生の達成状況の集計（資料６－１－①－９）は教務委員会において分析・評価され教育方法改善や学生支援の取組に活用されている。

（専攻科課程）科目ごとにシラバスに定められた成績評価方法に基づいて成績一覧表を作成し，教務委員会において達成状況の把握し，修了要件を検証した上で，全教員による卒業・修了認定会議において修了認定を行っている(資料６－１－①－４，10，11）。

修了生が複合型専攻の目的を満たすために，毎年度の入学生向けに科目分類表を作成し，他高専からの入学があった場合も，その学生用の科目分類表を作成している（資料６－１－①－12，13)。さらに出身学科ごとに選択科目の条件を一覧にした選択条件表を学生にも閲覧させており慎重を期している（資料６－１－①－14)。

学生自身による達成度評価が毎年行われており，集計結果は教務委員会に報告され,審議している（資料６－１－①－７，８)。

資料６－１－①－１

「シラバス記入要領（平成 24 年度版)」

「前略」

３．４ 成績評価方法

評価方法と評価基準への記入に際して

・合否判定方法，成績評価の方法およびそれらの基準を明確にする必要がある．すなわち，与えられた判定および評価に対して，その根拠が学生にわかるような表現で基準を書くことが要求される．

・具体的には，合否判定および成績評価に使用するデータ（定期試験・小テスト，評価基準の明確なレポート・製作物・小論文・演習・プレゼンテーションなど）のうち，合否判定に用いたデータがすべて保管され，その資料データから評価点を算出する算出式を明確に記載することが必要である．最終評価に用いたその他の資料は保管の必要はないが，記録は学生への説明に用いることがある．また，これらの**評価方法と算出式**は，年度当初の授業ガイダンスにおいて**必ず学生に説明する**ことが必要である．シラバスのスペースに書ききれない場合は，補足資料を作成するとともに，シラバス入力ページから補足資料として登録する．再試験の方法，評価基準も記入すること．また，それらは成績保管資料の記述と同一であること．

・JABEE 委員会の成績評価方法に関するガイドライン（2005／12活動報告より)および教育システム評価改善委員会の検討結果(2006/12月第 5 回委員会)を参考にして，担当科目に関する適切な評価方法を設定すること．

☆合否判定および最終評価基準に加え，再試験の判定方法も明記しなければならない．
☆学習態度などを最終評価基準に入れている場合は，その内容も明記しなければならない．補足資料を活用し，評価方法について学生に周知徹底することを教員に注意喚起する．

(1)講義を中心とした授業の成績評価方法

a)　レポートで合否判定をしない授業に関する評価方法

①合否判定（定期試験，小テストを含む）＜６０の場合（不合格）

最終評価＝合否判定の点数

②合否判定≧６０の場合（合格）

最終評価＝合否判定の点数±その他の評価点（±１０点以内）

ただし，最終評価の最高点は１００点，最低点は６０点とする．

注　合否判定に用いた定期試験・小テストなどはすべて保管する．

注　最終評価に用いたその他の評価について保管する必要はないが，学生に対する説明が必要である．

注　「その他の評価点」については，別途例示する．

b）レポートを含めた合否判定を行う授業に関する成績評価方法

講義を中心とした授業は基本的にレポート点数を合否判定に含めないが，以下のような科目の特徴がある場合，レポートを含めた合否判定を行ってもよいものとする．

・人文社会系など，講義中心ではあるが，レポートが成績評価の重要項目である場合．

・講義系のなかで，重要な実験や調査などが含まれており，このような実験レポートや調査結果のレポートが成績判定に重要である場合．

資料６－１－①－１（続き）

記入例

例１：(試験による評価が主の場合)

合否判定：　４回の定期試験の結果の平均が 60 点を超えていること.

最終評価：　４回の定期試験の結果の平均（90%）と小テストの結果（10%）の合計

例２：(レポートによる評価が主の場合)

5 回程度のレポート提出を行い，全レポート評価の平均点（70%），製作物の評価（20%），プレゼンテーション（10%）により合否判定する．60 点以上で合格である．最終成績評価は合否判定点と同じである．

注　レポート，製作物，プレゼンテーションの評価基準は授業において配布・説明すること.

注　学生ごと，グループごとに異なる課題を課して評価する場合であっても，課題によらず共通に評価する基準，課題ごとに評価する個別の基準を明示しなければならない．必要に応じて，補足資料としてこれらの基準を登録すること.

注　すべての項目について証拠資料の保管が必要となる.

（２）講義を中心とした授業以外の評価方法の例

① 実験（工学実験・機械実習）：　学科で共通の評価基準を作成し記載

例）　実験（30%）＋レポート（60%）＋実験態度（10%）　など

注　学科で共通の評価基準やレポートごとの評価基準あるいは実験態度の評価基準は，学生に十分に説明するとともにシラバス補足資料としてシラバスページに登録すること.

注　科目個別，テーマ個別の評価基準はシラバスおよび補足資料として明示すること.

② 試験のない演習・実習（計算機実習・製図）：　共通のものは学科で基準作成し記載

例）　レポート（80%）＋授業態度（20%）　など

注　学科で共通の評価基準やレポートごとの評価基準，あるいは授業態度の評価基準は，学生に十分に説明するとともにシラバス補足資料としてシラバスページに登録すること.

③ 試験のある演習・実習：共通のものは学科で基準作成し記載

例）試験（30%）＋レポート（50%）＋授業態度（20%）など

注　学科で共通の評価基準やレポートごとの評価基準，あるいは授業態度の評価基準は，学生に十分に説明するとともにシラバス補足資料としてシラバスページに登録すること.

④ 卒業研究の複数教員による採点方法：学科で共通の評価基準を作成し記載するが，以下の答申内容を満たす方法で作成する.

・複数の教員による評価を行う.　具体的方法は学科にて作成

・中間発表(10%)，卒業研究発表(30%)，卒業論文(25%)，卒業研究期間中に指導教員が所定項目について複数回の口頭試問(25%)，研究態度(10%)

・卒業研究期間中に指導教員が行う所定項目についての複数回の口頭試問時期は中間発表前，ゼミ，卒業研究発表前とする.

注　学科で共通の評価基準や口頭試問の評価基準，あるいは研究態度の評価基準は，学生に十分に説明するとともにシラバス補足資料としてシラバスページに登録すること.

「以下略」

（出典　シラバス記入要領（平成 24 年度版）　pp. 2－3）

資料６－１－①－２

「シラバス記載内容　チェックシート」

シラバス記載内容　チェックシート

提出　　年　　月　　日

科目名	担当教員名	チェック者名

１．以下の項目について，正しく記入されているか．
□学科，　□科目名，　□学年，　□担当教員名，　□単位数・期間
□週当りの開講回数，　□必修・選択の別，　□履修単位・学修単位の別（□学修単位の種類）

指摘事項：

２．授業の目標と概要
□釧路高専目標が記入されているか．
□複数の目標にまたがる場合，割合が記入されているか．
□ＪＡＢＥＥ目標が記入されているか．
□目標のキーワードあるいはそれに関連する内容が記述されているか．
□科目の関連が記載されているか．

指摘事項：

３．履修上の注意
□準備する用具を明記しているか．
□前提となる知識を明記しているか．
□自学自習を促す内容を明記しているか．（□演習　□レポート　□小テスト回数　□その他）

指摘事項：

４．到達目標
□目標のキーワードに関連する到達目標になっているか．
□「～できる」という言い切りの文末になっているか．
□到達度を簡潔で明確に判定できる記述になっているか．

指摘事項：

資料６－１－①－２（続き）

５．成績評価方法

□合否判定方法が明確に記述されているか.

□成績評価方法が明確に記述されているか.

□再試験の判定方法が明確に記述されているか.

□成績評価方法に関するガイドラインを逸脱していないか.

指摘事項：

６．テキスト・参考書

□使用するテキストを明記しているか.

□参考書（あるいは，それに代わるもの）を例示しているか.

□参考書を３種類以上示しているか.

指摘事項：

７．メッセージ

□履修にあたっての留意事項を記述しているか.

指摘事項：

８．授業の内容

□授業期間ごとの履修項目を記載しているか.

□履修項目ごとの授業回数を明示しているか.

□定期試験の有無を明示しているか.

□授業期間ごとの達成目標を記載しているか.

□達成目標は学生が自己評価しやすいように簡潔に記述しているか.

指摘事項：

（出典　シラバス記載内容　チェックシート）

資料６－１－①－３

「本科生の成績一覧表」
（訪問調査時に現地にて閲覧）

資料６－１－①－４

「教員会議（卒業・修了認定）議事録」

日 時：平成 24 年３月８日（木）15：02～15：24
場 所：会議室
出席者：69 名 欠席者：６名

議事に先立ち，修学支援係長から配布資料の確認があった。
・資料１ 平成 23 年度 専攻科修了判定一覧（案）
・資料２ 欠点学生一覧・総欠課制限時数超過学生一覧
・参考資料 １／５欠課超過学生の成績一覧
※ 以下は，数人に一部で机上配付
・Ｂ４判 ５年生の「第９回（2/29）欠課時数集計表」
・Ｂ４判 ５年生の「認定会議用成績一覧表」
・Ｂ４判 専攻科の「学業成績証明書の写し」

引き続き修学支援係長から，以下のとおり説明があった。
・本科卒業及び専攻科修了対象者に係る本日の資料は，教務システム入力期限の３月５日（金）15 時までに入力された成績評価を基に作成している。
・本日配付の全ての資料については，会議終了後，回収する。

審議事項
１． 専攻科修了認定について
審議に先立ち校長から，今年度の修了予定者に係る単位修得状況については，資料１のとおりであるが，評価訂正の有無について，出席教員に対し確認が行われた。
これに対し，訂正の申し出はなかったため，引き続き専攻科長から，資料１に基づき，次のとおり説明があった。
・平成 19 年度入学生２名，平成 22 年度入学生 38 名，計 40 名のうち，建設・生産システム工学専攻 12 名および電子情報システム工学専攻 23 名が修了要件を満たしている。
・一方で，建設・生産システム工学専攻１名および電子情報システム工学専攻４名が，修了要件を満たしていない。
これを受け，校長から，本案をもって 35 名を修了認定したい旨発言があり，審議の結果，了承された。
なお，修了認定されなかった５名の学生について，今後の進路等に係る状況の確認が求められ，所属する学科長から各々様子が報告された。

資料６－１－①－４（続き）

２．本科卒業認定について

審議に先立ち校長から，評価訂正の有無について，出席教員に対し確認が行われ，神谷教員から，資料２「欠点学生一覧」のうち，情報工学科 Ａの情報論について，33 点を 60 点に訂正する旨の発言があった。

(1) 欠点学生について

教務主事から，資料２に基づき，次のとおり説明があった。

・只今の評価訂正に伴い，情報工学科 Ａは，卒業対象者となった。

(2) 総欠課制限時数超過学生について

教務主事から，本件に係る学生については３月定例教務委員会において，正当な理由の有無について審議がなされ，「正当な理由なし」として了承されている旨の報告があった。

引き続き教務主事から，参考資料に基づき，１／５欠課超過学生については，超過科目数が５科目以内であることから，既に各教科担当教員において再試該当者として取扱い，その結果の評価訂正を反映したものである旨の説明があった。

(3) 卒業認定について

校長から，以下のとおり説明があった。

・本科卒業予定者に係る卒業認定資料については，「認定会議用成績一覧表」および「欠課時数集計表」のとおりとなっている。

・以上から，卒業要件を満たした卒業対象者は，機械工学科 27 名，電気工学科 29 名，電子工学科 33 名，情報工学科 34 名，建築学科は○○君を除く 34 名，計 157 名となる。

・うち，授業料未納者が１名おり，年度内の授業料納入が条件となる。

これを受け，校長から，本案をもって 157 名を卒業認定したい旨発言があり，審議の結果，了承された。

なお，卒業認定されなかった１名の学生について，今後の進路等に係る状況の確認が求められ，所属する学科長から様子が報告された。

また，教務主事から，授業料納入に関して条件付きの卒業認定となった学生について，以下のとおり補足説明があった。

・卒業式前日までに授業料納入が確認された場合は，式典へは出席できることとするが，プログラム等には掲載されない。また，卒業証書番号は，学科毎の連番にはならない。

・卒業式前日までに確認されなければ，式典へは出席させることはできない。

・年度末までに納入が確認された場合は，卒業証書を渡すことができる。

・年度末までに納入されなかった場合は，除籍となる。

・督促については，経理で行っているが，卒業式等に関する学生への指導は，教員が行うこととなるので，以上のことをご承知おき願いたい。

以上

（出典　平成 23 年度教員会議（卒業・修了認定）議事録）

資料６－１－①－５

「教員会議（進級認定）議事録」

日 時：平成 24 年３月 22 日（木）15：50～17：15
場 所：会議室
出席者：６６名 欠席者：８名

議事に先立ち，修学支援係長から配布資料の確認があった。
・資料１ 再試験非該当者一覧
・資料２ 平成２３年度未修得進級者成績一覧表
・資料３ 再試験結果欠点者一覧
・資料４ 修了退学願提出者一覧について
・資料５ 復学・退学・休学予定者一覧
・資料６ 学業成績証明書（専攻科第１学年）
・平成 23 年度 ２段階学科選択制度 第４回アンケート調査結果について
※ 以下は，数人に一部で机上配付の参考資料
・Ｂ４判 （参考資料）認定会議用成績一覧表

引き続き修学支援係長から，以下のとおり説明があった。
・本日の資料は，評価一覧表の提出期限である３月 19 日（月）17 時までに提出された評価を基に作成している。
・本日配付の資料６および参考資料（Ｂ４判）については本会議終了後，回収する。
・資料の訂正について，以下のとおり。
－ 資料３（２ページ）再試験の結果合格となっていたため削除する。
２Ｅ：Ａ，Ｂ，Ｃ，Ｄ，Ｅ，Ｆ 資料３（７ページ）再試験の結果合格となっていたため削除する。
４Ｊ：Ｇ「電磁気学」
－ 資料３（２ページ）休学のため削除する。
２Ａ：Ｈ
また，審議に入る前に，校長から，評価訂正の確認をする旨が述べられ，資料３に該当する者のうち，資料３に関して評価一覧表提出期限後の評価について，担当教員から訂正が行われた。

審議事項

１．再試験非該当者について
校長から，資料１の学生のうち，退学希望者以外は原級となる旨の説明の後，４年電気の学級担任から，Ｉ，Ｊ，Ｋ，Ｌ，Ｍの５名も退学希望である旨の説明があった。

資料６－１－①－５（続き）

引き続き，校長から，資料１の学生 55 名のうち，退学希望者 32 名を除く 23 名の原級について提案があり，審議の結果，了承された。
なお，修了退学希望者については，議題４での審議となる旨の補足説明があった。

２．未修得科目の認定について
校長から，平成 23 年度未修得進級者の成績について，資料２のとおりである旨の説明があり，審議の結果，合否の確認がなされた。

３．再試験結果欠点者について
校長から，本議題について教務主事から説明願う旨の依頼があり，教務主事から以下のとおり説明があった。
・資料３に基づき，60 点未満の科目のある者について審議し，未修得進級または原級を決定する。
・議題２の「未修得科目の認定について」で合否判定の結果「否」となった者については，本議題における再試験欠点科目と未修得進級科目により，進級または原級を判定することとなる。
校長から，各学科と一般教育科担当との間で，既に事前打合せは行われていることから，１年生はクラス担任から，２～４年生は各学科長から，「未修得進級」か「原級」について報告願いたい旨が述べられ，未修得進級 47 名，原級 24 名が，審議の結果，了承された。
なお，学科長からの報告の際，資料５に載っていない以下の５名の学生について退学希望である旨の説明があった。
・２Ｊ：Ｎ（修了希望）
・４Ｍ：Ｏ
・４Ｅ：Ｐ，Ｑ，Ｒ

４．修了退学について
校長から，本議題について教務主事から説明願う旨の依頼があり，教務主事から以下のとおり説明があった。
・申し合わせに該当している者について，審議のうえ，全て 60 点にして修了退学を認める。
・修了退学願を提出できる条件については，1/3 欠課オーバーの科目が無い者及び 1/5 欠課オーバーの科目が１～３年は４科目以内であること。
・欠点科目が，１年は９科目以内，２～３年は 10 科目以内であること。
・議題３で報告のあった２ＪＮを含め，資料４の学生については，全員が修了退学要件を満たしている。
引き続き教務主事から，特に異議がなければ，該当学生 26 名の欠点科目をすべて 60 点にして，「修了退学」とすることについて提案があり，審議の結果，了承された。

資料６－１－①－５（続き）

５．復学・退学・休学について

校長から，本議題について教務主事から説明願う旨の依頼があり，教務主事から資料５について以下のとおり説明があった。

なお，当該学生の指導担当教員から，電子情報システム工学専攻２年のＳについても退学希望である旨の報告があった。

・復学については，３月定例教務委員会において，審議・了承されている。
・退学願提出者について，本会議での報告も併せて本科 49 名，専攻科２名となる。
・１年１組Ｔについては，欠点科目がないため，議題４には該当しなかった。
・退学にあたっては，授業料の納入が条件であり，今年度は３月 30 日（金）までに納入が確認されなければ除籍となる。その際は，学生への対応等で学級担任にもご協力いただく場合がある。

引き続き教務主事から，資料５および本会議で報告のあった学生の退学および休学について確認が行われ，審議の結果，了承された。

６．専攻科第１学年の単位認定について

校長から，本議題について専攻科長から説明願う旨の依頼があり，専攻科長から以下のとおり説明があった。

・専攻科第１学年の平成 23 年度の成績は，資料６のとおりである。
・進学および就職の際の証明となるので，確認願いたい。

引き続き教務主事から，本席上で確認できない場合は，会議終了後，修学支援係に直接問い合わせ願いたい旨の補足説明があった。

校長から，これまでの説明内容についての確認がなされ，審議の結果，了承された。

７．その他

・校長から，原級となった学生がいる現担任に対して，以下のとおり要請があった。
－ 原級となった学生に対して，学業の継続について指導願いたい。
－ ４月に入ってから退学するというようなことがないよう指導願いたい。
－ 新担任への引き継ぎを充分に行ってほしい。

（略）

（出典　平成 23 年度３月教員会議（進級認定）議事録）

資料６－１－①－６

「学業成績の試験・評価及び進級並びに卒業の認定に関する内規」　（抜粋）

（前略）

第４章 進級及び卒業の認定

第８条 当該学年課程の修了及び卒業の認定は，原則として教員会議の議を経て，校長が行う。

２ 当該学年課程の修了及び卒業の認定にあたっては，次の各号の条件が全て満たされていなければならない。ただし，校長が特別の事情があると認めた場合は，この限りでない。

一 各科目の学年成績の評点が，60 点以上である者

二 原則として年間出席すべき日数の５分の４以上出席した者

三 原則として各科目の年間授業時数の５分の４以上出席した者

３ 不合格科目がある者に係る進級の取扱いについては，別に定める

４ 原学年にとどめられた者の再履修において，別表第２に掲げる科目については，修得した単位を有効とし，再履修を免除するものとする。

（後略）

（出典　釧路高専規程）

資料６－１－①－７

「学習達成度評価アンケート様式」

資料4-2
教務委員会
H23.7.4

第5学年向け

あなたは，本校の学習目標達成にあたって，どの程度到達できましたか．目標ごとに以下の表に記入して答えてください．

1) 到達度：4段階で答えてください．　4：十分に到達できた．　3：到達できた．　2：若干到達できた．　1：到達できなかった．
2) 1年～5年：上記の質問で2から4と答えた場合，5年間の教育課程のどの部分で到達できたと思いますか．最も到達できたと思う学年に◎，到達できたと思う学年に○を記入してください．◎はひとつだけ，○はふたつまで記入してください．
3) 自由記述：感じたことを記入してください．（例えば，目標に対応して到達できた代表的な科目名，到達できなかった理由など．）

学科［　M　E　D　J　A　］　○で囲んでください．

	学習目標　（実践的・創造的技術者）	到達度	1年	2年	3年	4年	5年	自由記述
A	（技術者として社会に貢献するために）人類の歴史的な背景，文化や価値観の多様性を理解し，地球的規模で社会問題や環境問題を考える基礎能力，および技術が社会や環境に与える影響を認識し，技術者が社会に対して負っている責任を理解する基礎能力を身につける．							
B	（地域・社会に貢献するために）地域の産業や社会の抱える課題に対処できる基礎能力を身につける．							
C	（技術的課題を解決できるように）工学の幅広い基礎知識（数学，自然科学，情報技術，基礎工学）を修得し，それらを応用する能力を身につける．							
D	技術者として自己の基盤となる専門分野の知識を修得し，それを応用する能力を身につける．							
E	技術的課題を分析・総合し，解決するための計画をたて，その計画を実行して課題を解決する基礎能力を身につける．さらに，チームワークで仕事をする基礎能力を身につける．							
F	文章，口頭，図表や視覚的な方法によって，効果的にコミュニケーションができる基礎能力を身につける．すなわち，日本語で論理的に記述し討論する能力，および簡単な論理的文章を英語で記述し，基本的な英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識を身につける．							
G	（技術の進展や社会の変化に対応できるように）継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につける．							

専攻科第2学年向け

あなたは，本校の学習目標達成にあたって，どの程度到達できましたか．目標ごとに以下の表に記入して答えてください．

1) 到達度：4段階で答えてください．　4：十分に到達できた．　3：到達できた．　2：若干到達できた．　1：到達できなかった．
2) 本科3年～専攻科2年：上記の質問で2から4と答えた場合，5年間の教育課程のどの部分で到達できたと思いますか．最も到達できたと思う学年に◎，到達できたと思う学年に○を記入してください．◎はひとつだけ，○はふたつまで記入してください．
3) 自由記述：感じたことを記入してください．（例えば，目標に対応して到達できた代表的な科目名，到達できなかった理由など．）

専攻　［　K　S　］　　出身学科［　M　E　D　J　A　］　それぞれ○で囲んでください．

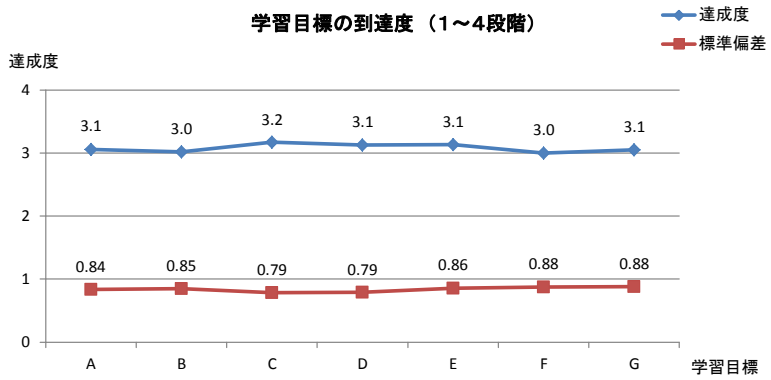
	学習目標　（高い課題設定・解決能力を備えた実践的・創造的技術者）	到達度	本科			専攻科		自由記述
			3年	4年	5年	1年	2年	
A	（技術者として社会に貢献するために）人類の歴史的な背景，文化や価値観の多様性を理解し，地球的規模で社会問題や環境問題を考える応用能力，および技術が社会や環境に与える影響を認識し，技術者が社会に対して負っている責任を理解する応用能力及び技術者としての倫理観を身につける．							
B	（地域・社会に貢献するために）地域の産業や社会の抱える課題に対処できる応用能力を身につける．							
C	（多様な技術的課題を解決できるように）工学の幅広い基礎知識（数学，自然科学，情報技術，設計・システム系，情報・理論系，材料・バイオ系，力学系，社会技術系の基礎工学）を修得し，それらを応用する能力を身につける．							
D	技術者として自己の基盤となる専門分野の知識（専門応用系，工学実験系，問題解決系，実務対応系）を修得し，それを応用する能力を身につける．							
E	多様な技術的課題を分析・総合し，解決するための計画をたて，その計画を実行して課題を解決するデザイン能力を身につける．さらに，チームワークで仕事をする能力を身につける．							
F	文章，口頭，図表や視覚的な方法によって，効果的にコミュニケーションができる応用能力を身につける．すなわち，日本語で論理的に記述し討論する能力，および簡単な論理的文章を英語で記述し，英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識（英検準2級以上またはそれに相当する能力）を身につける．							
G	（技術の進展や社会の変化に対応できるように）日本語だけではなく英語も使用して，継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につける．							

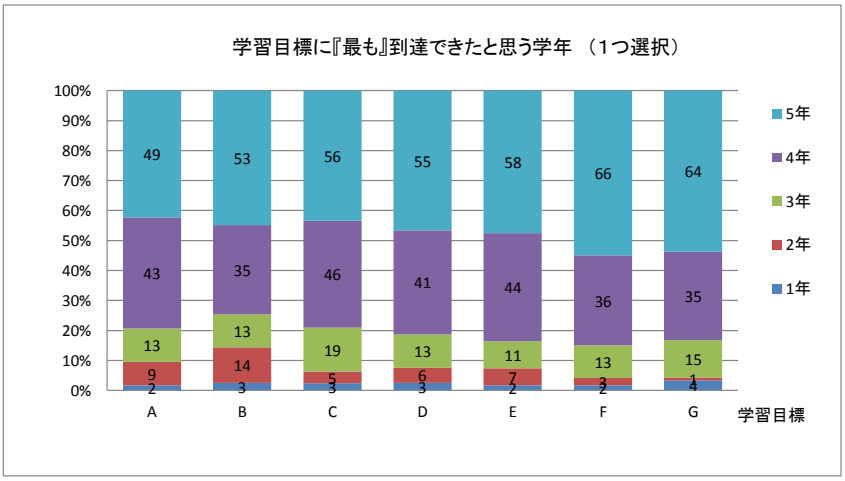
（出典　平成23年度７月教務委員会資料）

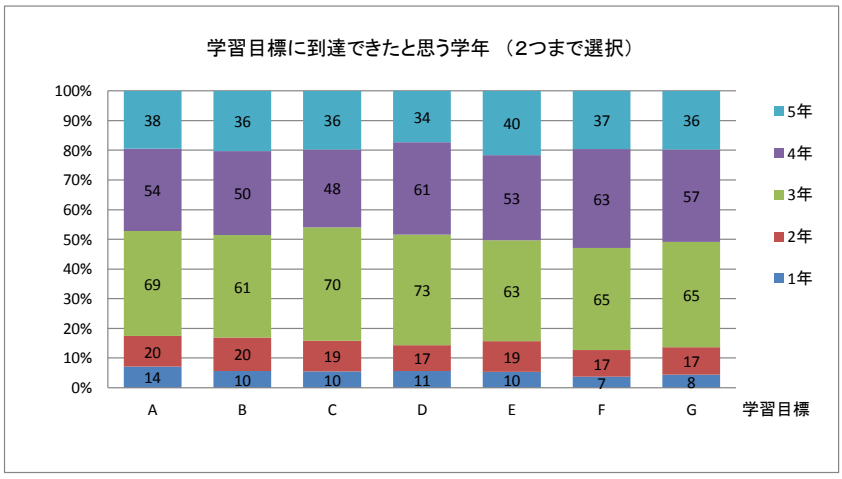
資料６－１－①－８

「平成22年度卒業生対象学習達成度評価アンケート集計結果」

【　本科１～５年　】

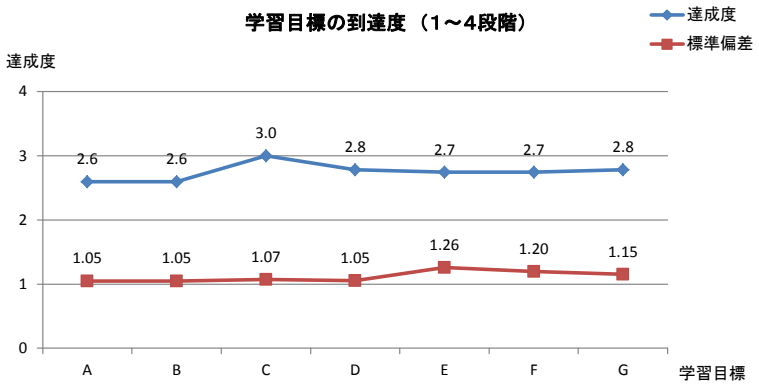


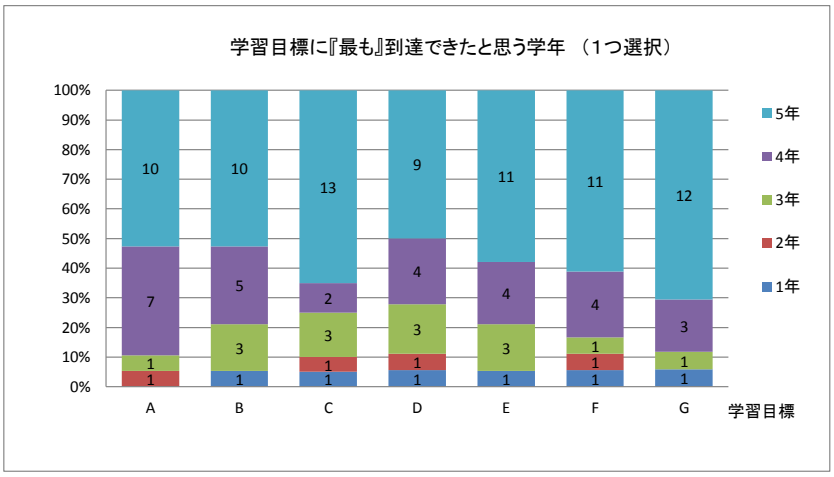


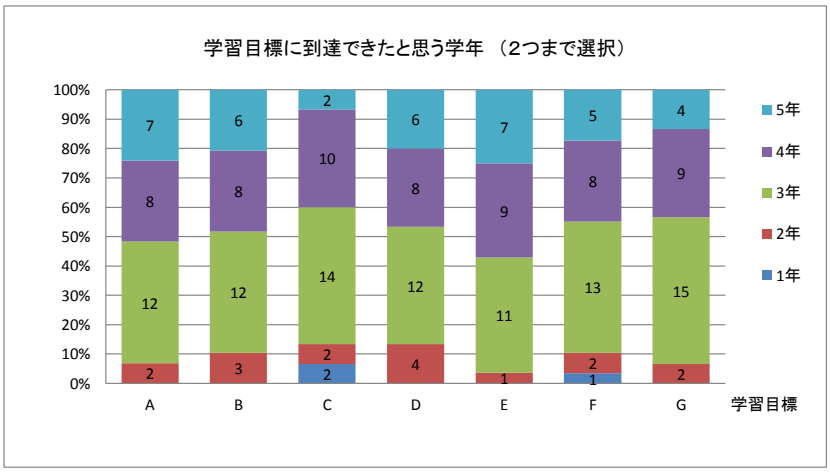


資料６－１－①－８（続き）

【 機械工学科 】

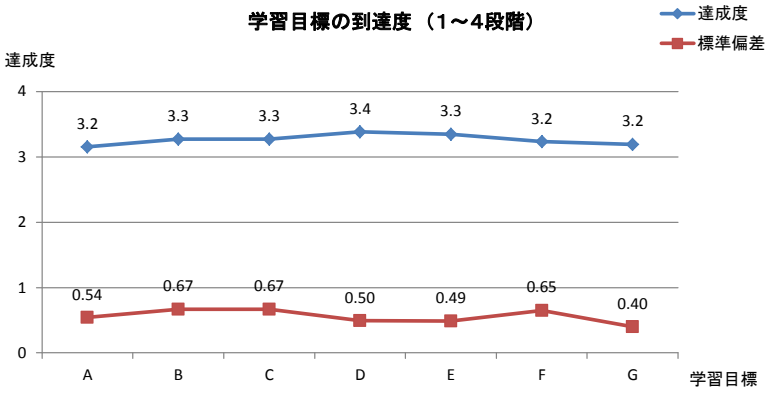


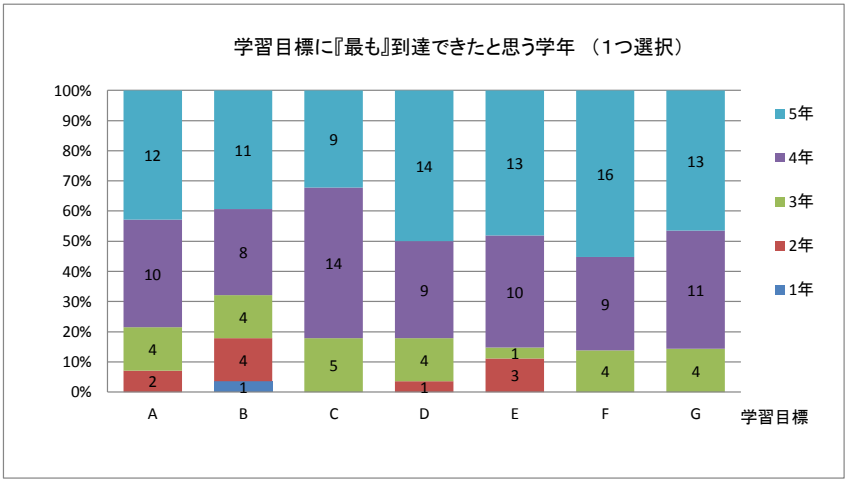


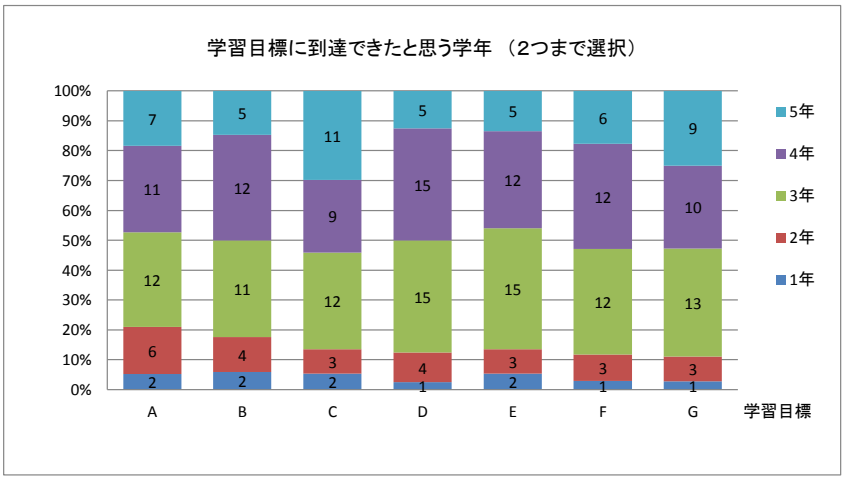


資料６－１－①－８（続き）

【 電気工学科 】

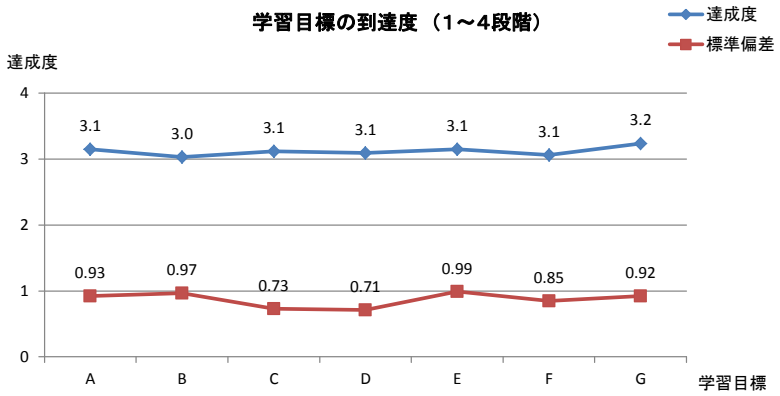


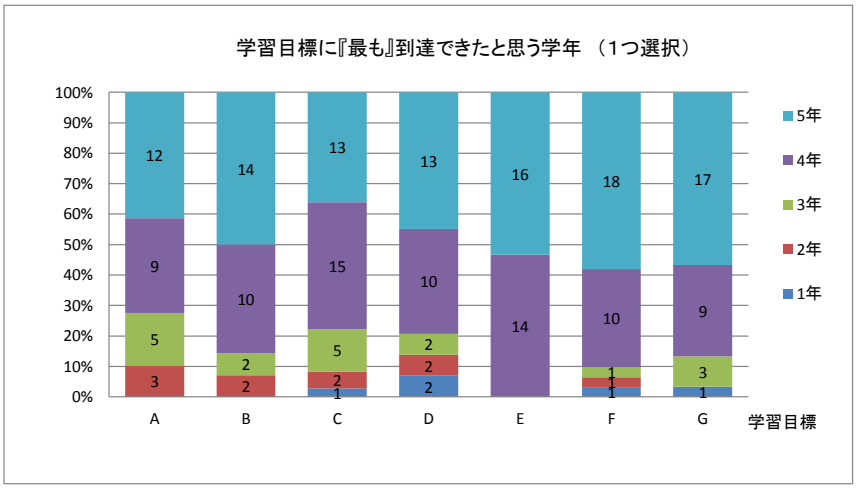


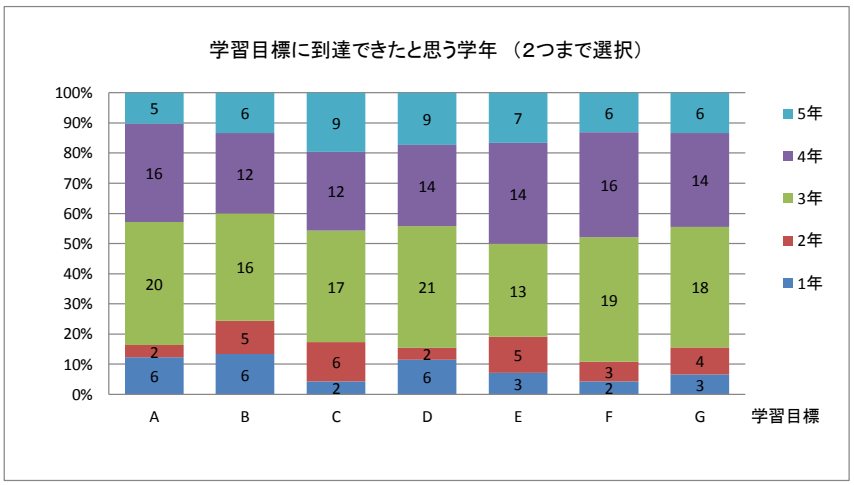


資料６－１－①－８（続き）

【 電子工学科 】

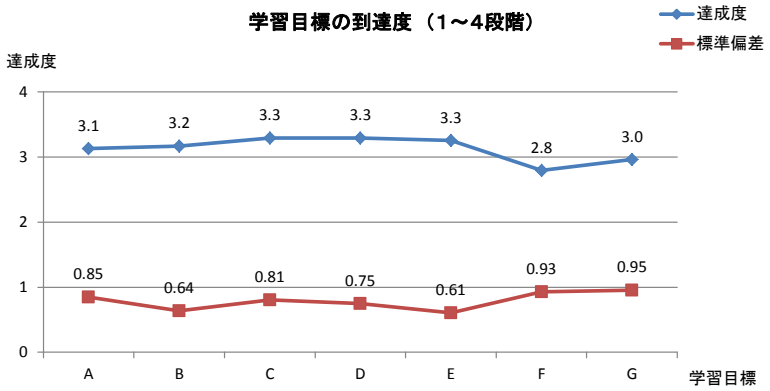


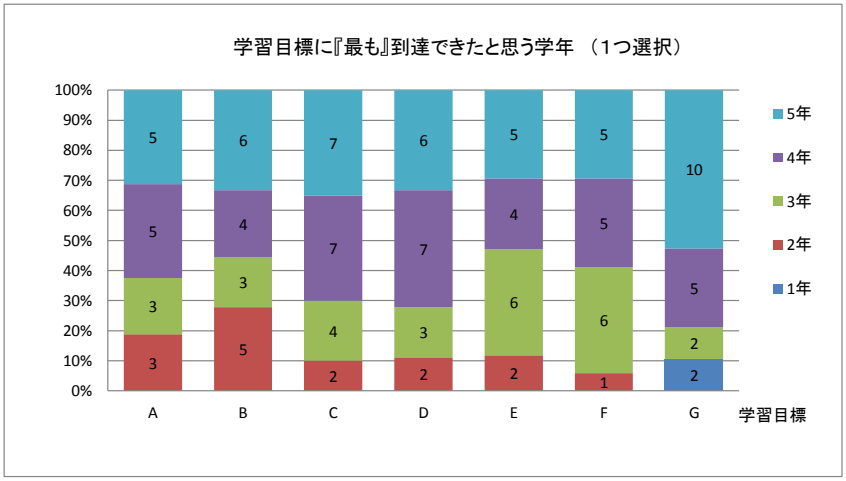


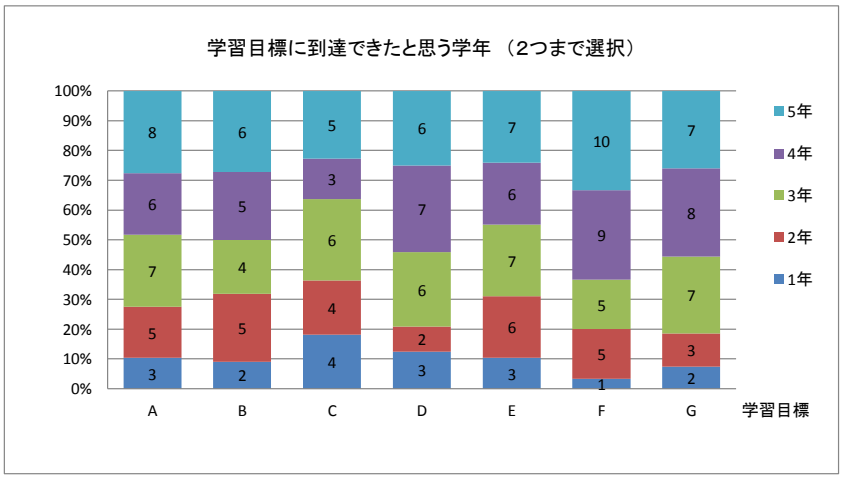


資料６－１－①－８（続き）

【 情報工学科 】

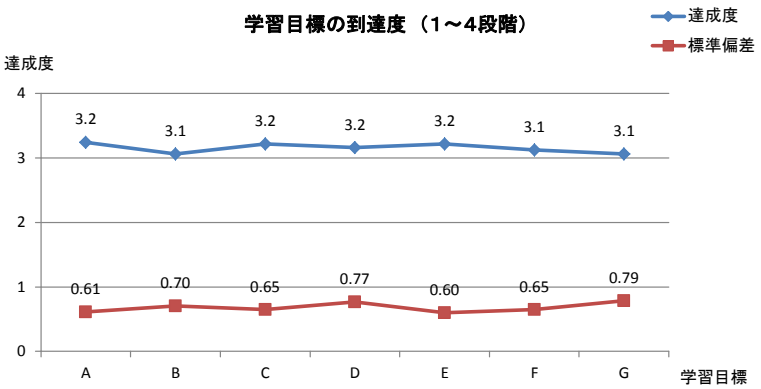


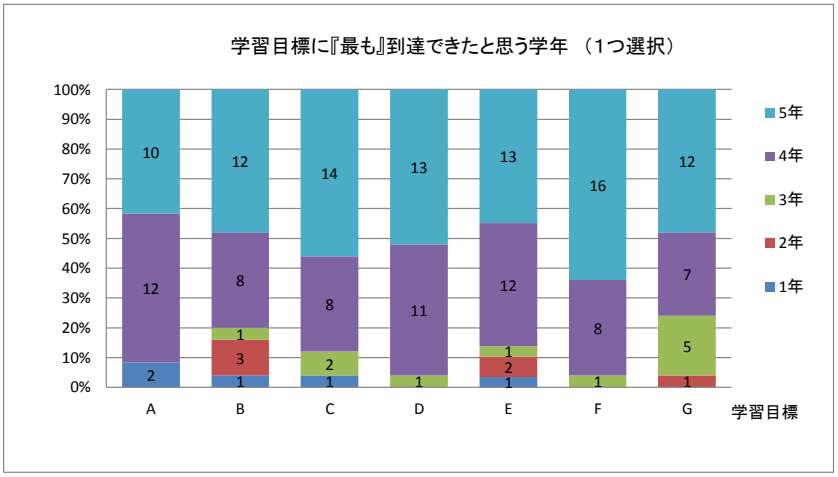


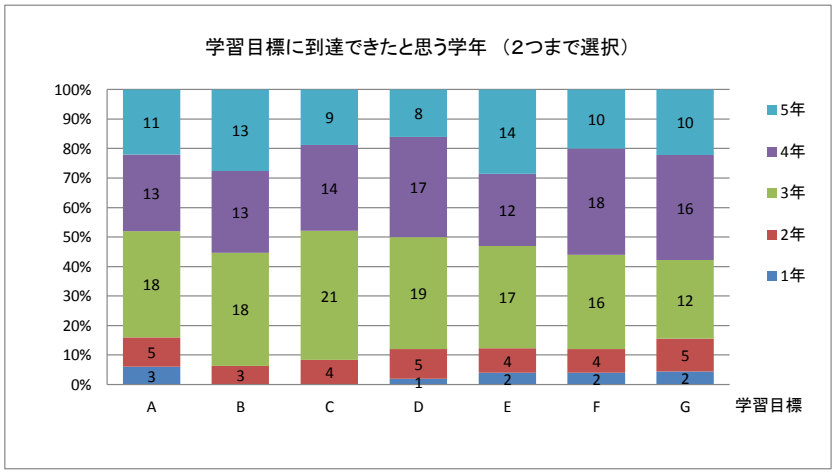


資料６－１－①－８（続き）

【 建築学科 】



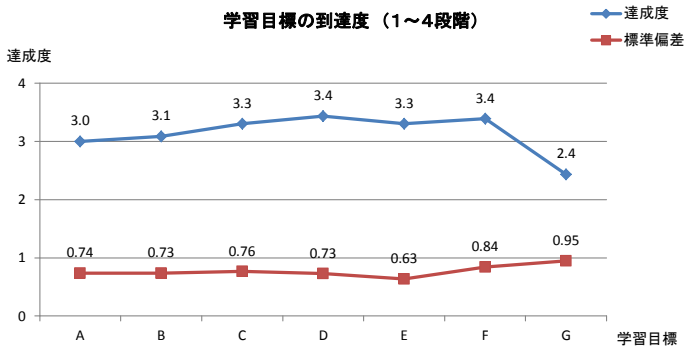


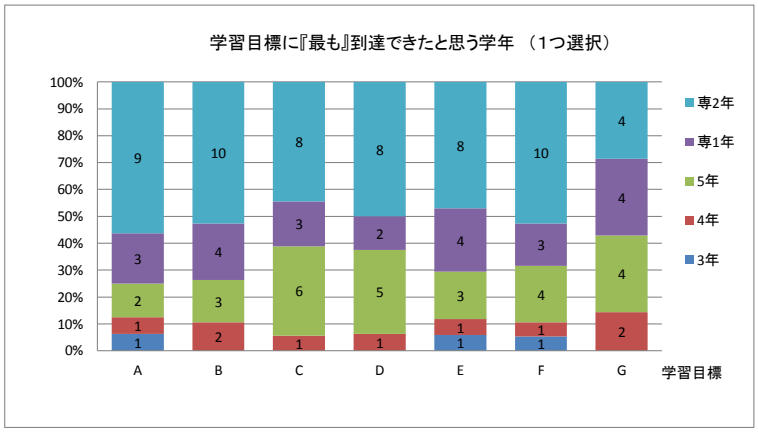


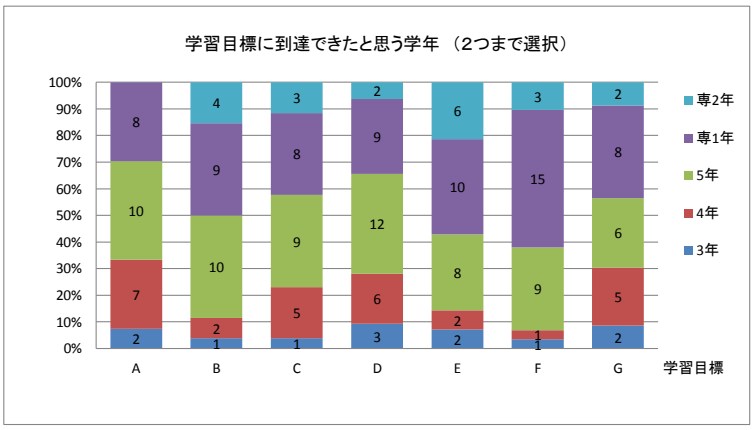
資料６－１－①－８（続き）

「平成22年度修了生対象学習達成度評価アンケート集計結果」

【 本科3年～専攻科2年 】

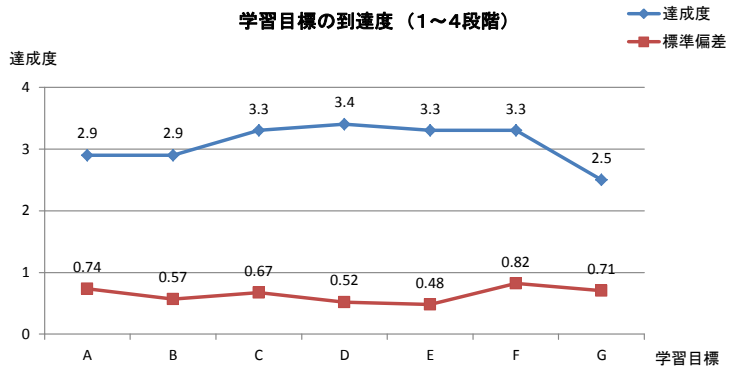


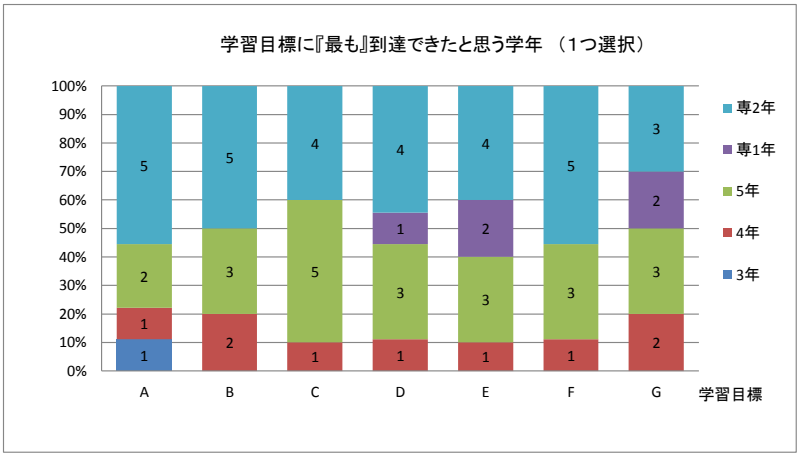


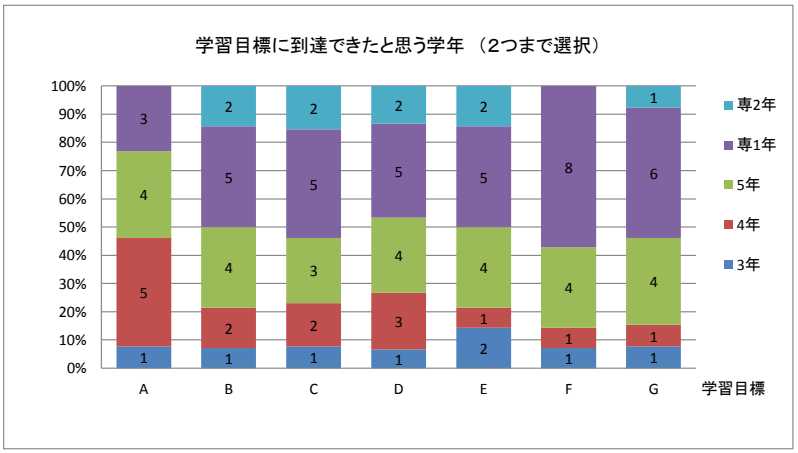


資料６－１－①－８（続き）

【 建設･生産システム工学専攻 】

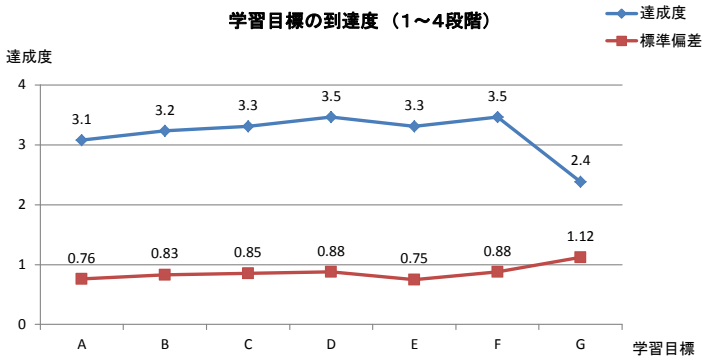


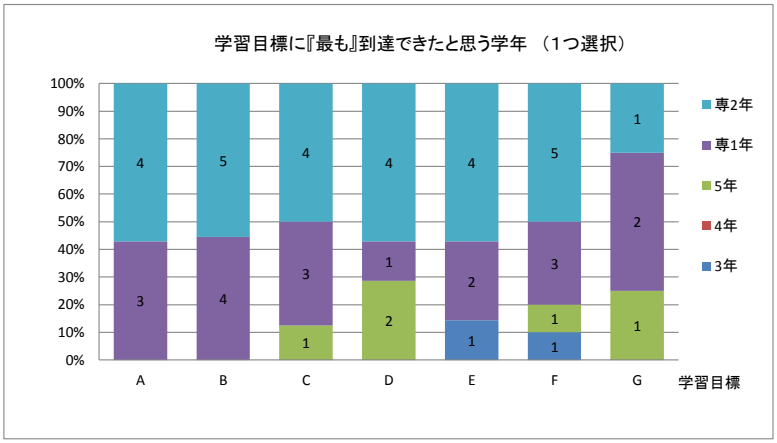


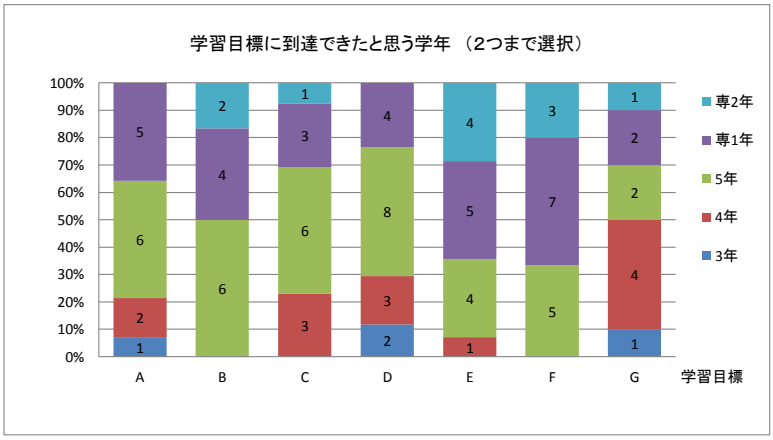


資料６－１－①－８（続き）

【　電子情報システム工学専攻　】







（出典　平成 23 年度 7 月教務委員会資料）

資料６－１－①－９

「未修得進級・原級・休学・退学・除籍者一覧」

異動事項	学　科	19年度	20年度	21年度		22年度		23年度	
				1年	2～5年	1年	2～5年	1年	2～5年
未修得進級	機械工学科	20	11	3	3	9	10	4	15
	電気工学科	12	13	5	2	4	3	1	3
	電子工学科	3	4	0	2	1	1	1	0
	情報工学科	4	12	1	1	0	1	5	9
	建築学科	11	10	3	7	2	4	2	7
	計	**50**	**50**	**12**	**15**	**16**	**19**	**13**	**34**
原　級	機械工学科	15	8	2	15	1	18	0	17
	電気工学科	13	13	0	10	1	21	0	13
	電子工学科	10	4	0	3	1	8	0	2
	情報工学科	4	1	0	6	0	6	2	8
	建築学科	8	4	3	2	0	6	0	6
	計	**48**	**30**	**5**	**36**	**3**	**59**	**2**	**46**
休　学	機械工学科	0	0	0	1	0	1	0	0
	電気工学科	0	0	0	0	0	0	0	1
	電子工学科	1	0	0	0	0	1	0	0
	情報工学科	1	1	0	0	1	0	1	1
	建築学科	0	0	0	0	0	2	0	1
	計	**2**	**1**	**0**	**1**	**1**	**4**	**1**	**3**
退　学	機械工学科	15	14	1	9	2	9	1	16
	電気工学科	11	9	0	10	1	5	0	17
	電子工学科	7	7	0	2	0	1	0	10
	情報工学科	6	6	1	7	0	4	0	5
	建築学科	10	11	4	4	1	11	0	10
	計	**49**	**47**	**6**	**32**	**4**	**30**	**1**	**58**
除　籍	機械工学科	0	0	0	0	0	0	0	1
	電気工学科	0	0	0	0	0	0	0	0
	電子工学科	0	0	0	0	0	0	0	0
	情報工学科	1	0	0	1	0	0	0	1
	建築学科	0	0	0	0	0	0	1	0
	計	**1**	**0**	**0**	**1**	**0**	**0**	**1**	**2**
計（未修得進級を除く）	機械工学科	30	22	3	25	3	28	1	34
	電気工学科	24	22	0	20	2	26	0	31
	電子工学科	18	11	0	5	1	10	0	12
	情報工学科	12	8	1	14	1	10	3	15
	建築学科	18	15	7	6	1	19	1	17
	合　計	**102**	**78**	**11**	**70**	**8**	**93**	**5**	**109**

（出典　平成 24 年度４月教務委員会資料）

資料６－１－①－10

「専攻科成績一覧」
（訪問調査時に現地にて閲覧）

資料６－１－①－11

「釧路工業高等専門学校学則」　（抜粋）

「前略」

第５７条 専攻科に２年以上在学し，所定の授業科目を履修し，62 単位以上を修得した者については，修了を認定する。

２ 校長は，修了認定した者に対し，所定の修了証書を授与する。

３ 第１項に規定する単位の修得については，別に定める。

「以下略」

（出典　釧路高専規程）

資料６－１－①－12

「科目分類表」

科目分類別表（平成２３年度入学生用）

別表第1(1.一般科目)

分類	本科目								専攻科目							
	学科	必修			選択				専攻	必修			選択			
		学年	科目名	単位数	学年	科目名	単位数	修得基準		学年	科目名	単位数	学年	科目名	単位数	修得基準
数学系	全				4	数学Ⅱ	2		全				1	統計学	2	2単位以上修得
(c)					4	数学Ⅲ	1						1	応用解析学	2	
	M	4	応用数学A	4	5	工業数学	1						1	多変量解析	2	
					5	応用数学Ⅱ	1									
					5	応用数学B	4									
	E	4	応用数学A	4	5	応用数学Ⅱ	1									
		4	制御工学	2	5	応用数学B	4									
	D	4	応用数学A	4	5	応用数学Ⅱ	1									
					5	応用数学B	4									
	J	4	応用数学A	4	5	応用数学Ⅱ	1									
		3	確率統計	2	5	応用数学B	4									
	A	3	建築構造力学Ⅱ	2	4	応用数学C	2									
		4	応用数学A	2	5	応用数学Ⅱ	1									
					5	応用数学B	2									
情報技術系	M	4	※情報処理Ⅱ	2					全				1	アドバンストコンピューティング	2	
(c)		4	CAD	1									1	科学技術表現技法	2	
		5	数値解析法	2												
	E	4	※情報処理	2												
	D	4	演算工学	2												
		5	画像工学Ⅰ	1	5	※画像工学Ⅱ	2									
	J	3	プログラミング言語Ⅱ	2	4	アルゴリズム・グラフ論Ⅰ	2									
		3	アルゴリズム・グラフ論	2	4	プログラミング言語A	2									
		3	情報工学実験Ⅰ	2												
		4	※数値解析	2												
	A	3	建築CAD	2												
自然科学系	全	3, 4	応用物理	2, 2	4	物理Ⅱ	1		全				2	物理学特論	2	
(c)	A	3	建築環境工学	2												
人文科学・社会科学系 (a,b,f)	全	4	コミュニケーション実践	2	5	日本文学A	1		全	1	日本語表現技法	2				
		4	法学	2	5	日本文学B	1			2	技術者倫理	2				
		4	体育	2	5	歴史と文化ＩＡ	1									
					5	歴史と文化ＩＢ	1									
					5	歴史と文化ⅡＡ	1									
					5	歴史と文化ⅡＢ	1									
					5	哲学A	1									
					5	哲学B	1									
					5	社会科学入門A	1									
					5	社会科学入門B	1									
					5	心理学A	1									
					5	心理学B	1									
					5	環境学A	1									
					5	環境学B	1									
					5	中国文化A	1									
					5	中国文化B	1									
					5	韓国文化A	1									
					5	韓国文化B	1									
	A	4	建築史	2												
	全	4, 5	英語	2, 1	4, 5	英語演習（Ⅰ，Ⅱ）	1, 1		全	1	総合英語Ⅰ	2	1	総合英語Ⅱ	2	

資料６－１－①－12（続き）

別表第1(2.専門基礎科目)

分類	本科科目								専攻科科目							
	学科	必修			選択				専攻	必修			選択			
		学年	科目名	単位数	学年	科目名	単位数	修得基準		学年	科目名	単位数	学年	科目名	単位数	修得基準
設計・システム系									全	1	システム工学	2	1	制御工学特論	2	
(d-1-1)													1	設計支援システム	2	
													1	コンピュータ設計工学	2	
													1	機械制御工学概論	2	
													2	アナログ高周波回路設計	2	
	M	4	※システム設計工学	2	5	生産システム工学	1		K							
		4	電気電子工学	2												
		5	※制御工学	2												
		5	計測工学	2												
	A	3	建築設計演習Ⅱ	6	5	福祉住環境論	1									
	E	5	電気回路Ⅱ	1	5	※電気設計	2		S							
		4	※電子回路	2												
		5	電子回路	1												
		4	ディジタル信号処理	1	4	ディジタル信号処理B	1	4年時編入生必須								
	D	4	電子回路Ⅱ	1												
		5	電気回路Ⅲ	1												
	J	3	電気回路	2												
		4	※電子回路	2												
		5	※計算機制御	2												
情報・論理系									全				1	数値計算特論	2	M:2単位以上修得
(d-1-2)													1	アドバンストプログラミング	2	E:2単位以上修得
													1	情報数学特論	2	A:2単位以上修得
													2	ソフトコンピューティング特論	2	
													2	信号画像処理Ⅰ	2	
	D	4	論理設計	2					S				1	ソフトウェアアーキテクチャ	2	
		5	※通信伝送工学	2												
	J	3	論理回路	2	4	論理回路Ⅰ	2									
		5	※計算機方式	2	5	※信号処理Ⅰ	1									
		5	※データベース	2	5	※信号処理Ⅱ	1									
		5	※図形処理	2	5	※情報伝送工学	2									
材料・バイオ系	M	4	※機械材料Ⅱ	2					K				1	材料システム工学	2	A:溶接工学を修得していな
(d-1-3)													1	建設材料学	2	い場合は2単位以上修得
	A	3	建築材料	2	5	溶接工学	1									
	E	5	電気材料	2					S				1	機能デバイス工学	2	J:2単位以上修得
	D	4	電子材料Ⅰ	1	5	※電子材料Ⅱ	2						2	デバイス材料工学特論	2	
力学系									全				1	ロボティクス	2	
(d-1-4)																
	M	4	※材料力学Ⅱ	2	5	熱エネルギー工学	1		K				1	応用力学	2	
		5	材料力学Ⅲ	1									1	油空圧工学概論	2	
		4	熱力学Ⅰ	2									1	構造解析Ⅰ	2	
		5	熱力学Ⅱ	1									2	構造解析Ⅱ	2	
		4	流体工学Ⅰ	2									2	内燃機関工学概論	2	
		5	流体工学Ⅱ	1												
		5	振動工学	2												
	A	4	建築構造力学Ⅲ	2												
		5	建築構造力学Ⅳ	2												
	E	4	電気磁気学	2					S							

（出典　平成 23 年度５月教務委員会資料）

資料６－１－①－13

「他高専からの入学生用科目分類別表」

科目分類別表（平成２３年度他高専からの入学生用）

別表第１(1.一般科目)

分類	本科科目								専攻科科目							
	学科	必修			選択				専攻	必修			選択			
		学年	科目名	単位数	学年	科目名	単位数	修得基準		学年	科目名	単位数	学年	科目名	単位数	修得基準
数学系 (c)		4	応用数学	4					全				1	統計学	2	2単位以上修得
													1	応用解析学	2	
													1	多変量解析	2	
情報技術系 (c)		3	情報処理	1	5	情報処理演習	1		全				1	ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄｺﾝﾋﾟｭｰﾃｨﾝｸﾞ	2	
		4	機械設計製図	3									1	科学技術表現技法	2	
自然科学系 (c)		3	応用物理	2					全				2	物理学特論	2	
		4	応用物理	2												
人文科学 ・社会科学系 (a,b,f)		4	国語	1	4	経済学	2		全	1	日本語表現技法	2				
		4	体育	1	5	日本史	2			2	技術者倫理	2				
		5	体育	1												
外国語系 (f)		4	英語C	2					全	1	総合英語Ⅰ	2	1	総合英語Ⅱ	2	
		4	工業英語	1												
		5	英語C	2												

別表第１(2.専門基礎科目)

分類	本科科目								専攻科科目							
	学科	必修			選択				専攻	必修			選択			
		学年	科目名	単位数	学年	科目名	単位数	修得基準		学年	科目名	単位数	学年	科目名	単位数	修得基準
設計・システム系 (d-1-1)	M	3	機構学	2	5	生産工学	2		全	1	システム工学	2	1	制御工学特論	2	
		4	電気工学	2									1	設計支援システム	2	
		4	機械設計法	2									1	コンピュータ設計工学	2	
		5	制御工学	2									1	機械制御工学概論	2	
		5	電気工学	2									2	ｱﾅﾛｸﾞ高周波回路設計	2	
情報・論理系 (d-1-2)									全				1	数値計算特論	2	M:2単位以上修得
													1	ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ	2	E:2単位以上修得
													1	情報数学特論	2	A:2単位以上修得
													2	ｿﾌﾄｺﾝﾋﾟｭｰﾃｨﾝｸﾞ特論	2	
													2	信号画像処理Ⅰ	2	
									S				1	ｿﾌﾄｳｪｱｱｰｷﾃｸﾁｬ	2	
材料・バイオ系 (d-1-3)	M	4	機械材料学	2					K				1	材料システム工学	2	A:溶接工学を修得していな
													1	建設材料学	2	い場合は2単位以上修得
									S				1	機能デバイス工学	2	J:2単位以上修得
													2	デバイス材料工学特論	2	
力学系 (d-1-4)	M	4	材料力学	2					全				1	ロボティクス	2	
		5	材料力学	1												
		3	工業力学	2					K				1	応用力学	2	
		4	工業熱力学	2									1	油空圧工学概論	2	
		4	流体工学	2									1	構造解析Ⅰ	2	
		5	流体工学	2									2	構造解析Ⅱ	2	
		5	機械力学Ⅰ	1									2	内燃機関工学概論	2	
社会技術系 (d-1-5)	M	4	加工学	2					全				2	環境マネジメント	2	
									K				1	e-安全工学概論	2	

別表第１(3.専門工学科目)

分類	本科科目								専攻科科目							
	学科	必修			選択				専攻	必修			選択			
		学年	科目名	単位数	学年	科目名	単位数	修得基準		学年	科目名	単位数	学年	科目名	単位数	修得基準
専門応用系 (d-2-a)	M	5	伝熱工学	2					全				1	品質工学	2	
		5	機械設計製図	3									1	人工知能特論	2	
		3	機械設計製図	3					K				1	空調設備	2	
													2	建築環境計画	2	
													2	寒冷地工学	2	
													1	高齢者環境学	2	
													2	耐震構造	2	
													2	寒中コンクリート工学	2	
									S				1	プラズマ工学	2	
													1	量子統計工学	2	
													1	ネットワーク工学特論	2	
													1	信号画像処理Ⅱ	2	
													1	計測工学特論	2	
													1	アルゴリズム特論	2	
													1	ディジタル通信概論	2	
													2	エネルギー変換工学	2	
													2	電磁波工学特論	2	
													2	応用光学	2	
													2	ネットワークデザイン	2	
													2	ソフトウェア工学特論	2	
工学実験系 (d-2-b)	M	4	機械工学実験	3					K							
		5	機械工学実験	3												
問題解決系 (d-2-c)	M	5	卒業研究	7					全	1	創造特別実験Ⅰ	1	1	デザインプロポーザル	2	
										2	創造特別実験Ⅱ	1				
									K	1, 2	特別研究	8, 8	2	デジタルイメージ	2	
									S	1, 2	特別研究	8, 8				
										2	特別演習	2				
実務対応系 (d-2-d)	全				4	学外実習	1		全	1	インターンシップⅠ	2	1	インターンシップⅡ	2	
									K	1	特別演習Ⅰ	1				
										2	特別演習Ⅱ	1				
										1	特別ゼミナールⅠ	1				
										2	特別ゼミナールⅡ	1				

（出典　平成 23 年度７月教務委員会資料）

資料６－１－①－14

「各科目の履修選択条件」

別紙：各科目の選択条件（平成23年度入学生）

区分			授業科目名	単位数	＜選択条件＞X：当該科目を履修しないこと。但し，()内の科目を修得していない場合は履修することができる。 △：履修することはできるが，()内の科目を修得していない場合，難易度が高い科目。				
					M	A	E	D	J
一般科目	必修		総合英語Ⅰ	2					
			日本語表現技法	2					
			技術者倫理	2					
			小　計	6					
	選択		総合英語Ⅱ	2					
			統計学	2					X
			応用解析学	2	X(本科5年応用数学II)				
			物理学特論	2					
			小　計	8					
	一般科目開設単位小計			14					
専門科目	専門共通科目	必修	システム工学	2					
			小　計	2					
		選択	制御工学特論	2					
			品質工学	2					
			コンピュータ設計工学	2					
			科学技術表現技法	2					
			多変量解析	2	△(ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄｺﾝﾋﾟｭｰﾃｨﾝｸﾞかつ統計学)				
			数値計算特論	2					
			ロボティクス	2	△(制御工学特論)				
			人工知能特論	2	△(統計学)				
			ソフトコンピューティング特論	2			X(本科5年ｿﾌﾄｺﾝﾋﾟｭｰﾃｨﾝｸﾞ)		
			情報数学特論	2					
			信号画像処理Ⅰ	2	△(応用解析学または本科5年応用数学II)			X	△(応用解析学または本科5年応用数学II) X(信号処理Ⅰ，Ⅱ)
			環境マネジメント	2					
			設計支援システム	2					
			アドバンストプログラミング	2					
			アドバンストコンピューティング	2	△(ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ)				
			デザインプロポーザル	2					
			小　計	32					
	専門共通科目開設単位数小計			34					
	建設・生産システム工学専攻専門展開科目	必修	建設・生産システム工学特別ｾﾐﾅｰﾙⅠ	1					
			建設・生産システム工学特別ｾﾐﾅｰﾙⅡ	1					
			建設・生産システム工学特別演習Ⅰ	1					
			建設・生産システム工学特別演習Ⅱ	1					
			創造特別実験Ⅰ	1					
			創造特別実験Ⅱ	1					
			建設・生産システム工学特別研究	16					
			インターンシップⅠ	2					
			小　計	24					
		選択	機械制御工学概論	2					
			応用力学	2					
			材料システム工学	2					
			寒冷地工学	2					
			空調設備	2					
			建築環境計画	2					
			内燃機関工学概論	2					
			油空圧工学概論	2					
			構造解析Ⅰ	2					
			構造解析Ⅱ	2	△(構造解析Ⅰ)				
			耐震構造	2					
			建設材料学	2					
			寒中コンクリート工学	2					
			高齢者環境学	2					
			デジタルイメージ	2					
			インターンシップⅡ	2					
			小　計	30					
	専門展開科目開設単位小計			54					
	電子情報システム工学専攻専門展開科目	必修	電子情報システム工学特別ｾﾐﾅｰﾙⅠ	1					
			電子情報システム工学特別ｾﾐﾅｰﾙⅡ	1					
			電子情報システム工学特別演習	2					
			創造特別実験Ⅰ	1					
			創造特別実験Ⅱ	1					
			電子情報システム工学特別研究	16					
			インターンシップⅠ	2					
			小　計	24					
		選択	エネルギー変換工学	2					
			プラズマ工学	2					
			パワーエレクトロニクス	2					
			電磁波工学特論	2					
			ソフトウェアアーキテクチャ	2					
			デバイス材料工学特論	2					
			量子統計工学	2					
			応用光学	2					
			機能デバイス工学	2			△(量子統計工学)	X	△(量子統計工学)
			ネットワーク工学特論	2					
			信号画像処理Ⅱ	2					
			アナログ高周波回路設計	2					
			ディジタル通信概論	2					
			計測工学特論	2					
			ネットワークデザイン	2					
			ソフトウェア工学特論	2					
			アルゴリズム特論	2					
			インターンシップⅡ	2					
			小　計	36					
	専門展開科目開設単位小計			60					

（出典　平成 23 年度５月教務委員会資料）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程については，科目ごとに成績評価基準がシラバスに定められている。学生自身による達成度評価が毎年行われており，集計結果は教務委員会に報告され，審議している。

専攻科課程については，教務委員会において達成状況の把握を行い，専攻科修了要件を検証している。いずれの課程についても卒業・修了認定会議で卒業・修了認定を行っている。

これらのことから，高等専門学校として，その目的に沿った形で，課程に応じて，学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力，養成する人材像等について，その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われている。

観点６－１－②：　各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について，学校としてその達成状況を評価した結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

本校における準学士課程の教育の成果は観点６－１－①で述べたように，卒業認定会議において学生の達成状況を評価することで担保している。原級留置者数，退学者数は，ここ数年増減があるものの高い比率で推移しているものの（資料６－１－①－９），卒業要件を満たす学生の卒業を認定する状況において，本校の教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

英語によるコミュニケーション能力育成のために，本校では第２学年において，受験料を援助して英検準２級を全学生に受験させており，多くの学生が２学年段階で英検準２級に合格し，高学年においても英語への興味を継続し，資格取得に挑戦する学生が出ている（資料６－１－②－１）。

第３学年に対して実施されている学習到達度試験においては，数学の学校平均点がほぼ全国平均レベルとなっている（資料６－１－②－２）。小中学校の全国学力テストの成績が全国最低レベルにある釧路地域において，全国平均まで数学力を持ち上げていることは本校の教育の成果と判断できる。

実践的技術者育成のための重要な科目である卒業研究においては，卒業生全員が研究成果を卒業論文としてまとめ，一般公開により学科ごとに卒業研究発表会を開催している（資料６－１－②－３）。関係学会に規約の無い電子工学系を除き，機械，電気，情報，建築の各学科では優秀な卒業研究に対して学会賞が授与され，卒業式当日に伝達式が行われている（資料６－１－②－４）。

専攻科課程においては，この３年間において学位授与試験全員合格を果たしており，教育の効果や成果は十分に上がっていると判断する。特別研究においては，徐々に学会発表件数が増えており（資料６－１－②－５），教育の成果や効果が上がっている。平成 21 年

度から開催されている３次元ディジタル設計造形コンテストにおいては，毎年優秀な成績を収めており，平成 23 年度は優勝している（資料６－１－②－６）。専攻科における英語教育をそれまでの英検重視から平成 21 年度に TOEIC 重視に切り替えたことにより，学生の中に TOEIC に挑戦するものが出始め，またトゥルク応用科学大学（フィンランド）との交流協定による短期留学に学生が積極的に参加している（資料６－１－②－７）。

資料６－１－②－１

「英検準２級合格者数（学年別)」

釧路高専英検合格者数

準2級

	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	計
2007	2	42	15	1	2	25	87
2008	1	43	15	6	2	21	88
2009	2	44	8	1	5	6	66
2010	2	42	13	4	2	4	67
2011	0	51	17	0	1	7	76

2級

	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	計
2007	0	1	0	1	0	0	2
2008	0	3	1	0	0	1	5
2009	0	0	1	0	0	0	1
2010	0	3	3	2	0	0	8
2011	0	1	1	0	0	1	3

（出典　学生課作成資料）

資料６－１－②－２

「学習到達度試験成績集計結果」

学習到達度試験（指定領域統計）

		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
		得点平均	標準偏差	得点平均	標準偏差	得点平均	標準偏差	得点平均	標準偏差	得点平均	標準偏差
数学	全国 (10領域)	235.7	77.6	215.9	78.5	173.3	69.1	213.9	76.0	258.9	87.4
	本校 (9領域)	191.3	61.5	186.6	67.6	162.5	63.0	198.4	73.7	202.6	82.5
物理	全国 (8領域)	130.3	65.3	169.2	75.9	127.9	76.1	149.8	82.5	127.9	68.8
	本校 (6領域)	89.6	46.0	83.8	46.1	64.8	47.1	76.9	54.6	67.5	51.7

（出典　学生課作成資料）

資料６－１－②－３

「卒業研究発表会の開催」

平成２４年１月１９日

釧路高専地域振興協力会会員　各位

釧路工業高等専門学校長
岸　浪　建　史
（公印省略）

卒業研究発表会の開催について（ご案内）

拝啓　時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
日頃から本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。
さて、本校では例年、５年間の高専生活で培った技術・知識の集大成となる卒業研究発表会を、保護者の皆様をはじめ市民や企業の方にご覧いただき、高専の教育研究活動に対するご理解を深めていただくことを目的として学外に公開しております。
本校の学生にとって多くの方の前で発表することは、実践的技術者として成長していく上で大変有意義なことと考えており、特に企業人である皆様には、厳しい目で本発表をご覧いただきたいと思います。
本校といたしましても、地域貢献を大きな使命のひとつとしており、本発表会において御社の参考となることがあれば幸いに存じます。
ご多忙とは存じますが、下記日程において開催いたしますので、是非ご来校くださるようお願い申し上げます。
なお、卒業研究テーマ及び発表順等については、本校ホームページにも掲載いたします。
【本校ホームページアドレス　http://www.kushiro-ct.ac.jp/】

敬　具

記

１．発表年月日および開始時間

機械工学科	平成２４年１月２８日（土）	午前９時～
電子工学科	平成２４年２月　６日（月）	午前９時～
建築学科	平成２４年２月　７日（火）	午前１０時３５分～
情報工学科	平成２４年２月　９日（木）	午前９時～
電気工学科	平成２４年２月１４日（火）	午前８時５０分～

２．発表場所　　本校大講義室
３．発表内容　　別紙のとおり

担当：学生課修学支援係
TEL　0154-57-7222
FAX　0154-57-6256
E-mail　kyoumug@office.kushiro-ct.ac.

（出典　平成 23 年度卒業研究発表会開催案内（地域振興協力会会員宛））

資料６－１－②－４

「学会賞受賞の状況」

学会賞

賞名	対象学科	年度	受賞者	
日本機械学会　畠山賞	機械工学科	平２３	若　木　志　郎	
		平２２	鳥居塚　　練	
		平２１	仲　田　英　明	
		平２０	寺　島　直　弘	
		平１９	藤　島　　純	
電気学会　北海道支部長賞	電気工学科	平２３	工　藤　隆　広	
		平２２	池　田　友　幸	
		平２１	植　村　達　也	
		平２０	ファタフッディン　タムリン	
		平１９	和　田　康　弘	
情報処理学会　北海道支部長賞	情報工学科	平２３	兒　玉　拓　巳	
		平２２	遠　國　友里恵	
		平２１	岩　井　亜理砂	
		平２０	西　川　貴　紘	
		平１９	平　山　康　成	
日本建築学会　北海道支部長賞	建築学科	平２３	シム　ダリー	岩　田　潤　也
		平２２	佐　藤　夏　生	下　平　雅　也
		平２１	加　藤　寛　基	和　田　大　昌
		平２０	清　野　岳　志	廣　中　　諭
		平１９	黒　田　智　英	谷　口　範　文

（出典　学生課作成資料）

資料６－１－②－５

「学生の学会発表に対する補助」

学生の学会参加

年度	参加学会		専攻科生	本科生	引率教員
平21	第4回環境工学系卒業論文発表会	札幌市		5	1
	精密工学会2010年春季大会	さいたま市	1		1
	計		1	5	2
平22	日本建築学会北海道支部研究発表会	室蘭市	2		1
	日本機械学会機械工学・計測制御部門D&D2010講演会	京都市	1		1
	日本オペレーションズリサーチ学会秋季研究発表会	福島市	1		1
	日本機械学会第49回北海道支部学術講演会	札幌市	1	1	1
	日本機械学会北海道学生会第40回学生員卒業研究発表会	室蘭市	6	4	2
	計		11	5	6
平23	日本建築学会北海道支部第84回研究発表会	札幌市	4		1
	日本オペレーションズリサーチ学会秋季研究発表会	神戸市	1		1
	日本機械学会北海道支部第50回講演発表会	旭川市		1	1
	福祉情報教育フォーラム	熊本市		1	1
	第47回応用物理学会/第8回日本光学会 北海道地区合同学術講演会	札幌市	4		1
	第74回情報処理学会全国大会	名古屋市	1		1
	日本機械学会北海道学生会第41回学生員卒業研究発表会	札幌市	2	8	3
	第6回環境工学系卒業論文発表会	札幌市		4	1
	教育情報学会学生研究会	千歳市		1	1
	計		12	15	11

（出典　学生課作成資料）

資料６－１－②－６

「３次元ディジタル設計造形コンテスト（平成 23 年 11 月 13 日開催」審査結果)」

優勝	釧路高専
準優勝	鹿児島高専
第３位	茨城高専
審査員特別賞	群馬高専・徳山高専
アイデア賞	一関高専

（出典　総務課作成資料）

資料６－１－②－７

「トゥルク応用科学大学（フィンランド）への派遣および受入の状況」

TUAS交換学生

年度	派遣・受入学生		派遣・受入期間
平23	釧路工業高等専門学校専攻科	[redacted]	2011. 9. 1 ～ 2011. 9.30
平24	トゥルク応用科学大学	[redacted]	2012. 4. 3 ～ 2012. 7. 3
	釧路工業高等専門学校専攻科	[redacted]	2012. 9. 1 ～ 2012.11.30

（出典　学生課作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校における準学士課程の教育の成果は卒業認定会議において学生の達成状況を評価す

ることで担保している。年度ごとの教育の状況あるいは学生の達成の状況は年度当初に前年度の教務報告を行い審議している。卒業要件を満たす学生の卒業を認定する状況において，本校の教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

専攻科課程においては，この３年間において学位授与試験全員合格を果たしており，教育の効果や成果は十分に上がっていると判断する。

これらのことから，各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について，学校としてその達成状況を評価した結果から判断して，教育の成果や効果が上がっている。

観点６－１－③：　教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について，就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

本校の平成 23 年度卒業（修了）生の就職状況を資料６－１－③－１に示す。また，過去６年間の卒業（修了）生の進学先一覧を資料６－１－③－２に示す。準学士課程，専攻科課程ともに就職率（就職者数／就職希望者数）は極めて高く，就職先も製造業や電気・ガス・熱供給・水道業，情報通信業，専門・技術サービス業関連，建設業関連などの当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。求人企業数から見ても，本校の卒業（修了）生に対する企業の評価が高いことは明らかである。さらに，平成 23 年度の進学者の進学先の詳細を資料６－１－③－３に示す。卒業（修了）生の進学先は，いずれも国立大学工学部であり，出身学科に関連する学科に進学している。準学士課程，専攻科課程それぞれの教育を受け，さらにより高い教育を希望する多くの学生の存在は，本校の教育の成果や効果の表れと判断できる。

資料６－１－③－１

「平成 24 年３月　釧路高専卒業者及び修了者の就職状況」

＜本科卒業生＞

就職者		９７人
求人数	求人会社数	１，６７２社
	求人倍率	**１７．２倍**　(1,672 社÷97 人)　※97＝就職希望者数
就職率		**１００%**　道内４３人　道外５４人
主な就職先（順不同・敬称略）	機械工学科	本田技研工業(株)，キヤノンファインテック(株)，東レ(株)，釧路ガス(株)，JFEスチール(株)，大塚製薬(株)，JR北海道，パナソニック環境エンジニアリング(株)　等　**就職率 100%**
	電気工学科	北海道電力(株)，京セラ(株)北見工場，ドコモエンジニアリング北海道(株)，(株)NTT－ME 北海電気工事(株)，北海道糖業(株)，北海道エア・ウォーター(株)　，東光薬品工業(株)　等　**就職率 100%**
	電子工学科	北海道電力(株)，JR北海道，キヤノン(株)，(株)きんでん，ユニチカ(株)，岩通ソフトシステム(株)，(株)NTT－ME，日立ビアメカニクス(株)，(株)東芝エレベーター，明治乳業(株)十勝工場　等　**就職率 100%**
	情報工学科	北海道電力(株)，(株)NHKメディアテクノロジー，(株)NTT－ME，(株)ポータス，富士通(株)(株)日立製作所，(株)ECナビ，セイコーエプソン(株)，(株)PFU，帯広市役所　等　**就職率 100%**
	建築学科	三晃空調(株)，(株)竹中工務店，パナソニック環境エンジニアリング(株)，三機工業(株)，東亜建設工業(株)，旭イノベックス(株)，(株)日立ビルシステム，(株)NTTファシリティーズ，中標津町役場，釧路市役所　等　**就職率 100%**

＜専攻科修了生＞

就職者		２４人
求人数	求人会社数	４５２社
	求人倍率	**１８．８倍**　（４５２社÷２４人）　※２４＝就職希望者数
就職率		**１００%**　　道内１１人　　道外１３人
主な就職先	建設・生産ｼｽﾃﾑ工学専攻	東洋農機（株），カルビー（株），よつ葉乳業（株），菱中建設（株），植村土建（株），戸田建設（株），町田市役所，釧路市役所，ＤＯＷＡサーモンエンジニアリング（株）（株）水 ing　等　**就職率 100%**
	電子情報ｼｽﾃﾑ工学専攻	旭化成（株），デンソーテクノ（株），日立ビアメカニクス（株），セイコーエプソン（株）森永乳業（株）別海工場，北海道三井化学（株），（株）イクス，（株）電制，（株）ニコン，（株）日立エレクトリックシステムズ，（株）明治　十勝帯広工場，（株）明電舎，ＳＯＣ（株），（株）トリニティ・ドウ，ＪＡ清里町　等　**就職率 100%**

（出典　釧路高専についての参考資料　平成 24 年５月作成　p. ９）

資料６－１－③－２

「卒業者・修了者の進学状況」

過去６年間の大学編入者、専攻科進学者及び大学院進学者数

	大学名	進学年度					
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
本科（準学士課程）	釧路高専専攻科	３９	２３	２８	４２	23(1)	２２
	長岡技術科学大学	6	5	6	9	5	7
	豊橋技術科学大学	7	9	１１	6	１０	１１
	北海道大学	2	1		2	2	
	室蘭工業大学	4	6	4	6	１１	6
	北見工業大学	3		2	1		1
	北海道教育大学釧路校	2					
	弘前大学		1				
	東北大学			1	1		
	秋田大学	1					1
	岩手大学	1					
	筑波大学		1	1	1		1
	千葉大学	1			1	3	1
	横浜国立大学			1	1		
	東京農工大学	1	1	1	1	1	
	東京工業大学					1	
	電気通信大学	2	1	2	1		1
	新潟大学	2					1
	金沢大学					1	
	福井大学			1			
	静岡大学	1					
	三重大学		2				
	大阪大学	1					
	京都工芸繊維大学					1	
	徳島大学					1	
	和歌山大学	1					
	岡山大学		1				
	山口大学			1			
	大分大学						1
	その他公私立大学	1	1	1	5	4	2
	他高専専攻科	2	1				
	合　　計	７７	５３	６０	７７	63（1）	５５
専攻科	北海道大学大学院	1	1	2	1	1	2
	室蘭工業大学大学院				2		1
	東北大学大学院		1	2			1
	筑波大学大学院		1	1	1	1	
	東京大学大学院			1（1）			
	東京工業大学大学院		2		1		
	九州大学大学院						1
	北陸先端科学技術大学院大学	2		1	1	1	
	長岡技術科学大学大学院					1	1
	豊橋技術科学大学大学院				1	2	
	合　　計	3	5	7	7	6	6

（　）は過年度卒業者・修了者で内数

（出典　釧路高専についての参考資料　平成24年５月作成　p. ８）

資料６－１－③－３

「平成 24 年３月　釧路高専卒業者及び修了者の進学先別一覧」

平成23年度卒業・修了者　進学先

区分	進　　学　　先		内　　訳
本　科	室蘭工業大学	工学部 機械航空創造系学科	機械 1
		工学部 建築社会基盤系学科	建築 4
		工学部 情報電子工学系学科	電子 1
	北見工業大学	工学部 電気電子工学科	電気 1
	長岡技術科学大学	工学部 電気電子情報工学課程	電気 2，電子 1，情報 1
		工学部 機械工学課程	機械 3
	豊橋技術科学大学	工学部 機械工学課程	機械 2
		工学部 情報・知能工学課程	電子 2，情報 3
		工学部 電気・電子情報工学課程	電気 2
		工学部 建築・都市システム学課程	建築 3
	秋田大学	工学資源学部 電気電子工学科	電気 1
	筑波大学	情報学群 情報科学類	情報 1
	千葉大学	工学部 建築学科	建築 1
	電気通信大学	情報理工学部 総合情報学科	電気 1
	新潟大学	経済学部 経済学科	情報 1
	大分大学	工学部 福祉環境学科	建築 1
	北海学園大	工学部 建築学科	建築 1
	工学院大学	工学部第１部 情報通信工学科	電子 1
	釧路高専専攻科	建設・生産システム工学専攻	機械 1，情報 2，建築 3
		電子情報システム工学専攻	電子 9，情報 7
専攻科	北海道大学大学院	システム情報科学専攻	電子情報 1
		情報エレクトロニクス専攻	電子情報 1
	室蘭工業大学大学院	情報電子工学系専攻	電子情報 1
	長岡技術科学大学大学院	機械創造工学専攻	建設・生産 1
	東北大学大学院	機械システムデザイン工学専攻	建設・生産 1
	九州大学大学院	総合理工学府 量子プロセス理工学専攻	電子情報 1

（出典　学生課作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程，専攻科課程ともに就職率（就職者数／就職希望者数）は極めて高く，就職先も当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。さらに，卒業（修了）生の進学先は，いずれも国立大学工学部であり，出身学科に関連する学科に進学している。

これらのことから，教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について，就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して，教育の成果や効果が上がっている。

観点６－１－④：　学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

本校では，準学士課程の卒業時及び専攻科課程の修了時に本校の学習目標ごとに到達度を自己評価する学習達成度評価アンケートを実施している(資料６－１－①－７)。アンケート結果は，学科ごと・専攻ごとの集計及び本科，専攻科で集計され，教務委員会を経て，全教員に周知されている(資料６－１－①－８)。

集計結果から判断すると，準学士課程卒業生全体では，４段階の達成度評価で，すべての項目で，３（到達できた）以上の評価となっており，教育の成果や効果が上がっていると判断できる。また，目標に到達できた学年を見ると，ほとんどが４・５学年に集中している。これは，高専におけるくさび形教育の成果と捉えられるが，低学年における動機づけに改善の余地があると考えている。学生の回答は，学習目標ＡやＢでは低学年からの積み上げの成果，学習目標Ｃ，Ｄ，Ｅの項目では高学年での達成が主となっており，本校における教育の成果や効果が学生自身にも自覚されていると判断できる。

専攻科修了生においても，準学士課程卒業生と同様な分析ができ，本校における教育の成果や効果が上がっていると判断できる。目標Ｇについて低い自己評価結果となった。目標Ｇは英語の能力に関するものであり，自主学習を促すなどの工夫をしているが，学生の自己評価として英語に関する能力の不足があることが明らかとなり，専攻科における英語教育をより高度化させなければならないと考えている。

アンケート結果全体を俯瞰すると，目標Ｇを除き，総じて専攻科修了生が高い自己評価をしている。準学士課程を基礎としてより精深な程度に教育を行う専攻科課程の教育の成果と判断できる。

（分析結果とその根拠理由）

本校では，卒業・修了時に本校の学習目標ごとに到達度を自己評価する学習達成度評価アンケートを実施している。アンケートの集計結果から，本校における教育の成果や効果が学生自身にも自覚されていると判断できる。

アンケート結果全体を俯瞰すると，総じて専攻科修了生が高い自己評価をしている。準

学士課程を基礎としてより精深な程度に教育を行う専攻科課程の教育の成果と判断できる。

これらのことから，学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっている。

観点６－１－⑤：　卒業（修了）生や進路先等の関係者から，卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や，卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか。また，その結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

平成 22 年度に実施した企業アンケートの集計結果を資料６－１－⑤－１に示す。本校の学習目標について卒業（修了）生が達成できているかどうかを問うため，学習目標Ａ～Ｇを「知識・能力」という表現として達成の程度を聞いている。この結果から，ほぼすべての項目について「普通」～「優れている」という評価を受けており，本校の教育の成果や効果が上がっていると判断できる。資料の中の「②人文・社会科学に関する知識」，「⑤英語によるコミュニケーションの基礎能力」，「⑥経済，安全，環境などの社会・自然に及ぼす影響等について，問題点を認識できる能力」，「⑨自主的に課題を見つけ，継続的に学習できる能力」において低い評価がみられ，特に英語の能力に関しては，観点６－１－④において述べたように専攻科修了生自身の自己評価でも同様の結果となっていることから，本校の英語教育の改善の必要性を認識している。

資料６－１－⑤－１

「企業アンケート集計結果」

企業アンケート　　2010.11

－釧路工業高等専門学校の教育システムの改善のためご協力願います。－

※本アンケートは本校の教育システムの改善の資料とするためのもので，記入された企業名や個人名等の個人情報等については，外部への公表をするものでありません。そのため忌憚のないご意見のご協力をお願い致します。

質問１．貴社の企業名をご記入ください。

47社から回答あり

質問２．貴社の従業員数を教えてください。

５０人未満	2
５０～９９人	3
１００～４９９人	14
５００～９９９人	4
５００～１０００人	24
	47

質問３．最近５年間の高専全体の本科卒業生及び専攻科修了生の採用実績（人数）を教えてください。

①本科卒業生

なし	5
５人未満	14
５～９人	8
１０～４９人	12
５０人以上	6
わからない	2
	47

②専攻科修了生

なし	15
５人未満	14
５～９人	5
１０人以上	5
わからない	3
未回答	5
	47

資料６－１－⑤－１（続き）

質問４．釧路高専の本科卒業生及び専攻科修了生に対する最近５年間の
採用実績（人数，主たる職種）を教えてください。

本科生　①採用人数

なし	13
５人未満	25
５～９人	8
１０人以上	1
わからない	0
	47

②主たる採用職種（複数回答）

農・林・漁業・食品技術者	0
機械・電気技術者（機械，電気，その他）	17
情報処理技術者	12
その他技術者	9
管理的職業	2
事務従事者	0
販売従事者	0
サービス職業	2
運輸・通信	3
生産工程・労務作業員	1
上記以外	1

専攻科生　①採用人数

なし	36
５人未満	7
５～９人	0
１０人以上	0
わからない	4
	47

②主たる採用職種（複数回答）

農・林・漁業・食品技術者	0
機械・電気技術者（機械，電気，その他）	8
情報処理技術者	5
その他技術者	2
管理的職業	1
事務従事者	0
販売従事者	0
サービス職業	0
運輸・通信	1
生産工程・労務作業員	0
上記以外	0

資料６－１－⑤－１（続き）

		本科						専攻科生					
		5 優れている	4 やや優れている	3 普通	2 やや劣る	1 劣る	不明・未回答	5 優れている	4 やや優れている	3 普通	2 やや劣る	1 劣る	不明・未回答
①	日本語による論理的記述，口頭発表，討議能力	3	18	11			15		9	1			37
②	人文・社会科学に関する知識		9	19	1		18		3	5	1		38
③	数学・自然科学に関する知識	4	17	10			16	2	3	4			38
④	情報技術に関する知識と活用能力	6	16	9			16	2	6	2			37
⑤	英語によるコミュニケーションの基礎的能力		3	21	1	1	21		2	7	1		37
⑥	経済，安全，環境などの社会・自然に及ぼす影響等について，問題点を認識できる能力	3	10	15	2		17	1	1	6	1		38
⑦	専門分野に関する知識・態度・処理能力	10	16	7			14	3	6	1			37
⑧	種々の知識・処理能力を統合し，もの・システムづくり等に応用できる能力	8	14	10			15	2	5	3			37
⑨	自主的に課題を見つけ，継続的に学習できる能力	7	17	7	1		15	1	8		1		37
⑩	与えられた課題に対して，計画的に物事を進め，まとめる能力	7	18	6			15	1	7	2			37
⑪	積極性	11	13	8			15	3	5	2			37
⑫	協調性	11	17	4			15	1	7	2			37
⑬	礼儀正しさ，誠実さ	13	16	4			14	2	6	2			37
	計	83	184	131	5	1	206	18	68	37	4	0	484

（出典　平成 23 年度 10 月第２回進路指導委員会資料）

（分析結果とその根拠理由）

平成 22 年度に実施した企業アンケートの結果から，ほぼすべての項目について良い評価を受けており，本校の教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

これらのことから，卒業（修了）生や進路先等の関係者から，卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や，卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴収する等の取組を実施している。また，その結果から判断して，教育の成果や効果が上がっている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

第３学年に対して実施されている学習到達度試験においては，数学の学校平均点がほぼ全国平均レベルとなっている。小中学校の全国学力テストの成績が全国最低レベルにある釧路地域において，全国平均まで数学力を持ち上げていることは本校の教育の成果と判断できる。

（改善を要する点）

企業アンケートの結果と専攻科修了生自身の自己評価から，本校の英語教育の改善の必要性を認識している。

（３）基準６の自己評価の概要

準学士課程，専攻科課程ともに，卒業・修了時において学生に身に付けさせる学力や資質・能力，養成する人材像について，科目ごとに成績評価基準がシラバスに定められ，全教員による卒業・修了認定会議において成績一覧表から達成状況の把握・評価を行い，卒業認定基準に沿って認定を行っている。学生自身による達成度評価が毎年行われており，集計結果は教務委員会に報告され，審議している。専攻科課程においては，この３年間において学位授与試験全員合格を果たしており，教育の効果や成果は十分に上がっていると判断する。

第３学年に対して実施されている学習到達度試験においては，数学の学校平均点がほぼ全国平均レベルとなっている。小中学校の全国学力テストの成績が全国最低レベルにある釧路地域において，全国平均まで数学力を持ち上げていることは本校の教育の成果と判断できる。

準学士課程，専攻科課程ともに就職率（就職者数／就職希望者数）は極めて高く，就職先も製造業や電気・ガス・熱供給・水道業，情報通信業，専門・技術サービス業関連，建設業関連などの当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。さらに，卒業（修了）生の進学先は，いずれも国立大学工学部であり，出身学科に関連する学科に進学している。

特別研究においては，徐々に学会発表件数が増えており，教育の成果や効果が上がっている。平成21年度から開催されている３次元ディジタル設計造形コンテストにおいては，毎年優秀な成績を収めており，平成23年度は優勝している。トゥルク応用科学大学（フィンランド）との交流協定による短期留学に学生が積極的に参加している。

平成 22 年度に実施した企業アンケートの結果から，ほぼすべての項目について「普通」～「優れている」という評価を受けており，本校の教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

基準７　学生支援等

（１）観点ごとの分析

観点７－１－①：　学習を進める上でのガイダンスが整備され，適切に実施されているか。また，学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

本校では，年度当初の約１週間は特別時間割を組んでおり，新入生に対して種々の導入教育が行われる（資料７－１－①－１）。新入生オリエンテーション（資料７－１－①－２）は，本校における学校生活や学習に関する諸注意等を含む重要な行事であり，教務オリエンテーションでは教務主事から本校で学習を進める上での諸注意が説明される（資料７－１－①－３）。他にも，学生主事による学生生活に関するオリエンテーション，一般教育科教員による学習オリエンテーションなど，本校における学習等に関して説明している。

専攻科課程の新入生および第２学年に対しても，年度当初にガイダンスを開催し，専攻科における学修上の注意，学士取得要件，JABEEプログラム修了要件等について説明している（資料７－１－①－４，５）。

準学士課程２～５学年においては，年度当初にホームルームにおいて担任からガイダンスが行われた後，始業式における校長講話，教務主事訓話において１年間の心構えを説く（資料７－１－①－６，７）。また，第２学年は，本校の２段階学科選択制度を経て新たな学科（クラス）編成となっているため，資料７－１－①－１に示した特別時間割の初日の１・２時限を「学科オリエンテーション」とし，クラス担任と各学科の協力により，それぞれの学科における学習等について説明している。

年度当初の教務委員会においては，第１回目の授業において，シラバスを配布し，シラバスに基づいて科目学習に必要な内容を説明するよう指示している（資料７－１－①－８）。

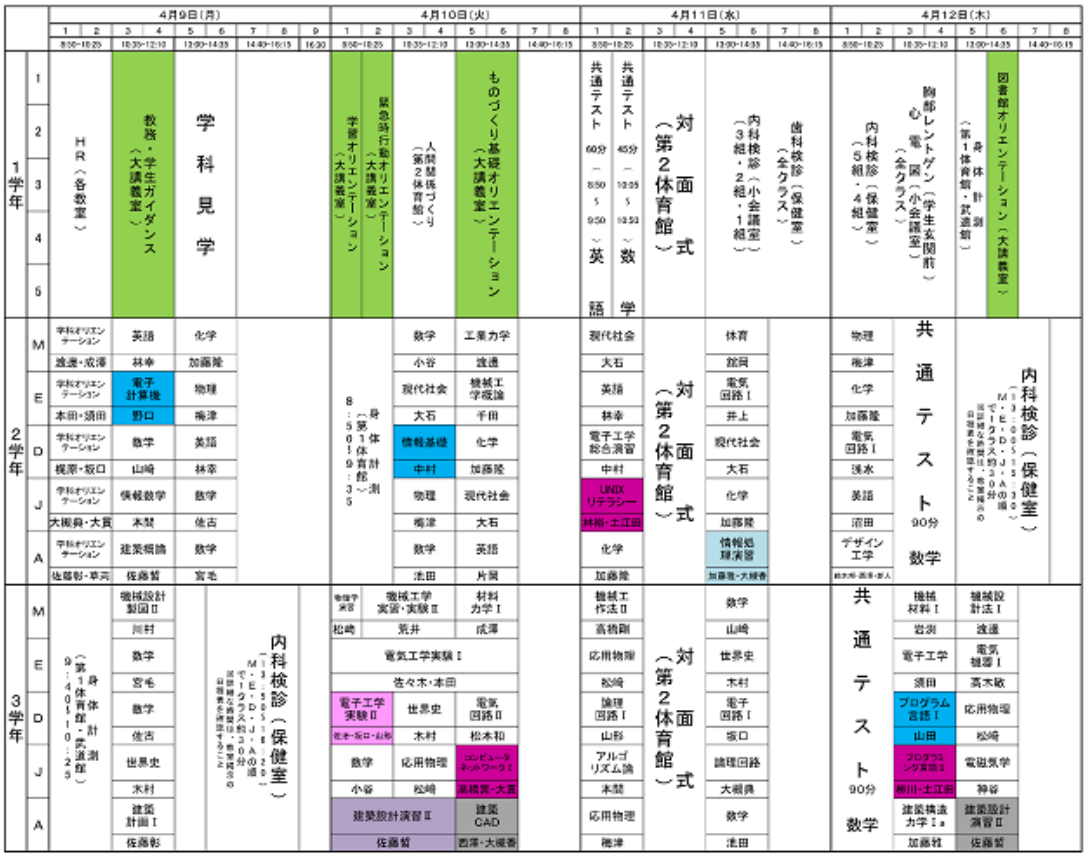
学生の自主学習に対する相談・助言体制として，時間割上で統一してオフィスアワーを定めている（資料７－１－①－９）。オフィスアワーに限らず，本校では教員室前のユーティリティスペースにテーブルと椅子が置かれ，学生はいつでも教員室を訪ねて質問・相談し，教員室前で自主学習する環境を整えている。

さらに，本校の学生相談室は，学習相談を業務の一つとしており，相談室のホームページにおいても，学習関連の悩みを相談項目として明記している（資料７－１－①－10，11）。

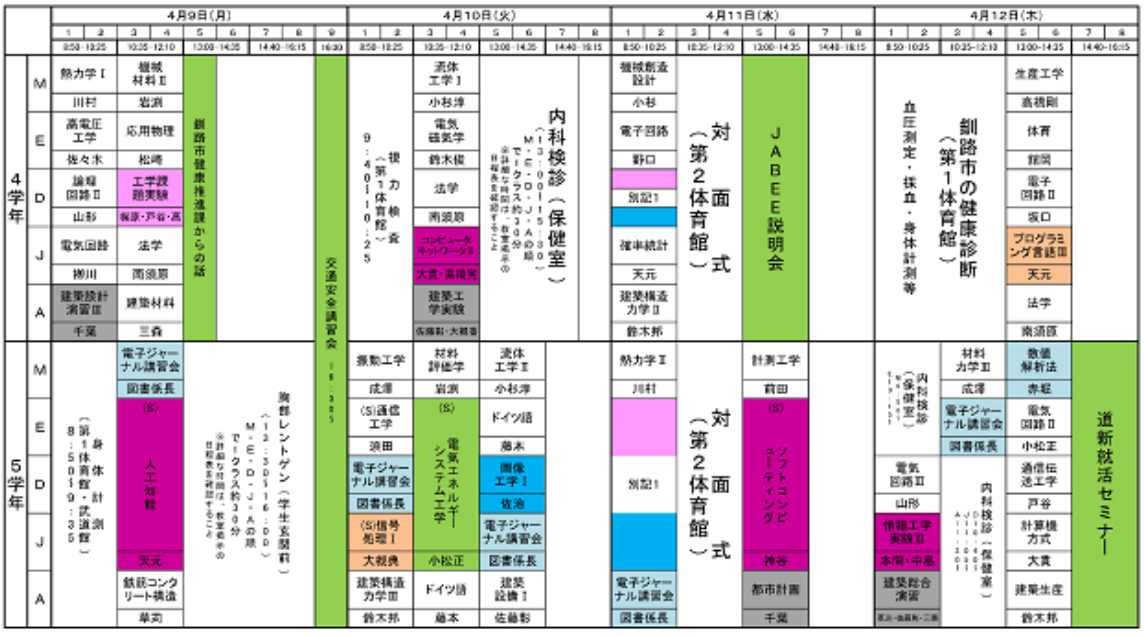
資料７－１－①－１

「年度当初の特別時間割」

平成24年度　特別授業時間割



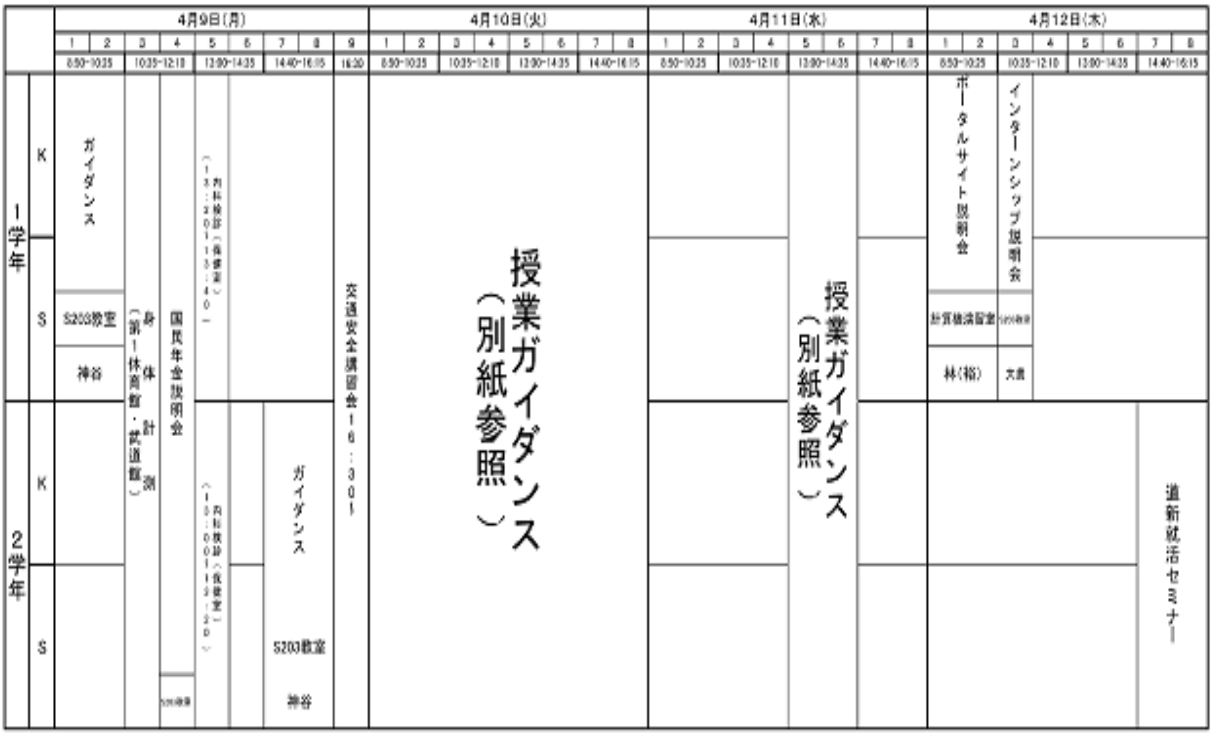
平成24年度　特別授業時間割



資料７－１－①－１（続き）

「専攻科授業内容説明に関する特別時間割」

平成24年度　特別授業時間割



（出典 web サイト　内部ホームページ）

資料７－１－①－２

「新入生オリエンテーション」　（抜粋）

資料４－１

新入生オリエンテーション

目的

① 釧路高専の専門学科に関する基本的な知識を与え、学科選択への意識を高めさせること。
② 学習習慣・学習方法を身につけさせること。
③ 主要な校舎・設備について理解させ、安全な学校生活への認識を深めさせること。
④ 新たな人間関係の基礎作りをさせること。
⑤ 学生生活の心構えについて理解させること。

日程：平成２４年４月９日（月）～１０日（火）

内容

１．	ＨＲ	（９日１・２時限）	担任・副担任
２．	教務オリエンテーション	（９日３時限）	教務主事
３．	学生生活オリエンテーション	（９日４時限）	学生主事
４．	専門学科紹介	（９日５・６時限）	専門学科
５．	学習オリエンテーション	（１０日１時限）	一般教育科
６．	緊急時行動オリエンテーション	（１０日２時限）	学生主事・看護師
７．	人間関係づくり	（１０日３・４時限）	学生相談室

その他

・学生の服装はジャージとする。
・筆記用具、オリエンテーションのしおりを常に携行させる。
・教務、学生生活オリエンテーションには学生便覧、シラバスも持参させる。
・１０日は上靴を持参させる。

（出典　平成 24 年度学生員会資料４－１）

資料７－１－①－３

「新入生オリエンテーション日程表」　（抜粋）

資料4－2

新入生オリエンテーション日程表

4月9日（月）

時　間	内　容　・　学　生　の　動　き	場　所	必要物品	担当者
8:50～	**HR**	ＨＲ教室		担任 副担任
10:25～ 10:35	大講義室へ移動 クラスごとに指定された席に着く			
10:35～ 11:20	**教務オリエンテーション** 筆記用具 学生便覧 しおり **シラバス**	大講義室	マイク	教務主事
	休憩			
11:25～ 12:10	（校歌指導） **学生生活オリエンテーション** 筆記用具 学生便覧 しおり	大講義室	マイク 校歌ＣＤ	学生主事
12:10～	昼休み			
13:00	第１体育館に集合 諸注意	第１体育館	マイク 学科立て札	学生主事
13:10	仮配属学科へ移動			各学科長
13:15～ 13:40	**専門学科紹介①** 筆記用具 しおり	**M：製図室** **E：計算機実験室**		各学科長
13:40～ 13:50	専門学科紹介②へ移動 ※各自で場所を確認すること	**D：電子工学** **応用実験室**		
13:50～ 14:15	**専門学科紹介②**	**J：情報処理実験室** **A：CAD室**		
14:15～ 14:35	各ＨＲへ移動 ワークシート記入等	ＨＲ教室		担任 副担任

（出典　平成 24 年度４月学生委員会資料４－２）

資料７－１－①－４

「専攻科ガイダンスに関する資料」　（抜粋）

平成 24 年度専攻科(第１学年)ガイダンス日程

実施日：平成 24 年４月９日（月）　　場所：S203 教室

時　　間	事　　項
８：50	○専攻科長挨拶 ○両専攻長挨拶 ○配付資料確認（修学支援係長） ・年度当初の日程　　・前期時間割(特別時間割を含む) ・履修届，他専攻授業科目履修届（４月 12 日(木)までに提出) ・年間行事予定表　　・シラバス ・学位授与制度の概要　・教科書等一覧 ・保証人異動届，学生身上異動等届 ・JABEE プログラムについて ・学生便覧　　・連絡先登録用紙 ・計算機演習室利用申請書 ○専攻科の概要 (1)教育課程　　(6)e－ラーニング (2)単位制、選択制　(7)海外短期留学 (3)在籍期間　　(8)修了要件 (4)試験(60 点合格)　(9)緊急連絡システム登録 (5)学位取得 【休　憩】 ○履修について (1)学位取得に係る単位　　(3)特別時間割と履修計画 (2)開設科目の説明(必修・選択) ○その他 (1)学内の施設利用 ・専攻科棟 (2)学生生活関係 ・掲示(専攻科 HP)、学生相談室、喫煙 (3)その他 ・教科書購入 ・広報に関わる個人情報の扱いについて
10：25	終了

（出典 平成 24 年度３月定例教務委員会議事録 資料 11）

資料７－１－①－５

平成 24 年度専攻科(第２学年)ガイダンス日程

実施日：平成 24 年４月９日（月）　　場所：S203 教室

時　　間	事　　項
13：00	○配付資料確認（修学支援係長） ・年度当初の日程　・前期時間割（特別時間割を含む） ・履修届，他専攻授業科目履修届（４月 12 日(木)までに提出） ・年間行事予定表　・シラバス（１学年分含む） ・学位授与制度の概要　・教科書等一覧 ・保証人異動届，学生身上異動等届 ・学修簿　・新しい学士への途 専攻科長より、おもに次の事項について説明 ○学位取得関係 ○JABEE 関係 ○e ラーニング関係 ○海外短期留学関係 ○その他
14：35	終了

（出典 平成 24 年度３月定例教務委員会議事録 資料 11）

資料７－１－①－６

「年度当初の日程」　（抜粋）

資料7
教務委員会
H24. 2. 6

平成24年度　年度当初の日程

月	日	曜	行　　事　　等
	1	日	
	2	月	
	3	火	☆寮務委員会(10:30)　　☆学生委員会(14:00)
	4	水	☆教務委員会(10:00)　　☆学級担任会議(14:00)
	5	木	学生名票・教務手帳用紙配付(非常勤講師室) ☆教員会議(13:30)(挨拶，入学式の話，新2年生の配属結果の話，新年度の方針の話等) ☆新入生オリエンテーション参加教職員打合せ会議(14:00) ☆1学年担任会議(上記会議終了後)
	6	金	始業日 2～5学年 1時限　HR(各HR教室) 2時限　始業式(第2体育館) 校長講話，教務・学生・寮務主事の話 出席優良者表彰，留学生紹介，新任教員紹介 始業式終了後 寮生集会(第2体育館) 教科書販売(第1体育館) 入学式・編入学式準備(14:00)
4			

（出典　平成 24 年４月教務委員会資料－７）

資料７－１－①－７

「始業式次第」　（抜粋）

始　業　式　実　施　要　項

日時　　平成２４年４月６日（金）２時限
場所　　第２体育館
進行　　山﨑教務主事補

1．開式の辞
2．校長講話
3．教務主事訓話
4．学生主事訓話
5．寮務主事訓話
6．学生相談室長から
7．新任教員紹介（校長）

（出典 平成 24 年度 4 月学級担任会議，資料３）

資料７－１－①－８

「年度当初のシラバス配布の関わる指示文書」　（抜粋）

(4) 授業開始時のシラバス配付について

委員長から，授業開始時のシラバス配付について，以下のとおり依頼および説明があり，審議の結果，了承された。

・　従来どおり授業開始時にシラバスを配付，説明願いたい。

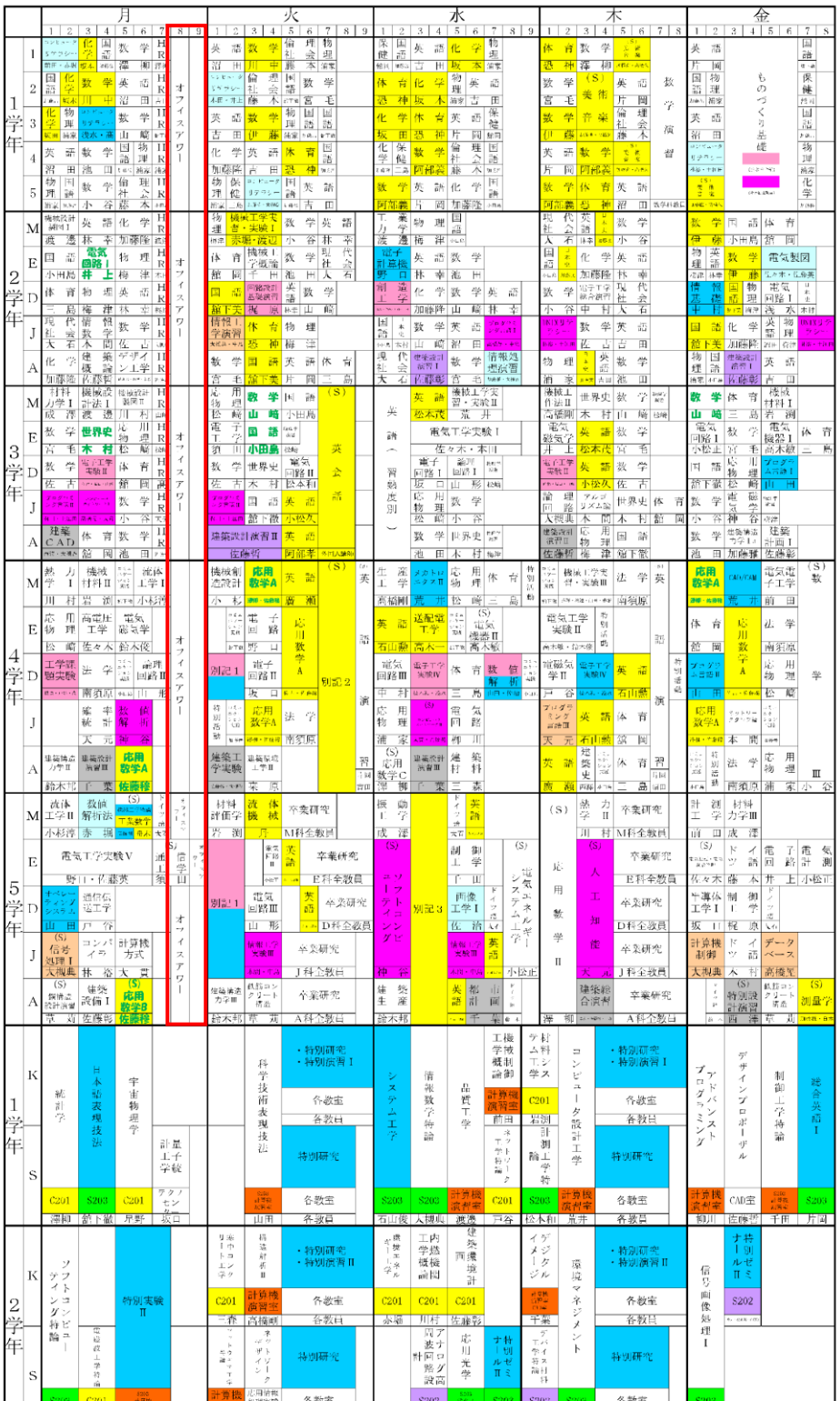
・　複数の教員が担当する科目についても，代表者等が責任を持って配付願いたい。

・　１年生については，入学式当日に配付する予定である。また，配付するシラバスは，２つある様式のうち，「１」を配付する。

（出典 平成 23 年度４月定例教務委員会議事録）

資料７－１－①－９

「授業時間割（オフィスアワーの時間帯に関する資料）」



時　限　表

SHR	8:40 － 8:50
1	8:50 － 9:35
2	9:40 － 10:25
3	10:35 － 11:20
4	11:25 － 12:10
5	12:10 － 13:00
6	13:00 － 13:45
7	13:50 － 14:35
8	15:30 － 16:15
9	16:20 － 17:05

<本科第1～5学年>

- 共通教室
- 情報処理センター（第１）
- 情報処理センター（第２）
- 電子工学応用実験室
- 建築製図室
- 情報処理実験室
- 情報基礎実験室
- 応用情報処理
- 建築ＣＡＤ

別記１

火曜日	1・2時限
	計測システム（感）
	シーケンス制御（総本棟）
	応用情報処理（浅水）

別記２

木曜日	7・8時限
	数学Ⅱ（神柳）
	英会話（外国人講師）

別記３

水曜日	3・4時限
	社会科学入門A（藤原昭），基礎法A（杉浦）
	歴史と文化Ⅰ（木村），名探偵入門（小川哲）
	歴史と文化Ⅱ（平沢），日本文学Ⅱ（新口敏）
	数論（鶴木），中国文化入門
	英語コミュニケーション（ニックネーム）

※ 知的財産（吉谷）
電子工学特論（名原）
特別講義Ⅰ（テラーワ）
については集中講義

<専攻科第1～2学年>

- 必修科目
- S203教室
- C201教室
- S202教室
- 計算機演習室

緑色文字の科目は留学生や編入学生の学年の移動や振り替えがある科目です。

（出典 web サイト　内部向けホームページ）

資料７－１－①－10

「学生相談室規程」　（抜粋）

○釧路工業高等専門学校学生相談室規程

（目的）

第２条 相談室は，学生の個人的諸問題について相談に応じ，問題解決のために必要な助言・援助を与えることを目的とする。

（職員）

第３条 相談室に，次の職員を置く。

一 相談室長

二 相談員 若干名

三 学生支援コーディネーター 若干名

２ 相談員は，本校教員の中から校長が任命する。

３ 相談員のうち１名を相談室長（以下「室長」という。）とし，校長が選任する。

４ 学生支援コーディネーターは，本校教員の中から校長が任命する。

５ 相談員及び学生支援コーディネーターの任期は，２年とし，再任を妨げない。ただし，補欠による相談員及び学生支援コーディネーターの任期は，前任者の残任期間とする。

６ 校長は，必要に応じて本校職員以外の者を相談員として委嘱することがある。

（業務）

第４条 室長は，相談室を総括する。

２ 相談室は，次の業務を行う。

一 学生の個人的諸問題に関する相談及び助言

二 学生の精神衛生上の相談及び助言

三 学生相談の活動に必要な研究及び調査

四 前各号の業務に必要な資料の収集及び保存

五 その他学生相談に関し，必要な事項

３ 学生支援コーディネーターは，発達障害学生（発達障害者支援法第２条に定義する者。）にかかる次の業務を行う。

一 教職員に対する発達障害学生への支援に関する理解と普及

二 当該学生との接触及び保護者との連絡調整

三 当該学生の学級担任，授業担当教員及び所属学科等との情報交換並びに必要に応じて関係教員を招集してのミーティング

四 必要に応じ各委員会へ出席して状況の説明・助言

五 医療機関及び出身中学校等との連携

（秘密の厳守）

第５条 第３条第１項の職員は，業務上知り得た事項を秘密にし，それを厳守しなければならない。

（出典 学生相談室ホームページ）

資料７－１－①－11

「学生相談室の利用実績のデータ」

平成23年度学生相談室等の利用状況について

学校名		利用状況（年間）											
		保　健　室				相　談　室				カウンセラー			
		メンタル相談		疾病等		相談件数		相談人数		相談件数		相談人数	
		学生	教職員	学生	教職員	学生	教職員	学生	教職員	学生	教職員	学生	教職員
3	釧路	187	2	994	27	16	2	9	2	20	14	15	10

（出典　学生相談室資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，年度当初の約１週間は特別時間割を組んでおり，準学士課程，専攻科課程新入生を中心として，種々のオリエンテーションやガイダンスを実施している。

学生の普段の自主学習に対する相談・助言体制として，時間割上で統一してオフィスアワーを定めている。本校では教員室前のユーティリティスペースにテーブルと椅子が置かれており，学生はいつでも教員室を訪ねて質問・相談し，教員室前で自主的に学習する環境を整えている。

本校の学生相談室は，学生からの学習相談を業務としている。

これらのことから，学習を進める上でのガイダンスが整備され，適切に実施され，また，学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され，機能している。

観点７－１－②：　自主的学習環境及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）

教員室前にユーティリティスペースがあり，机と椅子が置かれ，学生の自主学習や各種資料提供に利用している（資料７－１－②－１）。ホームルーム教室の放課後利用は制限しておらず，定期試験前など，学生の自主学習に利用されている。専攻科棟３階には専攻科学生ルームがあり机と椅子，パソコンを設置しており，講義の合間や放課後に学生が利用している（資料７－１－②－２）。これらの施設についての利用統計は取っていないが，多くの学生が利用している。また，本校施設の休日使用については，使用規則が定められ（資料７－１－②－３），教員の指導の下で利用することができる。

本校の図書館開館時間は平日は20:00まで，土曜日は17:00までとし，試験期間中は日曜日も開館している。なお，長期休業期間中は平日17:00までの開館としている（資料７－１－②－４）。図書館の利用統計（資料７－１－②－５）から，平均で土曜日に100人，日・祝日に171人という高い利用状況になっている。

実習工場や情報処理演習室についても，それぞれ利用規定を定め（資料７－１－②－６，７），放

課後の利用に便宜を図っている。

福利厚生施設として鶴峰会館があり，学生食堂，売店が置かれている（資料７－１－②－８，９）。１階および２階に合宿用の宿泊設備（１階の１室は女子学生用）を用意している（資料７－１－②－10）。また，部室として課外活動に利用されている。

コミュニケーションスペースとして，本校では校内の廊下の各所や学生ホール，鶴峰会館にソファやベンチを設置しており（資料７－１－②－11），休み時間や放課後の学生たちの歓談の場として提供している。

資料７－１－②－１

「ユーティリティスペースの利用状況」





（出典 総務課作成資料）

資料７－１－②－２

「専攻科学生ルーム」





（出典 総務課作成資料）

資料７－１－②－３

「教室などの学校設備の放課後及び休日利用についての規程」　（抜粋）

（略）

第10章　施設・設備の使用

（施設・設備の使用）

第29条　学生及びその団体が、本校の施設・設備を使用しようとする場合には、その目的、施設・設備の名称等を記載した施設・設備使用許可願（第15号様式）を校長に提出し、その許可を受けなければならない。ただし、日常その使用を認められた施設・設備についてはこの限りではない。

（略）

（出典 平成 24 年度学生便覧　p. 27～28）

資料７－１－②－４

「図書館の利用規定」　（抜粋）

（略）

第５条　図書館には、学生からの相談に応じ、助言のための読書指導教員を置く。

（利用者）

第６条　図書館を利用できる者は、次に掲げる者とする。

一　本校の職員

二　本校の学生

三　図書館の利用を申し出た一般の利用者

（開館日及び開館時間）

第７条　図書館は、次に掲げる日を除き、開館する。

一　日曜日及び国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日。ただし、定期試験の直前及び試験期間中の日曜日・祝日を除く。

二　12月28日から翌年１月４日まで

三　春季、夏季、冬季及び学年末休業期間の土曜日

２　開館時間は、次のとおりとする。

一　月曜日～金曜日　８：30～20：00

二　土曜日、定期試験の直前及び試験期間中の日曜日・祝日　８：30～17：00

（略）

（出典 平成 24 年度学生便覧　p. 77）

資料７－１－②－５

「図書館の利用実績」

◇開館日数	計	195 日
平　日		137 日
土曜日		27 日
日・祝		8 日
休業中		23 日
◇入館者数	計	47,273 人
平　日		42,082 人
土曜日		2,704 人
日・祝		1,369 人
休業中		1,118 人
◇一日平均入館者数		
平　日		307 人
土曜日		100 人
日・祝		171 人
休業中		49 人
◇貸出延人数	計	3,682 人
学　生		3,271 人
教職員		262 人
学外者		149 人
◇貸出冊数	計	7,873 冊
学　生		6,869 冊
教職員		550 冊
学外者		454 冊

（出典 図書館便り 35 号）

資料７－１－②－６

「実習工場の利用規定」　（抜粋）

実習工場使用について（学内向け）
実習工場で作業する学生及び教職員は、作業前に下記注意事項をよく読み、機器の操作および安全に対して細心の注意を払うこと。
安全に使用するために　《各工作機械の注意事項はこちら　（ｐｄｆファイル）》
実習工場内の工作機械や設備は、その取り扱いを間違えるとケガや取り返しのつかない事故につながります。使用する前に下記事項をよく読み、安全に十分注意して作業すること。
作業の前に
・実習工場を使用する時は「実習工場工作機械等使用願」に必要事項を記入し、担当教員の署名をもらい工場へ提出し許可をもらうこと。

（中略）

その他
・休日の使用は原則として禁止する。
・教職員は、学生の模範となるよう行動すること。
・その他不明な点は、工場担当職員の指示に従うこと。

（出典 web サイト内部向けホームページ）

資料７－１－②－７

「情報処理演習室の利用について」　（抜粋）

演習室の放課後の開放について
今年度も例年通り、第１演習室のほうは昼休み・放課後の開放を行っておりますが、H24 年度から校舎４号棟１階第２演習室のほうも放課後の開放を行います。学生の皆さんは、自学自習にお使いください。
決まりを守り、適切に使用してください。

基本的な使い方について

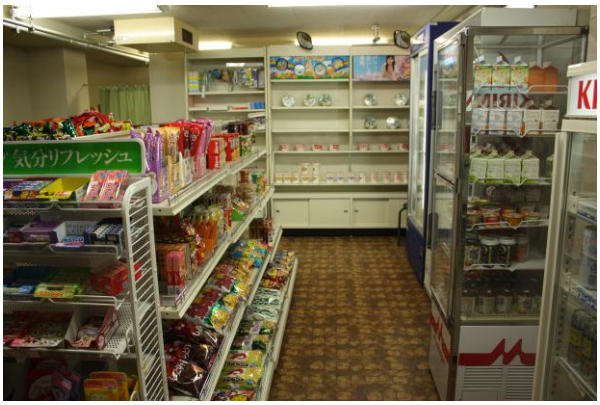
1	何かトラブルがあった場合は、情報処理センター　小清水　へ連絡してください。
2	他のクラスが授業をしている間は入室してはいけません。
3	演習室のパソコンを使用してゲームをしてはいけません。
4	演習室内での飲食は禁止。
5	落書きは止めましょう。
6	消しゴムのかす・ホチキスの針は廊下のゴミ箱に捨てましょう。特に、ホチキスの針はカーペットの上に落ちると、踏む可能性があり危険です。必ず、廊下のゴミ箱に捨てましょう。
7	靴は必ず下駄箱に入れてください。
8	演習室にゴミ箱はありません、自分のゴミはすべて持ち帰り、廊下のゴミ箱等に捨ててください。
9	勝手にソフトウェアやアプリケーションをインストールしてはいけません。
10	無駄な印刷は禁止です。必ず両面印刷をしてください。
11	USB メモリーの忘れ物が大変多いです。使用する USB メモリーには、氏名と学籍番号を記入して使用してください。
12	17:00 以降演習室を利用したい場合は、事前に時間外利用申請書を提出してください。
13	その他、他の人の迷惑になる行為はしないでください。

（出典 内部向けホームページ）

資料７－１－②－８

「鶴峰会館の学生食堂，売店などの設備の状況」





（出典　総務課作成資料）

資料７－１－②－９

「鶴峰会館の利用規定」　（抜粋）

（略）

第２条　会館を使用できる者は、本校の学生及び教職員とする。ただし、校長が特に必要と認めた場合は、その他の者に使用を許可することがある。

（開館時間等）

第３条　開館・閉館及び使用を認める時間（以下「開館時間等」という。）別表１及び別表２の定めるところによる。ただし、校長が特に認めた場合は、この限りではない。

（休館日）

第４条　休館日は、次のとおりとする。ただし、校長が特に必要と認めた場合は、この限りでない。

一　土曜日及び日曜日

二　国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規程する休日

三　年末年始の特別休暇の日

四　その他校長が特に指定した日

（使用手続）

第５条　会館の課外活動共用室、暗室・前室及び和室（以下「共用室等」という。）を使用しようとする者は、あらかじめ施設・設備使用許可願（学生準則第１５号様式）を校長に提出し、許可を得なければならない。

２　共用室等の使用については同一団体等で引き続き使用し、専用することはできない。ただし、校長が特に必要と認めた場合は、この限りではない。

（使用者の遵守事項）

（略）

（出典 平成 24 年度学生便覧　p. 99～100）

資料７－１－②－10

「鶴峰会館の利用実績」

平成23年度　合宿一覧

時期	クラブ等名	性別	延べ人数	期間	使用共用室
GW	男子バスケットボール部	男	58	4/29 ～ 5/ 4	２号室
	男子バレーボール部	男	14	5/ 3 ～ 5/ 4	３号室
	バドミントン部	男	2	4/29 ～ 4/30	４号室
	野球部	男	72	4/29 ～ 5/ 4	１号室
	テニス部	男	42	4/29 ～ 5/ 4	１・４号室
	サッカー部	男	20	4/29 ～ 4/30	３号室
	吹奏楽部	男	38	4/29 ～ 5/ 4	２・３号室
		女	2	4/29 ～ 4/30	５号室
夏季休業	陸上部	男	4	8/12 ～ 8/13	３号室
	男子バスケットボール部	男	29	8/15 ～ 8/17	１・２号室
	男子バレーボール部	男	28	8/24 ～ 8/27	３号室
	ソフトテニス部	男	20	8/ 3 ～ 8/ 6	２号室
		女	12	8/ 3 ～ 8/ 6	５号室
	卓球部	男	10	8/17 ～ 8/19	３号室
	バドミントン部	男	9	7/30 ～ 8/ 1	４号室
	野球部	男	99	8/19 ～ 8/27	２号室
		女	16	8/21 ～ 8/27	５号室
	テニス部	男	71	7/30 ～ 8/ 2、8/23 ～ 8/27	１号室
		女	27	7/30 ～ 8/ 2、8/17 ～ 8/27	５号室
	吹奏楽部	男	13	8/21 ～ 8/27	１号室
	ロボット研究会	男	56	8/21 ～ 8/27	３号室
	大学編入対策	女	16	7/30 ～ 8/ 6	５号室
学年末	男子バレーボール部	男	40	3/31 ～ 4/ 4	２号室
	卓球部	男	36	3/19 ～ 3/24	１号室
	野球部	男	27	4/ 2 ～ 4/ 4	３号室
	テニス部	男	70	3/29 ～ 4/ 4	１号室
		女	7	3/29 ～ 4/ 4	５号室
	自転車部	男	33	3/31 ～ 4/ 4	２号室
	吹奏楽部	男	7	3/29 ～ 4/ 4	１号室
	大学編入対策	男	10	3/19 ～ 3/23、3/29 ～ 3/31、4/ 3 ～ 4/ 4	１号室

（出典 学生課作成資料）

資料７－１－②－11

「休憩用ソファーの利用状況」





（出典 総務課作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校では教員室前にユーティリティスペースがあり，机と椅子が置かれ，学生の自主学習や各種資料提供に利用している。専攻科棟３階には専攻科学生ルームがあり講義の合間や放課後に学生が利用している。

本校の図書館開館時間は平日は20:00まで，土曜日は17:00までとし，試験期間中は日曜日も開館している。実習工場や情報処理演習室についても，それぞれ利用規定を定め，放課後の利用に便宜を図っている。

福利厚生施設として鶴峰会館があり，学生食堂，売店が置かれている。合宿用の宿泊設備や部室として課外活動に利用されている。

コミュニケーションスペースとして，本校では校内の廊下の各所や学生ホール，鶴峰会館にソファやベンチを設置しており，学生たちの歓談の場として提供している。

これらのことから，自主的学習環境及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されている。

観点７－１－③：　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されているか。また，資格試験や検定試験の受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

「校長が学生の声を聞く会」を開催し，学生の意見や要望を直接汲み上げ，回答している。調査後の回答を含め，すべてウェブサイトに掲載している（資料７－１－③－１）。平成22・23年度は校長多忙のために開催できなかったが，今年度再開する予定である。資料７－１－③－２に意見及び回答の一部を示す。学生からは種々雑多な意見が出されるが，可能な限り対応するようにしている。

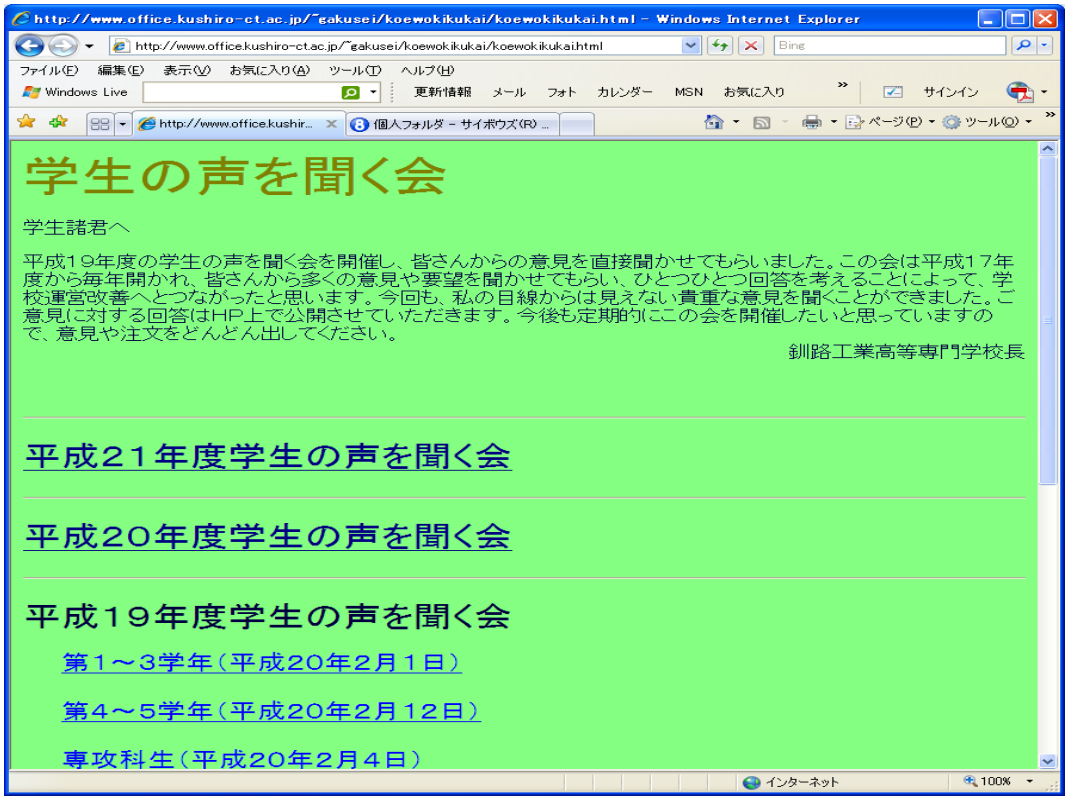
学生ホールには学生意見箱を置き（資料７－１－③－３），学生の意見・希望の収集に努めている。学生意見箱への投書は担当部署の回答を集約して掲示板への貼り出しにより回答している（資料７－１－③－４）。

資格試験や検定試験は，英語検定や漢字検定のように全学生に共通な場合と，それぞれの専門分野に対応し学科独自の場合がある。本校では，第２学年において英検準２級試験を，受験料を補助して全学生に受験させている。専門分野の資格試験等は各学科が指導・実施している（資料７－１－③－５）。検定試験の実施はホームルーム教室に掲示される行事予定表に記載（資料７－１－③－６）している。平成23年度の資格試験の受験者数・合格者数を資料７－１－③－７に示す。資格試験，検定試験の一部は単位認定（資料７－１－③－８）することで学生に資格取得への動機づけを行っている。教務委員会の審議を経て単位認定される（資料７－１－③－９）。

平成23年度にフィンランドのトゥルク応用科学大学（TUAS）との包括協定を締結し（資料７－１－③－10），本校からの留学生派遣およびTUASからの留学生受け入れ態勢を整備した。昨年度は試行として専攻科の学生３名を１か月間の短期留学に派遣した（資料７－１－③－11）。派遣にあたっては，本校の国際交流基金からの補助（資料７－１－③－12）とともに学生支援機構の留学生交流支援制度（ショートビジット）に申請し（資料７－１－③－13），経済的な支援も行った。今年度は３名の専攻科生を３か月派遣することがすでに決定している（資料７－１－③－14）。

資料７－１－③－1

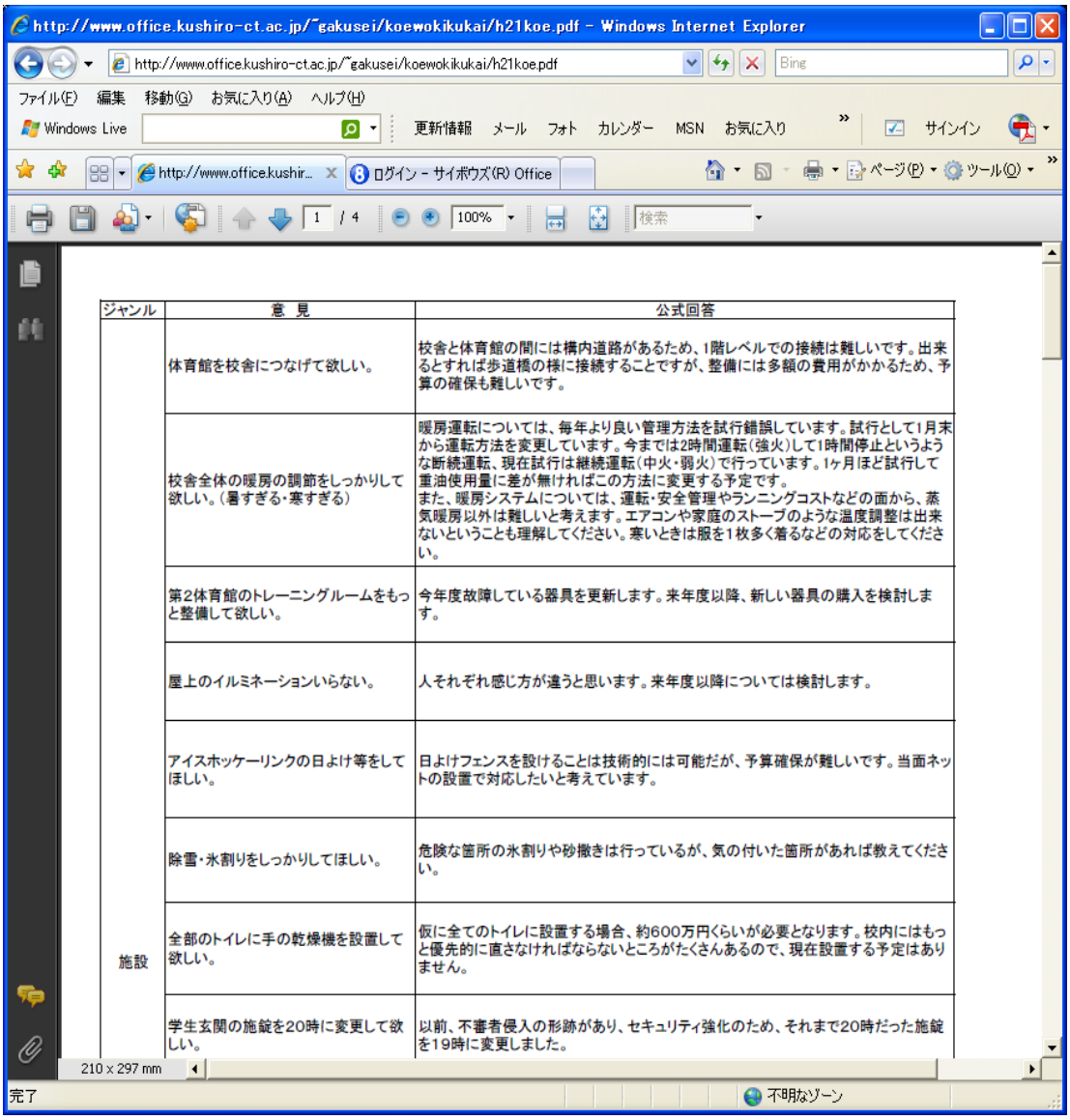
「学生の声を聞く会」　（抜粋）



（出典　web サイト　内部向けホームページ）

資料７－１－③－２

「学生の声を聞く会の意見及び回答」　（抜粋）



ジャンル	意　見	公式回答
施設	体育館を校舎につなげて欲しい。	校舎と体育館の間には構内道路があるため、1階レベルでの接続は難しいです。出来るとすれば歩道橋の様に接続することですが、整備には多額の費用がかかるため、予算の確保も難しいです。
	校舎全体の暖房の調節をしっかりして欲しい。（暑すぎる・寒すぎる）	暖房運転については、毎年より良い管理方法を試行錯誤しています。試行として1月末から運転方法を変更しています。今までは2時間運転（強火）して1時間停止というような断続運転、現在試行は継続運転（中火・弱火）で行っています。1ヶ月ほど試行して重油使用量に差が無ければこの方法に変更する予定です。 また、暖房システムについては、運転・安全管理やランニングコストなどの面から、蒸気暖房以外は難しいと考えます。エアコンや家庭のストーブのような温度調整は出来ないということも理解してください。寒いときは服を1枚多く着るなどの対応をしてください。
	第2体育館のトレーニングルームをもっと整備して欲しい。	今年度故障している器具を更新します。来年度以降、新しい器具の購入を検討します。
	屋上のイルミネーションいらない。	人それぞれ感じ方が違うと思います。来年度以降については検討します。
	アイスホッケーリンクの日よけ等をしてほしい。	日よけフェンスを設けることは技術的には可能だが、予算確保が難しいです。当面ネットの設置で対応したいと考えています。
	除雪・氷割りをしっかりしてほしい。	危険な箇所の氷割りや砂撒きは行っているが、気の付いた箇所があれば教えてください。
	全部のトイレに手の乾燥機を設置して欲しい。	仮に全てのトイレに設置する場合、約600万円くらいが必要となります。校内にはもっと優先的に直さなければならないところがたくさんあるので、現在設置する予定はありません。
	学生玄関の施錠を20時に変更して欲しい。	以前、不審者侵入の形跡があり、セキュリティ強化のため、それまで20時だった施錠を19時に変更しました。

（出典　web サイト　学内向けホームページ）

資料７－１－③－３

「意見箱の写真」　（抜粋）

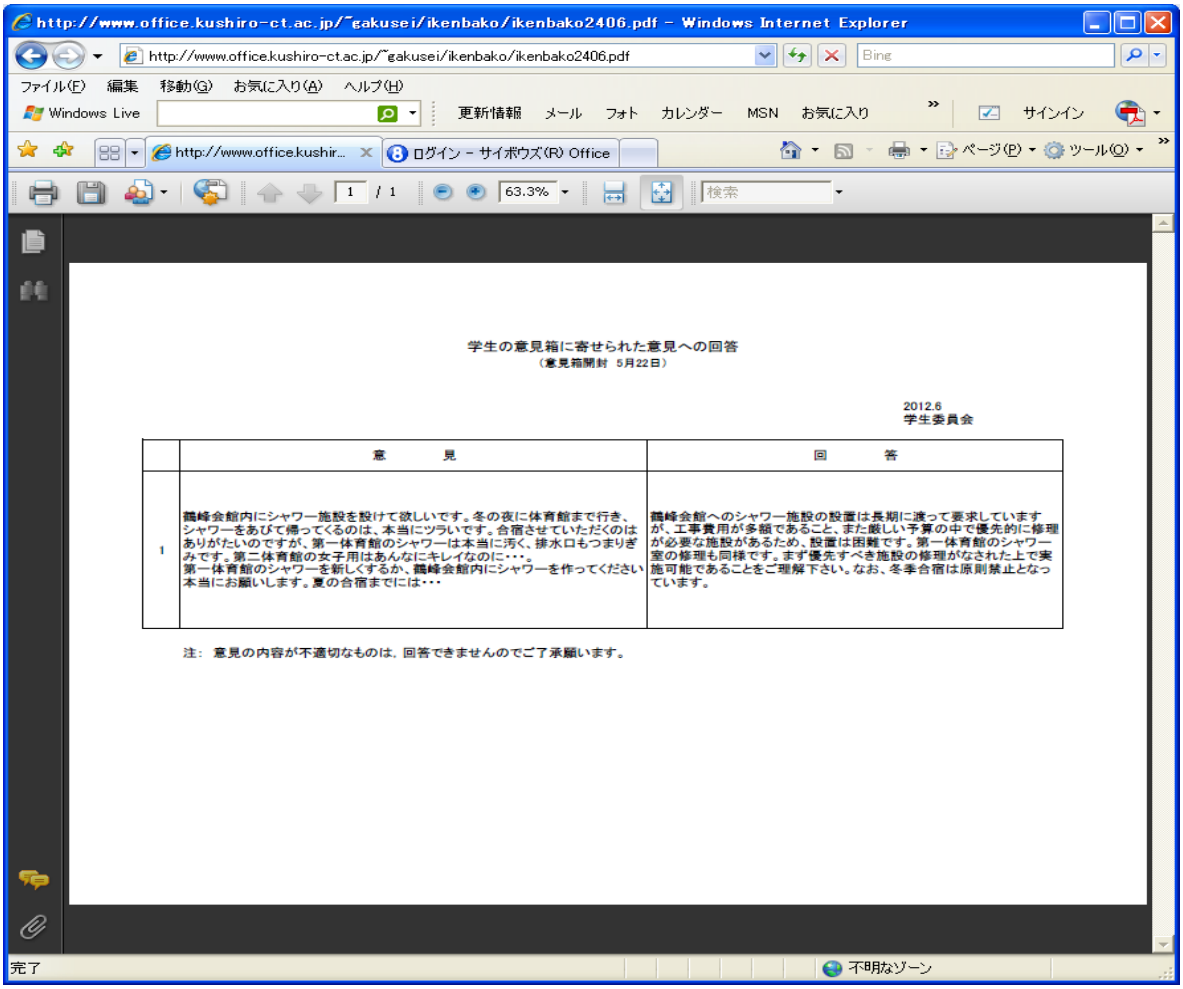




（出典　総務課作成資料）

資料７－１－③－４

「学生意見箱の意見への回答」　（抜粋）



学生の意見箱に寄せられた意見への回答
（意見箱開封　5月22日）

2012.6
学生委員会

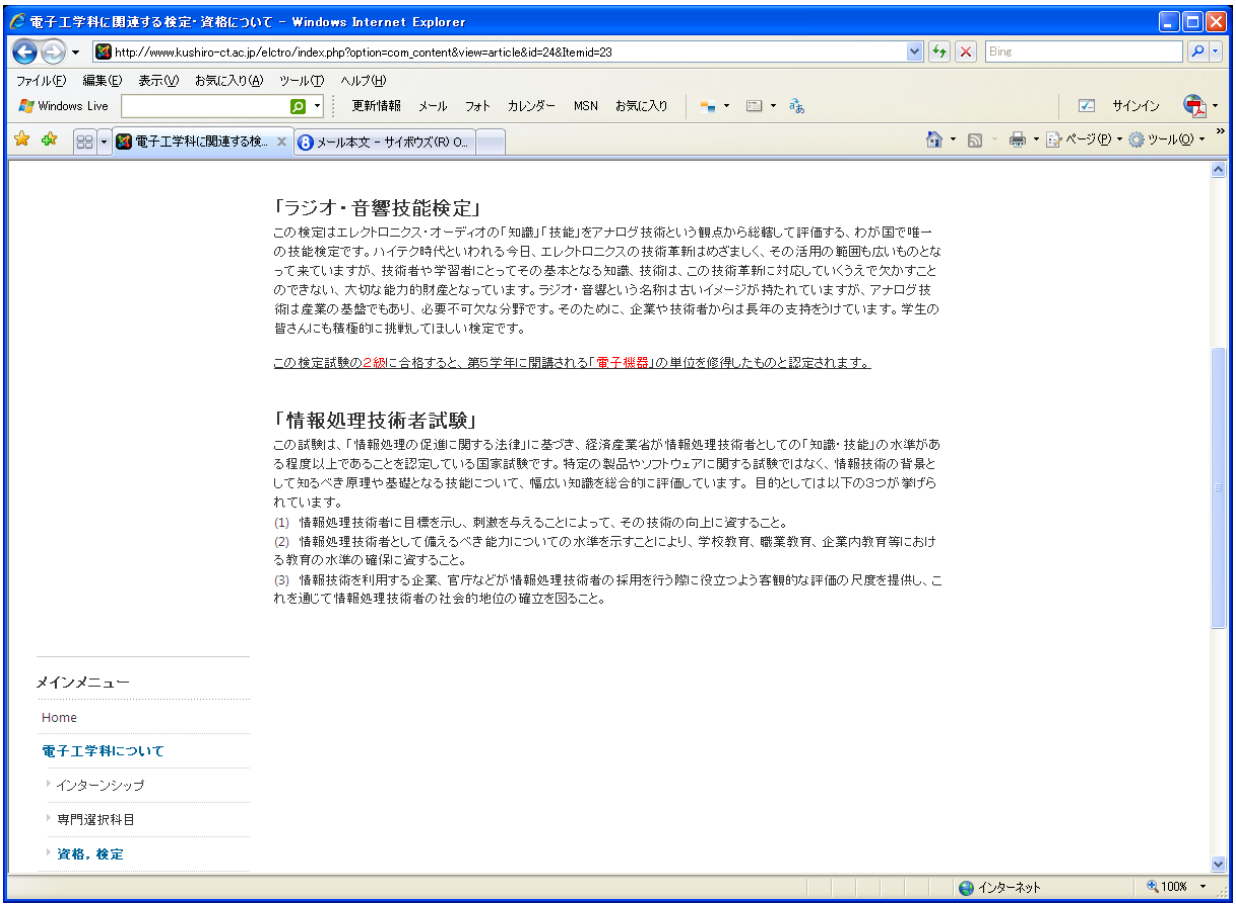
	意　見	回　答
1	鶴峰会館内にシャワー施設を設けて欲しいです。冬の夜に体育館まで行き、シャワーをあびて帰ってくるのは、本当にツラいです。合宿させていただくのはありがたいのですが、第一体育館のシャワーは本当に汚く、排水口もつまりぎみです。第二体育館の女子用はあんなにキレイなのに・・・。 第一体育館のシャワーを新しくするか、鶴峰会館内にシャワーを作ってください本当にお願いします。夏の合宿までには・・・	鶴峰会館へのシャワー施設の設置は長期に渡って要求していますが、工事費用が多額であること、また厳しい予算の中で優先的に修理が必要な施設があるため、設置は困難です。第一体育館のシャワー室の修理も同様です。まず優先すべき施設の修理がなされた上で実施可能であることをご理解下さい。なお、冬季合宿は原則禁止となっています。

注：意見の内容が不適切なものは，回答できませんのでご了承願います。

（出典　web サイト　内部向けホームページ）

資料７－１－③－５

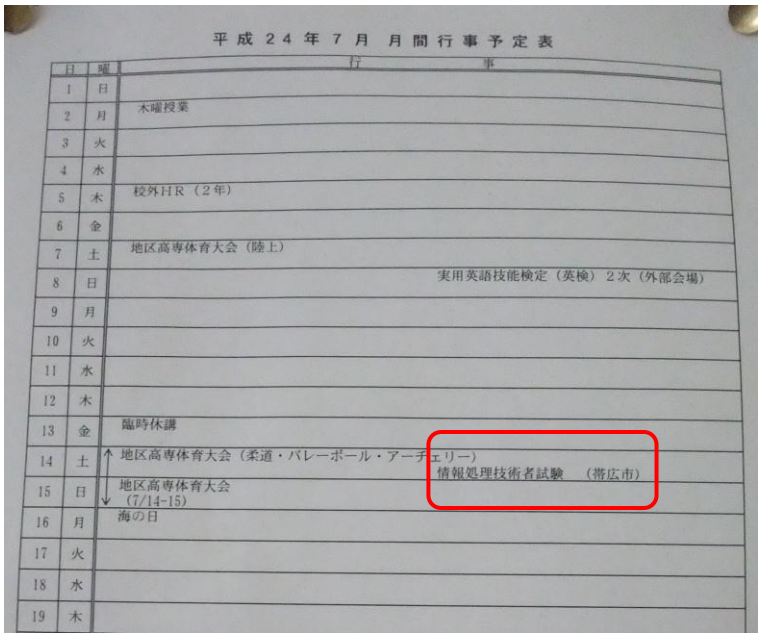
「情報処理技術者試験の案内」　（抜粋）



（出典 web　サイト　内部向けホームページ）

資料７－１－③－６

「月刊行事予定表（５年電子工学科教室内掲示板）」　（抜粋）



平成２４年７月　月間行事予定表

日	曜	行事
1	日	
2	月	木曜授業
3	火	
4	水	
5	木	校外ＨＲ（２年）
6	金	
7	土	地区高専体育大会（陸上）
8	日	実用英語技能検定（英検）２次（外部会場）
9	月	
10	火	
11	水	
12	木	
13	金	臨時休講
14	土	地区高専体育大会（柔道・バレーボール・アーチェリー） 情報処理技術者試験　（帯広市）
15	日	地区高専体育大会 （7/14-15）
16	月	海の日
17	火	
18	水	
19	木	

（出典　総務課作成資料）

資料７－１－③－７

「平成 23 年度　資格試験の受験者数及び合格者数」

平成23年度　特別学修単位認定申請者一覧

学年学科	氏　名	検定試験名	合格年月日（証明年月日）	単位認定科目	認定単位数	審議
５Ｄ	[redacted]	ディジタル技術検定試験２級（情報部門）	平成23年6月27日	メカトロニクス	２単位	10月教務委
５Ｄ		ディジタル技術検定試験２級（情報部門）	平成22年11月28日	メカトロニクス	２単位	12月教務委
５Ｄ		ディジタル技術検定試験２級（情報部門）	平成22年11月28日	メカトロニクス	２単位	12月教務委
５Ｄ		ディジタル技術検定試験２級（情報部門）	平成22年11月28日	メカトロニクス	２単位	12月教務委
５Ｄ		ディジタル技術検定試験２級（情報部門）	平成23年6月26日	メカトロニクス	２単位	12月教務委
５Ｄ		ディジタル技術検定試験２級（情報部門）	平成22年11月28日	メカトロニクス	２単位	12月教務委
５Ｄ		ディジタル技術検定試験２級（情報部門）	平成22年11月28日	メカトロニクス	２単位	12月教務委
５Ｄ		ディジタル技術検定試験２級（制御部門）	平成22年11月28日	メカトロニクス	２単位	12月教務委
５Ｄ		ディジタル技術検定試験２級（情報部門）	平成22年11月28日	メカトロニクス	２単位	12月教務委
５Ｄ		ディジタル技術検定試験２級（情報部門）	平成22年11月28日	メカトロニクス	２単位	12月教務委
５Ｄ		ディジタル技術検定試験２級（情報部門）	平成22年11月28日	メカトロニクス	２単位	1月教務委
５Ｄ		ラジオ・音響（オーディオ）技能検定試験２級	平成23年11月13日	電子機器	２単位	1月教務委
５Ｄ		ディジタル技術検定試験２級（情報部門）	平成23年6月26日	メカトロニクス	２単位	1月教務委
５Ｄ		ディジタル技術検定試験２級（情報部門）	平成23年6月26日	メカトロニクス	２単位	1月教務委
５Ｄ		ディジタル技術検定試験２級（情報部門）	平成22年11月28日	メカトロニクス	２単位	1月教務委
５Ｄ		ラジオ・音響（オーディオ）技能検定試験２級	平成23年11月13日	電子機器	２単位	1月教務委
５Ｄ		ラジオ・音響（オーディオ）技能検定試験２級	平成23年11月13日	電子機器	２単位	1月教務委
５Ｄ		ディジタル技術検定試験２級（情報部門）	平成23年6月26日	メカトロニクス	２単位	1月教務委
５Ｄ		ディジタル技術検定試験２級（情報部門）	平成23年11月27日	メカトロニクス	２単位	2月教務委
５Ｄ		ディジタル技術検定試験３級（情報部門）	平成23年6月26日	メカトロニクス	２単位	2月教務委
５Ｄ		ディジタル技術検定試験２級（情報部門）	平成22年11月28日	メカトロニクス	２単位	2月教務委
５Ｄ		ディジタル技術検定試験２級（情報部門）	平成23年6月26日	メカトロニクス	２単位	3月教務委
５Ｄ		ディジタル技術検定試験２級（情報部門）	平成23年11月27日	メカトロニクス	２単位	3月教務委
５Ｄ		ディジタル技術検定試験２級（情報部門）	平成23年11月27日	メカトロニクス	２単位	3月教務委

（出典　学生課作成資料）

資料７－１－③－８

「資格試験，検定試験の単位認定」　（抜粋）

別表第１　特別学修

検　定　試　験	級	科　　目　　名	単位数	認定学年	該 当 学 科
文部科学省認定 実用英語技能検定試験 文部科学省認定 工業英語能力検定試験	２級 以上	英語コミュニケーションＡ （選択） 英語コミュニケーションＢ （選択）	２	５学年	一般科目 （各学科共通）
文部科学省認定 ラジオ・音響技能検定試験	２級	通 信 工 学（選択）	２	５学年	電気工学科
		電 子 機 器（選択）	２	５学年	電子工学科
		電 気 応 用（選択）	２	５学年	情報工学科
文部科学省認定 ディジタル技術検定試験	２級 情報 ２級 制御	メカトロニクス （選択）	２	５学年	電子工学科

（出典　平成 24 年度学生便覧　p. 49）

資料７－１－③－９

「教務委員会の審議を経て単位認定」　（抜粋）

（略）

(2) 特別学修の単位認定について

委員長から，資料７に基づき説明があり，審議の結果，了承された。

（略）

資料９
教務委員会
H23.10.7

特別学修単位認定申請者一覧

学年 学科	氏　名	検定試験名	合格年月日 (証明年月日)	単位認定科目	認定単位数
5D	[redacted]	ディジタル技術検定試験2級 (情報部門)	平成23年6月27日	メカトロニクス	2単位

（出典　平成 23 年 10 月教務委員会議事録資料）

資料７－１－③－10

「トゥルク応用科学大学（TUAS）との包括連携協定書」

Kushiro National College of Technology

MEMORANDUM OF UNDERSTANDING

between

KUSHIRO NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY, JAPAN

and

TURKU UNIVERSITY OF APPLIED SCIENCES, FINLAND

The subject of this Memorandum of Understanding (MoU) is to establish and develop teaching and research links between the two contracting parties.

The agreement will cover, but is not limited to;

- Exchange of staff members of the institutions
- Exchange of students (eg. academic exchanges and/or Practical training)
- Cooperation in research & development initiatives and in other projects of mutual value
- Exchange of information, documentation and materials where appropriate

This MoU is valid for 5 years and becomes effective upon completion of signatures. MoU is subject to revision, renewal or cancellation by mutual consent at one year's notice.

This MOU is written in English in two copies, one to each party.

Date: 28th Nov. 2011

Takeshi Kishinami
President
Kushiro National College of Technology

Date: 24th November, 2011

Saara Lampelo
Vice-Rector
Turku University of Applied Sciences

（出典　総務課作成資料）

資料７－１－③－11

「短期派遣留学生」　（抜粋）

（略）

３．トゥルク応用科学大学との協定締結について

このことについて，神谷委員より現状について，先方からは協定締結をしなくても専攻科学生３名を受け入れる準備がある旨が報告された。

この報告を受け，今年度は試行的に３名を派遣すること，今年度中の協定締結を目標とすることが改めて了承された。しかし，可能であるなら協定を締結してから派遣したいという校長の意向もあることから，協定締結については協定書案の状態で先方と協議中であるという前提のうえで派遣することが確認された。

（略）

（出典　平成 23 年度第１回国際交流委員会議事録）

資料７－１－③－12

「平成 23 年度国際交流基金採択一覧」　（抜粋）

平成２３年度釧路工業高等専門学校教育研究・国際交流振興基金事業経費採択一覧(案)

番号	申　請　者	所属等	事　業　名	申　請　事　由　等	採択金額
1	田村　聡子	一般教科	学術に関する研究の推進事業	学位取得のための研究発表旅費（京都市，仙台市）	279,000円
2	渡邊　聖司	機械工学科	学術に関する研究の推進事業	研究に関する指導と論文投稿のための打ち合わせ旅費及び学会発表旅費	300,000円
3	石塚　和則	教育研究支援センター	学術に関する研究の推進事業	学位取得のための研究発表旅費（旭川市）	52,000円
4	高橋　剛	機械工学科	教職員・学生の海外派遣事業	国際学会発表旅費（米国ソルトレークシティ 2012.3.11-15）	200,000円
5	渡邊　聖司	機械工学科	教職員・学生の海外派遣事業	国際学会発表旅費（アジア圏又は欧州圏　8月-9月）	200,000円
6	片岡　秀文	機械工学科	教職員・学生の海外派遣事業	国際学会発表旅費（７泊８日　米国アーバイン市）	200,000円
7	浅水　仁	電子工学科	教職員・学生の海外派遣事業	国際学会発表旅費（ベトナム　2012.1.9-10）	200,000円
8	井上　義彦	学生課長	その他本校の教育研究事業及び国際交流事業	留学生／日本人学生混合チームによる「釧路港舟漕ぎ大会」への参加支援（９名）	30,000円
9	井上　義彦	学生課長	その他本校の教育研究事業及び国際交流事業	留学生の親睦を深めるための実習体験（17名）	85,000円
10	岸浪　建史	校　長	教職員・学生の海外派遣事業	学生の海外語学研修に同行するために要する旅費	400,000円
11	井上　義彦	学生課長	その他本校の教育研究事業及び国際交流事業	本校の学生が海外語学研修のために要する経費（旅費，研修費）派遣学生5名	500,000円
12	中村　隆	国際交流委員会	その他本校の教育研究事業及び国際交流事業	本校の専攻科学生をフィンランドにあるトゥルク応用科学大学へ海外インターンシップとして派遣するために要する旅費（３名）	300,000円
13	富樫　剛	総務課長	その他本校の教育研究事業及び国際交流事業	平成23年度釧路工業高等専門学校教育業績賞受賞者への研究費・旅費等の補助のための経費（2名分）	400,000円
合　　計　（円）					3,146,000円

（出典　平成 23 年度運営会議資料）

資料７－１－③－13

「平成 23 年度留学生交流支援制度」　（抜粋）

平成23年度留学生交流支援制度（ショートステイ、ショートビジット）－JASSO　Page 1 of 3

独立行政法人
日本学生支援機構
Japan Student Services Organization

・サイトマップ
・English/Other Languages

ホーム ≫ 留学生支援 ≫ 留学生交流支援制度（ショートステイ、ショートビジット）

平成24年6月14日更新

留学生交流支援制度　（ショートステイ、ショートビジット）　>>> English

日本の大学、大学院、短期大学、高等専門学校第4年次以上（専攻科含む）、専修学校（専門課程）（以下、「大学等」という。）が実施する3か月未満の留学生受入れ、または3か月未満の学生派遣のプログラムに参加する学生を対象とした奨学金です。

※平成25年度留学生交流支援制度（ショートステイ、ショートビジット）募集日程の概要を掲載しました。

支援内容

平成24年度支援内容は以下のとおりです。（平成24年度予算成立状況により変更となる場合があります。）　受付終了

奨学金　月額 80,000円

支援の対象となる受入れ・派遣計画

支援の対象となる受入れ・派遣計画は、実施校の管理・責任体制の下で実施されるもので、ショートステイプログラム（以下、「SSプログラム」という。）、ショートビジットプログラム（以下、「SVプログラム」という。）を実施する上での学生の募集・選考基準及び教育・指導体制が確立されていること。

支援するプログラムの区分

・SS&SVプログラム：学生受入れ、学生派遣の両方を支援するプログラム
（SSプログラム、SVプログラムの双方を実施するプログラム）
・SSプログラム：学生受入れのみを支援するプログラム
・SVプログラム：学生派遣のみを支援するプログラム

（略）

（出典　web サイト日本学生支援機構ホームページ
http://www.jasso.go.jp/scholarship/sssv.html）

資料７－１－③－14

「トゥルク応用科学大学（TUAS）派遣学生」　（抜粋）

（略）

２．TUAS 派遣学生について 資料B-２-１，資料B-２-２

学生課長より資料に基づき応募状況について説明があり，派遣実施要項に基づき、教務主事、専攻科長、専攻長及び英語科教員により派遣学生を選考したい旨の提案があった。引き続き委員より，派遣実施要項では３月上旬に選考するとなっているが申請が遅れて選考ができなかったのであれば，この委員会で決定して良いのではないかとの提案があり，学生課より追加資料として席上配付された派遣希望調書と資料B-２-１に基づき審議した結果、うち１名は英語検定準２級を取得していないなど英語力に懸念があるが、派遣人数を満たしていないこと及び学生の意志を尊重し、３名の学生を派遣する旨了承された。

（略）

国際交流委員会
H24.4.19
資料 B-2-1

平成24年度フィンランド トゥルク応用科学大学派遣希望学生

学生氏名	[redacted]	[redacted]	[redacted]
ふりがな	[redacted]	[redacted]	[redacted]
学籍番号	[redacted]	[redacted]	[redacted]
専攻	電子情報システム工学	電子情報システム工学専攻	電子情報システム工学専攻
学年	2学年	2学年	2学年
本科次成績	情報工学科 秀[redacted] 優[redacted] 良[redacted] 可[redacted]	情報工学科 秀[redacted] 優[redacted] 良[redacted] 可[redacted]	電子工学科 秀[redacted] 優[redacted] 良[redacted] 可[redacted]
専攻科次成績 （第1学年まで）	秀[redacted] 優[redacted] 良[redacted] 可[redacted]	秀[redacted] 優[redacted] 良[redacted] 可[redacted]	秀[redacted]優[redacted]良[redacted] 可[redacted]
英語成績	1年[redacted]・2年[redacted]・3年[redacted]・4年[redacted]・5年[redacted] 専攻科 総合英語Ⅰ[redacted]・Ⅱ[redacted]	1年[redacted]・2年[redacted]・3年[redacted]・4年[redacted]・5年[redacted] 専攻科 総合英語Ⅰ[redacted]・Ⅱ[redacted]	1年[redacted]・2年[redacted]・3年[redacted]・4年[redacted]・5年[redacted]
英検等取得状況	英語検定[redacted]	英語検定[redacted]	

（出典　平成 24 年度第１回国際交流委員会資料）

（分析結果とその根拠理由）

「校長が学生の声を聞く会」，学生意見箱等により，学生のニーズ把握に努めている。

本校では，第２学年において受験料を補助して英検準２級試験を全学生に受験させ，専門分野の資格試験等は各学科が指導・実施している。資格試験，検定試験の一部は単位認定することで学生に資格取得への動機づけを行っている。

平成23年度にフィンランドのトゥルク応用科学大学（TUAS）との包括協定を締結し，昨年度は試行として専攻科の学生３名を１か月間の短期留学に派遣した。今年度は３名の専攻科生を３か月派遣することがすでに決定している。

これらのことから，学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されている。また，資格試験や検定試験の受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能している。

観点７－１－④：　特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されているか。また，必要に応じて学習支援が行われているか。

（観点に係る状況）

留学生については，担任が留学生指導教員となる（資料７－１－④－１）とともに，チュータを置いて（資料７－１－④－２）支援している。チュータには支援内容を指導し（資料７－１－④－３），毎月の活動報告を義務付けている（資料７－１－④－４）。編入学初年度である第３学年においては，留学生特別時間割を作成し（資料７－１－④－５），個々の留学生に応じた教育を行っている。

４年次編入学生については，特に高校との学習内容が異なる数学について教育課程を組み替え，卒業までに必要な数学力を育成できるよう工夫している（資料７－１－④－６）。

障害のある学生への支援として，本校は「学生支援コーディネーター」を置いている（資料７－１－④－７）。本校では，準学士課程について合格者確定後に中学校訪問を行い，中学校に本校入学予定者に関する指導情報の共有を依頼している（資料７－１－④－８）。これを基に学生支援コーディネーターは保健室，学生相談室と連携し，場合によっては中学校や保護者と連絡を取りながら「特別な支援を要する学生」についての情報を取りまとめる（資料７－１－④－９）。これらの情報は新１年生のクラス編成にも反映させるとともに，新年度の教員会議において報告し，全教員の間で特別な支援を要する学生についての情報共有を図っている（資料７－１－④－10）。また，学習支援コーディネーターは年間を通じて担任と連携しながら特別な支援を要する学生のケアを行っている。

資料７－１－④－１

「留学生指導教員」　（抜粋）

平成24年度校務分掌（H24.4.1現在）

◎副校長、主事及び主事補

副校長(総務・教務担当)	中村 隆
副校長(運営計画担当)	岩渕 義孝
教務主事(校長補佐)	荒井 誠
教務主事補	山崎 俊博
〃	吉田 茂
学生主事(校長補佐)	加藤 岳人
学生主事補	大石 玄
〃	小杉 淳
〃	大槻 香子
寮務主事(校長補佐)	三森 敏司
寮務主事補	松本 和健
〃	林 幸利
〃	鈴木 俊哉
〃	梅津 裕志
校務主事(校長補佐)	加藤 雅也
校務主事補	髙 義礼
〃	千田 和範
〃	土江田 織枝
研究企画主事(校長補佐)	野口 孝文
研究企画主事補	梶原 秀一
〃	天元 宏

◎学科長等

一般教育科理系長	○加藤 隆
一般教育科文系長	片岡 務
機械工学科長	成澤 哲也
電気工学科長	須田 潤
電子工学科長	坂口 直志
情報工学科長	大貫 和永
建築学科長	草苅 敏夫

○印は一般教育科長

◎専攻科長等

専攻科長(校長補佐)	神谷 昭基
副専攻科長	－
専攻長(建設・生産)	成澤 哲也
専攻長(電子情報)	大貫 和永

◎センター長等

ﾃｸﾉｾﾝﾀｰ長(校長補佐)	髙橋 剛
〃 副ｾﾝﾀｰ長	鈴木 邦康
情報処理ｾﾝﾀｰ長	林 裕樹
〃 副ｾﾝﾀｰ長	髙橋 晃
教育研究支援ｾﾝﾀｰ長	岩渕 義孝
図書館長	小田島 本有
学生相談室長	三島 利紀
実習工場長	髙橋 剛

◎学級担任及び学年主任

1年	1 組	澤柳 博文
	2 組	吉田 茂
	3 組	舘下 徹志
	4 組	○浦家 淳博
	5 組	小田島 本有
2年	機 械	渡邊 聖司
	電 気	本田 匠
	電 子	梶原 秀一
	情 報	○大槻 典行
	建 築	佐藤 彰治
3年	機 械	○山崎 俊博
	電 気	松崎 俊明
	電 子	髙 義礼
	情 報	天元 宏
	建 築	佐藤 哲
4年	機 械	前田 貴章
	電 気	小松 正明
	電 子	戸谷 伸之
	情 報	石山 俊彦
	建 築	○千葉 忠弘
5年	機 械	川村 淳浩
	電 気	佐々木 敦
	電 子	○佐治 裕
	情 報	本間 宏利
	建 築	西澤 岳夫

○印は学年主任

◎学級副担任

1年	1 組	沼田 敦
	2 組	宮毛 明子
	3 組	佐古 彰史
	4 組	三島 利紀
	5 組	小谷 泰介
2年	機 械	舘岡 正樹
	電 気	千田 和範
	電 子	山田 昌尚
	情 報	土江田 織枝
	建 築	栗原 浩平
3年	機 械	赤堀 匡俊
	電 気	井上 泰仁
	電 子	山形 文啓
	情 報	柳川 和徳
	建 築	鈴木 邦康

◎留学生指導教員

3年電気	松崎 俊明
4年機械	前田 貴章
4年情報	石山 俊彦
5年電子	佐治 裕
5年情報	本間 宏利
5年建築	西澤 岳夫

（出典 web サイト　内部向けホームページ）

資料７－１－④－２

「留学生，指導教員，チューター」

留学生、指導教員、チューター名簿

	留学生（通称）	国籍	指導教員	チューター
３Ｅ	[redacted]	スリランカ	松崎俊明 TEL:57-7253	３Ｅ [redacted]
４Ｍ		マレーシア	前田貴章 TEL:57-7292	４Ｍ
４Ｊ		モンゴル	石山俊彦 TEL:57-7358	４Ｊ
５Ｄ		マレーシア	佐治　裕 TEL:57-7333	
５Ｊ		モンゴル	本間宏利 TEL:57-7356	
５Ａ		カンボジア	西澤岳夫 TEL:57-7378	

（出典　平成 24 年度チューターの手引き）

資料７－１－④－３

「チュータの手引き」　（抜粋）

チュータの皆さんへ

本年４月現在，釧路工業高等専門学校には，アジア地域から４カ国６名の留学生が在籍し，本校の教育システムの中で，優秀な専門技術者となるために日夜努力しています。

これらの留学生が本校を卒業するためには，本校のカリキュラムに沿って勉強するのはもちろんですが，日本語の勉強や衣食住についての理解を深め，日本の生活習慣に慣れてもらう必要があります。

そのため，３・４学年の留学生には留学生と同じ学科の寮生の中からチュータを選定し，勉強や生活面で相談相手となってもらっています。

チュータを引き受けられた動機，理由はそれぞれ違うでしょうが，引き受けた以上，留学生のよき友人として献身的なお世話をしてほしいと思います。そして，指導教員や学生課との連絡を密にし，無事留学を終えるよう全面的な支援をお願いします。

皆さんは，これから１年間，外国人留学生のチュータとして職務を果たしていただくことになります。以下に外国人留学生とはどのような学生であるか，また，チュータとはどのような役割を果たすべきかなどについて，簡潔に記してありますので，今後の留学生指導の参考にしてください。

平成 24 年４月

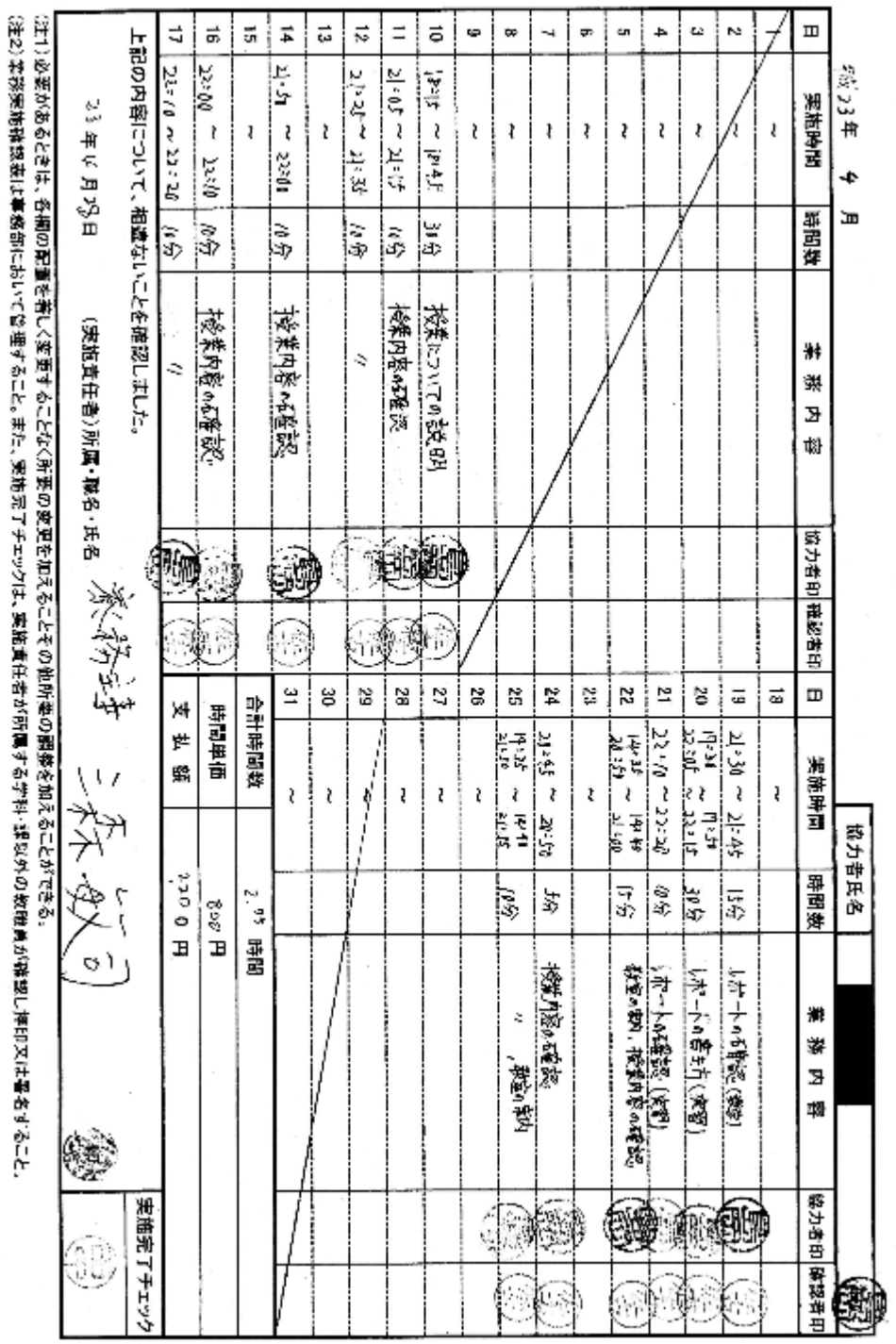
釧路工業高等専門学校学生課寮務係

（略）

（出典　学生課作成資料）

資料７－１－④－４

「チュータ指導報告書」



別紙様式第3号

業務実施確認表

令和23年 4月

協力者氏名 [redacted]

日	実施時間	時間数	業務内容	協力者印	確認者印	日	実施時間	時間数	業務内容	協力者印	確認者印
1	～					18	～				
2	～					19	21:30 ～ 21:45	15分	レポートの確認（数学）		
3	〃					20	17:34 ～ 17:54 20:30 ～ 21:15	30分	レポートの書き方（実習）		
4	～					21	22:10 ～ 22:40	30分	レポートの確認（実習）		
5	〃					22	14:35 ～ 14:45 20:59 ～ 21:50	15分	授業の動，授業内容の確認		
6	〃					23	～				
7	～					24	20:45 ～ 20:50	5分	授業内容の確認		
8	〃					25	19:35 ～ 19:45 21:30 ～ 21:35	10分	〃，授業の動		
9	～					26	～				
10	19:15 ～ 19:45	30分	授業についての説明			27	〃				
11	21:05 ～ 21:15	10分	授業内容の確認			28	〃				
12	21:25 ～ 21:35	10分	〃			29	～				
13	～					30	～				
14	21:51 ～ 22:01	10分	授業内容の確認			31	～				
15	～					合計時間数		2.75 時間			
16	22:00 ～ 22:10	10分	授業内容の確認			時間単価		8,000 円			
17	23:10 ～ 23:20	10分	〃			支払額		2,200 円			

上記の内容について、相違ないことを確認しました。

23 年 4 月 25 日　（実施責任者）所属・職名・氏名　業務 太郎　二木 秋久

実施完了チェック

（注1）必要があるときは、各欄の記載を著しく変更することなく所要の変更を加えることその他所要の調整を加えることができる。
（注2）業務実施確認表は業務部において管理すること。また、実施完了チェックは、実施責任者が所属する学科・課以外の教職員が確認し押印又は署名すること。

（出典 学生課作成資料）

資料７－１－④－５

「留学生時間割」

平成24年度　留学生前期時間割

3年電気

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	8:50～9:35	9:40～10:25	10:35～11:20	11:25～12:10	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15	16:20～17:05
月	数　学 宮　毛		電気回路Ⅰ(2年) 井　上		応用物理 松　崎		H　R 松　崎		
火	電子工学 須　田		日本語(個人指導) 高　井		物理学演習 松　崎		(S) 英会話 外国人講師		
水	英語(習熟度別)		電気工学実験Ⅰ 佐々木・本田						
木	電気磁気学 井　上		英　語 松本茂		数　学 宮　毛				
金	電気回路Ⅰ 小松正		数　学 宮　毛		電気機器Ⅰ 高木敏		体　育 三　島		

（出典　web サイト　内部向けホームページ）

資料７－１－④－６

「教育課程表」　（抜粋）

別表第２（専門学科）

（１）機械工学科　　平成２４年度改訂

区分	授業科目	単位数	学年別単位数					備考
			１年	２年	３年	４年	５年	
必修科目	応用物理	4			2	2		
	メカトロニクスⅠ	1			1			
	※メカトロニクスⅡ	2				2		
	材料力学Ⅰ	2			2			
	材料力学Ⅱ	1				1		
	※機械力学	2				2		
	機械材料Ⅰ	2			2			
	※機械材料Ⅱ	2				2		
	材料評価学	1					1	
	熱力学Ⅰ	2				2		
	熱力学Ⅱ	1					1	
	コンピュータリテラシー	1	1					
	技術者基礎	1	1					
	※伝熱工学	2					2	
	流体工学Ⅰ	2				2		
	流体工学Ⅱ	1					1	
	※流体機械	2					2	
	機械工作法Ⅰ	1		1				
	機械工作法Ⅱ	2			2			
	生産工学	1				1		
	工業力学	2		2				
	機械設計法Ⅰ	2			2			
	※機械設計法Ⅱ	2				2		
	ＣＡＤ	1			1			
	ＣＡＤ／ＣＡＭ	1				1		
	※ＣＡＥ	2					2	
	※機械創造設計	2				2		
	機械設計製図Ⅰ	2		2				
	機械設計製図Ⅱ	2			2			
	※デジタルデザイン・コンペ	2					2	
	ものづくり基礎	4	4					
	機械工学実習・実験Ⅰ	3		3				
	機械工学実習・実験Ⅱ	3			3			
	機械工学実習・実験Ⅲ	3				3		
	機械工学実習・実験Ⅳ	2					2	
	電気電子工学	2				2		
	※制御工学	2					2	
	計測工学	2					2	
	制御ＣＡＤ	2					2	
	卒業研究	7					7	
	修得単位小計	81	6	8	17	24	26	
選択	学外実習Ⅰ	1				1		いずれか一方を選択することができる
	学外実習Ⅱ	2				2		
	応用数学基礎	2				2		4年次編入生のみ選択すること。
	応用数学Ａ	4				4		4年次編入生以外は必ず選択すること。
	応用数学Ｂ	4					4	4年次編入生のみ選択すること。

（略）

（出典　web サイト　内部向けホームページ）

資料７－１－④－７

「学生支援コーディネータ」　（抜粋）

○釧路工業高等専門学校学生相談室規程
（昭和62年９月17日釧高専達第５号）
改正　　平成18．３．27釧高専達第19号

（設置）
第１条　釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，学生相談室（以下「相談室」という。）を置く。
（目的）
第２条　相談室は，学生の個人的諸問題について相談に応じ，問題解決のために必要な助言・援助を与えることを目的とする。
（職員）
第３条　相談室に，次の職員を置く。
一　相談室長
二　相談員　若干名
三　学生支援コーディネーター　若干名
２　相談員は，本校教員の中から校長が任命する。
３　相談員のうち１名を相談室長（以下「室長」という。）とし，校長が選任する。
４　学生支援コーディネーターは，本校教員の中から校長が任命する。
５　相談員及び学生支援コーディネーターの任期は，２年とし，再任を妨げない。ただし，補欠による相談員及び学生支援コーディネーターの任期は，前任者の残任期間とする。
６　校長は，必要に応じて本校職員以外の者を相談員として委嘱することがある。
（業務）
第４条　室長は，相談室を総括する。
２　相談室は，次の業務を行う。
一　学生の個人的諸問題に関する相談及び助言
二　学生の精神衛生上の相談及び助言
三　学生相談の活動に必要な研究及び調査
四　前各号の業務に必要な資料の収集及び保存
五　その他学生相談に関し，必要な事項
３　学生支援コーディネーターは，発達障害学生（発達障害者支援法第２条に定義する者。）にかかる次の業務を行う。
一　教職員に対する発達障害学生への支援に関する理解と普及
二　当該学生との接触及び保護者との連絡調整
三　当該学生の学級担任，授業担当教員及び所属学科等との情報交換並びに必要に応じて関係教員を招集してのミーティング
四　必要に応じ各委員会へ出席して状況の説明・助言
五　医療機関及び出身中学校等との連携

（略）

（出典　web サイト　内部向けホームページ）

資料７－１－④－８

「合格者の中学校訪問」　（抜粋）

平成２３年度 第１５回入学試験委員会議事録

日　　時　平成２４年3月６日（火）１４：１０～１５：２０

場　　所　会議室　　出 席 者　２１名

（略）

（４）合格者の在籍中学校への入学前訪問について

修学支援係長から資料４に基づき，昨年度と同様に案を作成したこと，また，今後訪問する教員を割り振る予定である旨説明と協力の依頼があり，了承された。

なお，この中学校訪問は，一昨年から教員が一人で訪問する体制で開始し，聞き取り調査の都合上，昨年は二人一組で訪問するようにした旨，経緯の説明があった。

（略）

（出典　平成 23 年度第 15 回入学試験委員会議事録）

資料７－１－④－９

「学生の健康情報の取扱について」　（抜粋）

平成 ２２年 ３ 月 １１日

釧路工業高等専門学校

学生の健康情報の取扱について

本校学生が充実した学校生活を送り安心して勉学に励むことが出来るよう，学生の健康に関する情報の取扱を以下の様に定める。

（略）

具体的な例としては以下の様な健康情報が挙げられる。

・アレルギー（食事，薬品等）に関する情報
・観察を必要とする疾病（心臓病，てんかん等）に関する情報
・身体障害（肢体不自由，視覚障害，聴覚障害等）に関する情報
・精神疾患（社会不安障害、パニック障害，PTSD 等）に関する情報
・発達障害（自閉症，ADHD，LD 等）に関する情報
・不登校経験に関する情報
・宗教上の理由による食事や行為の制限

（略）

（出典　学生課作成資料（H22 年３月 11 日制定））

資料７－１－④－10

「学生支援コーディネータ」

（略）

［連絡事項］
１．平成23年度入学式について
　総務係長から，資料1に基づき平成23年度入学式の実施について説明を行った。
２．平成23年度個別の配慮を必要とする学生の情報管理について
　松崎学生支援コーディネーターから，資料2に基づき平成23年度個別の配慮を必要とする学生の情報管理について説明を行った。
３．平成23年度専攻科／新年度ガイダンスについて
　神谷専攻科長から，資料3に基づき平成23年度専攻科／新年度ガイダンスについて説明を行った。
４．その他
（１）釧路高専意見箱に投函された意見・質問への回答について

（略）

（出典　平成 23 年度４月教員会議資料）

（分析結果とその根拠理由）

留学生については，担任が留学生指導教員となるとともに，チュータを置いて支援している。編入学初年度である第３学年においては，留学生特別時間割を作成し，個々の留学生に応じた教育を行っている。

４年次編入学生については，特に高校との学習内容が異なる数学について教育課程を組み替え，卒業までに必要な数学力を育成できるよう工夫している。

障害のある学生への支援として，本校は「学生支援コーディネーター」を置いている。

これらのことから，特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されている。また，必要に応じて学習支援が行われている。

観点７－１－⑤：　学生の部活動，サークル活動，自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され，適切な責任体制の下に機能しているか。

（観点に係る状況）

本校では，部（および同好会）活動，学生会活動等の課外活動に対する支援は学生委員会が中心となって行っている。部活動に対する学校の支援は，「原則として全教員が部活顧問となる」と規則に定め，校長の命令により，部活顧問を配置している（資料７－１－⑤－１，２）。年に数回のクラブ顧問会議が開催され，部活動に関する種々の問題について議論している（資料７－１－⑤－３，４）。宿泊を伴う大会参加には後援会規則に基づく遠征費補助があり，施設使用料に対しても援助している（資料７－１－⑤－５，６）。

学生会活動は学生主事補が指導の中心となって学生主事の下で活動することとしている（資料７－１－⑤－７）。校内に学生会室を用意し，学生会役員が中心となって活動している（資料７－１－⑤－８）。高専祭，校内体育大会などの学生会行事は，学生会予算により行われている（資料７－１－

⑤－９）。平成２３年度からは，部活動予算に関するヒアリングを学生会が実施し，予算配分を決定している（資料７－１－⑤－10）。また，平成２３年度からは，高専祭実施に向けて，学生委員会に学生会代表者を出席させ，直接質疑応答をすることでリーダーとしての責任感を持たせるよう配慮している（資料７－１－⑤－11）。

資料７－１－⑤－１

「課外活動指導に関する申し合わせ事項」（抜粋）

Ⅰ．課外活動に関する基本的考え方

課外活動は究極として自己の人間形成に資すべきもの，またそうでなければならない。

異なる環境に育ち異なる考え方を持つ者同士が，同じ目標に向かって活動する中で心身は鍛錬され集団意識は涵養され，正課教育では求められない人間形成の場が開けていく。

以上の基本的認識から課外活動も重要な教育活動の一環と考えるが，これは，正課教育に支障のない範囲にとどめるべきであり，そのための十分な配慮・指導が必要である。

実施に際しては，学生の自主的，自発的活動を主体に学校が指導，援助する。

Ⅱ．クラブ顧問の指導体制

１．顧問の選任について

(1) クラブの顧問は６０歳未満の全教員で当たることとする（６０歳以上の教員が自ら望んだ場合はその限りではない。）。

(2) 各クラブの顧問には原則として３名程度の教員がつき，互選により代表顧問を決める。

(3) 顧問の任期は原則として３年間とし，３年ごとに全体の見直しをかける。

(4) 顧問の決定については，あらかじめ全教員に第１～第３までの希望調査を行うとともに，学生からの要望を勘案し，それらに基づいて学生主事が調整する。

(5) 顧問の任命は，学生主事の上申した最終調整案に対する校長の決裁によりなされる。顧問名簿一覧表は，３月教員会議に提示される。

(6) 新たに設立した同好会については，学生主事が調整する。

(7) 新規採用の教員については，その都度学生主事が調整する。

２．指導内容，範囲について

(1) 顧問は，クラブ活動のスケジュールの把握，事故防止などについての一般的な指導を行う。

(2) 随時の見回り指導。

(3) 対外試合における引率。

※　技術指導を義務づけるものではない。

Ⅲ．事故・危険防止対策

１．安全に関するクラブ指導（体育系クラブ）

(1) 毎年年度始めに，各クラブ（体育系）に安全指導を実施する。

(2) 救急法講習会の実施。

(3) 月例健康相談の利用。

(4) 郊外で行われるクラブリーダー講習会，スポーツ安全講習会等への参加。

（出典　学生委員会申し合わせ類集　平成 24 年５月編集　p. 16）

資料７－１－⑤－２

「平成 24 年度 クラブ顧問名簿」

H24.5.7現在

平成２４年度　学生会・クラブ（部・同好会）顧問名簿

◎学生会関係

委員会・クラブ名	顧問
評議会	小杉　淳
執行委員会	大槻香子
監査委員会	
選挙管理委員会	
行事委員会	大石　玄
会計委員会	
新聞委員会	＊小田島本有
	片岡　務

◎文化系クラブ

写真部	＊片岡　務
	吉田　茂
吹奏楽部	戸谷伸之
	山田昌尚
	＊池田盛一
美術部	＊高橋　剛
	西澤岳夫
アマチュア無線部	＊成澤哲也
茶道部	＊中島陽子
	大槻香子
軽音楽部	＊加藤　隆

◎同好会

ドイツ語研究会	＊木村峰明
	藤本一司
ロボット研究会	＊荒井　誠
	梶原秀一
	千田和範
パークゴルフ同好会	＊三島利紀
基礎スキー同好会	＊坂口直志
マイコンカー同好会	＊坂口直志
将棋同好会	＊高橋　晃
書道同好会	＊舘下徹志
	大槻香子
ステップ同好会	＊片岡　務
総合デザイン研究会	＊西澤岳夫
	千葉忠弘
フットサル同好会	＊小谷泰介
トランポリン同好会	＊大槻典行
水泳同好会	＊片岡　務
アコースティックギター同好会	＊松崎俊明
総合運動同好会	＊佐々木　敦
科学ボランティア同好会	＊浦家淳博
プログラミング同好会	＊神谷昭基
ダーツ同好会	＊浅水　仁
宇宙科学技術研究会	＊小松正明
合唱同好会	＊片岡　務
極真空手同好会	＊小谷泰介
文芸同好会	＊小田島本有
ストリートパフォーマンス同好会	＊池田盛一
鉄道同好会	＊成澤哲也
演劇同好会	＊大石　玄

＊印は，代表顧問

◎体育系クラブ

委員会・クラブ名	顧問
陸上部	＊林　幸利
	梅津裕志
	中島陽子
男子バスケットボール部	＊大槻典行
	小田島本有
	中村　隆
女子バスケットボール部	＊舘岡正樹
	井上泰仁
	高橋　剛
	宮毛明子
男子バレーボール部	吉田　茂
	三島利紀
	西澤岳夫
	＊本田　匠
女子バレーボール部	＊三島利紀
	大槻香子
	野口孝文
ソフトテニス部	＊浦家淳博
	高橋　晃
	加藤雅也
卓球部	＊小杉　淳
	加藤岳人
	高義礼
柔道部	＊鈴木俊哉
	天元　宏
	沼田　敦
剣道部	＊渡邊聖司
	山形文啓
	小松正明
バドミントン部	＊山﨑俊博
	澤柳博文
	佐古彰史
	小谷泰介
野球部	＊千葉忠弘
	舘下徹志
	成澤哲也
	赤堀匡俊
	大石　玄
アーチェリー部	佐藤英樹
	＊佐々木　敦
	須田　潤
テニス部	＊松崎俊明
	松本和健
	佐藤彰治
	藤本一司
サッカー部	＊三森敏司
	石山俊彦
	坂口直志
	川村淳浩
	佐藤　哲
ハンドボール部	草苅敏夫
	＊鈴木邦康
	片岡　務
空手道部	＊高木敏幸
	浅水　仁
	栁川和徳
アイスホッケー部	＊舘岡正樹
	前田貴章
	本間宏利
	栗原浩平
自転車部	＊大貫和永
	林　裕樹
	土江田織枝

（出典　学生支援係 内部向けホームページ）

資料７－１－⑤－３

「平成 23 年度クラブ顧問会議開催状況」

第１回クラブ顧問会議　平成23年４月26日(火)

議　　題

１．平成２３年度クラブ名簿について
２．高体連釧根支部総会報告について
３．傷害保険制度について
(1) 日本スポーツ振興センター)
(2) 全国及び地区高等専門学校体育大会傷害保険
(3) 高体連主催大会災害補償制度
４．クラブへの補助について
(1) 後援会からの遠征費補助等
(2) 学生会からのクラブ関係経費
５．クラブ顧問への活動補助について
(1) クラブ運営費
(2) 合宿指導
(3) 教員特殊業務手当
６．学生引率時の手続きについて
７．部員名簿について
８．クラブ・同好会必要設備・備品（修繕施設）について
９．その他

第２回クラブ顧問会議　平成23年５月16日(月)

議　　題

１．平成２３年度北海道地区国立工業高等専門学校体育大会組織委員会の報告について
２．平成２３年度第１回クラブ顧問会議における確認事項について
３．「大会参加伺い」について
４．その他
(1) 学生会クラブ活動費について
(2) その他

第３回クラブ顧問会議　平成23年12月６日(火)

議　　題

【報告事項】
１．地区体実務担当者会議について
２．各部の予算執行状況について
３．その他

【審議事項】
１．部・同好会の新設・廃止条件及び総数制限について
２．冬季体育館割当について
３．後援会への要望事項について
４．その他

【そ の 他】
１．外部コーチについて
２．その他

（出典　学生課作成資料）

資料７－１－⑤－４

「クラブ顧問会議議事録（抜粋）」

第３回　クラブ顧問会議議事録

日　時　　平成２３年１２月　６日(火)　１７：２２～１８：３７
場　所　　会議室
出席者　　５０名　　欠席者　１９名

報告事項

１．地区体実務担当者会議について

学生主事から、資料１に基づき、下線部及び修正部分が今年度の変更点であること及び会議において、次の事項の確認が行われた旨の説明があった。

・地区体の実施時期に関し７月の、海の日を含む３連休に変更する。
・アーチェリーの実施に関し、競技運営会議の際、公認審判員の有無に関する意見が出たが、予定どおり釧路高専でアーチェリー競技を開催し、公認審判員の資格を持つ顧問を中心に講習会及び情報交換会を実施した上で、顧問による総合審判にて行う。
・陸上競技はイングリッシュスタートを導入する。
・バスケットボール競技に関して、コートのラインを変更する。
・バレーボール競技に関し、公認スポンサーをつける声が出ている。
・剣道競技に関し、競技運営会議の記録に、２コートでの実施が望ましいとあるが、本来１コートで実施する競技であり、２コートが標準化することは望ましくないと思われる。なお、全国大会で４・５学年の二刀流を認める動きがあり、認められた際は、地区体でも実施する。
・バドミントン競技の女子の優勝カップは、正式種目となっていないため、認められない。
・サッカー競技の、選手変更届に関する要望は、議案として議事会に報告する。なお、所定の押印欄の削除に関する要望は、当分の間、現状維持で行う。
・ハンドボール競技の実施に関し、函館・釧路間で距離があるため、帰校時間を踏まえて実施したい。
・専門委員に関し、ある程度の期間継続して行って欲しい。専門委員が競技運営会議に参加できない場合は、引継ぎ等を行い、競技運営会議に支障がないよう、行ってもらいたい。
・急な日程変更を除き、大会で繰り上げ出場等を行うことは望ましくない。

その後渡邊教員から、剣道競技の実施日程が１日であり、２コート対応を行うことで、終了予定時間を過ぎることを防ぐ意味で重要であること、また急な日程変更に関する大会欠場の問題は、顧問と学生の認識の差異があるため、議論していただきたいとの意見があり、学生主事から、地区大会は全国出場者を決定する大会という位置づけであることから、個人戦については全国大会に参加できないことが予め判っている場合は地区大会の参加を認めない旨の回答があった。

更に渡邊教員から、特別表彰の規程の内容に関する質問があり、三島教員から、後程詳細な内容の資料を全教員に配付する旨の回答があった。

資料７－１－⑤－４（続き）

２．各部の予算執行状況について

大槻学生主事補から、資料２に基づき次のとおり報告があった。

・予算執行の処理を早急に行うため、予算執行の書類を早めに学生会まで提出いただきたい。なお、実質上、学生が予算を処理できる期限が２月となるため、３月中に予算執行が必要となる場合は、学生会まで連絡いただきたい。

３．その他

特になし。

審議事項

１．部・同好会の新設・廃止条件及び総数制限について

学生主事から、資料３に基づき、部・同好会の増加に関し、部として、予算の執行を受ける部の総数の上限及びクラブ廃止の目安を作る提案があり、審議の結果了承された。なお、学生主事から、学生委員会にて、部の数に関して、現在の部活数を総数の上限とする意見が出ていること、部活動の体育館使用の時間割を、土日を含めて割り当てなければならない状態であることの報告があった後、各教員から、次のように意見があった。

・山田教員から、部の数に制限を設けるには、同好会が部への昇格を希望があった際の対応及び活動を行っていない部の廃止の決定時期をいつにするか等を含めて考えるべき旨の意見があった。

・片岡教員から、部の総数を固定すると、同好会の部への昇格が認められなくなる事態が生じるため、固定するのではなく、活動実績、部員数等、昇格への条件を詳細に決め、条件に適合した場合、審議の上で部への昇格を決定するべき旨の意見があった。

・佐古教員から、顧問となる教員数に上限がある以上、部の数にも上限が必要であり、部と同好会の入れ替えも考慮して考えるべき旨の意見があった。

・山崎教員から、審議内容についての方針を議論する形式にすべきであり、また、重要な内容である場合、事前に、顧問に検討内容を提示し、意見を整理する時間を設けるべきである旨の意見があった。

以上の意見を基に、学生主事から、新設・廃止の条件を整備することを第一条件とし、その上で学生会の規約の改正等を行う旨の発言があった。なお、学生主事から、改正の際は学生委員会等を通し、顧問に意見を聞く旨の補足があった。

２．冬季体育館割当について

学生主事から、体育の舘岡教員より、クラブの体育館使用時間を確保するため、体育館の使用時間を延長したい旨の意見が出ていることの説明があった。なお、学生主事から、寮の食事時間の関係上、平日の時間を延長するのは困難であること、割り当て時間に活動していない部活の使用時間を、他の部活に割り当てるようにすべきであること及び部活内での割り当て時間の変更に関し、顧問が把握している必要があることの補足があった。

「以下略」

（出典　平成23年度12月第３回クラブ顧問会議議事録）

資料７－１－⑤－５

「釧路工業高等専門学校後援会事業費支出基準」（抜粋）

「前略」

（学生会等活動費）

第３条　学生会等活動費は，次のとおりとし，予算の範囲内で支出する。

(1) 学生会活動補助費　学生会の活動に対する補助

(2) 課外活動費　次に掲げる課外活動に対する補助

①遠征費　学生の遠征及び学会参加に係る宿泊費，交通費及び昼食費の補助

②各種大会等運営費　高等専門学校連合会が関与する各種大会の運営及び参加等に係る経費の補助

A. 体育大会運営費　高専体育大会の運営及び参加等に係る経費の補助

B. ロボコン経費　ロボットコンテストの運営及び参加等に係る経費の補助

C. その他高等専門学校連合会が関与する各種大会の運営及び参加等に係る経費の補助

③クラブ運営費　顧問がクラブ活動を運営するために必要な経費の補助

④その他活動運営費　高野連釧根支部負担金及び前各号を除く学生の課外活動に係る経費の補助

「以下略」

（出典　釧路高専後援会事業費支出基準）

資料７－１－⑤－６

「平成 23 年度 遠征費の補助実績」

平成23年度　釧路工業高等専門学校後援会収支決算報告書

（収入の部）

科　　目	予　算　額	決　算　額	差引過不足額	備　　考
	A　　円	B　　円	C=B-A　　円	
１．繰　　越　　金	6,730,512	6,730,512	0	
２．入　　会　　金	1,700,000	1,660,000	△ 40,000	
３．会　　費	25,770,000	25,811,000	41,000	
４．積　　立　　金	0	0	0	
５．利　　息	0	0	0	
６．そ　　の　　他	0	1,579,400	1,579,400	
計	34,200,512	35,780,912	1,580,400	

（支出の部）

科　　目	予　算　額	決　算　額	差引過不足額	備　　考
	A　　円	B　　円	C=A-B　　円	
１．事　　業　　費	30,969,500	24,988,706	5,980,794	
1）学生会等活動費	18,552,500	15,411,796	3,140,704	
2）図書館充実費	1,500,000	1,500,000	0	
3）語学教育充実費	800,000	734,220	65,780	
4）学校行事費	990,000	956,386	33,614	
5）学生引率旅費	6,127,000	4,000,000	2,127,000	
6）就職対策経費	1,500,000	1,145,535	354,465	
7）学校事業支援費	1,500,000	1,240,769	259,231	
２．事　　務　　費	530,000	345,335	184,665	
1）通　　信　　費	150,000	159,620	△ 9,620	
2）印　　刷　　費	80,000	77,700	2,300	
3）雑　　費	300,000	108,015	191,985	
３．慶　　弔　　費	100,000	101,297	△ 1,297	
４．積　　立　　金	0	0	0	
５．学生会特別事業費	0	0	0	
６．全国大会予備費	1,000,000	0	1,000,000	
７．予　　備　　費	1,601,012	577,000	1,024,012	
小　　計	34,200,512	26,012,338	8,188,174	
翌　年　度　繰　越	－	9,768,574		
合　　計	34,200,512	35,780,912	△ 1,580,400	

（出典　平成 23 年度　釧路高専後援会収支決算報告書）

資料７－１－⑤－７

「学生主事補の業務分担　（学生会担当）」　（抜粋）

２３年度活動方針

（略）

◎学生会活動が目的を持って組織的に行われるよう指導する

・行事実施計画の検討
・情報伝達手段の検討（学生全般、教職員に対して）

主事補の主たる業務分担

大槻（香）……学生会指導
小杉……自転車指導・集会指導・高校生徒指導連絡協議会との連絡
佐川……自動車指導

（略）

（出典　平成 24 年度４月学生委員会資料１－２）

資料７－１－⑤－８

「学生会室　写真」





（出典　総務課作成資料）

資料７－１－⑤－９

「平成 24 年度学生会予算書」

平成２３年度　学生会収支決算

収入の部	23年度予算計画	23年度予算		24年度予算
合計（内訳の合計）	11,165,799	11,210,332		8,364,874
内訳				
前年度繰越金	2,207,639	2,207,639		1,364,874
後援会からの受け入れ金	8,958,160	8,958,160		7,000,000
利息		533		
高専祭収入		44,000		

予算項目
交通費
消耗品
特別補助
指導謝金

支出の部	23年度予算	23年度決算	差額	24年度予算
合計（内訳の合計）	11,210,332	9,845,458	1,364,874	8,089,000
内訳				
クラブ活動費	4,921,000	4,635,890	285,110	4,532,000
新聞委員会	150,000	124,845	25,155	120,000
陸上部	115,000	85,478	29,522	88,000
男子バスケットボール部	102,000	102,025	△ 25	80,000
女子バスケットボール部	101,000	118,353	△ 17,353	72,000
男子バレーボール部	118,000	101,877	16,123	88,000
女子バレーボール部	61,000	60,000	1,000	36,000
ソフトテニス部	178,000	178,000	0	160,000
卓球部	114,000	70,690	43,310	76,000
柔道部	29,000	26,793	2,207	28,000
剣道部	84,000	83,160	840	67,000
バドミントン部	196,000	164,095	31,905	128,000
野球部	470,000	470,000	0	360,000
アーチェリー部	100,000	99,472	528	280,000
テニス部	191,000	158,940	32,060	136,000
サッカー部	402,000	408,798	△ 6,798	352,000
ハンドボール部	184,000	184,000	0	127,000
空手道部	85,000	84,735	265	69,000
アイスホッケー部	349,000	348,438	562	280,000
自転車部	66,000	54,518	11,482	96,000
写真部	45,000	38,220	6,780	26,000
吹奏楽部	312,000	310,970	1,030	344,000
美術部	50,000	38,961	11,039	40,000
アマチュア無線部	29,000	22,614	6,386	16,000
茶道部	70,000	65,230	4,770	76,000
軽音楽部	0	0	0	42,000
施設借上費	350,000	339,520	10,480	340,000
指導謝金	370,000	283,750	86,250	395,000
登録料補助	400,000	447,958	△ 47,958	430,000
災害補償制度加入費	200,000	164,450	35,550	180,000
高専祭運営費	2,100,000	3,658,722	△ 1,558,722	1,650,000
学科展	750,000	681,606	68,394	750,000
クラス展	300,000	254,576	45,424	300,000
クラブ展・発表	50,000	35,517	14,483	50,000
学生会	600,000	2,486,900	△ 1,886,900	300,000
実行委員会	100,000	87,009	12,991	100,000
PR・保全等	300,000	113,114	186,886	150,000
その他行事	100,000	99,786	214	100,000
春季体育大会	50,000	50,000	0	50,000
冬季体育大会	50,000	49,786	214	50,000
事務費	86,000	59,279	26,721	80,000
執行部	50,000	41,219	8,781	50,000
振込手数料	36,000	18,060	17,940	30,000
予備費	905,624	302,786	602,838	390,000
旅行傷害保険	60,000	50,572	9,428	60,000
学生会交流会費	230,000	202,730	27,270	30,000
その他の予備費	615,624	49,484	566,140	300,000
特別補助費	1,095,015	1,088,995	6,020	1,337,000
野球部	136,500	136,500	0	
ハンドボール部	125,370	125,370	0	
サッカー部	465,465	465,465	0	
自転車部	107,880	107,880	0	
写真部	59,800	53,780	6,020	
吹奏楽部	200,000	200,000	0	
男子バレー部				108,000
剣道部				159,000
アーチェリー部				320,000
アイスホッケー部				300,000
自転車部				70,000
茶道部				80,000
軽音楽部				300,000

（出典　学生会作成資料）

資料７－１－⑤－10

「学生会予算　ヒアリング事前調査」

平成 24 年度　学生会クラブ活動　ヒアリング事前調査

クラブ名　自転車部

学生代表者名

提出期限：平成 24 年 4 月 27 日（金）
提出先　：会計長　（4D 教室　12：45～12：55 学生会室　16：30～18：00）

○希望日

5 月 8 日(火)～11 日(金)の
4：30～、4：45～、5：00～、5：15～、5：30～、5：45～のいずれか

第一希望　5 月　8 日　5 時　00 分

第二希望　5 月　9 日　5 時　30 分

第三希望　5 月　11 日　5 時　00 分

○質問事項

・部費の徴収額　(年間　200000 円程度)

・部活の活動人数　(寮生　13 人、下宿生　1 人、通学生　3 人、計　17 人)

・年間の練習試合数　(市内　0 回、それ以外　0 回)

・年間の大会数　(　7 回)

(詳しい内容は別紙の【H24 年度各大会参加予定・交通費支出予定】に記入)

・昨年度の申請通り予算は使われたか(申請通りではなかったらその理由など)

予算は概ね予定通り使われた。しかし申請時に見積もりしていた額では買えないものが多々あり若干申請通りでは無いものもあった。

・大会成績、活動成績等

高体連全道大会「チームスプリント第 1 位」「チームパシュート第 3 位」
ツールド十勝 J クラス最高 5 位、網走 TT 最高 8 位

・予算に関する疑問等(あれば)

予算を通す際にその部活で本当に必要なものかをしっかり見てほしい。
毎年無駄に買っていたりするものなどを把握し警告等の処置をしてほしい。

(出典　学生会作成資料)

資料７－１－⑤－11

「学生会代表者の学生委員会出席」

「前略」

１．報告事項

（１）高専祭進捗状況について

学生会代表者及び大槻主事補から、資料１に基づき説明があった。

なお、学生会代表者より、資料１において、バザー出店上の注意事項７．その他の（３）「寄付金を３，０００円から」という記述を、「売上金の１～２割」と修正する旨の説明があった。

引き続き委員より、次のとおり質問があった。

・学生への高専祭関連事項の周知は、クラスの高専祭実行委員に一任すべきか、担任からも周知すべきか。

→高専祭実行委員が主体となって担当するが、高専祭実行委員からの連絡に不備等が生じた際、担任から補足して頂きたい。（学生会代表者）

・教員への高専祭関連事項の周知はいつ行われるのか。

→教員会議の際、大槻主事補から全教員へ周知する。（大槻主事補）

・食券を金券に変更する件についてはどうなったか。

→金券を貨幣と交換する危険性を考慮して、今年度は見送ることとした。（学生会代表者）

（学生会代表者退出）

引き続き大槻主事補から、資料１に基づき委員の巡回に関する説明があった後、委員から次のとおり意見があった。

・担任のため保護者懇談会の面談時間と、巡回の時間が重なる場合の対応はどうすべきか。

→１人で巡回を行うとの意見も出たが、事故等に備えて２人体制で巡回を行う必要があるため、主事補が対応する。主事補が対応しきれない場合は委員の巡回回数を増やす等で対応したい。（大槻主事補）

・コンサート中の地震や火災発生時の避難誘導等は教員が主体か、それとも高専祭実行委員か。

→教員が主体となって行動すべきであり、あらかじめ、出口の確保や安全確保等の優先すべき事項を学生会の学生に周知する必要がある。（学生課課長補佐）

・机及び椅子の移動に関し、その数の把握を行うのは学生会か、担任か。

→例年、学生会が移動した数及び場所を把握し、同数を回収するよう指導している。（大槻主事補）

引き続き学生支援係主任から、資料１に基づき、校内清掃に関する説明があった。

（出典　平成 23 年度 10 月定例学生委員会議事録）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，部活動，学生会活動等の課外活動に対する支援は学生委員会が中心となって行っている。部活動に対する学校の支援は，「原則として全教員が部活顧問となる」と規則に定め，校長の命令により，部活顧問を配置している。

学生会活動は学生主事補が指導の中心となって活動することとしている。校内に学生会室を用意し，学生会役員が中心となって活動している。高専祭，校内体育大会などの学生会行事は，学生会予算により行われている。

これらのことから，学生の部活動，サークル活動，自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され，適切な責任体制の下に機能している。

観点７－２－①：　学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

準学士課程の学生に対しては，クラス担任（３学年まではさらに副担任）が配置され，学生の指導・相談・助言体制をとっている（資料７－２－①－１）。３学年までのクラス担任は，朝のSHRにおいて学生の登校状況・健康状態等を確認し，またLHRを通じてクラス運営を行っている（資料７－２－①－２）。学級日誌・学級通信などで学生や保護者とのコミュニケーションをとる例もある（資料７－２－①－３）。年間数回の個人面談を行い，学生の状況把握，必要に応じての相談・指導を行っている（資料７－２－①－４）。専攻科課程の学生については，専攻科長，専攻長，および指導教員が分担して学生の指導・相談・助言にあたる（資料７－２－①－５）。学生課学生支援係は奨学金，授業料免除などの相談を受け付ける。担任を通じて連絡するほか，各教室に掲示して制度や申込期限について学生に周知している（資料７－２－①－６，７）。学生課修学支援係は履修等の相談にあたる。学生寮においては，寮務主事・主事補，寮務委員会が中心となって，寮生活全般に関する指導・相談・助言を行う体制がある（資料７－２－①－８）。また，当直教員も学習・生活面での相談に応じる体制となっている（資料７－２－①－９）。

心身の健康についての相談体制として保健室および学生相談室がある。保健室わきにはミーティングルームを備え，他の来室者から離れて相談できる環境がある（資料７－２－①－10）。学生相談室ではＨＰへの「相談室だより」掲載，「高専だより」へのコラム掲載などで学生にＰＲし，来室者にわかりやすいよう看板を設置している（資料７－２－①－11～13）。また，外部カウンセラーも配置し，相談室カレンダーで予定が把握できるように配慮している（資料７－２－①－14，15）。

セクシュアル・ハラスメント委員会を設置し，問題に対処できる体制を整えている（資料７－２－①－16）。

資料７－２－①－１

「平成 24 年度校務分掌」　（抜粋）

◎学級担任及び学年主任

1年	1 組	澤柳 博文
	2 組	吉田 茂
	3 組	舘下 徹志
	4 組	○浦家 淳博
	5 組	小田島 本有
2年	機 械	渡邊 聖司
	電 気	本田 匠
	電 子	梶原 秀一
	情 報	○大槻 典行
	建 築	佐藤 彰治
3年	機 械	○山崎 俊博
	電 気	松崎 俊明
	電 子	髙 義礼
	情 報	天元 宏
	建 築	佐藤 哲
4年	機 械	前田 貴章
	電 気	小松 正明
	電 子	戸谷 伸之
	情 報	石山 俊彦
	建 築	○千葉 忠弘
5年	機 械	川村 淳浩
	電 気	佐々木 敦
	電 子	○佐治 裕
	情 報	本間 宏利
	建 築	西澤 岳夫

○印は学年主任

◎学級副担任

1年	1 組	沼田 敦
	2 組	宮毛 明子
	3 組	佐古 彰史
	4 組	三島 利紀
	5 組	小谷 泰介
2年	機 械	舘岡 正樹
	電 気	千田 和範
	電 子	山田 昌尚
	情 報	土江田 織枝
	建 築	栗原 浩平
3年	機 械	赤堀 匡俊
	電 気	井上 泰仁
	電 子	山形 文啓
	情 報	柳川 和徳
	建 築	鈴木 邦康

（出典　本校校務分掌）

資料７－２－①－２

「平成 24 年　前期授業時間割」　（抜粋）

		月								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9
1学年	1	コンピュータリテラシー 前田・赤堀		化学 坂本	国語 加藤岳	数学 澤柳		HR 澤柳	オフィスアワー	
	2	国語 加藤岳	化学 坂本	数学 川中		英語 沼田		HR 吉田		
	3	化学 坂田	物理 浦家	コンピュータリテラシー 浅水・高		数学 山崎		HR 舘下		
	4	英語 沼田		数学 池田		国語 加藤岳	物理 浦家	HR 浦家		
	5	物理 浦家	国語 加藤岳	数学 小谷		倫理社会 藤本		HR 小田島		

時　限　表

SHR	8:40 － 8:50
1	8:50 － 9:35
2	9:40 － 10:25
3	10:35 － 11:20
4	11:25 － 12:10
昼休み	12:10 － 13:00
5	13:00 － 13:45
6	13:50 － 14:35
7	14:40 － 15:25
8	15:30 － 16:15
9	16:20 － 17:05

（出典　学生課作成資料）

資料７－２－①－３

「学級日誌・学級通信」　（抜粋）

１年５組通信　　第２号　　４月２３日

連休に入ります

授業は４月２３日（金）まででそれから９連休に入ります。君たちが今度授業に出るのは５月７日（月）からということになります。ですから寮生は前日の６日（日）が開寮日となりますので注意してください。

入学して３週間でゴールデンウィークとなるわけですが、新しい環境で多少の緊張もあったでしょう。どうか連休中は心身を休め、十分なリフレッシュをはかってください。

連休中にクラブなどの関係で合宿をする学生もいるかもしれませんが、是非とも実りある連休にしてもらいたいものです。

とくに寮生や下宿生は家族の方々に新しい環境での学校生活を伝えていただければと思います。

来月７日に皆さんが元気な姿で登校してくれることを期待しています。

今のところ順調な滑り出し

君たちが入学して２週間が経過しましたが、今のところ誰一人として遅刻や欠席をする人がいません（時間ぎりぎりにやってくる常連はいるようですが）。

また、学級日誌などを読むと、授業中の態度も好ましいようで質問を積極的にする学生もいるようです。この姿勢はこれからも続けてください。

その一方で、何人かの学生から「授業の進度が速くて大変だ」という声を聞きました。大変だと思ったときどうするのか、今が一番重要なときです。このときの対応としては次の２つのパターンに大きく分かれます。

① 「このままにしたら大変」と思って先生や友人に質問する。
② 「人に尋ねるのも面倒だからまあいいか」とそのままにしてしまう。

①にするか②にするのかで、今後の展開は大きく異なってきます。中学や高校とは違い、高専は先生方一人一人の教員室があります。勇気をもってドアをノックして入れば、先生方は皆親切に教えてくれるでしょう。先生というのも生身の人間ですから、そのような姿勢を見せる学生には応援したいという気持ちが湧いてくるものです。そのような姿勢を先生に印象づけるというのも実は非常に大切なことなのです。

ある学生から質問がありましたが、月曜の７時限目に「オフィスアワー」という時間が設定されています。この時間は授業が入っておらず、先生はみな自分の教員室にいることになっています。この時間を利用して訪れてみるのも一つの手です。

（出典　学級担任からの提出資料）

資料７－２－①－４

「クラス担任による個人面談実績」　（抜粋）

（前略）

２ 日常の指導

クラスの日常の指導は、学級担任の一番大事な役割と言える。高専の場合、中学・高校と違い、日常の学生把握、学生理解が得にくい状況にあると思われるが、ＳＨＲ等を活用して日常出来るだけ学生に接し、理解を深め、早期に指導していくことは大事なことである。

2.1 学生理解

(1) 資料によるもの

・プライバシーに配慮して取扱いには十分注意する。

(a) 学生調査書・・・・・入学時に記入のもの。住所、家族構成など

(b) 指導要録・・・・・・９～１０月にならないと手に入らない。過去の素行、病歴、前年度までの担任所見など

(c) 中学校の調査書・・・新入生の場合（１年学級担任のみ）

(2) 個人面談によるもの

(a) 面談の方法

① 全員を対象とするもの

実施の回数と時期：

・年２～３回実施する例が多い。

・時期は定期試験の前後、保護者懇談会の前等

・ＬＨＲの後半を個人面談に利用する例も多い。

確認事項：

A. 家庭状況の異動について（家族や氏名など）

B. 健康状態（欠課に関係するので注意）

C. 交友関係（学級内のグループ、校外、いじめ等の把握）

D. 部活動

E. 生活状況（起床、就寝、趣味、余暇の利用法等）

F. 学習状況（得意・不得意科目、学習法の助言）

G. その他気になる点

② 特定の学生を対象とするもの

問題行動があったり、なんとなく気になる場合、早めの対処が必要。問題行動として、

遅刻・欠課過多、授業態度不良、異常な言動など。

(b) 個人面談実施上の留意点

① 緊張感を持たせて実施するのか、ざっくばらんに話をするのか意識しておきたい。

（生の声を聞くためには大切）

② 全員を対象とする場合、かなりの時間と労力を必要とするので余裕をもって実施したい。

③ 実施直後に個人ファイルを作っておくと、保護者懇談会、成績通知書・指導要録の記入の際に便利である。

（以下略）

（出典　学級担任の手引き 平成 23 年４月）

資料７－２－①－５

「平成 24 年度専攻科学生名簿及び指導教員一覧」　（抜粋）

平成24年度専攻科学生名簿及び指導教員一覧

(第1学年)

学籍番号	学科	学生氏名	指導教員
1206[redacted]	K	[redacted]	鈴木邦康
1206[redacted]	K	[redacted]	西澤岳夫
1206[redacted]	K	[redacted]	前田貴章
1206[redacted]	K	[redacted]	前田貴章
1206[redacted]	K	[redacted]	高橋剛
1206[redacted]	K	[redacted]	鈴木邦康
1207[redacted]	S	[redacted]	神谷昭基
1207[redacted]	S	[redacted]	神谷昭基
1207[redacted]	S	[redacted]	中村隆
1207[redacted]	S	[redacted]	高　義礼
1207[redacted]	S	[redacted]	高橋晃
1207[redacted]	S	[redacted]	浅水仁
1207[redacted]	S	[redacted]	神谷昭基
1207[redacted]	S	[redacted]	坂口直志
1207[redacted]	S	[redacted]	中村隆
1207[redacted]	S	[redacted]	坂口直志
1207[redacted]	S	[redacted]	高橋晃
1207[redacted]	S	[redacted]	坂口直志
1207[redacted]	S	[redacted]	本間宏利
1207[redacted]	S	[redacted]	天元宏
1207[redacted]	S	[redacted]	浅水仁
1207[redacted]	S	[redacted]	戸谷伸之
1207[redacted]	S	[redacted]	坂口直志

(第2学年)

学籍番号	学科	学生氏名	指導教員
1106[redacted]	K	[redacted]	草苅敏夫
1106[redacted]	K	[redacted]	佐藤章治
1106[redacted]	K	[redacted]	三森敏司
1106[redacted]	K	[redacted]	前田貴章
1106[redacted]	K	[redacted]	草苅敏夫
1106[redacted]	K	[redacted]	岩渕義孝
1106[redacted]	K	[redacted]	西澤岳夫
1106[redacted]	K	[redacted]	西澤岳夫
1106[redacted]	K	[redacted]	三森敏司
1106[redacted]	K	[redacted]	荒井誠
1006[redacted]	K	[redacted]	前田貴章
1107[redacted]	S	[redacted]	本間宏利
1107[redacted]	S	[redacted]	佐治裕
1107[redacted]	S	[redacted]	梶原秀一
1107[redacted]	S	[redacted]	山田昌尚
1107[redacted]	S	[redacted]	中村隆
1107[redacted]	S	[redacted]	林裕樹
1107[redacted]	S	[redacted]	山田昌尚
1107[redacted]	S	[redacted]	神谷昭基
1107[redacted]	S	[redacted]	中村隆
1107[redacted]	S	[redacted]	戸谷伸之
1107[redacted]	S	[redacted]	松本和健
1107[redacted]	S	[redacted]	坂口直志
1107[redacted]	S	[redacted]	浅水仁
1107[redacted]	S	[redacted]	浅水仁
1107[redacted]	S	[redacted]	天元宏
1007[redacted]	S	[redacted]	松本和健
1007[redacted]	S	[redacted]	佐治裕
1007[redacted]	S	[redacted]	坂口直志

メーリングリスト→　senkousidou@office.kushiro-ct.ac.jp

（出典　学生課作成資料）

資料７－２－①－６

「教室　奨学金写真」　（抜粋）

平成２４年度　授業料免除申請について

この授業料免除は，本校に在学する４年生以上（専攻科生含む）が対象となりますが，申請は学生本人がするものであり，以下の事項を熟読して十分理解の上作成し，申請書類を期日までに学生支援係へ提出してください。
提出期間を過ぎた場合はいかなる理由があっても受け付けませんので注意してください。

１．免除申請の流れ

①確約書提出期限

【前期申請者のみ】平成２４年４月９日（月）

授業料免除申請確約書のみを上記提出期限までに学生支援係へ提出してください。期限までに提出しない場合は免除の対象となりません。

②申請書類提出期間

【前期】平成２４年６月４日（月）～６月１８日（月）　【後期】平成２４年９月３日（月）～９月２４日（月）

上記提出期間内に申請書類及び各種証明書類を学生支援係まで提出してください。提出期間を過ぎた場合はいかなる理由があっても受け付けません。なお，今年度から前期と後期をまとめて申請することが出来，申請書類も一回のみの提出となります。

③結果通知

【前期】平成２４年７月中旬～８月上旬　【後期】平成２４年１１月中旬～１２月上旬

免除の許可・不許可の結果を学資支給人（保護者）へ郵送で通知します。なお，免除基準該当者であるが学内予算内で免除とすることができない方については，高専機構本部へ超過免除申請をします。

④超過免除申請結果通知

【前期】平成２４年９月中旬～下旬　【後期】平成２５年１月中旬～下旬

超過免除申請対象者となっていた方の結果を学資支給人（保護者）へ郵送で通知します。

※超過免除申請とは？　釧路高専内で決定できる免除額には上限があり（授業料収入の６．８％以内），免除許可者は基準

（出典　学生課作成資料）

資料７－２－①－７

「平成 24 年度　授業料免除等申請受付中」　（抜粋）

釧路高専TOP > 学校生活 > 授業料免除・奨学金等 > 平成24年度　授業料免除等申請受付中

平成24年度　授業料免除等申請受付中

現在，平成24年度　授業料免除等の申請を受け付けており，詳細は以下のとおりです。

【授業料免除】

1．対象者

- 本校に在学する4年生以上（専攻科含む）の学生で以下に該当する者。
  - 1) 経済的理由により納付が困難であり，かつ学業優秀と認められる者。
  - 2) 授業料納期前6月以内に学資負担者が死亡し，又は学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け，納付が著しく困難であると認められる場合。
  - 3) その他やむを得ない事情があると認められる場合。
- 本校に在学する1～3年生の学生で以下に該当する者。
  - 1)「高等学校等就学支援金」制度で授業料の全額が支援されない者で，授業料納期前6月以内において，学資負担者が死亡し，又は学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた者。
  - 2)「高等学校等就学支援金」制度の36月の支給上限期間を超えたため，当該制度では就学支援されない3年生以下の学生で，経済的理由により納付が困難であり，かつ学業優秀で，授業料免除の基準を満たす者。
- 学資負担者が，経済状況の悪化を原因として，経営又は勤務する会社の倒産，勤務先からの解雇等により失職し，その後も再就職していない者。

2．免除額

平成24年度前・後期分授業料の全額又は半額。

3．確約書提出期限

【前期のみ】平成24年4月9日（月）

4．申請書類提出期間

- 【前期】平成24年6月4日（月）～6月18日（月）
- 【後期】平成24年9月3日（月）～9月24日（月）

※前・後期分をまとめて前期に申請した場合，後期分の申請書類の提出は不要。

（出典　Web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=330（本校公式ウェブサイト））

資料７－２－①－８

「釧路工業高等専門学校寮務委員会規程」　（抜粋）

（審議事項）

第２条 委員会において審議する事項は，次のとおりとする。

一 寮生の補導に関する事項

二 寮生の福利厚生に関する事項

三 その他学寮に関する重要事項

（組織）

第３条 委員会は，次の各号に掲げる者で組織する。

一 寮務主事及び寮務主事補

二 学生主事

三 学年学級担任のうちから各１名

四 一般教育科文系教員及び理系教員から各１名（ただし，前号の規定により選出された者の所属する系を除く。）

五 専門学科教員から各１名（ただし，第三号の規定により選出された者の所属する学科を除く。）

六 校長が必要と認めた者 若干名

七 学生課長

（出典　釧路高専規程）

資料７－２－①－９

「釧路工業高等専門学校学生寮教員宿日直規程」　（抜粋）

（職務内容）

第５条学生寮における宿日直の職務内容は，機構教員規則第３条第１項に定めるほか，次のとおりとする。

一寮生の生活指導に関すること。

ア「寄宿舎管理規程」，「寮生心得」及び「日課表」に基づく指導，助言

イ個人的相談に対する助言

二寮生の健康管理に関すること。

ア医薬品の管理

イ急患の処置

三寮生の学習その他の相談に関すること。

四寮生の保護，安全に関すること。

ア秩序の維持

イ戸締まり，火気取扱いについての指導

ウ災害時の処置

（出典　釧路高専規程）

資料７－２－①－10

「保健室横のミーティングルーム」



（出典　総務課作成資料）

資料７－２－①－11

「学生相談室からのお知らせ」　（抜粋）

教職員各位

学生相談室からのお知らせです。
本年度の学生相談室は、三島先生を相談室長として迎え、以下のメンバーで活動いたします。

専門カウンセラーの禿（かむろ）先生は、毎週火、木曜日１４：４０～１６：４０（１７：４０）に
学生相談室にて勤務されておられます。
木曜日１６：４０～１７：４０は教職員のための時間となっています。

以下は、相談室開室カレンダー（５，６月）の URL になりますのでご覧ください。
http://www.kushiro-ct.ac.jp/soudan/nittei.pdf

（出典　学生相談員から学内へのメール文　平成 24 年５月７日）

資料７－２－①－12

「学生そうだん室から」

学生そうだん室から

http://www.kushiro-ct.ac.jp/soudan

学生そうだん室
メンバー紹介です

そーだんくん

プロフィール　かれこれ10年以上、釧路高専学生相談室のキャラクターをやっています。でもほとんど知られていないのが難点。
キャラデザインの原案は、実は物理の浦家先生です。

保護者のみなさまへ

保護者のみなさまへ
学生相談室では、保護者の皆様からの教育全般に関する相談にもできるかぎり対応したいと考えております。E-mailによるご質問は、
k-soudan@kushiro-ct.ac.jp
までお願いいたします。

学生相談室の愛称

おいで

いつでも、誰でも気軽に立ち寄れることをイメージしてつけました。「おいで」を合い言葉に思いを届けてください。

[redacted]

相談員　井上　泰仁
プロフィール　平成12年3月　釧路高専 電子工学科 卒業
平成12年4月　弘前大学 理工学部 3年次編入学
平成19年4月～平成24年3月　舞鶴高専 電気情報工学科
学生へのメッセージ　舞鶴高専から赴任しました井上泰仁（いのうえやすひと）です。今年より、学生相談室のスタッフとなりましたので、よろしくお願いいたします。釧路高専の良いところは、自然豊かな地域に立地しており、のびのびと学生生活を送れることだと思います。そのため、私自身も学生時代には、自由に、勉強、卒業研究、課外活動など、様々な活動に取り組むことができました。何かありましたら、気軽に研究室のほうにお越し下さい。



相談員　山田　昌尚
学生へのメッセージ　今年から学生相談室の担当になりました。ひとりで考えて煮詰まったときなどは話し相手になりますので、相談室でも教員室でも気軽に来て下さい。

[redacted]

非常勤カウンセラー　禿　美津
プロフィール　釧路市出身　北海道大学文学部心理学専修科卒業後、静岡大学学生相談室、神奈川県リハビリテーションセンター心理科、旭木児童相談所、釧路市療育センターを経て現職（20年以上釧路高専に関わっています）。
学生へのメッセージ　高専生活の5年間は、心理学的には青年期、あるいは思春期と呼ばれる時期で、一生の中でも一番変化の激しい時期です。この間には、悩みや苦しみ、自分一人では解決出来ない問題に出会うことも度々あるかと思います。そんな時、少しでもお役に立てられれば、と窓口を設けているのが相談室です。また、相談室では、保護者の方や職員の方々の相談も受けています。ぶらっと立ち寄り、日頃たまっている心のうちをぶちまけていただくのもOKです。是非、心の健康にお役立て下さい。



相談室長　三島　利紀
学生へのメッセージ　1962年　十勝管内士幌町生まれ。本校では、学生主事・相談室長等を歴任。担任としては日々苦労の連続で、悩み多き教員生活を送っています。どんな相談でも結構です。気楽に立ち寄ってください。たまに私の相談も聞いてください。



相談員　宮毛　明子
学生へのメッセージ　学生相談室員2年目となりました。担当している教科は数学です。普段は、低学年棟4階の教員室にいます。勉強や生活面などの相談に乗ります。気軽にお越しください。



相談員　中島　陽子
学生へのメッセージ　「誰かと話をすると不思議と色々な考えがあることに気がつけるときがありますね。あなたのSoudan_kunを見つけましょう！高専ステキ女子・ステキ男子がたくさん増えますように☆」



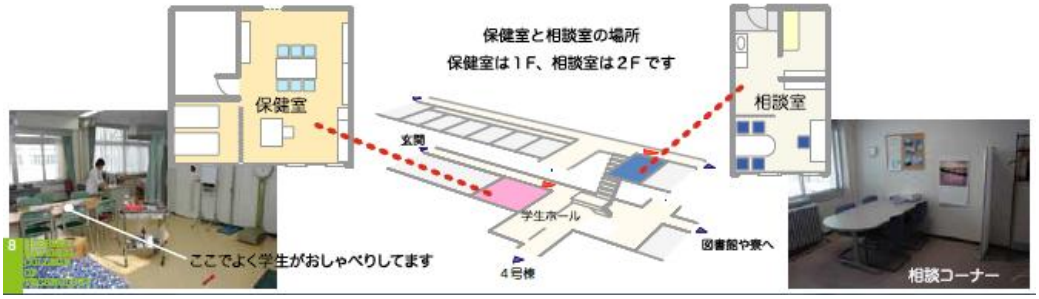
相談員　藤本　一司
学生へのメッセージ　よかったら、どんなことでもお話を聞かせてください。話をしてみるだけで気分が軽くなることがありますから。



看護師　山方
学生へのメッセージ　学生の皆さんの心身の健康を、保健室から見守っています。保健室は、怪我や病気はもちろんですが、おしゃべりしに立ち寄ってもかまわないですよ！



学生支援コーディネーター　松崎
学生へのメッセージ　普段は、物理の先生をやっています。学生相談室のすぐ、そばの教員室か、やはり、相談室のすぐそばの物理準備室にいます。でも、相談室にもよくいます（笑）。



（出典　釧路高専だより 107 号）

資料７－２－①－13

「相談室看板」



（出典　総務課作成資料）

資料７－２－①－14

「相談室員（平成２４年度 / 2012 ）」　（抜粋）

禿　美津(かむろ　みつ)
専門カウンセラー(非常勤)

略　歴

- 1965年　北大文学部哲学科心理学専修科　卒業
- 1965年　静岡大学学生部相談室
- 1975年　厚木市児童相談所
- 1981年　釧路私立医療センター医療相談
- 1987～2006年　釧路高専学生相談室カウンセラー
- 2010年度～　再任



（出典　Web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/soudan/member.html（本校学生相談室））

資料７－２－①－15

「相談室開室カレンダー」

相談室開室カレンダー（5，6月）

5月

日	月	火	水	木	金	土
29	30	1	2	3	4	5
	ゴールデンウイーク（休業）					
6	7	8	9	10	11	12
	三島利紀	禿（カムロ）　美津	井上泰仁	禿（カムロ）　美津	中島陽子	
13	14	15	16	17	18	19
	三島利紀	禿（カムロ）　美津	宮毛明子	禿（カムロ）　美津	山田昌尚	
20	21	22	23	24	25	26
	三島利紀	禿（カムロ）　美津	宮毛明子	禿（カムロ）　美津	中島陽子	
27	28	29	30	31		
	三島利紀	禿（カムロ）　美津	井上泰仁	禿（カムロ）　美津		
時間	15:30～17:00	14:40～16:40	15:30～17:00	14:40～16:40	15:30～17:00	

6月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
					中島陽子	
3	4	5	6	7	8	9
	前期中間試験期間（閉室 *各教員室・保健室で対応します）					
10	11	12	13	14	15	16
	三島利紀	禿（カムロ）　美津	宮毛明子	禿（カムロ）　美津	中島陽子	
17	18	19	20	21	22	23
	三島利紀	禿（カムロ）　美津	金曜授業 山田昌尚	総会・壮行会・春季体育大会 禿（カムロ）　美津	各教員室対応	
24	25	26	27	28	29	30
	三島利紀	禿（カムロ）　美津	宮毛明子	禿（カムロ）　美津	山田昌尚	
時間	15:30～17:00	14:40～16:40	15:30～17:00	14:40～16:40	15:30～17:00	

＊藤本一司先生，松崎俊明先生は教員室で，山方昌子看護士は保健室で対応します．
＊相談室員の部屋の目印は「そ～だんくん」の看板です．
＊禿美津先生は非常勤の専門カウンセラーの先生です．

（出典　Web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/soudan/nittei.pdf（本校学生相談室））

資料７－２－①－16

「セクシュアル・ハラスメント相談員」　（抜粋）

◎セクシュアル・ハラスメント相談員

総括相談員（学生相談室長）	三島 利紀
総務課長	鈴木 惠子
人事・給与係長	柴田 糸江
看護師	山方 昌子
女性教員 （学生相談室相談員）	中島 陽子
女性事務職員	児玉 陽子

（出典　校務分掌）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程の学生に対しては，クラス担任（３学年まではさらに副担任）が配置され，学生の指導・相談・助言体制をとっている。専攻科課程の学生については，専攻科長，専攻長，および指導教員が分担して学生の指導・相談・助言にあたる。

学生課において奨学金，授業料免除，履修等の相談を受け付ける。

心身の健康についての相談体制として保健室および学生相談室がある。保健室わきにはミーティングルームを備え，他の来室者から離れて相談できる環境がある。

セクシュアル・ハラスメント委員会を設置し，問題に対処できる体制を整えている。

これらのことから，学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され，機能している。

観点７－２－②：　特別な支援が必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また，必要に応じて生活支援等が行われているか。

（観点に係る状況）

入学決定後に，釧路市内及び近隣地区の中学校を教員が訪問し，新入学生の状況について中学校からの引き継ぎを行っている（資料７－１－④－８）。入学に関する郵送資料には保健室から健康等についての事前相談のお知らせを入れ，学生の状況把握に努めている（資料７－２－②－１）。これらの取り組みにより把握された，特別な支援が必要と考えられる学生については，学生支援コーディネーターを中心として，学校生活における支援体制を整えている（資料７－１－④－７）。これらの情報は年度当初の教員会議において，必要事項を全教員に示し，授業における注意事項，学校生活における注意事項を伝達し，学校全体での支援を行う体制をとっている（資料７－１－④－10）。また，本校では，学習障害等特別な支援を要する学生への支援のひとつとして，全ホームルーム教室に「提出物ボード」を置き，提出課題の状況，期限等を記入している（資料７－２－②－２）。

留学生については，３・４学年においてはチューターを置き，日常生活・学業における学生同士の相談体制を作っている（資料７－２－②－３）。また，３学年において日本語教育や専門科目の個人指

導を入れ，日本での学生生活に支障がないよう配慮している（資料７－１－④－４）。他にも，釧路での生活に支障をきたさないよう，学生課寮務係を中心として，種々の取り組み（留学生交流会への参加，留学生実地見学や釧路市内研修の企画）を行っている（資料７－２－②－４）。

資料７－２－②－１

「健康管理調査書」

健 康 管 理 調 査 書

釧路工業高等専門学校

学科・専攻名		緊急連絡先(携帯等)	続柄
ふりがな 氏　　名	男 ・ 女	①	
		②	
生 年 月 日	（　　歳）		

		麻疹(はしか)		風 し ん		水ぼうそう	おたふくかぜ
伝染病 罹患歴	罹患に○印						
	罹患年齢	歳		歳		歳	歳
ワクチン 接種歴		麻疹(はしか)		風 し ん		水ぼうそう	おたふくかぜ
	接種に○印	1回目	2回目	1回目	2回目		
	接種年齢	歳	歳	歳	歳	歳	歳

※予防接種が受けられない事情がありましたらお知らせください。

※参考　MRワクチンは、麻疹(はしか)・風しんの混合ワクチンです。

次の病気にかかったことがありますか。該当する番号を○で囲んでください。

1 呼吸器疾患(結核等)	ある ・ ない	病名　（　歳）	治療 ・経過観察中 ・治療中
2 心臓病	ある ・ ない	病名　（　歳）	治療 ・経過観察中 ・治療中
3 腎臓病	ある ・ ない	病名　（　歳）	治療 ・経過観察中 ・治療中
4 胃腸病	ある ・ ない	病名　（　歳）	治療 ・経過観察中 ・治療中
5 肝臓病	ある ・ ない	病名　（　歳）	治療 ・経過観察中 ・治療中
6 甲状腺	ある ・ ない	病名　（　歳）	治療 ・経過観察中 ・治療中
7 糖尿病	ある ・ ない	病名　（　歳）	治療 ・経過観察中 ・治療中
8 喘息	ある ・ ない	病名　（　歳）	治療 ・経過観察中 ・治療中
9 てんかん	ある ・ ない	病名　（　歳）	治療 ・経過観察中 ・治療中
10 神経症・うつ	ある ・ ない	病名　（　歳）	治療 ・経過観察中 ・治療中
11 血液	ある ・ ない	病名　（　歳）	治療 ・経過観察中 ・治療中
12 目	ある ・ ない	病名　（　歳）	治療 ・経過観察中 ・治療中
13 耳	ある ・ ない	病名　（　歳）	治療 ・経過観察中 ・治療中
14 月経(不順・痛み)	ある ・ ない	病名　（　歳）	治療 ・経過観察中 ・治療中
15 血圧が高いと言われた	ある ・ ない　（　歳）	再検査異常なし ・ 経過観察中 ・ 治療中	
16 尿検査で糖が出た	ある ・ ない　（　歳）	再検査異常なし ・ 経過観察中 ・ 治療中	
17 尿検査で蛋白が出た	ある ・ ない　（　歳）	再検査異常なし ・ 経過観察中 ・ 治療中	

該当した項目の中で、現在心配なこと、困っていることがありましたらをお知らせください。

資料７－２－②－１（続き）

次の該当する項目についてお知らせください。

アレルギー	ある ・ ない　（　　歳） 病名（　　） （例 アトピー　花粉症　気管支喘息　食べ物　薬等） 治癒　経過観察中　治療中 ※ アレルギーをおこす食べ物がありましたら記入してください。 ※ アレルギーをおこす薬がありましたら記入してください。
ある の該当で、現在心配なこと、困っていることがありましたらお知らせください。	
身体の障害	1. 視覚　2. 聴覚　3. 言語　4. 運動　5. 腎臓　6. 心臓 7. 肝臓　8. 血液　9. その他（　　） 身体障害手帳交付　　年　　月　　日　　級 障害名（　　）
該当項目の中で、現在心配なこと、困っていることがありましたらお知らせください。	
発達障害	1. ADHD（注意欠陥多動性障害）　3. アスペルガー症候群 ・自閉症 2. LD（学習障害）　4. その他（　　）
該当項目で、現在心配なこと、困っていることがありましたらお知らせください。	
身体的症状	1. 動悸 2. 息切れ 3. めまい 4. 立ちくらみ 5. 頭痛　6. 鼻血が出やすい 7. 耳鳴り　8. 口が渇く　9. 不眠がち 10. その他（　　）
該当項目の中で、現在心配なこと、困っていることがありましたらお知らせ下さい。	

現在の視力を記入してください。1. 裸眼　右（ ・ ）左（ ・ ）　2. 矯正　右（ ・ ）左（ ・ ）

その他、生活面、学習面等において心配なこと、気になること、困っていることがありましたらお知らせください。

お預かりする個人情報は学生の健康状態を知り、健康診断や日常の健康相談・生活相談・保健指導などを行う上で参考にしたり、就職・進学・大会出場用の健康診断証明書を発行するにあたり参考にするためのもので、これ以外の目的には使用しません。

（出典　釧路高専保健室資料）

資料７－２－②－１（続き）

「学生の健康に関わる情報の守秘について」　（抜粋）

取扱注意

釧路工業高等専門学校

学生の健康に関わる情報の守秘について

【はじめに】

保健室及び学生相談室が中心となり、入学願書に添えられる「事情説明書」あるいは合格内定後に提出する「健康管理調書」、更には保護者との面談、出身中学校教員との面談等を通して特別な配慮を必要とする学生の情報を集約しています。

信頼関係の基に情報交換を行っていますので、情報共有の意義を理解し、守秘義務を厳守されるようよろしくお願いいたします。

【情報共有の意義】

配慮を必要とする学生を教職員が特に注意深く見守ることで、当該学生が充実した学校生活を送り、安心して勉学に励むことができるようにすることが情報共有の意義です。

【守秘義務について】

個人情報保護の観点から、以下の点に注意してください。

- 個人情報が含まれる書類は他者が見ることができない場所に保管すること。
- 個人情報が含まれる書類はシュレッダーを用いて廃棄すること。
- 個人情報を知りえない者がいる時にはそれに関わる内容を話さないこと。
- 当該学生及び保護者等と直接対応した者以外は、緊急の必要が無い限り当該学生に対しても個人情報に関わる内容を話さないこと。（必要な場合は保健室を経由する）

例）たかがアレルギーと思われるかも知れませんが、「キノコを食べて全身に発疹が出て、以来『キノコ』と呼ばれ続けた」等不快体験があれば周囲に知られたくない場合があります。秘密にすべき情報かどうかは当該学生の受け止め方次第です。

【情報共有の範囲と手段】

個別な配慮に関する最低限の情報は全教員への「取扱注意」の判を押した封筒にて配布します。職員へは「回覧」を行い、情報の共有を図ります。寮生の場合には学寮当直室のファイルでも周知します。担任等、当該学生と深く関わる教職員とはミーティングを通してより詳細な情報共有を図ります。

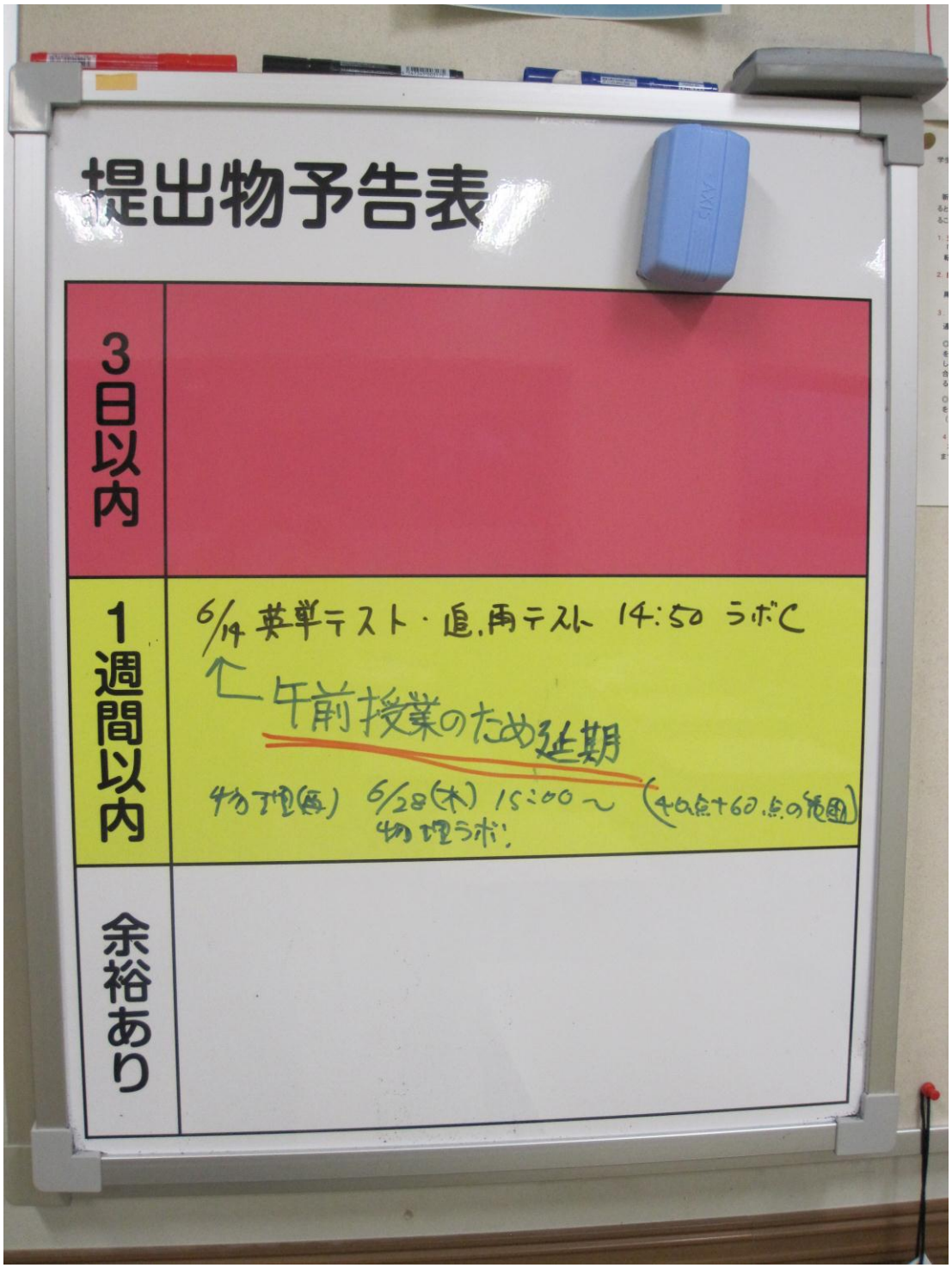
【問い合わせ窓口】

情報閲覧が必要になった場合には、学生相談室長・看護師へ相談ください。

（出典　平成 24 年４月教員会議資料）

資料７－２－②－２

「提出物予告表」



（出典　総務課作成資料）

資料７－２－②－３

「釧路工業高等専門学校外国人留学生の特例等に関する規程」　（抜粋）

（留学生相談員）

第６条　学校生活及び個人生活について，留学生に対し助言を与えるとともに学習の相談に応ずるため，第３学年及び第４学年の各留学生に留学生相談員（以下「チューター」という。）１名を置くことができる。

２　チューターは，当該留学生と同学科の学生で，学寮に入寮している者の中から学科長が適任者を校長に推薦し，校長は，国際交流委員会の意見を徴して委嘱する。

３　チューターは，留学生に関し，必要に応じ指導教員に連絡し，又はその指示を受けてその職に当たるものとする。

（出典　釧路高専規程）

資料７－２－②－４

「北海道内高専外国人留学生交流会について」　（抜粋）

１ 目 的

北海道内の各高専に在学中の外国人留学生が一堂に集まり，それぞれの自国の状況，在留中の勉学・生活状況等について情報交換を行い，お互いの理解を深めて今後の留学生活に役立てるとともに，体験学習やウィンタースポーツなどを通じて北海道の文化を体験し，留学生及び指導教員等との親睦を図る

２ 開催期日

平成２４年 １月５日（木） ～ １月７日（土） ２泊３日

３ 開催内容及び場所

ウィンタースポーツ体験 ： キロロスキー場
体験学習 ： 和太鼓体験
感想発表会 ： キロロリゾートホテルピアノ

４ 宿 泊

キロロリゾートホテル（赤井川村）

５ 行 程

平成２４年 １月５日（木） 釧路高専 → 体験学習・自己紹介
６日（金） スキー・スノーボードレッスン・感想発表会
７日（土） キロロスキー場→釧路高専
※往復ともバス利用

６ 参 加 者

林寮務主事補，田中寮務係長
５Ａ
４Ｄ
４Ａ
３Ｍ
[redacted]

（出典　平成 23 年度１月寮務委員会資料４）

資料７－２－②－４（続き）

「平成 23 年度　留学生実地見学実施要項」　（抜粋）

１）趣旨

本校における外国人留学生の課外活動の一環として，また，卒業後の進路決定の参考とするため，４年次に実地見学旅行を実施する。

２）旅行日程

月　日	時　間	内　容
平成２４年２月１０日（金）	8：39	釧路駅発（スーパーおおぞら６号）
	12：14	札幌駅着
	14：00	北大・総合博物館等見学
２月１１日（土）	9：00	大通り公園周辺施設見学
	15：50	札幌駅発（スーパーおおぞら９号）
	19：45	釧路駅着

３）見学場所

北海道大学

札幌市周辺

４）対象者

第４学年電子工学科

第４学年情報工学科

第４学年建築学科 [redacted]

５）引率教員

指導教員　建築学科　西澤　岳夫

６）宿泊先

チサンイン札幌　　札幌市中央区北２条西２丁目１９番地

（出典　平成 23 年度２月寮務委員会資料１）

資料７－２－②－４（続き）

「留学生の親睦を深めるための市内研修について」　（抜粋）

１．目　　的　新留学生の３年生を囲み、釧路市内の施設を巡ることにより釧路を知ってもらうこと、また、指導教員及びチューター、他留学生との親睦を深め、相互理解を深める

２．日　　程　平成２４年６月２３日(土)

３．研　　修　（バス）本校北口玄関前

１０時００分	学生寮出発
１０時４０分	雄岡展望台
１１時２０分	雄岡展望台出発
１２時００分	昼食
１３時００分	出発
１３時２０分	釧路博物館
１４時００分	釧路博物館出発
１４時２０分	炭鉱資料館
１５時００分	炭鉱資料館出発
１５時３０分	学生寮到着

４．参 加 者　**留 学 生（参加確認中）**

３E [redacted]　４M [redacted]　４J [redacted]

５D　５J　５A

チューター３名（参加確認中）

トゥルク応用科学大学　学生　３名（**参加確認中**）

３年留学生指導教員（参加確認中）

松崎先生

寮務主事・主事補、国際交流委員長、神谷教授、事務

５．研修内容　留学生及びチューターとの人間関係が円滑に行われるためには、どのような事が必要かを中心に研修を行う

（出典　平成 24 年度６月寮務委員会資料６）

（分析結果とその根拠理由）

入学決定後に，釧路市内及び近隣地区の中学校を教員が訪問し，新入学生の状況について中学校からの引き継ぎを行っている。入学に関する郵送資料には保健室から健康等についての事前相談のお知らせを入れ，学生の状況把握に努めている。学生支援コーディネーターを中心として学校生活における支援体制を整えている。

留学生については，３・４学年においては，チュータを置き，日常生活・学業における学生同士の相談体制を作っている。

これらのことから，特別な支援が必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあり，必要に応じて生活支援等が行われている。

観点７－２－③：　学生寮が整備されている場合には，学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

（観点に係る状況）

自宅からの通学が困難な学生のために修学の便宜を図り，共同生活を経験する過程において教育目標を達成し，人間形成を助長する場として学生寮（鶴翔寮）が運営されている（資料７－２－③－１）。

鶴翔寮の「生活のしおり」には教育寮であることが明記され（資料７－２－③－２），日課表（資料７－２－③－３）を示して規則正しい生活を求めている。

学生寮はブロック制が敷かれており寮生の指導は，寮務主事をはじめ寮務委員と各学級担任及び当直教員が行う（資料７－２－③－４，５）。指導の一環として，教員が随時朝・昼及び夜間巡回を行い，生活指導や健康管理並びに学習相談にあたっており，１学年においては定期的な勉強会が行われている（資料７－２－③－６）。また男子寮では大小の学習室，女子寮では談話コーナーを設置し，これらに共用製図板を備える等，学生の自主学習での利用に供している（資料７－２－③－７）。さらに，寮内には学習室の他，居室にLANが整備され学習に活用されている（資料７－２－③－８）。

資料７－２－③－１

「学生寮（鶴翔寮）」　（抜粋）

１　学寮の目的と運営

１　学寮の目的

本校の学寮「鶴翔寮（かくしょうりょう）」は、学生の修学に便宜を供与し、かつ、共同生活をとおして学生の教養を高め社会の秩序と倫理を重んずる気風を養い、その人間形成を助長して教育目的の達成に資することを目的としています。

（出典　平成24年度鶴翔寮のしおり p. １）

資料７－２－③－２

「寮生諸君へ」　（抜粋）



寮 生 諸 君 へ

校 長　**岸　　徳 光**

高専の学寮は、教育の一環として重要な意義を持っており、単に通学の都合や経済的負担を軽くするというだけで設けられたものではありません。生活指導を行い、教育的配慮のもとに運営される教育施設であり、単なる厚生施設とは違います。学寮は修学のための共同生活の場であって、健康で明るく規則正しい集団生活を通じ、教養を高め、共同生活のルールを会得し、身につけることを目的としています。

本校の鶴翔寮は、遠く阿寒の山々を望み、広々とした釧路原野の静かな一角に位置しており、大空に羽ばたく鶴のように翔ることを願って命名されました。ここに１年生から５年生までの希望者を受け入れますが、全学年の約４割に当たる400名近くの学生が寮生活を送っています。この静かな良き環境の中で、勉学に、運動に、文化活動に励み、強い身体と逞しい精神力を養い、また、お互いに他人の立場を理解尊重し、協調の心を育て、生涯の良き友を得るようにしてください。

寮では、15歳から20歳までの元気のよい若者が共同生活をしています。各自が規律を重んじ、寄宿舎管理規程や寮生心得を守り、高専生としての自覚と自律の精神をもって、お互いに切磋琢磨し、自己の向上に努めてください。

また、先輩、後輩間に好ましい信頼関係を築くよう心掛け、明るく、有意義な寮生活を送るようにしてください。

また、寮には、寮生指導の教員当直者と、本年度から事務当直者に代わって配置される警備員がいて、寮生会と協力して寮生の生活を守っています。教員の宿日直は、病気や災害時の保護安全および学習や生活上の相談、助言その他団体生活の側面的援助を目的としていますので、遠慮なく気軽に当直室を訪ねてください。

鶴翔寮には寮生が不便なく生活できるように設備を整えてあります。学校としては、寮務主事を中心に教職員一体となり、施設や環境の改善に絶えず努力を払っています。より良く楽しい学寮づくりのために、皆さんの積極的な創意と努力を期待しています。

（出典　平成24年鶴翔寮生活のしおり）

資料７－２－③－３

「日課表」　（抜粋）

2　日課について

日　課　表
Daily Schedule TimeTable

区　分 Crassification	平　日 Weekdays	休　日 Holidays
	時　間	時　間
起　床 The Time One Gets Up	７：１５	７：３０
朝　食 Breakfast	７：３０～８：３０	８：００～９：００
登　校 Going to college	８：３５まで	
昼　食 Lunch	１２：１０～１２：５０	１２：００～１３：００
登　校 Going to college	１２：５５まで	
入　浴 Having a bath	１７：００～２１：３０	１７：００～２１：３０ （注）
夕　食 Dinner	１８：００～１９：３０	１８：００～１９：００
研　修（学習） Study	２０：００～２２：３０	
門　限 Curfew	１～２年（女子）　21:00 ３～５年（女子）　22:00 １～３年（男子）　22:00 ４、５年（男子）　23:00	
点　呼 Roll Call	（女子）　２２：０５ （男子）　２２：３０ （以降、他居室訪問禁止）	
消　灯 Lights Out 就　寝 The Time One Go to Bed	２３：３０	

（注）　土曜日は入浴可（シャワーを含む）。日曜、祝日はシャワーのみ使用可。

備　考　この日課表は、特別の事情がある場合又は季節により変更する場合があります。

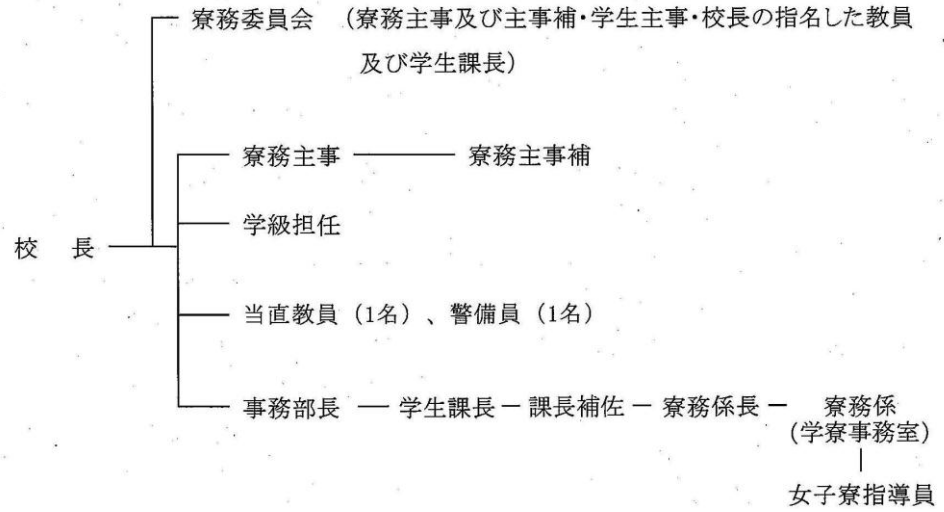
（出典　平成 24 年鶴翔寮生活のしおり　p. ２）

資料７－２－③－４

「寮生指導」　（抜粋）

3　学寮の運営と組織

学寮の運営は、寮生の指導は教員（寮務主事、寮務委員、学級担任及び当直教員）が担当し、施設設備の維持管理、寮費及び給食等については学生課学生支援係（学寮事務室）が担当しています。夜間・休日には当直教員・事務職員が常駐しています。

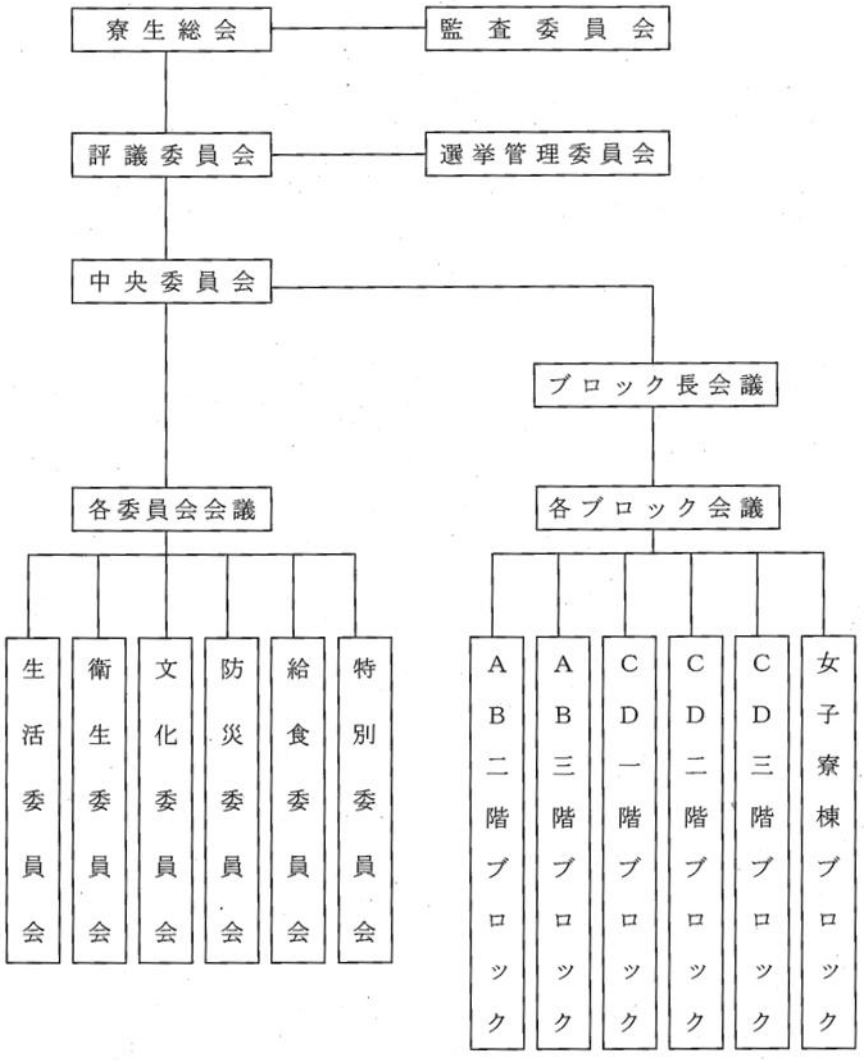


（出典　平成 24 年度鶴翔寮生活のしおり p. １）

資料７－２－③－５

「ブロック制　組織図」　（抜粋）

5　寮生会組織図



（出典　平成 24 年度鶴翔寮生活のしおり p. 20）

資料７－２－③－６

「　１学年学習会　」





（出典　学生課作成資料　）

資料７－２－③－７

「　男子寮・女子寮の自習状況　」





（出典　釧路工業高等専門学校ホームページ　）

資料７－２－③－８

「寮内の施設・設備の利用について」　（抜粋）

７　寮内ネットワーク

教育および研究での利用を目的として、各居室には情報コンセントが備えられています。寮内ネットワークにコンピュータを接続する場合は、情報処理センター等で自分が利用するコンピュータの登録申請（電子申請）をしてください。寮内ネットワークの利用申請にあたっては、申請前に学寮事務室の窓口に置いてある鶴翔寮ネットワーク利用の手引きに記載されている内容をよく読んで申請を行ってください。

なお、１年生は情報倫理についての学習を受けるまで、ネットワーク利用申請を行うことができません。

（出典　平成 24 年鶴翔寮生活のしおり p. 20）

（分析結果とその根拠理由）

自宅からの通学が困難な学生のために教育寮として鶴翔寮が運営されている。鶴翔寮の「生活のしおり」には教育寮であることが明記され，日課表を示して規則正しい生活を求めている。

学生寮はブロック制が敷かれており寮生の指導は，寮務主事をはじめ寮務委員と各学級担任及び当直教員が行う。

これらのことから，学生寮が，学生の生活及び勉学の場として有効に機能している。

観点７－２－④：　就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

準学士課程の進路指導は，進路指導委員会が中心となって行っている（資料７－２－④－１）。平成23年度より進路指導委員会の下にキャリアサポートセンターが設置され，低学年におけるキャリア教育（現在は４学年までを対象）を実際に指導する体制となっている（資料７－２－④－２～５）。５学年では，学科により多少分担が異なるが，学科長と担任が就職・進学指導をしている（資料７－２－④－６）。また，進路決定の参考とするために第４学年に “進路の手引き”を配布し，学生自身が自主的に進路を選択し，就職・進学に向けて調査・準備をするための情報提供も行っている（資料７－２－④－７）。キャリア教育は毎年確実に行われ，機能している。就職・進学指導は，実績から，十分に機能していることが判る（資料７－２－④－８）。

専攻科については，出身学科の学科長が就職指導を，指導教員が進学指導を行うこととしている（資料７－２－④－９）。専攻科の就職・進学実績から，専攻科の進路指導体制も機能していることが判る（資料７－２－④－10）。

その他，準学士課程及び専攻科に共通した就職指導体制として，企業説明会の実施，就職指導教員による企業訪問，インターンシップなどが毎年実施されている（資料７－２－④－11～14）。

資料７－２－④－１

「進路指導委員会規程」　（抜粋）

第１条　釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）に進路指導委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（目的）

第２条　委員会は，校長の諮問機関として，本校学生の進路指導について，企画，立案並びに事業の実施について審議する。

（審議事項）

第３条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。

一　学生の就職開拓に関する計画の立案及び就職指導に関すること。

二　進学希望学生への指導計画の策定に関すること。

三　学外実習（インターンシップ）の実施に関すること。

四　その他学生の進路指導に関すること。

（組織）

第４条　委員会は，次に掲げる者で組織する。

一　学科長

二　第四，第五学年学級担任

三　教務主事

四　教務主事補から１名

五　事務部長

六　学生課長

七　その他校長が必要と認めた者若干名

（出典　釧路高専進路指導委員会規程）

資料７－２－④－２

「キャリアサポートセンターの設置に関する資料」　（抜粋）

キャリアサポートセンターの整備について（素案）

平成 23 年 2 月 28 日に開催された進路指導委員会での検討審議を受け、以下のとおり「（仮称）キャリア支援室」の設置・整備を次年度に検討することが決定したことを上申いたします.

1．設置目的

（仮称）キャリア支援室は，本校学生が学んだ専門知識や習得した技術を活かせるように、学生一人ひとりの個性や適性にあった就職・進学の支援を目的とする。

そのために，職業や職種を学生自らが選択できる能力の育成と学習意欲を高め、学生の職業観や勤労観を涵養するとともに、社会的・職業的自立に関する指導体制の整備を行う．さらには、就職活動が円滑となるよう就職ガイダンス，企業説明会などの就職支援活動や求人・進学情報の提供などの充実を目指す.

2．実施内容

以下の企画運営活動を行う.

（1）第 1～4 学年進路指導
（2）インターンシップ
（3）キャリアガイダンス（就職ガイダンス、進学ガイダンス）
（4）企業説明会
（5）その他

3．構成

支援室は，以下に掲げる者で組織する.

1）キャリア支援室長
2）室員　若干名
3）キャリアカウンセラー
4）その他

4．位置付け

進路指導委員会の下部組織として、実施内容に掲げた活動等を行う．また、キャリア支援室長は進路指導委員とし、活動内容を報告するとともに、委員会決定に沿った事業展開を行う.

5．留意事項

（1）低学年進路指導ワーキンググループを発展的に解消する.
（2）設置目的、2．実施内容からキャリア支援室の指導対象は第１学年から第４学年とする．第 5 学年における就職・進学に関する指導については、従前通りの学科が主体となって指導等を行う.

（出典 平成 23 年度５月定例進路指導委員会議事録 資料１－２）

資料７－２－④－３

「キャリア学習に関する年間計画（１～３年生」　(抜粋)

2011 年度　低学年進路学習の予定

学年	時期	題目	内容	備考
１年	9 月 5 日	進路学習が目指すこと	資料とファイル配布、進路学習の予定、今の考え。	
	11 月 14 日	高専の特徴と低学年での進路選択	工学系専門学校の特徴、留年、進路変更。	
	1 月 23 日 1 月 30 日	職業調べに向けて	過去の求人情報をみる。疑問や感想を書く。	3 クラス 2 クラス
２年	6 月 (1 回)	職業調べ 1	職業データベース等を眺め、調べたい職業を決める。	A グループ (DAJ)
	6 月～7 月 (2 回)	職業調べ 2	インターネットや他の資料により専門に関係した職業を調べる。	A グループ
	9 月 (1 回)	職業調べ 1	職業データベース等を眺め、調べたい職業を決める。	B グループ (ME)
	9 月～11 月 (2 回)	職業調べ 2	インターネットや他の資料により専門に関係した職業を調べる。	B グループ
	11 月 14 日 11 月 28 日	職業調べ 3 とまとめ 21 日 2 年特別講演	調べた内容を発表用にまとめる。	担任が時期判断
	1 月	職業調べ発表	まとめた内容を発表。	担任が時期判断
３年	5 月 16 日	大学等編入学について 1	大学に行くメリット・デメリット。	
	5 月 23 日	大学等編入学について 2	金銭的負担、編入方法。	
	6 月～7 月	夏休み前指導	進路希望調査、成績不振学生との面談など。	
	11 月 7 日	雇用をめぐる現状 1	請負、派遣など雇用の現状の一端を知る。	
	11 月 14 日	雇用をめぐる現状 2	成果主義賃金など雇用の現状の一端を知る。	
3(+4)年	11 月～2 月	職業ガイダンス	(卒業生ほかに)仕事現場の実状を聞く(10 人くらい)。	

(出典 平成 23 年度５月定例進路指導委員会議事録 資料４－１)

資料７－２－④－４

「キャリア学習に関する年間計画（４年生」　（抜粋）

４年進路指導プログラム（案）

１．目的

(1) ３年までの進路学習を踏まえ、自分の進路をより具体化していく。

(2) (1)を反映した技術的訓練（エントリーシート、面接）をする。

(3) 進路に対する意識を高める。

２．内容

(1) マイナビによる2回の講演（各回60～90分、４年・専攻科１年対象）

(2) その内容を踏まえたフォローアップ活動

	活動	タイトル	日時	内容	備考
第1期	事前	自己分析:なぜ必要か、何が必要か？	7/1～6	エントリーシートや面接例を見る	7/7，60分なら事前登録をする
	マイナビ講演	就職活動の心構えと夏休みに出来ること	7/7(木)13:00～14:30(5,6時間目)事前登録しておけば60	就職活動スケジュール、就職情報サイト、最近の状況、夏休みにできること(例:自己分析、企業研究、筆記対策)	5･6時間目の授業を8･9時間目に移動
	事後	マイナビSPI模試	7/12～18？		15～18高専大会
	事後	自己分析シートを作る	7/19～29		22午前授業
第2期	筆記対策1	SPI練習	11/7～11		
	マイナビ講演	エントリーシート･面接	11/17(木)	エントリーシートの入手、書き方、企業の評価視点、･業界･企業研究、マナー、筆記試験、	5･6時間目の授業を8･9時間目に移動
	事後	エントリーシート試作	11/21～30		本校履歴書
第3期	筆記対策2	SPI練習	12/13(月)		
		マイナビ全国一斉模擬テスト	12/20～22		1月でも良い
	他	就職活動体験談	1/16～2/3	就職が決まった5年生の体験談を聞く	
	事後	モギメンに挑戦	1/16～2/3		
関連行事		進学ガイダンス(3，4年)	１１月？		
		職業ガイダンス(3，4	１２～１月		
		企業説明会	2/4(土)		

（出典 平成 23 年度５月定例進路指導委員会議事録 資料４－２）

資料７－２－④－５

「低学年でのキャリア教育に関する実績」　（抜粋）

４年進路指導プログラム結果と今後

	活動	タイトル	日時	内容	備考
第1期	事前	自己分析：なぜ必要か、何が必要か？	7/1～6	エントリーシートや面接例を見る	マイナビ事前登録方法、要検討
	マイナビ講演	就職活動の心構えと夏休みに出来ること	7/7(木) 13：00～ 14：30(5,6時間目）事前登録しておけば60分	就職活動スケジュール、就職情報サイト、最近の状況、夏休みにできること (例：自己分析、企業研究、筆記対策)	・参加200名くらい ・PW配布方法、次年度検討 ・夏休みに向けた具体的話も
	事後	マイナビSPI模試	7/12～18？		全クラス実施、結果は・・・
	事後	自己分析シートを作る	7/19～29		意外としっかり書く学生がいた

＊全体を通じて
・留年生の問題：昨年やったからやらない・・・勉学と同じ

第2期	筆記対策1	SPI練習	11/7～11		
	マイナビ講演	エントリーシート・面接	11/17(木)	エントリーシートの入手、書き方、企業の評価視点、・業界・企業研究、マナー、筆記試験、面接	5・6時間目の授業を8・9時間目に移動
	事後	エントリーシート試作	11/21～30		本校履歴書

第3期	筆記対策2	SPI練習	12/13(月)		
		マイナビ全国一斉模擬テスト	12/20～22		1月でも良い
	他	就職活動体験談	1/16～2/3	就職が決まった5年生の体験談を聞く	
	事後	モギメンに挑戦	1/16～2/3		

関連行事	進学ガイダンス	11月？		３，４年対象
	職業ガイダンス	12～1月		３，４年対象
	企業説明会	2/4（土）		

＊日程は調整

職業ガイダンス予定

M：1/27(金)	35期 [redacted] 氏　日鋼検査サービス（室蘭市）		35期 [redacted] 氏　牧野フライス（神奈川県厚木市）
E:	[redacted]（北電）		
D:			
J：1/23(月)	第2期卒(H4年3月)株式会社ECナビ札幌ラボ [redacted] 氏		第15期(H17年3月卒)東芝メディカルシステムズ株式会社 [redacted]
A:	[redacted]（長谷川建築設計事務所）		[redacted] 氏　（建築会社）

進学ガイダンス予定

進学体験談　5J [redacted]
5E

専攻科

（出典 平成23年度５月定例進路指導委員会議事録 資料３）

資料７－２－④－６

「５学年での就職・進学指導の担当に関する資料」　（抜粋）

就職業務に関する取り決めについて

最終確認　　平成１４年５月２９日
進路指導委員会

１．企業の学校訪問について
(1) 企業の学校訪問については，関係の各学科主任に案内する。ただし，学科主任が不在の場合は，関係の第５学年の学級担任（以下「学級担任」という。）に案内する。
(2) 学校において，学生に対する企業説明会等は行わせないものとする。

２．求人の受付について
(1) 学科主任あてにきた書類は，当該学科で処理した後に学生課へ回送し，求人受付を行い，学生課は受付後その書類を学科主任へ返送するものとする。
(2) 学校（長）あてにきた書類は，学生課で求人受付を行い，その書類を学科主任へ回送するものとする。
(3) 学生課は求人受付後，求人内容を学生に周知するものとする。

３．企業への推薦について
(1) 企業への推薦書類は，学科主任が，学生からの必要書類を取りまとめ，就職（受験等）希望者票を添えて学生係へ提出するものとする。
(2) 学生課は上記(1)で提出された書類に，学校として提出すべき推薦関係書類を添付し，学校単位で企業へ推薦するものとする。
なお，郵送の場合は，簡易書留・速達郵便とする。

※参　考
学科主任は，次のことについて配慮するものとする。
(1) 企業に対し，就職試験日の通知を，乗車券等の購入から，少なくとも試験日の１週間前に到着するようにしてもらうこと。
(2) 合否の連絡は，学校（学科主任又は学生課）に対しすみやかに行ってもらうこと。
(3) 学生が就職試験のため，宿泊を希望する場合は，企業に対し依頼すること。

8.5　受験企業の決め方

本校では学科長が、就職を担当します。皆さんは学科長と相談して受験する企業を決定します。受験企業が決定すると学科長が推薦状を書きます。これにより、企業から内定が通知されたら必ず就職するという暗黙の約束を交わしたことになります。
推薦状があると入社試験に行くための旅費や宿泊費が、企業から支給されることが一般的です。このためも、高専では学生に複数の企業を一度に受験させることは認めていませんので注意してください。

（出典 平成 18 年度４月定例進路指導委員会議事録 資料４，平成 23 年度進路の手引き）

資料７－２－④－７

「進路の手引き（目次）」　（抜粋）

目　次

１　10 年後を想像してみよう　1
２　高専と大学の比較　2
2.1　高専の利点　2
2.2　高専の欠点　4
2.3　高専という制度　5
３　10 年後の自分を決める　6
４　持つべき職業観　7
4.1　生計の維持手段としての職業の機能　7
4.2　個性の発揮の場としての職業の機能　8
4.3　連帯の実現の場としての職業の機能　9
５　卒業後に所属する組織を決定することの意義　10
5.1　新卒時に職場で経験すること　11
5.2　ビジネスマナー研修　11
5.3　自己啓発講座　12
5.4　専門別研修　12
６　10 年後理想の自分を目指して　14
6.1　体験しておくべき経験　14
6.2　資格の取得　15
７　進学に向けて　16
7.1　大学編入　16
7.2　専攻科への進学　18
８　就職に向けて　19
8.1　成績対策　19
8.2　面接対策　20
8.3　適性検査対策　20
8.4　健康　21
8.5　受験企業の決め方　22
8.6　公務員を目指して　23
９　４年生のうちにやっておくべき準備　24
9.1　試験対策　26
9.2　自分を知ってもらう　27
9.3　提出書類　28
9.4　自己紹介書の各欄の記入のポイント　29
10　Ｑ＆Ａ　30

（出典 進路指導委員会資料）

資料７－２－④－８

「本科の就職・進学の実績一覧」　（抜粋）

平成 23 年度卒業生(本科)就職先一覧

機械工学科(第 43 期)
（株）Mテック/（株）大塚製薬工場/（株）キッツ/キヤノンファインテック（株）/釧路ガス（株）/コマツ道東（株）/シチズン夕張（株）/スガノ農機（株）/太平工業（株）/東芝エレベータ（株）/東レ（株）/十勝葉山電器（株）/日本原燃（株）/パナソニック環境エンジニアリング（株）/（株）ヒロエンジニアリング/北海道エア・ウォータ・エンジニアリング（株）/北海道旅客鉄道（株）/本田技研工業（株）/リコーシステムズ（株）

電気工学科(第 43 期)
（株）ＮＴＴ?ＭＥ/王子特殊紙（株）/鹿島クレス（株）/京セラ（株）北海道北見工場/東光薬品工業（株）釧路工場/（株）東芝/ドコモエンジニアリング北海道/日本原子力発電（株）/日本電設工業（株）/富士電機ホールディングス（株）/北海電気工事（株）/北海道エアウォータ（株）/北海道電力（株）(4 名)/ 北海道糖業（株）/三菱ビルテクノサービス（株）/（株）ヤクルト/（株）リコー

電子工学科(第 38 期)
岩通ソフトシステム（株）/（株）ＮＴＴ?ＭＥ/キヤノン（株）/（株）きんでん/東芝エレベータ（株）/十勝葉山電器（株）/日本自動ドア（株）/（株）日立アプライアンス/（株）日立エンジニアリング･アンド･サービス/（株）日立国際電気サービス/日立ビアメカニクス（株）/北海道電力（株）(4 名)/北海道旅客鉄道（株）/明治乳業（株）十勝工場/ユニチカ（株）

情報工学科(第 22 期)
（株）ＥＣナビ/（株）ＮＨＫメディアテクノロジー/（株）ＮＴＴ?ＭＥ/（株）エム・ソフト/帯広市役所/サンメイクジャパン（株）/サンワテスコム（株）/セイコーエプソン（株）/（株）ダイナックス/（株）椿本チェイン/テコム（株）/東京エレクトロンＦＥ（株）/（株）ＰＦＵ/（株）日立情報制御ソリューションズ/（株）日立製作所/富士通（株）/（株）富士通ミッションクリティカルシステムズ/（株）ポータス/北海道電力（株）

建築学科(第 43 期)
葵建設（株）/旭イノベックス（株）/（株）市川組/（株）ＮＴＴファシリティーズ/釧路市役所/くりえいと創/（株）グリートホーム/（株）構建設計事務所/三機工業（株）/三晃空調（株）/（株）篠原商店/（株）竹中工務店/東亜建設工業（株）/中標津町役場/萩原建設工業（株）/（株）日立ビルシステム/パナソニック環境エンジニアリング（株）/万里設備（株）/廣木建設（株）

平成 23 年度本科卒業生の進学状況

大学等名	機械	電気	電子	情報	建築	計
釧路高専 専攻科	1		10	9	3	23
室蘭工業大学 工学部	1				4	5
千葉大学 工学部					1	1
長岡技術科学大学 工学部	3	2	1	1		7
豊橋技術科学大学 工学部	2	2	1	3	3	11
工学院大学 工学部		1			1	
北見大学	1				1	
秋田大学工学資源部		1				1
電気通信大学電気通信学部		1				1
新潟大学経済学部				1		1
筑波大学情報学群				1		1
北海学園大学工学部					1	1
大分大学　工学部					1	1
計	7	7	14	15	13	56

（出典 Web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?cat_id=35
（本校公式ウェブサイト））

資料７－２－④－９

「専攻科進路指導に関する規定」　（抜粋）

◎進路指導について

学生の進路希望調査は専攻主任、就職希望学生は学科主任、進学希望学生は指導教員が対応するものとする。（H17.1.23）

（出典 専攻科申合せ類集　p.４）

資料７－２－④－10

「専攻科の就職・進学の実績一覧」　（抜粋）

平成 23 年度専攻科修了生進路先一覧

建設・生産システム工学専攻(平成 23 年度/第 7 期)

就職先

植村土建（株）/カルビー（株）千歳工場/釧路市役所(2 名)/ （株）水ｉｎｇ/東洋農機（株）/ＤＯＷＡサーモエンジニアリング（株）/戸田建設（株）/菱中建設（株）/町田市役所/よつ葉乳業（株）

進学先

東北大学大学院/長岡技術科学大学大学院

電子情報システム工学専攻(平成 23 年度/第 7 期)

就職先

旭化成（株）/（株）イクス/ＳＯＣ（株）/ＪＡ清里/セイコーエプソン（株）/（株）電制/デンソーテクノ（株）/（株）トリニティ・ドウ/（株）ニコン/（株）日立エレクトリックシステムズ/日立ビアメカニクス（株）/北海道三井化学（株）/（株）明治　十勝帯広工場 /（株）明電舎/森永乳業（株）別海工場

進学先

九州大学大学院/北海道大学大学院(2 名)/室蘭工業大学大学院

（出典 Web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?cat_id=50
（本校公式ウェブサイト））

資料７－２－④－11

「企業説明会の内容を示す資料」　（抜粋）

◎ ２月　４日（土）

９：００　　学生課職員集合

・来校企業対応、企業資料等搬入、企業アンケート（２種類）配付

１０：００～　学科長は教員室にて待機（企業対応）　１７：００まで

１２：４０　　学生課職員は体育館に参加企業を確認

１２：５０　　学生集合（４年生はHR教室、専攻科生は図書館ホール、３年生は学生課）
・４年担任は出欠確認、学生アンケートを配付
その後、記入シートを持参して体育館へ移動するよう指示

１３：００～　企業説明会開始　　※見張り３名（４年担任・学生課職員でローテーション）

１６：００　　企業説明会終了
・学生アンケート　… 体育館で記入した後、体育館玄関に設置する回収箱に提出
・記入シート　　… 体育館玄関に設置する回収箱に提出
・企業アンケート　… 企業が体育館で記入した後、回収
・企業の資料等荷物 … 企業が体育館で伝票を記入した後、回収

１７：００　　学科長は教員室での待機終了

2月4日(土)参加企業一覧

No.	会社名	対象学科
1	旭化成株式会社	MEDKS
2	旭シンクロテック株式会社	MAK
3	出光エンジニアリング株式会社	MED
4	出光興産株式会社北海道製油所	MEDJA
5	岩通ソフトシステム株式会社	EDJS
6	(株)エスイーシー	MEDJS
7	NECネッツエスアイ・エンジニアリング株式会社	EDJS
8	NHK札幌放送局	MEDJAKS
9	株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー	MEDJKS
10	株式会社NTTファシリティーズ北海道支店	MEDJAKS
11	株式会社NTTデータ	DJS
12	株式会社エム・ソフト	MEDJAKS
13	株式会社大塚製薬工場	MEDJAKS
14	(株)大林組　札幌支店	AK
15	株式会社キッツ	MEK
16	京セラ株式会社北海道北見工場	MEDJ
17	佐藤工業株式会社札幌支店	MEAK
18	三機工業株式会社北海道支店	MEAK
19	スガノ農機株式会社	ME
20	セイコーエプソン株式会社	MEDJKS
21	SOC株式会社	MEDJAKS
22	ダイキン工業株式会社	MEDJ
23	株式会社ダイナックス	MEDJ
24	太平工業株式会社	MEDJAKS
25	大和ハウス工業株式会社	MEDJAKS
26	株式会社竹中工務店	AK
27	テコム株式会社	EDJ
28	電源開発株式会社	E
29	株式会社電制	EDJS
30	東京エレクトロンFE株式会社	MEDJS
31	東京ガス株式会社	MEDJA
32	東洋農機株式会社	MK
33	戸田建設株式会社札幌支店	AK
34	株式会社ニコン	MEDJKS
35	日農機製工株式会社	MEDJS
36	日本原子力発電株式会社	MEKS
37	(株)日本製鋼所 室蘭製作所	MEDKS
38	株式会社日本デジタル研究所	EDJS
39	日本電設工業株式会社	EDS
40	株式会社PFU	MEDJ
41	株式会社日立エレクトリックシステムズ	MEDS
42	株式会社日立情報制御ソリューションズ	MEDJAKS
43	富士通株式会社	MEDJAKS
44	株式会社富士通ミッションクリティカルシステム	MEDJAKS
45	フジテック株式会社	MEDJAKS
46	富士電機ホールディングズ	MEDJKS
47	株式会社ブロードリーフ	DJS
48	北海道エア・ウォータ・エンジニアリング株式会社	ME
49	北海道電力株式会社	MEDJAKS(変更有り)
50	北海道旅客鉄道株式会社	MEDJA
51	株式会社三越伊勢丹ビルマネジメント	MED
52	三菱ビルテクノサービス	MEDJKS
53	ムラテックC.C.S株式会社	MEDKS
54	株式会社ウチダシステムソリューション	MEDJAKS
55	北都システム	EDJS
56	ユニチカ	MEDJKS
57	東芝エレベータ	MED
58	サントリープロダクツ(ホールディングス)	MEDKS
59	コニカミノルタ	MEDJS
60	NHKアイテック	EDJ
61	花王　和歌山工場	MEDJ
62	株式会社遠藤鋳造鉄工所	MEAKS
63	三菱電機システムサービス株式会社	EDJ

（出典 平成23年度１月定例進路指導委員会議事録 資料５－１）

資料７－２－④－12

「平成 23 年度 就職指導教員の企業訪問に関する実績」　（抜粋）

氏名	学科	用務	開始	終了	用務地
坂口　直志	電子工学科	日本技能検定協会連合会会長賞の受賞学生の引率と株式会社イクス訪問	2012/02/26	2012/02/28	アルカディア市ヶ谷(私学会館)，株式会社イクス（27日）
坂口　直志	電子工学科	就職対応のための企業訪問(栗原工業株式会社)	2012/03/11	2012/03/12	大阪市　栗原工業株式会社
坂口　直志	電子工学科	就職対策のための企業訪問	2012/03/28	2012/03/29	東京（富士通、日立製作所他）
大貫　和永	情報工学科	道内四高専連携協力協定事業「道内四高専企業説明会」参加	2012/03/16	2012/03/18	札幌コンベンションセンター（札幌市白石区東札幌6条1-1）

（出典 学生佳作制資料）

資料７－２－④－13

「インターンシップの内容を示す資料」　（抜粋）

インターンシップ手続き等の主な流れ

【 事前手続き 】

３月下旬　：学校は企業等に受入のお願い

↓

４月上旬　：企業等から受入諾否の回答を得る（「学外実習受入調書」によりＦＡＸで回答）

↓

５月～６月：学校は学生の希望を調査し、派遣先企業等（実習機関）を選定

↓

６月下旬～：学生は学校を通して、実習機関に「学外実習履歴書」・「誓約書」を提出
学生は、「インターンシップ活動賠償責任保険」に加入
学校は、学生に対してガイダンス等の事前指導を実施

↓

【 夏季休業期間 】　７月３０日（土）～８月２８日（日）
※夏季休業期間の前後も一部可
①企業側の都合により、夏期休業期間中の実施できない者
②受入先企業の職種を就職先として検討している者
③特別欠席扱いとするが、学級担任が授業を欠席しても支障がないと認めた者

インターンシップ実施
・学生は、毎日の実習レポート（日誌）を作成（※ 実習指導者の確認印を得る）
・学生は、学外実習証明書を持参し、企業の担当者に依頼する
・クラス担任がインターンシップ実施機関を数社訪問し、学生の実施状況を確認する

↓

【 事後手続き 】

終了後～　：実習機関は学校に「学外実習証明書」を提出
（郵送。ただし学生に持参させる場合は、厳封したもの）

↓

９月下旬　：学生は学校に「学外実習報告書」を提出

↓

１０月下旬～：学校は学外実習報告会を実施し、成績評価及び単位認定を行う。

（出典 平成 23 年度５月定例進路指導委員会議事録 資料６－１）

資料７－２－④－14

「インターンシップの実績」　（抜粋）

平成２３年度　インターンシップ実施一覧

資料　3
進路指導委員会
H24. 3. 9

	実習機関名	実習期間	実習日数	派遣人数		備考
1	(株)アトリエブンク	8/1～8/12	10	A2	3	
		8/22～8/26	5	A1		
2	(株)今井設計	8/17～8/26	9	A1	1	78時間
3	恵庭市役所	8/15～8/26	10	A1	1	
4	(株)NTT東日本-北海道　釧路支店	8/22～8/26	5	M4, E2, J3	9	
5	(株)榎本機械製作所	8/17～8/26	9	M1	1	63時間
6	(株)エフエムくしろ	8/9～8/19	10	M4, E1, D1, 5A1	7	
7	王子製紙(株)釧路工場	8/22～8/26	5	M1	1	
8	(株)大阪ガス	7/20～7/28	7	D1	1	40時間
9	太田電気(株)	8/18～8/26	8	E1	1	64時間
10	オムロン(株)	8/21～8/26	6	D1	1	42時間
11	カーショップ滝口	8/17～8/26	9	M1	1	72時間
12	(有)木下モーター商会	8/1～8/12	11	M1	1	83時間
13	キヤノン(株)	8/22～8/26	5	M1, E1	2	
14	(株)共成建設	8/1～8/12	10	A1	1	
15	釧路市こども遊学館	7/30～8/10	10	M3, E3, J3, A1	10	
		8/11～8/21	10	E3, D5, A2	10	
16	釧路信用金庫	8/1～8/5	5	D2	2	
17	(株)釧路製作所　本社工場	8/17～8/30	10	M2	2	
18	釧路トヨタ自動車(株)帯広店	8/1～8/17	10	M1	1	
19	一級建築士事務所　くりえいと創	8/10～8/26	10	A2	2	
20	(株)クワザワ工業	8/8～8/19	8	A1	1	64時間
21	コニカミノルタビジネスソリューションズ（株）	8/22～8/26	5	D1	1	
22	(株)斉藤譲一設計事務所	8/10～8/25	10	A1	1	
23	(有)榊鉄工所	8/3～8/13	10	M1	1	
24	JFEスチール(株)東日本製鉄所	8/1～8/12	10	M1, E1	2	
25	(株)　ＪＰハイテック	8/22～8/26	5	D1	1	
26	知床羅臼町観光協会	8/8～8/19	10	J1	1	
27	(株)　セイコーエプソン	8/1～8/12	10	D1	1	
28	(株)高橋商会	8/1～8/5	5	M1, J1	1	
29	(株)武田建築設計事務所	8/11～8/26	10	A1	1	
30	NPO法人地域生活支援ネットワークサロンまじくる	8/3～8/13	10	M1, J1, A1	3	
31	チームラボ（株）	8/1～8/20	10	A3	3	
32		7/31～8/11	10	J2	2	
33	東芝テクノネットワーク(株)	8/2～8/11	8	E1	1	64時間
		8/17～8/19, 8/22～8/26	10	D1	1	80時間 ※但し1単位
	ビクターサービスエンジニアリング（株）	8/15～8/16, 8/20, 8/24, 8/27				
34	東洋農機(株)	8/22～8/26	5	M7	7	
35	道立足寄少年自然の家（ネイパル足寄）	8/3～8/12	10	D1	1	
36	苫小牧市役所	8/1～8/5	5	A1	1	
37	浜冠町役場	8/1～8/12	10	A1	1	
38	ニッテツ室蘭エンジニアリング(株)	8/1～8/9	7	A1	1	64.5時間
39	日本放送協会　釧路放送局	8/1～8/5	5	E2, D2	4	
40	函館市役所	8/8～8/19	10	A1	1	
41	浜中町農業協同組合	8/1～8/11	10	J1	1	
42	(有)東藤琴車輌センター	8/3～8/11	8	M1	1	62時間
43	廣木建設(株)	8/8～8/12	5	A1	1	
44	(株)ポークス	8/1～8/12	10	J1	1	
45	(株)北竜畜産	8/4～8/14	10	M1	1	
46	北海道エア・ウォーター・エンジニアリング(株)	8/22～8/26	5	E2	2	
47	北海道大学	8/1～8/11	10	M1	1	
		8/1～8/9, 8/18～8/19	10	A1	1	
48	北海道電力(株)釧路支店	8/1～8/5	5	E2	2	
49	(株)ホテル知床	8/1～8/10	10	M1	1	
50	(株)牧野組	8/8～8/22	10	A1	1	
51	丸彦渡辺建設（株）釧路支店	8/1～8/5	5	A1	1	
52	三菱地所コミュニティ(株)	7/25～8/5	10	A1	1	
53	三菱重工環境・化学エンジニアリング(株)	8/22～9/2	10	D1	1	
54	(株)明電舎	8/1～8/12	10	E1	1	
55	メタウォーター(株)	7/25～8/5	10	E1, A1	2	
56	(有)山本ハウス	8/1～8/8	5	D1	1	
57	ヤンマー舶用システム(株)	8/22～8/26	5	M1	1	
58	(有)羅臼電工社	8/17～8/27	10	A1	1	
59	ランチショップ　あむあむ	8/1～8/12	10	J1	1	
60	渡辺電気(株)	8/1～8/12	10	E1	1	
61	(有)ワクミファーム瀬棚農場	8/1～8/10	8	M1	1	64時間

企業数　61機関　　M36名　E22名　D18名　J14名　A30名（5A 1名含む）　　合計　120 名

	実習機関名	実習期間	実習日数	派遣人数		備考
1	(株)アクティス	8/15～8/26	10	S2	2	
2	(株)エフエムくしろ	8/9～8/19	10	S3	3	
3	釧路市こども遊学館	8/1～8/12	10	K1, S1	2	
4	(株)　釧路綜合設計事務所	8/10～8/25	10	K1	1	
5	（財）釧路根室圏産業技術振興センター	8/1～8/12	10	K1	1	70時間
6	タカオ工業(株)	8/1～8/11	10	K1	1	
7	NPO法人地域生活支援ネットワークサロンまじくる	8/1～8/20	10	K2, S2	4	
8	(株)　つうけんアドバンスシステムズ	10/17～10/28	10	S1	1	
9	東京工業大学	8/1～8/12	12	S1	1	96時間
10	東芝システムテクノロジー(株)	9/1～9/14	14	S1	1	70時間
11	(株)長谷川建築設計事務所	8/10～8/25	10	K1	1	70時間
12	(株)　日立情報制御ソリューションズ	8/25～9/7	14	S1	1	80時間
13	富士電機(株)	8/16～8/26	10	S1	1	72時間
14	北海道大学	8/16～8/25	10	S1	1	
15	北海道庁	8/1～8/12	10	K1	1	
16	三菱地所コミュニティ(株)	7/25～8/5	10	K1	1	

企業数　16機関　　K9名　S14名　　合計　23 名

（出典 平成 23 年度３月定例進路指導委員会議事録 資料３）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程の進路指導は，進路指導委員会が中心となって行っている。平成23年度より進路指導委員会の下にキャリアサポートセンターが設置され，低学年におけるキャリア教育を指導する体制となっている。キャリア教育は毎年確実に行われ，機能している。就職・進学指導は，実績から，十分に機能している。

専攻科については，出身学科の学科長が就職指導を，指導教員が進学指導を行うこととしている。専攻科の就職・進学実績から，専攻科の進路指導体制も機能している。

これらのことから，就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され，機能している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校では教員室前にユーティリティスペースがあり，机と椅子が置かれ，学生の自主的学習や各種資料提供に利用している。

本校は「学生支援コーディネーター」を置き，保健室，学生相談室と連携し，年間を通じて担任と連携しながら特別な支援を要する学生のケアを行っている。

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準７の自己評価の概要

年度当初の約１週間は特別時間割を組んでおり，準学士課程への新入生，専攻科課程の新入生および第２学年に対して，年度当初にガイダンスを実施し，本校における学修上の注意等について説明している。

学生の自主学習に対する相談・助言体制として，時間割上で統一してオフィスアワーを定めている。教員室前のユーティリティスペースにテーブルと椅子が置かれており，学生はいつでも教員室を訪ねて質問・相談し，教員室前で自主的に学習する環境を整えている。

福利厚生施設として鶴峰会館があり，学生食堂，売店，合宿用の宿泊設備を用意している。また，部室として課外活動に利用されている。

外国留学に関しては，平成23年度にフィンランドのトゥルク応用科学大学（TUAS）との包括協定を締結し，昨年度は専攻科の学生３名を１か月間の短期留学に派遣した。今年度は３名の専攻科生を３か月派遣することが決定している。

留学生については，担任が留学生指導教員となるとともに，チュータを置いて支援している。留学生特別時間割を作成し，個々の留学生に応じた教育を行っている。４年次編入学生については，特に高校との学習内容が異なる数学について教育課程を組み替え，卒業までに必要な数学力を育成できるよう工夫している。

障害のある学生への支援として，本校は学生支援コーディネーターを置いている。学生支援コーディネーターは保健室，学生相談室と連携し，特別な支援を要する学生についての情報を取りまとめ，全教員の間で情報共有を図っている。心身の健康についての相談体制として保健室および学生相談室がある。外部カウンセラーも配置し，相談室カレンダーで予定が把握できるように配慮している。

部（および同好会）活動，学生会活動等の課外活動に対する支援は学生委員会が中心となって行っている。

自宅からの通学が困難な学生のために学生寮（鶴翔寮）が運営されている。鶴翔寮の「生活のしおり」には教育寮であることが明記され，日課表を示して規則正しい生活を求めている。

準学士課程の進路指導は，進路指導委員会が中心となって行っている。平成23年度より進路指導委員会の下にキャリアサポートセンターが設置され，低学年におけるキャリア教育を指導する体制となっている。専攻科については，出身学科の学科長が就職指導を，指導教員が進学指導を行うこととしている。

基準８　施設・設備

（１）観点ごとの分析

観点８－１－①：　学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され，適切な安全管理の下に有効に活用されているか。また，施設・設備のバリアフリー化や環境面への配慮がなされているか。

（観点に係る状況）

本校の外観写真，配置図，施設概況及び平面図（資料８－１－①－１～４）を示す。建物としては，１～４号棟（管理棟を含む），図書館，実習工場，体育館，武道場の他，地域共同テクノセンターがあり，屋外運動施設として，陸上競技場（サッカーコートを含む），野球場，テニスコート，アイスホッケーリンク，洋弓場がある。校地面積と校舎面積は高等専門学校設置基準の10,400㎡と13,058㎡以上に対して，本校は，59,310㎡と17,475㎡といずれも満たしている。本校校舎はバリアフリー化を推進しており，車椅子利用者に対してはスロープ設置，エレベータ利用により上下階すべての場所へのアクセスが可能である（資料８－１－①－５）。

すべてのホームルーム教室にはＡＶ機器及び情報コンセント（無線ＬＡＮを含む）を備え，授業方法改善に役立てている（資料８－１－①－６）。混合クラスなどにより受講人数がクラス単位から変わる場合には，選択教室，大講義室，小ゼミ室を活用している。さらに，創造ラボ（Ａ～Ｅ）を備え，１学年の「ものづくり基礎」などに活用している（資料８－１－①－７）。

専門学科実験室・研究室は，それぞれ学生実験，本科卒業研究，専攻科特別研究に利用し，必要な実験研究機材を備えている。各実験室の設備については，各種予算申請及び校内の競争的資金により，学科ごとに改善努力をしており，十分な設備が備えられている。

共同利用施設として，２号棟にプログラミング演習室（第１），４号棟にプログラミング演習室（第２）と語学演習室，専攻科棟に計算機演習室がある。情報処理センターの管理によるプログラミング演習室（第１，第２）は合わせて100台のパソコンが設置され，プリンタ等とともにネットワーク接続され，コンピュータ教育を行うのに十分な環境を整えている（資料８－１－①－８）。専攻科の計算機演習室も情報処理センターが管理しており，45台のPCが設置され，プリンタ等とともにネットワーク接続され，コンピュータ教育を行うのに十分な環境を整えている。語学演習室は実践的な英語教育を行う施設として設置され，授業の他にも放課後に開放されている（資料８－１－①－９）。プログラミング演習室（第１，第２）の授業における利用状況を資料８－１－①－10に示す。これらの演習室は放課後の自由利用に提供し，17:00までは自由利用，これ以降は教員等の監督下での利用としている（資料８－１－①－11）。専攻科の計算機演習室はカードキーシステムを用いており，専攻科生は授業以外の時間は自由に利用できる。

図書館の概要を資料８－１－①－12に示す。図書館は専門書，一般書，視聴覚教材を含め，98,000冊を超える蔵書がある。図書館には，パソコン７台を設置し，蔵書検索，就職情報検索などに供している。また，閲覧だけではなく，談話ホールは学生の歓談・自学自習に利用され，ホールの一角には全国紙，地方紙及び英字の新聞閲覧コーナーを設けている。また図書館２階には大ゼミナール室，和室等の施設を持ち，教育指導に利用されている。

実習工場（資料８－１－①－13）は旋盤，フライス盤，ＮＣ旋盤等を備え（資料８－１－①－14），主として機械工学科の工作実習・学生実験，ものづくり基礎等で利用されている。実習工場の利用において，安全管理は特に重要であり，資料８－１－①－13にある「安全の誓い」，資料８－１－①－15に示す実習工場利用における注意事項を利用者に徹底し，事故防止に努めている。実習工場の授業

における利用状況を（資料８－１－①－16）に示す。実習工場は学生の時間外利用，教職員の教育研究のための部品作製などでも利用している（資料８－１－①－17）。

地域共同テクノセンターは４研究室と１研修室により構成され，高度な試験研究を行うための実験装置を備えている（資料８－１－①－18）。テクノセンターは公開講座等でも使用されており，地域貢献が主目的であるため，教育での利用はそれほど多くないが，専攻科設置後は専攻科生の特別研究としてより高度な研究を行っている。

本校の施設全般について管理運営するために施設整備委員会が設置されている（資料８－１－①－19）。施設整備委員会では，本校のキャンパスマスタープランの策定（資料８－１－①－20），営繕計画，施設の利用方法等，本校の施設全般について審議している（資料８－１－①－21）。環境に対する配慮として，本校は寒冷地にあり，重油の使用量が非常に多く二酸化炭素排出量が多い。このため，構内基幹ボイラーをＡ重油ボイラーからガスボイラーに切り替えることにより，二酸化炭素排出量の削減を目指している（資料８－１－①－22～24）。

また，本校の安全管理のために安全衛生委員会を設置している（資料８－１－①－25）。安全衛生委員会では，委員会による巡視，産業医による巡視を月例で行い，安全管理に努めている（資料８－１－①－26）。

資料８－１－①－１

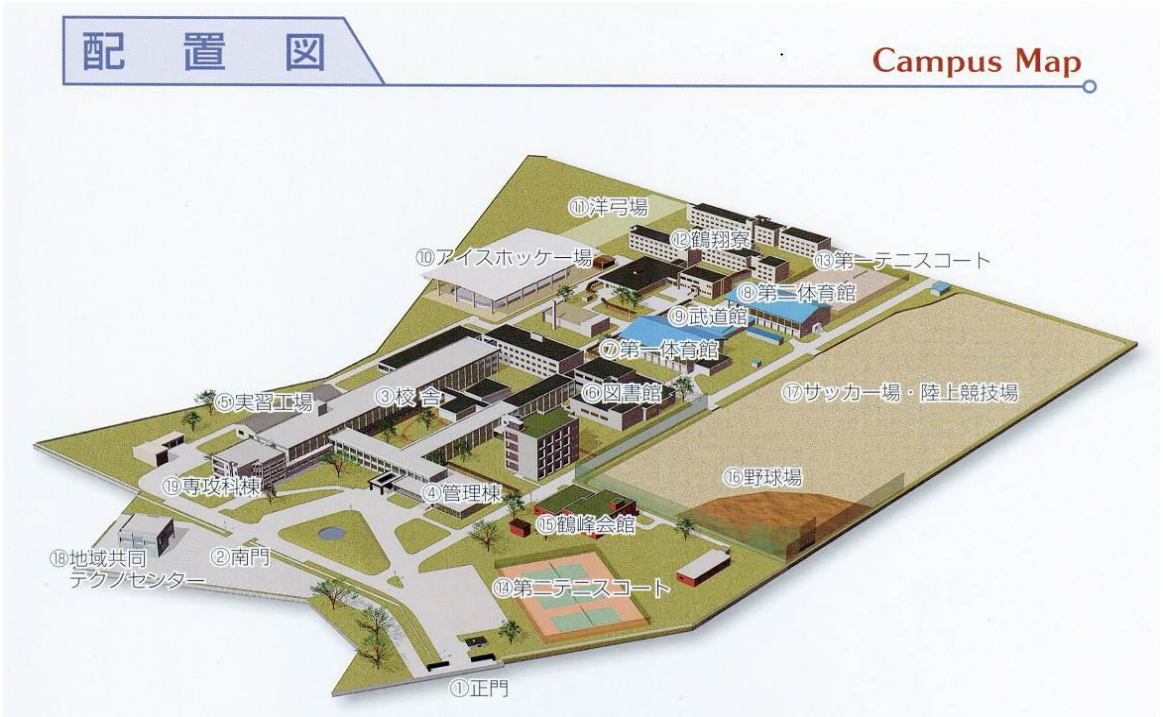
「釧路高専外観写真」



（出典　平成24年度学校要覧　巻頭裏表紙）

資料８－１－①－２

「配置図」



（出典　平成 24 年度学校要覧　p. 50）

資料８－１－①－３

「施設概況」

施設概況 Facilities

■土　地 Lands

平成24年５月１日現在 (As of May 1, 2012)

区　分 Classification	面　積 Area
校舎敷地 Building Site	59,310㎡
寄宿舎敷地 Dormitory Site	11,084
屋外運動場 Grounds	48,571
野球場 Baseball Ground	9,729
陸上競技場 Track and Field Ground	18,201
第一テニスコート Tennis Court 1	2,732
第二テニスコート Tennis Court 2	2,281
アイスホッケーリンク Ice Hockey Rink	2,730
洋弓場 Archery Ground	2,944
その他 Others	9,954
計 Total	118,965

■建　物 Buildings

平成24年５月１日現在 (As of May 1, 2012)

区　分 Classification	構　造 Structure	面　積 Area
校　舎 School Buildings	ＲＣ４	17,475㎡
図書館 Library	ＲＣ２	1,599
実習工場 Factory	Ｓ　１	624
ボイラー室 Boiler Room	ＲＣ１	337
第一体育館 Gymnasium 1	Ｓ　１	996
第二体育館 Gymnasium 2	Ｓ　１	880
武道場 Judo-Kendo Gymnasium	Ｓ　１	214
鶴峰会館（福利施設） Kakuho Kaikan (Welfare Facilities)	ＲＣ２	1,039
鶴翔寮（寄宿舎） Kakusho-ryo (Dormitory)	ＲＣ３	6,927
地域共同テクノセンター Cooperative Technology Center	ＲＣ２	424
その他建物 Others		770
計 Total		31,285

ＲＣ：鉄筋コンクリート造　Reinforced Concrete
Ｓ：鉄骨造　Steel Frame Work

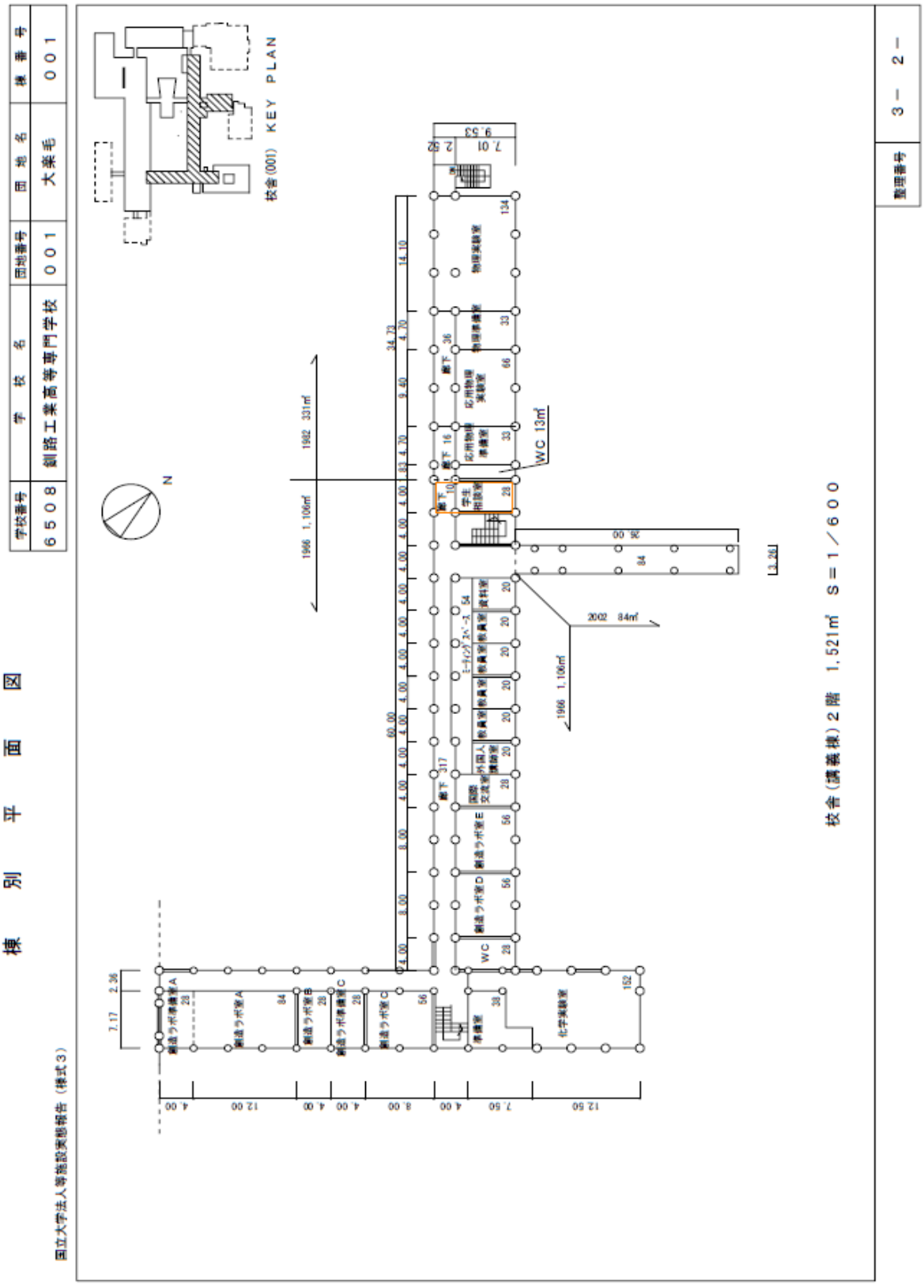
（出典　平成 24 年度学校要覧　p. 48）

資料８－１－①－４

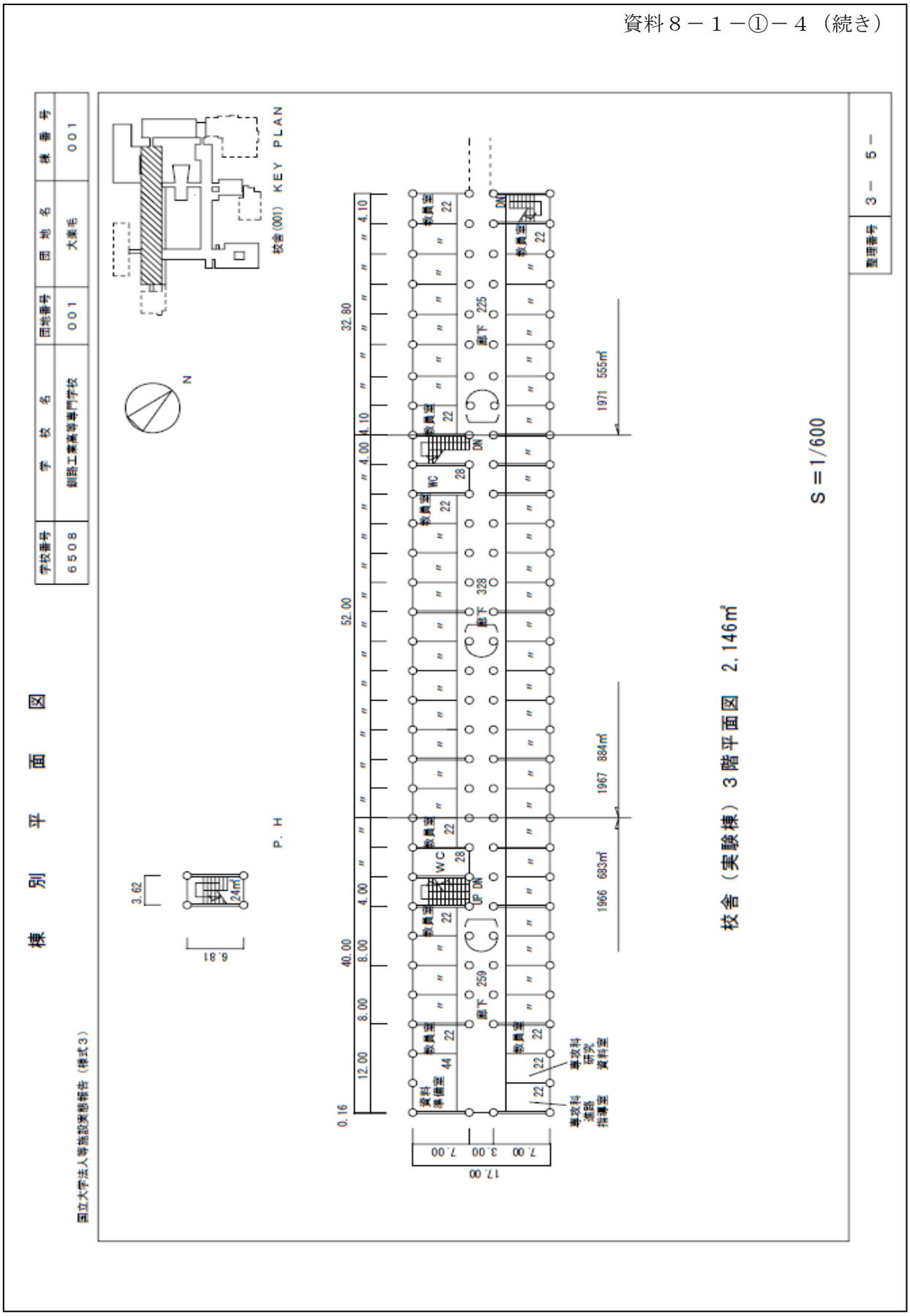
「平面図」


棟別平面図
学校番号 6508
学校名 釧路工業高等専門学校
団地番号 001
団地名 大楽毛
棟番号 001
整理番号 3－1－
校舎(001) KEY PLAN
校舎（講義棟）1階 3,074㎡
S＝1／600
12－2 高等管理部 61㎡
12－6 渡り廊下 14㎡
12－7 設備室 13㎡
12－6 渡り廊下 82㎡
12－2 高等管理部 699㎡
加算面積区分 12－2 76㎡
加算面積区分 12－6 96㎡
加算面積区分 12－7 13㎡
国立大学法人等施設実態報告（様式３）

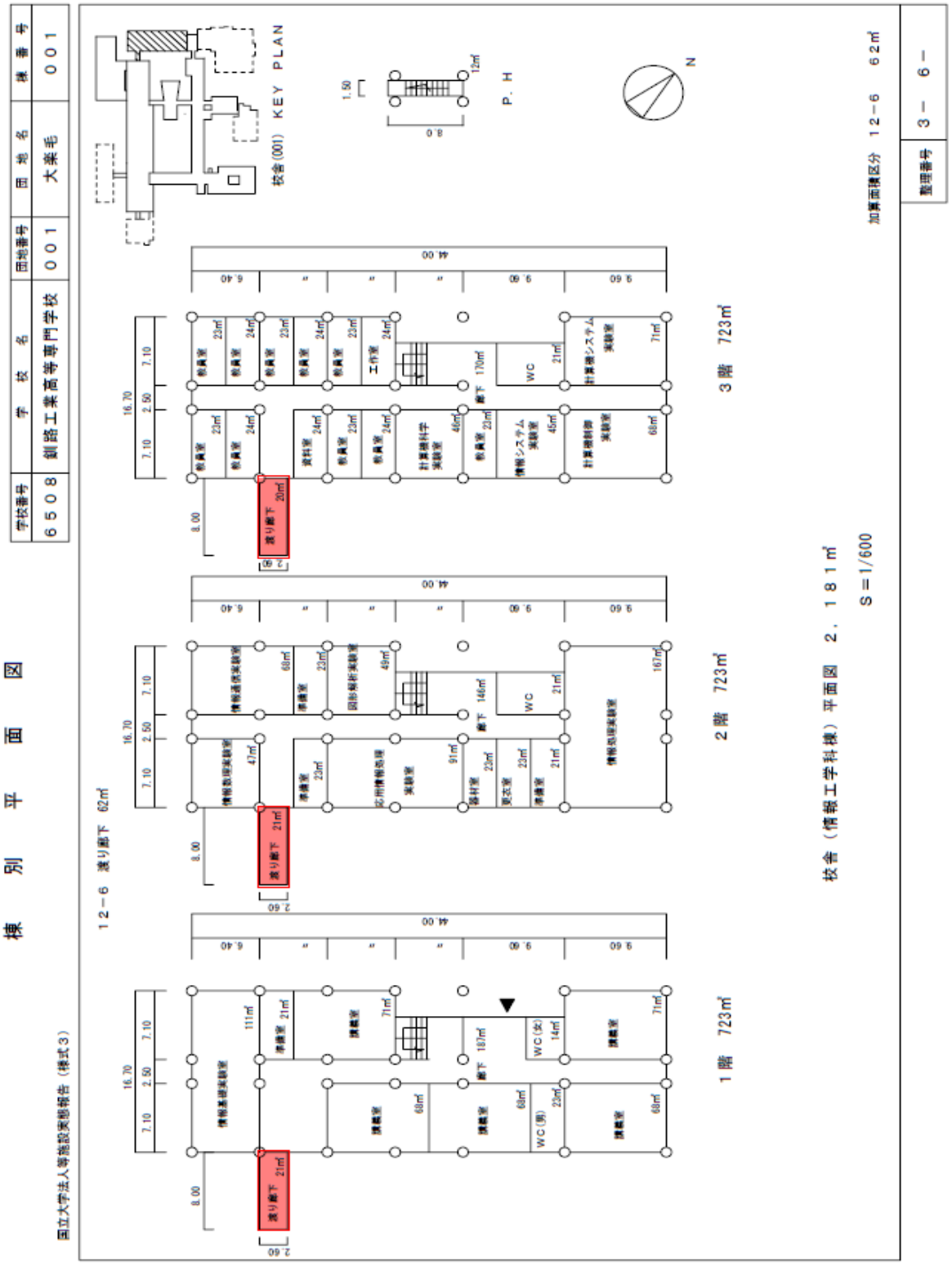
資料８－１－①－４（続き）


棟別平面図
国立大学法人等施設実態報告（様式３）
学校番号 6508
学校名 釧路工業高等専門学校
団地番号 001
団地名 大楽毛
棟番号 001
整理番号 3－2－
校舎(001) KEY PLAN
N
校舎(講義棟) 2階 1,521㎡ S＝1／600
WC 13㎡
1982 331㎡
1966 1,106㎡
2002 84㎡
L3,260

資料８－１－①－４（続き）


棟別平面図
学校番号 6508
学校名 釧路工業高等専門学校
団地番号 001
団地名 大楽毛
棟番号 001
KEY PLAN
校舎(001)
N
P.H
S＝1/600
校舎（実験棟）３階平面図　2,146㎡
1971 555㎡
1967 884㎡
1966 683㎡
教員室
資料準備室
事務科 研究資料室
事務科 進路指導室
廊下
WC
UP DN
DN
24㎡
整理番号 3－5－
国立大学法人等施設実態報告（様式３）

資料８－１－①－４（続き）



（出典　釧路高専教職員向けホームページ　施設関連データ集）

資料８－１－①－５

「バリアフリー対策を示す写真～自動ドア」



自動ドア

学生玄関（正面）



自動ドア

学生玄関（北側）



自動ドア

図書館

資料８－１－①－５（続き）

「バリアフリー対策を示す写真～自動ドア」



自動ドア

専攻科棟



自動ドア

鶴峰会館

資料８－１－①－５（続き）

「バリアフリー対策を示す写真～スロープ」



スロープ

学生玄関（正面）



スロープ

学生玄関（北側）



スロープ

図書館

資料８－１－①－５（続き）

「バリアフリー対策を示す写真～スロープ」



スロープ

専攻科棟



スロープ

鶴峰会館



スロープ

教職員玄関

資料８－１－①－５（続き）

「バリアフリー対策を示す写真～スロープ」



スロープ

体育館



スロープ

体育館渡り廊下

資料８－１－①－５（続き）

「バリアフリー対策を示す写真～身障者用トイレ」



身障者トイレ

校舎2号棟2階



身障者トイレ

校舎3号棟1階



身障者トイレ

校舎4号棟1階

資料８－１－①－５（続き）

「バリアフリー対策を示す写真～エレベータ」



エレベーター

校舎4号棟



エレベーター

専攻科棟

（出典　施設係作成資料）

資料８－１－①－６

「各教室の無線ＬＡＮアクセスポイント設置状況」

情報処理センター　Information Processing Center

本センターは，情報処理教育と卒業研究及び教員研究のための学内共同利用施設です。教育用コンピュータシステムは，３ヵ所の演習室にある150台のパソコンやプリンターと，認証サーバやファイルサーバなどがネットワークで接続され，オフィスソフトや CAD の利用，プログラミングの学習といった授業に活用されています。

構内ネットワークシステムは，10ギガビットの基幹ネットワークを中心に，各端末までギガビットで接続できるように構成されており，高速な通信が可能です。また，構内の要所と各教室に設置した無線 LAN アクセスポイントにより，ネットワークを活用した授業も可能になっています。

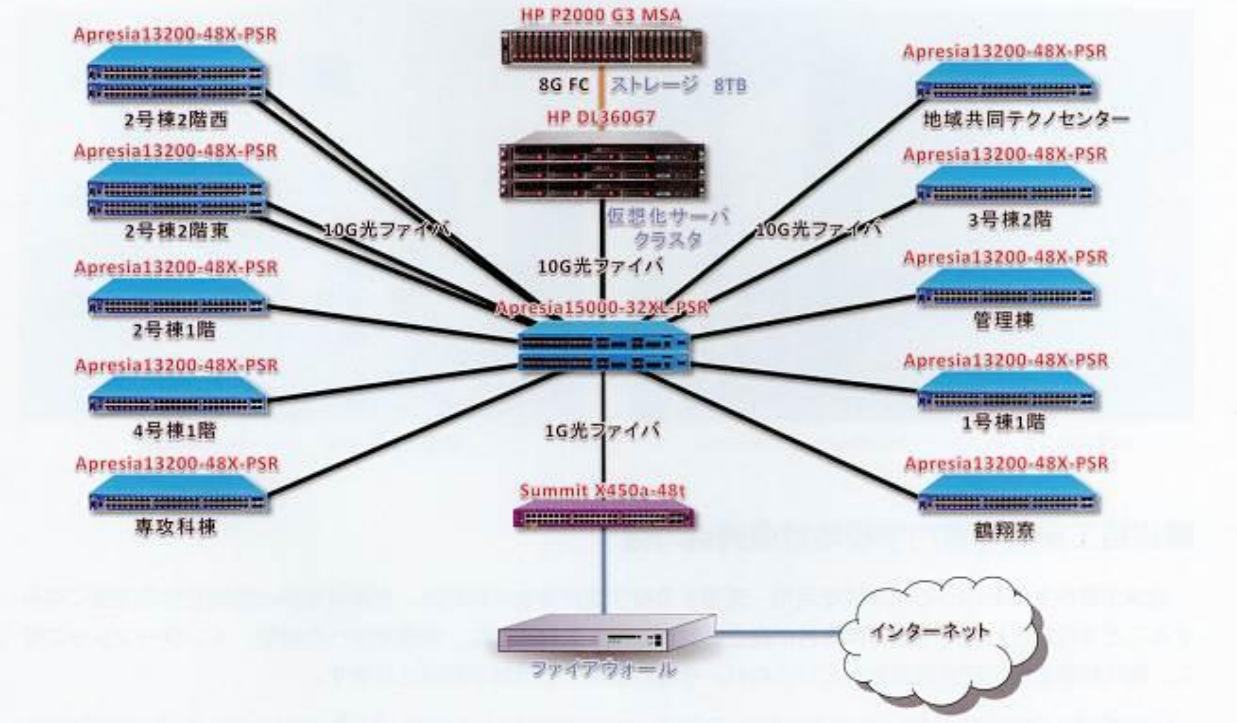
また，学術情報ネットワーク（SINET）に加入し，インターネットを介して世界中の情報にアクセスする環境が整っています。さらに，UPKI や学認といった相互接続の取り組みに参加してネットワーク利用の利便性を向上することで，教育・研究に貢献しています。

The Information Processing Center, which was established as a joint facility, is available for information processing education and academic research. The educational computer system consists of 150 computers and several printers at 3 practice rooms and servers for authenticating and file serving. They are connected with the network system and used with office software, CAD and learning of programming.

High-speed communication is possible for the trunk of the campus network system by building 10 Gigabit network system. Furthermore, wireless LAN can be used in the lecture room and some points in the campus.

By the campus network system, computers connected to the system are reachable to many information in the world through the Internet.

釧路工業高等専門学校　ネットワーク構成図



（出典　平成 24 年度学校要覧　p. 34）

資料８－１－①－７

「前期選択科目等使用教室一覧」

平成24年度　前期選択科目等使用教室一覧

	科　目　名	曜日・時限	使　用　教　室
１年全	ものづくり基礎	（金）３～６	製図室・実習工場 創造ラボ室Ａ 電子工学応用実験室 情報処理実験室 創造ラボ室Ｃ
１・４組	音楽　（高橋久）	（木）５・６	図書館大ゼミナール室
	美術　（加藤直）		創造ラボ室Ａ
２・３組	音楽　（高橋久）	（木）３・４	図書館大ゼミナール室
	美術　（加藤直）		創造ラボ室Ａ
５組	音楽　（高橋久）	（金）１・２	図書館大ゼミナール室
	美術　（加藤直）		創造ラボ室Ａ
２Ｍ	機械工学実習・実験Ⅰ（赤　堀）	（火）２～４	創造ラボ室Ｃ
２Ａ	デザイン工学　（鈴木邦・西澤・新任）	（月）５・６	創造ラボ室Ａ
３年全	英会話　（ブライアン）	（火）７・８	創造ラボ室Ａ
	英語（習熟度別）　（片岡務）	（水）１・２	大講義室
３Ｅ	日本語　（高　井）	（火）３・４	創造ラボ室Ｄ
３Ａ	建築設計演習Ⅱ　（佐藤哲）	（火）１～４	創造ラボ室Ａ
		（木）１・２	
４Ｍ・Ｊ	応用数学　（澤柳）・（佐藤穆）	（火）３・４	選択教室
		（金）１・２	４Ｍ教室
４Ｅ・Ｄ	応用数学　（佐古）・（佐藤穆）	（火）５・６	選択教室
		（金）３・４	４Ｄ教室
４年全	数学Ⅱ　（澤　柳）	（火）７・８	大講義室・選択教室
	英会話　（エリック）		創造ラボ室Ｃ
	数学Ⅲ　（小　谷）	（金）７・８	選択教室
	英語演習　（片岡務・沼田）	（火）　９	語学演習室
		（木）　７	語学演習室
4D･5EDJ	応用情報処理	（火）１・２	４Ｄ教室
5M	機械工学特論	（月）５・６	選択教室
５ＥＤＪ	ソフトコンピューティング　（神谷）	（水）１・２	選択教室
	電気エネルギーシステム工学（小松正）	（水）８・９	大講義室
	人工知能　（天　元）	（木）３・４	選択教室
５年全	応用数学Ⅱ　（澤　柳）	（木）１・２	選択教室
	日本文学Ａ　（舘下徹）	（水）３・４	創造ラボ室Ｅ
	哲学Ａ　（藤　本）	〃	図書館準備室
	歴史と文化ＩＡ　（木　村）	〃	５Ｅ教室
	歴史と文化ⅡＡ　（山　内）	〃	５Ｍ教室
	社会科学入門Ａ　（南須原）	〃	選択教室
	心理学Ａ　（小杉和）	〃	５Ｊ教室
	英語コミュニケーションＡ　（エリック）	〃	創造ラボ室Ａ
	環境学Ａ　（杉　山）	〃	５Ａ教室
	中国文化Ａ　（　田　）	〃	５Ｄ教室

◎　第５学年　英　語

	曜　日　・　時　限	使　用　教　室
Ｍ	（水）・６	５Ｍ教室　・　創造ラボ室Ａ
Ｅ	（火）・５	５Ｅ教室　・　創造ラボ室Ａ
Ｄ	（火）・６	５Ｄ教室　・　創造ラボ室Ａ
Ｊ	（水）・７	５Ｊ教室　・　創造ラボ室Ａ
Ａ	（水）・５	５Ａ教室　・　創造ラボ室Ａ

※　クラスの人数を２分する。

（出典　修学支援係 内部向けホームページ）

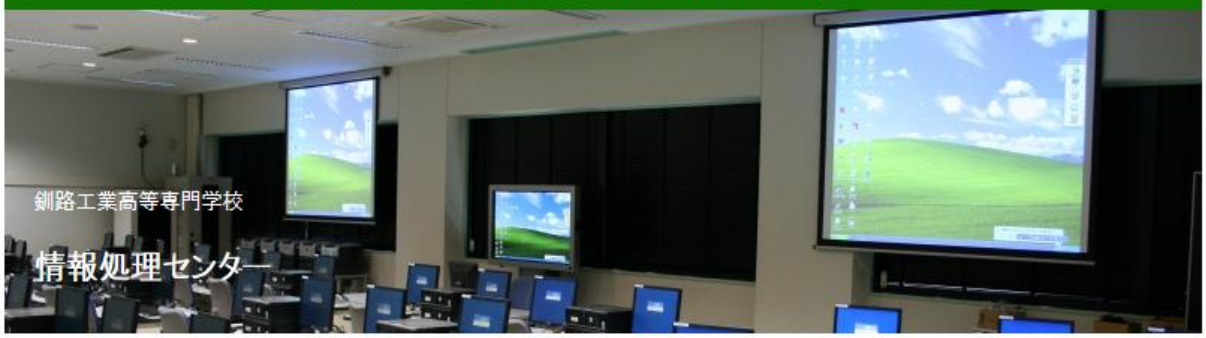
資料８－１－①－８

「情報処理センター　ＴＯＰページ」

釧路工業高等専門学校
Kushiro National College of Technology

Kushiro National College of Technology
Information Processing Center

釧路高専TOP | 機械工学科 | 電気工学科 | 電子工学科 | 情報工学科 | 建築学科 | 専攻科



- 情報処理センターTOP
- サーバー室
- 情報処理センター演習室
- 低学年棟1F第2演習室
- Microsoft包括ライセンス
- パソコンセミナー
- スタッフ一覧
- このサイトについて
- 内部向けサイト

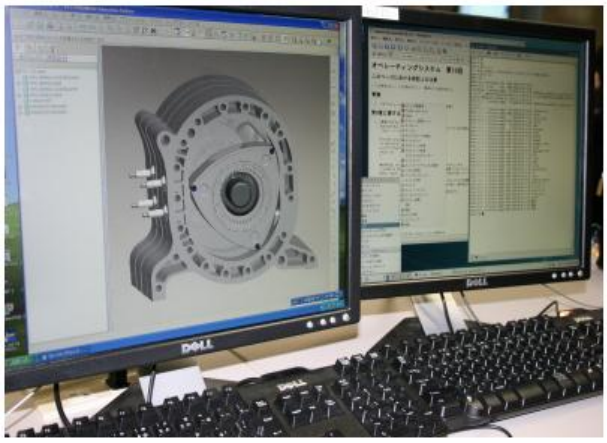
釧路高専　情報処理センター　TOPページ

釧路高専情報処理センターは、釧路高専の情報処理教育、卒業研究及び教員研究のための学内共同利用施設です。教育用コンピューターシステムは、WindowsサーバーとUNIXサーバーに、100台のパソコン、プリンター等がネットワークで接続され、音声・動画処理を利用したマルチメディア教育が可能です。

校内ネットワークシステムは、ギガビット・ネットワークシステムの構築により、高速な通信が可能です。更に、講義室や会議室等では無線LAN及びNetLogin機能が利用可能です。

また、学術情報ネットワーク(SINET)に加入しており、インターネットに接続されている世界中の研究者と電子メール、電子掲示板を利用して技術等の情報を交換し、教育・研究に貢献しています。

本校に興味のある中学生で、どのような授業を行っているか興味のある方は、
・情報処理センター　第1演習室
・低学年棟1F　第2演習室
をご覧ください。授業で使用しているソフト等を紹介しています。



（出典　Web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/IPC/　釧路高専ホームページ）

資料８－１－①－８（続き）

「情報処理センター　第１演習室」



情報処理センター内に設置されてる、第1演習室では、各学科の情報処理教育に対応するため、サバー4台とクライアント50台のパソコンが常設されています。

演習室内の設置機器

・認証サーバー：Mac OS XServer × 3 台（第2演習室と共用）

・ファイルサーバー：Mac OS XSan × 1 台（第2演習室と共用）

・クライアント：DELL OPTIPLEX 755 × 50 台（Windows XP Professional / Linux – Fedora 8 ）

・プリンター：Oki C5900dn × 1 台（カラーレーザー）

・プリンター：Brother HL-5250DN × 5 台

・表示ディスプレイ：Pioneer Plasma Display PDP-503CMX × 1 台（50 インチ）

・プロジェクター：Panasonic PT-F300NT × 2 台

・大判プリンター：Epson MAXART PX-9500S × 1 台（B0/A0/A1 サイズ）

・大型モニターPC：Fijitu FMV DESKPOWER TX90S/D × 1 台

クライアント PC で使用できるソフトウェア(OS：Windows XP Professional)

・Microsoft Office 2010 – Word/Excel/PowerPoint

・Microsoft Office 2007 – Word/Excel/PowerPoint

・Microsoft Office 2003 – Word/Excel/PowerPoint

・Microsoft Visual C++ 2008 Express Edition

・ProENGINNER Ver.4.0/3.0

・FloEFD

・Matlab R2007a

・Intelligent Pad

・GIMP 2

・Jw_CAD for Windows

・Quick Welder

・MPLAB IDE v.7.5.0

・FX-TRN-BEG/DATA/POS

・OpenOffice.org

（出典　Web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/IPC/　釧路高専ホームページ）

資料８－１－①－８（続き）

「低学年棟１Ｆ　第２演習室」



低学年棟1Fに設置されてる、第2演習室では、各学科の情報処理教育に対応するため、クライアント50台のパソコンとプリンター5台などの機器が常設されています。

演習室内の設置機器

・認証サーバー：Mac OS XServer × 3 台（第1演習室と共用）

・ファイルサーバー：Mac OS XSan × 1 台（第1演習室と共用）

・クライアント：DELL OPTIPLEX 755 × 50 台（Windows XP Professional ）

・プリンター：Brother HL-5250DN × 5 台

・表示ディスプレイ：Pioneer Plasma Display PDP-503CMX × 1 台（50 インチ）

・プロジェクター：Panasonic PT-F300NT × 2 台

クライアント PC で使用できるソフトウェア(OS：Windows XP Professional)

・Microsoft Office 2010 – Word/Excel/PowerPoint

・Microsoft Office 2007 – Word/Excel/PowerPoint

・Microsoft Office 2003 – Word/Excel/PowerPoint

・Microsoft Visual C++ 2008 Express Edition

・ProENGINNER Ver.4.0/3.0

・Matlab R2007a

・Intelligent Pad

・GIMP 2

・Jw_CAD for Windows

・MPLAB IDE v.7.5.0

・OpenOffice.org

・Adobe Reader

・Vector Works 12.5

（出典　Web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/IPC/　釧路高専ホームページ）

資料８－１－①－９

「語学演習室の開放に関する掲示物」

語学演習室の開放について

以下の日程で、語学演習室を開放します。「e ラーニングで身につける英語の基礎」の学習に利用してください。時間帯は、いずれの日も、**15:30～16:30（1時間）**。

4月　23日(月)　25日(水)
5月　7日(月)　8日(火)　9日(水)
14日(月)　15日(火)　16日(水)
21日(月)　22日(火)　23日(水)
6月　11日(月)　12日(火)　13日(水)
18日(月)　19日(火)
25日(月)　26日(火)　27日(水)
7月　3日(火)　4日(水)
9日(月)　10日(火)　11日(水)
17日(火)　18日(水)
23日(月)　24日(火)　25日(水)
30日(月)　31日(火)
8月　1日(水)

英語科

（出典　英語科作成資料）

資料８－１－①－10

「情報処理センター利用第１演習室及び第２演習室利用状況」

情報処理センター　第1演習室

月～金　授業時間以外の放課後及び昼休み

	1 8:50 | 9:35	2 9:40 | 10:25	3 10:35 | 11:20	4 11:25 | 12:10	昼	5 13:00 | 13:45	6 13:50 | 14:35	7 14:40 | 15:25	8 15:30 | 16:15	9 16:20 | 17:05
月	授業		授業			授業		放課後解放時間 14:40～17:00		
火	授業		授業		卒業研究　及び　放課後解放時間 12:10～17:00					
水	授業		授業		放課後解放時間 12:10～14:35			授業		解放時間 16:20～17:00
木	解放時間 8:50～10:25		授業		卒業研究　及び　放課後解放時間 12:10～17:00					
金	授業		授業			授業		放課後解放時間 14:40～17:00		

資料８－１－①－10（続き）

校舎4号棟1階　第2演習室

H24 年度の開放時間

月　15:30～17:00
火　12:10～17:00
水　無し
木　12:10～17:00
金　15:30～17:00

	1 8:50 | 9:35	2 9:40 | 10:25	3 10:35 | 11:20	4 11:25 | 12:10	昼	5 13:00 | 13:45	6 13:50 | 14:35	7 14:40 | 15:25	8 15:30 | 16:15	9 16:20 | 17:05
月	授業		授業						放課後解放時間 15:30～17:00	
火	授業		授業		放課後解放時間 12:10～17:00					
水						授業		授業		
木					放課後解放時間 12:10～17:00					
金	授業					授業			放課後解放時間 15:30～17:00	

（出典　情報処理センター　内部向けホームページ）

資料８－１－①－11

「情報処理センター利用登録、教材情報等」



- Top Page
- H24年度利用申請
- パスワードの変更
- ウィルス対策情報
- ネットワーク講習会用
- Webのアクセス制限
- メールについて
- 印刷について
- Microsoft包括ライセン
- DreamSparkについて
- C言語について
- Pro ENGINEER
- 1年生用
- 2年生用
- 5年生用
- 時間割
- 放課後の演習室の開放
- リンク集
- 寮生向け　情報
- 教職員向け　情報

CCLAB1 / EXIA / VIRTUE Domain からのお知らせ

(1)基本的な使い方について

1. 演習室の放課後の利用は自由ですが、他のクラスが授業をしている間は入室禁止。
2. 教官の指示がない限り、授業時間中のインターネットの使用は禁止。
（インターネットの利用ができなくなると大変不便ですので厳守してください。）
3. 授業時間中のメール・ゲームの使用は禁止。
4. 演習室内での飲食は禁止。
5. 落書きは止めましょう。
6. 消しゴムのかす・ホチキスの針は廊下のゴミ箱に捨てましょう。特に、ホチキスの針はカーペットの上に落ちると、踏む可能性があり危険です。必ず、廊下のゴミ箱に捨てましょう。
7. その他、他の人の迷惑になる行為はしないでください。
8. 靴は必ず下駄箱に入れましょう。
9. 演習室にゴミ箱はありません、自分のゴミはすべて持ち帰り、廊下のゴミ箱等に捨ててください。
10. 管理者の許可なしに勝手にソフトウェアやアプリケーションをインストールしてはいけません。

(2)インターネットの利用について

本来はしたくありませんでしたが、授業中に授業の内容とは関係の無いインターネット(外部)へのアクセスが多いため、授業中に許可無くのインターネットを使用した場合は、予告無しで インターネットを使用できないように、そのユーザーに対しアクセス制限をかけます。

アクセス制限をかけたユーザーの一覧

(3)放課後の利用について

● 情報処理センター内 プログラミング演習室（第1演習室）

各クラスの授業終了後～17:00 までの間、開放しています。各学生は自由に使用できます。17:00以降は各授業担当教員の許可がある場合、使用することが出来ます。その場合は、時間外利用申請書を小清水まで提出してください。「授業・就職関係以外の目的で自由に使用したい。」という理由で17:00以降、開放することはできません。

● 校舎4号棟1F プログラミング演習室（第2演習室）

セキュリティーの関係上、放課後であっても学生のみで使用することは出来ません。補習などで使用したい場合は必ず担当教員の付き添いのもと、使用してください。学生のみで放課後パソコンを使用したい場合は第1演習室を利用してください。ユーザー名・パスワードは同じで使用でき、ネットワークドライブ(H:)も同じように使用できます。ソフトもほとんど同じです。17:00以降利用する場合は、時間外利用申請書を小清水まで提出してください。

（出典　情報処理センター　内部向けホームページ）

資料８－１－①－12

「図書館の概要」

図　書　館　Library

図書館は自然科学や工学関係の専門書をはじめ，一般教養に役立つ図書，雑誌，DVD，ビデオテープ，CD-ROMなどを備えています。
パソコンコーナーには６台のパソコンがあり，電子ジャーナル，データベース検索，就職情報検索，インターネット，及びCD-ROMを利用することができます。
図書館蔵書検索システムは，インターネットを通じて研究室や家庭のパソコンからもアクセスすることができます。
また，生涯学習支援の場として市民の方への一般開放を行っており，市立釧路図書館との資料の連携貸出も実施しています。

The library keeps not only technical documents on natural science and engineering, but also books on general education, journals, DVDs, video tapes, CD-ROMs, etc.
It has six computers that can be accessing the Internet, e-journals, databases, obtaining job information, and using CD-ROMs.
Users can search for library materials using their office or home computers.
This library is open to citizens as a place that contributes to lifelong learning. We orders books and materials from the Kushiro city library.

■開館時間　Library hours

曜　日	平　常 School days	休業期間 School holidays
月～金 Mon.- Fri.	8：30～20：00	8：30～17：00
土 Sat.	8：30～17：00	休　館 Closed
試験期間中の日曜・祝日 Sun. or national holidays during exam. time	8：30～17：00	休　館 Closed

備考：試験期間中を除く日曜・祝日，年末年始は休館です。
Note：Closed on Sundays, national holidays and the beginning of the year except examination time.



■施　設　Facilities

2階 2F	大ゼミナール室	Seminar Room
	準備室	Staff Room
	和室	Japanese Room
	読書指導室	Reading Counselor Room
1階 1F	談話ホール	Lounge
	新聞閲覧コーナー	Newspaper Reading Place
	閲覧室	Reading Room
	書庫	Stacks
	就職情報コーナー	Job Information Access Corner
	図書係事務室等	Office

■蔵書冊数（平成24年４月１日現在）　Collection of Book (As of April 1, 2012)

区　分 Classification	総　記 General Works	哲学・宗教 Philosophy & Religion	歴史・地理 History & General Geography	社会科学 Social Science	自然科学 Natural Science	工業技術 Technology	産　業 Industry	芸術・体育 Fine Arts & Physical Training	語　学 Language	文　学 Literature	計 Total	高専全蔵書数 Total (All the College)
和　書 Japanese Books	2,964	3,081	5,843	8,514	15,452	28,650	921	3,894	4,667	13,089	87,075	97,372
洋　書 Foreign Books	343	389	452	392	1,397	1,237	13	52	2,532	1,439	8,246	10,695
視聴覚 Audio-Visual Aids(Kinds)	50	7	330	144	269	458	4	1,277	509	261	3,309	3,930
計 Total	3,357	3,477	6,625	9,050	17,118	30,345	938	5,223	7,708	14,789	98,630	111,997

和雑誌 Japanese Periodicals	929種類	洋雑誌 Foreign Periodicals	263種類	計 Total	1,192種類

32

（出典　平成 24 年度学校要覧　p. 32）

資料８－１－①－13

「実習工場の概要・安全の誓い」



（出典　Webサイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/prfa/index.html
釧路高専公式ホームページ）

資料８－１－①－14

「実習工場工作機械等一覧」

釧路高専実習工場工作機械等一覧

	機械名	台数		機械名	台数
1	旋盤（滝沢TAL460）	1	25	エアプラズマ切断機	1
2	〃（滝沢TSL800）	2	26	TIG溶接機	1
3	〃（滝沢TSL550）	8	27	ヒューム集塵機	3
4	両頭グラインダー	3	28	バイブロシャー	1
5	万能横フライス盤	1	29	高速切断機	1
6	立フライス盤（牧野）	1	30	メタルソー切断機	1
7	〃（ワシノ）	1	31	コンターマシン	1
8	〃（山崎）	1	32	バンドソー（アマダ）	1
9	円筒研削盤	1	33	〃（日立）	1
10	平面研削盤	1	34	エアハンマー	1
11	歯切り盤	1	35	重油燃焼装置	1
12	形削り盤	1	36	ショットピーニング	1
13	マシニングセンタ	1	37	レーザー加工機	1
14	CNC複合旋盤	1	38	卓上型面取り機	1
15	コンプレッサー	3	39		
16	ドリル研削盤	1	40		
17	ラジアルボール盤	1	41		
18	直立ボール盤	1	42		
19	卓上ボール盤	3	43		
20	タッピングボール盤	1	44		
21	金切鋸盤	1	45		
22	ガス溶接一式	4	46		
23	半自動溶接機	1	47		
24	交流アーク溶接機	5	48		

（出典　実習工場作成資料）

資料８－１－①－15

「実習工場利用上の注意」

実習工場使用について(学内向け)

実習工場で作業する学生及び教職員は、作業前に下記注意事項をよく読み、機器の操作および安全に対して細心の注意を払うこと。

安全に使用するために《各工作機械の注意事項はこちら(pdfファイル)》
実習工場内の工作機械や設備は、その取り扱いを間違えるとケガや取り返しのつかない事故につながります。
使用する前に下記事項をよく読み、安全に十分注意して作業すること。

作業の前に
・実習工場を使用する時は「実習工場工作機械等使用願」に必要事項を記入し、担当教員の署名をもらい工場へ提出し許可をもらうこと。

服　装
・工場で作業する場合は作業服、靴、帽子を正しく着用すること。
・スリッパ等の履物や素足での作業は厳禁とする。
・ファスナー、ボタン等はきちんと掛けること。
・いわゆる腰パンは厳禁。ベルトを着用すること。

機械・設備使用上の注意
・必要により保護具等を着用すること。
・1台の機械操作に、複数の者が関わらないこと。
・工作機械等に表示している諸注意を守ること。
・作業中であっても整理・整頓を常に心掛けること。
・機械・工具類に破損があった時は、速やかに報告すること。
・機械操作等不明な点は、工場担当職員に聞くこと。

作業が終了したら
・工場設備の使用後は後片付け、清掃を丁寧に行うこと。
・機械等の終了時の状態を「実習工場工作機械等使用願」によりチェックすること。
・「実習工場工作機械等使用願」を工場担当職員に提出すること。

ケガ、事故への対応
・緊急の場合には大きな声を出す等して、周囲に助けを求めること。
・ケガや事故があった場合は速やかに報告し、保健室に行く等適切な処置を受けること。
・病院にて治療を受けた時は、災害報告書を遅滞なく指導教員へ提出すること。

その他
・休日の使用は原則として禁止する。
・教職員は、学生の模範となるよう行動すること。
・その他不明な点は、工場担当職員の指示に従うこと。

(出典　Web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/prfa/about-use.html
釧路高専公式ホームページ)

資料８－１－①－16

「実習工場の授業における利用状況」

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th colspan="2">火</th><th>水</th><th colspan="2">木</th><th>金</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td colspan="2"></td><td></td><td colspan="2"></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td colspan="2" rowspan="3">2M
工学実習・実験
Ⅰ</td><td></td><td colspan="2" rowspan="3">4M
工学実習・実験
Ⅲ</td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td rowspan="3">1年
ものづくり
基礎</td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>5</td><td></td><td rowspan="3">5M
卒研</td><td rowspan="4">専攻科
特別研究</td><td rowspan="3">3M
工学実習・実験Ⅱ</td><td rowspan="3">5M
卒研</td><td rowspan="4">専攻科
特別研究</td></tr>
<tr><td>6</td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

（出典　実習工場作成資料）

資料８－１－①－17

「平成 23 年度　実習工場工作機械等使用願」

使用学年	専攻科	5	4	3	2	1	教職員
（人）	36	145	7	21			
所　属	機械	電気	電子	情報	建築		
（件）	213	0	0	2	0		
実験室	流体	機力	熱工学	材料	制御	生産	
（件）	31	9	38	22	18	35	
使用機器	旋盤	立フラ	横フラ	形削り	平面研	卓上ボ	ラジアル
（件）	66	58	0	0	0	31	0
（時間）	136.59	91.16	0	0	0	32.78	0
	直立	アーク	ガス	日立	鋸盤	アマダ	ラクソー
	0	3	1	16	7	7	16
	0	7.5	1	11.77	11.25	5.5	14.83
	砥石切断	プラズマ	NC 旋	MC	レーザー		
	3	0	9	5	22		
	1.5	0	29.25	13.75	46.48		
使用時間	卒研	実験	教職員	同好会	その他	合計	
（件）	133	0	0	60	19	212	
（時間）	272.51	0	0	106.93	27.28	406.72	

（出典　実習工場作成資料）

資料８－１－①－18

「地域共同テクノセンター概要」

地域共同テクノセンター　Cooperative Technology Center

■設置の目的　Objectives

本センターは，今日の科学技術の急速な発展と高度化に対応した研究及び開発を行い，高専における教育研究並びに地域産業，民間企業，公共機関等の共同研究・開発を推進し，多様な地域産業の活性化及び発展と支援を図る事を目的に設置されております。

The objectives of the Center are to pursue research and development to meet the rapid advance and progress of current technology and to promote cooperative research and development with private companies and public institutions. In addition, the center aims to contribute to the education at the college, and to activate various local industries and support their improvement.

■業 務 内 容　Activities

（1） 民間機関等との共同研究の実施
Promoting cooperative research projects between the Center and private companies.

（2） 民間機関への技術援助及び技術相談
Assisting with the management and accomplishment of cooperative projects and consultation of technical problems.

（3） 科学技術に関する講演会及び講習会の開催
Providing lectures on technology.

（4） 民間機関等の技術教育及び研修
Holding technical meeting and professional education courses for engineers.



地域共同テクノセンター　Cooperative Technology Center



環境試験研究室　Environment Laboratory

（出典　平成 24 年度学校要覧　p. 35）

資料８－１－①－19

「施設整備委員会規程」（抜粋）

（設置）

第１条　釧路工業高等専門学校に，校長の諮問機関として，長期的視野に立った本校の施設整備の整備，運営，点検・評価及び環境整備並びに環境への配慮に関する事項を審議するため施設整備委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会において審議する事項は，次のとおりとする。

一　長期的視野に立った施設の整備及び運営に関する事項
二　施設整備計画に関する事項
三　施設，設備等の利用状況の点検・評価に関する事項
四　施設，設備等の効率的，弾力的及び流動的利用に関する事項
五　校地，施設等の環境整備に関する事項
六　事業に係る環境に配慮した取り組みに関する事項
七　その他施設，設備等の整備に関する事項

（出典　釧路高専規程）

資料８－１－①－20

「キャンパスマスタープラン（表紙・目次）」

キャンパスマスタープラン



釧路工業高等専門学校

平成２４年２月

資料８－１－①－20（続き）

目　次

1. キャンパスマスタープランの基本理念 …01
1−1. 教育理念
1−2. キャンパスマスタープランの目的
1−3. キャンパスマスタープランの基本目標・基本方針
1−4. キャンパス計画
2. キャンパスの現状と課題 …02
2−1. キャンパス概要
2−2. 屋外環境
2−3. 建物設備
2−4. インフラストラクチャー
3. 整備計画 …03
3−1. エントランス計画
3−2. キャンパス動線計画
3−3. サイン計画
3−4. 屋外環境計画
3−5. 建物計画
3−6. 設備計画
3−7. キャンパス計画図 …04 ~06
4. アクションプラン …07
4−1. 中長期的実施計画の策定
4−2. 整備予算別による事業計画
4−3. 温室効果ガス排出量の削減目標
施設整備年次計画 …08

釧路工業高等専門学校　キャンパスマスタープラン

（出典　Web サイト　施設係　内部向けページ）

資料８－１－①－21

「施設整備委員会の審議事項」

○釧路工業高等専門学校における施設及び設備等に係る点検・評価等に関する取扱要項
（平成13年６月25日釧高専達第４号）

改正　　平成16年４月１日釧高専達第38号

（趣旨及び目的）
第１条　この要項は，釧路工業高等専門学校施設整備委員会規程に基づき，既存施設及び設備等に関する点検・評価を実施する場合，また，既存施設・設備等の利用状況調査，有効活用及び改善措置などを行う場合の取扱い等について必要な事項を定め，本校の教育研究活動・管理運営の円滑化，活性化及び効率化に資することを目的とする。
（諮問）
第２条　施設整備委員会（以下「委員会」という）は，既存施設及び設備等の点検・評価，利用状況調査などを実施する場合は，別表に掲げる点検・評価等に関する調査事項のうち，必要に応じて調査項目を定めて，専門部会に諮問する。
（調査協力）
第３条　一般教科，各専門学科，専攻科，各センター及び図書館等，並びに事務部（以下「各学科等」という）は，専門部会が実施する点検・評価及び利用状況調査などを行う上で，必要とする施設及び設備等の現地調査の立会並びに資料の提供等に協力しなければならない。
（答申）
第４条　委員会は，専門部会に対して既存施設及び設備等の点検・評価，利用状況調査，有効活用等の結果を，改善措置などの意見等を付して答申させる。
（是正措置及び報告等）
第５条　委員会は，前条の答申を受けて既存施設及び設備等の利用の是正及び再配置，再配分，更新並びに廃止等が必要であると判断した場合は，校長に報告する。
（実施時期）
第６条　既存施設及び設備等の点検・評価，利用状況調査などの実施については，３年から５年の間に一度行うものとする。なお，これ以外にも必要の都度，適宜実施できるものとする。
（雑則）
第７条　この取扱要項の定めるもののほか，既存施設及び設備等の点検・評価，利用状況調査等の実施に必要な事項は，委員会が別に定める。

附則
この取扱要項は，平成13年６月25日から施行する。
附則（平成16年４月１日釧高専達第38号）
この取扱要項は，平成16年４月１日から施行する。

資料８－１－①－21（続き）

○釧路工業高等専門学校における施設活用の実態調査及び是正勧告に関する規程

（平成12年５月29日釧高専達第３号）
改正　平成23年３月28日釧高専達第33号

（目的）
第１条　この規程は、釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）の施設の活用の実態を把握し、適時適切に使用方法の再編を行い、時代の変化に即応した教育研究活動を円滑に進めることを目的とする。
（調査）
第２条　釧路工業高等専門学校施設整備委員会（以下「委員会」という。）は、本校の施設の活用状況の実態把握を行うため、専門部会をもって、本校の施設の使用状況等を随時調査させることができる。
（報告）
第３条　専門部会は、調査の結果を委員会に報告しなければならない。
（勧告）
第４条　委員会は、前条の報告を受け、その使用の再編を必要と判断した場合は校長に報告の上、関係学科長等にその是正を勧告することができる。
（協議）
第５条　前条の勧告を受けた関係学科長等は、直ちに是正に必要な手法及び経費について総務課と協議し、その結果を速やかに委員会に報告しなければならない。
（雑則）
第６条　この規程に定めるもののほか、この規程の運用に関して必要な事項は、委員会が別に定める。

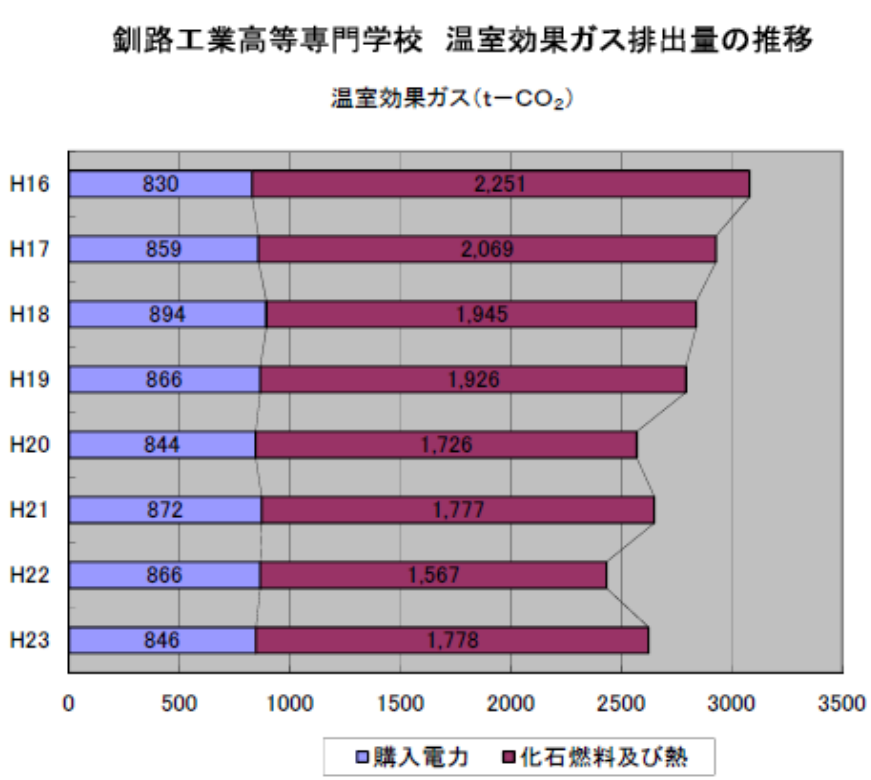
附　則
この規程は、平成12年５月29日から施行する。
附　則（平成23．３．28釧高専達第33号）
この規程は、平成23年４月１日から施行する。

（出典　釧路高専規程）

資料８－１－①－22

「釧路高専温室効果ガス排出量の推移」

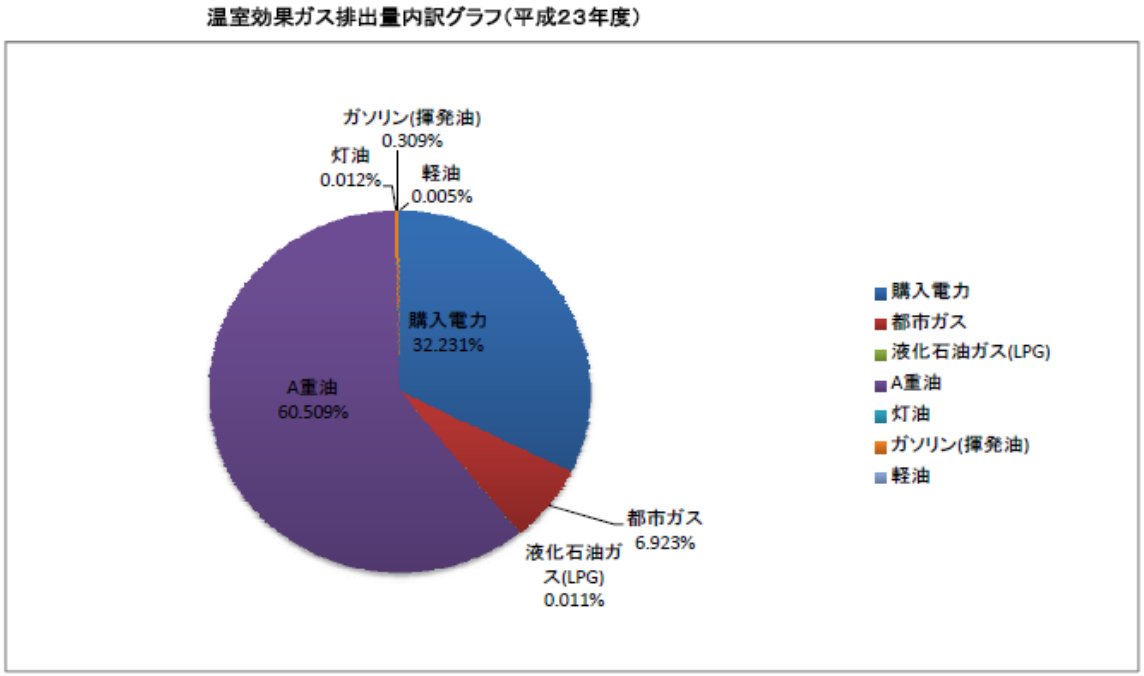
資料3－2



（出典　施設係作成資料）

資料８－１－①－23

「釧路高専温室効果ガス排出量内訳」



（出典　施設係作成資料）

資料８－１－①－24

「ガスボイラーへの切り替えに関する概算要求資料」

平成24年度概算要求事業の事業概要書
釧路工業高等専門学校　基幹・環境整備

既存ボイラー

伸縮継手現状

クラックからの漏水状況

4．事業に対する投資効果（１）

給水配管，蒸気配管及びボイラーの更新による
エネルギー効率の向上により，エネルギー使用量
の削減が可能となる。また，ガス貫流ボイラーへの
更新により，温室効果ガス排出量の削減及びラン
ニングコストの縮減が期待できる。

温室効果ガスの排出量削減

配管・保温・ボイラー更新により約21%のエネルギー効率
向上が可能となり，ボイラー燃料の変更と併せて，温室効
果ガス排出量は約21%（566t）の削減が期待できる。

平成24年度概算要求事業の事業概要書
釧路工業高等専門学校　基幹・環境整備

4. 事業に対する投資効果（2）

ランニングコストの縮減

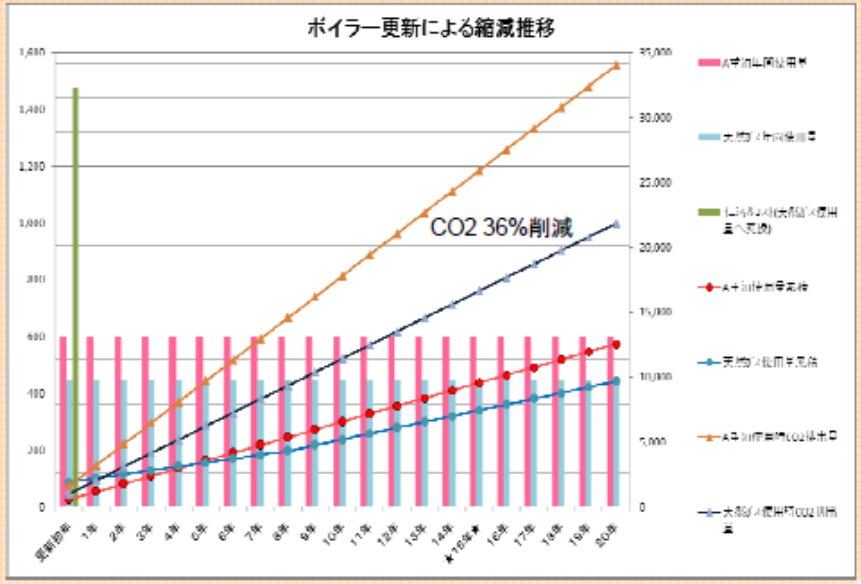
ボイラーの更新により，ランニングコスト（25%）の縮減が期待できる。

ボイラー更新により，CO2（36%）の削減が期待できる。

■ランニングコスト比較

項目	現在費用	更新後費用	削減額
燃料費	22,648,000	20,517,000	2,131,000
ガス単価変更			2,124,386
維持費	2,200,000	1,288,000	912,000
人件費	6,528,900	4,189,500	2,339,400
法定費用	295,400	0	295,400
薬品費	3,639,000	669,000	2,970,000
電力費	118,000	825,000	-707,000
塩代	10,000	61,000	-51,000
上水道費	1,869,000	1,789,000	80,000
蒸気等配管修繕費	3,300,000	0	3,300,000
合計	40,608,300	29,338,500	13,394,186

※蒸気等配管修繕費は過去4年間の平均を計上。



（出典　施設係作成資料）

資料８－１－①－25

「安全衛生委員会規程」（抜粋）

（趣旨）

第１条この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員安全衛生管理規則（以下「機構規則」という。）に基づき、釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）の安全衛生管理体制に関する事項を定め、もって本校の教職員の安全と健康を確保することを目的とする。

（委員会）

第２条本校に、安全衛生委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（構成）

第３条委員会は、次に掲げる者で構成する。

一　安全衛生統括管理者１名

二　安全管理者１名

三　衛生管理者１名

四　産業医１名

五　安全管理担当者１名

六　衛生管理担当者１名

七　看護師１名

八　労働者の過半数代表者の推薦に基づき校長が指名した者９名

２ 安全衛生統括管理者は、校長をもって充てる。

３ 安全管理者は、事務部長をもって充てる。

４ 安全管理担当者及び衛生管理担当者は、総務課長をもって充てる。

（議長）

第４条　委員会に議長を置き、安全衛生統括管理者が指名した者をもって充てる。

（任期）

第５条　第３条第１項第８号の委員の任期は、１年とする。ただし、再任を妨げない。

（会議の開催）

第６条　委員会は毎月少なくとも１回以上開催するものとする。

（調査審議事項）

第７条　委員会は、機構規則第 13 条第２項及び第３項に掲げる事項のほか、次の各号に掲げる事項を調査審議する。

一　安全及び衛生に関する規定の作成に関すること。

二　安全及び衛生教育の実施計画の作成に関すること。

三　新規に採用する機械等又は現材料に係る危険及び健康障害の防止に関すること。

四　化学物質の有害性の調査並びにその結果の評価に基づく対策の樹立に関すること。

五　作業環境測定の結果及びその結果の評価に基づく対策の樹立に関すること。

六　教職員の健康増進を図るために必要な措置の実施計画に関すること。

七　労働基準監督官庁等から命令、指示、勧告又は指導を受けた事項に関する防止対策に関すること。

八　教職員から提案された事項

九　その他、安全衛生に関する重要事項

「以下略」

（出典　釧路高専規程）

資料８－１－①－26

「安全衛生委員会レジメ」

第１回安全衛生委員会

○日　　時　　平成２４年４月２３日（月）　１６：３０～

○場　　所　　会議室

○報告事項

１．職場巡視結果報告について

①委員会による巡視結果報告について　（資料１）

②産業医による巡視結果報告について　（資料２）

○審議事項

１．平成２４年度安全衛生資格取得関係計画（案）について　（資料３）

２．平成２４年度釧路高専安全衛生管理計画（案）について　（資料４）

３．平成２４年度巡視者組み合わせについて　（資料５）

４．巡視場所一覧（案）について　（資料６）

○その他

１．委員会の開催日程について

２．その他

○参考資料

１．労働安全衛生法（抜粋）　（参考資料１）

２．機構教職員安全衛生管理規則（抜粋）　（参考資料２）

３．釧路高専安全衛生委員会規程　（参考資料３）

４．釧路高専安全衛生委員会組織図　（参考資料４）

（出典　平成 24 年度４月第１回安全衛生委員会資料）

（分析結果とその根拠理由）

校地面積と校舎面積は高等専門学校設置基準を満たしている。本校校舎はバリアフリー化を推進しており，車椅子利用者はすべての場所へのアクセスが可能である。すべてのホームルーム教室にはＡＶ機器及び情報コンセント（無線ＬＡＮを含む）を備え，授業方法改善に役立てている。

図書館は専門書，一般書，視聴覚教材を含め，98,000冊を超える蔵書がある。

実習工場は旋盤，フライス盤，ＮＣ旋盤等を備え，主として機械工学科の工作実習・学生実験，ものづくり基礎等で利用されている。

本校の施設全般について管理運営するために施設整備委員会が設置され，本校のキャンパスマスタープランの策定，営繕計画，施設の利用方法等，本校の施設全般について審議している。また，本校の安全管理のために安全衛生委員会を設置している。

これらのことから，学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され，適切な安全管理の下に有効に活用されている。また，施設・設備のバリアフリー化や環境面への配慮がなされている。

観点８－１－②：　教育内容，方法や学生のニーズを満たすＩＣＴ環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

本校には，情報処理センターの管理下にコンピュータ演習室が２室（第１，第２）及び専攻科計算機演習室がある。他には各学科の教育内容に応じて，電気工学科には計算機実験室，電子工学科には電子工学応用実験室，情報工学科には情報処理実験・情報基礎実験室・応用情報処理実験室，建築学科には建築CAD室がある。観点８－１－①で述べたように，第１及び第２コンピュータ演習室及び専攻科計算機演習室は共同利用として教育に十分に活用され，さらに放課後等自由時間における学生の利用というニーズに対応している。また，これらのPCは５年ごとに設備更新（レンタル更新）されており，技術の進歩に対応した設備環境を整えている（資料８－１－②－１）。

卒業研究，特別研究のための実験室設置及び事務用を含め，本校では1,000台以上のPCが本校の学内ネットワークに接続されている（資料８－１－②－２）。これらを含めた学内ネットワーク下のPCのセキュリティ管理は情報処理センターが行っている。本校では，情報倫理ガイドライン，情報セキュリティ管理規程，情報セキュリティ推進規程，情報セキュリティ教職員規程が策定され（資料８－１－②－３），これを基に管理している。学内ネットワークに接続されたPCを利用するために，１学年の共通科目「コンピュータリテラシー」において全学生にセキュリティ教育を実施（資料８－１－②－４）した上で学生にIDを付与している。専攻科入学者についても，ポータルサイト説明会を実施し，IDを付与している。

資料８－１－②－１

「教育用電子計算機システム仕様書案」（抜粋）

Ⅰ．仕様書概要説明

１．調達の背景及び目的

本システムは、本校の情報処理教育ならびに情報機器を用いたさまざまな教育活動において重要な役割を担っている。システム更新においては、現有システムで行っている教育を継続して行えることが必須であり、さらに、アプリケーションの高度化・複雑化への対応と、仮想化(バーチャライゼーション)や 64 ビット化といった昨今のハードウェアの進化に即した教育、用件に応じた各種 OS の実行に対応できる環境を用意することが必要である。

加えて、現有システムにおいて整備を行った情報メディア教育環境をより高いレベルで活用するという観点からも、サイトライセンス方式を用いた利用教室・利用端末に依存せずにアプリケーションを実行できる環境の維持と、サーバー・クライアント双方のハードウェアの強化による同時多数利用時のパフォーマンス低下の改善、システム管理系統を集約することによる可用性の向上を図る。

２．調達物品名及び構成内訳

教育用電子計算機システム　　一式
（構成内訳）

(1)情報処理センターサーバー室

管理用サーバー	3 台
データストレージ	1 台
ファイバーチャネルスイッチ	1 台

(2)情報処理センタープログラミング演習室

クライアントワークステーション	50 台
カラーレーザープリンタ	1 台
モノクロレーザープリンタ	1 台

(3)低学年講義棟プログラミング演習室

クライアントワークステーション	50 台
モノクロレーザープリンタ	1 台

以上、搬入・据付・配管・配線・導入・調整・撤去・運搬・廃棄を含む

３．調達種類及び期間

借入　平成 20 年 3 月 1 日から平成 25 年 2 月 28 日

修正前：３．調達種類
借入

意見等：法人となった現在は複数年契約が可能であるので，契約期間を明記すべきである。

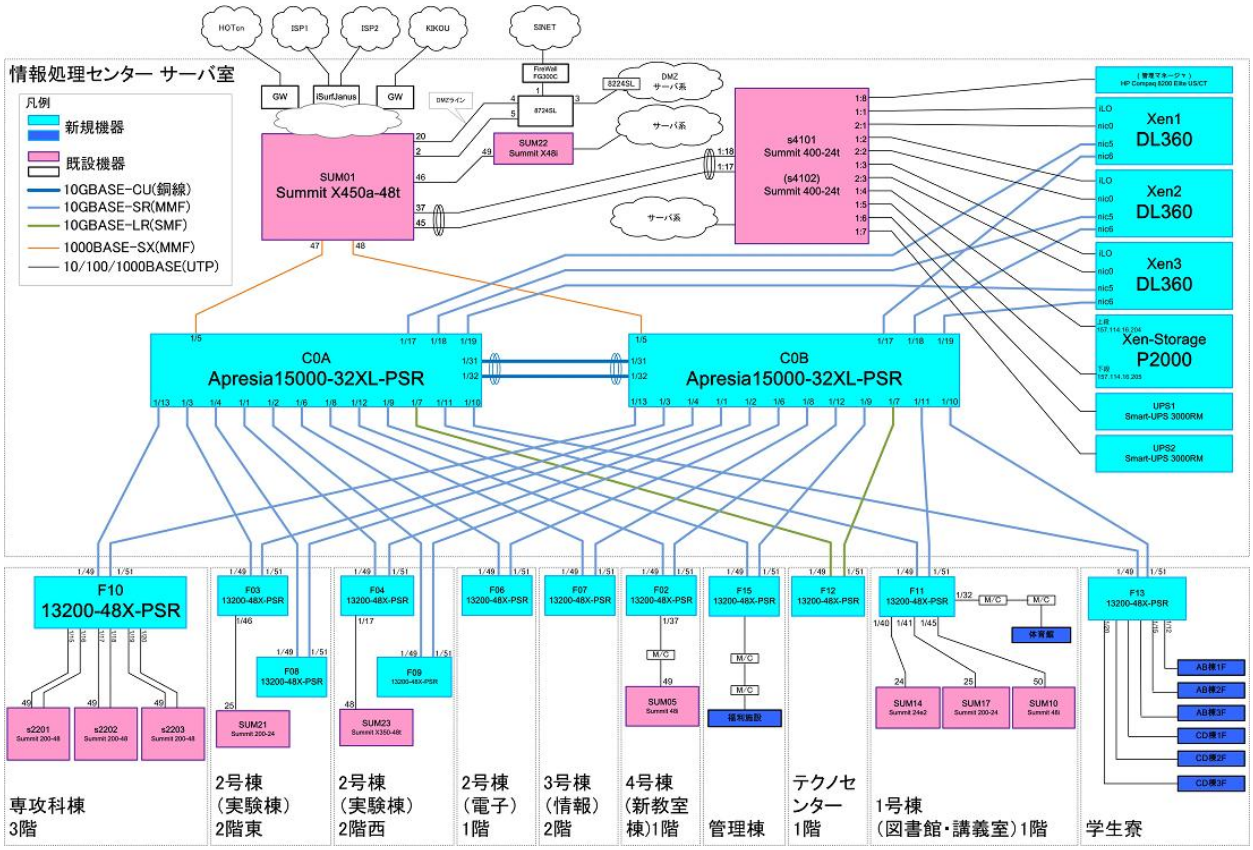
４．技術的要件の概要

（１）本調達物品に係る性能機能及び技術等（以下「性能等」という。）の要求要件（以下「技術的要件」という。）は、「Ⅱ．調達物品に備えるべき技術的要件」に示すとおりである。
（２）技術的要求要件は全て必須の要求要件である。
（３）必須の要求要件は本校が必要とする最低条件を示しており入札機器の性能等がこれらを満たしていないとの判定がなされた場合には不合格となり落札決定の対象から除外する。
（４）入札機器の性能等が技術的要件を満たしているか否かの判定は、本校教育用電子計算機システム技術審査職員において入札機器に係る技術的仕様書その他の入札説明書で求める提出資料の内容を審査して行う。

（出典　平成 19 年度６月第２回情報処理センター委員会資料）

資料８－１－②－２

「ネットワーク構成図」



（出典　情報処理センター作成資料）

資料８－１－②－３

「情報セキュリティ関係規程」

釧路工業高等専門学校　情報倫理ガイドライン
（校長裁定　平成20年9月24日）

釧路高専の情報倫理ガイドラインは、学問の自由、思想・表現の自由をはじめとする基本的人権の尊重の理念にのっとり、釧路高専が管理・運用する計算機資源の利用に関するルールを定めることにより、法的または一般的倫理上問題となる行為を防止したうえで、情報システムの円滑な利用を促進し、本校の教育および研究の充実を図ることを目的とする。

本校の教職員、学生、その他本校情報システムを使用するすべての関係者は、次に掲げる事項を守らなければなりません

- 教育・研究・就職・業務以外の目的では使用しない。
- 名誉毀損・誹謗中傷・人権侵害、セクシャルハラスメントにあたる行為を行わない。
- 一般的モラルに反する情報の取得・発信をしない。
- 他人のプライバシー・著作権・肖像権・知的所有権を侵害しない。
- 個人情報など秘密の保全が必要な情報を漏洩しない。
- 嘘の情報の提供・詐欺行為・他人を詐称する行為をしない。
- 政治活動・宗教活動・その他営利を目的とする活動をしない。
- パスワードを他人に教えない。
- 情報システムの円滑な利用・運用の妨げとなる行為をしない。
- 法令・社会通念上常識的な行為に反する事はしない。

次の行為は、情報倫理違反です

・ファイル交換ソフトで公開されていた違法な映画や音楽をダウンロードした。
　さらにダウンロードした情報を自分も公開した。
・全員の了承を取らずに、クラス名簿をホームページで公開した。
・インターネット上の掲示板に、他人を中傷する書き込みをした。
・インターネット上で見つけた文章をそのままコピーしてレポートとして提出した。
・腹の立つ相手に、ウィルス付のメールを送った。
・自分のパスワードをしばらく変更していない。または、他人に教えた。

資料８－１－②－３（続き）

○釧路工業高等専門学校情報セキュリティ管理規程

平成22年10月28日釧高専規第19号）

改正平成23．３．28 釧高専達第26号

目次

第１章　総則（第１条－第８条）
第２章　情報システムの利用（第９条－第１３条）
第３章　情報の取扱い（第１４条－第１７条）
第４章　教育（第１８条・第１９条）
第５章　情報セキュリティインシデント対応及び非常時行動計画（第２０条－第２４条）
第６章　調達，ソフトウェア開発及び外部委託（第２５条－第２７条）
第７章　違反と例外措置（第２８条・第２９条）
第８章　評価，見直し及び監査協力（第３０条－第３２条）
第９章　その他（第３３条－第３５条）

第１章総則

（目的）

第１条この規程は，独立行政法人国立高等専門学校機構釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報セキュリティ対策に関する全般的事項及び管理的事項を定めることにより，情報セキュリティの維持向上に資することを目的とする。

２ 情報セキュリティ対策に関する専門的及び技術的な事項については，別に定める情報セキュリティ推進規程による。

「以下略」

資料８－１－②－３（続き）

○釧路工業高等専門学校情報セキュリティ推進規程
（平成22年10月28日釧高専達第20号）

目次
第１章　総則（第１条・第２条）
第２章　情報システムのライフサイクル
　第１節　設置時（第３条－第１７条）
　第２節　運用時（第１８条－第３０条）
　第３節　運用終了時（第３１条・第３２条）
　第４節　PDCAサイクル（第３３条－第３６条）
第３章　要保護情報及びそれを取り扱う情報システム（第３７条－第４１条）
第４章　アクセス制御（第４２条－第４４条）
第５章　アカウント管理（第４５条－第５５条）
第６章　証跡管理と通信の監視（第５６条－第５９条）
第７章　その他（第６０条）

第１章総則
（目的）
第１条　この規程は，独立行政法人国立高等専門学校機構釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報セキュリティ対策に関する専門的及び技術的な事項について定めることにより，情報セキュリティの維持向上に資することを目的とする

「以下略」

資料８－１－②－３（続き）

○釧路工業高等専門学校情報セキュリティ教職員規程

（平成22年10月28日釧高専達第21号）

目次

第１章　総則（第１条－第８条）
第２章　情報システムの利用（第９条－第22条）
第３章　情報の取扱い（第23条－第33条）
第４章　教育（第34条）
第５章　情報セキュリティインシデント対応（第35条）
第６章　調達，ソフトウェア開発及び外部委託（第36条）
第７章　違反と例外措置（第37条・第38条）
第８章　自己点検及び見直し（第39条）
第９章　管理的業務（第40条－第44条）
第１０章　その他（第45条）

第１章総則

（目的）

第１条この規程は，独立行政法人国立高等専門学校機構釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報セキュリティの維持向上のために本校の教職員が遵守すべき事項を定めるものである。

「以下略」

（出典　釧路高専規程）

資料８－１－②－４

「コンピュータリテラシーのテキスト」（抜粋）

ネットワーク講習会

ネットワーク講習会

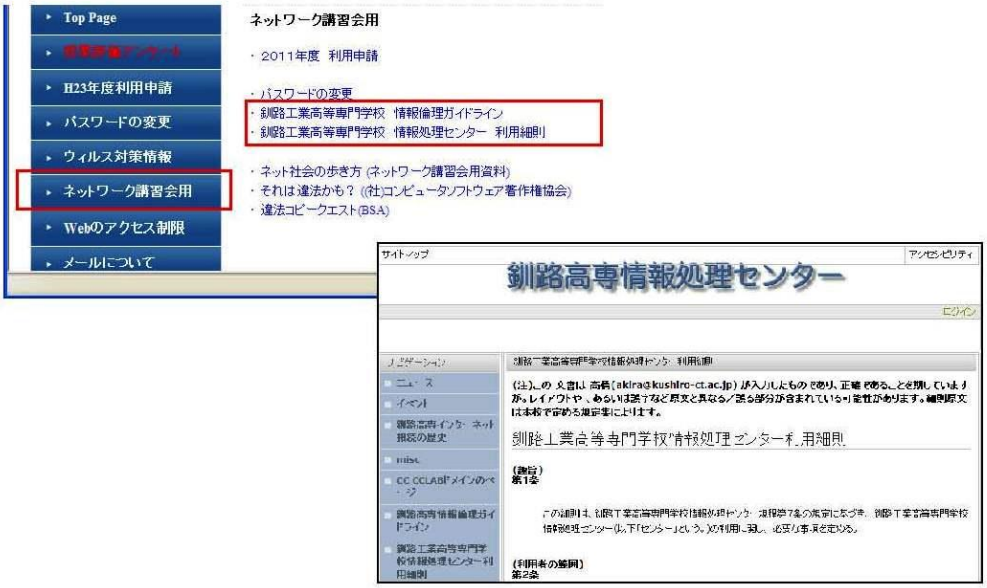
インターネット（Web ページや E-mail）を利用するにあたって、私たちはインターネットについての様々なルールを知っておく必要があります。

このインターネットのルールやマナーを　**ネチケット**（＝インターネット＋エチケット）と呼びます。

1 学校のルール

Web ブラウザを起動するとスタートアップで表示される演習室サイトの「ネットワーク講習会」のページから情報処理センターのページを開くことができます。（http://ipc.kushiro-ct.ac.jp/）

このなかに情報処理センター利用にあたっての規則と倫理規定ガイドラインが記述されています。



最低限の基本的なルールと制限

・教育目的以外の利用をしない
・ハッキング行為しない
・パスワードの不正な利用
・知的所有権などの問題（不正コピー、ダウンロードなど）
・Webメールには アクセス制限をかけている（校内からのYahoo!メールなどの利用）
・出所不明のメールは受信拒否をしている
・不適切なWebサイトにはアクセス制限（フィルタリング）をかけている
　アクセス制限のリストは公開して追加や削除の依頼を受ける
　（現状ではセンター長 判断で 追加や削除をしている）
・アクセスログは自分で確認できる
（管理者も確認できる。トラブルの際、然るべきところに提出できるように）

「人に迷惑をかけない、自分の行動の責任は自分でとる！」

資料８－１－②－４（続き）

ネットワーク講習会

2 ネチケットの心構え

ネチケットとは特別なことではなく、人としてのマナーやモラルが守れているかどうか？それがそもそもの心構えです。とは言え、我々が普段生活しているリアルな社会では意識しなくてよいことが、バーチャルな「インターネット」社会とでは重要になることがあります。匿名性が高く、不特定多数の人が利用していることを常に意識する必要があるでしょう。SNS(ソーシャルネットワークサービス)でも、それは同じことが言えます。

また、日々技術が進歩し今日出来なかったことが明日は出来るようになっているのがインターネット社会です。なので、新しいルールがどんどん増えていたり、かつて当たり前だったルールも今は無用のものになっていたりします。ネチケットは一度勉強したらおしまいではありません。常々意識し新しいルールとマナーを身につけるようにしなければなりません。

以下、ネチケットに関してこのくらいは理解しておきたいキーワードを挙げます。

・Webサイト(HP)　・BBS(電子掲示板)　・SNS(ツイッター・FaceBook・mixi・モバゲー・GREEなど)
・出会い系サイト　・ブログ　・プロフ　・セキュリティ　・コンピュータウィルス　・ブラウザクラッシャー
・ハッキング　・なりすまし　・オンラインショッピング　・電子メール　・迷惑メール　・スパム　・フィッシング
・P2P(ファイル交換ソフト)　・個人情報　・肖像権　・著作権　・商標権　・情報漏洩　・荒らし　・炎上
・ネットストーカー　・不正アクセス　・架空請求　・アクセシビリティ(機種依存文字・半角カナ文字の制限など)
他にもいっぱい…

（出典　第１学年コンピュータリテラシーテキスト　pp. ９～10）

（分析結果とその根拠理由）

情報処理センターの管理下にあるコンピュータ演習室が２室（第１，第２）及び専攻科計算機演習室は共同利用として教育に十分に活用され，技術の進歩に対応した設備環境を整えている。

情報倫理ガイドライン，情報セキュリティ管理規程，情報セキュリティ推進規程，情報セキュリティ教職員規程が策定され，学内ネットワーク下のPCは，これを基に管理している。

これらのことから，教育内容，方法や学生のニーズを満たすＩＣＴ環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されている。

観点８－２－①：　図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集，整理されており，有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

図書館の概要は観点８－１－①に示した。図書館は専門書，一般書，視聴覚教材を含め，98,000冊を超える蔵書がある。これらの蔵書は図書館規程（資料８－２－①－１）により分類され，そのほとんどを開架式で利用者の閲覧に供している。閲覧室は分野別に整理され，他にも新着図書や雑誌，Video等のコーナー設置など，利用しやすいよう工夫している（資料８－２－①－２）。図書の収集

は，各学科・教科に図書費を割り振り，教員が学生の参考として必要な図書を購入する方法（資料８－２－①－３），図書委員会の主催で実施されるブックハンティングによる方法（資料８－２－①－４）及び「購入希望図書申込書」により直接申し込む方法（資料８－２－①－５）を実施している。昨年度のブックハンティングの実施状況及び購入実績を資料８－２－①－６に示す。

卒業研究を行う５年生に対しては，電子ジャーナル・データベース講習会（資料８－２－①－７）を開催し利用を促している。電子ジャーナルの利用状況を資料８－２－①－８に示す。

図書館の利用者数及び学年・学科別貸出数の統計を資料８－２－①－９に示す。単純な統計値として，平日に307人が入館しており，延べ3,271人の学生に対して6,869冊の図書を貸出しており，有効に活用されていると判断する。また，貸出ランキングでは，検定試験対策，科目の学習用図書が上位を占めている。

資料８－２－①－１

「図書館規程」（抜粋）

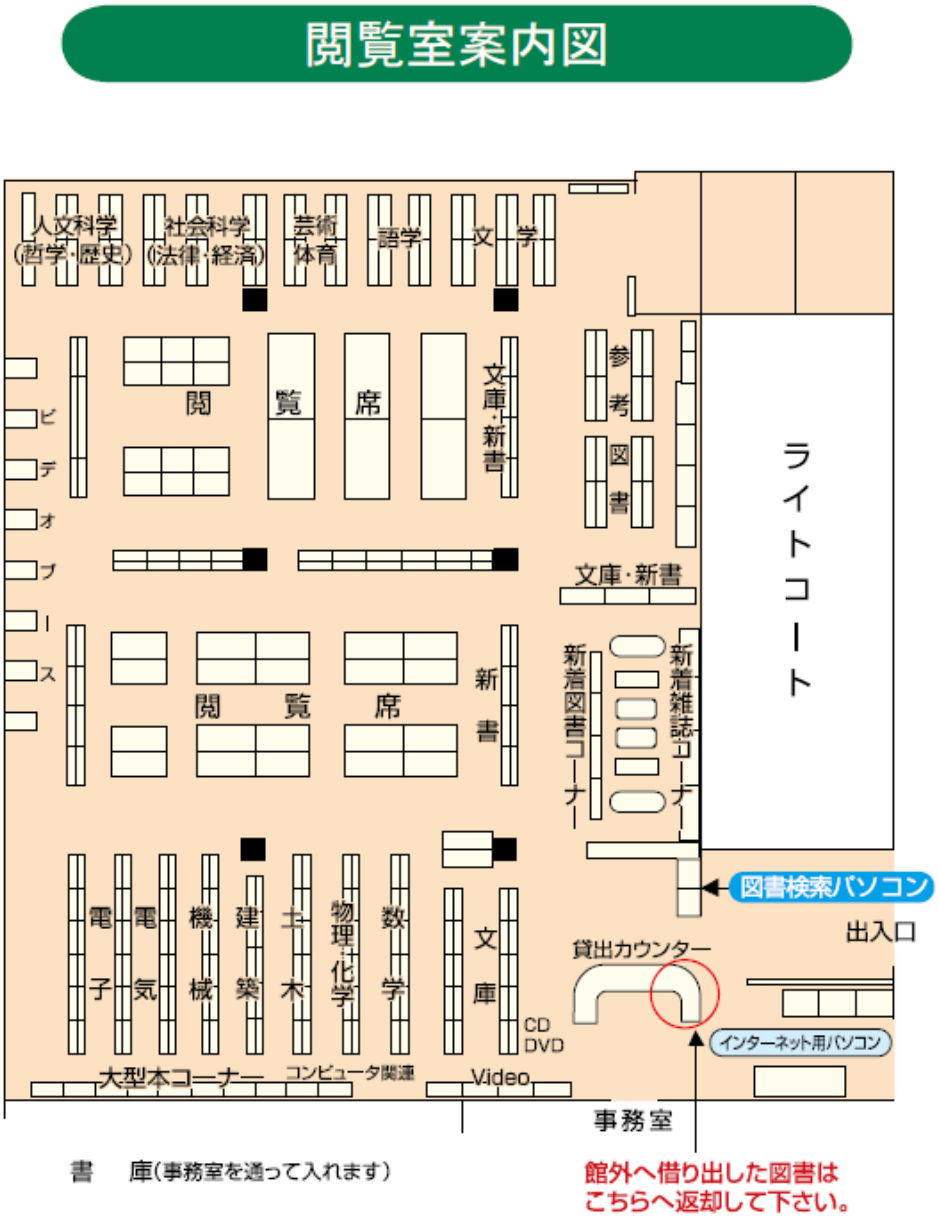
（閲覧方式）

第４条　図書館資料は、日本十進分類法により分類、整理し、開架閲覧方式とする。

（出典　釧路高専規程）

資料８－２－①－２

「閲覧室配置図」



（出典　釧路高専図書館利用案内）

資料８－２－①－３

「学生図書費予算」

資料 6-2

平成23年度 学生図書費予算 （案）

細目		開設単位	予算額	執行予定額 雑誌	執行予定額 図書	備考
専攻科						
建設・生産システム	機械	106	60,000	0	60,000	
	建築		60,000	0	60,000	
電子情報システム	電気	108	60,000	0	60,000	
	電子		60,000	0	60,000	
	情報		60,000	0	60,000	
専攻科小計			300,000	0	300,000	
専門学科						
機械工学科		101	233,000	73,000	160,000	
電気工学科		111	233,000	84,000	149,000	
電子工学科		128	233,000	79,000	154,000	
情報工学科		114	233,000	77,000	156,000	
建築学科		101	233,000	115,000	118,000	
専門学科小計			1,165,000	428,000	737,000	
一般教科						
国語		**8**	**83,000**	**23,000**	**60,000**	
社会		**9**	**153,000**	**32,000**	**121,000**	
現代社会		2	35,000		35,000	
倫・社		2	35,000	32,000	3,000	
歴史		3	48,000		48,000	
法学		2	35,000		35,000	
数学		**18**	**131,000**	**60,000**	**70,000**	
数学		18	83,000	21,000	62,000	
応用数学		4	48,000	40,000	8,000	
理科		**15**	**223,000**	**44,000**	**179,000**	
物理		5	70,000	34,000	36,000	
化学		5	70,000	9,000	61,000	
サステナビリティ学		1	35,000	1,000	34,000	H24年度より物理演習
応用物理		4	48,000		48,000	
保健・体育		**7**	**83,000**	**48,000**	**35,000**	
外国語	**英語**	**18**	**83,000**	**49,000**	**34,000**	**デイリー読売値上がり**
	ドイツ語	**2**	**35,000**	**8,000**	**27,000**	
選択		**4**	**70,000**	**0**	**70,000**	
	音楽	2	35,000		35,000	
	美術	2	35,000		35,000	
一般教科小計			861,000	264,000	596,000	
図書館基礎部門						
基本参考図書			100,000	0	100,000	
学生希望図書			350,000	0	350,000	
学生教養図書			116,000	0	116,000	
図書館選定図書			40,000	0	40,000	
教科外雑誌費			200,000	200,000	0	「ムー」購入中止 7,540
新聞費			281,000	281,000	0	
雑費			87,000	0	87,000	バス借上代含む
図書館基礎部門小計			1,174,000	481,000	693,000	
合　計			3,500,000	1,173,000	2,326,000	

※業務資料費はH23年度より図書館維持費をあてることとする。項目削除。
※教科外雑誌「ムー」は1997年以前から継続購入しているが、平成21年度の一年間は入荷が無く、
その際、利用者から特に問い合わせが無かったことから、継続購入する必要性は少ないと思われる。

（出典　平成 23 年度６月第１回図書館委員会資料）

資料８－２－①－４

「ブックハンティング」

資料 2

ブックハンティング実施計画（平成 23 年度）

1. 交通手段

貸切マイクロバス（阿寒バス）

＜参考＞H22 年度実績

25 人乗 1 台　26,250 円（市内送迎、約 3 時間を目途に）

2. 参加人数・実施回数・予算・経費

学生　15 名　×　3 回　＝　総数 45 名

予算総額　30 万円　学生一人当たり　6,700 円

＊総額 30 万円を参加延人数 45 名で割った額

経費　寄附金（後援会費）

3. 行き先

コーチャンフォー釧路店（春採湖そば）

4. 日程

	日時	備考	定員
第一回	平成 23 年 6 月 10 日（金）　14：45～	前期中間試験最終日	15
第二回	平成 23 年 9 月 30 日（金）　14：45～	前期末試験最終日	15
第三回	平成 23 年 12 月 9 日（金）　14：45～	後期中間試験最終日	15

※開始時刻について、今年度は読書指導教員の舘下教員が金曜 14：35 まで専攻科生の授業を持っているため、14：45 からとする。

（出典　平成 23 年度 6 月第 1 回図書館委員会資料）

資料８－２－①－５

「購入希望図書の申し込み」

図書館のサービスについて

◆レファレンス・サービス

利用者の調査事項や質問に応じ、適切な資料・情報を提供し援助することをレファレンス・サービスといいます。

どんなことでも係員にご相談ください。

◇情報検索に関すること

＊釧路高専の蔵書検索・・・

カウンター前の専用端末で検索できます。同時に長岡技術科学大学や全国の高専の蔵書を検索することも可能です。

＊電子ジャーナルの閲覧・文献調査・・・

インターネットを利用して、文献調査や電子ジャーナルの閲覧ができます。

＊ CD-ROM の利用・・・

語学辞書や各種マルチメディア図鑑などがあります。

◆文献複写サービス

必要な文献が本校にない場合、他の大学図書館などからコピーを取り寄せることができます。（有料）

◇市立釧路図書館連携貸出

高専図書館から市立釧路図書館の蔵書を借りることができます。詳しくは係員にお問い合わせください。

◆購入希望図書

新刊書や学習のための参考書などで読みたい本が図書館にないときは「購入希望図書申込書」に記入し、申し込んでください。選定のうえ購入します。

（出典　釧路高専図書館利用案内）

資料８－２－①－６

「ブックハンティング実施状況」

３）平成 23 年度活動報告について

図書係長から，資料 3 に基づき今年度の活動について以下のとおり報告があった。

資料 3 の 3. 図書館朗読会については，昨年度と比べて参加者数も増加しており，定例のイベントとして定着している。

資料 3 の 8. ブックハンティングについては例年 6 月，10 月，12 月開催であったのを今年度は 6 月，9 月，12 月に開催した。全て試験最終日で，6 月と 9 月は寮の居室替えや防災訓練と重なり，寮生の 1，2 年生が参加しづらい日程となってしまった。次年度の第 2 回ブックハンティングは元通り，10 月の高専祭後片付けの日に設定した方がよいと思われる。

（出典　平成 24 年度３月第２回図書館委員会議事録）

8. ブックハンティングを３回実施

6/10（金）　17 名、前期中間試験最終日

9/30（金）　13 名、前期末試験最終日

12/9（金）　16 名、後期中間試験最終日

６月は寮の居室替えと防災訓練、９月も寮の居室替えと重なり、寮生が参加しにくい日程だった。次年度は例年通り、10 月の高専祭後片付けの日の午後開催がよいのではないか。

（出典　平成 24 年度３月第２回図書館委員会資料）

資料８－２－①－７

「電子ジャーナル・データベース講習会」

平成 24 年度　電子ジャーナル・データベース講習会実施計画

1. 日時　4 月 9 日～12 日

2. 場所・実施単位時間・実施内容
情報処理センター（第２），２コマ（95 分）

3. クラス・人数

クラス	
5 年・機械	30 人
5 年・電気	39 人
5 年・電子	35 人
5 年・情報	38 人
5 年・建築	35 人

4. 説明内容

電子ジャーナル：

Science Direct, IEEE-ASPP, AIP/APS, Science Online

データベース：

JDream II, CiNii,など

その他、北大図書館レポジトリなど

（出典　平成 23 年度６月第１回図書館委員会資料）

資料８－２－①－８

「電子ジャーナル・データベース利用状況」

資料 5-3

平成23年度　電子ジャーナル・データベース契約タイトル

平成23年度負担金額

長岡技科大取りまとめ分

種類	タイトル	金額
EJ	ｻｲｴﾝｽ･ﾀﾞｲﾚｸﾄ	270,000
EJ	AIP/APS誌	153,094
EJ	IEEE	1,025,673
DB	MathSciNet	56,137
DB	JDream	100,000
	小計	1,604,904

過去3年間の利用統計

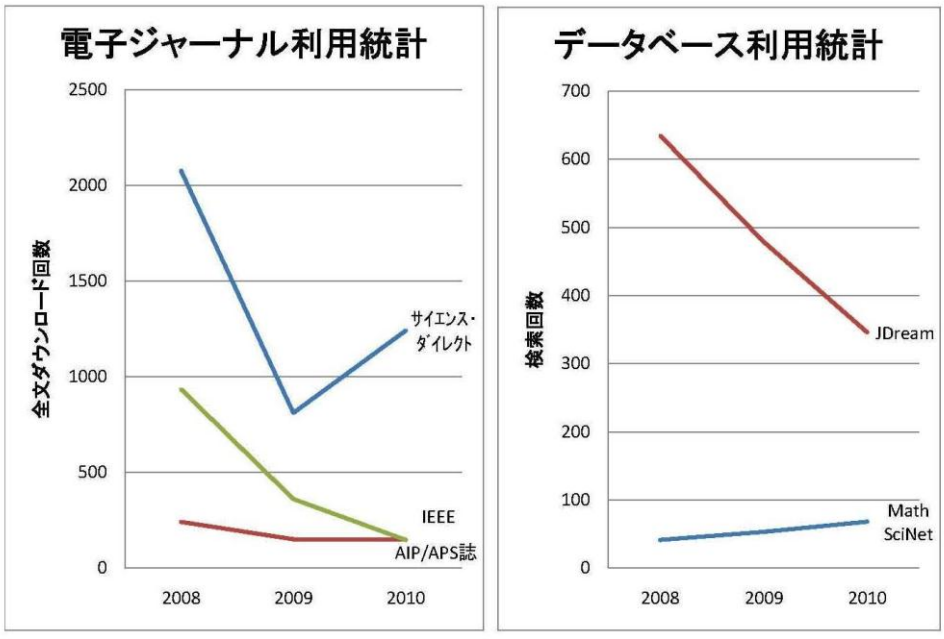
タイトル	2008	2009	2010	利用一回あたり金額※
ｻｲｴﾝｽ･ﾀﾞｲﾚｸﾄ	2077	811	1241	218
AIP/APS誌	241	150	148	1,034
IEEE	934	360	147	6,977
MathSciNet	41	53	68	826
JDream	635	479	346	289
合計	3928	1853	1950	823

※「利用一回あたり金額」は2011年負担額/2010年利用数で算出

機構本部取りまとめ分

種類	タイトル	金額	備考
EJ	Science Online	62,646	今年度より購入。負担金額は予算配分の際に差し引かれる。
DB	CiNii	20,588	高専機構として契約し、全高専で利用しているため、機関ごとの統計は出せない。機構本部一括契約で、負担金の差し引きは無い。
	小計	83,234	

平成23年度負担金額	1,688,138



（出典　平成 23 年度６月第１回図書館委員会資料）

資料８－２－①－９

「図書館利用統計」

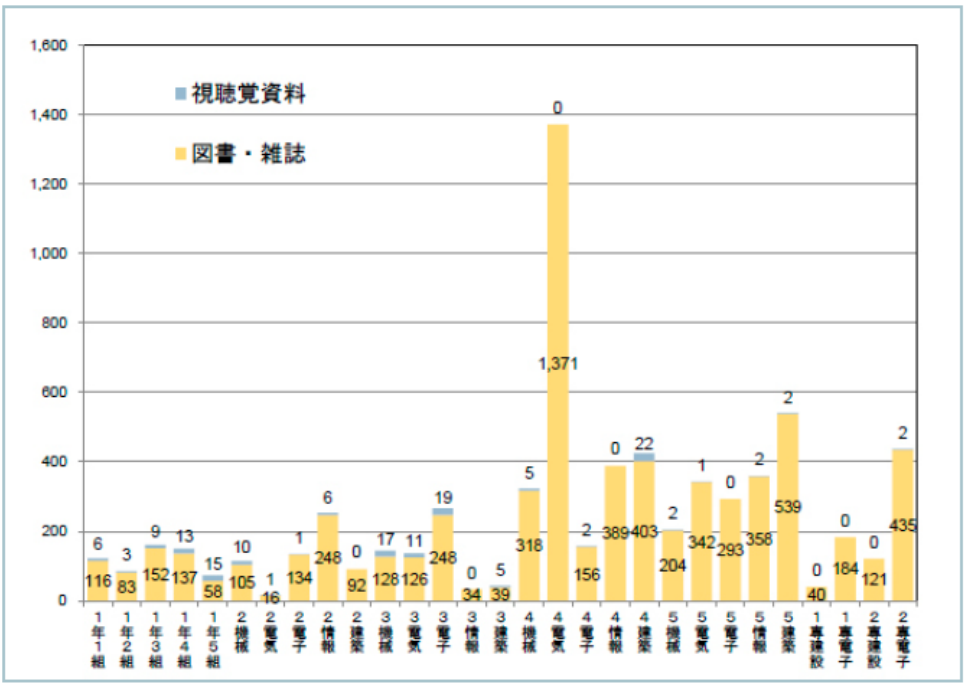
図書館利用統計（平成２３年４月～１１月）

◇開館日数	計 195 日
平　日	137 日
土曜日	27 日
日・祝	8 日
休業中	23 日
◇入館者数	計 47,273 人
平　日	42,082 人
土曜日	2,704 人
日・祝	1,369 人
休業中	1,118 人
◇一日平均入館者数	
平　日	307 人
土曜日	100 人
日・祝	171 人
休業中	49 人
◇貸出延人数	計 3,682 人
学　生	3,271 人
教職員	262 人
学外者	149 人
◇貸出冊数	計 7,873 冊
学　生	6,869 冊
教職員	550 冊
学外者	454 冊

○貸出ランキング○

図　書		
順位	タ　イ　ト　ル	回数
1	文部省認定ディジタル技術検定試験：最新既出問題・解説集	43
2	C 言語による PIC プログラミング入門 / 後閑哲也著	37
3	文部省認定ディジタル技術検定模擬問題解説集 / 伊吹公夫［ほか］執筆	29
4	最新電気機器学：大学講義 / 宮入庄太著	25
5	照明工学 / 電気学会通信教育会著	20
5	電気磁気測定法 / 電気学会通信教育会編	20

○クラス別貸出統計○



（出典　釧路高専図書館だより第 35 号　p. 12）

（分析結果とその根拠理由）

本校の図書館は専門書，一般書，視聴覚教材を含め，98,000冊を超える蔵書がある。これらの蔵書は図書館規程により分類され，そのほとんどを開架式で利用者の閲覧に供している。図書の収集は，教員が学生の参考図書を購入する方法，ブックハンティングによる方法及び「購入希望図書申込書」により直接申し込む方法を実施している。５年生に対しては，電子ジャーナル・データベース講習会を開催し利用を促している。図書館の利用者数及び学年・学科別貸出数の統計から，有効に活用されていると判断する。

これらのことから，図書，学術雑誌，視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集，整理されており，有効に活用されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校校舎はバリアフリー化を推進しており，車椅子利用者に対してはスロープ設置，エレベータ利用によりすべての場所へのアクセスが可能である。

本校の安全管理のために安全衛生委員会を設置している。安全衛生委員会では，委員会による巡視，産業医による巡視を月例で行い，安全管理に努めている。

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準８の自己評価の概要

本校には，建物として，１～４号棟，図書館，実習工場，体育館，武道場，地域共同テクノセンターがあり，屋外運動施設として，陸上競技場（サッカーコートを含む），野球場，テニスコート，アイスホッケーリンク，洋弓場がある。校地面積と校舎面積は高等専門学校設置基準を満たしている。

校舎はバリアフリー化を推進しており，車椅子利用者はすべての場所へのアクセスが可能である。すべてのホームルーム教室にはＡＶ機器及び情報コンセント（無線ＬＡＮを含む）を備え，授業方法改善に役立てている。

専門学科実験室・研究室は，それぞれ学生実験，本科卒業研究，専攻科特別研究に利用し，必要な実験研究機材を備えている。

共同利用施設として，プログラミング演習室（第１，第２）と語学演習室，専攻科計算機演習室がある。本校では，情報倫理ガイドライン，情報セキュリティ管理規程，情報セキュリティ推進規程，情報セキュリティ教職員規程が策定され，これを基に管理している。

実習工場は旋盤，フライス盤，ＮＣ旋盤等を備え，主として機械工学科の工作実習・学生実験，ものづくり基礎等で利用されている。

地域共同テクノセンターは４研究室と１研修室により構成され，高度な試験研究を行うための実験装置を備えている。

本校の施設全般について管理運営するために施設整備委員会が設置され，本校のキャンパスマスタープランの策定，営繕計画，施設の利用方法等，本校の施設全般について審議している。環境に対する配慮として，構内基幹ボイラーをＡ重油ボイラーからガスボイラーに切り替えることにより，二酸化炭素排出量の削減を目指している。また，本校の安全管理のために安全衛生委員会を設置してい

る。委員会による巡視，産業医による巡視を月例で行い，安全管理に努めている。

本校の図書館は専門書，一般書，視聴覚教材を含め，98,000冊を超える蔵書があり，蔵書は図書館規程により分類され，そのほとんどを開架式で利用者の閲覧に供している。閲覧室は分野別に整理され，他にも利用しやすいよう工夫している。談話ホールの一角には全国紙，地方紙及び英字新聞閲覧コーナーを設けている。図書の収集は，各学科・教科教員が学生の参考図書を購入する方法，ブックハンティングによる方法及び「購入希望図書申込書」により直接申し込む方法を実施している。５年生に対しては，電子ジャーナル・データベース講習会を開催し利用を促している。

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム

（１）観点ごとの分析

観点９－１－①：　教育の状況について，教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され，評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

本校は平成１６年度からすべての科目について各教員が答案保管を行っている（資料９－１－①－１）。個々の学生の指導に関する諸事項は指導要録として教務委員会が所管し，学生課において収集保管されている（資料９－１－①－２）。なお，本校では「教務事務システム」として，学生の出欠状況，定期試験の成績等は電子データとして保管されている（資料９－１－①－３）。

学生の課外活動等に関する事項は学生委員会（資料９－１－①－４）が，教育寮に関する事項は寮務委員会（資料９－１－①－５）が，その他教育に関する事項は担当委員会が分担し，それぞれのデータは学生課担当係が収集・保管している。

国立高等専門学校機構の中期目標・中期計画に基づいて学校独自の中期目標・中期計画の策定および年度目標・年度計画の策定を行っている。本校においては，評価専門委員会が統括し，各種委員会は年度計画の策定，活動，計画達成度の評価を行っている（資料９－１－①－６，７）。

これら学内の点検・改善活動を客観的に点検するために，外部有識者により構成される運営諮問委員会を設置している（資料９－１－①－８）。運営諮問委員会開催前の状況説明として，学内教職員も参加する形で釧路高専の教育体制に関する現状説明会を開催している（資料９－１－①－９）。

また，定常的な点検・改善活動は教育システム評価改善委員会が点検の統括を行っており，各種の教育活動等に関する点検結果を運営会議の議を経て各種委員会に提言することとしている（資料９－１－①－10）。

資料９－１－①－１

「教務主事から答案保管に関する全教員あてメール」

From: "T.Miyazawa" <miya@mech.kushiro-ct.ac.jp>
To: "tstaff" <tstaff@comp.kushiro-ct.ac.jp>
Cc: "的野裕司" <matonon@office.kushiro-ct.ac.jp>; "栗原学生課長" <kurihara@office.kushiro-ct.ac.jp>
Sent: Wednesday, May 19, 2004 10:17 AM
Subject: 中間試験答案の保管について

> 教員各位
>　　教務主事
>　過日の教務委員会において６月中間試験答案の保管に関して下記のように
> 議事録に記載されています。
> 以下議事録関連部分
> ==========
> ＪＡＢＥＥ認定に必要な答案（成績評価資料）の保管を，前期中間試験より各
> 教員に保管願いたいこと，また電子化したものを保管するのか現物を保管するの
> かなど 具体的な保管方法については今後さらに検討していくこととし，とりあ
えず前期中間試験についてはコピーを保管してもらいたい旨，要請があった。
> なお保管場所については今後検討していきたい旨委員長から発言があり，審議の
> 結果，了承された。
> ==========
> その後，中間試験以外の小テストの保管，レポートの保管などについての問い合わ
せがありますので，次のように対応してください。
>> JABEE 対応の成績評価資料の保管は，今年度前期末分からですが，シラバス等
> に記載した成績評価方法に４回の定期試験の平均○○%，レポート○○%など
> としてある場合，これらの評価資料は原則的に保管しなければならないと
> 考えています。これらの保管方法は現在電子化の方向で検討中ですが，まだ
> 保管方法の詳細は決まっていません。前期末までには検討・提案いたします。
>> また，本科３年以下についても，認証評価としての教育点検があって，
> 成績評価の根拠が明白であるような資料の提示が必要になると考えています。
> そのため JABEE ほど厳密ではないにせよ，成績評価方法・資料の保管は今後考えて
いかなければなりません。
> そのための準備として全学年中間試験答案の保管をお願いしております。
> 従って，小テスト，レポート等の保管も今後の課題です。
> 現在はまだ，これらの保管は教務としてお願いしておりません。
> 採点された評価点のデータだけでよいと思います。

（出典　教務主事発信メール）

資料９－１－①－２

「学生指導要録」

学生指導要録

（担任記入用）

担任印	1年	2年	3年

入学年度	平成19年度	学科名	建築学科	氏名	[redacted]
健康の状況（日常の観察による身体状況及び指導処置事項）		1年	良好		
		2年	概ね良好　時折 偏頭痛を訴えることがある。		
		3年	良好		
特別活動及び学生会活動等の記録		1年			
		2年			
		3年			

指導上参考となる諸事項（学習・行動・部活動・資格等）

1年	男子バスケットボール部 成績は上位で、性格は明るく真面目 欠課 0
2年	男子バスケットボール部 成績も上位で欠課もゲない。 性格も明るく真面目でリーダシップがある。
3年	男子バスケットボール部 面倒見のいい委員、ものがり実行委員 成績上位、欠課 0 で、精勤賞（計2） 明るく、やさしいが、たまに集中が途切れることもある。 英検準2級、色彩検定2級

健康の状況（日常の観察による身体状況及び指導処置事項）	4年	良好
	5年	良好
特別活動及び学生会活動等の記録	4年	
	5年	

指導上参考となる諸事項（学習・行動・部活動・資格等）

4年	成績上位 欠席少 時折ひどく頭痛を訴える。
5年	成績上位 欠席少 身体神へ注意

備考
。

通学状況	入学時	自宅・寮・下宿	平成19年 4月 7日から（　　）
	変更	自宅・寮・下宿	平成　年　月　日から（　　）
		自宅・寮・下宿	平成　年　月　日から（　　）

「学生指導要録」

ID-GP001-2

学生指導要録

作成：H24/06/21 09:40　2/2

学　科	建築学科	学生氏名	[redacted]	学籍番号	[redacted]

(6)学習の記録

科目名	総単位	第1学年			第2学年			第3学年			第4学年			第5学年		
		単位	評点	評語	単位	評点	評語	単位	評点	評語	単位	評点	評語	単位	評点	評語
一般科目																
国語	8	3	87	優	3	85	優	2	83	優						
地理	2	2	91	優												
倫理社会	2				2	82	優									
日本史	1				1	92	優									
世界史	2							2	88	優						
法学	2										2	95	秀			
数学	18	6	86	優	6	81	優	6	87	優						
物理	5	2	79	良	3	89	優									
化学	5	3	77	良	2	80	優									
保健	1	1	90	優												
体育	6	2	80	優	2	84	優	2	95	優						
英語	18	6	85	優	5	93	優	4	88	優	2	90	秀	1	89	優
#体育	2										2	93	秀			
#ドイツ語	2													2	84	優
美術	2	2	80	優												
サスティナビリティ学	1							1	93	優						
コミュニケーション実践	2										2	91	秀			
#英会話Ⅰ	2							2	82	優						
専門科目																
応用物理	4							2	87	優	2	92	秀			
建築一般構造	1	1	86	優												
建築材料	2							2	81	優						
鉄筋コンクリート構造	2													2	63	可
建築史	2										2	85	優			
建築環境工学	3							2	94	優	1	97	秀			
図学	1	1	82	優												
都市計画	2													2	79	良
建築法規	1													1	90	秀
土質基礎工学	1													1	85	優
#建築防災工学	1													1	78	良
#特別設計演習	2													2	77	良
鋼構造	2										2	76	良			
建築概論	1	1	89	優												
建築総合演習	2													2	80	優
建築製図	2	2	81	優												
#海洋建築	1													1	85	優
建築設計演習Ⅲ	5										5	91	秀			
建築構造力学Ⅱ	2										2	85	優			
#応用数学Ⅱ	1													1	60	可

科目名	総単位	第1学年			第2学年			第3学年			第4学年			第5学年		
		単位	評点	評語	単位	評点	評語	単位	評点	評語	単位	評点	評語	単位	評点	評語
建築ＣＡＤ	2							2	88	優						
コンピュータリテラシー	1	1	86	優												
建築工学実験	2										2	79	良			
#測量学	1													1	81	優
建築計画Ⅰ	1							1	90	優						
建築計画Ⅱ	1										1	95	秀			
建築計画Ⅲ	1													1	84	優
建築設計演習Ⅱ	6							6	81	優						
建築設備Ⅰ	1										1	76	良			
建築設備Ⅱ	1													1	77	良
建築構造力学Ⅰａ	2							2	90	優						
建築構造力学Ⅰｂ	1							1	84	優						
#知的財産	2													2	78	良
#応用数学Ａ	2										2	100	秀			
#学外実習Ⅱ	2										2	91	秀			
卒業研究	8													8	82	優
建築設計演習Ⅳ	2													2	80	優
建築構造力学Ⅲ	1													1	77	良
建築生産	2													2	79	良
#建築構造解析	1													1	84	優
インテリア・デザイン	1				1	72	良									
情報処理演習	2				2	86	優									
建築設計演習Ⅰ	5				5	80	優									
環境問題現地研究	2				2	86	優									

総単位	169	33	34	37	30	35
総合評価	平均	84.2	84.2	87.4	89.1	79.6
	席次	41人中3位	40人中4位	39人中4位	39人中3位	35人中16位

資料９－１－①－２（続き）

「学生指導要録」

ID-GP001-1

学生指導要録

作成：H24/06/21 09:39　1/2

(1)学籍の記録

学生	学科	建築学科	学籍番号	[redacted]		
	氏名	[redacted] 旧姓（　　）	性別	男		
	生年月日	[redacted]				
	現住所	〒[redacted]				
	出身学校	[redacted]中学校				
	本校入学年月日	平成19年04月07日				
	入学後の異動	休学				
		原級				
		退学				
		転学				
	本校卒業年月日	平成24年03月15日				
	卒業後の進路					
保証人	氏名	[redacted]	学生との関係	父		
	現住所	〒[redacted]				

(2)本校入学試験の記録

入学区分	推薦					
学力検査の成績	国語	社会	数学	理科	英語	総得点
	0	0	0	0	0	0

(3)校長氏名・学級担任氏名

	第1学年 平成19年度	第2学年 平成20年度	第3学年 平成21年度	第4学年 平成22年度	第5学年 平成23年度
校長	岸 浪 建 史	岸 浪 建 史	岸 浪 建 史	岸 浪 建 史	岸 浪 建 史
学級担任	小谷 泰介	西澤 岳夫	三森 敏司	鈴木 邦康	鈴木 邦康

(4)出欠の記録

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年
授業日数	175	175	175	175	175
出席停止・忌引等日数	1	1	1		4
出席しなければならない日数	174	174	174	175	171
欠席日数				2	
出席日数	174	174	174	173	171
遅刻回数		2	1		

(5)賞罰

日付	内容	委員会別

資料９－１－①－２（続き）

「最終学業成績一覧票」

ID-SP004-5

認定会議用成績一覧表

1-1組　H23年度　＃：選択科目、‥：選択未履修、＊：60点未満、'00：再試験結果合格点、＋：再試験結果欠点の者、－：再試験非該

No	学生氏名	国語	倫理社会	数学	物理	化学	保健	体育	英語	＃音楽	＃美術	リテラシー	技術者基礎	ものづくり基礎	平均	順位
1		76	84	86	87	69	97	75	71	‥	90	89	86	91	83.4	5
2		82	83	82	77	71	98	71	90	‥	70	87	86	85	81.8	7
3		79	80	71	68	60	91	75	71	83	‥	60	83	86	75.6	29
4		69	65	+49	62	60	98	90	75	79	‥	85	84	86	75.2	30
5		'60	70	67	74	78	78	73	60	65	‥	82	74	86	72.3	32
6		75	77	78	94	84	83	79	60	‥	70	92	85	88	80.4	14
7		66	77	75	63	60	95	86	64	‥	70	94	88	88	77.2	25
8		74	86	'60	63	60	92	80	71	75	‥	96	89	87	77.8	20
9		78	83	72	80	69	98	86	80	‥	70	90	79	88	81.1	10
10		90	93	94	96	88	92	79	98	‥	70	97	93	90	90.0	2
11		75	80	78	78	65	91	75	73	‥	70	92	87	90	79.5	15
12		72	80	64	67	67	90	79	76	‥	78	94	80	83	77.5	22
13		'60	69	+45	66	'60	85	84	60	‥	70	89	77	87	71.0	34
14		72	81	70	68	68	75	90	79	64	‥	89	85	87	77.3	23
15		64	80	78	72	74	85	73	62	85	‥	83	82	89	77.3	23
16		74	86	68	65	'60	93	73	85	80	‥	88	83	85	78.3	19
17		75	80	83	77	70	98	74	80	‥	80	93	85	91	82.2	6
18		'60	63	62	'60	'60	83	79	60	‥	70	86	70	89	70.2	35
19		75	87	67	79	71	90	77	83	‥	83	93	85	88	81.5	8
20		76	90	85	86	70	90	75	85	82	‥	85	90	89	83.6	4
21		68	74	64	72	60	86	73	75	‥	75	83	76	88	74.5	31
22		77	86	72	78	71	91	85	76	‥	73	94	85	89	81.4	9
23		63	82	65	82	63	94	75	65	‥	90	89	85	90	78.6	18
24		72	74	74	68	'60	81	79	80	90	‥	90	89	87	78.7	17
25		65	72	91	77	62	83	75	89	‥	70	77	84	86	77.6	21
26		75	80	80	83	85	91	75	89	89	‥	93	89	91	85.0	3
27		73	83	76	84	64	96	83	84	‥	70	80	86	90	80.8	12
28		65	76	+31	'60	'60	75	73	60	‥	70	78	81	87	68.0	36
29		70	77	67	77	60	90	80	70	79	‥	83	84	89	77.2	25
30		75	75	77	73	82	87	73	87	‥	70	92	86	89	80.5	13
31		80	85	'60	'60	'60	75	73	72	‥	70	96	89	88	75.7	28
32		65	86	67	73	72	84	85	79	73	‥	92	81	88	78.8	16
33		78	80	76	78	73	86	80	85	‥	75	85	87	90	81.1	10
34		69	70	74	77	67	76	75	70	87	‥	75	84	90	76.2	27
35		67	80	+57	'60	'60	80	75	74	‥	70	80	79	86	72.3	32
36		94	99	96	96	92	94	80	96	89	‥	89	93	90	92.3	1
37		66	66	+45	+44	'60	78	75	62	‥	70	60	68	82	64.7	38
38		68	68	+39	+42	'60	83	76	60	‥	72	71	78	90	67.3	37
	平　均	72	79	70	73	68	88	78	75	80	74	86	84	88	78.0	

（出典　学生課資料）

資料９－１－①－３

「成績一覧」　（抜粋）

成績入力
欠課入力
成績照会
欠課照会
学年別欠課照会
学生照会
履修照会
出席簿照会
授業回数照会
履歴照会
設　定
終　了

ご意見・ご希望

平成24年　前期中間　教務事務システム Ver 1.04

平成23年度 学年・期：3年 認定会議用　学科/専攻：情報工学科 （1年生は4組）　検 索　テキスト出力

成績照会

#：選択科目、‥：選択未履修、*：60点未満、'00：再試験結果合格点、+00：再試験結果欠点の者、-：再試験非該当者

No	氏名	国語	世界史	数学	体育	英語	サスティナビリテ	#英会話1	プログラミング2	論理回路	アルゴリズム論	電磁気学	情報工学実験1	ネットワーク1	応用物理	平均	順位
	[redacted]	87	77	77	85	77	83	‥	82	78	91	66	95	86	86	82.3	12
		68	73	65	80	72	74	‥	82	67	60	74	91	86	67	73.8	21
		88	74	76	75	84	78	85	83	94	90	85	95	82	91	84.3	8
		70	73	60	77	60	69	‥	77	60	60	60	91	60	60	67.5	29
		73	87	77	85	84	81	‥	79	82	79	78	93	86	75	81.5	13
		86	94	92	90	92	87	83	93	87	96	95	98	90	97	91.4	3
		66	72	'60	85	60	67	‥	65	60	'60	60	60	75	62	65.5	35
		75	71	67	71	63	88	‥	'60	60	+46	69	74	'60	60	66.5	33
		62	72	'60	74	60	76	‥	69	60	75	'60	90	75	'60	68.7	25
		*35	68	*50	78	*35	60	‥	*59	*27	*40	*37	*44	*50	*48	48.5	41

（出典　学生課教務事務システム）

資料９－１－①－４

「釧路工業高等専門学校学生委員会規程」　（抜粋）

第２条 委員会において審議する事項は，次のとおりとする。

一 学生の補導に関する事項

二 学生の福利厚生に関する事項

三 学生の課外活動に関する事項

四 授業料及び寄宿料の免除に関する事項

五 入学料免除に関する事項

六 独立行政法人日本学生支援機構の奨学生の選考に関する事項

七 その他学生の厚生補導に関する事項

（出典　釧路高専規程）

資料９－１－①－５

「釧路工業高等専門学校寮務委員会規程」　（抜粋）

第２条 委員会において審議する事項は，次のとおりとする。

一 寮生の補導に関する事項

二 寮生の福利厚生に関する事項

三 その他学寮に関する重要事項

（出典　釧路高専規程）

資料９－１－①－６

「平成２３年度　第４回評価専門委員会議事録」　（抜粋）

日　時　平成２４年3月１２日（月）　１３：００～
場　所　会議室
出席者　１１名　　欠席者　８名

議題

１　平成２３年度 年度計画に基づく各部署の達成度評価について

委員長から，資料に基づき，各委員会から提出された評価について，次の事項に基づいて修正案が提案された。また，委員から他の修正等の意見があり，審議の結果，別紙赤字部分のとおり修正したうえで了承された。

主な修正点は，

①年度評価のため，体裁を過去形とした。
②詳細な日程は本評価に記載せず，後でエビデンスに記載する。
③今後検討する事項は，「残された課題と今後の計画」に記載した。
④重複して記載している事項はどちらかにまとめた。
⑤簡潔な表現に変更した。

なお，委員長から，高専機構へ２３年度実績報告（青字部分）を提出するにあたり，各委員会の評価を受けて，校長，副校長，部長で審議・記載し，校長室に提出する。
高専機構へ提出する実績報告の記載を受けて，最終的な評価（実績報告部分）の記述が変更することもある旨が報告された。

また，最終的な評価一覧は，３月２６日運営会議で審議することになっている旨が報告され，審議前に最終的な評価一覧（案）を評価専門委員会委員に周知することとした。

２　平成２３年度年度計画達成度評価の公表について

委員長から，評価の公表については，例年通り本校公式ＨＰに評価一覧表を自己点検評価として掲載することが提案され，了承された。

３　次年度の申し送り事項について

平成２４年度に申し送りする事項については特に意見がなく，委員長から次年度の評価の実施について協力依頼があった。

４　その他

なし

（出典　H24.3　評価専門委員会議事録）

資料９－１－①－７

「年度計画活動経過・結果報告書の例」

釧路高専　平成23年度　年度計画　活動経過･結果報告書 期間:平成23年　4月～24年　3月	平成　　年　月　　日 責任部局(連携部局等):教務委員会

【高専機構中期計画】

(2) 教育課程の編成等

③ 各分野において基幹的な科目について必要な知識と技術の修得状況や英語力を把握し，教育課程の改善に役立てるために，学習到達度試験を実施し，試験結果の分析を行うとともに公表する。また，英語については，TOEICなどを積極的に活用し，技術者として必要とされる英語力を伸長させる。

【高専機構年度計画】（２）－③－１

(2) 教育課程の編成等

③ 教育の改善に資するため、基幹的な科目である「数学」、「物理」に関し、学生の学習到達度を測定するための各学校共通の「学習到達度試験」を実施する。また、その試験結果について公表を行う。「英語」については、各学校における TOEIC の活用状況を調査し、その事例を各学校に周知する。

【釧路高専の中期計画】

(2)教育課程の編成等に関する措置

④英検から TOEIC へ移行する準備を進め、23 年度実施を目途に検討する。

【２３年度　釧路高専責任部局等の年度計画（具体的な方策）】

・学習到達度試験に参加する.

・専攻科１年「総合英語 1」,「総合英語２」及び本科４年「英語演習」に TOEIC の e-Learning 教材を継続導入する。

・TOEIC 教材の導入による専攻科学生の英語教育を充実する。

【達成状況（計画の進行状況）】**進行状況を示すデータ及び関連するデータを別紙に記載すること。**

（達成状況の概要を箇条書きで記載してください。）

・専攻科１年「総合英語 1」,「総合英語２」及び本科４年「英語演習」に TOEIC の e-Learning 教材を継続導入した.

・TOEIC 教材の導入による専攻科学生の英語教育を充実した.

評　価：Ⅲ

評価：年度計画を上回って実施している（Ⅳ），年度計画を十分に実施している（Ⅲ），
年度計画を十分には実施していない（Ⅱ），年度計画を実施していない（Ⅰ）

【残された問題と反映させるべき課題】

機構本部通知により，専攻科修了要件，科目修得要件から外部資格を除外しなければならないため，平成２４年度からシラバスの変更が必要である.

（出典　H24.2　定例教務委員会議事録資料９）

資料９－１－①－８

「外部有識者による委員会」

○釧路工業高等専門学校運営諮問委員会規則

（平成16年９月21日制定）

改正　平成19．１．９　平成19．４．26釧高専達第26号

（設置）

第１条　釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，釧路工業高等専門学校運営　諮問委員会（以下「諮問委員会」という。）を置く。

（目的）

第２条　諮問委員会は，校長の諮問に応じ本校運営上の重要事項を審議し，校長に対し意見を述べる。

２　校長は，諮問委員会からの意見を，本校の運営に反映させるものとする。

（審議事項）

第３条　諮問委員会は，次の各号に掲げる事項について，審議する。

（１）　教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する重要事項

（２）　教育研究活動等の状況について本校が行う評価に関する重要事項

（３）　その他本校の運営に関する重要事項

（組織）

第４条　諮問委員会は，本校の教職員以外の者で，高等専門学校に関し見識を有する者の　うちから，校長が委嘱する委員をもって組織する。

（委員長）

第５条　諮問委員会に委員長を置き，その委員長は委員の互選をもって充てる。

２　委員長は，諮問委員会の会務を総理する。

３　委員長に事故があるときは，あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

（任期）

第６条　委員の任期は２年とする。ただし，再任を妨げない。

２　前項の委員に欠員を生じた場合の後任の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

（開催）

第７条　諮問委員会は，委員長が招集し開催する。

（委員以外の者の出席）

第８条　諮問委員会が必要と認めるときは，委員以外の者の出席を求め，意見又は説明を　聴くことができる。

（審議状況の公表）

第９条　校長は，諮問委員会の審議状況を，広く周知を図ることができる方法によって公　表しなければならない。

（事務）

第10条　諮問委員会の事務は，総務課において処理する。

（雑則）

第11条 この規則に定めるもののほか，諮問委員会の運営に関し必要な事項は，諮問委員会　が定める。

（出典　釧路高専規程）

資料９－１－①－９

「運営諮問委員会実施例」

第８回　釧路工業高等専門学校運営諮問委員会実施要領

１．運営諮問委員との事前打ち合わせ及び懇談会

平成 23 年 6 月 8 日（水）12:00-12:50　校長室

２．運営諮問委員会

第一部　釧路高専の教育の現状と課題「専攻科のあり方」

日　時　　平成 23 年 6 月 8 日（水）13：00～15：00

場　所　　大講義室

出席者　　運営諮問委員会委員、釧路高専全教職員

内　容　　テーマ：専攻科の現状と今後のあり方

13:00　　開会の辞（総務課長）

13:01-13:03　開会の挨拶 校長

13:03-13:05　委員の紹介（総務課長）

13:05-13:10　第一部の進行要領等説明：

加藤（岳）学生主事、質問記録：小田島教員

13:10 -13:25　釧路高専専攻科の現状（神谷専攻科長）

13:25-13:40　各専攻の現状と課題（佐藤建設・生産システム工学専攻長）

13:40-13:55　〃　（大貫電子情報システム工学専攻長）

13:55-14:10　専攻科教育と JABEE 認定・認証評価の関係性

（中村総務・教務担当副校長）

14:10-14:25　専攻科における一般教養教育への提言（国語科：舘下教員）

14:25-14:40　〃　（社会科：藤本代表教員）

14:40-14:50　質疑応答（加藤（岳）学生主事）

14:50　　第一部閉会の辞（総務課長）

＜留意事項＞

① プレゼンテーション資料はＰＰＴファイルで１０枚程度とする（前年度と同じ）。

① 専攻科カリキュラム・ＪＡＢＥＥ認定を参照して課題を取り上げる。

② 課題に関しては卒業生の意見（アンケート）等を活用して纏める事が望ましい。

会議資料の作成準備：

原稿提出締め切り：平成２３年５月２０日(金)

提出先：釧路高専総務課

提出先：総務課総務係（データによる提出）

（出典　第８回（平成 23 年６月８日）運営諮問委員会　通知）

資料９－１－①－10

「教育改善等に関する点検を示す資料」

平成２３年度 第７回 教育システム評価改善委員会

日　　時　　平成２４年３月２３日（金）　13:10～
場　　所　　会 議 室

１．報告事項
（１）その他

２．審議事項
（１）H23年度活動計画の総括について …… 資料１
（２）その他

３．その他
（１）その他

（出典　H23.７　第７回 教育システム評価改善委員会議事録）

（分析結果とその根拠理由）

答案等は各教員，教育の状況に関する資料は各担当事務組織により収集・蓄積されている。また，教務事務システムを導入により，教務データの収集・蓄積が電子的に行われている。各種委員会は年度計画の達成度の評価を行い，評価専門委員会に報告することとしている。学内の点検・改善活動を客観的に点検するために，外部有識者により構成される運営諮問委員会を設置している。定常的な点検・改善活動は教育システム評価改善委員会が所掌し，点検結果と改善提案を運営会議の議を経て各種委員会に提言することとしている。

以上のことから，教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され，評価を適切に実施できる体制が整備されている。

観点９－１－②：　学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており，それらの結果をもとに教育の状況に関する自己点検・評価が，学校として策定した基準に基づいて，適切に行われているか。

（観点に係る状況）

学生の意見を取り入れるために，意見箱を設置して学生や寮生の意見を収集し，それらの結果に基づいて教務員委会や寮務委員会において教育に関する自己点検・評価を行っている（資料９－１－②－１，２）。学生の意見を取り入れるために，教務委員会が行う授業評価アンケート（資料９－１－②－３）や達成度評価アンケートへの自由意見の記述の収集がある（資料９－１－②－４）。また，

各クラス担任による学生指導，クラブ顧問によるクラブ指導，学生委員会による学生指導，寮務委員会による寮生指導，「校長が学生の声を聞く会」（資料９－１－②－５）における話し合いなど，日常的な種々の教育活動の中で学生の意見の収集を行って，これらの結果は教務委員会や学科会議などを通じて教育や学生指導に関する自己点検・評価を行っている。

教職員の意見は各種委員会の活動や全体の教員会議を通じて収集し，その結果に基づいて各員会において教育の自己点検や評価を行っている（資料９－１－②－６，７）。授業参観や保護者懇談会等で保護者の意見を収集している（資料９－１－②－８，９）。社会の意見を収集するために，学外有識者を委員とする運営諮問委員会における提言として取り入れること（資料９－１－①－９）や，進路指導委員会が行う企業説明会において参加企業からの意見を聴取するアンケート調査（資料９－１－②－10）がある。

資料９－１－②－１

「平成 23 年度 9 月定例教務委員会議事録」　（抜粋）

資料 15
教務委員会
H23.9.5

７月２１日に意見箱に投函された意見への回答

投函された意見	回　答
品質工学は実験を効率よくできるようにする手法で卒研前にあったほうがよいのでは？	専攻科の授業科目「品質工学」は，専攻科の特別研究テーマによって有効であるため，現状では専攻科１年前期の専門共通選択科目として設けられている。この授業は本科の卒業研究テーマによっても有効であることが考えられる。しかしながら，本科目はすべての卒業研究テーマに有効であるとは限らないので，本科の授業科目として設置すべきか，設置する場合，選択とするか，必修とするか，本科ではすでに多くの科目が設置されているので，本科の全体の科目のバランスを考えながら，学科ごとに検討する必要がある。 今回の意見を各学科に連絡し，卒業研究の効果的な実施のために必要な科目設定について検討してもらうことにする。

（出典　　H23.９　定例教務委員会議事録）

資料９－１－②－２

「平成 23 年度 第三回ブロック会議関係検討事項(7 月)」

(7) 意見箱から

① 最近，居室の窓からごみや，液体等の投棄で下の階の居室に迷惑がかかっているとの苦情がありました。ごみ等の廃棄物はマナーを守って所定の場所に捨てるよう気を付けること。

② 今後も状況が改善されないような場合には，個別の指導をすることになります。

③ 毎日の点呼は，点呼当番が A 棟から順に行っています。C･D 棟の点呼が遅くなる場合もありますが，点呼をスムーズに行うために協力し，居室前で静かに待つようにすること。

(8) 女子寮のカードキーの提出と門限について

① 女子寮の 1･2 年生は 21:00 までにカードキーを提出することになっています。度々カードキーを提出していない場合がありますので，提出時間を厳守すること。

② 最近，21:00～22:00 の間にカードキーを持たずに外出し，玄関を内部の学生に開けてもらっているケースがありました。特に 1･2 年生は門限以降のこのような行為は禁止されています。

③ 今後このようなことがあった場合は，門限違反とそのほう助として，1･2 年生は主事注意(3 年以上は始末書)となります。寮生活では，決められたルールを守り，また，ルール違反を手助けすることの無いようにして，個々の自己管理の習慣を身に着けること。

□ 担当と会議場所，日時について

ブロック幹部会議

ブロック名	担当教員	ブロック長／副ブロック長	日時，会議場所
AB 棟 2 階	西澤	5A [redacted] ／4M [redacted]	7/7 19:40～，学習室
AB 棟 3 階	千田	5E [redacted] ／4A [redacted]	7/7 19:40～，学習室
CD 棟 1 階	木村	5E [redacted] ／4M [redacted]	7/7 19:40～，CD1 談話室
CD 棟 2 階	前田	4M [redacted] ／3M [redacted]	7/7 19:40～，CD2 談話室
CD 棟 3 階	小松	5E [redacted] ／4D [redacted]	7/7 19:40～，CD3 談話室
EF 棟	中島･宮毛	5A [redacted] ／4A [redacted]	7/7？

ブロック会議

ブロック名	担当教員	ブロック長	日時，会議場所
AB 棟 2 階	片岡	5A [redacted]	7/11 19:40～，食堂
AB 棟 3 階	片岡	5E	7/11 20:00～，食堂
CD 棟 1 階	山形	5E	7/11 19:40～，大学習室
CD 棟 2 階	山形	4M	7/11 20:00～，大学習室
CD 棟 3 階	山形	5E	7/11 20:20～，大学習室
EF 棟	中島･宮毛	5A	7/11 19:40～，事務室前

資料９－１－②－３

「2010 年度授業評価アンケート結果」

2010年度授業評価アンケート結果

4-d ディジタル信号処理,中村　隆

NO	質問	5	4	3	2	1	:5 :4 :3 :2 :1	平均
q1	シラバスは，授業の目標，内容，評価方法を明快に示していた。 「5.強くそう思う・4.そう思う・3.どちらともいえない・2.そうは思わない・1.強くそう思わない」	19	13	3	1	1		4.3
q2	授業はシラバスに沿って行われていた。 「5.強くそう思う・4.そう思う・3.どちらともいえない・2.そうは思わない・1.強くそう思わない」	21	11	3	0	2		4.32
q3	教員の熱意が感じられた。 「5.強くそう思う・4.そう思う・3.どちらともいえない・2.そうは思わない・1.強くそう思わない」	20	13	2	1	1		4.35
q4	教員の話し方（声の大きさと明瞭さ）は聞き取りやすかった。 「5.強くそう思う・4.そう思う・3.どちらともいえない・2.そうは思わない・1.強くそう思わない」	20	12	3	0	2		4.3
q5	授業は良く工夫され，わかりやすかった。 「5.強くそう思う・4.そう思う・3.どちらともいえない・2.そうは思わない・1.強くそう思わない」	16	13	6	1	1		4.14
q6	プロジェクタ，ビデオ，プリント，教科書等補助教材の利用が適切で理解に役立った。 「5.強くそう思う・4.そう思う・3.どちらともいえない・2.そうは思わない・1.強くそう思わない」	18	12	4	1	2		4.16
q7	教員は効果的に学生の参加（発言，作業，私語・居眠りに対する注意など）を促した。 「5.強くそう思う・4.そう思う・3.どちらともいえない・2.そうは思わない・1.強くそう思わない」	17	14	4	1	1		4.22
q8	教員は学生の質問・発言等に明快に答えてくれた。 「5.強くそう思う・4.そう思う・3.どちらともいえない・2.そうは思わない・1.強くそう思わない」	24	10	1	0	2		4.46
q9	小テスト・演習・課題・定期試験の解説・添削は適切で理解に役立った。 「5.強くそう思う・4.そう思う・3.どちらともいえない・2.そうは思わない・1.強くそう思わない」	20	10	5	1	1		4.27
q10	自分にとって，この授業の難易度は適切であった。 「5.　適切　4.ほぼ適切　3.やさしい　2.やや難しい　1.難しい」	13	14	0	7	3		3.73
q11	自分のこの授業の試験点数（素点）は，小テスト・定期試験含めて100点満点で平均（　　）であった。 「5.　100～90点　4.　89～70点　3.　69～50点　2.　49～30点　1.　29点以下」	8	16	10	1	2		3.73
q12	自分にとって，この授業の理解の程度は（　　）程度であった。 「5.　100%，4.　80%，3.　60%，2.　40%，1.　20%」	3	21	9	1	3		3.54
q13	この授業の自分の欠席率は（　　）程度であった。 「5.　欠席なし，　4.　5%以下，　3.　5～10%，　2.　10～15%，　1.　20%以上　」	17	9	7	1	3		3.97
q14	質問，発言，演習，宿題，予習などにより，あなたはこの授業に積極的に参加したと思いますか。 「5.強くそう思う・4.そう思う・3.どちらともいえない・2.そうは思わない・1.強くそう思わない」	9	13	10	2	3		3.62

（出典　学内向け情報ホームページ／学生課／修学支援係／授業評価アンケート）

資料９－１－②－４

「学習目標の設定に関するアンケート」

本校の学習目標の設定に関するアンケートについて（4年生）

資料８－１
教務委員会
H23.9.5

あなたは，本校の在学生として，本校の本科の学習目標の設定について適切だと思いますか．
目標ごとに以下の表に記入して答えてください．
1)「適切／不適切」欄に適切であれば○，不適切であれば×を記入してください．
2) 不適切（×）と記入した場合，不適切理由を記入してください．（MEDJAは，所属学科）
3) 自由記述：感じたことを記入してください．（MEDJAは，所属学科）

目標	○	×	合計	不適切理由	自由記述
A	202	3	205	M1: 知ることは大事だが，そこまで学ぶべきものではない。 M2: こういった内容の授業を受けている気がしない。 A: 歴史や専門知識は習ったが，どう使えばいいかわからない	E: 文化や価値観の多様性をかかげるのならば，もっと英語などの語学教科を充実させるべき D: 不適切な理由が見あたらない。
B	199	6	205	M1: 具体的に社会のどういった問題を解決できるか書かれていない。 M2: 平社員はそこまでのことを考えなくてよい。 M3: 地域の話があまり出てこない。 D: 特定の部活動又はボランティア等でのみでしか貢献できていないと思うため。 J1: 地域の産業？ J2: 地域に基づいた学習をしていない。	D: 不適切な理由が見あたらない。 A: 学習目標として良いと思うけど，実際に身についているのか
C	202	3	205	M1: その基礎知識は学んでも会社であまり使わない。 M2: 数学の79点満点は難しい。 J: 分かりにくい。	M: 2年数学Bベクトルは不十分 D: 不適切な理由が見あたらない。
D	202	3	205	M: 会社に入っても応用するまでの能力は求められていない。 D: 学んだことを使う場面が少ない。 J: 分かりにくい。	M: CとDは，ほぼいっしょなのでは？ D: 不適切な理由が見あたらない。
E	201	4	205	M: それは会社に入ってからでも十三分に学べる。 E: チームワークは社会に出てからみにつけるものだとおもう J: 共同作業教科がない。 A: 個人のものが多く，チームにはなれてない。	D: 不適切な理由が見あたらない。
F	199	6	205	M1: 英語は普通の平社員では不必要。むしろ，ちゃんとした日本語の使い方などを学ぶべき M2: 国語はある程度，力を入れていると見えるが，英語が不十分。もっと文学に力を入れるべき。 J1: 英語の学習が不十分。英検・TOEICのみの選択式の学習ではなく，根本的な学習をしたい。 J2: 発言できる教科が少ない。 J3: 英会話のコミュニケーションの基礎が身につかない。 A: 英語のテストが暗記になって，全然身につかない。	D1: 不適切な理由が見あたらない。 D2: 英語の勉強内容をもう少し質を上げてほしい。 J: 基本的な英会話によるコミュニケーションを行うために，英会話を必修にしてはどうですか。
G	202	3	205	M1: 平社員にそこまでの能力は求められていない。 M2: ()内には対応できていない。 D: あくまで感想ですが，全体を見ると習慣づいてないと思います。	D: 不適切な理由が見あたらない。

（出典　H23.9　定例教務委員会議事録）

資料９－１－②－５

「学生の声を聞く会の記録」　（抜粋）

資料 15
教務委員会
H22.2.4

学生の声を聞く会／校長室　H22.1.28

	要望	各クラスからの意見	各担当からの回答	校長回答
		習熟度別（英語）が習熟度別に分かれていない。		3年生は教室の中でもレベルの差があるとのこと。それは有り得るんじゃないか。先生はある尺度で分けたと思うが，学生に説明する責任がもしかしたらあったかもしれない。
		教科書どおりにテストで解答したら×を付ける先生がいる。		先生なりの授業をしていて，教科書と違う方法で教えるところもあり，教科書で勉強した人がテストの時に先生の教えたやり方で解答しないと×になるとのこと。電気科にいる先生。ちょっと調査します。
		表記トレーニング（国語）廃止して欲しい。		学生会としては3人ともあっても良いと思うとのこと。ただ，そういう意見の学生がいたと言うことは聞いておく。

（出典　H22.2　定例教務委員会議事録）

ジャンル	意　見	公式回答
教務	習熟度別（英語）が習熟度別に分かれていない。	英語科に伝え、習熟度別の見直し、授業内容の見直しをしてもらいます。
	教科書どおりにテストで解答したら×を付ける先生がいる。	調査します。
	表記トレーニング（国語）廃止して欲しい。	将来、諸君が社会人として自立する上で必要な内容だと考えます。

（出典　Web サイト http://www.office.kushiro-ct.ac.jp/~gakusei/koewokikukai/h21koe.pdf
（出典　「平成 21 年度学生の声を聞く会」学内ホームページ））

資料９－１－②－６

「平成 23 年度７月定例教務委員会議事録」　（抜粋）

・　高木委員から，今現在，中間試験の成績通知書の保護者への送付は，学級担任に任せられているが，期末試験同様，学校として全クラス分送付することとしてはどうか，との意見が出された。

　また，委員長からは，中間試験の成績をすべて総合点で提出することについても提案があり，これらの件について，各学科等の意見を伺うこととした。

（出典　H23.7　定例教務委員会議事録）

資料９－１－②－７

「平成 23 年度７月教員会議議事概要」　（抜粋）

４．公式ＷＥＢサイトの更新について

草苅校務主事から，資料５に基づき公式ＷＥＢサイトの更新について説明を行った。これについて、高橋剛教員から、今後各教員からいただいた意見を反映をし、９月末までにリニューアル作業を行うので、今後も協力願いたい旨発言があった。また検証チームの役割について野口研究企画主事から説明があり、岩渕副校長から全体的なリニューアル作業の進め方について説明を行った。

また、草苅校務主事から、ＷＥＢの人気投票について説明を行った。

（出典　H23.7　教員会議議事概要）

資料９－１－②－８

「保護者授業参観アンケート」　（抜粋）

Q3. 授業を参観した感想

学年学科	科　目	感　想
1	国語	先生が丁寧で静かだった。
1①	国語	たいへんおもしろかったです。
1①	国語	文章の書き方等、今までになく正確かつ文字を大切にする姿勢が伝わってくる授業でした。保護者にもプリントをいただければよかったと思います。
1①	国語	うちの息子には苦手な科目で、どうも集中していないような気が…。他の学生さんたちは真面目にやっていました。授業もきちんとされていたと思います。
1①	国語	良かったと思います。
1①	国語	とても静かな授業で、いい参観日でした。
1①	倫理社会	ジブリの例えでわかりやすく、おもしろかったです。

（出典　H23.12　定例教務委員会議事録）

資料９－１－②－９

「保護者懇談会記録」　（抜粋）

【帯　広】　参加者５７名	
息子はＭａｃが良いと言っているがパソコンの購入でおすすめ機種は何か。	建築ＣＡＤ室はｉＭＡＣである。慣れるという点ではおすすめかと思うが，詳しくは学科の授業担当教員に確認していただきたい。
アイスホッケー部に所属しており，公用車が使えないことから昨年に比べ，負担が増加している。何とか配慮していただきたい。	部活は原則受益者負担ではあるが，特殊な部活は考慮していきたい。各分野の公用車の使用事例調査が終わり，今後は他高専の情報も収集し対応を検討したい。

（出典　H23.9　定例教務委員会議事録）

資料９－１－②－10

「企業アンケート」

企業アンケート　　2010.11.01

― 釧路工業高等専門学校の教育システムの改善のためご協力願います。―

※本アンケートは本校の教育システムの改善の資料とするためのもので，記入された企業名や個人名等の個人情報等については，外部への公表をするものでありません。そのため忌憚のないご意見のご協力をお願い致します。

質問1．貴社の企業名をご記入ください。 [redacted]

質問2．貴社の従業員数を教えてください。

従業員数（５０人未満，５０～９９人，１００～４９９人，５００～９９９人，１０００人以上）

質問3．最近5 年間の高専全体の本科卒業生及び専攻科修了生の採用実績（人数）を教えてください。

①本科卒業生　（ なし，5 人未満，5 ～9 人，１０～４９人，５０人以上，わからない ）

②専攻科修了生（ なし，5 人未満，5 ～9 人，１０人以上，わからない ）

質問4．釧路高専の本科卒業生及び専攻科修了生に対する最近5 年間の採用実績（人数，主たる職種）を教えてください。

本科生

①採用人数（ なし，5 人未満，5 ～9 人，１０人以上，わからない ）

②主たる採用職種（農・林・漁業・食品技術者，機械・電気技術者（機械，電気，その他），情報処理技術者，その他技術者，管理的職業，事務従事者，販売従事者，サービス職業，運輸・通信，生産工程・労務作業員，上記以外）（複数回答可）

専攻科生

①採用人数（ なし，5 人未満，5 ～9 人，１０人以上，わからない ）

②主たる採用職種（農・林・漁業・食品技術者，機械・電気技術者（機械，電気，その他），情報処理技術者，その他技術者，管理的職業，事務従事者，販売従事者，サービス職業，運輸・通信，生産工程・労務作業員，上記以外）（複数回答可）

資料９－１－②－10（続き）

質問5．質問4 の本校の本科卒業生及び専攻科生についてお尋ねします。貴社から見た本校の教育成果を5 段階で評価してください。（数値を本科生，専攻科生欄に記入してください。）
優れている ‥ 5　やや優れている ‥ 4　普通 ‥ 3　やや劣る ‥ 2　劣る ‥ 1

	本科生	専攻科生
①日本語による論理的記述，口頭発表，討議能力	4	4
②人文・社会科学に関する知識	3	3
③数学・自然科学に関する知識	3	3
④情報技術に関する知識と活用能力	3	3
⑤英語によるコミュニケーションの基礎的能力	3	3
⑥経済，安全，環境などの社会・自然に及ぼす影響等について，問題点を認識できる能力	3	3
⑦専門分野に関する知識・態度・処理能力	4	4
⑧種々の知識・処理能力を統合し，もの・システムづくり等に応用できる能力	3	3
⑨自主的に課題を見つけ，継続的に学習できる能力	4	4
⑩与えられた課題に対して，計画的に物事を進め，まとめる能力	4	4
⑪積極性	5	5
⑫協調性	5	5
⑬礼儀正しさ，誠実さ	5	5

また，その他コメントがあればお聞かせください。

質問6．最後に本校の教育等全般についてご意見やご要望があればお聞かせください。

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

学生の意見は，意見箱の設置や授業評価アンケート，達成度アンケート，クラブ指導，学生指導，寮生指導，校長が学生の声を聞く会など，様々な形式で多くの意見を収集している。教職員の意見は，教務委員会や教員会議などを通じて収集している。また，保護者による授業参観や保護者懇談会，学外有識者を委員とする運営諮問委員会，企業アンケート等により，意見を収集している。教務委員会や寮務委員会などにおける意見収集結果に基づいた議論や，ウェブサイトでの教員間の情報共有により，教育の状況に関する自己点検・評価を適切に行っている。

観点９－１－③：　各種の評価の結果を教育の質の向上，改善に結び付けられるような組織としてのシステムが整備され，教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

本校のPDCAサイクル図を資料９－１－③－１に示す。同図に示されているように，本校の教育活動の評価改善に関する主な組織として，運営会議，教務委員会，教育システム評価委員会と評価専門委員会がある。

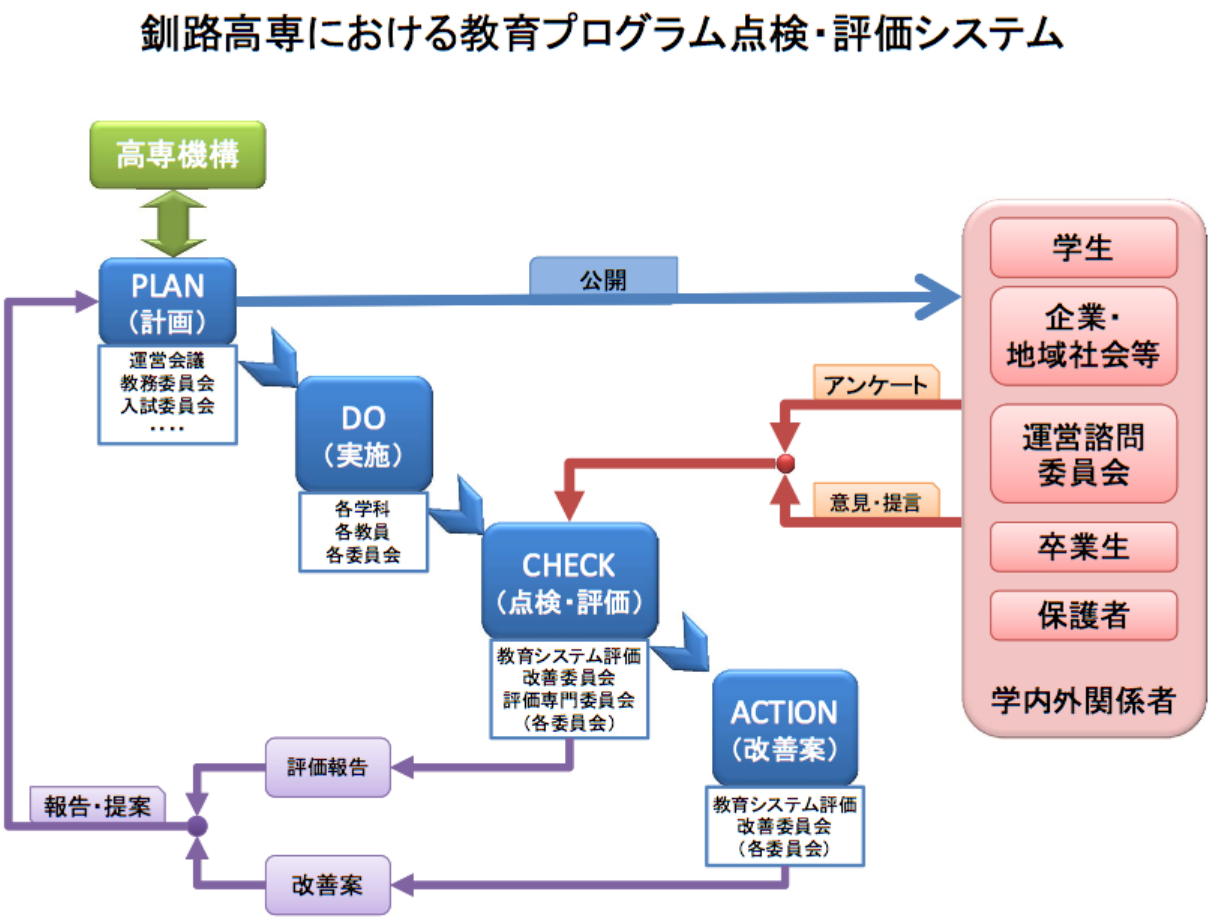
運営会議は資料９－１－③－２に示されているように，「本校の教育の目的を達成するための基本的な計画に関すること」と「自己点検評価に関すること」を所掌している。運営会議では，各委員会から提出される教育課程の見直し案や教育システム評価改善提案，年度計画達成度評価など，教育の評価・改善計画に関する基本事項を審議する（資料９－１－③－３）。

教務委員会は「教育課程の編成及び実施」，「授業評価」，「教育環境の改善」を所掌事項とし（資料９－１－③－４），教育改善を目的として教育課程の編成や（資料９－１－③－４），学生の授業アンケート評価に基づいた教員による改善提案の作成等を行っている（資料９－１－③－５）。

教育システム評価改善委員会は教育システムを常に点検・評価し，改善が必要とされる事項を抽出するとともに，自ら改善に関する方策を企画立案し，または関係の委員会等に対して改善要請を行うことを任務とする（資料９－１－③－６）。評価専門委員会では自己点検評価を実施し，その結果をまとめ自己点検・評価報告書を作成し公開する（資料９－１－③－７）。

資料９－１－③－１

「釧路高専における教育プログラム点検・評価システム」



（出典　学生課作成資料）

資料９－１－③－２

「運営会議規定」　（抜粋）

（設置）

第１条　釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）に運営会議（以下「会議」という。）を置く。

（目的）

第２条　会議は教育研究その他本校の管理運営に関する重要事項を審議し，校務の円滑な運営を図るものとする。

（審議事項）

第３条　会議は，次に掲げる事項を審議する。

一　本校の将来計画の企画立案に関すること。

二　本校の教育，研究上の目的を達成するための基本的な計画に関すること。

三　諸規則の制定及び改廃に関すること。

四　予算（概算要求を含む。）に関すること。

五　自己点検評価及び認証評価に関すること。

六　受託研究及び共同研究の受入れ，実施等に関すること。

七　寄附金の受入れに関すること。

八　国際交流に関すること。

九　釧路工業高等専門学校教育研究・国際交流振興基金の運用に関すること。

十　各委員会の審議事項のうちこの会議の議を経ることとなったものに関すること。

十一　その他本校の管理運営に関する重要事項

（組織）

第４条　会議は，次に掲げる者で組織する。

一　校長

二　副校長

三　主事

四　一般教育科長

五　一般教育科文系長

六　一般教育科理系長

七　学科長

八　専攻科長

九　センター長

十　図書館長

十一　事務部長

十二　課長及び技術長

十三　校長が必要と認めた者若干名

（出典　釧路高専規程）

資料９－１－③－３

「平成 24 年３月 26 日運営会議議事概要」　（抜粋）

2.釧路工業高等専門学校学則の一部改正について

学生課長から，資料B-2に基づき学則の一部改正について説明の上,審議の上了承された。

（中略）

10.平成23年度教育システム評価改善委員会活動方針最終改善案について

神谷専攻科長から，資料B-10でに基づき平成23年度教育システム評価改善委員会活動方針最終改善案について説明の上,審議の上了承された。

11.平成23年度釧路高専年度計画達成度評価について

中村教務主事から，資料B-11でに基づき平成23年度釧路高専年度計画達成度評価について説明の上,審議の上了承された。

（出典　H24.3　運営会議議事要録）

資料９－１－③－３（続き）

「機械工学科教育課程表　新旧対照表（平成 24 年度）」

教育課程表　新旧対照表（平成２４年度）

（　新　課　程　）

機械工学科　　平成２４年度改訂

区分	授業科目	単位数	学年別単位数 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必修科目	応用物理	4			2	2		
	メカトロニクスⅠ	1			1			
	※メカトロニクスⅡ	2				2		
	材料力学Ⅰ	2			2			
	材料力学Ⅱ	1				1		
	※機械力学	2				2		
	機械材料Ⅰ	2			2			
	※機械材料Ⅱ	2				2		
	材料評価学	1					1	
	熱力学Ⅰ	2				2		
	熱力学Ⅱ	1					1	
	コンピュータリテラシー	1	1					
	技術者基礎	1	1					
	※伝熱工学	2					2	
	流体工学Ⅰ	2				2		
	流体工学Ⅱ	1					1	
	※流体機械	2					2	
	機械工作法Ⅰ	1		1				
	機械工作法Ⅱ	2			2			
	生産工学	1				1		
	工業力学	2		2				
	機械設計法Ⅰ	2			2			
	※機械設計法Ⅱ	2				2		
	ＣＡＤ	1			1			
	ＣＡＤ／ＣＡＭ	1				1		
	※ＣＡＥ	2					2	
	※機械創造設計	2				2		
	機械設計製図Ⅰ	2		2				
	機械設計製図Ⅱ	2			2			
	※デジタルデザイン・コンペ	2					2	
	ものづくり基礎	4	4					
	機械工学実習・実験Ⅰ	3		3				
	機械工学実習・実験Ⅱ	3			3			
	機械工学実習・実験Ⅲ	3				3		
	機械工学実習・実験Ⅳ	2					2	
	電気電子工学	2				2		
	※制御工学	2					2	
	計測工学	2					2	
	制御ＣＡＤ	2					2	
	卒業研究	7					7	
	修得単位小計	81	6	8	17	24	26	
選択科目	学外実習Ⅰ	1				1		いずれか一方を選択することができる
	学外実習Ⅱ	2				2		
	応用数学基礎	2				2		4単位履入を必ず選択すること。
	応用数学Ａ	4				4		4単位履入を必ず選択すること。
	応用数学Ｂ	4					4	4単位履入を必ず選択すること。
	振動工学	1					1	
	表面工学	1					1	
	応用流体工学	1					1	
	生産システム工学	1					1	
	工業数学	1					1	
	熱エネルギー工学	1					1	
	※知的財産	2					2	
	応用数学Ⅱ	1					1	
	開設単位小計	22				(9)	(16)	
	修得単位小計	5以上				5以上		
専門科目開設単位計		103	6	8	17	(33)	(42)	
専門科目修得単位計		86以上	6	8	17	55以上		
一般科目修得単位計		81以上	27	24		30以上		
修得単位合計		167以上	33	32		102以上		

備考　※印は学則第１４条第２項に定める単位を示す。

区分	授業科目	単位数	学年別単位数 1年	2年	3年	4年	5年	備考
選択科目	特別講義Ⅰ	1						学年についてはフレキシブルに対応。単位数については修得単位合計にのみ含まれる。
	特別講義Ⅱ	2						
	特別講義Ⅲ	3						
	特別講義Ⅳ	4						

（　現　行　）

機械工学科　　平成２３年度改訂

区分	授業科目	単位数	学年別単位数 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必修科目	応用物理	4			2	2		
	メカトロニクスⅠ	1			1			
	※メカトロニクスⅡ	2				2		
	材料力学Ⅰ	2			2			
	材料力学Ⅱ	1				1		
	※機械力学	2				2		
	機械材料Ⅰ	2			2			
	※機械材料Ⅱ	2				2		
	材料評価学	1					1	
	熱力学Ⅰ	2				2		
	熱力学Ⅱ	1					1	
	コンピュータリテラシー	1	1					
	技術者基礎	1	1					
	※伝熱工学	2					2	
	流体工学Ⅰ	2				2		
	流体工学Ⅱ	1					1	
	※流体機械	2					2	
	機械工作法Ⅰ	1		1				
	機械工作法Ⅱ	2			2			
	生産工学	1				1		
	工業力学	2		2				
	機械設計法	2			2			
	※システム設計工学	2				2		
	ＣＡＤ	1			1			
	ＣＡＤ／ＣＡＭ	1				1		
	※ＣＡＥ	2					2	
	※機械創造設計	2				2		
	機械設計製図Ⅰ	2		2				
	機械設計製図Ⅱ	2			2			
	※デジタルデザイン・コンペ	2					2	
	ものづくり基礎	4	4					
	機械工学実習・実験Ⅰ	3		3				
	機械工学実習・実験Ⅱ	3			3			
	機械工学実習・実験Ⅲ	3				3		
	機械工学実習・実験Ⅳ	2					2	
	電気電子工学	2				2		
	※制御工学	2					2	
	計測工学	2					2	
	制御ＣＡＤ	2					2	
	卒業研究	7					7	
	修得単位小計	81	6	8	17	24	26	
選択科目	学外実習Ⅰ	1				1		いずれか一方を選択することができる
	学外実習Ⅱ	2				2		
	応用数学基礎	2				2		4単位履入を必ず選択すること。
	応用数学Ａ	4				4		4単位履入を必ず選択すること。
	応用数学Ｂ	4					4	4単位履入を必ず選択すること。
	振動工学	1					1	
	表面工学	1					1	
	応用流体工学	1					1	
	生産システム工学	1					1	
	工業数学	1					1	
	熱エネルギー工学	1					1	
	※知的財産	2					2	
	応用数学Ⅱ	1					1	
	開設単位小計	22				(9)	(16)	
	修得単位小計	5以上				5以上		
専門科目開設単位計		103	6	8	17	(33)	(42)	
専門科目修得単位計		86以上	6	8	17	55以上		
一般科目修得単位計		81以上	27	24		30以上		
修得単位合計		167以上	33	32		102以上		

備考　※印は学則第１４条第２項に定める単位を示す。

資料９－１－③－３（続き）

「平成 23 年度教育システム評価改善委員会活動方針最終改善案」　（抜粋）

運営会議
H24.3.26
資料B-10

平成23年度 教育システム評価改善委員会活動方針最終改善案

No	項目	現在の問題点	改善案	実行時期	担当
1	学習保証時間と教育目標を考慮した カリキュラムの設計を行っているか。	「生産情報システム工学」教育プログラム履修規程は全教員に周知されていない。これにより、各学科のカリキュラムの設計がプログラム履修規定に反映されない。また、プログラム履修規定に基づいたカリキュラムの設計が行われていない。	「生産情報システム工学」教育プログラム履修規程を学生便覧に反映するように検討する。 「生産情報システム工学」教育プログラム履修規程を全教員に周知する。	H24年度	教務委員会
2	留年生、社会人、他高専からの入学生を考慮した専攻科修了要件をなっているか。	専攻科修了要件について、履修上の修了要件と学位授与の条件は学生便覧に記載があるが、JABEEの修了要件は、どこにも記載がない。	退寮延長届けなどにより 5年生の成績入力期限日(3月6日/23年度の場合)まで寮の滞在を可能とする。	H24年度	寮務委員会
3	5年生の寮生に対して、全員卒業を目指すための十分な再試期間を設けているか。	H23年度の場合は以下のように十分な再試期間が確保できない。 学年末試験最終日：2月29日 再試期間：3月1,2日 5年生退寮日：3月2日	前後期各一回授業アンケートを実施する。 授業アンケートは様様(マークシート)で集計する。 自由記述は期間を設けて、携帯電話及びパソコンで入力する。 自由記述は全科目対象とする。 授業アンケートは本科では教員一人一科目以上とし、専攻科では全科目する。	H24年度	教務委員会
4	授業アンケートを確実に行っているか、またそのアンケート結果を教育改善に反映しているか。	学年末に一回だけ実施しているが、それでよいか。前期終了科目では問題がないか。 年度末の答案返却日を利用してアンケートを取っているが、欠席する学生が多い。 プログラミング演習室で一気に回答すると、学生の意見が十分に記述させることができない。			
5	学習・教育目標の達成を評価しているか、またその評価結果を教育改善に反映しているか。	到達度アンケートを実施しているが、その結果は教育改善に反映されていない。	各学科において、到達度アンケート結果を分析する。 各学科において、達成すべき学習教育目標を確認する。 専攻科修了生に関しては出身学科で分析する。	H24,25年度	教務委員会

資料９－１－③－３（続き）

「釧路工業高等専門学校年度計画」　（抜粋）

運営会議
H24.3.26
資料B-11

釧路高専						
釧路高専　２３年度年度計画	釧路高専　２３年度年度計画達成度評価	評価	残された課題と今後の計画	責任部局	中　期　計　画	中　期　目　標
・学習到達度試験に参加する。 ・専攻科1年「総合英語1」，「総合英語2」及び本科4年「英語演習」にTOEICのe-Learning教材を継続導入する。 ・TOEIC教材の導入による専攻科学生の英語教育を充実する。	・専攻科1年「総合英語1」，「総合英語2」及び本科4年「英語演習」にTOEICのe-Learning教材を継続導入した。 ・長岡，豊橋両技術科学大学等と高専連携によるeラーニング高等教育連携（eHELP）に参画し，e-Learning科目を専攻科1年に開講した。 ・釧路高専と釧路市との学術交流協定により専攻科学生のインターンシップを実施した。更に合同研究集会（KOSEN系）を行い，専攻科学生の教育環境の改善を図った。 ・北海道大学との連携において，スーパーコンピュータ利用環境を専攻科学生に提供した。 ・TOEIC教材の導入による専攻科学生の英語教育を充実した。	Ⅲ	標準本部通知により，専攻科修了要件，科目修得要件から外部資格を除かないため，平成24年度からシラバスの変更が必要である。	教務委員会	㉔英検からTOEICへ移行する準備を進め，23年度実施を目途に検討する。	

（出典　H24.3　運営会議資料）

資料９－１－③－４

「教務委員会規程」　（抜粋）

（委員会の設置）

第１条 釧路工業高等専門学校に校長の諮問機関として，教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条 委員会において審議する事項は，次のとおりとする。

一 学校行事等に関する事項

二 教育課程の編成及び実施に関する事項

三 入学，転学，転科，進級及び卒業に関する事項

四 授業評価に関する事項

五 教育内容及び教育方法等の改善のための研修に関する事項

六 教育環境の改善に関する事項

七 その他教務に関する重要事項

（組織）

第３条 委員会は，次の各号に掲げる者で組織する。

一 教務主事及び教務主事補

二 専攻科長

三 一般教育科文系教員及び理系教員から各１名

四 専門学科教員から各１名

五 専攻長

六 学生課長

七 その他校長が必要と認めた者 若干名

（出典　釧路高専規程）

資料９－１－③－５

「平成 24 年度６月定例教務委員会議事概要」　（抜粋）

２．審議事項

(5) 授業評価アンケートについて

委員長から，授業評価アンケートについて，アンケート結果に基づき，ステップアップ提案書を各自作成するよう周知する旨提案があり，審議の結果，了承された。

（出典　H24.6　教務委員会議事録）

資料９－１－③－６

「教育システム評価改善委員会設置要項」　（抜粋）

（設置）

第１条　釧路工業高等専門学校運営会議規程第８条第３項に基づき，同規程第３条第２号に掲げる事項のうち教育に関する基本計画を専門的に審議するため，常設の内部組織として，教育システム評価改善委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（委員会の任務）

第２条　委員会は，釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育システムを常に点検・評価し，改善が必要な事項を抽出するとともに，自ら改善に関する方策を企画立案し，または関係の委員会等に対し改善要請を行うことを任務とする。

（運営会議の審議）

第３条　前条の点検・評価結果に基づき自ら企画立案した改善方策及び関係委員会等に対する改善要請は，運営会議の審議を経ることで確実に実行されるものとする。

（組織）

第４条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一　副校長
二　教務主事
三　専攻科長又は副専攻科長
四　一般教育科文系教員及び理系教員から各１名
五　各学科教員から１名
六　その他必要に応じ校長の指名する教員

（出典　釧路高専規定）

資料９－１－③－７

「評価専門委員会設置要項」　（抜粋）

（設置）

第１条　釧路工業高等専門学校運営会議規程第８条第３項に基づき，同規程第３条第５号　に掲げる事項を専門的に審議するため，常設の内部組織として評価専門委員会（以下「委　員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。

一　自己点検評価の基本方針に関すること
二　自己点検評価の実施時期，実施単位その他実施基準に関すること
三　評価項目に関すること
四　自己点検評価の実施に関すること
五　自己点検評価の公表に関すること
六　認証評価に関する必要な事項
七　その他必要な事項

（組織）

第３条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一　副校長（運営計画担当）
二　運営会議構成員のうちから校長が指名した者　若干名
三　事務部長
四　総務課長
五　その他校長が必要と認めた者　若干名

（出典　釧路高専規定）

（分析結果とその根拠理由）

本校の教育の評価改善を図るため，運営会議，教務委員会，教育システム評価委員会と評価専門委員会を主体とするPDCAサイクルが教育活動に導入され，各種の評価の結果を教育の質の向上，改善に結び付けられるような組織としてのシステムが整備され，教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられている。

観点９－１－④：　個々の教員は，評価結果に基づいて，それぞれの質の向上を図るとともに，授業内容，教材，教授技術等の継続的改善を行っているか。また，個々の教員の改善活動状況を，学校として把握しているか。

（観点に係る状況）

学生による授業評価アンケートの結果はホームページにより，全教員に開示されている（資料９－１－②－３）。教員は各自の授業評価アンケート結果に基づいて，授業内容，教材，教授技術等の継続的な改善を行うことができる。また，教員相互間の授業参観により，教員相互に，授業内容や授業方法などを把握することができる（資料９－１－④－１，２）。「校長が学生の声を聞く会」の意見・回答は全教員に周知される。校長は，常勤教員を対象に校長個人面談を実施している（資料９－１

－④－３）。また，校長は非常勤教員を対象に懇談会を開き，教育に関する意見交換を行っている（資料９－１－④－４）。学生が意見箱に提出した教育に関する意見は教務委員会・教務主事・担当教員のルートで内容把握・（必要に応じて）改善がなされる（資料９－１－②－１）。

平成２４年度より，学生授業評価アンケート結果に基づいた教員による授業改善レポート（ステップ提案書）の作成・提出の義務付けを行い，その提案書を学内ホームページに公開することにより，学校は全教員の個々の改善活動状況を把握できる（資料９－１－④－５）。

資料９－１－④－１

「平成 23 年９月定例教務委員会議事録」　（抜粋）

(12)平成 23 年度前期授業公開における参観レポートについて

委員長から，６月 27 日（月）～７月８日（金）に実施した授業公開において，提出された参観レポートは 45 枚であった旨の報告があった。

引き続き委員長から，提出があった科目の担当教員には，既にレポートを配布している旨および後期も後期も実施予定である旨の説明があった。

（出典　H23.9　教務委員会議事録）

資料９－１－④－２

「授業参観レポート」

授業参観レポート

☆参観した授業の参考となった点について，チェックを入れてください．項目に当てはまらない事項は自由記述欄に記入してください．

参観した授業に関するデータ		日時	7月 8日	時限	3時限
科目名	国語（2M）	担当教員	舘下		
参考点１：授業内容					
	シラバスに照らして，年間（半期）の計画に従って順調に進行している．				
	シラバスに照らして，目標を達成できるよう説明している．				
○	授業のねらいが明確に示されている．				
	（特にJABEE科目・学修単位科目では）自学自習を促す課題等が明確に提示されている．				
	学生の理解を見ながら説明がなされている．				
参考点２：授業方法					
○	板書や図示は最後列からも見やすくなっている．				
	声は最後列でも十分に聞き取れる．				
○	学生の参加を促している．				
	副教材を使っている場合，有効に利用されている．				
参考点３：その他					
○	学生を見ながら進行している．				
	質問には適切に答えている．				
	円滑な授業進行を心がけている．				
○	学生の参加を促す工夫がある．				
	学生の興味を引くような工夫がある．				
その他：自由記述					

非常に扱いにくい教材を取り上げ，丹念な説明をしていることに敬意を表したい気持ちになった。クラス全体に質問を投げかけそこからの反応をもとに板書をしていくので堅実な授業という印象を受けた。内容的には非常に深い，板書も見やすい。

気になった点。

(1) 学生にそれぞれ教科書の本文を朗読させていたが，一人教科書を忘れた学生がいた。「教科書を忘れました」という言葉を聞いて，教員が別の学生に変えた。忘れた学生を素通りさせる結果になっている。

（出典　学生課資料）

資料９－１－④－３

「釧路工業高等専門学校校長個人面談実施要項」　（抜粋）

（目　的）

第１条 この要項は，釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教育理念及び教育目標の共通理解を深めるとともに，職場環境の向上に資することを目的として実施する校長個人面談（以下「面談」という。）に関し，必要な事項を定める。

（対　象）

第２条　面談対象者は，本校の常勤教員とする。ただし，再雇用者を除く。

（実施時期等）

第３条　面談は，毎年１回実施し，その時期は校長が定める。

（面談の内容等）

第４条　面談の内容は，各教員の教育研究等の目標及び成果に関することとする。

２　前項の規定にかかわらず，必要に応じ，校長は面談の内容を変更することができる。

３　校長は，面談で知り得た個人的な事項については，その秘密を保持するものとする。

（事　務）

第５条　面談日程の調整等の事務は，総務課において処理する。

（雑　則）

第６条　この要項に定めるもののほか，面談の実施に関し必要な事項は，校長が別に定める。

（出典　釧路高専規程）

資料９－１－④－４

平成２３年度 非常勤講師懇談会議事録　（抜粋）

引き続き校長から，以下のとおり報告があった。

・来年度は，高専制度が設立され 50 周年となること，また，専攻科が設立され 20 年となる。高専の卒業生は優秀であるとの大きな信頼を企業から得ていることから，東日本大震災において被災した高専学生に奨学金制度を設立した企業がある。
・学力の低下は，本校だけの問題ではなく，塾に通っている子供の割合（釧路地区約 30%，帯広地区約 80%，北見地区約 70%）から見ても，地域の問題でもあると考える。

(5) 質疑応答等

教務主事から，昨年度の懇談会における話題について以下のとおり説明があった。

・ 非常勤講師室のネット環境整備については，まだ実現に至っていないが，引き続き検討していきたい。
・ 留学生の実情についての話があったが，今年度の様子を伺いたい。
→ 機械工学科で担当している留学生は問題なく授業をやっている。〔丹〕
→ 3 年生機械工学科の留学生は優秀である。〔渡邊〕
→ 4 年生の留学生が日本語に苦労しているように思う。〔佐藤(穆)〕

引き続き，校長から，学生の学習意欲および授業態度について伺いたい旨の提案があった。

・ 自分の将来と英語との関わりや英語を話せるメリットをイメージできないせいか，興味のない学生が多い。やる気を起こすためにも，勉強というよりも，コミュニケーションを重視した楽しい授業にしようと心掛けている。〔エリック〕
・ 基礎がしっかりしているのであれば，勉強すればするほど学力はつくと感じる。今年度は，授業時間外にも質問に来る学生がおり，成績は伸びている。〔佐藤(穆)〕

また，校長から，本校に対する指摘等について伺いたい旨の提案があった。

・ 5 年生については，一生懸命やる学生と，やらない学生とで二極化していると思う。2 段階学科選択の制度については，学科選択のミスマッチをなくして，やる気を引き出すための制度でもあったと思うが，成功しているのかどうか，現時点での感触を教えてほしい。
　また，工学を専門とする本校の学生に対して，人文系科目の教育のあり方をまとめるような，機会を設けていただきたい。〔山内〕
→ 2 段階学科選択制度は 3 年目であり，今後，教務委員会が主体となり中間評価を行うこととしている。〔中村〕
・ 最近の学生は，授業中にトイレに行くことが多くなっているように感じる。〔石山〕〔小松〕

（出典　H23.9　教務委員会議事録資料３）

資料９－１－④－５

「平成 24 年度６月定例教務委員会議事概要」　（抜粋）

２．審議事項

（5）授業評価アンケートについて

委員長から，授業評価アンケートについて，アンケート結果に基づき，ステップアップ提案書を各自作成するよう周知する旨提案があり，審議の結果，了承された。

（出典　H24.6　教務委員会議事録）

（分析結果とその根拠理由）

学生による授業評価アンケートを継続的に行い，教育改善が継続的に行われてきた。その改善を学校が把握できるように，授業評価アンケートの結果に基づいて教員により作成されるステップアップ提案書が学内ホームページに公開される。校長は「校長が学生の声を聞く会」や個々の教員の面談により，教員の教育改善活動を把握している。意見箱に提出された学生意見は教務委員会・教務主事・担当教員のルートで内容把握・改善がなされる。

以上により，個々の教員は，評価結果に基づいて，教育活動の継続的改善を行っている。また，個々の教員の改善活動状況を，学校として把握している。

観点９－１－⑤：　研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

（観点に係る状況）

教員の研究活動の主な状況は，研究紀要において集計されている（資料９－１－⑤－１）。教員の専門分野の研究活動の教育への反映の主たる内容は，本科卒業研究（資料９－１－⑤－２）と専攻科特別研究（資料９－１－⑤－３）における研究指導である。学生全員と研究指導教員全員が参加する卒業研究発表会や専攻科特別研究発表会の他に，研究指導教員は学生が学外の研究会や学会発表に積極的に参加発表する指導も行っている（資料９－１－⑤－４）。

学生が教員の研究プロジェクトに直接参加することにより，実践的な専門知識を身につける教育効果がある（資料９－１－⑤－５，６）。

教育方法等の研究による教育の質の改善として，資料９－１－⑤－７及び８がある。

資料９－１－⑤－１

「釧路工業高等専門学校紀要第 45 号　研究活動目録」　（抜粋）

釧路工業高等専門学校紀要第45号(平成23年)

研　究　活　動　目　録

(平成22〈2010〉年10月1日～平成23〈2011〉年9月30日までの1箇年分)

*印　外部共著者・外部共同研究者

1．著書

氏　名	書　名	頁　数	出版社名	発行年月日
北川能 監修* 香川利春 監修* 小　杉　　淳	学生と技術者のための水力学問題演習	全 152 一部項目担当	パワー社	2011.4.30
詩と詩論研究会編 舘　下　徹　志	金子みすゞ み仏への祈り	全 217 pp.51-72（舘下担当）	勉誠出版	2011.4.11

2．論文・調査研究報告

氏　名	論　文　名	発表誌名・巻号・頁	発行年月日
岸　浪　建　史 (日本学術会議機械工学委員会生産科学分科会)	資源循環型ものづくりを実現するための学術的指針 －地球温暖化対策を主対象に－	日本学術会議機械工学委員会生産科学分科会報告	2011.9
岩　渕　義　孝 小　林　　勲	木炭風多孔質素材の創製と性能評価	釧路工業高等専門学校紀要 第 44 号　pp.1-3	2010.12.17
荒　井　　誠 野　口　孝　文 草　苅　敏　夫 高　橋　　剛 梶　原　秀　一 千　田　和　範 森　　太　郎 大　槻　香　子	産学連携による実践型人材育成事業の成果と今後	釧路工業高等専門学校紀要 第 44 号　pp.5-8	2010.12.17
成　澤　哲　也	周波数整形によるロバストライクな構造－制御系設計 －多自由度質点系への適用－	釧路工業高等専門学校紀要 第 44 号　pp.9-14	2010.12.17
Izumi Nishidate* Noriyuki Tanaka* Tatsuya Kawase* Takaaki Maeda Tomonori Yuasa* Yoshihisa Aizu* Tetsuya Yuasa* Kyuichi Niizeki*	Noninvasive imaging of human skin hemodynamics using a digital red-green-blue camera	Journal of Biomedical Optics Vol.16 No.8　pp.1-14	2011.8
Izumi Nishidate* Aditya Wiswadarma* Yota Hase* Noriyuki Tanaka* Takaaki Maeda Kyuichi Niizeki* Yoshihisa Aizu*	Noninvasive spectral imaging of skin chromophores based on multiple regression analysis aided by Monte Carlo simulation	Optics Letters Vol.36 No.16 pp.3239-3241	2011.8
須　田　　潤	Coupled phonons and transferred energies between Raman active phonons for $LiTaO_3$	Chinese Journal of Physics Vol.49 Num.1　pp.341-348	2011.2
浅　水　　仁	2009 年度北海道大学大学院 足跡を用いた男女識別に関する研究の内地研究員報告	釧路工業高等専門学校紀要 第 44 号　pp.41-42	2010.12.17
浅　水　　仁 長谷山　美　紀*	足跡を用いた男女識別　～足跡の特徴量から SVM により男女を識別する試み～	画像ラボ vol.22　no.1　pp.17-21	2011.1
Yoshinori Taka Takashi Adachi* Ikuko Mori* Osamu Fujiwara* Shinobu Ishigami* Yukio Yamanaka*	Transfer impedance of new-type calibration target and reconstruction of injected currents for air discharges from electrostatic discharge generators	IEICE Electronics express Vol.7 No.22　pp.1666-1671	2010.11
辻　　拓　朗* 髙　　義　礼 藤　原　　修* 山　本　典　央*	ESD ガンの垂直結合板への間接放電で生ずる空間電磁界のばらつき	電気学会論文誌. A, 基礎・材料・共通部門誌 Vol.131 No.2　pp.119-124	2011.2

（出典　釧路工業高等専門学校紀要第 45 号（平成 23 年））

資料９－１－⑤－２

「平成 24 年度　釧路高専シラバス」　（抜粋）

平成24年度

情報工学科			卒業研究				
学年	第5学年	担当教員名	全教員				
単位数・期間		7単位	通年	週当りの開講回数	2回	必修	履修単位
授業の目標と概要		担当教員の指導で各自の研究テーマを決め、一年間を通じて研究や開発を行う。 前期は週5時間、後期は週9時間で、各自の研究テーマをまとめ、発表等を行う。 これまでに学んだ知識を生かして、将来、実践的技術者として要求される問題解決力、 デザイン能力、コミュニケーション能力を養う。				
		釧路高専目標	D:40%,E:30%,F:20%,G:10%		JABEE目標	d-2-b,d-2-c,d-2-d,e,f,g	
履修上の注意 （準備する用具・前提となる知識等）		研究テーマの選択に当たっては、各研究室のガイダンスや過去の研究テーマを参考にできるだけ自分の納得のいく研究テーマを探すこと。個別のテーマについては担当教官とよく相談すること。 卒業研究を遂行するにあたっては、きちんとした調査や計画の下で問題解決に積極的に取り組む姿勢が求められる。また、研究の節目節目のまとめでは、自身の成果を文章や					
到達目標		各自のテーマを目標にしたがって完了させること。 研究遂行にあたっての問題点を把握し、解決するために取り組むこと。 研究計画をきちんと立てることができ、期限までに終了させること。 卒業論文および卒業研究発表を通して、成果を伝達できること。					
成績評価方法		卒業研究中間発表 10% 卒業研究発表 30%（発表の論理性・質疑応答・発表時間等） 卒業論文 25%（内容の明瞭さ・まとめ方・考察等） 口頭試問 25%（発表時の質疑応答・担当教員の試問への回答等） 研究態度 10%（取り組みの積極さ・日誌のまとめ方等）					
テキスト・参考書		指導教員の指示に従うこと					
メッセージ		卒業研究は、これまでに学んできた学習内容に基づいて、技術者として社会に役立てるための方法を修得します。 自分が将来目指したい分野を改めて真剣に考え、積極的に取り組んでください。卒業時に実験や座学とは違う達成感を得られるよう、努力することを期待します。					

授　業　内　容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
各研究室のテーマ紹介 研究室の配属決定 指導教員の指示に従い、研究テーマを決定 各自のテーマに沿って研究を遂行	自分の研究内容を把握する 目標に合わせて、研究計画を立てることができる
前期中間試験	実施しない
各自のテーマに沿って研究を遂	計画に合わせて研究を遂行できる 研究の進捗状況などを文章で纏められる
前期期末試験	実施しない
卒業研究中間発表(11月初旬) 各自のテーマに沿って研究を遂行	発表資料を作成し、研究内容を説明できる 質問に対して適切に回答できる 研究の進捗状況を把握し、今後の計画を立てられる
後期中間試験	実施しない
卒業研究発表(2月初旬) 卒業論文提出	発表資料を作成し、研究成果を説明できる 質問に対して適切に回答できる 研究成果を文章や図を用いて纏められる 今後の発展を見据えて成果を纏められる
後期期末試験	実施しない

（出典　Web サイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/　釧路高専シラバス 2012））

資料９－１－⑤－３

「平成 23 年度　釧路高専シラバス」　（抜粋）

平成24年度

電子情報システム工学専攻		電子情報システム工学特別研究				
学年	専攻科2年	担当教員名	電子工学科 専攻科学生指導教員			
単位数・期間		8単位	通年	週当りの開講回数	2回	専門展開・必修	学修単位1
授業の目標と概要		研究の遂行を通して高度な専門知識や実験技術を修得し、継続的に学習する能力を育成する。研究・設計などの活動における知識や技術の必要性を認識する。さら、研究遂行において修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、計画的に実行する能力、論文作成・研究発表により文章表現力、プレゼンテーション、コミュニケーション能力を育成する。				
		釧路高専目標	B:10%,D:25%,E:0%,F:10%,G:15%	JABEE目標	d-2-b,d-2-c,d-2-d,e,f,g	
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		特別研究は本科の卒業研究を含む3年間、あるいは、専攻科の2年間をとうして一つの課題に取り組むものであり、長期間にわたる。指導教員の指示だけでなく、自発的に計画的に遂行することに心がけること。				
到達目標		論文調査などにより、研究の背景、社会のニーズなどを理解できる。課題解決を計画的に遂行できる。研究成果の社会への影響を考察できる。日本語による論理的な報告書作成とプレゼンテーション、英語による概要説明ができる。				
成績評価方法		特別研究は2年間にわたるため、別紙の評価方法によって全体を評価する。 1年目では評価を決定しない。 別紙評価方法に従い、60点以上で合格である。				
テキスト・参考書		各指導教員の指示による				
メッセージ		長期にわたり、一つのテーマを追求するので、自発的な学習、創造性の発揮、計画的な遂行が重要である。指導教員との話し合いを密にし、定常的な学習・研究が必要である。				

授　業　内　容	
授業項目	授業項目ごとの達成目標
1　実験および結果の整理 2　実験結果とシミュレーション結果の比較 3　検討及び考察 4　実験結果、考察とまとめ	特別研究に関する実験ができる。 特別研究の実験結果の論理的な考察ができる。
前期中間試験	実施しない
5　学修成果レポートの中間発表 6　学修成果レポートの作成	学習成果レポートの内容、構成、強調点が明確に説明できる。 学習成果レポートを計画的に作成することができる。
前期期末試験	実施しない
7　学修成果小論文試験準 8　特別研究論文の作成	学修成果レポート試験の準備として、関連する技術を調査できる。 特別研究論文を計画的に作成できる。
後期中間試験	実施しない
9　学修成果小論文試験 10　特別研究論文の作成 11　特別研究発表会準備 12　特別研究の学外の口頭発表	学修成果小論文試験ができる。 特別研究論文を計画的に作成できる。 特別研究成果を文章や図、表を用いて纏めることができる。 今後の発展を見据えて成果を纏めることができる。 特別研究成果を説明できる。 特別研究発表の質問に対して適切に答えることができる。
後期期末試験	実施しない

（出典　Web サイト　http://syllabus.kushiro-ct.ac.jp/index2011.php
釧路高専シラバス 2011））

資料９－１－⑤－４

「釧路工業高等専門学校紀要第 45 号（平成 23 年）」　（抜粋）

５．卒業研究指導発表

指導教員氏名	発表大会名	学生氏名	発表題目	発表年月日
岩渕義孝 小林　勲	北海道学生会第 40 回学生員卒業研究発表講演会	佐藤　広隆	あらゆる環境に対応できるハイブリッド型表面改質層の創製研究	2011.3.5 室蘭工業大学
		笹森　一平 小田島章太	金属切削片ブリカーサー法による発泡金属の創製	
佐藤彰治	日本建築学会北海道支部主催環境工学系卒業論文発表会	伊藤　嘉朗	植栽と換気設備を備えた北側居室空間の熱環境調査	2011.3.10 北海道大学
		前岡　良輔	学寮居室を対象とした熱環境改善のための調査研究	
		土屋　貴博	釧路高専の実験・演習室における不均一熱環境調査	
西澤岳夫	第 84 回日本建築学会北海道支部研究発表会	瀧川　大地	北方先住民族住居を用いた実践的教育プログラムの開発その 1　北方先住民族住居を用いた教材キットの開発 日本建築学会北海道支部研究報告集　No. 84　pp. 523-526	2011.7.2 札幌市立大学

６．専攻科特別研究指導発表

指導教員氏名	発表大会名	学生氏名	発表題目	発表年月日
岩渕義孝	第 18 回機械材料・材料加工技術講演会	高田　竜太	SUS304 型ステンレス鋼鋳造材料の機械的性質に及ぼす支配因子	2010.11.27 東京大学
岩渕義孝	第 16 回高専シンポジウム	森　謙有	SUS304 ステンレス鋼の超音波探傷検出能に及ぼす諸因	2011.1 米子高専
岩渕義孝	北海道学生会第 40 回学生員卒業研究発表講演会	世良　俊幸	低温加工による展伸用マグネシウム合金（AZ31）の結晶粒制御	2011.3.5 室蘭工業大学
		小松　直樹	低 Ni-高 Mn ステンレス鋼の耐食性評価	
		山吉　郁也	Ni-Al 系金属間化合物と鋼材の固相接合	
		森　謙有	球状黒鉛鋳鉄の水脆化とミクロ組織の関係	
高橋　剛	日本機械学会北海道支部 第 49 回講演会	田中　康基	建築用木材における材料特性の耐環境性および高強度圧縮木材の開発	2010.11 北海道工業大学
川村淳浩	第 43 回流体力学講演会	朝井　裕	エチレン・水素混合燃料のデトネーション特性	2011.7.7 早稲田大学
戸谷伸之	平成 22 年度道内国立高専専攻科研究発表・交流会	石原　翼	センサネットワークを用いた自然環境情報取得・提供に関する基礎研究	2011.11.19 函館高専
千葉忠弘	第 84 回日本建築学会北海道支部研究発表会	菊地　祥子	阿寒国立公園集団施設地区における景観ガイドライン作成に関する調査研究 日本建築学会北海道支部研究報告集　No. 84　pp. 455-458	2011.7.2 札幌市立大学

（出典　釧路工業高等専門学校紀要第 45 号（平成２３年））

資料９－１－⑤－５

「釧路工業高等専門学校紀要第 45 号（平成２３年）」　（抜粋）

研　究　目　的（概要）※ 当該研究計画の目的について，簡潔にまとめて記述してください．

本研究では，北海道東部地域の先住民族であるアイヌの伝統遺産のものづくりを通して，地域の環境問題や社会問題への関心を喚起し，広く理解してもらうことを目的に住居「チセ」を地場の材料を用いて建設し，それに付随して学習用キットの開発，体験学習を実施する．

「持続可能な社会の実現のための教育・学習」の必要性が叫ばれているが，実際に行われている環境教育は自然環境や廃棄物，エネルギーに偏っている．現在，私たちが問われているのは人間生活の利便性が環境に与える影響をどのように考えていくかということであり，その意味で住生活に関する環境教育のメニューをもっと増やして行く必要がある．また，日本が将来にわたっても「ものづくり」の国であるためには，ものづくりの過程において環境問題をどのように捉えていくかという視点でのメニューが必要である．

地球温暖化やエネルギー問題をはじめとする様々な地球環境問題への対応が迫られるなか，アイヌを始めとする先住民族のサステイナブルなライフスタイルが世界の注目を集めている．特に CO_2 排出量の偏在している北半球高緯度地方において古くから生活を行ってきた北方先住民族のものづくりやライフスタイルは，今後の人類の持続可能性に重要な役割を果たしていくと考えられる．

①研究の学術的背景

本研究で実施するのは，ものづくりを学ぶ高等専門学校の学生が，地域に蓄えられた知見をもとにチセを「つくり」，「体験」することで，より積極的に地域の伝統文化，環境問題に関わる場をつくり，またその成果を地域の小中学生に波及させるツールや場をつくることである．

申請者らが所属する釧路工業高等専門学校では平成 19 年度より，文部科学省の「ものづくり人材育成事業」において全ての学科（機械，電気，電子，情報，建築）と地域のものづくり関連技術者が連携し，一軒の北方型住宅を建設してきた．（図１に学生の参加内訳を示す）また，年に一度シンポジウムを行い，テーマごとに先端の実務家，研究者とともに講演会，パネルディスカッションを実施してきている．これらの事業の実施から得た知見，ノウハウを元に今回の研究を実施していく．

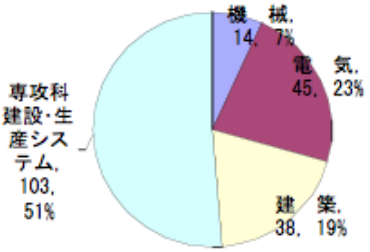


図１　事業への学生の参加割合



図２　シンポジウムポスター

「チセ」そのものに関する研究は，断片的には明治期から始まっており，本研究と関係のある建築的な内容に関しても金田一らにより，昭和初期に始まる研究例があり，多くの書籍，研究論文にまとめられている．したがって学術研究は終了し，現在，チセの研究は成果の普及のステージにある．本研究もその一つである．本研究に近い例としては宇佐美らによる「アイヌ住居（チセ）の長期温度測定」（日本建築学会北海道支部研究報告集 No63）のなかで実施された宿泊体験や窪田らが実施した「アイヌ民族伝統住宅チセの冬期室内環境」（空気調和・衛生工学論文集 41）のなかで実施されたチセ室内の環境調査（二週間の居住体験を実施している）等が挙げられるが，これらの研究では既存のチセの調査を専門家が行っており，その報告には迫力があるが，教育に利用しようとする意図はない．

研究機関名	釧路工業高等専門学校	研究代表者氏名	西澤岳夫

（出典　釧路工業高等専門学校紀要第 45 号（平成２３年））

資料９－１－⑤－６

「釧路新聞 2012 年２月 18 日」　（抜粋）

釧路高専

流氷もリアルタイムで確認

気象衛星の画像データ 受信システム開発、公開



釧路高専（岸浪建史校長）は16日、気象衛星（NOAA）の画像データを受信し、地図上に流氷や雲の流れを描画する衛星受信局のシステムを公開した。同校によると、道内では北見工大が受信システムを備えているが、高専では初めて。

同校では、将来の超小型衛星プロジェクト立ち上げを目標に、2010年に宇宙科学研究会が発足。今回の受信局システムはその第一歩として学生の卒業研究を兼ね、約150万円の費用をかけて整備することになった。

システムは、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の主幹開発員として国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」設計に携わった、同校電気工学科の小松正明教授が開発。今年1月同校屋上に衛星追尾式のアンテナを設置し、同校工学科5年の学生がプログラムやデータ入力などを行い、システムの安定運用を開始した。

現在米海洋大気圏局が運用し、高度800㌔の極軌道を周回する4機の気象衛星から送られる地表の植生、雲、湖、海、雪、氷、水蒸気などの気象画像データを、1日に約8回受信している。第1管区海上保安部海氷情報センターが1日遅れで更新、公開している海氷速報と比べ、リアルタイムで流氷などを確認することができるという。

小松教授は「雲の温度は氷点下20度から同40度、流氷は氷点下5度から同10度と異なるため、画像を区別し見やすくする処理も今後考えられる。今後は卒業研究への利用のほか、衛星を運用、研究している大学のネットワークに参加できれば」と同システムの応用、発展に期待を込めている。

（花城護）

衛星受信局システムについて説明する小松教授

釧　路　新　聞

（出典　釧路新聞 2012 年２月 18 日）

資料９－１－⑤－７

「産学連携による実践型人材育成事業－ものづくり技術者育成－」事業結果報告書」

「産学連携による実践型人材育成事業－ものづくり技術者育成－」　事業結果報告書

機　　関　　名：釧路工業高等専門学校
プロジェクト名称：北方型住宅建設を介した地域連携によるトータルマネジメント能力育成プログラムの開発
取 組 代 表 者：校　　長　　岸浪　建史
取 組 担 当 者：機械工学科　教授　　荒井　誠

Ⅰ．プロジェクトの概要について

申請時	事業終了後
環境問題に配慮しつつ、快適な生活環境を作り出す技術が求められている現在、多様な問題に対してバランスよく解決できる能力（トータルマネジメント能力）を持つ技術者育成は喫緊の課題である。本プロジェクトで開発するプログラムの特色は、寒冷な地域に蓄積された技術や人材と、建築学科を擁する釧路高専が連携し、北方型住宅の建設を通してさまざまな現実的問題を解決しながらトータルマネジメント能力を育成することにある。	環境問題に配慮しつつ、快適な生活環境を作り出す技術が求められている現在、多様な問題に対してバランスよく解決できる能力（トータルマネジメント能力）を持つ技術者育成は喫緊の課題である。本プロジェクトで開発するプログラムの特色は、寒冷な地域に蓄積された技術や人材と、建築学科を擁する釧路高専が連携し、北方型住宅の建設を通してさまざまな現実的問題を解決しながらトータルマネジメント能力を育成することにある。

育成する人材像（想定される就職先等）	本プロジェクトの基本構想は、教職員と協力学生が地域の団体や企業の協力の下に、北方型住宅のモデルを実際に建設し、この体験を基本に、実務的かつ融合・複合的な技術者育成プログラムを構築することにある。特に、「家づくり」におけるデザイン考案から施工と完成に至るまでの経過の中で、異年齢で専門が異なる学生による協働作業を実現できたことは、トータルマネジメント能力のみならずコミュニケーション能力、デザイン能力の育成にも繋がり、ものづくり分野を革新させる高度な知識と確かな技術力を十分体得したものと考える。参加学生は電力、建築・建設、機械製造、食品製造業の多様な産業分野に就職しており、今後の活躍が期待される。

（出典　「産学連携による実践型人材育成事業－ものづくり技術者育成－」事業結果報告書）

資料９－１－⑤－８

「小杉助教が機構理事長賞を受賞」　（抜粋）

小杉助教が機構理事長賞を受賞

8月18日(火)・19日(水)に開催された国立高専機構主催の平成21年度教育教員研究集会において、機械工学科の小杉 淳助教が機構理事長賞を受賞しました。

この研究集会は、高専教育に関する独創的な研究成果の場として毎年開催されているもので、最優秀者には文部科学大臣賞、優秀者には機構理事長賞が授与されます。

「機械設計製図における実験的創造機械設計教育の取組み」と題された発表論文では、5年ほど前から導入してきたオリジナルの機械設計の授業展開方法とその教育効果、今後の展望等が報告されており、それらの教育研究活動が高く評価されました。

（出典　Web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/old2/modules/news/article.php?storyid=311（本校旧公式ウェブサイト））

（分析結果とその根拠理由）

教員の専門分野の研究活動は，主として卒業研究，特別研究の指導として教育内容の改善に寄与している。また，教員の専門的な研究活動や教育方法等に関する研究活動に学生が直接参加することにより，実践的な専門技術を身につける効果がある。

以上から，教員の研究活動が教育の質の改善に寄与している。

観点９－２－①：　ファカルティ・ディベロップメントが，適切な方法で実施され，組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

（観点に係る状況）

ファカルティ・ディベロップメント活動（以下，FD）は，主として教務委員会により所掌される（資料９－２－①－１）。2011年度に実施したFDの状況を資料９－２－①－２に示す。非常勤教員に関しては，校長による懇談会を毎年行うことにより，教育課題の共通理解を図っている（資料９－１－④－４）。

従来から教員相互間の授業参観（非常勤講師を含む）を行っており，授業技術の改善・向上を図っている。教員相互間の授業参観をより効果のある授業改善とするため，平成23年度より授業参観の主眼を「相互評価」から「参考」に力点を移した（資料９－２－①－３）。2011年度の授業参観結果により，授業参観する教員の授業改善に参考となっている項目は授業技術の改善に結び付いている（資料９－２－①－４）。

教育とが生指導にまたがるFDとして，学生相談室を中心としたスクールハラスメントに関する一連の教員研修・調査活動が行われた（資料９－２－①－５）。その結果，教員のハラスメントに対する意識が高くなり，いじめを受けた学生の中で教員への相談する学生の割合が増えていることから，組織として教育の質の向上に結び付いている（資料９－２－①－６）。

資料９－２－①－１

「釧路工業高等専門学校教務委員会規程」　（抜粋）

（委員会の設置）

第１条 釧路工業高等専門学校に校長の諮問機関として，教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条 委員会において審議する事項は，次のとおりとする。

一 学校行事等に関する事項

二 教育課程の編成及び実施に関する事項

三 入学，転学，転科，進級及び卒業に関する事項

四 授業評価に関する事項

五 教育内容及び教育方法等の改善のための研修に関する事項

六 教育環境の改善に関する事項

七 その他教務に関する重要事項

（組織）

第３条 委員会は，次の各号に掲げる者で組織する。

一 教務主事及び教務主事補

二 専攻科長

三 一般教育科文系教員及び理系教員から各１名

四 専門学科教員から各１名

五 専攻長

六 学生課長

七 その他校長が必要と認めた者 若干名

（出典　釧路高専規程）

資料９－２－①－２

「平成 23 年度　ＦＤ活動の一覧」

■教員を対象とした学内の講演

講演題目	人数	講　　師
国立高専機構における技術者教育の質保証ーモデルコアカリキュラムー	48名	小林淳哉 （国立高専機構　教育研究調査室教授 函館工業高等専門学校 物質工学科　教授）

■学外での研究集会

研究集会名	人数	参加教員		
全国高専教育フォーラム （教育研究活動発表）	3名	小田島本有	大槻香子	小杉　淳
全国高専教育フォーラム （情報処理教育研究委員会　聴講）	1名	戸谷伸之		
高専・技科大連携教員研究集会 （豊橋技科大）	1名	小杉　淳		
高専・長岡技科大（機械系） 教員交流研究集会	1名	前田貴章		
北海道地区国立工業高等専門学校 教員研究集会（外国語）	4名	南須原政幸	木村峰明	藤本一司
		大石　玄		
北海道地区国立工業高等専門学校 教員研究集会（社会）	5名	片岡　務	吉田　茂	林　幸利
		田村聡子	沼田　敦	
北海道地区国立工業高等専門学校 教員研究集会（電気・電子・情報系）	6名	須田　潤	鈴木俊哉	佐治　裕
		坂口直志	大貫和永	天元　宏

資料９－２－①－２（続き）

■新任教員研修関係

１．平成２３年度釧路工業高等専門学校新任教員研修会

●参加者：宮毛明子（一般），大石玄（一般），本田匠（電気），佐藤哲（建築）

●目的：中期目標・中期計画に掲げられている教員の資質向上を図ることを目的とする。

●日時：平成 23 年 6 月 15 日（水）8:50 ～ 6 月 20 日（月）17:05

●場所：本校会議室（6/20 のみ小会議室）

●内容：

「釧路高専の現状と課題」

6/15（水）8:55～9:25　＜講師：校長＞

「教育課程及び授業計画について」

6/16（木）11:30～12:15　＜講師：副校長（総務・教務担当）・教務主事＞

「釧路高専の運営計画について」

6/15（水）9:30～10:00　＜講師：副校長（運営計画担当）＞

「学生指導について」

6/16（木）10:35～11:05　＜講師：学生主事＞

「学寮の位置付けと指導体制について」

6/16（木）16:30～17:00　＜講師：寮務主事＞

「広報及び地域社会への協力貢献について」

6/15（水）10:00～10:30　＜講師：校務主事＞

「外部資金の獲得とその支援について」

6/20（月）16:30～17:00　＜講師：研究企画主事＞

「生産情報システム工学プログラムについて」

6/17（金）16:30～17:00　＜講師：専攻科長＞

「産学連携について」

6/17（金）15:30～16:00　＜講師：地域共同テクノセンター長＞

「情報セキュリティについて」

6/17（金）16:00～16:30　＜講師：情報処理センター長＞

「事務部の業務について」，「学生課の業務について」

6/16（木）11:05～11:30　＜講師：事務部長，学生課長＞

「総務課の業務について」

6/20（月）15:05～15:25　＜講師：総務課長＞

「教育研究支援センターの業務について」

6/20（月）14:40～15:05　＜講師：技術長＞

資料９－２－①－２（続き）

２．平成２３年度高等専門学校新任教員研修会（独立行政法人国立高等専門学校機構主催）

●参加者：宮毛 明子（一般），大石 玄（一般），本田 匠（電気），佐藤 哲（建築），
川村 淳浩（機械），小松 正明（電気），山形 文啓（電子），髙 義礼（電子）
●日時：平成 23 年 8 月 29 日（月）～8 月 31 日（水）
●場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

■非常勤教員関係

非常勤教員の懇談会
日 時 平成２３年８月２日（火）１０：００～１１：４０
場 所 本校会議室
出席者：岸浪校長，中村教務主事，渡邊教務主事補，加藤(隆)一般教育科理系長，
片岡(務)一般教育科文系長（英語代表教員），小田島国語代表教員
木村社会代表教員，小谷数学代表教員，松﨑理科代表教員，
澤柳基礎専門代表教員，成澤機械工学科長，非常勤講師 12 名
井上学生課長，木村修学支援係長，石井修学支援係主任

■研究主事が主催する定例研究会と出席者

	日　程	発表者	題　　目	参加者
1	2011.4.27 16:30-17:30	石山 俊彦	マイクロエネルギー供給技術	8名 野口，梶原，天元，佐藤哲， 小松，高橋剛，山形，本田
2	2011.6.1 16:30-17:30	佐藤 哲	高齢者の居住環境研究と，高齢者住情報データベースの構築と普及	8名 野口，梶原，天元，本田， 小田島，高橋剛，林裕，稲守
3	2011.6.29 16:30-17:30	本田 匠	画像照合の基礎と実応用分野，及びその実用例	6名 野口，天元，梶原，林，佐藤， 髙
4	2011.7.27 16:30-17:30	宮毛明子	位相的ツイストされた超対称 Yang-Mills 理論とその応用	9名 野口，天元，梶原，佐藤哲，髙， 高橋剛，鈴木俊，佐古，本田
5	2011.9.14 16:30-17:30	柳川和範	複合現実感映像の生成技術	9名 野口，天元，高木，林，前田， 土江田，高坂，髙，本田

資料９－２－①－２（続き）

	日　程	発表者	題　　目	参加者
6	2011.9.21 16:30-17:30	鈴木俊哉 （素粒子研究会）	明白な SL(2:Z)共変性をもつ D3brane の定式化について	4名 野口，鈴木，三宅，沢柳
7	2011.10.26 16:30-17:30	土江田織枝 （画像研究会）	IR のユーザインタフェースへの応用	5名 野口，天元，高木，柳川，高坂
8	2011.10.26 13:30-	（素粒子研究会）	ケーラー多様体上の非可換場の理論の構成	3名 梅津，佐古，鈴木 （梅津教員室）
9	2011.11.16 16:30-17:30	大石 玄	「スペインの労使関係法制」ならびに「日本における労働時間管理」	3名 小林（図書），野口，天元
10	2011.12.21 17:10-18:10	梶原秀一	周期入力制御法とその応用について	4名 千田，高，野口，天元
11	2012.1.25 17:00-18:00	梅津裕志 （素粒子研究会）	ケーラー多様体上の非可換場の理論の構成2	3名 梅津，佐古，鈴木

■管理者の研修

１．平成２３年度独立行政法人国立高等専門学校機構高等専門学校教員研修（クラス経営・生活指導研修会）

●参加者：池田 盛一（学年主任），三島 利紀（学年主任）
●日時：平成 23 年 9 月 7 日（水）～9 月 9 日（金）
●場所：学術総合センター

２．平成２３年度独立行政法人国立高等専門学校機構高等専門学校教員研修（管理職研修）

●参加者：三森 敏司 寮務主事
●日時：平成 23 年 9 月 26 日（月）～9 月 27 日（火）
●場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

（出典　総務課作成資料）

資料９－２－①－３

「平成 23 年度　前期授業公開実施要領」

平成 23 年度　前期授業公開実施要領

１．目的

すべての授業について，教員の相互参観を行い相互に参考とすることで授業技術の改善・向上を図るとともに，参観者の意見を授業改善の参考とする．

２．参観者

本校教職員（非常勤講師含む）

３．実施期間

平成２３年６月２７日（月）～７月８日（金）

（レポート提出期限は７月１４日（木））

４．実施方法

1) 本校着任３年以下の教員は必ず２科目以上の授業を参観し，レポートを修学支援係に提出する．

2) その他の教職員は１科目以上の授業を参観し，レポートを修学支援係に提出する．

3) 修学支援係は提出されたレポートを集約し，運営会議に報告する．

4) 集約作業は参観期間終了後，速やかに行う．

5) レポートには記名の必要はない．

５．その他

参観について，事前承諾は不要です．いつでも，教室に入って参観できるものとします．したがって，授業をしている側は参観を拒むことはできません．

授業参観というＦＤの主眼を「相互評価」から「参考」に力点を移します．他教員の技術を参考として，自分の授業技術を向上させることを目指します．したがって，参観した授業で「参考となった点」をチェックしていくレポート様式になっています．

参観にあたっては科目のシラバスを事前に読むなど，授業に関してある程度の知識を持ってください．

（出典　H23.6　教務委員会議事録資料８）

資料９－２－①－４

「2011 年度教員相互の授業参観結果」

―参観する教員の授業技術向上のため，参考となった点に対する件数―

参考点1:授業内容	件数
シラバスに照らして，年間(半期)の計画に従って順調に進行している.	42
シラバスに照らして，目標を達成できるよう説明している.	43
授業のねらいが明確に示されている.	50
(特にJABEE科目・学修単位科目では)自学自習を促す課題等が明確に提示されている.	14
学生の理解を見ながら説明がなされている.	58
参考点2:授業方法	
板書や図示は最後列から見やすくなっている.	61
声は最後列でも十分に聞き取れる.	62
学生の参加を促している.	55
副教材を使っている場合、有効に利用されている.	33
参考点3:その他	
学生を見ながら進行している.	59
質問には適切に答えている.	38
円滑な授業進行を心がけている.	54
学生の参加を促す工夫がある.	48
学生の興味を引くような工夫がある.	44

（出典　本自己評価のための作成資料）

資料９－２－①－５

「スクールハラスメントに関する教員研修・調査活動」　（抜粋）

日時　平成２３年４月７日（木）10:00～11:30
場所　大講義室
内容　学生相談室 FD「いじめ・ハラスメントに関するアンケート」集計結果について
主催者：学生相談室
参加対象者：本校の全教員

開催日時：平成 22 年 8 月 2 日(月) 10 時～17 時
会場(当番校)釧路工業高等専門学校 大講義室,会議室
研究協議題：「スクールハラスメントの現状と対応」
主催者：独立行政法人国立高等専門学校機構
釧路高専参加者：校長，学生相談室教員，他（合計 19 名）

日　時　　平成２２年３月２５日（木）　１０：００～１２：００
場　所　　大講義室
内　容　　「スクール・ハラスメントの理論と実態」（建築：大槻先生）
主催者：学生委員会
参加対象者：本校の全教員

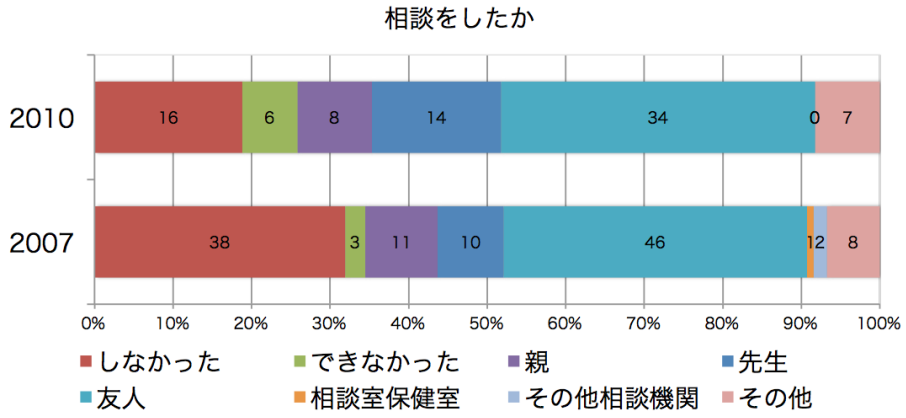
平成 19 年度　北海道・東北地区メンタルヘルス 研究協議会
開催日：2007.11.7-8　　主催：独立行政法人日本学生支援機構
参加者：三島室長，鈴木看護士，大槻委員
第 7 分科会「ハラスメントの理解と対応」についての報告（大槻室員）

（出典　本校の知らせメール）

資料９－２－①－６

「平成 23 年度４月学生相談室ＦＤ資料」　（抜粋）

誰かにハラスメントのことを相談したか？
（複数回答）



「相談しなかった，できなかった」の割合が34%→26%に減少。
教員への相談は8%→17%に増加。

（出典　H23．４．７　学生相談室 FD 資料）

（分析結果とその根拠理由）

ファカルティ・ディベロップメントは，主として教務委員会により所掌され，種々の活動を行っている。教員相互間の授業参観を毎年行っており，授業参観する教員の授業改善に視点をおいている。学生相談室を中心としたスクールハラスメントに関する一連の教員研修・調査活動は，組織としての教育の質の向上に結び付いている。

以上により，ファカルティ・ディベロップメントが，適切な方法で実施され，組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いている。

観点９－２－②：　教育支援者等に対して，研修等，その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

事務職員や技術職員を対象とした教育支援者に対する研修は，主として本校の総務課が所掌する（資料９－２－②－１）。事務職員や技術職員の資質の向上を図るために行った2011年度の研修を資料９－２－②－２に示す。助手の資質の向上を図るための研修は教務委員会の所掌であり，FDに参加させている。TAは，授業補助員として専攻科学生が本科学生の授業で補助業務を行う。TAの資質の向上を図るための取組は教務委員会の所掌事項であり，TAの業務を開始する前に全TAに対するガイダンスを行っている（資料９－２－②－３）。

資料９－２－②－１

「釧路工業高等専門学校事務組織規程」　（抜粋）

（総務課）

第10条 総務課においては，次の事務をつかさどる。

(1) 学校の事務に関し，総括し及び連絡調整すること。
(2) 機密に関すること。
(3) 儀式，諸行事及び会議に関すること。
(4) 学則その他諸規程の制定及び改廃に関すること。
(5) 学術団体等との連絡に関すること。
(6) 渉外に関すること。
(7) 法人文書の管理に関すること。
(8) 文書類の接受，発送に関すること。
(9) 公印の管守に関すること。
(10) 構内警備取締に関すること。
(11) 研究協力に関すること。
(12) 地域連携及び産学連携の推進に関すること。
(13) 国際企画に関すること。
(14) 個人情報の保護に関すること。
(15) 特許の申請等に関すること。
(16) 任免，給与，懲戒及び服務等の人事に関すること。
(17) 出張に関すること。
(18) 研修及び人事考課に関すること。

（出典　釧路高専規程）

資料９－２－②－２

「各種研修会の実施・参加状況（事務職員・技術職員）」　（抜粋）

No.	日程	研修名称 場所	参加者数 事務職員	 技術職員
1	平成 23 年 6 月 2 日	情報公開･個人情報保護制度の運用に関する研修会 札幌第一合同庁舎	1	
2	平成 23 年 6 月 20 日～ 平成 23 年 6 月 22 日	平成 23 年度独立行政法人国立高等専門学校機構初任職員研修会 国立オリンピック記念青少年総合センター	5	
3	平成 23 年 6 月 20 日～ 平成 23 年 6 月 22 日	平成 23 年度北海道地区国立大学法人等中堅職員研修 北海道大学	1	
4	平成 23 年 7 月 25 日～ 平成 23 年 7 月 29 日	平成 23 年度簿記研修（初級） (株)東京リーガルマインド水道橋本校	1	
5	平成 23 年 8 月 5 日	平成 23 年度新任部課長研修会（課長の部） 学術総合センター	1	
6	平成 23 年 8 月 17 日～ 平成 23 年 8 月 19 日	第 49 回全国大学保健管理協会北海道地方部会研究集会 ホテル札幌ガーデンパレス	1	
7	平成 23 年 8 月 25 日～ 平成 23 年 8 月 26 日	平成 23 年度北海道地区学生指導研修会 北海道大学	1	
8	平成 23 年 8 月 29 日～ 平成 23 年 8 月 31 日	平成 23 年度北海道地区国立大学法人等技術職員研修 北海道大学		1
9	平成 23 年 8 月 30 日～ 平成 23 年 8 月 31 日	第 13 回（平成 23 年度）高等専門学校及び技術科学大学図書館情報シンポジウム 長岡技術科学大学	1	
10	平成 23 年 9 月 28 日	釧路地方法務局管内市町村等訟務担当者事務打合せ会 釧路プリンスホテル	1	
11	平成 23 年 10 月 3 日～ 平成 23 年 11 月 18 日	第 49 回政府関係法人会計事務職員研修 財務省会計センター研修部	1	
12	平成 23 年 10 月 13 日	平成 23 年度北海道地区国立高等専門学校事務担当者連絡会 函館工業高等専門学校	5	
13	平成 23 年 10 月 17 日～ 平成 23 年 10 月 18 日	平成 23 年度国立高等専門学校機構施設担当職員研修会 国立オリンピック記念青少年総合センター	1	

資料９－２－②－２（続き）

14	平成 23 年 10 月 26 日	平成 23 年度北海道地区セクシュアル・ハラスメント防止研修（指導者養成コース） 札幌第三合同庁舎	1	
15	平成 23 年 10 月 26 日～ 平成 23 年 10 月 28 日	平成 23 年度独法簿記研修 国立オリンピック記念青少年総合センター	2	
16	平成 23 年 10 月 31 日～ 平成 23 年 11 月 1 日	平成 23 年度北海道地区国立大学法人等施設担当職員研修会 小樽商科大学	1	
17	平成 23 年 11 月 1 日～ 平成 23 年 11 月 2 日	平成 23 年度情報処理技術セミナー 国立情報学研究所		1
18	平成 23 年 11 月 17 日～ 平成 23 年 11 月 18 日	平成 23 年度国立高等専門学校機構新任課長補佐・係長研修会 国立オリンピック記念青少年総合センター	3	
19	平成 23 年 11 月 30 日～ 平成 23 年 12 月 2 日	平成 23 年度北海道地区国立大学法人等会計基準研修 北海道大学	1	
20	平成 23 年 12 月 8 日～ 平成 23 年 12 月 9 日	平成 23 年度学務関係職員研修会 学術総合センター	1	
21	平成 23 年 12 月 8 日～ 平成 23 年 12 月 9 日	平成 23 年度国立高等専門学校機構中堅職員研修会 国立オリンピック記念青少年総合センター	1	
22	平成 23 年 12 月 12 日～ 平成 23 年 12 月 14 日	平成 23 年度初級人事事務研修会（東日本地区） キャンパス・イノベーションセンター	1	
23	平成 23 年 12 月 26 日～ 平成 23 年 12 月 27 日	平成 23 年度国立高等専門学校機構ネットワーク管理者研修会 国立オリンピック記念青少年総合センター		2
24	平成 24 年 1 月 26 日～ 平成 24 年 1 月 27 日	第 8 回全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究集会 国立オリンピック記念青少年総合センター	1	
25	平成 24 年 1 月 26 日	情報システム統一研修第 12 回 PMO／PJMO 新任者 中央合同庁舎2号館	1	
26	平成 24 年 2 月 1 日～ 平成 24 年 3 月 21 日	情報システム統一研修第 8 回業務・システム最適化基礎 釧路工業高等専門学校	1	
27	平成 24 年 2 月 1 日～ 平成 24 年 3 月 21 日	情報システム統一研修第 8 回情報化施策基礎 釧路工業高等専門学校	1	
28	平成 24 年 3 月 8 日	平成 23 年度北海道地区 4 高専連携による技術職員 SD 研修会 函館工業高等専門学校		3

（出典　総務課作成資料）

資料９－２－②－３

「平成 24 年４月９日 TA ガイダンス資料」　（抜粋）

T・Aを行うにあたって

釧路高専
専攻科

2012. 4

T・Aとは？

- Teaching Assistant：　授業補助員と言ったり，助手と言ったりする．（高専や大学の「助手」とは違う）
- 大学では，院生以上が学部生の講義で補助的役割を担うときに用いる．
- 釧路高専では，T・Aの意味を拡張し，専攻科学生が本科学生の授業で補助業務を行う．
- 実験機器の準備などではない．「教える」補助である．

心構え

- 非常勤職員として釧路高専に雇われる
  - 給料分の仕事をきちんとする．
  - 時間厳守！！遅刻不可！！
- 授業担当科目の教員は上司にあたる
  - 自分のやり方と違う，は通じない．教員とよく話し合うこと．
- 学生は後輩だが友達ではない．
  - 君たちも「先生」である．
  - 身だしなみに注意する．

事前準備について

- 予習をする
  - 何をどう教えるのか，あらかじめ授業担当教員と確認し，理解しておく．
  - 授業担当教員の希望する補助業務の内容を理解する．
  - 学生の質問に備える．（自分の復習になる）

ただし，この部分は給与の対象外

授業補助業務中

- 授業中は
  - 常に動き回り，学生の状況把握に努める．
  - 困っている学生には積極的に指導する．
  - すぐに答えを教えず，まず，ヒントを出す．
  - 質問に，はっきりと答える．
  - 自分が理解できないことを質問された時は，授業担当教員を呼ぶ．
  - 教科書，テキストの該当する部分を明確に示す．

授業終了後

- 後片付けの指導をする．
- 授業中に気になったことを授業担当教員に報告する．
- 次の授業について，授業担当教員に確認する．
- T・A日誌をつけて学生課に提出する．
  （T・A日誌は学生課で保管する）
- 労働報告書は毎月授業担当教員に提出した後、学生課に提出する．

（出典　平成 24 年４月９日 TA ガイダンス資料）

（分析結果とその根拠理由）

事務職員や技術職員を対象とした教育支援者に対する資質の向上のための研修は，総務課により所掌され，適切に実施されている。助手の研修は教務委員会の所掌であり，FDの中で行っている。TAの資質の向上を図るための取組は教務委員会の所掌事項であり，全TAに対するガイダンスを行っている。

以上により，教育支援者等に対して，研修等，その資質の向上を図るための取組が適切に行われている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

特になし。

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準９の自己評価の概要

教育の状況に関する資料は，教員及び各担当事務組織により適切に収集・蓄積されている。運営会議，評価専門委員会，教務委員会，教育システム評価改善委員会を主体とするPDCAサイクルがあり，教育活動に関する各種の評価結果を教育の質の向上・教育改善に無図ぎつけられるようなシステムが整備され，教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられている。

運営諮問委員会，企業アンケート，保護者の意見，意見箱，授業評価アンケート等，学内外の意見を基にして，組織として及び教員個人の教育改善が適切に行われている。

教員の専門分野の研究活動は，主として卒業研究，特別研究の指導として教育内容の改善に寄与している。また，教員の専門的な研究活動や教育方法等に関する研究活動に学生が直接参加することにより，実践的な専門技術を身につける効果がある。

ファカルティ・ディベロップメントは，主として教務委員会により所掌され，新任教員の研修，教育方法に関する研修，学校の運営に関する研修，学内の研究会などがある。校長による非常勤教員懇談会を毎年行い，教育課題に関する情報を共有するにより，非常勤教員を含めた教育の質の向上を図っている。教員相互間の授業参観（非常勤講師を含む）を毎年行っており，授業参観する教員の授業改善に視点をおいている。学生相談室を中心としたスクールハラスメントに関する一連の教員研修・調査活動成果により，教員のハラスメントに対する意識が高くなって，組織として教育の質の向上に結び付いている。

事務職員や技術職員を対象とした教育支援者に対する資質の向上のための研修は，主として本校の総務課により所掌され実施されている。TAは専攻科学生が担当するため，教務委員会の所掌として，全TAを対象としたガイダンスを実施している。

基準10 財務

（１）観点ごとの分析

観点10－１－①：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また，債務が過大ではないか。

（観点に係る状況）

本校における教育活動等を将来にわたって安定して遂行するために必要な校地・校舎・設備等は，配置図・施設概況（資料８－1－①－２～３前出）及び債務については，平成19年度から平成23年度の貸借対照表（資料10－1－①－１）に示すとおりである。

資料 10－1－①－ 1

「平成 19 年度貸借対照表」

貸借対照表
（平成19年4月 1 日～平成20年3月31日）

資産の部		負債及び資本の部	
科目	金額	科目	金額
［資産の部］	3,911,314,596	［負債の部］	306,391,922
流動資産	64,267,973	流動負債	236,261,228
現金及び預金	60,109,652	運営費交付金債務	0
有価証券	0	授業料債務	0
受取手形	0	承継剰余金債務	0
未収学生納付金収入	2,839,050	預り施設費	0
棚卸資産	0	預り補助金等	0
未収入金	508,400	預り寄附金	33,346,479
前渡金	0	前受受託研究費等	0
前払費用	25,025	前受受託事業費等	0
未収収益	0	短期借入金	0
短期貸付金	0	１年以内返済予定長期借入金	0
その他の流動資産	785,846	未払金	181,280,440
徴収不能引当金	0	未払消費税等	0
貸倒引当金	0	未払費用	9,605,459
固定資産	3,847,046,623	前受金	0
有形固定資産	3,846,936,160	預り金	12,028,850
建物	3,309,209,980	前受収益	0
建物減価償却累計額	-545,875,484	引当金	0
建物減損損失累計額	0	その他の流動負債	0
構築物	342,530,885	固定負債	70,130,694
構築物減価償却累計額	-208,082,753	資産見返負債	70,130,694
構築物減損損失累計額	0	資産見返運営費交付金等	43,619,839
機械装置	0	資産見返補助金等	1,059,053
機械装置減価償却累計額	0	資産見返寄附金	3,805,349
機械装置減損損失累計額	0	資産見返物品受贈額	20,940,103
船舶	0	建設仮勘定見返運営費交付金等	681,450
船舶減価償却累計額	0	建設仮勘定見返施設費	0
船舶減損損失累計額	0	建設仮勘定見返補助金等	0
車両運搬具	5,904,361	建設仮勘定見返寄附金	0
車両運搬具減価償却累計額	-4,756,564	特許権仮勘定見返運営費交付金等	24,900
車両運搬具減損損失累計額	0	特許権仮勘定見返補助金等	0
工具器具備品	141,775,344	特許権仮勘定見返寄附金	0
工具器具備品減価償却累計額	-84,755,530	長期預り金補助金等	0
工具器具備品減損損失累計額	0	長期預り金寄附金	0
土地	884,035,760	長期前受受託研究費等	0
土地減損損失累計額	0	長期前受受託事業費等	0
建設仮勘定	681,450	長期借入金	0
その他の有形固定資産	6,268,711	長期未払金	0
その他の有形固定資産減価償却累計額	0	引当金	0
その他の有形固定資産減損損失累計額	0	その他の固定負債	0
無形固定資産	90,900		
特許権	0		
借地権	0		
商標権	0		
実用新案権	0		
意匠権	0	［純資産の部］	3,756,204,190
ソフトウェア	0	資本金	3,047,420,379
電話加入権	66,000	資本剰余金	708,471,548
その他の無形固定資産	0	資本剰余金	1,486,406,904
著作権	0	損益外減価償却累計額	-775,533,427
特許権仮勘定	24,900	損益外減損損失累計額	-478,000
投資その他の資産	19,563	損益外固定資産除売却差額	-1,923,929
投資有価証券	0	利益剰余金	312,263
長期貸付金	0	前中期目標期間繰越積立金	0
長期前払費用	8,633	目的積立金	0
未収財源措置予定額	0	積立金	0
敷金・保証金	0	当期未処分利益	312,263
長期未収入金	0	繰越欠損金	0
破産債権、再生債権、更正債権その他これらに順ずる債権	0	当期未処理損失	0
その他の投資その他の資産	10,930	その他の有価証券評価差額金	0
貸倒引当金	0		
［本支店勘定］	151,281,516		
［本支店］機構本部	6,111,498		
［本支店］機構本部管理課	145,170,018		
合　　計	4,062,596,112	合　　計	4,062,596,112

資料 10－１－①－１（続き）

「平成 20 年度貸借対照表」

貸借対照表
（平成20年4月１日～平成21年3月31日）

資産の部		負債及び資本の部	
科目	金額	科目	金額
[資産の部]	3,818,890,115	[負債の部]	442,478,633
流動資産	39,341,971	流動負債	304,111,710
現金及び預金	28,510,118	運営費交付金債務	0
有価証券	0	授業料債務	0
受取手形	0	承継剰余金債務	0
未収学生納付金収入	3,692,850	預り施設費	0
棚卸資産	0	預り補助金等	0
未収入金	6,919,393	預り寄附金	30,905,480
前渡金	0	前受受託研究費等	500,000
前払費用	19,419	前受受託事業費等	0
未収収益	0	短期借入金	0
短期貸付金	0	１年以内返済予定長期借入金	0
その他の流動資産	200,191	未払金	234,324,279
徴収不能引当金	0	未払消費税等	0
貸倒引当金	0	未払費用	9,569,579
固定資産	3,779,548,144	前受金	0
有形固定資産	3,779,426,005	預り金	28,812,372
建物	3,359,732,092	前受収益	0
建物減価償却累計額	-651,579,609	引当金	0
建物減損損失累計額	0	その他の流動負債	0
構築物	362,585,076	固定負債	138,366,923
構築物減価償却累計額	-236,840,786	資産見返負債	138,366,923
構築物減損損失累計額	0	資産見返運営費交付金等	119,259,480
機械装置	0	資産見返補助金等	1,322,473
機械装置減価償却累計額	0	資産見返寄附金	4,234,170
機械装置減損損失累計額	0	資産見返物品受贈額	13,522,100
船舶	0	建設仮勘定見返運営費交付金等	0
船舶減価償却累計額	0	建設仮勘定見返施設費	0
船舶減損損失累計額	0	建設仮勘定見返補助金等	0
車両運搬具	5,904,361	建設仮勘定見返寄附金	0
車両運搬具減価償却累計額	-5,538,325	特許権仮勘定見返運営費交付金等	28,700
車両運搬具減損損失累計額	0	特許権仮勘定見返補助金等	0
工具器具備品	156,331,256	特許権仮勘定見返寄附金	0
工具器具備品減価償却累計額	-101,472,531	長期預り金補助金等	0
工具器具備品減損損失累計額	0	長期預り金寄附金	0
土地	884,035,760	長期前受受託研究費等	0
土地減損損失累計額	0	長期前受受託事業費等	0
建設仮勘定	0	長期借入金	0
その他の有形固定資産	6,268,711	長期未払金	0
その他の有形固定資産減価償却累計額	0	引当金	0
その他の有形固定資産減損損失累計額	0	その他の固定負債	0
無形固定資産	94,700		
特許権	0		
借地権	0		
商標権	0		
実用新案権	0		
意匠権	0	[純資産の部]	3,618,182,996
ソフトウェア	0	資本金	3,047,420,379
電話加入権	66,000	資本剰余金	571,965,965
その他の無形固定資産	0	資本剰余金	1,486,104,904
著作権	0	損益外減価償却累計額	-912,039,010
特許権仮勘定	28,700	損益外減損損失累計額	-176,000
投資その他の資産	27,439	損益外固定資産除売却差額	-1,923,929
投資有価証券	0	利益剰余金	-1,203,348
長期貸付金	0	前中期目標期間繰越積立金	0
長期前払費用	8,089	目的積立金	0
未収財源措置予定額	0	積立金	0
敷金・保証金	0	当期未処分利益	-1,203,348
長期未収入金	0	繰越欠損金	0
破産債権、再生債権、更正債権その他これらに順ずる債権	0	当期未処理損失	0
その他の投資その他の資産	19,350	その他の有価証券評価差額金	0
貸倒引当金	0		
[本支店勘定]	241,771,514		
[本支店]機構本部	-9,284,188		
[本支店]機構本部管理課	251,055,702		
合　　計	4,060,661,629	合　　計	4,060,661,629

資料 10－１－①－１（続き）

「平成 21 年度貸借対照表」

貸借対照表
（平成21年4月１日～平成22年3月31日）

資産の部		負債及び資本の部	
科目	金額	科目	金額
[資産の部]	3,927,117,108	[負債の部]	553,030,733
流動資産	117,900,903	流動負債	286,693,058
現金及び預金	27,397,269	運営費交付金債務	0
有価証券	0	授業料債務	0
受取手形	0	承継剰余金債務	0
未収学生納付金収入	2,006,550	預り施設費	0
棚卸資産	170,778	預り補助金等	0
未収入金	88,305,462	預り寄附金	32,361,475
前渡金	0	前受受託研究費等	500,000
前払費用	19,324	前受受託事業費等	0
未収収益	0	短期借入金	0
短期貸付金	0	１年以内返済予定長期借入金	0
その他の流動資産	1,520	未払金	214,322,837
徴収不能引当金	0	未払消費税等	0
貸倒引当金	0	未払費用	10,955,496
固定資産	3,809,216,205	前受金	0
有形固定資産	3,809,093,701	預り金	28,553,250
建物	3,459,772,184	前受収益	0
建物減価償却累計額	-756,414,417	引当金	0
建物減損損失累計額	0	その他の流動負債	0
構築物	366,679,001	固定負債	266,337,675
構築物減価償却累計額	-265,235,905	資産見返負債	266,337,675
構築物減損損失累計額	0	資産見返運営費交付金等	190,890,417
機械装置	0	資産見返補助金等	64,368,893
機械装置減価償却累計額	0	資産見返寄附金	2,566,031
機械装置減損損失累計額	0	資産見返物品受贈額	8,481,734
船舶	0	建設仮勘定見返運営費交付金等	0
船舶減価償却累計額	0	建設仮勘定見返施設費	0
船舶減損損失累計額	0	建設仮勘定見返補助金等	0
車両運搬具	5,904,361	建設仮勘定見返寄附金	0
車両運搬具減価償却累計額	-5,904,357	特許権仮勘定見返運営費交付金等	30,600
車両運搬具減損損失累計額	0	特許権仮勘定見返補助金等	0
工具器具備品	234,748,268	特許権仮勘定見返寄附金	0
工具器具備品減価償却累計額	-120,759,905	長期預り金補助金等	0
工具器具備品減損損失累計額	0	長期預り金寄附金	0
土地	884,035,760	長期前受受託研究費等	0
土地減損損失累計額	0	長期前受受託事業費等	0
建設仮勘定	0	長期借入金	0
その他の有形固定資産	6,268,711	長期未払金	0
その他の有形固定資産減価償却累計額	0	引当金	0
その他の有形固定資産減損損失累計額	0	その他の固定負債	0
無形固定資産	96,600		
特許権	0		
借地権	0		
商標権	0		
実用新案権	0		
意匠権	0	[純資産の部]	3,517,998,814
ソフトウェア	0	資本金	3,047,420,379
電話加入権	66,000	資本剰余金	474,032,309
その他の無形固定資産	0	資本剰余金	1,520,006,532
著作権	0	損益外減価償却累計額	-1,043,874,294
特許権仮勘定	30,600	損益外減損損失累計額	-176,000
投資その他の資産	25,904	損益外固定資産除売却差額	-1,923,929
投資有価証券	0	利益剰余金	-3,453,874
長期貸付金	0	前中期目標期間繰越積立金	0
長期前払費用	6,554	目的積立金	0
未収財源措置予定額	0	積立金	0
長期性預金	0	当期未処分利益	-3,453,874
敷金・保証金	0	繰越欠損金	0
長期未収入金	0	当期未処理損失	0
破産債権、再生債権、更正債権その他これらに順ずる債権	0	その他の有価証券評価差額金	0
その他の投資その他の資産	19,350		
貸倒引当金	0		
[本支店勘定]	143,912,439		
[本支店]機構本部（統括）	-1,166,247		
[本支店]機構本部管理課	145,078,686		
合　計	4,071,029,547	合　計	4,071,029,547

資料 10－１－①－１（続き）

「平成 22 年度貸借対照表」

貸借対照表
（平成22年4月１日～平成23年3月31日）

資産の部		負債及び資本の部	
科目	金額	科目	金額
[資産の部]	3,798,497,142	[負債の部]	725,237,543
流動資産	34,056,568	流動負債	401,667,768
現金及び預金	24,365,800	運営費交付金債務	0
有価証券	0	授業料債務	0
受取手形	0	承継剰余金債務	0
未収学生納付金収入	676,800	預り施設費	14,280,000
棚卸資産	36,172	預り補助金等	0
未収入金	8,960,007	預り寄附金	27,236,262
前渡金	0	前受受託研究費等	0
前払費用	17,789	前受受託事業費等	0
未収収益	0	短期借入金	0
短期貸付金	0	１年以内返済予定長期借入金	0
その他の流動資産	0	未払金	324,985,740
徴収不能引当金	0	未払消費税等	0
貸倒引当金	0	未払費用	9,272,722
固定資産	3,764,440,574	前受金	0
有形固定資産	3,764,317,134	預り金	25,893,044
建物	3,502,200,210	前受収益	0
建物減価償却累計額	-863,574,866	引当金	0
建物減損損失累計額	0	その他の流動負債	0
構築物	369,986,501	固定負債	323,569,775
構築物減価償却累計額	-275,776,795	資産見返負債	323,069,775
構築物減損損失累計額	0	資産見返運営費交付金等	252,354,903
機械装置	0	資産見返補助金等	61,379,721
機械装置減価償却累計額	0	資産見返寄附金	5,245,317
機械装置減損損失累計額	0	資産見返物品受贈額	4,059,234
船舶	0	建設仮勘定見返運営費交付金等	0
船舶減価償却累計額	0	建設仮勘定見返施設費	0
船舶減損損失累計額	0	建設仮勘定見返補助金等	0
車両運搬具	5,904,361	建設仮勘定見返寄附金	0
車両運搬具減価償却累計額	-5,904,357	特許権仮勘定見返運営費交付金等	30,600
車両運搬具減損損失累計額	0	特許権仮勘定見返補助金等	0
工具器具備品	285,035,941	特許権仮勘定見返寄附金	0
工具器具備品減価償却累計額	-143,858,332	長期預り金補助金等	0
工具器具備品減損損失累計額	0	長期預り金寄附金	0
土地	884,035,760	長期前受受託研究費等	500,000
土地減損損失累計額	0	長期前受受託事業費等	0
建設仮勘定	0	長期借入金	0
その他の有形固定資産	6,268,711	長期未払金	0
その他の有形固定資産減価償却累計額	0	引当金	0
その他の有形固定資産減損損失累計額	0	その他の固定負債	0
無形固定資産	96,600		
特許権	0		
借地権	0		
商標権	0		
実用新案権	0		
意匠権	0	[純資産の部]	3,424,576,805
ソフトウェア	0	資本金	3,047,420,379
電話加入権	66,000	資本剰余金	372,891,142
その他の無形固定資産	0	資本剰余金	1,532,321,530
著作権	0	損益外減価償却累計額	-1,157,330,459
特許権仮勘定	30,600	損益外減損損失累計額	-176,000
投資その他の資産	26,840	損益外固定資産除売却差額	-1,923,929
投資有価証券	0	利益剰余金	4,265,284
長期貸付金	0	前中期目標期間繰越積立金	0
長期前払費用	7,490	目的積立金	0
未収財源措置予定額	0	積立金	0
長期性預金	0	当期未処分利益	4,265,284
敷金・保証金	0	繰越欠損金	0
長期未収入金	0	当期未処理損失	0
破産債権、再生債権、更正債権その他これらに順ずる債権	0	その他の有価証券評価差額金	0
その他の投資その他の資産	19,350		
貸倒引当金	0		
[本支店勘定]	351,317,206		
[本支店]機構本部（統括）	2,287,627		
[本支店]機構本部管理課	349,029,579		
合　　計	4,149,814,348	合　　計	4,149,814,348

資料 10－１－①－１（続き）

「平成 23 年度貸借対照表」

貸借対照表
（平成23年4月１日～平成24年3月31日）

資産の部		負債及び資本の部	
科目	金額	科目	金額
[資産の部]	3,727,211,978	[負債の部]	448,283,249
流動資産	26,060,112	流動負債	123,193,869
現金及び預金	24,643,808	運営費交付金債務	75,920
有価証券	0	授業料債務	0
受取手形	0	承継剰余金債務	0
未収学生納付金収入	930,600	預り施設費	0
棚卸資産	0	預り補助金等	0
未収入金	465,739	預り寄附金	24,244,046
前渡金	0	前受受託研究費等	0
前払費用	19,965	前受受託事業費等	1,000,000
未収収益	0	短期借入金	0
短期貸付金	0	１年以内返済予定長期借入金	0
その他の流動資産	0	未払金	64,340,948
徴収不能引当金	0	未払消費税等	0
貸倒引当金	0	未払費用	7,770,136
固定資産	3,701,151,866	前受金	0
有形固定資産	3,701,029,678	預り金	25,762,819
建物	3,555,406,640	前受収益	0
建物減価償却累計額	-969,805,020	引当金	0
建物減損損失累計額	0	その他の流動負債	0
構築物	369,986,501	固定負債	325,089,380
構築物減価償却累計額	-283,520,776	資産見返負債	325,089,380
構築物減損損失累計額	0	資産見返運営費交付金等	260,177,172
機械装置	0	資産見返補助金等	58,581,322
機械装置減価償却累計額	0	資産見返寄附金	4,984,533
機械装置減損損失累計額	0	資産見返物品受贈額	1,315,753
船舶	0	建設仮勘定見返運営費交付金等	0
船舶減価償却累計額	0	建設仮勘定見返施設費	0
船舶減損損失累計額	0	建設仮勘定見返補助金等	0
車両運搬具	5,904,361	建設仮勘定見返寄附金	0
車両運搬具減価償却累計額	-5,904,357	特許権仮勘定見返運営費交付金等	30,600
車両運搬具減損損失累計額	0	特許権仮勘定見返補助金等	0
工具器具備品	304,216,067	特許権仮勘定見返寄附金	0
工具器具備品減価償却累計額	-165,558,209	長期預り金補助金等	0
工具器具備品減損損失累計額	0	長期預り金寄附金	0
土地	884,035,760	長期前受受託研究費等	0
土地減損損失累計額	0	長期前受受託事業費等	0
建設仮勘定	0	長期借入金	0
その他の有形固定資産	6,268,711	長期未払金	0
その他の有形固定資産減価償却累計額	0	引当金	0
その他の有形固定資産減損損失累計額	0	資産除去債務	0
無形固定資産	96,600	その他の固定負債	0
特許権	0		
借地権	0		
商標権	0		
実用新案権	0		
意匠権	0	[純資産の部]	3,352,292,604
ソフトウェア	0	資本金	3,047,420,379
電話加入権	66,000	資本剰余金	317,518,023
その他の無形固定資産	0	資本剰余金	1,574,595,056
著作権	0	損益外減価償却累計額	-1,254,977,104
特許権仮勘定	30,600	損益外減損損失累計額	-176,000
投資その他の資産	25,588	損益外固定資産除売却差額	-1,923,929
投資有価証券	0	損益外利息費用累計額	0
長期貸付金	0	利益剰余金	-12,645,798
長期前払費用	6,238	前中期目標期間繰越積立金	0
未収財源措置予定額	0	目的積立金	0
長期性預金	0	積立金	0
敷金・保証金	0	当期未処分利益	-12,645,798
長期未収入金	0	繰越欠損金	0
破産債権、再生債権、更正債権その他これらに順ずる債権	0	当期未処理損失	0
その他の投資その他の資産	19,350	その他の有価証券評価差額金	0
貸倒引当金	0		
[本支店勘定]	73,363,875		
[本支店]機構本部（統括）	-1,977,657		
[本支店]機構本部管理課	75,341,532		
合　　計	3,800,575,853	合　　計	3,800,575,853

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

資産及び債務については，配置図・施設概況及び貸借対照表のとおりである。また，貸借対照表から，中長期的な安定性が確保されていることがわかる。債務については，短期借入金，長期借入金を有していない。

以上のことから，学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有し，債務も適正である。

観点10－１－②：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための，経常的収入が継続的に確保されているか。

（観点に係る状況）

本校における経常的収入は，高専機構から配分される運営費交付金収入及び授業料等の自己収入であり，これらが教育研究活動の基本的な財源となっている（資料10－１－②－１）。

資料 10－１－②－１

「 収入の確保等の状況」

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
運営費交付金	1,109,781,212	1,144,164,252	1,059,214,822	1,178,714,070	85,235,850
授業料収入	221,560,150	222,635,400	222,811,350	237,059,900	229,886,815
入学金収入	20,219,400	19,881,000	22,503,600	17,427,600	17,089,200
検定料収入	4,834,500	4,240,500	5,577,000	4,026,000	4,240,500
雑収入	12,307,691	13,700,105	14,038,921	15,690,661	12,931,415
産学連携等研究収入	31,157,000	34,520,093	16,885,987	7,411,330	6,495,739
寄附金収入	17,842,453	10,574,890	13,318,850	8,950,000	7,970,000
その他補助金	11,719,200	13,802,000	102,653,856	14,656,591	7,638,000
収入計	1,429,421,606	1,463,518,240	1,457,004,386	1,483,936,152	371,487,519

（ 出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，国から高専機構を通じて配分される運営費交付金収入及び授業料，入学料，検定料等の自己収入がある。また，外部資金（産学連携等研究収入，寄附金収入等）も継続的に確保している。

以上のことから，学校の目的に沿った教育研究活動を安定的に遂行するための経常的収入が継続的に確保できている。

観点10－１－③：　学校の目的を達成するために，外部の財務資源の活用策を策定し，実行しているか。

（観点に係る状況）

組織的外部資金の獲得計画を担当させるため，副校長（運営計画担当）を配置（資料10－１－③－１）し，教員の支援体制を整備しており，この成果は競争的外部資金状況一覧（資料10－１－③－２）に示すとおりである。

また，研究企画主事（資料10－１－③－３）及び研究企画室（資料10－１－③－４）を置き，科学研究費の獲得に向けては，研究企画室が中心となり，学内において説明会（資料10－１－③－５）を開催するほか，今後の発展性が見込める研究計画について支援する仕組み（資料10－１－③－６）を設けている。これらは科学研究費補助金採択状況（資料10－１－③－７）のとおり成果を上げている。

そのほか，外部資金を獲得した者に対するインセンティブを付与する体制（資料10－１－③－８）を整え，また，本校内部向けホームページを活用して研究助成公募情報を提供し，教員の外部資金獲得を推奨・支援している（資料10－１－③－９）。

資料 10－１－③－１

「副校長，校長補佐の設置について」　（抜粋）

（平成13年11月30日 校長裁定）

改定 平成14.12.20　・・・　平成21.３.18　校長裁定

１ 釧路工業高等専門学校に副校長（総務・教務担当）及び副校長（運営計画担当）を置き，校長が指名する者をもって充てる。

２～３　（略）

４ 副校長（運営計画担当）は，校長の命を受け，次の事項を掌理する。

一 組織的外部資金（ＧＰ）に関すること。

二 将来計画に関すること。

三 中期目標，中期計画に関すること。

四 自己点検評価に関すること。

五 施設整備に関すること。

六 その他，本校の運営計画に関し，必要と認められること。

５ ～７　（略）

（出典　釧路高専規程）

資料　10－１－③－２

「競争的外部資金採択一覧」

予算単位:千円

事業名	プログラム名	所管	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	開始年度 予算上限 支援期間
製造中核人材育成事業	高性能食品加工機械製造技術者等育成事業	経済産業省			○ (3,835)	(4,095)	(自立化)有料の公開講座とし実施	(自立化)公開講座として実施	(自立化)公開講座として実施	(自立化)公開講座として実施予定	
高専活用人材育成事業		経済産業省(中小企業庁)		FS事業採択	申請→中核人材に回						
ものづくり分野の人材育成・確保事業 「ものづくり担い手育成事業」	『市場競争力を高めるためのITスキルレベルアップ教育・研修』	全国中小企業団体中央会						釧路工業技術センターが採択・実施			H21年度 1,500 1年
原子力人材育成プログラム	原子力研究促進プログラム	文部科学省				○ (1,296)	申請(不採択)	申請しない			H19新設 1,500 1年
原子力人材育成プログラム	原子力コア人材育成プログラム	文部科学省						○ (5,957)	→		7,000 2年間
原子力人材育成等推進事業 国際原子力人材育成イニシアティブ	機関横断的な人材育成事業	文部科学省								機構本部が採択	
現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)	社会接続問題解決型の環境持続性教育	文部科学省			○ (4,580)	(5,400)	(6,807)				
質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)(平成20年度新設)	技術者コンピテンシー育成プログラム～技術者としての資質向上を目指した教育～	文部科学省					申請(不採択)				H20新設 20,000 2～3年
質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)(平成20年度新設)	技術者コンピテンシー育成プログラム～技術者としての資質向上を目指した教育～	文部科学省					申請(不採択)				H20新設 20,000 2～3年
大学教育・学生支援推進事業	異学年・異空間交流教育による技術者力育成	文部科学省						申請(不採択)			H21新設 23,000 2～3年
戦略的大学連携支援事業	エンジニアリング・デザイン能力育成のための高専連携型設計教育拠点形成	文科省						申請(不採択)			H20新設 50,000 2～3年

資料 10－１－③－２（続き）

社会人の学び直しニーズ対応した学生支援プログラム	OSS利用技術修得プログラム	文部科学省				○ (6,453)	→ (8,730)	□ (7, 797)			H19新設 20,000 3年
新たな社会的ニーズに対応教育推進プログラム(学生支援GP)	高等専門学校での特別支援教育	文部科学省				○ (5,023)	→ (6,995)				H19新設 15,000 2年
産学連携による実践型推進プログラム (ものづくり技術者育成支援事業)	「北方型住宅建設を介した地域連携によるトータルマネジメント能力育成プログラムの開発」	文部科学省				○ (14,021)	→ (12,000)	→ (9,000)			H19～15,000新設 H20～12,000 3年
産学連携による実践型推進プログラム (ものづくり技術者育成支援事業)	産学連携＋融合・複合教育による高専学士教育課程におけるものづくり技術者の育成	文部科学省					申請(不採択) (ヒアリング実施)				15,000 3年
サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SPP)	指導力向上研修(中学校教員の研修支援:釧路教育研究センター)	JST		○ (150)	○ (269)	○ (512)	○ (321)	○ (466)			1年 1,000
サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SPP)	講座型学習活動(大楽毛小学校)	JST			○	○					1年 1,000
地域科学理解増進活動推進事業 地域活動支援	釧路高専おもしろものづくりin こども遊学館	JST				○ (500)	○ (1,000)	採択(2件) (1,300)			H19新設 1,000 1年
地域の科学舎推進事業「地域活動支援」	釧路高専おもしろものづくり教室 マイロボットをあやつろう！	JST							○ (500)		H21新設 1,000 1年
地域の科学舎推進事業「地域活動支援」	釧路高専サイエンスパーク2011 くしろチャレンジカップ	JST								申請(不採択)	H21新設 1,000 1年
知的財産教育推進協力校	専門性を活かした“ものづくり”から特許出願書を作成する	(社) 発明協会					○ (250)	○ (500)			500 1年
科学技術振興調整費:地域再生人材創出拠点の形成	耐厳寒Hokkaido型構造物生産技術者育成ユニットの形成	JST					申請(不採択)	ヒアリング実施 不採択			H19新設 50,000 5年
重点地域研究開発推進プログラム (地域ニーズ即応型)1次募集	高機能性”氷”製造プロセスの確立	JST					申請(不採択)				H20新設 5,000 2年
重点地域研究開発推進プログラム (地域ニーズ即応型)2次募集	鮮度保持能力に優れた高機能氷製造技術の開発	JST					申請(不採択)				H20新設 5,000 2年

（出典　総務課資料）

資料10－１－③－３

「釧路工業高等専門学校教員組織及び職務分掌規程」　（抜粋）

（昭和43年８月30日 釧高専規第15号）

改正 昭和45．６．13　・・平成　23．３．28　釧高専達第24号

第１条 ～第９条　　（略）

第10条 研究企画主事は，校長の命を受け，研究活動に関する次の各号に掲げる事項を掌理する。

一 外部資金の獲得に関すること。

二 学術情報の提供に関すること。

三 知的財産に関すること。

四 その他研究活動に関し，必要と認められること。

第 11 条 ～　第 20 条　　（略）

（出典　釧路高専規程）

資料　１０－１－③－４

「釧路工業高等専門学校研究企画室設置要項」

（平成 22 年 7 月 26 日 校長裁定）

（設置）

第１条 釧路工業高等専門学校に研究活動の促進に関する事項を審議するため，研究企画室（以下「室」という。）を置く。

（審議事項）

第２条 室は，次に掲げる事項を審議する。

一 外部資金の獲得に関すること（組織的外部資金に関することを除く。）。

二 その他研究活動に関し，必要と認められること。

（組織）

第３条 室は，次に掲げる者で組織する。

一 研究企画主事

二 研究企画主事補

三 総務課長

四 校長が必要と認めた者 若干名

（任期）

第４条 前条第四号の委員の任期は１年とする。ただし，再任を妨げない。

２ 室員に欠員を生じた場合の補欠の室員の任期は，前任者の残任期間とする。

（室長）

第５条 室に室長を置き，研究企画主事をもって充てる。

２ 室長は，会議を招集し，その議長となる。

３ 室長に事故あるときは，あらかじめ室長が指名した室員がその職務を代行する。

（室員以外の者の出席）

第６条 室長が必要と認めたときは，室員以外の者の出席を求め，説明又は意見を聴くことができる。

（報告）

第７条 室長は，会議で審議された事項を総括し，校長に報告するものとする。

（事務）

第８条 室の事務は，総務課において処理する。

（雑則）

第９条 この要項に定めるもののほか，室の運営等に関し必要な事項は，別に定める。

（出典　釧路高専規程）

資料 10－１－③－５

「科学研究費に関する説明会開催状況」

日時	場所	対象者	講師	テーマ	出席者数
平成18年10月18日	本校大講義室	本校教職員	電子工学科・中村教員 建築学科・森教員 会計課長・庶務係員	【第1部】 研究計画調書作成の工夫について 【第2部】 科学研究費補助金の不正使用等の防止について 【第3部】 平成19年度科学研究費補助金応募についての事務連絡	本校教員31名，職員12名
平成19年9月21日	本校大講義室	本校教職員	校長，機械工学科，高橋(剛)教員，総務課長，総務係員	1)科学研究費補助金獲得のための釧路高専の対応と方向性 2)科学研究費補助金パワーアップセミナー参加報告 3)科学研究費補助金の管理・運用について 4)平成20年度科学研究費補助金申請についての事務連絡	本校教員35名，職員8名
平成20年9月9日	本校大講義室	本校教職員	国立大学法人北海道大学・大学院情報科学研究科・教授(量子集積エレクトロニクス研究センター長)福井孝志氏，研究協力室長	1)外部講師による科学研究費補助金の申請書作成のポイント解説 2)科学研究費補助金の不正使用防止のための説明	本校教員28名，職員7名
平成21年9月29日	本校大講義室	本校教職員	国立大学法人北海道大学・大学院情報科学研究科・情報エレクトロニクス専攻・准教授・葛西誠也氏，電気工学科・須田教員，研究企画主事補，経理担当事務職員，研究協力室員	1)外部講師による科学研究費補助金の申請書作成のポイント解説 2)研究計画調書作成の工夫について 3)北見工業大学「科学研究費補助金パワーアップセミナー」参加報告 4)科学研究費補助金等の不正使用防止のための説明 5)平成22年度応募に関する注意事項	本校教員22名，職員11名
平成22年9月28日	本校大講義室	本校教職員	国立大学法人北海道大学・大学院情報科学研究科・情報エレクトロニクス専攻・准教授・葛西誠也　氏，情報工学科・本間教員，建築学科・西澤教員，経理担当事務職員，研究協力室事務職員	1)講演「採択される科研費計画調書を書くには」 2)研究計画調書作成の工夫について 3)科学研究費補助金等の不正使用防止のための説明 4)平成23年度応募に関する注意事項 5)研究企画主事からの説明・報告	本校教員27名，職員6名
平成23年9月26日	本校大講義室	本校教職員	国立大学法人北海道大学・大学院情報科学研究科・情報エレクトロニクス専攻・准教授・葛西誠也　氏，一般教育科・舘下教員，佐古教員，天元教員，財務担当課長補佐，研究協力室事務職員	1)講演「研究をすすめることと科研費計画調書作成との関わり」 2)研究計画調書作成の工夫について 3)北見工大科学研究費補助金パワーアップセミナー　参加報告 4)科学研究費補助金等の不正使用防止のための説明 5)平成23年度応募に関する注意事項 6)研究企画主事からの説明・報告	本校教員13名，職員6名

（出典　総務課資料）

資料 10－１－③－６

「研究計画を支援する取組」

科学研究費補助金申請促進旅費支援について

平成２３年５月１０日

研　究　企　画　室

１．概要

本校教員の科学研究費補助金への申請を促進するために，当該研究に関連する国内での研究発表に要する旅費の支援を行う。

２．対象および要件

次のいずれにも該当する者とする。

（１）当該年度の科学研究費補助金の研究代表者として申請し，不採択となった者。

（２）次回の科学研究費補助金に研究代表者として申請する者。

（３）国内で開催される学会，シンポジウム，セミナー，研究集会等において研究代表者として発表をする者。（年次総会，委員会等は対象としない。）

３．支援金額

１件あたり１０万円を上限とする。

４．使用期間

旅行期間が，本支援の決定日から当該年度の３月３１日までの間となるもの。

５．申請方法

申請者は，次の書類を研究企画室長に提出することとする。

なお，（４）について，申請受付期間内に揃わない場合は，旅行期間前に提出すること。

（１）申請書（別紙様式１）

（２）当該年度の科学研究費補助金第１段審査結果通知（写）

（３）本申請にかかる学会等の開催通知・要項等，開催することがわかる書類。

（４）プログラム等，発表することがわかる書類。

６．選考方法

研究企画室で選考のうえ，決定する。

７．選考基準

科学研究費補助金の獲得及び研究の発展性が見込めるもの。

８．報告

本支援を受けた者は，旅行期間終了後１週間以内に報告書（別紙様式２）を研究企画室長に提出すること。

（出典　研究企画室資料）

資料10－１－③－７

「科学研究費補助金採択状況」

（※申請件数欄のカッコ内は継続課題(外数)）

年度	申請件数	採択件数		研究種目	学科	氏名	採択額(千円)	備考(間接経費(千円))
24	22(7)	13	補助金	基盤研究(C)	情報工	本間宏利	500	継続 150
	新規採択率			基盤研究(C)	建築	西澤岳夫	500	継続 150
	27.27%			基盤研究(C)	機械工	高橋 剛	500	継続 150
	(赤堀教員は転入のため採択率計算から除く)			基盤研究(C)	機械工	小杉 淳	600	継続 180
				若手研究(B)	一般	梅津裕志	700	継続 210
				新学術領域研究	電気工	野口孝文	4,000	1200
			基金	基盤研究(C)	一般	佐古彰史	900	継続 270
				基盤研究(C)	機械工	赤堀匡俊	1,800	540
				基盤研究(C)	電気工	野口孝文	900	270
				基盤研究(C)	電気工	千田和範	900	270
				基盤研究(C)	電子工	高 義礼	2,600	780
				基盤研究(C)	情報工	天元 宏	1,100	330
				挑戦的萌芽	一般	舘下徹志	500	継続 150
				挑戦的萌芽	一般	大石 玄	500	150
24	2	1		奨励研究		石塚和則	400	
23	26(9)	11	補助金	基盤研究(C)	電気工	野口孝文	500	継続 150
	新規採択率			基盤研究(C)	電気工	佐川正人	500	継続 150
	7.69%			基盤研究(C)	一般	松崎俊明	1,100	継続 330
	(森教員を含めた場合11.5%)			基盤研究(C)	情報工	本間宏利	500	継続 150
				基盤研究(C)	建築	西澤岳夫	900	継続 270
				基盤研究(C)	機械工	高橋 剛	900	継続 270
				基盤研究(C)	機械工	小杉 淳	500	継続 150
				新学術領域研究	電気工	野口孝文	4,000	継続 1,200
				若手研究(B)	一般	梅津裕志	700	継続 210
			基金	基盤研究(C)	一般	佐古彰史	1,000	300
				挑戦的萌芽	一般	舘下徹志	500	150
23	3	1		奨励研究		稲守 栄	500	
22	25(7)	12	補助金	基盤研究(C)	電気工	野口孝文	500	継続 150
	新規採択率			基盤研究(C)	電気工	佐川正人	500	継続 150
	20.00%			基盤研究(C)	電気工	須田 潤	500	継続 150
				基盤研究(C)	機械工	麓 耕二	500	継続 150
				基盤研究(C)	一般	松崎俊明	1,000	継続 300
				基盤研究(C)	情報工	本間宏利	800	240
				基盤研究(C)	建築	西澤岳夫	1,100	330
				基盤研究(C)	機械工	高橋 剛	2,100	630
				基盤研究(C)	機械工	小杉 淳	2,000	600
				新学術領域研究	電気工	野口孝文	4,000	1,200
				若手研究(B)	一般	佐古彰史	700	継続 210
				若手研究(B)	一般	梅津裕志	900	継続 270
22	2	2		奨励研究		石塚和則	570	
				奨励研究		稲守 栄	470	

年度	申請件数	採択件数		研究種目	学科	氏名	採択額(千円)	備考(間接経費(千円))
21	25(6)	8	補助金	基盤研究(C)	電気工	野口孝文	700	継続 210
	新規採択率			基盤研究(C)	電気工	佐川正人	700	継続 210
	8.00%			基盤研究(C)	電気工	須田 潤	500	継続 150
				基盤研究(C)	機械工	麓 耕二	900	継続 270
				基盤研究(C)	一般	松崎俊明	1,200	360
				若手研究(B)	情報工	天元 宏	800	継続 240
				若手研究(B)	一般	佐古彰史	900	継続 270
				若手研究(B)	一般	梅津裕志	1,000	300
21	3	1		奨励研究		石塚和則	590	
20	31(3)	9		基盤研究(C)	一般	松崎俊明	800	継続 240
	新規採択率			基盤研究(C)	電気工	野口孝文	1,700	510
	19.35%			基盤研究(C)	電気工	佐川正人	1,900	570
				基盤研究(C)	電気工	須田 潤	2,600	780
				基盤研究(C)	機械工	麓 耕二	1,500	450
				若手研究(B)	電気工	千田和範	500	継続 150
				若手研究(B)	機械工	池田裕一	900	継続 270
				若手研究(B)	情報工	天元 宏	1,400	420
				若手研究(B)	一般	佐古彰史	1,100	330
20	2	1		奨励研究		石塚和則	580	
19	25(3)	6		基盤研究(C)	電気工	須田 潤	700	継続 210
	新規採択率			基盤研究(C)	電気工	野口孝文	500	継続 150
	12%			基盤研究(C)	一般	松崎俊明	1,000	300
				若手研究(B)	建築	森 太郎	800	継続
				若手研究(B)	電気工	千田和範	700	
				若手研究(B)	機械工	池田裕一	1,600	

（出典　総務課資料）

資料10－１－③－８

「インセンティブを支援する体制」

競争的資金の間接経費及び研究協力・インセンティブ経費の執行に係る取扱要項

（平成 14 年４月 26 日校長裁定）

改正平成 19. ４. 26 釧高専達第 31 号

１．趣旨

釧路工業高等専門学校における競争的資金に係る間接経費及び研究協力・インセンティブ経費（以下「間接経費等」という。）の取扱いについては，「競争的資金の間接経費の執行に係る共通指針」（平成 13 年４月 20 日競争的資金に関する関係府省連絡会申し合せ）その他法令等に定めのある場合を除くほか，この取扱要項に定めるところによる。

２．定義

（１）競争的資金

研究者が立案した研究開発課題を公正かつ厳正に評価の上，提案者や提案者が所属する機関に配分される資金をいう。

（２）競争的資金の間接経費

競争的資金による研究の遂行に関連して，間接的に必要となる研究機関の管理等のため，研究に直接必要な経費（直接経費）に対して一定比率で手当される経費をいう。

（３）研究協力・インセンティブ経費

競争的資金以外の研究経費による受託研究の実施に当たり，間接経費を徴収し，または特許権実施料等収入をあげた研究機関に，当該間接経費及び収入に対して一定比率で手当される経費をいう。

３．間接経費の納付及び受入れ手続き

（１）競争的資金の間接経費を獲得した者は，配分機関で定めた間接経費納付申出書により校長に間接経費納付の申出を行うものとする。

（２）校長は，間接経費納付の申出に基づき，受入れを決定し，その内容を契約担当役に通知するものとする。

（３）契約担当役は前項の通知を受けたときは，速やかに間接経費納付申出者と間接経費受入れに関する契約を締結するものとする。

４．配分対象

間接経費等の配分対象は，次に掲げる事項とする。

（１）管理事務の整備

学校全体の研究支援体制の強化のため，管理事務の整備を図る。

（主な項目）

・管理事務の必要経費

・管理施設・設備の整備，維持及び運営費

・研究成果展開事業に係る経費など

（２）研究環境の改善

間接経費を獲得した研究者及び当該研究者が使用する本校供用施設の研究環境の改善を図る。
なお，直接経費として充当すべきものは対象外とする。

（主な項目）

・獲得した研究者の研究の応用等による研究活動の推進に係る必要経費

・獲得した研究者が使用する研究室等の整備，維持及び運営経費

・共通的に使用される物品等にかかる経費など

（３）産学連携研究推進（研究協力・インセンティブ経費の範囲内に限る。）

民間等との共同研究，受託研究等特許取得の更なる推進を図る。ただし，この事項については，競争的資金の間接経費からの助成は行わない。

（主な項目）

・学内教員の意識向上のための説明会等の実施経費

・外部資金を活用した研究の追加的研究費

・出資金事業の推進及び特許取得の促進に必要な経費

・産学連携事業の実施に必要な経費

５．配分の決定

間接経費は原則として，学校全体の機能の向上に活用し，研究の円滑な遂行を図るために必要な管理事務の整備等共通経費として 70%，競争的資金による研究をより効率的・効果的に実施するため，当該経費を獲得した研究代表者に研究環境の改善経費として 30%を配分する。ただし，これに依りがたい場合は，個々の事例について校長が決定する。

６．間接経費等の使途に係る透明性の確保

間接経費等の使途に当たり，取扱要項に則し，計画的かつ適正に執行するとともに使途の透明性を確保するものとする。

７．間接経費の執行

間接経費の執行にあたっては，総務課と協議の上進めるものとする。

８．報告書等の提出

上記４の（１）及び（２）については経費執行実績を，上記４の（３）についてはその成果を所定の様式により配分を受けた年度の３月末日までに校長に報告するものとする。

９．取扱要項の見直し

この取扱要項は，間接経費等の執行状況等を踏まえ随時見直すものとする。

10．実施

この取扱要項は，平成 14 年度間接経費等から実施するものとする。附則（平成 19．４．26 釧高専達第 31 号）
この要項は，平成 19 年４月 26 日から施行し，平成 19 年４月１日から適用する。

（出典　釧路高専規程）

資料 10－１－③－９

「研究助成等公募情報」　（抜粋）

研究助成／公募情報

※ 申請される方は，まずお早めにご一報ください。

※ 応募に所属機関代表者の推薦が必要な申請もありますのでご注意ください。

※ 応募締切日の10日前までには，書類を研究協力室へ提出願います。

○ e-Rad（府省共通研究開発管理システム）現在応募中の事業一覧

○ e-Rad（府省共通研究開発管理システム）受付終了済みの事業一覧

○ NEDO 公募情報一覧（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）

○ JST 公募情報一覧（独立行政法人科学技術振興機構）

○ 財団法人助成財団センター（「民間助成金ガイド」から，事業形態・分野／財団名／キーワード等の検索ができます。

○ テクノサポートカレンダー（研究開発・技術開発に対する補助制度等の応募月別カレンダー）

No.	事業名	応募締切日	備考
28	パワーアカデミー研究助成	H24.7.23	特別推進研究、萌芽研究
27	（JSPS）国際共同研究事業　多国間国際研究協力事業	H24.7.20	電子申請
26	A-STEP（フィージビリティスタディステージ）	H24.7.31	
25	JSPS リンダウ・ノーベル賞受賞者会議派遣事業	H24.8.31	
24	公益財団法人長岡技術科学大学技術開発教育研究振興会研究助成	H24.7.27	
23	平成24年度寿原記念財団研究助成	毎年6.1-7.31	

（出典　本校内部向けホームページ）

（分析結果とその根拠理由）

外部資金を獲得するため，副校長（運営計画担当），研究企画主事及び研究企画室を設置し，組織的な外部資金の獲得に取り組むほか，科学研究費説明会開催，科学研究費申請支援及び競争的資金獲得者へのインセンティブ付与等の取組を行っている。また，教職員に対して，内部向けホームページを活用し研究助成公募情報を提供している。

以上のことから，学校の目的を達成するために，外部の財務資源の活用策を策定し，実行している。

観点10－２－①：　学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として，適切な収支に係る計画等が策定され，関係者に明示されているか。

（観点に係る状況）

収支に係る計画等は，校長のリーダーシップの下，校長室（資料 10－２－①－１）において学内予算配分方針（資料 10－２－①－２）を立案し，運営会議資料 10－２－①－３）において策定している。その決定内容を教職員に周知するため，内部向けホームページに運営会議の議事録及び配付資料を掲載している（資料 10－２－①－４）。

資料 10－２－①－１

「学内予算配分方針立案を示す資料」

５ 月 定 例 校 長 室　（抜粋）

日　時　　平成２３年5月１９日（木）　１５時４０分～

場　所　　会議室

【資料】

資料１～資料７　（略）

資料８　平成２３年度学内予算配分に方針について

資料９　　（略）

【検討事項】

１．平成２３年度理事長ヒアリングについて(資料 1)

２．平成２３年度入学定員割れの要因分析とその対策の検討について(資料 2)

３．平成２３年度校長個人面談の実施について(資料 3)

４．釧路高専出前こども開放プランについて(資料 4)

５．デザコンの準備状況について(資料 5)

６．科学研究費の採択状況について(資料 6)

７．東北地方太平洋沖地震子どもの学び支援にかかる他機関への物的支援について(資料 7)

８．平成２３年度学内予算配分に方針について(資料 8)

９．その他

【報告事項】

１．～２　　（略）

（出典　本校内部向けホームページ）

資料 10－２－①－２

「学内予算配分方針審議状況」

H23. ５月開催運営会議議事録　（抜粋）

日時　平成２３年5月２６日（木）１５：４０～１７：５０

場所　会議室

1. 平成 23 年度学内予算配分方針について(資料 B-1)

総務課長から，資料 B-1 に基づき，平成 23 年度学内予算配分方針について説明を行った後、校長から本件について提案し審議の上了承した。

（略）

（出典　本校内部向けホームページ）

資料 10－２－①－３

「釧路工業高等専門学校運営会議規程」　（抜粋）

（平成 14 年２月 18 日釧高専達第 15 号）

改正平成 16. ３．８　釧高専達第４号 ～平成 23. ３.28 釧高専達第 42 号

（設置）

第１条 釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）に運営会議（以下「会議」という。）を置く。

（目的）

第２条 会議は教育研究その他本校の管理運営に関する重要事項を審議し，校務の円滑な運営を図るものとする。

（審議事項）

第３条 会議は，次に掲げる事項を審議する。

一 ～ 三　　（略）

四 予算（概算要求を含む。）に関すること。

五 ～ 十一　　（略）

（組織）

第４条 ～ 第 10 条　　（略）

（出典　釧路高専規程）

資料 10－２－①－４

「平成23年度学内予算配分方針について」　（抜粋）

１．平成23年度高専機構運営費交付金の概要

平成23年度国立高等専門学校機構運営費交付金については，対前年度3.66％（約24億円）減の約639億円となっております。

２．平成23年度予算額（資料：別紙１「平成23年度予算配分」）

（１）収入予算

H23収入予算については，当初配分の284,599千円から今年度の授業料・入学料の免除額を減じた額が機構積算額となる。免除額としてH22実績額の9,726,150円を見込み，予算額からこの額を減額した274,872,850円を機構予算額とした。

一方，本校収入見込額は，過去の実績を基に268,272,940円と積算し，機構予算額との差額6,599,910円が不足する見込みである。

（２）支出予算

H23支出予算については，機構本部からの当初予算配分額が307,295,828円であるが，上記により収入の不足が見込まれるため，不足分の6,599,910円を学内留保額とし，差し引いた300,695,918円を学内予算額とする。

なお，H22との比較による主な増減要因は，以下のとおりである。

①「超過勤務手当」はH23から機構本部において一括で予算管理することになったため，高専への配分が無くなった。

②「学生寮生活環境整備経費」が4,000千円減となった。

③「障害学生学習支援等経費」として3,830千円が当初予算で配分された。

④ 在外研究員がH23はいないため，機構からの配分額1,436千円が減額となった。

これらの他，一般管理費等効率化対象経費について運営費交付金算定ルールに従い一定の効率化減を見込んだ額が減額となった。

（その他参考）

共通的事業経費として，電子ジャーナル図書館システム分及び長岡技大・高専機構統合図書館システム分として，本校はH23も継続していることから2,535,472円が当初予算から減額されて配分された。

（略）

（出典　H23．５月運営会議資料）

（分析結果とその根拠理由）

収支に係る計画等は，当該年度の学内予算配分方針に基づく事項別配分案について，校長室における立案を経て，運営会議において策定している。また，その内容については，運営会議の議事録及び資料を内部向けホームページに掲載し，教職員に周知している。

以上のことから，学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として，適切な収支に係る計画等を策定し，関係者に明示している。

観点10－２－②： 収支の状況において，過大な支出超過となっていないか。

（観点に係る状況）

高専機構会計規則第17条及び第18条（資料10－２－②－１）により，高専機構本部から通知される事業年度ごとの収支予算額に基づいて収入及び支出を管理しなければならないこととされている。

本校では，それに基づき執行計画を策定し，損益計算書（資料10－２－②－２）及び利益分析推移一覧（資料10－２－②－３）に示すとおり予算額の範囲内での支出に努めている。

資料10－２－②－１

「高専機構会計規則」（抜粋）

第２章 予算

（予算実施計画の作成）

第１７条 理事長は，毎事業年度開始前に通則法第３１条第１項に定める年度計画に基づいて，予算実施計画を作成し，これに基づいて収入及び支出を管理しなければならない。

２ 理事長は，機構の効率的，効果的な運営に常に配慮するものとする。

（予算実施計画の通知）

第１８条 理事長は，前条で作成した予算実施計画に基づく予算額を契約担当役及び出納命令役に通知するものとする。

（略）

（出典　独立行政法人国立高等専門学校機構規則第 34 号）

資料10－２－②－２

「平成19年度損益計算書」

（平成19年4月１日～平成20年3月31日）

経常費用			
業務費			
教育・研究経費	274,908,683		
教育研究支援経費	24,042,647		
受託研究費	1,124,000		
共同研究費	3,380,000		
受託事業費	25,582,000		
教員人件費	705,502,136		
職員人件費	291,343,667	1,325,883,133	
一般管理費		121,562,639	
財務費用		0	
雑損		0	
経常費用合計			1,447,445,772
経常収益			
運営費交付金収益		1,091,183,958	
授業料収益		241,931,250	
入学金収益		20,388,600	
検定料収益		4,834,500	
受託研究等収益		5,330,000	
受託事業等収益		25,582,000	
補助金等収益		11,209,950	
寄附金収益		15,506,661	
施設費収益		17,831,195	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入	4,818,148		
資産見返補助金等戻入	240,282		
資産見返寄附金戻入	1,283,410		
資産見返物品受贈額戻入	8,554,237		
特許権仮勘定見返運営費交付金等戻入	382,515		
特許権仮勘定見返補助金等戻入	0		
特許権仮勘定見返寄付金戻入	0	15,278,592	
財務収益		0	
雑益			
財産貸付料収入	12,107,361		
文献複写料	330		
物品受贈益	0		
債権受贈益	0		
承継剰余金債務戻入	0		
間接経費収入	660,000		
その他の雑益	200,000	12,967,691	
経常収益合計			1,462,044,397
経常利益			14,598,625
臨時損失			−14,333,499
臨時利益			0
当期純利益（純損失）			359,400
目的積立金取崩額			47,137
当期総利益（総損失）			312,263

資料 10－２－②－２（続き）

「平成20年度損益計算書」

（平成20年4月 1 日～平成21年3月31日）

経常費用			
業務費			
教育・研究経費	249,709,690		
教育研究支援経費	28,635,915		
受託研究費	1,069,000		
共同研究費	640,000		
受託事業費	27,720,093		
教員人件費	657,393,656		
職員人件費	323,239,892	1,288,408,246	
一般管理費		130,492,153	
財務費用		0	
雑損		0	
経常費用合計			1,418,900,399
経常収益			
運営費交付金収益		1,062,612,849	
授業料収益		244,414,700	
入学金収益		19,881,000	
検定料収益		4,240,500	
受託研究等収益		2,640,000	
受託事業等収益		27,720,093	
補助金等収益		13,143,650	
寄附金収益		16,358,781	
施設費収益		0	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入	6,589,412		
資産見返補助金等戻入	394,930		
資産見返寄附金戻入	1,827,355		
資産見返物品受贈額戻入	7,418,002		
特許権仮勘定見返運営費交付金等戻入	0		
特許権仮勘定見返補助金等戻入	0		
特許権仮勘定見返寄付金戻入	0	16,229,699	
財務収益		0	
雑益			
財産貸付料収入	12,825,384		
文献複写料	60		
物品受贈益	0		
債権受贈益	0		
承継剰余金債務戻入	0		
間接経費収入	3,660,000		
その他の雑益	795,861	17,281,305	
経常収益合計			1,424,522,577
経常利益			5,622,178
臨時損失			-6,825,527
臨時利益			1
当期純利益（純損失）			-1,203,348
目的積立金取崩額			0
当期総利益（総損失）			-1,203,348

資料10－２－②－２（続き）

「平成21年度損益計算書」

（平成21年4月 1 日～平成22年3月31日）

経常費用			
業務費			
教育・研究経費	249,756,456		
教育研究支援経費	31,538,360		
受託研究費	6,749,000		
共同研究費	905,000		
受託事業費	7,362,987		
教員人件費	673,242,291		
職員人件費	267,135,138	1,236,689,232	
一般管理費		113,660,936	
財務費用		0	
雑損		0	
経常費用合計			1,350,350,168
経常収益			
運営費交付金収益		975,042,928	
授業料収益		244,130,900	
入学金収益		21,488,400	
検定料収益		5,577,000	
受託研究等収益		7,654,000	
受託事業等収益		7,362,987	
補助金等収益		38,174,449	
寄附金収益		13,512,223	
施設費収益		2,975,372	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入	12,539,057		
資産見返補助金等戻入	1,432,987		
資産見返寄附金戻入	1,668,139		
資産見返物品受贈額戻入	5,040,366		
特許権仮勘定見返運営費交付金等戻入	0		
特許権仮勘定見返補助金等戻入	0		
特許権仮勘定見返寄付金戻入	0	20,680,549	
財務収益		0	
雑益			
財産貸付料収入	12,737,322		
文献複写料	2,063		
物品受贈益	0		
債権受贈益	0		
承継剰余金債務戻入	0		
間接経費収入	1,869,000		
刊行物売払代	0		
不用物品売払代	236,250		
弁償及び違約金	0		
受取保険料	0		
版権及び特許権等収入	0		
助成金等収入	1,033,686		
その他の雑益	0	15,878,321	
経常収益合計			1,352,477,129
経常利益			2,126,961
臨時損失			−5,580,835
臨時利益			0
当期純利益（純損失）			−3,453,874
前中期目標期間繰越積立金取崩額			0
目的積立金取崩額			0
当期総利益（総損失）			−3,453,874

資料10－２－②－２（続き）

「平成22年度損益計算書」

（平成22年4月１日～平成23年3月31日）

経常費用			
業務費			
教育・研究経費	216,511,244		
教育研究支援経費	22,378,404		
受託研究費	1,600,000		
共同研究費	1,150,000		
受託事業費	638,330		
教員人件費	710,018,042		
職員人件費	374,070,240	1,326,366,260	
一般管理費		112,998,415	
財務費用		0	
雑損		0	
経常費用合計			1,439,364,675
経常収益			
運営費交付金収益		1,100,572,633	
授業料収益		237,059,900	
入学金収益		17,766,000	
検定料収益		4,026,000	
受託研究等収益		2,750,000	
受託事業等収益		638,330	
補助金等収益		9,614,206	
寄附金収益		16,195,334	
施設費収益		9,307,002	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入	16,676,951		
資産見返補助金等戻入	8,031,557		
資産見返寄附金戻入	1,292,826		
資産見返物品受贈額戻入	4,422,498		
特許権仮勘定見返運営費交付金等戻入	0		
特許権仮勘定見返補助金等戻入	0		
特許権仮勘定見返寄付金戻入	0	30,423,832	
財務収益		0	
雑益			
財産貸付料収入	13,190,875		
文献複写料	35		
物品受贈益	0		
債権受贈益	0		
承継剰余金債務戻入	0		
間接経費収入	4,023,000		
刊行物売払代	0		
不用物品売払代	0		
弁償及び違約金	0		
受取保険料	0		
版権及び特許権等収入	0		
助成金等収入	2,499,751		
その他の雑益	0	19,713,661	
経常収益合計			1,448,066,898
経常利益			8,702,223
臨時損失			4,436,941
臨時利益			2
当期純利益（純損失）			4,265,284
前中期目標期間繰越積立金取崩額			0
目的積立金取崩額			0
当期総利益（総損失）			4,265,284

資料10－２－②－２（続き）

「平成23年度損益計算書」

（平成23年4月 1 日～平成24年3月31日）

経常費用			
業務費			
教育・研究経費	225,846,908		
教育研究支援経費	21,501,201		
受託研究費	1,379,030		
共同研究費	800,000		
受託事業費	22,000		
教員人件費	21,315,660		
職員人件費	18,902,268	289,767,067	
一般管理費		102,787,450	
財務費用		0	
雑損		0	
経常費用合計			392,554,517
経常収益			
運営費交付金収益		53,945,923	
授業料収益		242,633,500	
入学金収益		17,596,800	
検定料収益		4,240,500	
受託研究等収益		2,592,739	
受託事業等収益		22,000	
補助金等収益		634,500	
寄附金収益		12,134,826	
施設費収益		7,483,874	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入	23,391,738		
資産見返補助金等戻入	9,801,899		
資産見返寄附金戻入	1,722,749		
資産見返物品受贈額戻入	2,743,481		
特許権仮勘定見返運営費交付金等戻入	0		
特許権仮勘定見返補助金等戻入	0		
特許権仮勘定見返寄付金戻入	0	37,659,867	
財務収益		0	
雑益			
財産貸付料収入	12,914,635		
文献複写料	0		
物品受贈益	0		
債権受贈益	0		
承継剰余金債務戻入	0		
間接経費収入	3,381,000		
刊行物売払代	0		
不用物品売払代	0		
弁償及び違約金	0		
受取保険料	0		
版権及び特許権等収入	0		
助成金等収入	0		
その他の雑益	300	16,295,935	
経常収益合計			395,240,464
経常利益			2,685,947
臨時損失			15,331,745
臨時利益			0
当期純利益（純損失）			-12,645,798
前中期目標期間繰越積立金取崩額			0
目的積立金取崩額			0
当期総利益（総損失）			-12,645,798

（出典　総務課資料）

資料 10－２－②－３

「利益分析推移一覧」

区分	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	累計
収入支出決算上の収支差額□経営努力認定の対象額)	20,263	△ 138,518	37,874	712,722	△ 1,382,962	△ 2,884,553	4,633,383	△ 2,712,780	△ 1,714,571
前期損益修正損益（収入支出決算上の収支差額分の修正）	0	165,392	0	0	0	0	0	0	165,392
前納授業料見合い資産の除却損	0	0	0	0	0	0	0	△ 9,566,442	△ 9,566,442
支出執行済・未費用化分　（例）前払費用	576,053	184,986	1,885,498	819,504	236,119	25,878	25,279	26,203	45,553
〃　　（前期分）	0	△ 576,053	△ 184,986	△ 1,874,568	△ 819,504	△ 227,699	△ 25,878	△ 25,279	0
自己収入固定資産取得相当分　※除・減価償却費	514,187	△ 171,395	△ 171,395	654,605	762,999	△ 367,500	△ 367,500	△ 367,500	486,501
固定資産売却損（政府出資財産分）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
前納授業料返還分（資産見返物品受贈益戻入に計上）	0	0	0	0	0	0	0		0
前納授業料と承継物品額との差額（資産見返物品受贈額戻入に計上）	0	0	0	0	0	0	0		0
ファイナンスリースによる相違	0	0	0	0	0	0	0	0	0
前期損益修正損益（収入支出決算上の収支差額分以外の修正）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会計上の利益の額	1,110,503	△ 535,588	1,566,991	312,263	△ 1,203,348	△ 3,453,874	4,265,284	△ 12,645,798	△ 10,583,567

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

燃料費の高騰により，支出超過となる場合があるが，収入と支出は均衡を保ち執行している。以上のことから，収支の状況において，過大な支出超過となっていない。

観点10－２－③：　学校の目的を達成するため，教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し，適切な資源配分がなされているか。

（観点に係る状況）

学内の予算配分方針は，教育研究活動の質の維持に配慮しつつ，校長室における立案を経て，運営会議において策定している。教育方法改善及び研究活性化，教育環境充実等を図るため，校長裁量経費取り扱い方針（資料10－２－③－１）を定め，応募者に対して，校長，副校長及び事務部長等によるヒアリングを行った上で配分している。

また，施設については，施設整備委員会においてキャンパスマスタープラン（資料10－２－③－２）を策定し，予算規模に応じて概算要求事業及び営繕要求として要求を行い，採択された事業により整備している。

設備については，高専機構の設備整備マスタープランに基づき，本校の設備整備年次計画表（資料10－２－③－３）を作成し，これに基づいた予算要求を行い，採択された事業により整備をしている（資料10－２－③－４）。

資料10－２－③－１

「校長裁量経費の取り扱い方針等について」

（平成１３年６月２５日校長裁定）

改正　平成14. 7.10 ～　平成23. 4.14

校長裁量経費は，本校の教育方法等改善及び研究活性化並びに教育環境充実等の充実を図るために予算措置するものであり，その取り扱い方針等については，以下のとおりとする。

１．経費の目的

教育研究の重点課題等の支援及び校長のリーダーシップが発揮できるようにする。

２．経費の種類

校長裁量経費については，以下の４種類とする。

(1) 教育方法等改善・支援経費

教育方法等の改善及び教育の活性化等を支援するための経費とする。

(2) 研究活性化支援経費

研究活動等のより一層の活性化を図るための経費とする。

(3) 教育研究環境等充実費

若手教員の育成，社会との連携，地域への貢献，国際貢献，共同研究の促進，研究開発，学位等の取得の促進，管理運営などを積極的に支援するための経費とする。

(4) 調査支援旅費

他機関の教育方法，教育環境の実情を調査し，本校の改善に役立てる。

３．経費の申請方法

２の（1）から（3）までの申請は，校長が各教員，事務部等に対し照会を行う。各申請者は「校長裁量経費申請書」（別紙様式１）を提出するものとする（申請は個人，グループ又は学科等単位でも可）。なお，学生実験等で使用する設備等については，学科内で検討した上で申請すること。

また，申請額は60 万円を上限とする。２の（4）の申請は，校長が各学科に対し照会を行う。各学科長は「調査支援旅費申請書」（別紙様式３）を提出するものとする。

４．ヒアリング及び配分方法等

(1) ヒアリング

校長が各申請者を対象に，教育研究及び管理運営等の状況を勘案のうえ，①必要性，②緊急性，③効率性，④教育研究の高度化・活性化の促進，⑤社会性，⑥地域との連携，⑦国際性，⑧管理運営上の関０連について，ヒアリングを実施する。

なお，ヒアリング構成員については，都度校長が指名する。

(2) 配分方法

① ２の（1）～（3）までについては，予算を考慮し，校長が配分額を決定する。

② ２の（4）については，総額100 万円を上限とする。

（3）決定通知

申請者に結果を通知するとともに，掲示等により公表する。

５．事業成果等の報告

（1）２の（1）～（3）までについては，「校長裁量経費成果報告書」（別紙様式２）を提出するものとする。

（2）２の（4）については，「調査支援旅費成果報告書」（別紙様式４）を提出するものとする。

６．照会・申請等の時期について

（1）照会

事業実施年度の前年度に行うものとする。

（2）申請

校長が定める期日とする。

（3）ヒアリング

申請期限後に日時を調整し，速やかにヒアリングを実施する。

（4）結果

全てのヒアリング終了後，２週間以内に行う。

（5）報告

事業実施年度の翌年度の４月３０日までに事務部総務課経由で校長に提出するものとする。

７．その他

この取扱方針等に定めるもののほか，校長裁量経費に関し必要な事項は，都度校長が決定する。

（出典　釧路高専規程）

資料 10－２－③－２

「キャンパスマスタープラン施設整備計画（概算要求）」　（抜粋）

施設整備年次計画（概算要求）

事業名	整備計画 面積（㎡） 新営	整備計画 面積（㎡） 改修	年次計画 H24	H25	H26	H27	H28	H29以降	事業概要
基幹・環境整備	0	0							***安全・安心　老朽設備の機能改善*** ボイラー室から各建物へのエネルギー供給ライン（給水・蒸気・消火管）の更新 共同溝の補修
図書館改修	0	1,590							***高度教育機能、学生支援機能の充実*** ***老朽建物・設備の機能改善*** 建物・設備の全面改修
福利施設改修	0	1,030							***学生支援機能の充実　老朽建物・設備の改修*** 建物・設備の全面改修
校舎(管理棟)改修	0	740							***老朽建物・設備の機能改善*** 建物・設備の全面改修
校舎(３号棟)改修	0	2,110							***高度教育機能の充実　老朽建物・設備の機能改善*** 建物・設備の全面改修
校舎(２号棟)外壁改修	0	7,700							***建物の長寿命化　環境対策*** 外壁外断熱の改修
校舎(１号棟)外壁改修	0	4,590							***建物の長寿命化　環境対策*** 外壁外断熱の改修
寄宿舎寮室棟外部改修	0	5,240							***居住環境改善*** 外部建具改修
合　計	0	23,000							

釧路工業高等専門学校　キャンパスマスタープラン

資料 10－２－③－２（続き）

施設整備年次計画（営繕要求）

※営繕事業で実際に予算化されるのは年3･4件程度のため、年4件として計画する。

事業名	年次計画 H23	H24	H25	H26以降	事業概要
寄宿舎Ｄ棟内部改修	■				寮生の居住環境の改善を図ることを目的に、平成14年度から年次計画を策定し整備を実施している。 本事業は計画の9年次目(最終年次)にあたるＤ棟3階の内部改修を行う。
寄宿舎Ｃ･Ｄ棟外壁改修	■				寄宿舎Ｃ･Ｄ棟の外壁は塗装の剥離、コンクリートのひび割れが発生し、室内への漏水によりカビが発生している等、老朽化が著しい状況にあるため全面改修を行う。
寄宿舎Ａ･Ｂ棟外壁改修	■				寄宿舎Ａ･Ｂ棟の外壁は塗装の剥離、コンクリートのひび割れが発生し、室内への漏水によりカビが発生している等、老朽化が著しい状況にあるため全面改修を行う。
寄宿舎管理棟屋上防水改修	■				寄宿舎管理棟の屋上アスファルト防水は、凍害や老朽化による亀裂のため雨漏りが発生している状況にあり、全面改修による改善を行う。
屋外蒸気暖房設備等改修		■			屋外基幹配管は、蒸気配管や給水管等の老朽化が著しいため、漏水や蒸気漏れの改善を行い、併せて暖房効率の改善を図る。
校舎(電子)屋上防水改修		■			校舎(電子)の屋上アスファルト防水は、凍害や老朽化による亀裂のため雨漏りが発生している状況にあり、全面改修による改善を行う。
寄宿舎食堂及び共用棟改修		■			寄宿舎食堂は、壁材の剥離等老朽化が著しい。また、食堂は２回にわたり増築を行っており、床の接続部分が、地震の影響により大きくひび割れている状況にあるため改修を行う。
アイスホッケー場改修		■			アイスホッケー場は、塩害などのため錆の発生が著しい状況にあるため、鉄骨部の塗装改修等を行う。
校舎(電子)ガス管増設			■		電子工学科は、補助暖房用のガス配管を設置していない部屋が多く、実験や研究に支障をきたしているため、ガス配管の設置を行う。
自動火災報知設備更新			■		本校の自動火災報知設備は昭和53年に設置されたＲ型と平成13年に設置されたＰ型とを併用して使用しているため、Ｐ型受信機への移行を行い、故障時や災害発生時の安全を確保するものである。
校舎(大講等)屋上防水改修			■		校舎(大講等)の屋上アスファルト防水は、凍害や老朽化による亀裂のため雨漏りが発生している状況にあり、全面改修による改善を行う。
多目的共用実験室改修			■		本実験室は、共用の実験室として利用しているが、大部屋のため実験目的が異なる設備等が混在したスペースとなっているため、改修によるスペースの再配分を行い、施設の有効活用を図る。
屋外雨水配管改修 第１体育館屋根改修 寄宿舎管理棟外壁改修 屋外電力線改修 車庫改修 屋外運動場改修 囲障改修　　など				■	□

（出典　H23．６月開催施設整備委員会資料）

資料 10－２－③－３

「設備整備年次計画表」

□

（単位: 千円）

設　備　名	購入/リース	新規/更新	第2期中期目標期間					平成26年度以降	合　　計
			平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	小計		
キャンパスインフォメーションシステム	購入	新規	9,000				9,000		9,000
地域環境測定設備	購入	新規	8,500				8,500		8,500
ＰＩＶ(粒子画像流速計)システム	購入	新規		30,000			30,000		30,000
電気エネルギ変換技術教育用実験装置	購入	更新	7,000				7,000		7,000
自動制御技術教育実験装置	購入	更新	3,800				3,800		3,800
分析走査電子顕微鏡	購入	更新	34,000				34,000		34,000
恒温恒湿室	購入	更新	9,000				9,000		9,000
普通旋盤	購入	更新	3,600				3,600		3,600
電子通信実験設備（高分解能ラマン分光測定システム（レーザーラマン分光光度計: 日本分光NRS-2100）及びアネルバ小型スパッタ装置）	購入	更新		28,300			28,300		28,300
複合型CNC旋盤	購入	更新		19,900			19,900		19,900
専攻科計算機演習室用パソコン	購入	更新			5,880		5,880		5,880
5軸マシニングセンタ	購入	更新			42,000		42,000		42,000
図書館閉架書庫電動書架	購入	更新					0	8,085	8,085
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
合　　計	-	-	74,900	78,200	47,880	0	200,980	8,085	209,065

【 記入上の注意】
①設備整備マスタープラン導入希望設備一覧表（更新・新規設備）と整合性をとること
②行が足りない場合は適宜追加すること

（出典　総務課資料）

資料 10－２－③－４

「設備整備状況」

設備名	購入年月日	設置場所	備　考
三次元造形システム	H22.1.26	制御情報研究室	H21設備整備費補助金
オブジェクト指向型実験・実習システム	H22.3.30	計算機実験室	H21設備整備費補助金
走査電子顕微鏡	H23.3.30	材料研究室	H22イノベーション創出推進経費
恒温恒湿室	H23.3.31	建築材料実験室	H22イノベーション創出推進経費
普通旋盤	H23.3.25	実習工場	H22設備整備費補助金
電気エネルギ変換技術教育用実験装置	H23.4.20	電機制御実験室	H22設備整備費補助金
自動制御技術教育実験装置	H23.3.25	電機制御実験室	H22設備整備費補助金
複合型CNC旋盤	H24.3.30	実習工場	H23マスタープランに基づく設備費
グリッドコンピューティングによる機械・制御設計システム	H24.3.30	制御情報研究室	H23マスタープランに基づく設備費

（出典　総務課資

（分析結果とその根拠理由）

学内予算は，校長室の立案を経て，運営会議において審議の上，適正に配分されている。このうち校長裁量経費については，校長のリーダーシップの下，学内の競争的な環境を醸成し，教育研究の活性化に寄与している。

また，施設の整備についてはキャンパスマスタープランに基づき，概算要求事業や高専機構の営繕要求として予算要求を行い，平成24年度概算要求事業では「ライフライン再生（暖房設備等）」が採択されたほか，平成23年度営繕要求では寄宿舎等を整備している。設備の整備においても設備整備マスタープランに基づき，予算要求を行い，グリッドコンピューティングによる機械・制御設計システム及び複合型ＣＮＣ旋盤等を整備している

以上のことから，学校の目的を達成するため，教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し，適切な資源配分を行っている。

観点10－３－①： 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

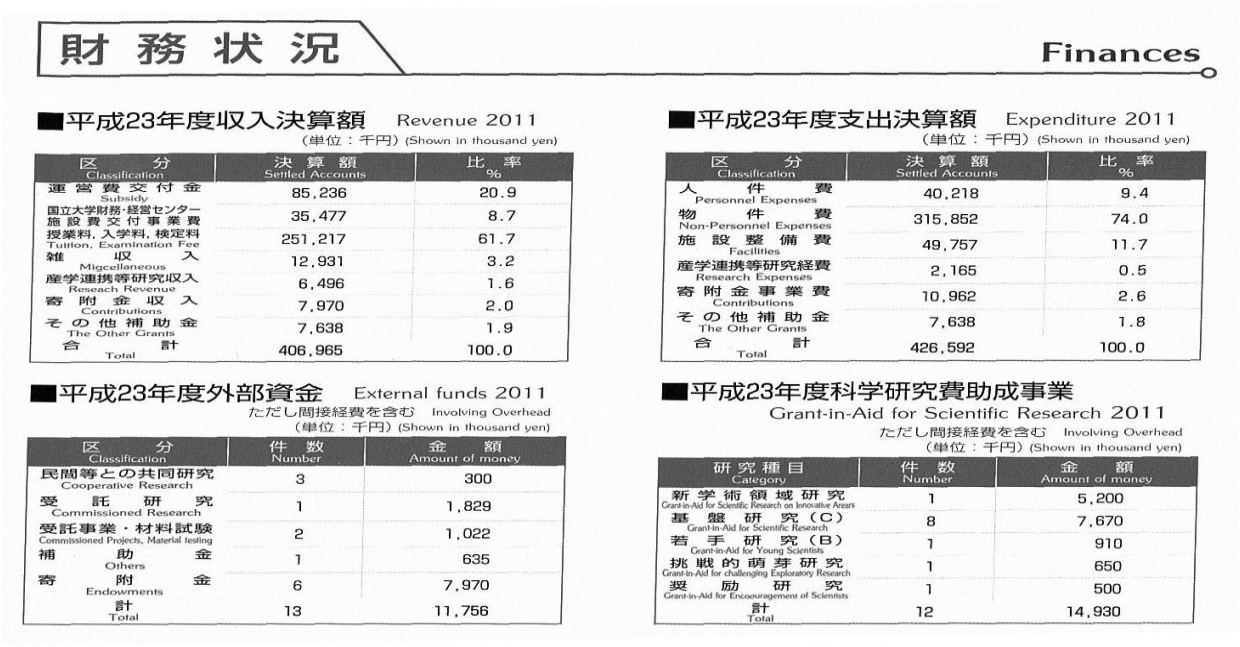
（観点に係る状況）

高専機構として財務会計システムが構築されており，全高専統一の会計処理が行われている。高専機構全体の財務諸表等は，官報及び高専機構のホームページで公表されている。

本校における財務状況については，社会への説明責任を果たす観点から，本校学校要覧及びホームページで公表している（資料１０－３－①－１）。

資料 10－３－①－１

「財務状況」



財務状況 Finances

■平成23年度収入決算額 Revenue 2011

（単位：千円）(Shown in thousand yen)

区分 Classification	決算額 Settled Accounts	比率 %
運営費交付金 Subsidy	85,236	20.9
国立大学財務・経営センター施設費交付事業費	35,477	8.7
授業料，入学料，検定料 Tuition, Examination Fee	251,217	61.7
雑収入 Migcellaneous	12,931	3.2
産学連携等研究収入 Research Revenue	6,496	1.6
寄附金収入 Contributions	7,970	2.0
その他補助金 The Other Grants	7,638	1.9
合計 Total	406,965	100.0

■平成23年度支出決算額 Expenditure 2011

（単位：千円）(Shown in thousand yen)

区分 Classification	決算額 Settled Accounts	比率 %
人件費 Personnel Expenses	40,218	9.4
物件費 Non-Personnel Expenses	315,852	74.0
施設整備費 Facilities	49,757	11.7
産学連携等研究経費 Research Expensers	2,165	0.5
寄附金事業費 Contributions	10,962	2.6
その他補助金 The Other Grants	7,638	1.8
合計 Total	426,592	100.0

■平成23年度外部資金 External funds 2011

ただし間接経費を含む Involving Overhead

（単位：千円）(Shown in thousand yen)

区分 Classification	件数 Number	金額 Amount of money
民間等との共同研究 Cooperative Research	3	300
受託研究 Commissioned Research	1	1,829
受託事業・材料試験 Commissioned Projects, Material testing	2	1,022
補助金 Others	1	635
寄附金 Endowments	6	7,970
計 Total	13	11,756

■平成23年度科学研究費助成事業 Grant-in-Aid for Scientific Research 2011

ただし間接経費を含む Involving Overhead

（単位：千円）(Shown in thousand yen)

研究種目 Category	件数 Number	金額 Amount of money
新学術領域研究 Grant-in-Aid for Scientific Research on Innovative Areas	1	5,200
基盤研究（C） Grant-in-Aid for Scientific Research	8	7,670
若手研究（B） Grant-in-Aid for Young Scientists	1	910
挑戦的萌芽研究 Grant-in-Aid for challenging Exploratory Research	1	650
奨励研究 Grant-in-Aid for Encouragement of Scientists	1	500
計 Total	12	14,930

（出典　平成 24 年度 学校要覧　Ｐ．48）

（出典　Webサイト　URL

（http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=111）釧路高専学生便覧）

（分析結果とその根拠理由）

財務諸表等は，機構本部が全国高専を集計した連結決算として，官報及び高専機構のホームページで公表されており，また，本校の財務状況も本校学校要覧及びホームページで公表している。

以上のことから，財務諸表等を適切な形で公表している。

観点10－３－②：　財務に対して，会計監査等が適正に行われているか。

（観点に係る状況）

本校においては，平成 23 年度に独立行政法人通則法第 39 条（資料 10－３－②－１）による会計監査人の監査（資料 10－３－②―２），監事（高専機構）による監査（資料 10－３－②―３）及び高専機構内部監査規則に基づく高専機構本部による内部監査を受けている。

また，平成 20 年度より他高専職員による高専相互会計内部監査（資料 10－３－②―４）を受けるとともに本校職員による学内監査も毎年度実施している。（資料 10－３－②―５）。

資料 10－３－②－１

「独立行政法人通則法」　（抜粋）

（会計監査人の監査）

第三十九条　独立行政法人（その資本の額その他の経営の規模が政令で定める基準に達しない独立行政法人を除く。）は、財務諸表、事業報告書（会計に関する部分に限る。）及び決算報告書について、監事の監査のほか、会計監査人の監査を受けなければならない。

（会計監査人の選任）

第四十条　会計監査人は、主務大臣が選任する。

（会計監査人の資格）

第四十一条　会計監査人は、公認会計士（公認会計士法 （昭和二十三年法律第百三号）第十六条の二第五項 に規定する外国公認会計士を含む。）又は監査法人でなければならない。

２　公認会計士法 の規定により、財務諸表について監査をすることができない者は、会計監査人となることができない。

（会計監査人の任期）

第四十二条　会計監査人の任期は、その選任の日以後最初に終了する事業年度の財務諸表についての主務大臣の第三十八条第一項の承認の時までとする。

（会計監査人の解任）

第四十三条　主務大臣は、会計監査人が次の各号の一に該当するときは、その会計監査人を解任することができる。

一　職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

二　会計監査人たるにふさわしくない非行があったとき。

三　心身の故障のため、職務の遂行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

（出典　独立行政法人通則法）

資料 10－３－②―２

「会計監査人の監査講評 MEMO」

釧路工業高等専門学校　監査講評 MEMO

2011.5.25（水）

（全般的事項）

１．予算執行と損益業績との整合性分析（利益分析）

独立行政法人は、年度末に決算報告書の作成を義務付けられており、この開示には、国の時代（法人化前）より踏襲される予算執行状況と発生主義会計による損益計算書情報の双方が含まれることがポイントとなります。

よって、当該両情報のギャップの分析を実施することが必要不可欠です。貴高専における第１期から第７期事業年度における利益分析（推移）表は別紙の通りとなります。

そのうち、第７期事業年度における収入支出決算上の収支差額（経営努力認定の対象額）と会計上の利益との差異は以下の通りです。

支出執行済・未費用化分

（プラス）　25,279 円（内訳：前払費用 17,789 円、長期前払費用 7,490 円）

（マイナス）　△25,878 円（内訳：前払費用△19,324 円、長期前払費用△6,554 円）

自己収入固定資産取得相当分

（マイナス）△367,500 円（過年度取得分の当期減価償却相当額）

２．予算執行と資金残高との整合性分析（資金分析）

１．で述べた利益分析の結果、収入支出決算上の収支差額（経営努力認定の対象額）が算出されますが、当該金額が資金残高と整合しているかどうか分析する必要があります。

貴高専における第７期事業年度における資金分析表は別紙の通りとなり、収入支出決算上の収支差額（経営努力認定の対象額）は当期末においては 1,163,601 円と、期末の資金残高と整合した剰余金が発生していることがわかります。

３．当期の収入支出決算上の収支差額

貴高専は、当期において予算執行残高 4,633,383 円で予算執行を行っており、利益分析表上での収入支出決算上の収支差額が同額となって現れて来ています。

一方で、決算報告書をベースに預り寄附金・（長期）前受受託研究費等・預り施設費・未成研究支出金・未成事業支出金の繰越残高を考慮して収支差額を算出した場合は、次のとおり収支差額は 4,379,583 円となります。

（決算報告書）

（収入合計）	1,519,838,152 円
（支出合計）	△1,506,169,176 円
（預り寄附金・前期末残高）	32,361,475 円
（預り寄附金・当期末残高）	△27,236,262 円
（前受受託研究費等・前期末残高）	500,000 円

（長期前受受託研究費等・当期末残高）	△500,000 円
（預り施設費・当期末残高）	△14,280,000 円
（未成研究支出金・前期末残高）	△96,458 円
（未成事業支出金・前期末残高）	△74,320 円
（未成研究支出金・当期末残高）	36,172 円
収支差額	4,379,583 円

その理由としては、

①前事業年度の入学金徴収猶予申請分 338,400 円あったが、その分は決算報告書上当期の収入扱いとなっているものの、決算上は前事業年度の未収計上により、前事業年度の収入扱いとなっている。

②当事業年度の入学金徴収猶予申請分が 676,800 円あるが、その未収計上分を当事業年度の収入扱いとして、予算執行を行っている。

③当事業年度の奨学費 84,600 円（前事業年度入学金の免除申請分の当期費用処理）を当事業年度の支出として扱っている。

からです。

①②③については、決算報告書上と財務会計上とで取扱いが異なるため、上記のように両者での収支差額が相違してしまいますが、実質的には両者は同一ですので、特段の問題はありません。

（個別的事項）

１．固定資産関係

（１）寄宿舎駐輪場自転車ラックの耐用年数について

寄宿舎駐輪場自転車ラックについて、耐用年数を 45 年としていますが、実態はもっと使用期間が短いものと考えられます。

当該耐用年数が付与された経緯としては、固定資産台帳に登録する際に、「構築物」の「その他のもの（金属造のもの（前掲のものを除く。））」を選択したところ、45 年という耐用年数が自動で表示されたため、それをそのまま使用したものと伺っています。

より実態に近い耐用年数を付与する必要がありますので、例えば、「器具および備品」「12 前掲する資産のうち、当該資産について定められている前掲の耐用年数によるもの以外のものおよび前掲の区分によらないもの」の「主として金属製のもの」を選択し、15 年の耐用年数を付与した方が妥当と考えられます。

（２）固定資産取得時に仮設した代替設備について

給排水設備の工事を実施した際に、代替設備として敷設された排水管の仮設費用が修繕費として処理されていました。

修繕費は、既存の設備の維持修繕に係る費用科目ですので、修繕費以外の適切な勘定科目を設定する必要があります。

資料 10－３－②―２（続き）

この点については、後日機構本部と協議し、適切な勘定科目につき検討するようにします。

（３）50 万円未満の暖房設備の新設工事について

50 万円未満の暖房設備の新設工事費が、修繕費として処理されていました。

これについても（２）同様、新規の設備の設置費用ですので、本来は備品費として処理すべきですが、機構本部からの指示により修繕費として処理したとのことです。

この点については、後日機構本部に当該指示の趣旨について確認いたします。

（４）配管設備等の一部除却について

配管設備等の一部を除却した際に、固定資産除却損（固定資産除却簿価相当分）が計上されていませんでした。

理由としては、部分除却であり、除却簿価相当分の合理的な金額の算出が困難であるためとのことですが、このままの処理を続けると、固定資産の除却が行われているにも係らず、固定資産が増加し続けるという実態とかけ離れた結果となりますので、現実的な対応策として、毎年の資産状況調査時において、固定資産台帳と実態との大幅な乖離があった場合に、すみやかに除却処理を行うといった対応を取る必要があるものと考えられます。

２．その他

（１）勘定科目定義表について

勘定科目定義表を閲覧したところ、車両燃料費の中に「暖房用燃料等」が含まれていました。

これについては、「水道光熱費」とすることが適当ではないかと思われますので、後日機構本部に当表作成の趣旨について確認いたします。

（２）附属明細書について

「固定資産の取得および処分並びに減価償却費および減損損失の明細」において、有形固定資産の当期増加・減少額を記載していますが、この中で工具器具備品に関して、「償却費損益内」の減少として記載すべきもの 853,825 円が、「償却費損益外」として記載されていました。

すみやかに修正を行い、修正後のデータを機構本部へ送付して下さい。

以　上

（出典　総務課資料）

資料10－３－②－３

「高専機構平成23年度内部監査通知文」

平成２３年　６月１４日

釧路工業高等専門学校長　殿

独立行政法人国立高等専門学校機構
理事長　　林　　勇　二　郎
（公印省略）

平成２３年度内部監査の実施について（通知）

平成２３年度内部監査を下記のとおり実施しますのでお知らせします。

記

１　監査の項目
（１）会計経理の実施状況について
（財務事項に係る内部統制の状況、預り金精算状況、施設整備費補助金の執行状況等）
（２）契約の状況について
（３）産学連携・地域連携等の状況について
（４）入試業務の実施状況について
（５）保有個人情報の管理の状況について
（６）人事労務管理の状況について
（７）その他

（注）監査の実施状況により、監査項目を調整することがある。

２　監査の実施時期
平成２３年　８月３１日（水）～　９月　２日（金）

３　監査の従事者

人事課人事第二係主任	小林　由嗣
管理課課長補佐	村越　一晃
施設課課長補佐	渡邉　保博
◎　監査室長	宮倉　尚之

◎は総括者

（出典　総務課資料）

資料10－３－②－４

「高専相互会計内部監査報告書」

高専相互会計内部監査報告書

独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第４５条に基づき、内部監査を実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

被監査高専名	釧路工業高等専門学校
監査実施日	平成２３年１１月３０日
監査担当者	苫小牧工業高等専門学校　総務課課長補佐(財務担当)　佐々木　茂夫 総務課財務係長　小笠原　智紀 総務課財務係長　石　川　裕司

【監査結果の詳細】

被監査部署及び対応者名：総務課長、総務課課長(財務担当)，経理係長　他８名

①被監査部署の現状

・ 釧路高専の会計を担当する職員は、予算決算・収入支出を担当する経理係（３名）、契約事務を担当する用度係（２名）、施設管理を担当する施設係（２名）、図書管理を担当する図書係（２名）の４係の計１１名（課長、課長補佐を含む）となっている。

②監査結果により把握された重要な問題点と所見

・別添「高専相互会計内部監査チェックリスト」に従って、会計事務全般について聞き取り調査及び書類確認を行ったところ、概ね良好な会計処理が行われており、重要な問題点は見受けられなかった。

③発見事項及び指摘事項

・一般市民対象の公開講座で講習料を徴収していない。
・金庫の暗証番号の変更を長期間行っていないものが見受けられた。
・委任状や予定価格書作成日に日付の整合性がとれていないものが見受けられた。
・ボイラー管理業務において、業者からの参考見積書における一般管理費の割合より高い割合を積算時に採用しており、また、清掃・警備業務の積算で採用している率より高い割合となっている。
・雑役務等おいて，他の勘定科目に計上されるべきものが見受けられたので，より一層のチェックを求めた。

④指摘事項等（指示、考究）

・別添「高専相互会計内部監査チェックリスト」のとおり
　指示（会計処理について改めるよう要求したもの）・・・　４件
　考究（確認、検討を要求したもの）　・・・　１件

⑤被監査部署の意見等

・上記④の対応について、速やかな改善及び検討を図るとのことであった。

⑥関係資料等（徴収資料等）

なし

（出典　総務課資料）

資料10－３－②―５

「学内監査報告書」

別紙様式（第8条関係）

監　査　報　告　書

平成23年11月29日

監査員

職位・氏名　　総務課長 ・ 富樫　剛

監査結果について，下記のとおり報告いたします。

監査事項	平成23年度高専相互会計内部監査マニュアルにおける高専相互会計内部監査チェックリストの重点監査事項	監査対象期間	平成22年　4月　1日から 平成23年　3月31日まで
補助員	課長補佐　青山　喜治 経理係長　中川　雅貴	立会者	用度・施設係長　柴田　俊成
監査日程	平成23年11月14日から 平成23年11月30日まで	監査区分	定期監査
総評	詳細は別紙チェックリストのとおり		

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

財務に対する会計監査は，独立行政法人通則法及び高専機構会計規則に明確に定められており，それに基づき，監査法人による監査並びに高専機構本部職員，他高専職員による高専相互会計内部監査を受け，併せて学内監査を実施している。

以上のことから，会計監査は適正に行われている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

学内の予算配分方針は，校長のリーダーシップに基づき教育研究活動の質の維持に配慮しつつ，策定している。特に，教育方法改善及び教育環境充実等を図るための校長裁量経費は，学内での競争的な環境を醸成することで教育研究の活性化を図っている。

また，外部資金獲得に向けては，副校長並びに研究企画主事等において組織的な取組体制を整え対応している。

（改善を要する点）

運営費交付金が効率化係数を基に算定され，年々削減されていることを考慮すると，今後ますます外部の財務資源が必要と考えられ，競争的資金の獲得への努力が必要である。

（３）基準10の自己評価の概要

学校の目的に沿った教育研究活動を将来にわたって安定して遂行できる資産を有しており，債務も適正である。また，運営費交付金や自己収入等で経常的収入が確保されている。

収支の状況は，学内の会議等で教職員に示され，資源（学内予算）配分については合意形成が行われており，教育研究活動に配分するほか校長裁量経費として競争的資金配分の仕組みを取り入れることで教育研究の活性化に寄与している。また，キャンパスマスタープランを策定し計画的に教育研究環境の施設等の整備を行っている。

財務に対する会計監査は規則に基づき適正に実施され，予算の使途に関する情報を社会に公表し，説明責任を果たしている。

基準11　管理運営

（１）観点ごとの分析

観点11－１－①：　学校の目的を達成するために，校長，各主事，委員会等の役割が明確になっており，校長のリーダーシップの下で，効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

（観点に係る状況）

教員組織は資料11－１－①－１に示すように，校長をトップとして副校長，各主事，専攻科長，学科長等およびそれぞれの所掌する委員会が設置されている。これらのうち国立学校設置法規則に定められている教務・学生・寮務主事については本校の学則第９条にも明記されている（資料11－１－①－２）。また，本校では教職員の研究活動推進のために研究企画主事を，入試広報活動強化のために校務主事を置き，両主事を校長補佐として管理運営に参画させることで校長の補佐体制を強化している。さらに，資料11－１－①－３に副校長および校長補佐の設置，資料11－１－①－４に校長室の設置について，それぞれの規程を示す。これらに加え，各学科長，本校の教員組織に関しては資料11－１－①－５に示すように教員組織規程によりそれぞれの役割や文章が明文化されている。

これらの規程により，本校の目的を達成するための学校運営は，教育研究及び本校業務の企画運営に係る戦略策定等のための校長室と教育研究その他本校の管理運営に関する重要事項を審議し，校務の円滑な運営を図る運営会議（資料11－１－①－６）が定められている。校長室および運営会議は校長が議長を務め，各種委員会からの報告，重要事項の審議が行われ，組織間の連携を取っている。

校長室や運営会議の決定事項は校長の判断・決済によって実行される。これらの事項について，全教員への周知および意見集約を行う教員会議，分掌ごとの実務を担う各種委員会など，明確な管理運営体制ができている。

資料 11－１－①－１

「釧路工業高等専門学校　組織」

組　織　Organization

■現　員　Present Number of Staff

平成24年５月１日現在 (As of May. 1. 2012)

区　分 Classification	教育職員 Academic Staff							事務系職員 Administrative Staff	合　計 Total
	校　長 President	教　授 Professor	准教授 Associate Professor	講　師 Lecturer	助　教 Assistant Professor	助　手 Assistant	小　計 Subtotal		
現　員 Present Number	1	30 再雇用1	35	1	7	1	75 再雇用1	42	117 再雇用1

※再雇用は外数。The number of the rehired staff is not included in the total number.

■組織図　Organization Chart



（出典　平成 24 年度　学校要覧 p. 6）

資料 11－１－①－２

「釧路工業高等専門学校学則」　（抜粋）

「前略」
第９条 本校に，教務主事，学生主事及び寮務主事を置く。
２ 教務主事は，校長の命を受け，教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。
３ 学生主事は，校長の命を受け，学生の厚生補導に関すること（寮務主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。
４ 寮務主事は，校長の命を受け，寄宿舎における学生の厚生補導に関することを掌理する。
「以下略」

（出典　平成 24 年度学生便覧 p. ６）

資料 11－１－①－３

「副校長，校長補佐の設置について」　（抜粋）

（ 平成 13 年 11 月 30 日 校長裁定）

「前略」
１ 釧路工業高等専門学校に副校長（総務・教務担当）及び副校長（運営計画担当）を置き，校長が指名する者をもって充てる。
２ 副校長は，校長が通知書をもって命ずる。
３ 副校長（総務・教務担当）は，校長の命を受け，次の各号に掲げる事項を掌理する。
なお，校長が不在の際，その職務を代行するものとする。
一 高専における組織教育研究の企画及び連絡調整に関すること。
二 教育内容等の改善のための組織的研修等に関すること。
三 機関別認証評価に関すること。
四 日本技術者教育認定に関すること。
五 国際交流に関すること。
六 その他，副校長（運営計画担当），各主事及び各センター長の所掌に属さない事項に関し，必要と認められること。
４ 副校長（運営計画担当）は，校長の命を受け，次の事項を掌理する。
一 組織的外部資金（ＧＰ）に関すること。
二 将来計画に関すること。
三 中期目標，中期計画に関すること。
四 自己点検評価に関すること。
五 施設整備に関すること。
六 その他，本校の運営計画に関し，必要と認められること。

「以下略」

（出典　釧路高専規程）

資料 11－１－①－４

「釧路工業高等専門学校校長室設置要項」　（抜粋）
平成 22 年１月 19 日　校長裁定

「前略」
（趣旨）
1 釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，教育研究及び本校業務の企画運営に係る戦略策定等のため，釧路工業高等専門学校校長室（以下「校長室」という。）を置く。
（組織）
2 校長室は，次に掲げる者をもって組織する。
(1) 校長
(2) 副校長
(3) 校長補佐
(4) 事務部長
(5) 総務課長
(6) 学生課長
(7) その他校長が必要と認めた者

「以下略」

（出典　釧路高専規程）

資料 11－１－①－５

「釧路工業高等専門学校教員組織及び職務分掌規程」　（抜粋）
（昭和 43 年８月 30 日 釧高専規第 15 号）

「前略」
第１章 総則
（趣旨）
第１条 この規程は，釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教員の責任体制を確立し，かつ，連絡を密にして教育効果の向上を図ることを目的とし，本校における教員の組織は，法令その他特別の定めのあるもののほか，この規程の定めるところによる。
（職の設置）
第２条 本校に，本校学則第９条の規定に基づく教務主事，学生主事及び寮務主事のほか次の職を置く。
一 校務主事
二 研究企画主事
三 図書館長
四 専攻科長
五 一般教育科長
六 一般教育科文系長
七 一般教育科理系長
八 学科長
九 専攻長
十 学年主任
十一 学級担任
十二 学級副担任
十三 実習工場長
「以下略」

（出典　釧路高専規程）

資料 11－１－①－６

「釧路工業高等専門学校運営会議規程」　（抜粋）
（平成 14 年２月 18 日釧高専達第 15 号）

「前略」

（設置）
第１条 釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）に運営会議（以下「会議」という。）を置く。
（目的）
第２条 会議は教育研究その他本校の管理運営に関する重要事項を審議し，校務の円滑な運営を図るものとする。
（審議事項）
第３条 会議は，次に掲げる事項を審議する。
一 本校の将来計画の企画立案に関すること。
二 本校の教育，研究上の目的を達成するための基本的な計画に関すること。
三 諸規則の制定及び改廃に関すること。
四 予算（概算要求を含む。）に関すること。
五 自己点検評価及び認証評価に関すること。
六 受託研究及び共同研究の受入れ，実施等に関すること。
七 寄附金の受入れに関すること。
八 国際交流に関すること。
九 釧路工業高等専門学校教育研究・国際交流振興基金の運用に関すること。
十 各委員会の審議事項のうちこの会議の議を経ることとなったものに関すること。
十一 その他本校の管理運営に関する重要事項
（組織）
第４条 会議は，次に掲げる者で組織する。
一 校長
二 副校長
三 主事
「以下略」

（出典　釧路高専規程）

（分析結果とその根拠理由）

学校の目的を達成するための各主事・委員会等の役割や，校長を補佐するための副校長及び校長補佐が定められ，本校の企画運営に関する戦略策定の体制が明確になっている。校長室・運営会議は必要に応じて開催しており，校長のリーダーシップの下での意思決定，学校運営を効果的に行う態勢ができている。

これらのことから，学校の目的を達成するために，校長，各主事，委員会等の役割が明確になっており，校長のリーダーシップの下で，効果的な意思決定が行える態勢となっている。

観点11－１－②：　管理運営の諸規程が整備され，各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し，効果的に活動しているか。また，危機管理に係る体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

本校の教員組織及び職務分掌規程（資料11－１－①－５）に示すように，各主事・学科長等の設置とそれぞれの職務分掌が定められている。また，これに対応して事務分掌規程が資料11－１－②－１に示すように定められている。副校長及び校長補佐の設置及び職務内容については資料11－１－①－３に示したように定められ，さらに資料11－１－①－４に示したように，教育研究及び本校業務の企画運営に係る戦略策定等のため校長・副校長・校長補佐による「校長室」の役割が定められている。教育

研究その他本校の管理運営に関する重要事項を審議し，校務の円滑な運営を図る運営会議の規程が定められている（資料11－１－①－６）。各種委員会規程はそれぞれ整備されており，分掌が定められている（資料11－１－②－２）。それぞれの規程において担当事務組織が明記され，教職員の協力の下に活動している。

なお，危機管理については，危機管理規程（資料11－１－②－３）により，目的等を明確化するとともに危機管理室の設置及びその業務を定めている。また，防災・防火委員会が設置されている（資料11－１－②－４）。危機管理室における危機管理マニュアルの整備と教職員への配布・周知，防災・防火委員会における防災マニュアルの整備や防災訓練の実施等，効果的に活動している。

これらの会議・委員会は月例開催を基本とし，必要に応じて臨時開催している。資料11－１－②－５に主な委員会の平成23年度開催実績を示す。また，これらの諸規程は，本校の内部向けウェブサイトに掲載され，教職員の閲覧が可能である。

資料 11－１－②－１

「釧路工業高等専門学校事務組織規程」　（抜粋）
（昭和 46 年 12 月 1 日釧高専規第 12 号）

「前略」

第２章 事務分掌
第１節 課の事務分掌
（総務課）
第 10 条 総務課においては，次の事務をつかさどる。
(1) 学校の事務に関し，総括し及び連絡調整すること。
(2) 機密に関すること。
(3) 儀式，諸行事及び会議に関すること。
(4) 学則その他諸規程の制定及び改廃に関すること。
(5) 学術団体等との連絡に関すること。
(6) 渉外に関すること。
(7) 法人文書の管理に関すること。
(8) 文書類の接受，発送に関すること。
(9) 公印の管守に関すること。
(10) 構内警備取締に関すること。
(11) 研究協力に関すること。
(12) 地域連携及び産学連携の推進に関すること。
「以下略」

（出典　釧路高専規程）

資料 11－１－②－２

「委員会規程等」　（抜粋）

第１１章　会議・委員会

○運営会議規程　（H23.3.28 改正）
○運営会議申し合わせ（H21.12.25 改正）
○教員会議規程　（H22.7.29 改正）
○教務委員会規程　（H23.3.28 改正）
○学生委員会規程　（H23.3.28 改正）
○寮務委員会規程　（H22.3.28 改正）
○図書館委員会規程　（H23.3.28 改正）
○進路指導委員会規程（H23.6.23 改正）
○情報処理センター委員会規程　（H23.3.28 改正）
○情報処理センター委員会ネットワーク専門委員会規程　（H23.3.28 改正）
○入学試験委員会規程（H24.2.23 改正）

（出典　内部向けホームページ）

資料 11－１－②－３

「釧路工業高等専門学校危機管理規程」　（抜粋）
（平成 22 年４月 28 日釧高専達第３号）

「前略」

（目的）

第１条この規程は，釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）において発生することが予想される様々な事象に伴う危機に組織的に迅速かつ的確に対処するため，本校における危機管理体制及び危機事象発生時の基本的な対処方法等に関し，必要な事項を定めることにより，本校の学生，教職員（非常勤教職員を含む。以下同じ。）及び近隣住民（以下「学生等」という。）の安全並びに本校の教育研究活動の確保を図るとともに，本校が社会的な責任を果たすことを目的とする。

（定義）

第２条この規程において，次の各号に掲げる用語の意義は，それぞれ当該各号に定めるところによる。

(1) 危機管理次条に定める危機事象の原因と状況を把握，予知又は分析し，その危機事象によってもたらされる事態を想定することにより，被害や影響を回避又は軽減し，最小限に抑制するための適切な対応を行うことをいう。

「以下略」

（出典　釧路高専規程）

資料 11－１－②－４

「釧路工業高等専門学校防災・防火委員会規程」　（抜粋）
（平成 14 年２月 18 日 釧高専達第 34 号）

「前略」
（設置）
第１条 釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）に防災・防火委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（目的）
第２条 委員会は，校長の諮問機関として，本校の防災・防火体制の整備及び防災並びに消防の基本計画，実施計画の検討並びに防災・防火訓練を行う。
（審議事項）
第３条 委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
一 本校に係る災害に関し，予防応急及び復旧等の防災対策等に関する基本計画の企画立案に関すること。
二 消防計画の立案及び実施に関すること。
三 防災訓練，消火訓練の実施に関すること。
四 災害対策，災害復旧等に関すること。
五 消防用設備の改善強化に関すること。
六 防災，防火についての調査，研究及び企画に関すること。
七 その他防災・防火に関すること。
「以下略」

（出典　釧路高専規程）

資料 11－１－②－５

「主な委員会の開催実績（平成 23 年度）」

校長室 （４月定例・５月定例・６月定例・７月定例・７月臨時・９月臨時・９月定例・９月臨時・10 月定例・10 月臨時・11 月定例・12 月臨時・12 月定例・１月臨時・１月定例・２月定例）
運営会議（４月定例・５月定例・６月定例・７月定例・９月定例・10 月定例・11 月定例・12 月定例・１月定例・２月定例・３月定例）
教務委員会（４月定例・５月定例・６月定例・７月定例・９月定例・10 月定例・11 月定例・12 月定例・12 月臨時・12 月臨時・１月定例・２月定例・３月定例）
学生委員会（４月定例・４月臨時・４月臨時・４月臨時・５月定例・５月臨時・６月定例・６月臨時・７月臨時・７月定例・７月臨時・９月定例・９月臨時・９月臨時・10 月定例・11 月臨時・11 月臨時・11 月定例・12 月定例・12 月臨時・12 月臨時・12 月臨時・１月定例・１月臨時・２月定例・３月定例）
寮務委員会（４月定例・５月定例・６月定例・７月定例・９月定例・10 月定例・11 月定例・12 月定例・１月定例・２月定例・３月定例）

（出典　本校内部ページよりデータ集約）

（分析結果とその根拠理由）

校長のリーダーシップの下で本校の管理運営を支障なく効果的に実施するための諸規程が整備され，それぞれの職務の役割分担が適切かつ明確に定められている。諸活動を実施するための委員会等は月例を基本として適切に開催され，効果的に活動している。委員会等の担当事務組織が規程に定められ，教職員の協力によって諸活動が実施されている。

危機管理室による危機管理マニュアル整備，防災・防火委員会による防災マニュアル整備等，危機管理体制は効果的に活動している。

これらのことから，管理運営の諸規程が整備され，各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し，効果的に活動している。また，危機管理に係る体制が整備されている。

観点11－２－①：　自己点検・評価が学校として策定した基準に基づいて高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ，かつ，その結果が公表されているか。

（観点に係る状況）

本校では，評価専門委員会が自己点検・評価を行うことを規則に定めている（資料11－２－①－１）。評価専門委員会では，高専機構が策定する年度計画に基づいて本校の年度計画を策定し，各責任部局は本校の年度計画に従って部局の年度計画を策定する。資料11－２－①－２に平成23年度の年度計画を，資料11－２－①－３に部局の計画の例（校長室）を示す。評価専門委員会は，各責任部局に対して，前年度末に年度計画の策定，年度途中での中間評価，年度末の達成度評価を依頼し，各責任部局から提出された計画および達成度評価は評価専門委員会で審議の上，運営会議に提出し，審議・了承の上で自己点検・評価報告書としてまとめ，これをウェブサイトに公表している。資料11－２－①－４に年度評価に関係する評価専門委員会議事録を，資料11－２－①－５に自己点検・評価に関係する運営会議の議事を示す。さらに，資料11－２－①－６に自己点検・評価報告書の公開ページを示す。

資料 11－２－①－１

「評価専門委員会設置要項」　（抜粋）
（平成 18 年２月 22 日 校長裁定）

「前略」
（設置）
第１条 釧路工業高等専門学校運営会議規程第８条第３項に基づき，同規程第３条第５号に掲げる事項を専門的に審議するため，常設の内部組織として評価専門委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（審議事項）
第２条 委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
一 自己点検評価の基本方針に関すること
二 自己点検評価の実施時期，実施単位その他実施基準に関すること
三 評価項目に関すること
四 自己点検評価の実施に関すること
五 自己点検評価の公表に関すること
六 認証評価に関する必要な事項
七 その他必要な事項
「以下略」

（出典　釧路高専規程）

資料 11－２－①－２

「平成 23 年度　釧路高専年度計画」　（抜粋）

国立	高等	機構	釧路	高等		
中期目標	中期計画	年度計画	釧路高等 22年度年度計画	責任部局	中期計画	中期目標
Ⅰ 中期目標期間 中期目標期間は、平成23年4月1日から平成28年3月31日までの5年間とする。					Ⅰ 中期計画期間 中期目標期間は、平成23年4月1日から平成28年3月31日までの5年間とする。	
Ⅱ 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置					Ⅱ 業務の質の向上に関するサービスその他業務の質の向上に関する目標	
1．教育に関する事項 実験・実習・実技を通して早くから技術に触れさせ、技術に興味・関心を高めた学生に科学的知識を教え、さらに高い技術を習得させるという高等学校や大学とは異なる特色ある教育課程を組し、製造業を始めとする様々な分野において創造力ある技術者として将来活躍するための基礎となる知識と技術、さらには生涯にわたって学ぶ力を確実に身に付けさせることができるように、以下の観点に基づき学校の教育実施体制を整備する。	1　教育に関する事項 (1) 入学者の確保 高等学校や大学とは異なる高等専門学校の特色や魅力について、中学校教員、さらに広く社会における高専活動を高める広報活動を展開するとともに、入試方法の見直しを行うことによって、多分な資質を持つた入学者を確保する。	1　教育に関する事項 (1) 入学者の確保 ① 中学校生や中学校PTAなどの全国的な組織との関係を緊密にするとともに、中学生、保護者を始めマスコミなどを通じた積極的な広報を行う。	1　教育に関する事項 ・釧路地区の中学校生徒等へ参加し高専の学習を行うだけでなく、釧路高専の授業・施設等の見学会を通して生徒・保護・父兄へ高専の魅力を訴求する。 ・釧路地区内中学校生に高専を訪問してもらう。 ・釧路広告による広報を分析し、効果的な広報を実施する。 ・テレビによる広報について検討する。 ・校長による中学校訪問および教員による中学校訪問の時期と地域について検討し、実施する。	入試企画室 広報委員会	(1)入学者の確保に関する措置	(1)入学者の確保 高専教育の位置付けを明確にし、中学生、中学校教員及び社会における認識を高め、入試方法の見直しを行うことによって、高等教育にふさわしい資質を持った人材を確保する。
(1) 入学者の確保 高等学校や大学とは異なる高等専門学校の特色や魅力について、中学生や中学校教員、さらに広く社会における高専活動を高める広報活動を展開するとともに、入試方法の見直しを行うことによって、多分な資質を持つた入学者を確保する。	(1) 入学者の確保 ① 中学校生や中学校PTAなどの全国的な組織との関係を緊密にするとともに、中学生、保護者を始めマスコミなどを通じた積極的な広報を行う。	(1) 入学者の確保 ① 全日本中学校長会、地域における中学校長会などと連携を深め、高専高等専門学校への理解の促進を図るとともに、マスコミ等を通じ広く社会に向けて国立高等専門学校のPR活動を行う。	・釧路本部で作成した「キラキラ高専ガール」を積極的に活用すると同時に釧路高専独自の「女子中学生向け控えパンフレット」の作成を行う。 ・入試広報活動スケジュールを早期に立案する。 ・広報物デザインの早期決定と早期作製に着手し、早い段階からの使用を可能にする。 ・在校生の様子が出身中学校にわかる広報活動を行う。 ・職入学生の様子が出身高校にわかる広報活動を行う。	入試企画室	②職入学生や女子学生の志願者を増やすための積極的な広報活動を行う。	
② 中学生が国立高等専門学校の学校内容を体験できるような入学説明会、体験入学、オープンキャンパス等を実施させ、特に女子学生の志願者層拡に向けた取り組みを推進する。	② 中学生が国立高等専門学校の学校内容を体験できるような入学説明会、体験入学（オープンキャンパス）、学校説明会等の取組について調査し、その結果を各学校に周知するとともにその結果を分析する。	② 高専広報を中学校に対する入学説明会、体験入学（オープンキャンパス等を実施させ、特に女子学生の志願者層拡に向けた取り組みを推進する。	・入学生のアンケート調査を行い、志望動機、釧路高専の受験を決めた時期、どのような広報媒体・関係者から釧路高専に関する情報を得られたか、釧路高専が期待するオープンキャンパス・学校説明会など関心が高いイベントの分析を行い、前年度広報活動・広報資料・広報企画計画の見直しを行う。 ・広報物デザインを早期に決定し、早めに作製する。 ・作成するそれぞれの広報物の目的を明確にし、配布時期、配布方法、配布対象を決定する。	入試企画室	③平成23年度以降の入試広報を戦略的に入れ、地域の中学校との関係を緊密にするとともに、入試方式の見直しを行う。 ④北海道地区工業高等専門学校（以下「道内高専」という）連携の観点から入試方法の共通化を目指し道内高専との協議を進める。	
③ 中学生やその保護者を対象とする学校が共通に活用できる広報資料を作成する。	③ 中学生及びその保護者を対象とするパンフレットについて、各学校での利活用状況調査等を行い、その結果を踏まえた広報資料を作成する。	③ 高等教育にふさわしい入試方法の実施について引き続き検討し、実施可能なものから随時導入する。	道内高専連携の観点から入試方法の共通化を目指した協議を継続する。特に、普通科と専門学科の違いによる「推薦入学」の連携を継続する。 ・道内4高専の連携による「最高専学会会議」を札幌市のほか、他の連携に開催することを検討する。 ・道内4高専に設置した複数校交換制度を引き続き検討する。	入試委員会		
④ ものづくりに関心と適性を有する者など国立高等専門学校の教育にふさわしい入学者を確保に適性できるように入試方法の見直しを行う。	④ 高等教育にふさわしい入学者を確保できるよう、入試方法の改善方策について引き続き検討し、実施可能なものから随時導入する。	各学校・学科における学力各種の連携のための取組を踏まえ、それぞれの学校・学科に対する入試広報の在り方を検討する。	広報委員会と連携、て出前授業テーマ数の増加を図る。 ・中学校に送付する出前授業の案内に、同時に学校説明も可能である旨の案内を加える等、説明機会の増加を図る。 ・出前授業に出かける教員に入試広報物の配布を依頼して広報活動を充実させる。	入試企画室		
⑤ 入学者の学力水準の維持に努めるとともに、中期目標の最終年度において入学者に対して 600 人以上の入学志願者を維持する。	⑤ 入学者の学力水準の維持に努めるとともに、中期目標の最終年度において入学者に対して 600 人以上の入学志願者を維持する。	各学校・学科における学力各種の連携のための取組を踏まえ、それぞれの学校・学科に対する入試広報の在り方を検討する。				

（出典　平成 23 年度 4 月　運営会議資料）

資料 11－２－①－３

「平成 23 年度 釧路高専　年度計画（校長室）の例示」　（抜粋）

釧路高専 平成23年度 年度計画 活動経過・結果報告書 期間：平成23年 ４月～24年 ３月	平成 23 年 4 月 11 日 責任部局（連携部局等）：校長室

【高専機構中期計画】

(3) 優れた教員の確保

① 多様な背景を持つ教員組織とするため，公募制の導入などにより，教授及び准教授については，採用された学校以外の高等専門学校や大学，高等学校，民間企業，研究機関などにおいて過去に勤務した経験を持つ者，又は１年以上の長期にわたって海外で研究や経済協力に従事した経験を持つ者が，全体として 60%を下回らないようにする。

【高専機構年度計画】（３）－①

(3) 優れた教員の確保

① 優れた教員を確保するため、各国立高等専門学校の教員の選考方法及び採用状況を踏まえ、国立高等専門学校における多様な背景を持つ教員の割合が 60%を下回らないようにする。

【釧路高専の中期計画】

(3)優れた教員の確保に関する措置

①教員選考基準の見直しを行う。

④教育の高度化再編に向けた教員の採用計画を検討する。

【参考：２２年度　釧路高専責任部局等の年度計画（具体的な方策）】

・教員の公募・採用基準の見直しを継続し、多様なキャリアを有する教員が採用できる項目を盛り込む。

・多様なキャリアを有する教員を採用するため教員公募の周知方法の多様化を進める。

【平成 22 年度の活動で残された課題】

【２３年度　釧路高専責任部局等の年度計画（具体的な方策）】

・教員の公募・採用基準の見直しを継続し、多様なキャリアを有する教員が採用できる項目を盛り込む。

・多様なキャリアを有する教員を採用するため教員公募の周知方法の多様化を進める。

（出典　平成 23 年度 4 月　校長室資料）

資料 11－２－①－４

「平成２３年度　第４回評価専門委員会議事録」

日　時　平成２４年3月１２日（月）　１３：００～
場　所　会議室
出席者　１１名　　欠席者　８名

議題

１　平成２３年度 年度計画に基づく各部署の達成度評価について

委員長から、資料に基づき、各委員会から提出された評価について、次の事項に基づいて修正案が提案された。また、委員から他の修正等の意見があり、審議の結果、別紙赤字部分のとおり修正したうえで了承された。

主な修正点は、

①年度評価のため、体裁を過去形とした。
②詳細な日程は本評価に記載せず、後でエビデンスに記載する。
③今後検討する事項は、「残された課題と今後の計画」に記載した。
④重複して記載している事項はどちらかにまとめた。
⑤簡潔な表現に変更した。

なお、委員長から、高専機構へ２３年度実績報告（青字部分）を提出するにあたり、各委員会の評価を受けて、校長、副校長、部長で審議・記載し、校長室に提出する。
高専機構へ提出する実績報告の記載を受けて、最終的な評価（実績報告部分）の記述が変更することもある旨が報告された。

また、最終的な評価一覧は、３月２６日運営会議で審議することになっている旨が報告され、審議前に最終的な評価一覧（案）を評価専門委員会委員に周知することとした。

２　平成２３年度年度計画達成度評価の公表について

委員長から、評価の公表については、例年通り本校公式ＨＰに評価一覧表を自己点検評価として掲載することが提案され、了承された。

３　次年度の申し送り事項について

平成２４年度に申し送りする事項については特に意見がなく、委員長から次年度の評価の実施について協力依頼があった。

４　その他

なし

（出典　平成 23 年度 3 月　第４回評価専門委員会議事録）

資料 11－２－①－５

「３月定例運営会議議事概要」　（抜粋）

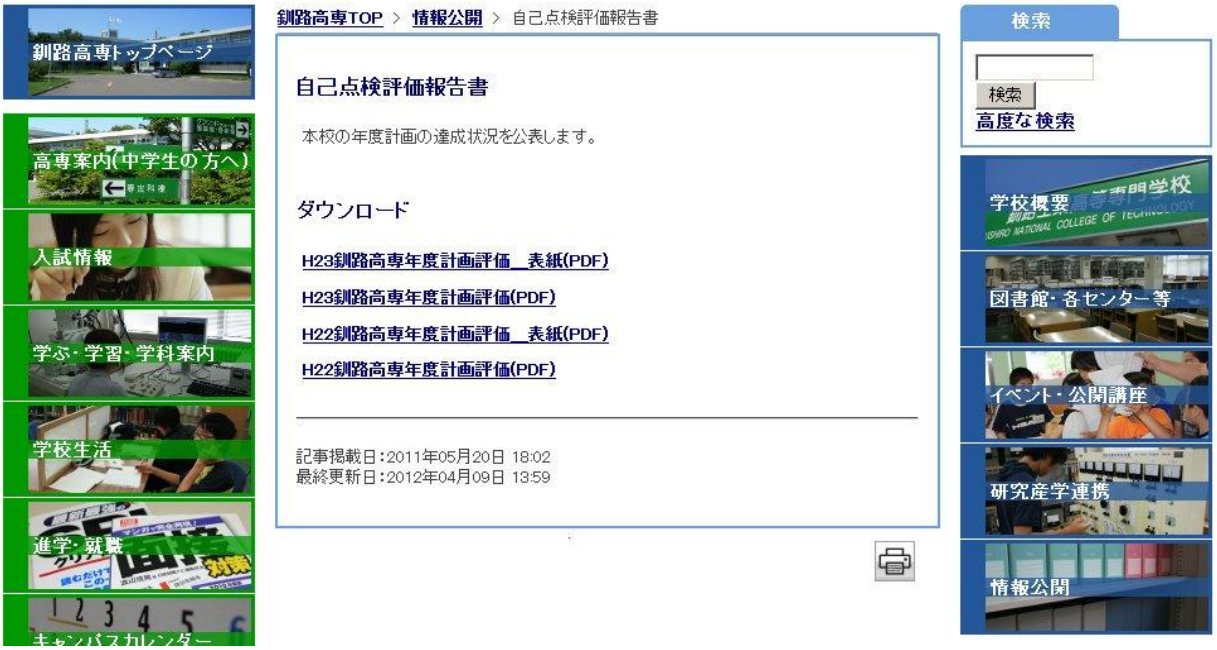
日　時　　平成24年3月26日(月)13:30～15:25
参加者　　全員出席
場　所　　会議室

（略）
審議事項
11. 平成23年度釧路高専年度計画達成度評価について
　中村教務主事から，資料B-11でに基づき平成23年度釧路高専年度計画達成度評価について説明の上,審議の上了承された。
「以下略」

（出典　平成23年度3月　定例運営会議議事概要）

資料 11－２－①－６

「釧路高専ホームページ　自己点検評価報告書」　（抜粋）



（出典　Web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=84（本校公式ウェブサイト））

（分析結果とその根拠理由）

本校では年度計画を自己点検・評価項目とし，評価専門委員会が，年度計画の策定，中間評価，達成度評価を取りまとめている。結果は運営会議に報告され，審議を経て自己点検・評価報告書として本校ウェブサイトを通じて公表している。

これらのことから，自己点検・評価が学校として策定した基準に基づいて高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ，かつ，その結果が公表されている。

観点11－２－②：　自己点検・評価の結果について，外部有識者等による検証が実施されているか。

（観点に係る状況）

本校では，運営諮問委員会（資料11－２－②－１，２）において，校長の諮問に応じ本校運営上の重要事項を審議し，校長に対し意見を述べ，校長は，諮問委員会からの意見を本校の運営に反映させることとしている。具体的には，(1)教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する重要事項，(2)教育研究活動等の状況について本校が行う評価に関する重要事項，(3)その他本校の運営に関する重要事項，について審議することとしている。平成17年度末の運営諮問委員会においては，同年度に実施された機関別認証評価の結果について，評価結果とそれを基にした本校の取組を説明した上で，本校の方針等について議論を進めるなど，本校の１年間の活動状況を示した上での議論をしており，これは本校の自己点検・評価に対する運営諮問委員会における検証と考えている。平成20年度からは校長による概況説明および教務主事による教務報告の後に審議する方式とし，さらに平成22年度からは項目を絞っての議論のために，委員会前に教職員も参加する説明会を実施し，諮問委員会で議論することとした。資料11－２－②―３に平成22及び23年度の運営諮問委員会の議題を示す。また，訪問調査時に運営諮問委員会報告書を用意する。

資料 11－２－②－１

「釧路工業高等専門学校運営諮問委員会規則」

（平成16年９月21日制定）

改正　平成19．１．９　平成19．４．26釧高専達第26号

（設置）

第１条　釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，釧路工業高等専門学校運営　諮問委員会（以下「諮問委員会」という。）を置く。

（目的）

第２条　諮問委員会は，校長の諮問に応じ本校運営上の重要事項を審議し，校長に対し意　見を述べる。

２　校長は、諮問委員会からの意見を，本校の運営に反映させるものとする。

（審議事項）

第３条　諮問委員会は，次の各号に掲げる事項について，審議する。

（１）　教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する重要事項

（２）　教育研究活動等の状況について本校が行う評価に関する重要事項

（３）　その他本校の運営に関する重要事項

（組織）

第４条　諮問委員会は，本校の教職員以外の者で，高等専門学校に関し見識を有する者のうちから，校長が委嘱する委員をもって組織する。

（委員長）

第５条　諮問委員会に委員長を置き，その委員長は委員の互選をもって充てる。

２　委員長は，諮問委員会の会務を総理する。

３　委員長に事故があるときは，あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

（任期）

第６条　委員の任期は２年とする。ただし，再任を妨げない。

２　前項の委員に欠員を生じた場合の後任の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

（開催）

第７条　諮問委員会は，委員長が招集し開催する。

（委員以外の者の出席）

第８条　諮問委員会が必要と認めるときは，委員以外の者の出席を求め，意見又は説明を　聴くことができる。

（審議状況の公表）

第９条　校長は，諮問委員会の審議状況を，広く周知を図ることができる方法によって公　表しなければならない。

（略）

（出典　釧路高専規程）

資料 11－２－②－２

「平成 23 年度　運営諮問委員会委員」

委員長	北見工業大学長	鮎　田　耕　一
委員	釧路市副市長	小　松　正　明
委員	釧路市教育委員会教育長	近　藤　逸　郎
委員	釧路市小中学校校長会中学校部会長	種　市　　司
委員	釧路商工会議所専務理事	濱　屋　重　夫
委員	釧路工業高等専門学校地域振興協力会長	島　本　幸　一
委員	釧路工業高等専門学校同窓会長	財　原　直　人
委員	釧路工業高等専門学校後援会長	鳥居塚　　力

（出典　総務課作成資料）

資料 11－２－②－３

「運営諮問委員会議事記録」　（抜粋）

「平成 22 年度運営諮問委員会　議題」

「釧路高専の教育の現状と課題」

一般教科（英語）：片岡英語代表教員

一般教科（数学、物理）：澤柳基礎専門教科代表教員、浦家物理担当教員、池田数学教科代表教員

機械工学科：荒井機械工学科主任

電気工学科：高木電気工学科主任

電子工学科：坂口電子工学科主任

情報工学科：大槻（典）情報工学科主任

建築学科：佐藤（彰）建築学科主任

２段階学科選択制度：中村教務主事

釧路高専の現状と課題：校長

「平成 23 年度運営諮問委員会　議題」

「専攻科のあり方」

(1)専攻科概要と特徴 専攻科長 神谷 昭基

(2)専攻科の入学と進路 電子情報システム工学専攻長 大貫 和永

(3)専攻科の課題 建設・生産システム工学専攻長 佐藤 彰治

(4)今後の展望 専攻科長 神谷 昭基

５．専攻科教育と JABEE 認定・認証評価の関係性

総務・教務担当副校長 中村 隆

６．専攻科における一般教養教育への提言 国語科 舘下 徹志、社会科 藤本 一司

（出典　運営諮問委員会議事記録）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，外部有識者により構成される運営諮問委員会を開催し，校長の諮問に応じて本校の運営上の重要議題を審議し，校長は運営諮問委員会の意見を学校運営に反映させることが規程に定められている。特に，平成22及び23年度は，本校の教育上の課題に絞っての説明会及び諮問委員会開催という形式を採用し，運営諮問委員会から重要な意見をいただいている。

これらのことから，自己点検・評価の結果について，外部有識者等による検証が実施されている。

観点11－２－③：　評価結果がフィードバックされ，高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され，有効に運営されているか。

（観点に係る状況）

評価専門委員会規程（資料11－２－③－１）第８条において，「校長は，運営会議の議を経て，委員会の実施した自己点検評価の結果に基づく必要な事項について他の関係委員会等に改善の指示を行うものとする。」と定めている。また，本校の自己点検・評価のシステムでは，年度末の評価結果の報告において「残された課題と今後の計画」を記入する欄を設け，必要に応じて翌年度への提言を記入することができるようにしている。これにより，評価結果及び不足な点は翌年度へと申し送られ，翌年度の年度計画策定に組み入れられる。

本校の自己点検評価報告書は，項目ごとの年度計画および達成度評価を責任部局を明記して公表しており，自己点検・評価の内容，改善活動の状況が明確に示されている（資料11－２－③－２）。校長室における平成22年度の評価結果から平成23年度の計画及び評価結果へと至る例を資料11－２－③－３に示す。

このようなフィードバックが自己点検・評価の各項目の責任部局ごとに行われており，本校の目的の達成のための改善への努力が続けられている。特に，校長室もこの自己点検・評価システムの対象としており，管理運営上の諸問題の改善に結び付ける取組を行っている。

資料 11－２－③－１

「釧路工業高等専門学校評価専門委員会設置要項」　（抜粋）

「前略」

（自己点検評価の結果）

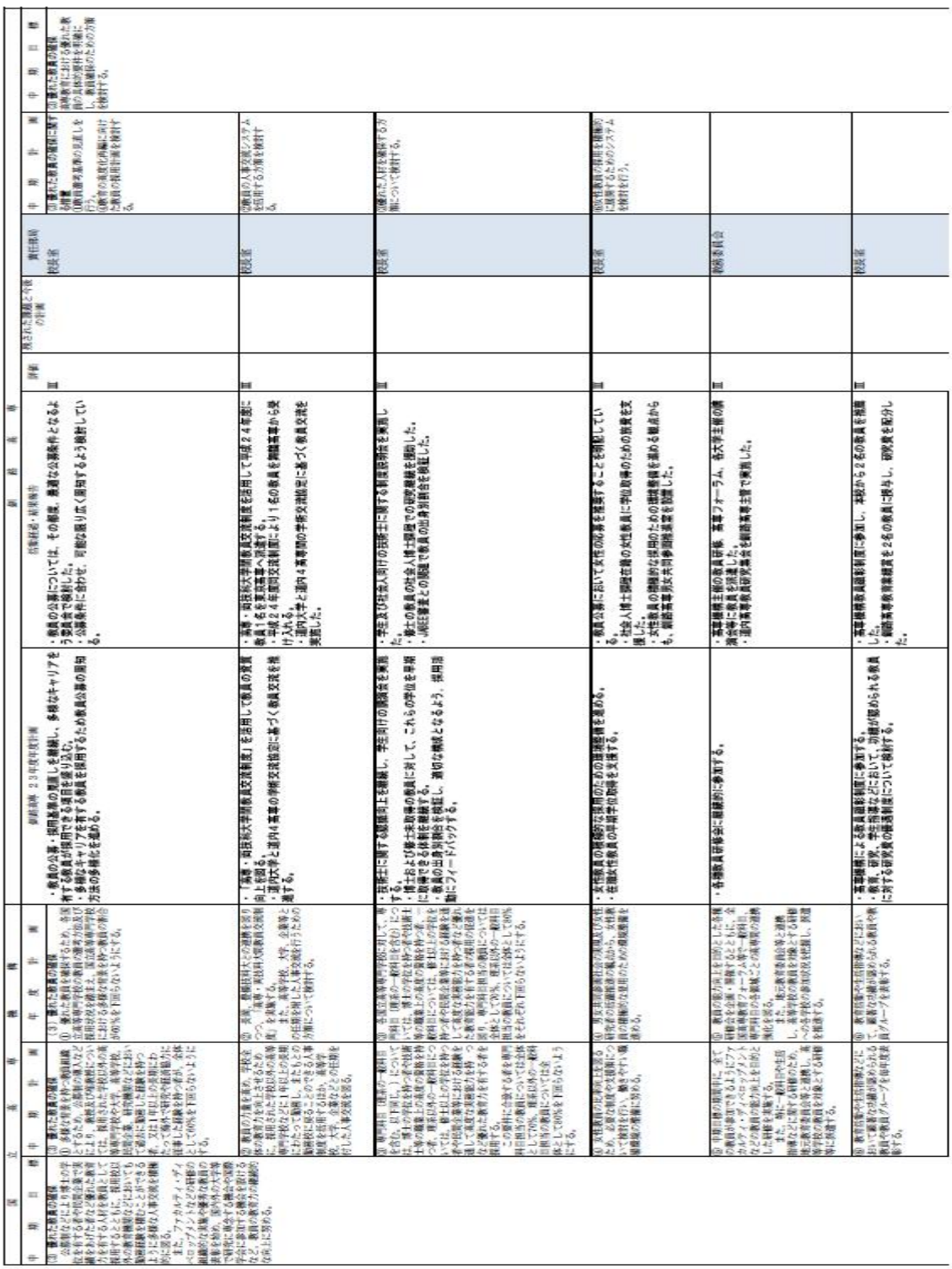
第８条 校長は、運営会議の議を経て，委員会の実施した自己点検評価の結果に基づく必要な事項について他の関係委員会等に改善の指示を行うものとする。

「以下略」

（出典　釧路高専規程）

資料 11－２－③－２

「平成 23 年度自己点検評価報告書」　（抜粋）



（出典　WEB サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=84
（釧路高専公式ウェブサイト））

資料 11－２－③－３

「自己点検・評価のフィードバックの例」

平成 22 年度
年度計画
・学校運営に関して、校長室を定期的に開催し、教育・研究・地域貢献について協議するシステムとして継続する。
評価結果
・２２年度は校長室を１４回（臨時開催２回を含む）開催し、学校運営に関する協議を行っている.
残された課題と今後の計画
校長室の審議内容の検討が必要である.

平成 23 年度
年度計画
・平成２１年度に設置した校長室の運営方法等を点検し、機動的・企画的な機能の充実を図る。
評価結果
・校長室会議を変革し，機動的・企画的な機能の充実を図った。

（出典　自己点検評価報告書）

（分析結果とその根拠理由）

評価専門委員会規程により，校長は委員会の実施した自己点検評価の結果に基づく必要な事項について他の関係委員会等に改善の指示を行うこととしている。自己点検評価報告書は，各項目の責任部局を明記して公表しており，残された課題，解決のための計画策定，年度の達成度評価が一覧できるようにしている。

これらのことから，評価結果がフィードバックされ，高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され，有効に運営されている。

観点11－３－①：　外部有識者等の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されているか。

（観点に係る状況）

本校は，平成17年度の機関別認証評価における主な改善を要する点として学習目標・教育目標の設定に関する指摘を受けた。これについて，本校では平成17年度末の運営諮問委員会において概要を報告し，審議・提言をいただくとともに，平成18年度から教育システム評価改善委員会が中心となって学習目標の改訂作業を行った（資料11－３－①－１）。同委員会における議論の結果は平成22年度４月の運営会議の議を経て（資料11－３－①－２），本校の第２期中期目標・計画の前文（養成すべき人材像）の改定（資料11－３－①－３）として反映するとともに，学則や学校要覧等の刊行物に明記し，さらに学生の意識を高めるため，各HR教室に掲示している。

JABEE審査における評価においては，管理運営に関する指摘は受けていないが，教育課程の見直しや非常勤講師との懇談会開催（資料11－３－①－４）など学校運営の改善に反映させている。

外部有識者等の意見として，本校の運営諮問委員会における審議内容・提案を報告書としてまとめ，教職員に対して公表・周知している。ここ数年間，運営諮問委員会における審議内容は，本校の入学者確保や教育活動に関する事項が中心となっており，管理運営に関する提言は出ていない（訪問調査時に運営諮問委員会報告書を用意する）。

資料 11－３－①－１

「平成 18 年度 第１回 教育システム評価改善委員会議事要旨」　（抜粋）

「前略」

２．審議事項 平成１８年度教育システム評価改善委員会の活動方針（案）

委員長より資料 2 に基づき，本委員会の活動方針について，以下のとおり説明があった。

「中略」

(6) 学習教育目標の設定

委員長より認証評価の指摘事項を受け，本校の学習教育目標にかかわる自己改善システム等が必要である旨提案があった。

具体的には，進路先企業との意見聴取，学生自身による教育効果の評価等が挙げられ，今後，システム構築に向けて検討してきたい旨，説明があった。

「以下略」

（出典　平成 18 年度第１回教育システム評価改善委員会議事要旨）

資料 11－３－①－２

「４月定例運営会議議事概要」　（抜粋）

「前略」

◎審議事項

１．釧路工業高等専門学校学習目標について

総務係長から，資料４に基づき経緯等を説明し，審議の上，了承された。

「以下略」

（出典　平成 18 年度４月定例運営会議議事概要）

資料 11－３－①－３

「釧路工業高等専門学校 中期目標・中期計画（平成 21 年度～平成 25 年度）」　（抜粋）

（前 文）
○教育理念
釧路工業高等専門学校（以下「本校」という）は北海道東部に位置する技術系高等教育機関として、地域産業の発展に貢献できる技術者、国内外で活躍できる技術者の育成、また、産業界への技術支援、技術者のキャリアアップ教育、地域住民の生涯教育や社会活動への支援を任務としている。これらの実現のために「創造力、問題発見・解決能力をもち実践力となる技術者を育成し、地域の社会的・技術的要請に応え、地域と連携し、地域に貢献する」ことを理念とする。
○養成すべき人材像
上記の教育理念のもと、
（１） 人格をそなえ、自己を律する人物を育てる
（２） 広い視野を持ち、創造力豊かな技術者を育てる
（３） チャレンジ精神に富んだ人物を育てる
を、教育目標として掲げ、この教育目標を達成するために、学生が身につけるべき能力を学習目標として次のように設定する。
学習目標
【準学士課程】（実践的・創造的技術者）
A：（技術者として社会に貢献するために）人類の歴史的な背景、文化や価値観の多様性を理解し、地球的規模で社会問題や環境問題を考える基礎能力、および技術が社会や環境に与える影響を認識し、技術者が社会に対して負っている責任を理解する基礎能力を身につける。

「中略」

【専攻科課程】（高い課題設定・解決能力を備えた実践的・創造的技術者）
A：（技術者として社会に貢献するために）人類の歴史的な背景、文化や価値観の多様性を理解し、地球的規模で社会問題や環境問題を考える応用能力、および技術が社会や環境に与える影響を認識し、技術者が社会に対して負っている責任を理解する応用能力及び技術者としての倫理観を身につける。

「以下略」

（出典　釧路工業高等専門学校 中期目標・中期計画（平成 21 年度～平成 25 年度））

資料 11－３－①－４

「平成 23 年度 非常勤講師懇談会レジュメ」　（抜粋）

１ 日 時 平成２３年 ８月 ２日（火）１０：００～１１：３０

２ 場 所 釧路工業高等専門学校会議室

３ 次 第

(1) 校長挨拶 （校 長 岸 浪 建 史）

(2) 本校教員自己紹介

(3) 非常勤講師自己紹介

(4) 本校の現状について （教務主事 中 村 隆）

(5) 質疑応答

(6) その他

（出典　平成 23 年度 非常勤講師懇談会レジュメ）

（分析結果とその根拠理由）

平成17年度の機関別認証評価の評価結果を受け，運営諮問委員会に諮るとともに，教育システム評価改善委員会において継続的に検討し，運営会議において教育・学習目標の改定が決定され，これを中期計画や各種刊行物に反映させている。JABEE審査における指摘は非常勤講師懇談会を強化する等，

学校運営に反映させている。運営諮問委員会における議題は教育活動や入試広報が中心となっており，管理運営に関する提言は受けていない。

これらのことから，外部有識者等の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されている。

観点11－３－②：　学校の目的を達成するために，外部の教育資源を積極的に活用しているか。

（観点に係る状況）

本校では，自己の基盤となる専門分野の基礎知識を備え，多様な技術的課題に対するデザイン能力，コミュニケーション能力をもつ技術者の育成を目的として，これまで企業技術者等外部人材活用資金を活用して外部の教育資源を積極活用している（資料11－３－②－１）。これらの教育資源を主にキャリア教育に活用することにより，学生全体に対して技術者となるための意識付けや専門学科における特定分野の先端的な技術的課題等の認識に大きな効果を上げている。

また，地元企業を始めとする民間企業や道内の大学等にインターンシップを依頼し，数多くの職場や教育研究施設におけるインターンシップ先を確保している（資料11－３－②－２）。

釧路高専地域振興協力会が主催する「釧路工業高等専門学校専攻科学外研究発表会」が毎年開催され，専攻科１年生はポスター発表，２年生は口頭発表を行う。優秀者には会長賞，奨励賞等が授与される。また，準学士課程卒業生に対しては，各学科の優秀者１名に対して同様に会長賞が授与される。

平成21年度から，北海道内の４高専が連携して大学との学術交流，民間企業との連携の協定を締結している（資料11－３－②－３）。これらの協定により，大学へのインターンシップ派遣，北海道内の企業見学会への参加等，通常授業外での学生の教育に活用している。

また平成23年度の道内教務主事会議において，各高専が行っている国際交流事業への相互乗り入れを決定した（資料11－３－②－４）。これにより，平成24年度に苫小牧高専が主管するニュージーランドへの語学研修に本校の学生４名が参加している。

資料 11－３－②－１

「企業技術者等活用資金などによる教育への活用実績一覧」　（抜粋）

年度	区分			金額
平成 20 年度	特別講演	一般講演(M)	[redacted]	
		一般講演(M)		
		一般講演(M)		
		一般講演(M)		
		一般講演(D)		
		一般講演(D)		
		一般講演(J)		
		一般講演(J)		
		一般講演(A)		
		職業ガイダンス		
		職業ガイダンス		
		職業ガイダンス		
		職業ガイダンス		
		職業ガイダンス		
		GP		
	本校教員旅費			
	技術指導			
	消耗品等			
	計			4,055,000
平成 21 年度	特別講演	一般講演(M)	[redacted]	
		一般講演(M)		
		一般講演(D)		
		一般講演(D)		
		一般講演(D･J)		
		一般講演(D･J)		
		一般講演(A)		
		職業ガイダンス		
		職業ガイダンス		
		職業ガイダンス		
		職業ガイダンス		
		職業ガイダンス		
		職業ガイダンス		
		職業ガイダンス		

資料 11－３－②－１（続き）

		職業ガイダンス	[redacted]	
		職業ガイダンス		
		職業ガイダンス		
	技術指導	技術指導		
		技術指導		
		集中講義他		
	消耗品等			
	計			3,392,000
平成 22 年度	特別講演	一般講演(M)	[redacted]	
		一般講演(E)		
		一般講演(J)		
		一般講演(A)		
		一般講演(専)		
		職業ガイダンス		
		職業ガイダンス		
		職業ガイダンス		
		職業ガイダンス		
		職業ガイダンス		
		職業ガイダンス		
		職業ガイダンス		
		職業ガイダンス		
	技術指導等	集中講義		
		技術指導		
		集中講義		
		非常勤講師		
	消耗品等			
	計			3,045,000
平成 23 年度	特別講演	一般講演(E)	[redacted]	
		一般講演(J)		
		一般講演(J)		
		一般講演(J)		
		一般講演(A･K)		
		一般講演(全)		
		職業ガイダンス		
		職業ガイダンス		

資料 11－３－②－１（続き）

		職業ガイダンス	[redacted]	
		職業ガイダンス		
		職業ガイダンス		
		職業ガイダンス		
		職業ガイダンス		
		職業ガイダンス		
		協力会講座		
	技術指導等	集中講義		
		集中講義		
		非常勤講師		
	計			2,421,042

（出典　本校事務資料より集計・抜粋）

資料 11－３－②－２

「平成 23 年度　インターンシップ実施一覧」　（抜粋）

	実習機関名	実習期間	実習日数	派遣人数		備考
1	(株)アトリエブンク	8/1～8/12	10	A2	3	
		8/22～8/26	5	A1		
2	(株)今井設計	8/17～8/26	9	A1	1	78 時間
3	恵庭市役所	8/15～8/26	10	A1	1	
4	(株)NTT 東日本-北海道 釧路支店	8/22～8/26	5	M4, E2, J3	9	
5	(株)榎本機械製作所	8/17～8/26	9	M1	1	63 時間
6	(株)エフエムくしろ	8/9～8/19	10	M4, E1, D1, 5A1	7	
7	王子製紙(株)釧路工場	8/22～8/26	5	M1	1	
8	(株)大阪ガス	7/20～7/28	7	D1	1	40 時間
9	太田電気(株)	8/18～8/26	8	E1	1	64 時間
10	オムロン(株)	8/21～8/26	6	D1	1	42 時間
11	カーショップ滝口	8/17～8/26	9	M1	1	72 時間
12	(有)木下モーター商会	8/1～8/12	11	M1	1	83 時間
13	キヤノン(株)	8/22～8/26	5	M1, E1	2	
14	(株)共成建設	8/1～8/12	10	A1	1	
15	釧路市こども遊学館	7/30～8/10	10	M3, E3, J3, A1	10	
		8/11～8/21	10	E3, D5, A2	10	
16	釧路信用金庫	8/1～8/5	5	D2	2	
17	(株)釧路製作所本社工場	8/17～8/30	10	M2	2	
18	釧路トヨタ自動車(株)帯広店	8/1～8/17	10	M1	1	
19	一級建築士事務所くりえいと創	8/10～8/26	10	A2	2	
20	(株)クワザワ工業	8/8～8/19	8	A1	1	64 時間
21	コニカミノルタビジネス ソリューションズ（株）	8/22～8/26	5	D1	1	
22	(株)斉藤譲一設計事務所	8/10～8/25	10	A1	1	
23	(有)榊鉄工所	8/3～8/13	10	M1	1	
24	JFE スチール(株)東日本製鉄所	8/1～8/12	10	M1, E1	2	

資料 11－３－②－２（続き）

25	(株) ＪＰハイテック	8/22～8/26	5	D1	1	
26	知床羅臼町観光協会	8/8～8/19	10	J1	1	
27	(株) セイコーエプソン	8/1～8/12	10	D1	1	
28	(株)高橋商会	8/1～8/5	5	M1,J1	1	
29	(株)武田建築設計事務所	8/11～8/26	10	A1	1	
30	NPO 法人地域生活支援ネットワークサロンまじくる	8/3～8/13	10	M1,J1,A1	3	
31		8/1～8/20	10	A3	3	
32	チームラボ (株)	7/31～8/11	10	J2	2	
33	東芝テクノネットワーク(株)	8/2～8/11	8	E1	1	64 時間
		8/17～8/19,8/22～8/26	10	D1	1	80 時間 ※但し 1 単位
	ビクターサービスエンジニアリング (株)	8/15～8/16,8/20,8/24,8/27				
34	東洋農機(株)	8/22～8/26	5	M7	7	
35	道立足寄少年自然の家（ネイパル足寄)	8/3～8/12	10	D1	1	
36	苫小牧市役所	8/1～8/5	5	A1	1	
37	新冠町役場	8/1～8/12	10	A1	1	
38	ニッテツ室蘭エンジニアリング(株)	8/1～8/9	7	A1	1	64.5 時間
39	日本放送協会釧路放送局	8/1～8/5	5	E2,D2	4	
40	函館市役所	8/8～8/19	10	A1	1	
41	浜中町農業協同組合	8/1～8/11	10	J1	1	
42	(有)東藻琴車輌センター	8/3～8/11	8	M1	1	62 時間
43	廣木建設(株)	8/8～8/12	5	A1	1	
44	(株)ポータス	8/1～8/12	10	J1	1	
45	(株)北竜畜産	8/4～8/14	10	M1	1	
46	北海道エア・ウォーター・エンジニアリング(株)	8/22～8/26	5	E2	2	
47	北海道大学	8/1～8/11	10	M1	1	
		8/1～8/9,8/18～8/19	10	A1	1	
48	北海道電力(株)釧路支店	8/1～8/5	5	E2	2	
49	(株)ホテル知床	8/1～8/10	10	M1	1	
50	(株)牧野組	8/8～8/22	10	A1	1	
51	丸彦渡辺建設 (株) 釧路支店	8/1～8/5	5	A1	1	

資料 11－３－②－２（続き）

52	三菱地所コミュニティ(株)	7/25～8/5	10	A1	1	
53	三菱重工環境・ 化学エンジニアリング(株)	8/22～9/2	10	D1	1	
54	(株)明電舎	8/1～8/12	10	E1	1	
55	メタウォーター(株)	7/25～8/5	10	E1,A1	2	
56	(有) 山本ハウス	8/1～8/8	5	D1	1	
57	ヤンマー舶用システム(株)	8/22～8/26	5	M1	1	
58	(有)羅臼電工社	8/17～8/27	10	A1	1	
59	ランチショップ　あむあむ	8/1～8/12	10	J1	1	
60	渡辺電気(株)	8/1～8/12	10	E1	1	
61	(有)ワタミファーム瀬棚農場	8/1～8/10	8	M1	1	64 時間

企業数　61 機関　　M36 名　　E22 名　　D18 名　　J14 名　　A30 名（5A 1 名含む）　　**合計　120　名**

	実習機関名	実習期間	実習日数	派遣人数		備考
1	(株)アクティス	8/15～8/26	10	S2	2	
2	(株)エフエムくしろ	8/9～8/19	10	S3	3	
3	釧路市こども遊学館	8/1～8/12	10	K1,S1	2	
4	(株) 釧路綜合設計事務所	8/10～8/25	10	K1	1	
5	（財）釧路根室圏産業 技術振興センター	8/1～8/12	10	K1	1	70 時間
6	タカオ工業(株)	8/1～8/11	10	K1	1	
7	NPO 法人地域生活支援 ネットワークサロンまじくる	8/1～8/20	10	K2,S2	4	
8	(株) つうけんアドバンスシステムズ	10/17～10/28	10	S1	1	
9	東京工業大学	8/1～8/12	12	S1	1	96 時間
10	東芝システムテクノロジー(株)	9/1～9/14	14	S1	1	70 時間
11	(株)長谷川建築設計事務所	8/10～8/25	10	K1	1	70 時間
12	(株) 日立情報制御ソリューションズ	8/25～9/7	14	S1	1	80 時間
13	富士電機(株)	8/16～8/26	10	S1	1	72 時間
14	北海道大学	8/16～8/25	10	S1	1	
15	北海道庁	8/1～8/12	10	K1	1	
16	三菱地所コミュニティ(株)	7/25～8/5	10	K1	1	

企業数　16 機関　　K9 名　　S14 名　　**合計　23　名**

（出典　進路指導委員会資料）

資料 11－３－②－３

学術交流協定台帳　（抜粋）

No.　1

番号	締結の相手	協定締結年月日	期限	延長の条件	連携校	内容	備考
1	北海道大学	平成 21 年 12 月 15 日	平成 23 年 3 月 31 日	期間満了の3ヶ月前までに別段の意思表示がない場合は同一の条件で1年間延長、その後も同様	函館高専 苫小牧高専 旭川高専	1)情報交換 2)研究協力 3)教育協力 4)研究設備の相互利用 5)人材交流 6)シンポジウム等の開催 7)その他研究・教育及び地域貢献に寄与する活動	・連絡協議会 ・教育専門部会 ・研究専門部会 ・地域貢献専門部会 担当校：釧路高専
2	室蘭工業大学	平成 22 年 3 月 29 日	平成 23 年 3 月 31 日	期間満了の3ヶ月前までに別段の意思表示がない場合は同一の条件で1年間延長、その後も同様	函館高専 苫小牧高専 旭川高専	1)情報交換 2)教育協力 3)研究協力 4)研究設備の相互利用 5)人材交流 6)シンポジウム等の開催 7)地域貢献への相互協力	・連絡協議会 担当校：苫小牧高専
3	公立はこだて未来大学	平成 22 年 4 月 23 日	平成 23 年 3 月 31 日	期間満了の3ヶ月前までに別段の意思表示がない場合は同一の条件で1年間延長、その後も同様	函館高専 苫小牧高専 旭川高専	1)情報交換 2)研究協力 3)教育協力 4)研究設備の相互利用 5)人材交流 6)シンポジウム等の開催 7)その他研究・教育及び地域貢献に寄与する活動	・連絡協議会 担当校：函館高専

資料 11－３－②－３（続き）

No. 2

番号	締結の相手	協定締結年月日	期限	延長の条件	連携校	内容	備考
4	北見工業大学	平成 22 年 5 月 25 日	平成 23 年 3 月 31 日	期間満了の3ヶ月前までに別段の意思表示がない場合は同一の条件で1年間延長、その後も同様	函館高専 苫小牧高専 旭川高専	1)情報交換 2)研究協力 3)教育協力 4)研究設備の相互利用 5)人材交流 6)シンポジウム等の開催 7)その他研究・教育及び地域貢献に寄与する活動	・連絡協議会 担当校:旭川高専
5	帯広畜産大学	平成 22 年 11 月 29 日	平成 23 年 3 月 31 日	期間満了の3ヶ月前までに別段の意思表示がない場合は同一の条件で1年間延長、その後も同様	函館高専 苫小牧高専 旭川高専	1)情報交換 2)教育協力 3)研究協力 4)研究設備の相互利用 5)人材交流 6)シンポジウム等の開催 7)地域貢献への相互協力	・連絡協議会 担当校:釧路高専

（出典　本校事務資料より集計・抜粋）

資料 11－３－②－４

「４月定例教務委員会議事概要」　（抜粋）

「前略」

２．審議事項

(6) 海外語学研修について

委員長から，資料10に基づき，海外語学研修について以下のとおり説明があり，審議の結果，了承された。

・今年度の海外語学研修は苫小牧高専が実施するニュージーランド研修に相乗りする。

・本校海外語学研修実施要領に基づき，条件等を付加して周知する。

・次回本委員会に審議が間に合わない事項については，一部国際交流委員長と協議する内容を含めて，委員長に一任願いたい。

「後略」

（出典　平成 24 年度４月定例教務委員会議事概要）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，企業技術者等外部人材活用資金などの獲得により，キャリア教育を活発に行っている。道内企業を始めとする民間企業や大学をインターンシップの受け入れ先としている。地域振興協力会からの各賞授与は学生の勉学に対する動機づけとして役立っている。北海道内の４高専が連携して大学や民間企業との連携協定を多く締結しており，これらはインターンシップ受け入れや企業見学会への参加等に活用している。また，北海道内４高専ではそれぞれが持つ国際交流事業への相互乗り入れを始めており，ニュージーランドへの語学研修に学生を派遣している。

これらのことから，学校の目的を達成するために，外部の教育資源を積極的に活用している。

観点11－４－①：　高等専門学校における教育研究活動等の状況や，その活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信しているか。

（観点に係る状況）

本校では，学校要覧を毎年度発行し，本校の教育研究活動の状況及びその成果を社会に広く発信している（資料11－４－①－１）。平成24年度の送付先一覧を資料11－４－①－２に示す。学校要覧は中学校訪問やオープンキャンパス等の入試広報活動の機会に配布し，本校に関する情報を提供している（資料11－４－①－３）。また，研究紀要を毎年度発行し，教員の研究活動等の成果を発信している。研究紀要の巻末には本校の研究活動の一覧を掲載し，本校の研究活動の状況をまとめている（資料11－４－①－４）。資料11－４－①－５に研究紀要の送付先一覧を示す。なお，研究紀要に掲載された論文は本校図書館ウェブサイトにより，一般公開し（資料11－４－①－６），CiNii利用を考慮して，現本送付希望のない機関への送付は行っていない。

最も公共性の高い発信方法として，ウェブページを用意し，常に更新している（資料11－４－①－７）。特に，社会に対する情報公開資料の閲覧ページを設け（資料11－４－①－８），さらに学校教育法施行規則第179条に掲げられる教育研究活動等の状況については１か所にまとめ，閲覧の便宜を図っている（資料11－４－①－９）。

さらに，本校では教育活動，学生支援，管理運営等の学校運営に関する新聞記事について常に情報収集しており，本校に関する記事は１年間分をコピー・製本している。これは著作権の問題から一般に配布できるものではないが，学内への周知とともに学外関係者への情報提供手段として用いている。訪問調査時に資料として用意する。

資料 11－4－①－1

「釧路工業高等専門学校　学校要覧」　（抜粋）

目　次　CONTENTS

教育・学習目標	Educational Policies and Objectives	1
技術者教育プログラム	The Educational Program for Engineers	3
沿革概要	History	4
組織	Organization	
現員	Present Number of Staff	6
組織図	Organization Chart	6
役職員	Administration	7
産業医	Office physician	7
学校医等	School Physician and Others	7
歴代校長	Chronological List of Presidents	8
名誉教授	Professors Emeritus	8
運営諮問委員会	Consultative Committee	8
学科	Departments	
一般教育科	General Education	9
機械工学科	Department of Mechanical Engineering	12
電気工学科	Department of Electrical Engineering	15
電子工学科	Department of Electronic Engineering	18
情報工学科	Department of Information Engineering	21
建築学科	Department of Architecture	24
専攻科	Advanced Course	27
建設・生産システム工学専攻	Advanced Course of Construction and Manufacturing Systems Engineering	
電子情報システム工学専攻	Advanced Course of Electronic and Information Systems Engineering	
図書館	Library	32
教育研究支援センター	Education and Research Support Center	33
情報処理センター	Information Processing Center	34
地域共同テクノセンター	Cooperative Technology Center	35
学生相談室	Counseling Center for Students	36
教職員相談室	Counseling Center for Personal	36
福利施設（鶴峰会館）	Welfare Facilities (Kakuho Kaikan)	36
学生	Students	
定員及び現員	Quota and Actual Numbers	37
入学志願者状況	Applicants and Matriculates	37
出身地別入学者数	Hometown Classification of Students	38



校長　岸　　徳　光

President KISHI, Norimitsu

「以下略」

（出典　学校要覧）

資料 11－４－①－２

「釧路工業高等専門学校　学校要覧送付先一覧」

学内配布　１１０
　教員７５、部課長及び技術長４、課長補佐４、各係・寮・研究協力室１０、
　教育研究支援センター１０、保健室１、非常勤講師室１、宿直室２、保存用１、検品用１、
　校正用１

学外配布　１２７
　文部科学省５、機構本部４、道内国公立大学及び釧路市内大学短大１２、技術科学大学２、
　国公私立高専（合併高専はキャンパス毎）６０、
　国立大雪青少年交流の家・国立日高青少年自然の家２、名誉教授３７、国会図書館５、

その他　８４程度
　企業請求用７０程度（学生課保管。主に企業説明会で使用）、
　新人教員研修９、理事長ヒアリング５

行事・来客配布　１５０程度
　高専訪問２０程度、テクノフォーラム・北洋ものづくりフェア等１０程度、
　高専校長交流会・デザコン・産学連携ＷＳ　５０程度、中学校長との懇談会３０程度
　その他来客配布等４０程度

（出典　本校事務資料より集計）

資料 11－４－①－３

「入試広報活動における学校要覧の活用状況（平成２３年度）」

オープンキャンパスにおける配布	100 部程度
中学校訪問における配布	90 部程度
入学説明会における配布	167 部

（出典　本校事務資料より集計）

資料 11－4－①－4

「釧路工業高等専門学校研究紀要第 45 号目次」

釧路工業高等専門学校紀要第45号(平成23年)

研　究　活　動　目　録

(平成22〈2010〉年10月1日～平成23〈2011〉年9月30日までの1箇年分)

*印　外部共著者・外部共同研究者

1．著書

氏　名	書　名	頁　数	出版社名	発行年月日
北川能 監修* 香川利春 監修* 小　杉　　淳	学生と技術者のための水力学問題演習	全152 一部項目担当	パワー社	2011.4.30
詩と詩論研究会編 舘　下　徹　志	金子みすゞ み仏への祈り	全217 pp.51-72（舘下担当）	勉誠出版	2011.4.11

2．論文・調査研究報告

氏　名	論　文　名	発表誌名・巻号・頁	発行年月日
岸　浪　建　史 (日本学術会議機械工学委員会生産科学分科会)	資源循環型ものづくりを実現するための学術的指針 ー地球温暖化対策を主対象にー	日本学術会議機械工学委員会生産科学分科会報告	2011.9
岩　渕　義　孝 小　林　　勲	木炭風多孔質素材の創製と性能評価	釧路工業高等専門学校紀要 第44号　pp.1-3	2010.12.17
荒　井　　誠 野　口　孝　文 草　苅　敏　夫 高　橋　　剛 梶　原　秀　一 千　田　和　範 森　　太　郎 大　槻　香　子	産学連携による実践型人材育成事業の成果と今後	釧路工業高等専門学校紀要 第44号　pp.5-8	2010.12.17
成　澤　哲　也	周波数整形によるロバストライクな構造ー制御系設計 ー多自由度質点系への適用ー	釧路工業高等専門学校紀要 第44号　pp.9-14	2010.12.17
Izumi Nishidate* Noriyuki Tanaka* Tatsuya Kawase* Takaaki Maeda Tomonori Yuasa* Yoshihisa Aizu* Tetsuya Yuasa* Kyuichi Niizeki*	Noninvasive imaging of human skin hemodynamics using a digital red-green-blue camera	Journal of Biomedical Optics Vol.16 No.8　pp.1-14	2011.8
Izumi Nishidate* Aditya Wiswadarma* Yota Hase* Noriyuki Tanaka* Takaaki Maeda Kyuichi Niizeki* Yoshihisa Aizu*	Noninvasive spectral imaging of skin chromophores based on multiple regression analysis aided by Monte Carlo simulation	Optics Letters Vol.36 No.16 pp.3239-3241	2011.8
須　田　　潤	Coupled phonons and transferred energies between Raman active phonons for $LiTaO_3$	Chinese Journal of Physics Vol.49 Num.1　pp.341-348	2011.2
浅　水　　仁	2009年度北海道大学大学院 足跡を用いた男女識別に関する研究の内地研究員報告	釧路工業高等専門学校紀要 第44号　pp.41-42	2010.12.17
浅　水　　仁 長谷山　美　紀*	足跡を用いた男女識別　～足跡の特徴量から SVM により男女を識別する試み～	画像ラボ vol.22　no.1　pp.17-21	2011.1
Yoshinori Taka Takashi Adachi* Ikuko Mori* Osamu Fujiwara* Shinobu Ishigami* Yukio Yamanaka*	Transfer impedance of new-type calibration target and reconstruction of injected currents for air discharges from electrostatic discharge generators	IEICE Electronics express Vol.7 No.22　pp.1666-1671	2010.11
辻　　拓　朗* 高　　義　礼 藤　原　　修* 山　本　典　央*	ESD ガンの垂直結合板への間接放電で生ずる空間電磁界のばらつき	電気学会論文誌 A, 基礎・材料・共通部門誌 Vol.131 No.2　pp.119-124	2011.2

（出典　http://www.kushiro-ct.ac.jp/library/kiyo/kiyo45/kenkyu45.pdf
（本校図書館ウエブサイト））

資料 11－4－①－5

「釧路工業高等専門学校　研究紀要送付先一覧」

国立高等専門学校機構	1 部
大学	4 部
図書館・研究所	24 部
企業	20 部
その他	13 部　（学会，海外教育機関等）

（出典　本校事務資料より集計）

資料 11－4－①－6

「研究紀要　公開ウェブページ」　（抜粋）

釧路工業高等専門学校「紀要」

ISSN 0455-017X

第45号（A4判 25編 平成23年12月16日） English contents	＊印は学外共同研究者		
＜題目＞	＜著者名＞	＜頁＞	＜PDF＞
技術者教育における図式表記法の活用	岸浪 建史	1-4	PDF
マグネシウム合金の機械的性質に及ぼす低温加工熱処理の影響	岩渕 義孝 小林 勲	5-9	PDF
FW円筒殻の製作および実験モード解析を用いた固有振動数の測定- 専攻科特別研究を通して-	成澤 哲也 星 悠介*	11-14	PDF
E-Stone®による電磁波遮断特性の検証	中村 隆 對馬 佳祐 真鍋 大地* 菊池 崇志* 松田 豊稔*	15-19	PDF
Efficient Algorithm for Minimum Feedback Vertex Set Problem on Trapezoid Graphs	本間 宏利 北村 祐太郎*	21-26	PDF
原子力マインドを育てる実践型原子力・放射線教育プログラム　-第3報- 技術者教育としての側面から捉えた原子力人材育成事業	石山 俊彦 高橋 剛 鈴木 俊哉 岩渕 義孝	27-30	PDF
北海道漁村における高齢化過疎化集落の現状と課題	千葉 忠弘 吉田 理紗*	31-36	PDF
英文法書を利用する利点-英検に合格するために	田村 聡子	37-40	PDF
アニメ≪舞台探訪≫成立史ーいわゆる≪聖地巡礼≫の成因について	大石 玄	41-50	PDF
まねとしての演技-近代文学の主人公たち	小田島 本有	52-58	PDF
三浦綾子論(1)ー「絶望」と「再生」の間で	小田島 本有	59-64	PDF
【国内・国外研修及び派遣報告】			
アルバータ大学における在外派遣研究報告	高橋 剛	65-66	PDF
【科学研究費補助金研究報告】			
科研費と研究のかかわり	葛西 誠也* 野口 孝文 岸浪 建史	67-72	PDF

「以下略」

（出典　Web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/library/kiyo/kiyo41-45.html#45
（本校図書館ウェブサイト））

資料 11－４－①－７

「釧路工業高等専門学校　トップページ概要」　（抜粋）



（出典　Web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/（本校公式ウェブサイト））

資料 11－4－①－8

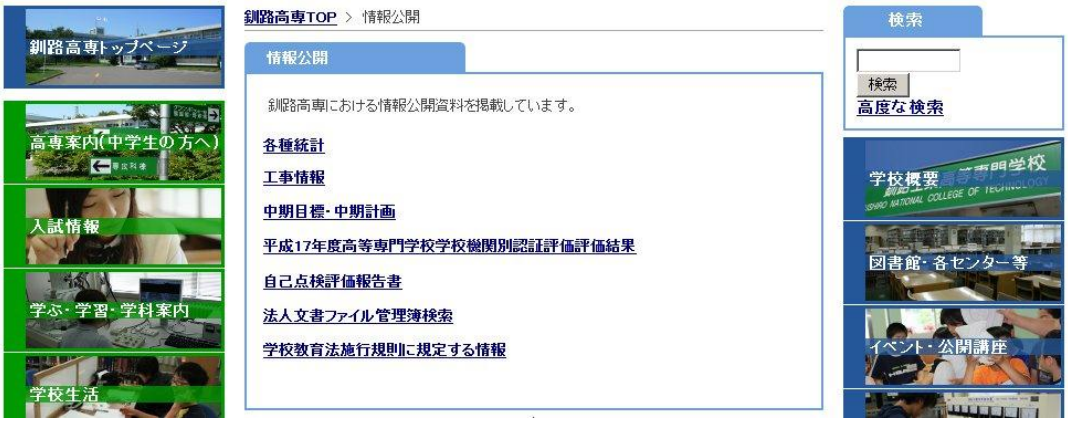
「学校教育法施行規則に基づく情報公開ページ」　（抜粋）



（出典　Web サイト http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=311
（本校公式ウェブサイト））

資料 11－4－①－9

「本校ウェブサイトの情報公開ページ」　（抜粋）



（出典　http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?cat_id=11
（本校公式ウェブサイト））

（分析結果とその根拠理由）

学校要覧及び研究紀要を毎年度発行し，それぞれを教育機関等に送付するとともに，学校要覧は入試広報活動でも活用し，広く社会に発信している。また，ウェブページを活用し，わかりやすい情報発信を心掛けている。特に学校教育法施行規則第179条に掲げられる教育研究活動等の状況について

は１か所にまとめ，閲覧の便宜を図っている。

これらのことから，高等専門学校における教育研究活動等の状況やその活動の成果に関する情報を，広くわかりやすく社会に発信している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校では教職員の研究活動推進のために研究企画主事を，入試広報活動強化のために校務主事を置き，両主事を校長補佐として管理運営に参画させることで校長の補佐体制を強化している。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準11の自己評価の概要

学校の目的を達成するための各主事・委員会等の役割が明確に定められている。校長を補佐するための副校長及び校長補佐が定められ，本校の企画運営に関する戦略策定の体制が明確になっている。校長室・運営会議は必要に応じて開催しており，校長のリーダーシップの下での意思決定，学校運営を効果的に行う態勢ができている。教員組織及び職務分掌規程，事務組織規程，校長補佐設置，校長室設置等，校長のリーダーシップの下で本校の管理運営を支障なく効果的に実施するための諸規程が整備され，それぞれの職務の役割分担が適切かつ明確に定められている。危機管理室による危機管理マニュアル整備，防災・防火委員会による防災マニュアル整備等，危機管理体制は効果的に活動している。

年度計画を自己点検・評価項目とし，評価専門委員会が本校の年度計画に基づき，各部署に年度計画の策定を指示し，中間評価を行い，年度末には達成度評価を各部署から提出させ，取りまとめている。結果は運営会議に報告され，運営会議における審議の上で，自己点検・評価報告書として本校ウェブサイトを通じて公表している。

平成17年度の機関別認証評価の評価結果を受け，運営諮問委員会に諮るとともに，教育システム評価改善委員会において継続的に検討し，平成22年４月の運営会議に検討結果を報告し，運営会議において教育・学習目標の改定が決定され，これを中期計画や各種刊行物に反映させている。JABEE審査の指摘は非常勤講師懇談会を強化する等，学校運営に反映させている。運営諮問委員会における議題は教育活動や入試広報が中心となっており，管理運営に関する提言は受けていない。

企業技術者等外部人材活用資金などを獲得することにより，企業技術者等の活用によるキャリア教育を活発に行っている。道内企業を始めとする民間企業や大学をインターンシップの受け入れ先としている。地域振興協力会からの各賞授与は学生の勉学に対する動機づけとして役立っている。北海道内の４高専が連携して大学や民間企業との連携協定を多く締結しており，これらはインターンシップ受け入れや企業見学会への参加等に活用している。また，北海道内４高専ではそれぞれが持つ国際交流事業への相互乗り入れを始めており，ニュージーランドへの語学研修に学生を派遣している。

学校要覧及び研究紀要を毎年度発行し，それぞれを全国の高専を始めとする教育機関に送付するとともに，学校要覧は入試広報活動でも活用し，広く社会に発信している。また，ウェブページを活用し，わかりやすい情報発信を心掛けている。特に学校教育法施行規則第179条に掲げられる教育研究活動等の状況については１か所にまとめ，閲覧の便宜を図っている。